



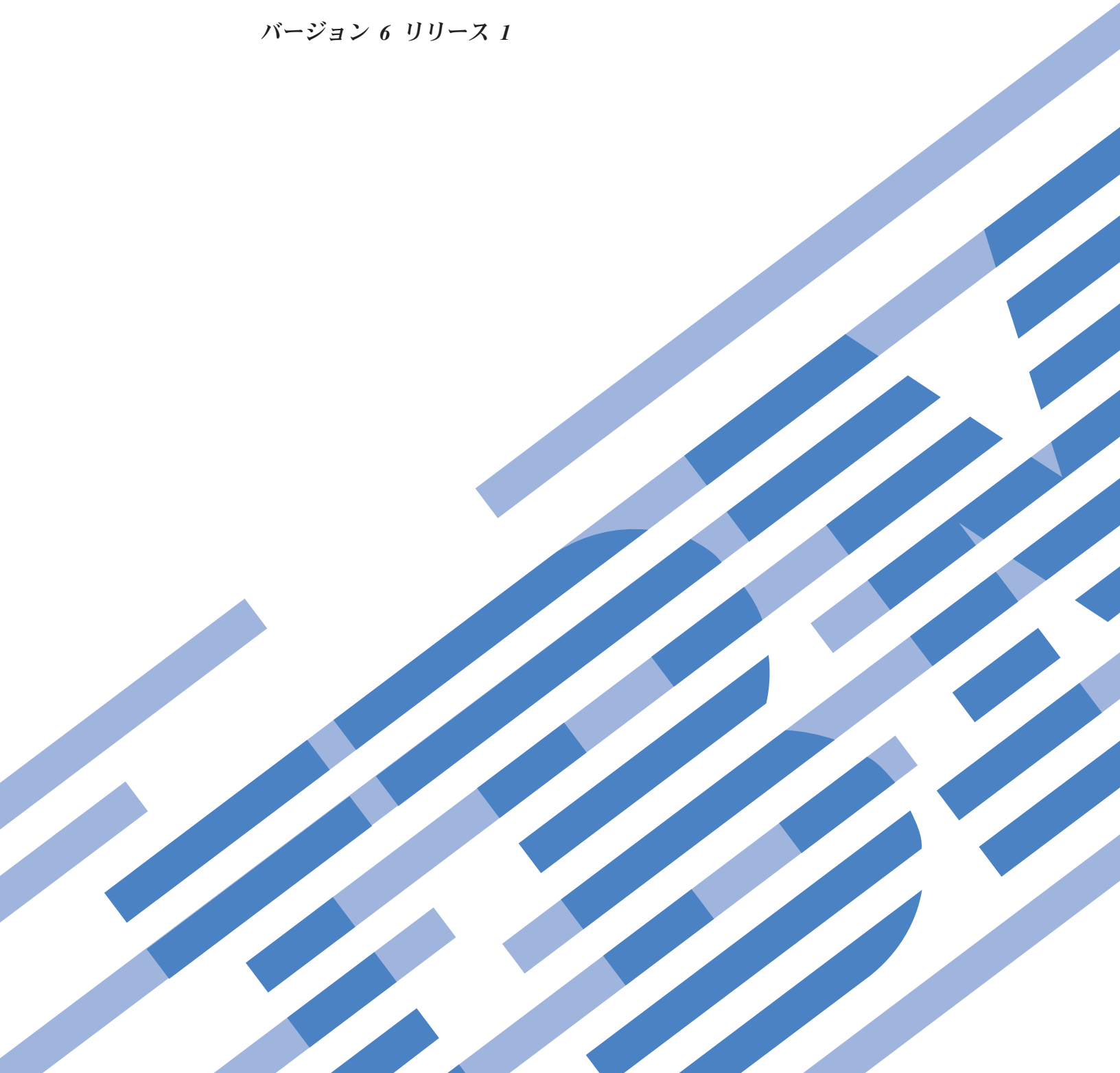
System i

プログラミング

i5/OS コマンド

RMVTRCFTR (トレース・フィルター除去) ~

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

i5/OS コマンド

RMVTRCFTR (トレース・フィルター除去) ~

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、869 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： System i
Programming
i5/OS commands
Starting with RMVTRCFTR (Remove Trace Filter)
Version 6 Release 1

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

トレース・フィルターの除去 (RMVTRCFTR)	1
パラメーター	1
フィルター (FTR).	1
例	2
エラー・メッセージ	2
ワークステーション項目除去 (RMVWSE)	3
パラメーター	3
サブシステム記述 (SBSD)	3
ワークステーション名の処理 (WRKSTN)	4
ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYPE)	4
例	5
エラー・メッセージ	5
RNDCコマンドの実行 (RNDC)	7
パラメーター	7
RNDCコマンド (RNDCCMD)	8
ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNAMSVR)	8
DNSポート (PORT)	9
RNDC構成ファイル (RNDCCFGF)	9
ソース・アドレス (SRCADR)	9
鍵ファイル (KEYFILE)	10
鍵名 (KEYNAME)	10
デバッグ情報の表示 (DEBUG)	10
出力ファイル (TOSTMF)	11
例	11
エラー・メッセージ	12
オブジェクト名変更 (RNM)	13
パラメーター	14
オブジェクト (OBJ)	14
新しいオブジェクト (NEWOBJ).	14
例	14
エラー・メッセージ	15
ディレクトリー項目の名前変更 (RNMDIRE)	17
パラメーター	17
旧ユーザー識別コード (OLDUSRID)	18
新ユーザー識別コード (NEWUSRID)	18
転送元ユーザー識別コード (FWDFRM)	19
ネットワーク・ユーザー識別コードの変更 (NETUSRID)	19
例	19
エラー・メッセージ	20
文書ライブラリー・オブジェクト名変更 (RNMDLO)	21
パラメーター	21

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO).	21
新しい文書ライブラリー・オブジェクト (NEWDLO)	21
フォルダー中 (FLR)	22
例	22
エラー・メッセージ	22

配布リストの名前変更 (RNMDSTL)	23
パラメーター	23
リスト識別コード (LSTID)	23
新しいリスト識別コード (NEWLSTID)	24
例	24
エラー・メッセージ	24

LANアダプターの名前変更 (RNMLANADPI)	27
パラメーター	27
アダプター (ADPTNAME)	27
新しい名前 (NEWNAME).	27
例	27
エラー・メッセージ	28

メンバー名変更 (RNMM)	29
パラメーター	29
データベース・ファイル (FILE)	29
メンバー (MBR).	30
新しいメンバー (NEWMBR).	30
例	30
エラー・メッセージ	30

ニックネームの名前変更 (RNMNCK)	31
パラメーター	31
ニックネーム (NCK)	31
新しいニックネーム (NEWNCK)	32
例	32
エラー・メッセージ	32

オブジェクト名変更 (RNMOBJ)	33
パラメーター	35
オブジェクト (OBJ)	36
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE).	37
新しいオブジェクト (NEWOBJ).	37
ASP装置 (ASPDEV).	37
システム (SYSTEM)	38
例	38
エラー・メッセージ	39

TCP/IP ホスト・テーブル項目名の変更 (RNMTCPHTE)	43
パラメーター	43
IPアドレス (INTNETADR)	44

新IPアドレス (NEWINTNETA)	44
例	45
エラー・メッセージ	45
ロールバック (ROLLBACK)	47
パラメーター	47
例	47
エラー・メッセージ	48
RPC BIND プログラム・デーモンの開始 (RPCBIND)	49
パラメーター	49
RPC登録の検索 (RTVRPCREG)	49
例	50
エラー・メッセージ	50
RPCソースの変換 (RPCGEN)	51
パラメーター	51
FROMファイル (FROMFILE)	51
オプション (OPTION)	52
プロトコル (PROTOCOL)	52
TOファイル (TOFILE)	53
例	53
エラー・メッセージ	54
文書置き換え (RPLDOC)	55
パラメーター	55
文書 (TODOC)	56
フォルダー中 (TOFLR)	56
文書ファイル (DOCFILE)	56
文書メンバー (DOCMBR)	57
文書パート (DOCPART)	57
ユーザー識別コード (USRID)	57
文書識別コード (DOCID)	58
文書タイプ (DOCTYPE)	58
文書文字識別コード (DOCCHRID)	59
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	59
例	60
エラー・メッセージ	60
発注援助の要求 (RQSORDAST)	61
パラメーター	61
例	61
エラー・メッセージ	62
ジョブ経路再指定 (RRTJOB)	63
パラメーター	63
経路指定データ (RTGDTA)	63
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	64
例	64
エラー・メッセージ	64
停止点再開始 (RSMBKP)	65
パラメーター	65
例	65
エラー・メッセージ	65

制御装置回復手順再開 (RSMCTLRCY)	67
パラメーター	67
制御装置 (CTL)	67
例	68
エラー・メッセージ	68
入出力装置回復再開 (RSMDEVRCY)	69
パラメーター	69
装置 (DEV)	69
例	70
エラー・メッセージ	70
回線回復再開 (RSMLINRCY)	71
パラメーター	71
回線 (LINE)	71
例	71
エラー・メッセージ	71
NWI回復処置の再開 (RSMNWIRCY)	73
パラメーター	73
ネットワーク・インターフェース記述 (NWI)	73
例	73
エラー・メッセージ	73
オブジェクトの復元 (RST)	75
パラメーター	75
装置 (DEV)	76
オブジェクト (OBJ)	77
名前パターン (PATTERN)	78
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	78
出力 (OUTPUT)	79
親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)	80
親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)	80
マウント・ファイル・システムの再ビルド (RBDMFS)	80
ボリューム識別コード (VOL)	81
ラベル (LABEL)	81
順序番号 (SEQNBR)	82
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	82
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	82
出力情報のタイプ (INFTYPE)	83
システム (SYSTEM)	83
保管日 (SAVDATE)	83
保管時刻 (SAVTIME)	84
オプション (OPTION)	84
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	84
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	86
オブジェクトID (OBJID)	87
私用専用権限 (PVTAUT)	87
例	87
エラー・メッセージ	89
権限復元 (RSTAUT)	93
パラメーター	94
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	94
保管元ASP装置 (SAVASPDEV)	95

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	95
例	95
エラー・メッセージ	96

構成の復元 (RSTCFG) 99

パラメーター	99
オブジェクト (OBJ)	101
装置 (DEV)	101
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	102
ボリューム識別コード (VOL)	103
順序番号 (SEQNBR)	103
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	104
保管ファイル (SAVF)	104
システム資源管理 (SRM)	105
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	105
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	105
出力 (OUTPUT)	107
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	107
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	108
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	108
例	109
エラー・メッセージ	109

遅延オブジェクトの復元 (RSTDFROBJ) 113

パラメーター	113
遅延ID (DFRID)	113
出力 (OUTPUT)	114
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	114
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	115
出力情報のタイプ (INFATYPE)	115
例	115
エラー・メッセージ	116

文書ライブラリー・オブジェクト復元 (RSTDLO) 117

パラメーター	118
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	119
保管されたフォルダー (SAVFLR)	120
新しいオブジェクト名 (RENAME)	120
フォルダーへの復元 (RSTFLR)	120
装置 (DEV)	121
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	121
ボリューム識別コード (VOL)	122
順序番号 (SEQNBR)	122
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	123
ラベル (LABEL)	123
保管ファイル (SAVF)	123
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	124
オブジェクト名生成 (NEWOBJ)	124
保管日 (SAVDATE)	124
保管時刻 (SAVTIME)	125
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	125
保管元ASP番号 (SAVASP)	126
復元先ASP番号 (RSTASP)	126
出力 (OUTPUT)	126
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	127

出力メンバー・オプション (OUTMBR)	127
例	128
エラー・メッセージ	129

ライブラリー復元 (RSTLIB) 133

パラメーター	134
保管されたライブラリー (SAVLIB)	136
装置 (DEV)	138
ボリューム識別コード (VOL)	138
順序番号 (SEQNBR)	139
ラベル (LABEL)	139
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	140
開始ライブラリー (STRLIB)	140
保管ファイル (SAVF)	141
媒体定義 (MEDDFN)	141
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	142
除外するライブラリー (OMITLIB)	142
オプション (OPTION)	142
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	143
遅延ID (DFRID)	144
スプール・ファイル・データ (SPLFDATA)	144
私用専用権限 (PVTAUT)	144
保管日 (SAVDATE)	145
保管時刻 (SAVTIME)	145
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	145
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	147
復元先ライブラリー (RSTLIB)	148
復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	148
復元先ASP番号 (RSTASP)	149
出力 (OUTPUT)	149
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	150
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	150
出力情報のタイプ (INFATYPE)	151
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	151
例	152
エラー・メッセージ	154

ライセンス・プログラム復元 (RSTLICPGM) 159

パラメーター	159
プロダクト (LICPGM)	161
装置 (DEV)	161
復元される任意選択部分 (OPTION)	162
復元するオブジェクトのタイプ (RSTOBJ)	162
ライセンス・プログラムの言語 (LNG)	163
出力 (OUTPUT)	163
リリース (RLS)	163
リリースの置き換え (REPLACERLS)	164
ボリューム識別コード (VOL)	164
順序番号 (SEQNBR)	165
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	165
保管ファイル (SAVF)	166
ライブラリー (LIB)	166
言語ライブラリー (LNGLIB)	166
フォルダー (FLR)	167
コード・ホーム・ディレクトリー (CODHOMEDIR)	167

言語ホーム・ディレクトリー (LNGHOMEDIR)	167
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	168
例	169
エラー・メッセージ	170

オブジェクト復元 (RSTOBJ) 171

パラメーター	173
オブジェクト (OBJ)	175
保管されたライブラリー (SAVLIB)	176
装置 (DEV)	176
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	177
ボリューム識別コード (VOL)	178
順序番号 (SEQNBR)	179
ラベル (LABEL)	179
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	179
保管ファイル (SAVF)	180
オプション (OPTION)	180
ファイル・メンバー (FILEMBR)	181
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	182
遅延ID (DFRID)	182
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	182
私用専用権限 (PVTAUT)	183
保管日 (SAVDATE)	183
保管時刻 (SAVTIME)	183
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	184
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	185
復元先ライブラリー (RSTLIB)	186
出力 (OUTPUT)	187
媒体定義 (MEDDFN)	187
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	188
復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	188
復元先ASP番号 (RSTASP)	188
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	189
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	189
出力情報のタイプ (INFTYPE)	190
除外するライブラリー (OMITLIB)	190
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	190
例	191
エラー・メッセージ	192

パフォーマンス収集の復元

(RSTPFRCOL) 197

パラメーター	197
集合 (COL)	197
保管されたライブラリー (SAVLIB)	198
収集タイプ (COLTYPE)	198
保管ファイル (SAVF)	199
復元先ライブラリー (RSTLIB)	199
例	200
エラー・メッセージ	200

S/36ファイル復元 (RSTS36F) 203

パラメーター	205
TOファイル (TOFILE)	205
TOライブラリー (TOLIB)	206
装置 (DEV)	206

セット識別コード (SET)	206
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	206
ファイル・ラベル (FROMLABEL)	207
作成日 (CRTDATE)	207
順序番号 (SEQNBR)	207
ボリューム識別コード (VOL)	208
テープ終了オプション (ENDOPT)	208
物理ファイル (PHYFILE)	208
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	209
日付区分ファイル (DATDIFF)	209
例	210
エラー・メッセージ	210

S/36 ライブラリー・メンバー復元

(RSTS36LIBM) 213

パラメーター	214
TOメンバー (TOMBR)	215
TOライブラリー (TOLIB)	215
装置 (DEV)	215
S/36ソース・メンバー (SRCMBRS)	216
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	216
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	216
ファイル・ラベル (FROMLABEL)	217
作成日 (CRTDATE)	217
順序番号 (SEQNBR)	217
ボリューム識別コード (VOL)	217
テープ終了オプション (ENDOPT)	218
物理ファイル (PHYFILE)	218
S/36オブジェクト・メンバー (OBJMBRS)	218
例	219
エラー・メッセージ	219

システム情報の復元 (RSTSYSINF) 223

パラメーター	223
装置 (DEV)	224
ボリューム識別コード (VOL)	224
順序番号 (SEQNBR)	225
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	225
保管ファイル (SAVF)	225
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	226
出力 (OUTPUT)	226
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	227
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	227
例	228
エラー・メッセージ	228

ユーザー・プロファイル復元

(RSTUSRPRF) 229

パラメーター	230
装置 (DEV)	231
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	231
ボリューム識別コード (VOL)	232
順序番号 (SEQNBR)	232
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	233
保管ファイル (SAVF)	233
メール (MAIL)	234

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	234
除外するユーザー・プロファイル (OMITUSRPRF)	235
機密保護データ (SECDDTA)	236
機密保護データの除外 (OMITSECDDTA)	236
出力 (OUTPUT)	237
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	237
保管元ASP装置 (SAVASPDEV)	237
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	238
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	238
例	239
エラー・メッセージ	240

サブルーチンからの戻り (RTNSUBR) 243

パラメーター	243
戻り値 (RTNVAL)	243
例	244
エラー・メッセージ	244

権限リスト項目検索 (RTVAUTLE) 245

パラメーター	245
権限リスト (AUTL)	246
ユーザー (USER)	246
*ALLのCL変数 (10) (ALL)	246
*CHANGEのCL変数 (10) (CHANGE)	246
*USEのCL変数 (10) (USE)	246
*EXCLUDEのCL変数 (10) (EXCLUDE)	247
*OBJALTERのCL変数 (10) (OBJALTER)	247
*OBJEXISTのCL変数 (10) (OBJEXIST)	247
*OBJMGTのCL変数 (10) (OBJMGT)	247
*OBJOPRのCL変数 (10) (OBJOPR)	247
*OBJREFのCL変数 (10) (OBJREF)	248
*READのCL変数 (10) (READ)	248
*ADDのCL変数 (10) (ADD)	248
*UPDのCL変数 (10) (UPDATE)	248
*DLTのCL変数 (10) (DELETE)	248
*EXECUTEのCL変数 (10) (EXECUTE)	249
*AUTLMGTのCL変数 (10) (AUTLMGT)	249
例	249
エラー・メッセージ	249

バックアップ・オプション検索 (RTVBCKUP) 251

パラメーター	251
バックアップ・オプション (BCKUPOPT)	251
DEVのCL変数 (43) (DEV)	252
TAPSETのCL変数 (34) (TAPSET)	252
CLRTAPのCL変数 (4) (CLRTAP)	252
SBMJOBのCL変数 (4) (SBMJOB)	252
CHGONLYのCL変数 (4) (CHGONLY)	252
PRTRPTのCL変数 (4) (PRTRPT)	252
LIBのCL変数 (10) (LIB)	253
FLRのCL変数 (10) (FLR)	253
DIRのCL変数 (10) (DIR)	253
SECDDTAのCL変数 (4) (SECDDTA)	253
CFGのCL変数 (4) (CFG)	253
MAILのCL変数 (4) (MAIL)	253

CALのCL変数 (4) (CAL)	254
EXITPGMのCL変数 (10) (EXITPGM)	254
EXITPGMLIBのCL変数 (10) (EXITPGMLIB)	254
例	254
エラー・メッセージ	254

バインダー・ソース検索 (RTVBNDSRC) 255

パラメーター	256
モジュール (MODULE)	256
サービス・プログラム (SRVPGM)	257
ソース・ファイルのエクスポート (SRCFILE)	257
ソース・メンバーのエクスポート (SRCMBR)	258
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	258
例	259
エラー・メッセージ	259

構成ソースの検索 (RTVCFGSRC) 261

パラメーター	261
構成記述 (CFGD)	261
タイプ (CFGTYPE)	262
ソース・ファイル (SRCFILE)	263
ソース・メンバー (SRCMBR)	263
検索オプション (RTVOPT)	264
メンバー・オプション (MBROPT)	264
テキスト記述 (TEXT)	264
例	265
エラー・メッセージ	265

構成状況検索 (RTVCFGSTS) 267

パラメーター	267
構成記述 (CFGD)	267
タイプ (CFGTYPE)	267
状況コードのCL変数 (STSCDE)	268
例	269
エラー・メッセージ	269

Cロケール記述の検索 (RTVCLDSRC) 271

エラー・メッセージ: RTVCLDSRC	271
パラメーター	271
ロケール名 (CLD)	272
ソース・ファイル (SRCFILE)	272
ソース・メンバー (SRCMBR)	272
テキスト記述 (TEXT)	273
例	273
エラー・メッセージ	273

クリーンアップの検索 (RTVCLNUP) 275

パラメーター	275
ALWCLNUPのCL変数 (4) (ALWCLNUP)	275
STRTIMEのCL変数 (10) (STRTIME)	275
USRMSGのCL変数 (5) (USRMSG)	276
SYSMSGのCL変数 (5) (SYSMSG)	276
CRITSYSMSGのCL変数 (5) (CRITSYSMSG)	276
SYSVRTのCL変数 (5) (SYSVRT)	276
SYSLOGのCL変数 (5) (SYSLOG)	276
JOBQ名のCL変数 (10) (JOBQ)	276

JOBQライブラリーのCL変数(10) (JOBQLIB)	277
RUNPTYのCL変数 (2 0) (RUNPTY)	277
JRNRCVSIZのCL変数 (7 0) (JRNRCVSIZ)	277
CALITMのCL変数 (5) (CALITM)	277
例	277
エラー・メッセージ	278

CLソース検索 (RTVCLSRC) 279

パラメーター	279
プログラム (PGM)	279
ソース・ファイル (SRCFILE)	280
ソース・メンバー (SRCMBR)	280
組み込まれたソースの検索 (RTVINC SRC)	280
例	281
エラー・メッセージ	281

現行ディレクトリーの検索

(RTVCURDIR) 283

パラメーター	283
RTNDIRのCL変数 (9999) (RTNDIR)	283
DIRNAMLENのCL変数 (7 0) (DIRNAMLEN)	284
例	284
エラー・メッセージ	284

ディレクトリー情報の検索 (RTVDIRINF) 285

パラメーター	285
ディレクトリー (DIR)	285
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	286
情報ファイルの接頭部 (INFFILEPFX)	286
情報ライブラリー (INFLIB)	286
例	287
エラー・メッセージ	287

DLO権限の検索 (RTVDLOAUT) 289

パラメーター	289
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	290
フォルダー (FLR)	290
文書識別コード (DOCID)	290
LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)	291
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	291
開始ユーザー権限項目 (STRUSRAUTE)	291
OWNERのCL変数 (10) (OWNER)	292
AUTLのCL変数 (10) (AUTL)	292
SENSITIVのCL変数 (20) (SENSITIV)	292
PUBAUTのCL変数 (10) (PUBAUT)	292
CHKOUTUSRのCL変数 (32) (CHKOUTUSR)	293
ACCのCL変数 (220) (ACC)	293
USRAUTのCL変数 (1020) (USRAUT)	293
GRPAUTのCL変数 (340) (GRPAUT)	294
PGPのCL変数 (10) (PGP)	294
例	294
エラー・メッセージ	294

DLO名の検索 (RTVDLONAM). 295

パラメーター	295
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	295

フォルダー (FLR)	296
文書識別コード (DOCID)	296
LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)	297
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	297
オブジェクト・クラス (OBJCLS)	297
RTNDLOのCL変数 (12) (RTNDLO)	298
RTNFLRのCL変数 (63) (RTNFLR)	298
RTNDOCIDのCL変数 (24) (RTNDOCID)	298
RTNLADNTSPのCL変数 (16) (RTNLADNTSP)	298
RTNOBJNAMのCL変数 (10) (RTNOBJNAM)	298
RTNOBJCLSのCL変数 (8) (RTNOBJCLS)	298
RTNASPのCL変数 (2 0) (RTNASP)	299
RTNOVRFLWのCL変数 (1) (RTNOVRFLW)	299
例	299
エラー・メッセージ	299

文書検索 (RTVDOC). 301

パラメーター	301
取り出し文書 (FROMDOC)	302
取り出しフォルダー (FROMFLR)	302
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	302
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	303
出力のデータ・タイプ (OUTDATATYP)	303
ユーザー識別コード (USRID)	305
文書識別コード (DOCID)	305
検査 (CHKOUT)	306
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	306
例	306
エラー・メッセージ	307

ディスク情報の検索 (RTVDSKINF). 309

パラメーター	309
ASP装置 (ASPDEV)	310
例	310
エラー・メッセージ	310

データ域検索 (RTVDTAARA) 311

パラメーター	312
データ域指定 (DTAARA)	312
戻された値のCL変数 (RTNVAR)	313
例	314
エラー・メッセージ	314

グループ属性検索 (RTVGRPA) 317

パラメーター	317
GRPJOBのCL変数 (10) (GRPJOB)	317
GRPJOB リストのCL変数(1056) (GRPJOB L)	318
GRPJOBCNTのCL変数 (3 0) (GRPJOBCNT)	318
MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)	318
MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)	318
PRVGRPJOBのCL変数 (16) (PRVGRPJOB)	318
CTLCDEのCL変数 (3 0) (CTLCDE)	319
例	319
エラー・メッセージ	320

イメージ・カタログの検索

(RTVIMGCLG) 321

パラメーター	321
イメージ・カタログ (IMGCLG)	321
仮想装置 (DEV)	321
DEVLODのCL変数(10) (DEVLOD)	322
IMGCLGLODのCL変数(10) (IMGCLGLOD)	322
例	322
エラー・メッセージ	322

ジョブ属性検索 (RTVJOBA) 325

パラメーター	327
JOBのCL変数 (10) (JOB)	328
USERのCL変数 (10) (USER)	328
NBRのCL変数 (6) (NBR)	328
CURUSERのCL変数 (10) (CURUSER)	329
TYPEのCL変数 (1) (TYPE)	329
SUBTYPEのCL変数 (1) (SUBTYPE)	329
SYSLIBLのCL変数 (165) (SYSLIBL)	329
CURLIBのCL変数 (10) (CURLIB)	329
USRLIBLのCL変数 (2750) (USRLIBL)	330
ASPGRPのCL変数 (10) (ASPGRP)	330
LOGLVLのCL変数 (1) (LOGLVL)	330
LOGSEVのCL変数 (2 0) (LOGSEV)	330
LOGTYPEのCL変数 (10) (LOGTYPE)	330
LOGCLPGMのCL変数 (10) (LOGCLPGM)	330
LOGOUTPUTのCL変数 (10) (LOGOUTPUT)	331
JOBMSGQMXのCL変数 (2 0) (JOBMSGQMX)	331
JOBMSGQFLのCL変数 (10) (JOBMSGQFL)	331
INQMSGRPYのCL変数 (10) (INQMSGRPY)	331
STSMMSGのCL変数 (7) (STSMMSG)	331
BRKMSGのCL変数 (7) (BRKMSG)	331
DEVRCYACNのCL変数 (13) (DEVRCYACN)	332
RTNCDEのCL変数 (5 0) (RTNCDE)	332
ENDSTSのCL変数 (1) (ENDSTS)	332
PRTDEVのCL変数 (10) (PRTDEV)	332
OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)	332
OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)	333
SPLFACNのCL変数 (10) (SPLFACN)	333
PRTTXTのCL変数 (30) (PRTTXT)	333
PRTKEYFMTのCL変数 (10) (PRTKEYFMT)	333
SRTSEQのCL変数 (10) (SRTSEQ)	333
SRTSEQLIBのCL変数 (10) (SRTSEQLIB)	333
LANGIDのCL変数 (3) (LANGID)	334
CNTRYIDのCL変数 (2) (CNTRYID)	334
CCSIDのCL変数 (5 0) (CCSID)	334
DFTCCSIDのCL変数 (5 0) (DFTCCSID)	334
CHRIDCTLのCL変数 (10) (CHRIDCTL)	334
DECfmtのCL変数 (1) (DECfmt)	334
DATfmtのCL変数 (4) (DATfmt)	334
DATSEPのCL変数 (1) (DATSEP)	335
TIMSEPのCL変数 (1) (TIMSEP)	335
DATEのCL変数 (6) (DATE)	335
CYMDDATEのCL変数 (7) (CYMDDATE)	335
DATETIMEのCL変数 (20) (DATETIME)	335
DAYOFWEEKのCL変数 (4) (DAYOFWEEK)	335

TIMZONのCL変数 (10) (TIMZON)	336
TIMZONABBRのCL変数 (10) (TIMZONABBR)	336
TIMZONFULLのCL変数 (50) (TIMZONFULL)	336
TIMOFFSETのCL変数 (3 0) (TIMOFFSET)	336
YEAROFSのCL変数 (3 0) (YEAROFS)	336
ACGCDEのCL変数 (15) (ACGCDE)	336
SWSのCL変数 (8) (SWS)	337
RUNPTYのCL変数 (2 0) (RUNPTY)	337
TIMESLICEのCL変数 (7 0) (TIMESLICE)	337
PURGEのCL変数 (10) (PURGE)	337
DFTWAITのCL変数 (7 0) (DFTWAIT)	337
SBMMSGQのCL変数 (10) (SBMMSGQ)	337
SBMMSGQLIBのCL変数 (10) (SBMMSGQLIB)	338
DDMCNVのCL変数 (5) (DDMCNV)	338
TSEPOOLのCL変数 (10) (TSEPOOL)	338
THDRSCAFNのCL変数 (20) (THDRSCAFN)	338
RSCAFNGRPのCL変数 (10) (RSCAFNGRP)	338
例	338
エラー・メッセージ	339

ジャーナル項目検索 (RTVJRNE) 341

パラメーター	342
ジャーナル (JRN)	344
ジャーナルされた物理ファイル (FILE)	344
オブジェクト (OBJ)	346
オブジェクト (OBJPATH)	348
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	349
名前パターン (PATTERN)	350
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	351
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	352
開始日および時刻 (FROMTIME)	353
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	353
終了日および時刻 (TOTIME)	354
検索 (SEARCH)	354
ジャーナル・コード (JRNCD)	355
ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)	355
ジョブ名 (JOB)	356
プログラム (PGM)	356
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	356
大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)	357
従属項目 (DEPENT)	357
ファイル識別コード (OBJFID)	357
オブジェクト・ジャーナルID (OBJJID)	358
入力様式 (ENTfmt)	359
ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)	360
最小化データの形式設定 (fmtMINDTA)	360
項目の組み込み (INCENT)	361
開始順序番号 (FROMENT)	361
終了順序番号 (TOENT)	362
コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)	362
RTNSEQLRGのCL変数 (20) (RTNSEQLRG)	363
RTNJRNCDのCL変数 (1) (RTNJRNCD)	363
RTNENTTYPのCL変数 (2) (RTNENTTYP)	363
RTNRCVのCL変数 (10) (RTNRCV)	363
RTNRCVLIBのCL変数 (10) (RTNRCVLIB)	363
RTNJRNEのCL変数 (1) (RTNJRNE)	364

RTNSEQNBRのCL変数 (10 0) (RTNSEQNBR)	369
例	369
エラー・メッセージ	370

ライブラリー記述の検索 (RTVLIBD) 373

パラメーター	373
ライブラリー (LIB)	374
TYPEのCL変数 (10) (TYPE)	374
ASPのCL変数 (2 0) (ASP)	374
ASPDEVのCL変数 (10) (ASPDEV)	374
ASPGRPのCL変数 (10) (ASPGRP)	375
CRTAUTのCL変数 (10) (CRTAUT)	375
CRTOBJAUDのCL変数 (10) (CRTOBJAUD)	375
JRNSTSのCL変数 (1) (JRNSTS)	375
JRNのCL変数 (10) (JRN)	375
JRNLIBのCL変数 (10) (JRNLIB)	376
JRNIMGのCL変数 (1) (JRNIMG)	376
JRNOMTEのCL変数 (1) (JRNOMTE)	376
INHERITのCL変数 (1) (INHERIT)	376
JRNSTRDATEのCL変数 (13) (JRNSTRDATE)	377
STRJRNRCVのCL変数 (10) (STRJRNRCV)	377
JRNRCVLIBのCL変数 (10) (JRNRCVLIB)	377
RCVLIBASPのCL変数 (10) (RCVLIBASP)	377
RCVLIBGRPのCL変数 (10) (RCVLIBGRP)	378
INHRULESのCL変数 (1280) (INHRULES)	378
TEXTのCL変数 (50) (TEXT)	381
例	381
エラー・メッセージ	381

メンバー記述の検索 (RTVMBRD) 383

パラメーター	383
ファイル (FILE)	384
メンバー (MBR)	385
RTNSYSTEMのCL変数 (4) (RTNSYSTEM)	385
RTNLIBのCL変数 (10) (RTNLIB)	386
RTNMBRのCL変数 (10) (RTNMBR)	386
FILEATRのCL変数 (3) (FILEATR)	386
FILETYPEのCL変数 (5) (FILETYPE)	386
SRCTYPEのCL変数 (10) (SRCTYPE)	386
SRCCHGDATEのCL変数 (13) (SRCCHGDATE)	387
CRTDATEのCL変数 (13) (CRTDATE)	387
EXPDATEのCL変数 (7) (EXPDATE)	387
TEXTのCL変数 (50) (TEXT)	387
NBRCURRCDのCL変数(10 0) (NBRCURRCD)	387
NBRDLTRCDのCL変数(10 0) (NBRDLTRCD)	388
SHAREのCL変数 (4) (SHARE)	388
DTASPCISZのCL変数(15 0) (DTASPCISZ)	388
ACCPHSIZのCL変数(12 0) (ACCPHSIZ)	388
CHGDATEのCL変数 (13) (CHGDATE)	388
SAVDATEのCL変数 (13) (SAVDATE)	389
RSTDATEのCL変数 (13) (RSTDATE)	389
NBRDTAMBRsのCL変数(2 0) (NBRDTAMBRs)	389
USEDATEのCL変数 (7) (USEDATE)	389
USECOUNTのCL変数 (5 0) (USECOUNT)	389
RESETDATEのCL変数 (7) (RESETDATE)	390
例	390

エラー・メッセージ	391
-----------	-----

メッセージ検索 (RTVMSG) 393

パラメーター	393
メッセージ識別コード (MSGID)	394
メッセージ・ファイル (MSGF)	394
メッセージ・データ・フィールドの値 (MSGDTA)	394
第1 レベル・テキストのCL変数 (MSG)	394
MSGLENのCL変数 (5 0) (MSGLEN)	394
第2 レベル・テキストのCL変数 (SECLVL)	395
SECLVLENのCL変数 (5 0) (SECLVLEN)	395
SEVのCL変数 (2 0) (SEV)	395
ALROPTのCL変数 (9) (ALROPT)	395
LOGPRBのCL変数 (1) (LOGPRB)	395
CCSIDへの変換 (CCSID)	396
メッセージ・データCCSID (MDTACCSID)	396
テキスト CCSIDのCL変数(5 0) (TXTCCSID)	396
データ CCSIDのCL変数(5 0) (DTACCSID)	397
例	397
エラー・メッセージ	398

ネットワーク属性検索 (RTVNETA) 399

パラメーター	399
SYSNAME のCL 変数 (8) (SYSNAME)	400
PNDSYSNAMEのCL変数 (8) (PNDSYSNAME)	400
LCLNETIDのCL変数 (8) (LCLNETID)	400
LCLCPNAMEのCL変数 (8) (LCLCPNAME)	400
LCLLOCNAMEのCL変数 (8) (LCLLOCNAME)	401
DFTMODEのCL変数 (8) (DFTMODE)	401
NODETYPEのCL変数 (8) (NODETYPE)	401
DTACPRのCL変数 (10 0) (DTACPR)	401
DTACPRINMのCL変数(10 0) (DTACPRINM)	402
MAXINTSSNのCL変数 (5 0) (MAXINTSSN)	402
RARのCL変数 (5 0) (RAR)	402
NETSERVERのCL変数 (85) (NETSERVER)	402
ALRSTSのCL変数 (10) (ALRSTS)	403
ALRPRIFPのCL変数 (10) (ALRPRIFP)	403
ALRDFTFPのCL変数 (10) (ALRDFTFP)	403
ALRLOGSTSのCL変数 (7) (ALRLOGSTS)	404
ALRBCKFPのCL変数 (16) (ALRBCKFP)	404
ALRRQSFのCL変数 (16) (ALRRQSF)	404
ALRCTLのCL変数 (10) (ALRCTL)	404
ALRHLCNTのCL変数 (5 0) (ALRHLCNT)	405
ALRFTRのCL変数 (10) (ALRFTR)	405
ALRFTRLIBのCL変数 (10) (ALRFTRLIB)	405
MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)	405
MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)	406
OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)	406
OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)	406
JOBACNのCL変数 (10) (JOBACN)	406
MAXHOPのCL変数 (5 0) (MAXHOP)	407
DDMACCのCL変数 (10) (DDMACC)	407
DDMACCLIBのCL変数 (10) (DDMACCLIB)	407
PCSACC用CL変数 (10) (PCSACC)	408
PCSACCLIBのCL変数 (10) (PCSACCLIB)	408
DFTNETTYPEのCL変数 (10) (DFTNETTYPE)	408

DFTCNNLSTのCL変数 (10) (DFTCNNLST)	408
ALWANYNETのCL変数 (10) (ALWANYNET)	409
NWSDOMAINのCL変数 (8) (NWSDOMAIN)	409
ALWVRTAPPNのCL変数 (10) (ALWVRTAPPN)	409
ALWHPRTWRのCL変数 (10) (ALWHPRTWR)	409
VRTAUTODEVのCL変数 (5 0) (VRTAUTODEV)	409
HPRPHTMRのCL変数 (40) (HPRPHTMR)	409
ALWADDCLUのCL変数 (10) (ALWADDCLU)	410
MDMCNTRYIDのCL変数 (2) (MDMCNTRYID)	410
例	410
エラー・メッセージ	411

オブジェクト記述の検索 (RTVOBJD) 413

パラメーター	413
オブジェクト (OBJ)	416
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	416
ASP装置 (ASPDEV)	417
RTNLIBのCL変数 (10) (RTNLIB)	418
OBJATRのCL変数 (10) (OBJATR)	418
USRDFNATRのCL変数 (10) (USRDFNATR)	418
TEXTのCL変数 (50) (TEXT)	418
OWNERのCL変数 (10) (OWNER)	418
PGPのCL変数 (10) (PGP)	418
ASPのCL変数 (2 0) (ASP)	419
LIBASPのCL変数 (5 0) (LIBASP)	419
OBJASPDEVのCL変数 (10) (OBJASPDEV)	419
OBJASPGRPのCL変数 (10) (OBJASPGRP)	419
LIBASPDEVのCL変数 (10) (LIBASPDEV)	420
LIBASPGRPのCL変数 (10) (LIBASPGRP)	420
OVFASPのCL変数 (1) (OVFASP)	420
CRTDATEのCL変数 (13) (CRTDATE)	420
CHGDATEのCL変数 (13) (CHGDATE)	421
SAVDATEのCL変数 (13) (SAVDATE)	421
SAVACTDATEのCL変数 (13) (SAVACTDATE)	421
RSTDATEのCL変数 (13) (RSTDATE)	421
CRTUSERのCL変数 (10) (CRTUSER)	421
CRTSYSTEMのCL変数 (8) (CRTSYSTEM)	421
OBJDMNのCL変数 (2) (OBJDMN)	422
USEUPDのCL変数 (1) (USEUPD)	422
USEDATEのCL変数 (7) (USEDATE)	422
USECOUNTのCL変数 (5 0) (USECOUNT)	422
RESETDATEのCL変数 (7) (RESETDATE)	422
STGのCL変数 (10) (STG)	423
CPRのCL変数 (1) (CPR)	423
SIZEのCL変数 (15 0) (SIZE)	423
SPCSIZEのCL変数 (15 0) (SPCSIZE)	423
SPCALIGNのCL変数 (1) (SPCALIGN)	423
SAVSIZEのCL変数 (15 0) (SAVSIZE)	424
SAVCMDのCL変数 (10) (SAVCMD)	424
SAVSEQNBRのCL変数 (4 0) (SAVSEQNBR)	424
SAVLRGSEQのCL変数 (10 0) (SAVLRGSEQ)	424
SAVVOLのCL変数 (71) (SAVVOL)	424
SAVDEVのCL変数 (10) (SAVDEV)	425
SAVFのCL変数 (10) (SAVF)	425
SAVFLIBのCL変数 (10) (SAVFLIB)	425
SAVLABELのCL変数 (17) (SAVLABEL)	425

SRCFのCL変数 (10) (SRCF)	425
SRCFLIBのCL変数 (10) (SRCFLIB)	426
SRCMBRのCL変数 (10) (SRCMBR)	426
SRCDATEのCL変数 (13) (SRCDATE)	426
SYSLVLのCL変数 (9) (SYSLVL)	426
COMPILERのCL変数 (16) (COMPILER)	426
OBJLVLのCL変数 (8) (OBJLVL)	427
ALWAPICHGのCL変数 (1) (ALWAPICHG)	427
APICHGのCL変数 (1) (APICHG)	427
USRCHGのCL変数 (1) (USRCHG)	427
LICPGMのCL変数 (16) (LICPGM)	427
PTFのCL変数 (10) (PTF)	428
APARのCL変数 (10) (APAR)	428
OBJAUDのCL変数 (10) (OBJAUD)	428
OBJSIGのCL変数 (1) (OBJSIG)	428
SYSSIGのCL変数 (1) (SYSSIG)	428
MLTSIGのCL変数 (1) (MLTSIG)	429
JRNSTSのCL変数 (1) (JRNSTS)	429
JRNのCL変数 (10) (JRN)	429
JRNLIBのCL変数 (10) (JRNLIB)	429
JRNIMGのCL変数 (1) (JRNIMG)	429
JRNOMTEのCL変数 (1) (JRNOMTE)	430
JRNSTRDATEのCL変数 (13) (JRNSTRDATE)	430
STRJRNRCVのCL変数 (10) (STRJRNRCV)	430
JRNRCVLIBのCL変数 (10) (JRNRCVLIB)	430
RCVLIBASPのCL変数 (10) (RCVLIBASP)	431
RCVLIBGRPのCL変数 (10) (RCVLIBGRP)	431
例	431
エラー・メッセージ	432

PDGプロファイル検索 (RTVPDGPRF) 435

パラメーター	435
ユーザー・プロファイル (USER)	435
RTNUSER用CL変数 (RTNUSER)	435
PDG用CL変数 (PDG)	436
PDGLIB用CL変数 (PDGLIB)	436
PRTD用CL変数 (PRTD)	436
例	436
エラー・メッセージ	436

電源スケジュール項目の検索

(RTVPWRSCDE) 439

パラメーター	439
日 (DAY)	439
PWRONTIMEのCL変数 (6) (PWRONTIME)	440
PWROFFTIMEのCL変数 (6) (PWROFFTIME)	440
DAYDESCのCL変数 (38) (DAYDESC)	440
MSGITVのCL変数 (2 0) (MSGITV)	440
例	440
エラー・メッセージ	441

QUERY管理機能書式の検索

(RTVQMFORM) 443

パラメーター	443
QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)	443
ソース・ファイル (SRCFILE)	444

ソース・メンバー (SRCMBR)	444
QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)	444
例	445
エラー・メッセージ	445

QUERY管理機能プログラム検索 (RTVQMQR) **447**

パラメーター	447
QUERY管理機能プログラム (QMQR)	447
ソース・ファイル (SRCFILE)	448
ソース・メンバー (SRCMBR)	448
QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)	448
例	449
エラー・メッセージ	449

S/36環境属性の検索 (RTVS36A) **451**

パラメーター	451
環境名 (ENV)	452
SLIBのCL変数 (8) (SLIB)	452
FLIBのCL変数 (10) (FLIB)	452
LIBLのCL変数 (4) (LIBL)	452
DATDIFFのCL変数 (4) (DATDIFF)	452
S36ESHAREのCL変数 (4) (S36ESHARE)	452
RCDBLKのCL変数 (4) (RCDBLK)	453
CACHEDLTFのCL変数 (4) (CACHEDLTF)	453
LPPAGEのCL変数 (3) (LPPAGE)	453
FORMTYPEのCL変数 (4) (FORMTYPE)	453
DFTMSGACNのCL変数 (9) (DFTMSGACN)	453
HALTOPTのCL変数 (4) (HALTOPT)	453
EVKJOBINITのCL変数 (6) (EVKJOBINIT)	454
EVKJOBPOLのCL変数 (8) (EVKJOBPOL)	454
EVKJOBPTYのCL変数 (10) (EVKJOBPTY)	454
SRCRCLENのCL変数 (3) (SRCRCLEN)	454
CHGACT用CL変数(4) (CHGACT)	454
ADDS36ONLY用CL変数(4) (ADDS36ONLY)	454
ICFSUBST用CL変数(4) (ICFSUBST)	455
MRTUSRPRFのCL変数 (8) (MRTUSRPRF)	455
MRTAUTのCL変数 (8) (MRTAUT)	455
MRTDLYのCL変数 (5) (MRTDLY)	455
MRTJOBINITのCL変数 (6) (MRTJOBINIT)	455
MRTJOBPOLのCL変数 (8) (MRTJOBPOL)	455
MRTJOBPTYのCL変数 (10) (MRTJOBPTY)	455
例	456
エラー・メッセージ	456

サービス・エージェントの検索 (RTVSRVAGT) **457**

パラメーター	457
1番目の日のCL変数(DAY1)	457
2番目の日のCL変数(DAY2)	457
3番目の日のCL変数(DAY3)	458
例	458
エラー・メッセージ	458

停止語句リスト・ソースの検索 (RTVSWLSRC) **459**

パラメーター	459
言語識別コード (LANGID)	459
ソース・ファイル (SRCFILE)	459
ソース・メンバー (SRCMBR)	460
停止語句リスト・タイプ (TYPE)	460
例	460
エラー・メッセージ	460

システム情報の検索 (RTVSYINF) **463**

パラメーター	463
ライブラリー (LIB)	463
例	463
エラー・メッセージ	463

システム値検索 (RTVSYVAL) **465**

パラメーター	465
システム値 (SYSVAL)	466
戻された値のCL変数 (RTNVAR)	500
例	503
エラー・メッセージ	503

テーブル・ソースの検索 (RTVTBLSRC) **505**

パラメーター	505
テーブル (TBL)	505
ソース・ファイル (SRCFILE)	505
ソース・メンバー (SRCMBR)	506
UCS-2への変換 (CVTTOUCS)	506
テキスト'記述' (TEXT)	506
例	506
エラー・メッセージ	507

ユーザー・プロファイル検索 (RTVUSRPRF) **509**

パラメーター	509
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	510
RTNUSRPRFのCL変数 (10) (RTNUSRPRF)	511
SPCAUTのCL変数 (100) (SPCAUT)	511
MAXSTGのCL変数 (11 0) (MAXSTG)	511
STGUSEDのCL変数 (15 0) (STGUSED)	511
PTYLMTのCL変数 (1) (PTYLMT)	511
INLPGMのCL変数 (10) (INLPGM)	512
INLPGMLIBのCL変数 (10) (INLPGMLIB)	512
JOBDDのCL変数 (10) (JOBDD)	512
JOBDLIBのCL変数 (10) (JOBDLIB)	512
GRPPRFのCL変数 (10) (GRPPRF)	512
OWNERのCL変数 (10) (OWNER)	512
GRPAUTのCL変数 (10) (GRPAUT)	513
ACGCDEのCL変数 (15) (ACGCDE)	513
MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)	513
MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)	513
OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)	513
OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)	513
TEXTのCL変数 (50) (TEXT)	514
PWDCHGDATのCL変数 (6) (PWDCHGDAT)	514
USRCLSのCL変数 (10) (USRCLS)	514
ASTLVLのCL変数 (10) (ASTLVL)	514

SPCENVのCL変数 (10) (SPCENV)	514
CURLIBのCL変数 (10) (CURLIB)	514
INLMNUのCL変数 (10) (INLMNU)	515
INLMNULIBのCL変数 (10) (INLMNULIB)	515
LMTCPBのCL変数 (10) (LMTCPB)	515
DLVRYのCL変数 (10) (DLVRY)	515
SEVのCL変数 (2 0) (SEV)	515
PRTDEVのCL変数 (10) (PRTDEV)	515
ATNPGMのCL変数 (10) (ATNPGM)	516
ATNPGMLIBのCL変数 (10) (ATNPGMLIB)	516
USROPTのCL変数 (240) (USROPT)	516
DSPSGNINFのCL変数 (7) (DSPSGNINF)	516
PWDEXPITVのCL変数 (5 0) (PWDEXPITV)	516
PWDEXPのCL変数 (4) (PWDEXP)	517
STATUSのCL変数 (10) (STATUS)	517
PRVSIGNのCL変数 (13) (PRVSIGN)	517
NOTVLDSIGNのCL変数(11 0) (NOTVLDSIGN)	517
LMTDEVSSNのCL変数 (7) (LMTDEVSSN)	517
KBDBUFのCL変数 (10) (KBDBUF)	517
LANGIDのCL変数 (10) (LANGID)	518
CNTRYIDのCL変数 (10) (CNTRYID)	518
CCSIDのCL変数 (5 0) (CCSID)	518
SRTSEQのCL変数 (10) (SRTSEQ)	518
SRTSEQLIBのCL変数 (10) (SRTSEQLIB)	518
OBJAUDのCL変数 (10) (OBJAUD)	519
AUDLVLのCL変数 (640) (AUDLVL)	519
GRPAUTYPのCL変数 (10) (GRPAUTYP)	520
SUPGRPPRFのCL変数 (150) (SUPGRPPRF)	520
UIDのCL変数 (10 0) (UID)	520
GIDのCL変数 (10 0) (GID)	521
SETJOBATR CL変数 (160) (SETJOBATR)	521
文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)	521
LCLPDMGTのCL変数 (10) (LCLPDMGT)	521
PWDCHGBLKのCL var (10) (PWDCHGBLK)	521
例	522
エラー・メッセージ	522

ユーザー印刷情報の検索

(RTVUSRPTI) 523

パラメーター	523
ユーザー (USER)	523
RTNTEXTのCL変数 (RTNTEXT)	523
例	523
エラー・メッセージ	524

WSCSTソースの検索 (RTVWSCST) 525

パラメーター	525
装置タイプ (DEVTYPE)	526
キーボード言語タイプ (KBDTYPE)	526
メーカー・タイプ、型式 (MFRYPMDL)	526
ソース・メンバー(SRCMBR)	527
接続されたキーボード (KBD)	527
ソース・ファイル (SRCFILE)	527
テキスト'記述' (TEXT)	528
例	528
エラー・メッセージ	528

バックアップの実行 (RUNBCKUP). 529

パラメーター	529
バックアップ・オプション (BCKUPOPT)	529
装置 (DEV)	529
例	530
エラー・メッセージ	530

DNS更新の実行 (RUNDNSUPD) 533

パラメーター	533
バッチ入力ファイル (BCHFILE)	534
デバッグ情報の表示 (DEBUG)	535
鍵名 (KEYNAME)	535
鍵ファイル (KEYFILE)	535
更新タイムアウト (TIMEOUT)	536
UDPタイムアウト (UDPRTYITV)	536
UDP再試行 (UDPNBRRTY)	536
ネットワーク・プロトコル (PROTOCOL)	536
出力ファイル (TOSTMF)	536
例	537
エラー・メッセージ	539

LPDA-2の実行 (RUNLPDA). 541

パラメーター	541
回線 (LINE)	542
オプション (OPTION)	542
ローカルDCEアドレス (LCLDCEADR)	543
リモートDCEアドレス (RMTDCEADR)	543
電話番号 (TELNR)	544
リレー接続 (CONTACT)	544
送信速度 (SPEED)	544
DTEポート (DTEPORT)	545
DCE再試行 (DCERTY)	545
例	545
エラー・メッセージ	546

QUERY実行 (RUNQRY) 551

パラメーター	552
QUERY (QRYパラメーター)	552
QUERYファイル (QRYFILEパラメーター)	553
報告出力のタイプ (OUTTYPEパラメーター)	554
出力書式 (OUTFORMパラメーター)	555
レコード選択 (RCDSLTパラメーター)	555
QUERY定義の印刷 (PRTDFNパラメーター)	555
印刷装置 (PRTDEVパラメーター)	556
用紙サイズ (FORMSIZEパラメーター)	556
用紙タイプ (FORMTYPEパラメーター)	557
コピー枚数 (COPIESパラメーター)	557
行送り (LINESPACEパラメーター)	558
出力ファイル (OUTFILEパラメーター)	558
権限 (AUTパラメーター)	560
例	560
エラー・メッセージ	561

リモート・コマンド実行

(RUNRMTCMD). 563

パラメーター	563
--------	-----

コマンド (CMD)	563
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	564
リモート・ユーザーID (RMTUSER)	565
リモート・パスワード (RMTPWD)	565
モード (MODE)	565
コード化文字セットID (CCSID)	566
待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	566
例	566
エラー・メッセージ	567

RNDCコマンドの実行 (RUNRNDCCMD) 569

パラメーター	569
RNDCコマンド (RNDCCMD)	570
ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNAMSVR)	570
DNSポート (PORT)	571
RNDC構成ファイル (RNDCCFGF)	571
ソース・アドレス (SRCADR)	571
鍵ファイル (KEYFILE)	572
鍵名 (KEYNAME)	572
デバッグ情報の表示 (DEBUG)	572
出力ファイル (TOSTMF)	573
例	573
エラー・メッセージ	574

SQLステートメントの実行

(RUNSQLSTM) 575

パラメーター	575
ソース・ファイル (SRCFILE)	576
ソース・メンバー (SRCMBR)	576
ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)	577
コミットメント制御 (COMMIT)	577
命名規則 (NAMING)	577
重大度レベル (ERRLVL)	578
日付形式 (DATFMT)	578
日付区切り文字 (DATSEP)	578
時刻形式 (TIMFMT)	579
時刻区切り文字 (TIMSEP)	579
ソース仕様のマージン (MARGINS)	579
省略時のコレクション (DFTRDBCOL)	580
IBM SQLフラグづけ (SAAFLAG)	580
ANSフラグ付け (FLAGSTD)	580
小数点 (DECMPT)	580
ソート順序 (SRTSEQ)	581
言語識別コード (LANGID)	581
印刷ファイル (PRTFILE)	582
ステートメント処理 (PROCESS)	582
第2レベル・テキスト (SECLVLTXT)	582
データのコピー可能 (ALWCPYDTA)	582
ブロック化可能 (ALWBLK)	583
SQL規則 (SQLCURRULE)	584
10進数結果オプション (DECRESULT)	584
出力リスト (OUTPUT)	584
ターゲット・リリース (TGTRLS)	585
デバッグ・ビュー (DBGVIEW)	585
SQLカーソルのクローズ (CLOSQLCSR)	586
PREPARE遅延 (DLYPRP)	586

ユーザー・プロファイル (USRPRF)	587
動的ユーザー・プロファイル (DYNUSRPRF)	587
例	588
エラー・メッセージ	588

アクセス・コード権限取り消し

(RVKACCAUT) 589

パラメーター	589
文書アクセス・コード (ACC)	589
ユーザー・プロファイル (USER)	589
例	590
エラー・メッセージ	590

オブジェクト権限取り消し

(RVKOBJAUT) 593

パラメーター	594
オブジェクト (OBJ)	595
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	596
ASP装置 (ASPDEV)	597
ユーザー (USER)	597
権限(AUT)	598
権限リスト (AUTL)	599
例	599
エラー・メッセージ	600

共通権限の取り消し (RVKPUBAUT) 603

パラメーター	603
ライブラリー (LIB)	603
例	604
エラー・メッセージ	604

ユーザー認可取り消し (RVKUSRPMN) 605

パラメーター	605
FROMユーザー・プロファイル (FROMUSER)	605
ユーザー・プロファイル (FORUSER)	605
例	606
エラー・メッセージ	606

ワークステーション・オブジェクト権限

取消 (RVKWSOAUT) 607

パラメーター	608
ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)	608
ユーザー (USER)	610
権限(AUT)	611
権限リスト (AUTL)	612
例	612
エラー・メッセージ	612

オブジェクトの保管 (SAV) 613

パラメーター	613
装置 (DEV)	614
オブジェクト (OBJ)	615
名前パターン (PATTERN)	616
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	616

活動状態保管 (SAVACT)	617
活動状態保管オプション (SAVACTOPT)	617
出力 (OUTPUT)	618
ボリューム識別コード (VOL)	618
ラベル (LABEL)	619
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	619
順序番号 (SEQNBR)	620
ファイル満了日 (EXPDATE)	620
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	620
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	621
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	621
同期 ID (SYNCID)	621
出力情報のタイプ (INFATYPE)	622
システム (SYSTEM)	622
最終変更の期間 (CHGPERIOD)	622
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	623
ターゲット・リリース (TGTRLS)	624
履歴更新 (UPDHST)	624
消去 (CLEAR)	624
データ圧縮 (DTACPR)	625
データ短縮 (COMPACT)	626
ASP装置 (ASPDEV)	626
オブジェクト・スキャン (SCAN)	627
私用専用権限 (PVTAUT)	628
例	628
エラー・メッセージ	630

APARデータの保管 (SAVAPARDTA) 635

パラメーター	635
問題識別コード (PRBID)	635
例	635
エラー・メッセージ	636

構成の保管 (SAVCFG) 637

パラメーター	637
装置 (DEV)	638
ボリューム識別コード (VOL)	639
順序番号 (SEQNBR)	639
ファイル満了日 (EXPDATE)	639
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	640
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	640
保管ファイル (SAVF)	640
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	641
消去 (CLEAR)	641
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	642
データ圧縮 (DTACPR)	642
データ短縮 (COMPACT)	643
出力 (OUTPUT)	644
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	644
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	645
例	645
エラー・メッセージ	645

変更されたオブジェクトの保管 (SAVCHGOBJ) 649

パラメーター	650
--------	-----

オブジェクト (OBJ)	652
ライブラリー (LIB)	652
装置 (DEV)	653
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	654
ジャーナル処理されたオブジェクト (OBJJRN)	655
参照日付 (REFDATE)	655
参照時刻 (REFTIME)	655
ボリューム識別コード (VOL)	656
順序番号 (SEQNBR)	656
ラベル (LABEL)	656
ファイル満了日 (EXPDATE)	657
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	657
開始ライブラリー (STRLIB)	657
保管ファイル (SAVF)	658
媒体定義 (MEDDFN)	658
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	659
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	659
ターゲット・リリース (TGTRLS)	660
履歴更新 (UPDHST)	661
消去 (CLEAR)	661
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	662
活動状態保管 (SAVACT)	663
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	663
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	665
同期 ID (SYNCID)	665
アクセス・パス保管 (ACCPH)	666
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	666
待ち行列データ (QDTA)	667
私用専用権限 (PVTAUT)	667
データ圧縮 (DTACPR)	667
データ短縮 (COMPACT)	668
除外するライブラリー (OMITLIB)	668
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	669
ASP装置 (ASPDEV)	670
出力 (OUTPUT)	670
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	671
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	671
情報のタイプ (INFATYPE)	672
コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)	672
例	672
エラー・メッセージ	673

文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO) 677

パラメーター	678
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	679
フォルダー (FLR)	680
装置 (DEV)	681
検索タイプ (SRCHTYPE)	682
マークの検査 (CHKFORMRK)	682
満了日 (CHKEXP)	682
作成日 (CRTDATE)	683
文書クラス (DOCCLS)	684
所有者プロファイル (OWNER)	685
最終変更日 (REFCHGDATE)	685
最終変更時刻 (REFCHGTIME)	685

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	686
文書リスト (DOCL)	686
ボリューム識別コード (VOL)	686
順序番号 (SEQNBR)	687
ファイル満了日 (EXPDATE)	687
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	687
ラベル (LABEL)	688
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	688
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	688
保管ファイル (SAVF)	689
除外するフォルダー (OMITFLR)	689
出力 (OUTPUT)	690
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	690
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	691
消去 (CLEAR)	691
記憶域 (STG)	692
データ圧縮 (DTACPR)	693
データ短縮 (COMPACT)	693
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	694
ターゲット・リリース (TGTRLS)	694
活動状態保管 (SAVACT)	695
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	695
ASP番号 (ASP)	695
例	696
エラー・メッセージ	697

ライブラリー保管 (SAVLIB) 701

パラメーター	702
ライブラリー (LIB)	704
装置 (DEV)	705
ボリューム識別コード (VOL)	706
順序番号 (SEQNBR)	706
ラベル (LABEL)	707
ファイル満了日 (EXPDATE)	707
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	707
開始ライブラリー (STRLIB)	708
保管ファイル (SAVF)	708
媒体定義 (MEDDFN)	709
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	709
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	710
ターゲット・リリース (TGTRLS)	710
ヒストリー更新 (UPDHST)	711
消去 (CLEAR)	712
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	713
活動状態保管 (SAVACT)	713
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	714
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	715
同期 ID (SYNCID)	716
アクセス・パス保管 (ACCPH)	716
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	717
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	717
待ち行列データ (QDTA)	717
私用専用権限 (PVTAUT)	718
記憶域 (STG)	718
データ圧縮 (DTACPR)	718
データ短縮 (COMPACT)	719

除外するライブラリー (OMITLIB)	719
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	720
ASP装置 (ASPDEV)	721
出力 (OUTPUT)	721
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	722
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	722
情報のタイプ (INFTYPE)	723
コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)	723
例	724
エラー・メッセージ	725

ライセンス・プログラムの保管

(SAVLICPGM) 729

パラメーター	729
プロダクト (LICPGM)	730
装置 (DEV)	730
保管される任意選択部分(OPTION)	731
リリース (RLS)	731
ライセンス・プログラムの言語 (LNG)	731
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	732
署名の検査 (CHKSIG)	732
ボリューム識別コード (VOL)	732
順序番号 (SEQNBR)	733
ファイル満了日 (EXPDATE)	733
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	733
保管ファイル (SAVF)	734
ターゲット・リリース (TGTRLS)	734
消去 (CLEAR)	735
データ圧縮 (DTACPR)	736
ライセンス受諾が必要である (LICACPRQD)	736
例	737
エラー・メッセージ	738

オブジェクト保管 (SAVOBJ) 739

パラメーター	740
オブジェクト (OBJ)	742
ライブラリー (LIB)	742
装置 (DEV)	743
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	743
ボリューム識別コード (VOL)	744
順序番号 (SEQNBR)	744
ラベル (LABEL)	744
ファイル満了日 (EXPDATE)	745
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	745
保管ファイル (SAVF)	746
媒体定義 (MEDDFN)	746
光ディスク・ファイル (OPTFILE)	747
最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)	747
ターゲット・リリース (TGTRLS)	747
ヒストリー更新 (UPDHST)	748
消去 (CLEAR)	749
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	750
活動状態保管 (SAVACT)	750
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	751
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	752
同期 ID (SYNCID)	753

ファイル・メンバー (FILEMBR)	753
アクセス・パス保管 (ACCPH)	754
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	755
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	755
待ち行列データ (QDTA)	755
私用専用権限 (PVTAUT)	756
記憶域 (STG)	756
データ圧縮 (DTACPR)	756
データ短縮 (COMPACT)	757
除外するライブラリー (OMITLIB)	757
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	758
ASP装置 (ASPDEV)	759
出力 (OUTPUT)	759
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	760
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	760
情報のタイプ (INFTYPE)	761
コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)	761
例	762
エラー・メッセージ	762

パフォーマンス収集の保管

(SAVPFRCOL) 767

パラメーター	767
集合 (COL)	768
ライブラリー (LIB)	768
収集タイプ (COLTYPE)	768
保管ファイル (SAVF)	769
ターゲット・リリース (TGTRLS)	770
データ圧縮 (DTACPR)	770
例	771
エラー・メッセージ	771

保管復元 (SAVRST) 773

パラメーター	774
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	775
オブジェクト (OBJ)	776
名前パターン (PATTERN)	776
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	777
マウント・ファイル・システムの再ビルド (RBDMFS)	777
最終変更の期間 (CHGPERIOD)	778
ターゲット・リリース (TGTRLS)	779
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	780
活動状態保管 (SAVACT)	780
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	780
ASP装置 (ASPDEV)	781
オプション (OPTION)	781
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	781
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	783
オブジェクト・スキャン (SCAN)	784
私用専用権限 (PVTAUT)	784
親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)	785
親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)	785
例	785
エラー・メッセージ	786

構成の保管復元 (SAVRSTCFG) 787

パラメーター	788
オブジェクト (OBJ)	788
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	789
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	789
システム資源管理 (SRM)	790
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	790
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	790
例	791
エラー・メッセージ	792

変更オブジェクトの保管復元

(SAVRSTCHG) 793

パラメーター	794
オブジェクト (OBJ)	796
保管されたライブラリー (LIB)	797
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	797
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	798
ジャーナル処理されたオブジェクト (OBJJRN)	798
参照日付 (REFDATE)	799
参照時刻 (REFTIME)	799
開始ライブラリー (STRLIB)	799
除外するライブラリー (OMITLIB)	800
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	800
ASP装置 (ASPDEV)	801
ターゲット・リリース (TGTRLS)	801
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	802
活動状態保管 (SAVACT)	802
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	803
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	804
アクセス・パス保管 (ACCPH)	805
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	806
待ち行列データ (QDTA)	806
私用専用権限 (PVTAUT)	806
復元先ライブラリー (RSTLIB)	806
復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	806
復元先ASP番号 (RSTASP)	807
オプション (OPTION)	807
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	808
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	808
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	810
例	811
エラー・メッセージ	811

DOC/LIBオブジェクト保管復元

(SAVRSTDLO) 813

パラメーター	814
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	815
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	816
フォルダー (FLR)	816
除外するフォルダー (OMITFLR)	817
検索タイプ (SRCHTYPE)	818
満了日 (CHKEXP)	818
作成日 (CRTDATE)	818
文書クラス (DOCCLS)	820

所有者プロファイル (OWNER)	820
最終変更日 (REFCHGDATE)	820
最終変更時刻 (REFCHGTIME)	821
文書リスト (DOCL)	821
ターゲット・リリース (TGTRLS)	821
記憶域 (STG)	822
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	823
活動状態保管 (SAVACT)	823
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	823
ASP番号 (ASP)	824
オブジェクト名生成 (NEWOBJ)	824
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	824
復元先ASP番号 (RSTASP)	825
例	825
エラー・メッセージ	826

ライブラリーの保管復元 (SAVRSTLIB) 827

パラメーター	828
ライブラリー (LIB)	829
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	831
開始ライブラリー (STRLIB)	831
除外するライブラリー (OMITLIB)	832
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	832
ASP装置 (ASPDEV)	833
ターゲット・リリース (TGTRLS)	833
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	834
活動状態保管 (SAVACT)	834
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	835
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	836
アクセス・パス保管 (ACCPH)	837
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	837
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	838
待ち行列データ (QDTA)	838
私用専用権限 (PVTAUT)	838
記憶域 (STG)	838
オプション (OPTION)	839
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	840
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	840
復元先ライブラリー (RSTLIB)	842
復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	842
復元先ASP番号 (RSTASP)	842

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	843
例	844
エラー・メッセージ	844

オブジェクトの保管復元 (SAVRSTOBJ) 847

パラメーター	847
オブジェクト (OBJ)	850
保管されたライブラリー (LIB)	851
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	852
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	852
開始ライブラリー (STRLIB)	852
除外するライブラリー (OMITLIB)	853
除外するオブジェクト (OMITOBJ)	853
ASP装置 (ASPDEV)	854
ターゲット・リリース (TGTRLS)	855
オブジェクト事前検査 (PRECHK)	855
活動状態保管 (SAVACT)	856
活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)	856
活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)	858
ファイル・メンバー (FILEMBR)	858
アクセス・パス保管 (ACCPH)	859
保管ファイル・データ (SAVFDTA)	860
スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)	860
待ち行列データ (QDTA)	860
私用専用権限 (PVTAUT)	861
記憶域 (STG)	861
オプション (OPTION)	861
データベース・メンバー・オプション (MBROPT)	862
オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)	862
復元先ライブラリー (RSTLIB)	864
復元先ASP装置 (RSTASPDEV)	864
復元先ASP番号 (RSTASP)	865
強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)	865
例	866
エラー・メッセージ	866

付録. 特記事項 869

プログラミング・インターフェース情報	870
商標	871
使用条件	872
コードに関するライセンス情報および特記事項	872

トレース・フィルターの除去 (RMVTRCFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース・フィルター除去(RMVTRCFTR)コマンドは、システムから1つまたは複数のフィルターを除去します。

制約事項:

- ユーザーはサービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはSystem iナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してI5/OSのサービス・トレース機能に許可されていなければなりません。また、機能使用法情報変更(CHGFCNUSG)コマンドを使用して、トレース操作に実行できるユーザーのリストを変更することもできます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FTR	フィルター	総称名, 名前	必須, 定位置 1

上

フィルター (FTR)

除去するトレース・フィルターを指定します。特定または総称フィルター名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

総称名 除去するトレース・フィルターの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後のアスタリスク(*)が続いた文字ストリングです。例えば、ABC*です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていない場合、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 除去するトレース・フィルターの名前を指定してください。

上

例

例1: 単一フィルターの除去

```
RMVTRCFTR  FTR(SAMPLE)
```

このコマンドは、トレース・フィルターSAMPLEを除去します。

例2: SAMで始まるすべてのフィルターの除去

```
RMVTRCFTR  FTR(SAM*)
```

このコマンドは、SAMで始まる名前を持つすべてのトレース・フィルターを除去します。

上

エラー・メッセージ

不明

上

ワークステーション項目除去 (RMVWSE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション項目除去 (RMVWSE)コマンドは、指定されたサブシステム記述からワークステーション項目を除去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ワークステーション項目と関連した活動ジョブがある場合には、活動サブシステムのサブシステム記述内のワークステーション項目を除去することはできません。
- 制御サブシステムから*CONまたはCONS項目を除去することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
WRKSTN	ワークステーション名の処理	総称名, 名前	オプション
WRKSTNTYPE	ワークステーション・タイプ	*ALL, 3179, 3180, 3196, 3197, 3277, 3278, 3279, 3476, 3477, 3486, 3487, 5251, 5252, 5291, 5292, 5555, *ASCII, CONS, *CONS, *NONASCII	オプション

上

サブシステム記述 (SBSD)

除去するワークステーション・ジョブ項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 ワークステーション・ジョブ項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

注:次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QLPINSTALL
- QSYSSBSD

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

上

ワークステーション名の処理 (WRKSTN)

サブシステムによって使用されるワークステーションの名前を指定します。ワークステーションに関連する装置記述の作成 (表示装置) (CRTDEV DSP) コマンドに指定された装置記述名が、使用される名前です。

2バイト文字セットの考慮事項:2バイト文字セット(DBCS)の場合には、タイプが5555のワークステーションをこのパラメーターか**ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYPE)**パラメーターのいずれかに指定しなければなりません、両方を指定することはできません。

総称名 総称名を指定してください。例えば、DSP*, RMT*などです。

注: 総称ワークステーション名を指定しても、複数の項目が追加、変更、または除去されることはありません。

名前 特定のワークステーションの名前を指定します。例えば、DSP10, DSP11, RMT55などです。

このパラメーターか**ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYP)**パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方に指定することはできません。

上

ワークステーション・タイプ (WRKSTNTYPE)

追加、変更、または除去する項目に関連したワークステーションのタイプを指定します。この項目は、個々のワークステーションの特定の項目を持たないこのタイプのすべてのワークステーションに適用されます。

***ALL** すべてのワークステーション装置。これには、5250, ASCII,および327Xの装置タイプの装置が含まれます。

3179 3179ワークステーション。

3180 3180ワークステーション。

3196 3196ワークステーション。

3197 3197ワークステーション。

- 3277 3277ワークステーション。
- 3278 3278ワークステーション。
- 3279 3279ワークステーション。
- 3476 3476ワークステーション。
- 3477 3477ワークステーション。
- 3486 3486ワークステーション。
- 3487 3487ワークステーション。
- 5251 5251ワークステーション。
- 5291 5291ワークステーション。
- 5292 5292カラー・ワークステーション。
- 5555 5555バイト文字セット(DBCS)使用可能ワークステーション。

***ASCII**

すべてのASCIIワークステーション装置タイプ。

CONS システム・コンソール画面。この項目は、コンソールとして使用される装置と同じ装置タイプを指定する装置タイプ項目に優先権を持ちます。

***CONS**

システム・コンソール画面。この項目は、コンソールとして使用される装置と同じ装置タイプを指定する装置タイプ項目に優先権を持ちます。

***NONASCII**

327X装置タイプだけでなく、5250データ・ストリームを使用するすべてのワークステーション装置。

このパラメーターか **ワークステーション名の処理 (WRKSTN)**パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方に指定することはできません。

上

例

```
RMVWSE  SBSDB(LIB2/CHARLES)  WRKSTN(B53)
```

このコマンドは、ワークステーションB53のワークステーション項目をライブラリーLIB2のCHARLESという名前のサブシステム記述から除去します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

RNDCコマンドの実行 (RNDC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RNDCコマンドの実行 (RUNRNDCCMD)コマンドまたはその別名RNDCは、リモート名デーモン制御ユーティリティを開始します。このコマンドによって、ローカル・システムで稼働しているドメイン・ネーム・システム(DNS)を制御できます。

制約事項:

- パス/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYNのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- /QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYNディレクトリー・ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、RNDC構成ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- RNDC構成ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、RNDCキー・ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- キー・ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、出力ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 出力ファイルが存在する場合にはそのファイルに対する書き込み(*W)権限が必要です。
- 出力ファイルがまだ存在しない場合には、出力ファイルの親ディレクトリーに対する、読み取り、書き込み、および実行(*RWX)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RNDCCMD	RNDCコマンド	文字値	必須, 定位置 1
DMNNAMSVR	ドメイン・ネーム・サーバー	文字値, <u>*DFT</u>	オプション, 定位置 2
PORT	DNSポート	1-65535, <u>953</u>	オプション, 定位置 3
RNDCCFGF	RNDC構成ファイル	パス名, <u>*DFT</u>	オプション
SRCADR	ソース・アドレス	文字値, <u>*DFT</u> , *ANY4, *LOOPBACK4, *ANY6, *LOOPBACK6	オプション
KEYFILE	鍵ファイル	パス名, <u>*DFT</u>	オプション
KEYNAME	鍵名	文字値, <u>*DFT</u>	オプション
DEBUG	デバッグ情報の表示	<u>*NO</u> , *YES	オプション
TOSTMF	出力ファイル	パス名, <u>*STDOUT</u>	オプション

上

RNDCコマンド (RNDCCMD)

DNSサーバーに送信される制御装置コマンドを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 実行する制御装置コマンドを指定します。このコマンドは、次のいずれかにする必要があります。

```
reload
  構成ファイルおよびゾーンを再ロードする
reload zone [class [view]]
  単一ゾーンを再ロードする
refresh zone [class [view]]
  ゾーンの即時保守をスケジュールする
retransfer zone [class [view]]
  製造番号を検査せずに単一ゾーンを転送する
freeze zone [class [view]]
  動的ゾーンへの更新を延期する
thaw zone [class [view]]
  凍結された動的ゾーンへの更新を使用可能にして、
  再ロードする
reconfig
  構成ファイルおよび新規ゾーンのみを再ロードする
stats
  サーバー統計を統計ファイルに書き込む
querylog
  QUERYロギングを切り替える
dumpdb [-all|-cache|-zones] [view ...]
  ダンプ・ファイル(named_dump.db)へのキャッシュをダンプする
stop
  保留中の更新をマスター・ファイルに保管し、
  サーバーを停止する
stop -p
  保留中の更新をマスター・ファイルに保管して
  サーバーを停止し、プロセスIDを報告する
halt
  保留中の更新を保管せずにサーバーを停止する
halt -p
  保留中の更新を保管せずにサーバーを停止し、
  プロセスIDを報告する
trace
  デバッグ・レベルを1インクリメントする
trace level
  デバッグ・レベルを変更する
notrace
  デバッグ・レベルを0に設定する
flush
  サーバー・キャッシュをすべてフラッシュする
flush [view]
  ビューのサーバー・キャッシュをフラッシュする
flushname name [view]
  指定されたnameをサーバー・キャッシュからフラッシュする
status
  サーバーの状況を表示する
recursing
  現在繰り返されているQUERY
  (named.recursing)をダンプする
```

上

ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNAMSVR)

RNDCがQUERYセッションの現行サーバーとして使用するDNSサーバーの名前またはIPアドレスを指定します。TCP/IPネットワークがアクセスするDNSサーバーを指定することができます。

注: RNDCは、情報をDNSサーバーに送信します。コマンドを送信するには、活動状態のDNSサーバーが必要です。ツールの開始時にDMNNAMSVRでDNSサーバーを指定しなかった場合には、`rndc.conf`ファイルに定義された省略時のサーバー、ポート、および鍵を使用しようと試みます。これは通常、ループバック・インターフェース127.0. 0.1およびポート953です。

***DFT** /QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.confファイルで定義された省略時のDNSサーバーを使用します。

server-domain-name

DNSサーバーの名前を指定します。これは、「`myserver.i5os.ibm.com`」のようなドメイン名です。

server-internet-address

DNSサーバーのIPアドレスを指定してください。

RNDC-server-name

`rndc.conf`ファイルのDNSサーバー名を指定します。これは「NS」のような名前にすることができます。

上

DNSポート (PORT)

使用する省略時のサーバー・ポートを指定します。

953 制御チャンネル・ポート953を使用します。

1から65535

有効なポート番号を指定します。

上

RNDC構成ファイル (RNDCCFGF)

このセッションで使用するRNDC構成ファイルを指定します。このファイルには、省略時のサーバーおよびそのサーバーのアクセス・キーを定義するアクセス・キー・ステートメントおよびオプション・ステートメントが入っています。この構成ファイルにリモート・サーバーに適用されるアクセス・キー・ステートメントおよびサーバー・ステートメントが入っている場合には、RNDCを使用して、他のシステムにあるDNSサーバーを制御することが可能です。

***DFT** 省略時の構成ファイルとして/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.confを使用します。このファイルの省略時のサーバーは、「localhost」です。

パス名 RNDC構成情報が入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。例えば、「/home/myprofile/my-rndc-conf-file」です。

上

ソース・アドレス (SRCADR)

サーバーへの接続のためのソース・アドレスを指定します。

***DFT** スタックに提供された省略時値を使用します。

***ANY4**

IPv4ワイルドカード・アドレス（「0.0.0.0」）を使用します。

***LOOPBACK4**

IPv4ループバック・アドレス（「127.0.0.1」）を使用します。

***ANY6**

IPv6ワイルドカード・アドレス（「::」）を使用します。

***LOOPBACK6**

IPv6ループバック・アドレス（「::1」）を使用します。

文字値 有効なIPv4またはIPv6インターネット・アドレスを指定してください。

上

鍵ファイル (KEYFILE)

このセッションで使用するアクセス・キー・ファイルを指定します。このファイルの鍵を使用して、サーバーに送信されるコマンドを認証します。

***DFT** 省略時のキー・ファイルとして/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.keyを使用します。

パス名 鍵情報が入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。例えば、
「/home/myprofile/my-rndc-key-file」です。

上

鍵名 (KEYNAME)

このセッションで使用するアクセス・キー名を指定します。このセッションで使用されているサーバーがこのキー名を知っている必要があります。キー名が指定されなかった場合には、RNDCは/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.confファイルの省略時値を使用します。

***DFT** キー名*rndc-key*を使用します。

文字値 使用するRNDCキー名を指定します。

QUERY対象のDNSサーバーは、この鍵でRNDCクライアントを許可するためには、named.conf構成ファイルにこの鍵およびアルゴリズムを含んでいる必要があります。

上

デバッグ情報の表示 (DEBUG)

デバッグ・モードをオンにするかどうかを指定します。デバッグ・モードがオンになると、サーバーに送信されるパケットおよびその結果の応答に関するさらに詳細な情報が表示されます。

***NO** デバッグ・メッセージをオフにします。

***YES** デバッグ・メッセージをオンにします。

上

出力ファイル (TOSTMF)

すべてのコマンド出力が書き込まれるストリーム・ファイルの名前を指定します。

*STDOUT

すべてのコマンド出力は、標準出力装置（通常はモニター）に送られます。

パス名 出力が書き込まれるストリーム・ファイルのパスを指定します。

上

例

例1:すべてのDNSサーバー構成および静的ゾーンの再ロード

```
RUNRNDCCMD RNDCCMD('reload')
```

このコマンドは、DNSサーバー構成および静的ゾーンに対するすべての変更の単純な再ロードを示します。

このタイプのQUERYの出力は次のようなものです。

```
server reload successful
```

同様に、rndc.confファイルのRNDC鍵が無効な場合には、このタイプのQUERYの出力は次のようなものになります。

```
rndc: connection to remote host closed  
これは次のことを示している可能性があります。  
*リモート・サーバーが古いバージョンのコマンド・プロトコルを使用している  
*このホストは接続権限がない  
*クロックが同期されていない  
*鍵が無効である
```

例2:単一ゾーンの再ロード

```
RUNRNDCCMD RNDCCMD('reload i5os.ibm.com')
```

このコマンドは、「i5os.ibm.com」という名前の単一静的ゾーンの単純な再ロードを示します。

このタイプのQUERYの出力は次のようなものです。

```
zone reload up-to-date
```

ゾーンが静的ゾーンではない場合には、このタイプのQUERYの出力は次のようなものになります。

```
rndc: 'reload i5os.ibm.com' failed: dynamic zone
```

例3:キャッシュのダンプ

```
RUNRNDCCMD RNDCCMD('dumpdb -cache')
```

このコマンドは、サーバー上の活動状態のキャッシュをダンプする方法を示します。サーバー・ディレクトリーのnamed_dump.dbファイル（つまり、サーバーNSの場合はそのファイルは/QIBM/UserData/OS400/DNS/NS/named_dump.db）に出力されるため、このタイプのQUERYの出力は空です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

DNS0013

コマンド・パラメーターの処理エラー。

DNS0065

i5/OSのオプション33が必要ですが、導入されていません。

TCP7124

ライブラリー&2中のタイプ*PGMのプログラム&1が異常終了しました。

上

オブジェクト名変更 (RNM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト名変更 (RNM)コマンドは、ディレクトリー内のオブジェクトの名前を変更します。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- REN

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。 **オブジェクト (OBJ)**パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
- "ルート" (I), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システムのオブジェクトの名前を変更するときには、名前変更するオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限、およびオブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。名前変更するオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのディレクトリーに対する書き込み(*W)権限も必要です。
- パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (I), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトの名前を変更することはできません。
 - ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
- 既存のオブジェクト名変更 (RNMOBJ)コマンドおよび文書ライブラリー・オブジェクト名変更 (RNMDLO)コマンドからの権限要件および制約事項は、QSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,およびQDLSファイル・システム内のオブジェクトに適用されます。
- QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムでは、新しい名前に同じオブジェクト・タイプ設備部が含まれていなければなりません。
- 名前を変更できないオブジェクトもあります。それらのオブジェクトの名前を変更しようとすると、エラーが戻されます。
- ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルの名前を変更することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
NEWOBJ	新しいオブジェクト	文字値	必須, 定位置 2

上

オブジェクト (OBJ)

名前を変更するオブジェクトのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

新しいオブジェクト (NEWOBJ)

名前変更するオブジェクトの新しい名前を指定します。この名前にはディレクトリーの修飾子を含めることはできないため、既存のオブジェクトと同じディレクトリーに入ります。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

例

例1:オブジェクト・リンクの名前変更

```
RNM  OBJ('DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
      NEWOBJ('JANUARY-1995-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルを JANUARY-1995-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルに名前変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B4

NEWOBJパラメーターはスラッシュで始めることができない。

CPFA0B5

NEWOBJパラメーターにパスを含むことはできない。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

上

ディレクトリー項目の名前変更 (RNMDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目名前変更(RNMDIRE)コマンドは、ローカルまたはリモート・ユーザーID (ID)およびユーザー・アドレスを新しいユーザーIDおよびユーザー・アドレスに名前変更します。名前変更操作は、総称(*ANY)ユーザーIDまたは省略時のディレクトリー項目(QSYS, QDFTOWN, QLPAUTO, QLPINSTL)には使用できません。このコマンドは、すべての弊社提供ファイルに現れる指定されたすべてのユーザーIDおよびアドレスを名前変更します。

このジョブは、ジョブ投入(SBMJOB)コマンドを使用して、使用状況が少ない期間中に予定するようにお勧めします。

システム上では一度に1つの名前変更操作しか実行することができません。名前変更をバッチに投入すると、ジョブは活動中の名前変更が完了するまで待機します。

制約事項: ユーザーIDおよびユーザー・アドレスを名前変更するためには、管理者権限(*SECADM)または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OLDUSRID	旧ユーザー識別コード	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
NEWUSRID	新ユーザー識別コード	単一値: *BACKOUT その他の値: 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
FWDFRM	転送元ユーザー識別コード	単一値: *NONE, *OLDUSRID その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
NETUSRID	ネットワーク・ユーザー識別コードの変更	*SAME, *NEWUSRID	オプション

上

旧ユーザー識別コード (OLDUSRID)

名前変更されるディレクトリー項目のユーザーIDおよびアドレスを指定します。両方の要素を指定しなければなりません。小文字を指定すると、システムはそれらを大文字として記憶します。ユーザーIDおよびアドレスの指定の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

これは必須パラメーターです。

要素1:ユーザーID

文字値 ディレクトリー項目の現行ユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素2にアドレスを指定しなければなりません。

要素2:アドレス

文字値 ディレクトリー項目の現行アドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素1にユーザーIDを指定しなければなりません。

上

新ユーザー識別コード (NEWUSRID)

前のユーザーIDおよびアドレスが名前変更されるユーザーIDおよびアドレスを指定します。両方の要素を指定しなければなりません、一方の要素だけがOLDUSRIDパラメーターに指定されたユーザーIDおよびアドレスと異なっていれば十分です。

指定された新しいユーザーIDおよびアドレスが、既存のユーザーIDおよびアドレスであったり、ディレクトリーの転送元の値として存在することはできません。

前の名前変更要求の結果として名前変更中の項目にエラーがある場合には、名前変更操作を続行するか、あるいは変更をバックアウトしてファイルを前のユーザーIDおよびアドレスにリセットすることができます。変更をバックアウトするためには、このパラメーターに*BACKOUTを指定してください。名前変更操作を続行するためには、このパラメーターの値を変更しないでください（値が別のユーザーIDおよびアドレスに変更されると、それがエラーになります）。

小文字を指定すると、システムはそれらを大文字として記憶します。

単一値

*BACKOUT

ディレクトリー項目の名前変更操作のバックアウト。この値を使用できるのは、前の名前変更の結果としてエラーがあるディレクトリー項目の場合だけです。この値は、名前変更要求によって変更された弊社提供のすべてのファイルのユーザーIDおよびアドレスをOLDUSRIDパラメーターに指定された値に設定します。

要素1: ユーザー識別コード

文字値 ディレクトリー項目に新しいユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素2にアドレスを指定しなければなりません。

要素2: アドレス

文字値 ディレクトリー項目に新しいアドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素1にユーザーIDを指定しなければなりません。

注: アドレス要素を変更しても、ディレクトリー項目のシステム名は変更されません。このユーザーへの配布をディレクトリー項目によって指定されているシステム以外のシステムに転送したい場合には、ディレクトリー項目変更(CHGDIRE)コマンドを使用してディレクトリー項目のシステム名を変更しなければなりません。

上

転送元ユーザー識別コード (FWDFRM)

配布が、前のユーザーIDおよびアドレスまたは指定されたユーザーIDおよびアドレスから自動的に転送されるかどうかを指定します。この値が有効なのは、ローカル・ユーザーの場合だけです。

単一値

***NONE**

配布は転送されません。

***OLDUSRID**

すべての配布が前のユーザーIDおよびアドレスから転送されます。

要素1: ユーザー識別コード

文字値 配布の転送元のユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素2にアドレスを指定しなければなりません。

要素2: アドレス

文字値 配布の転送元のアドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素1にユーザーIDを指定しなければなりません。

上

ネットワーク・ユーザー識別コードの変更 (NETUSRID)

現行のネットワーク・ユーザーIDおよびアドレスを新しいユーザーIDおよびアドレスに名前変更するかどうかを指定します。ネットワーク・ユーザーIDは、シャドー処理でネットワーク中のユーザーを固有に識別するために使用されます。省略時の値はユーザーIDおよびアドレスです。ネットワーク中の固有の値としてユーザーIDおよびアドレスでディレクトリーのシャドー処理を使用する場合には、この値をNEWUSRIDパラメーターに指定された新しいユーザーIDおよびアドレスに変更することもできます。

***SAME**

値は変更されません。

***NEWUSRID**

ネットワーク・ユーザーIDおよびアドレスが、新しいユーザーIDおよびアドレスに変更されます。

上

例

例1:ユーザーIDの名前変更

```
RNMDIRE  OLDUSRID(HURST PAYROLL)  NEWUSRID(HURST NEWYORK)
          FWDFRM(*OLDUSRID)
```

このコマンドは現行ユーザーID HURST PAYROLLを新規ユーザーID HURST NEWYORKに名前変更します。旧ユーザーIDおよびアドレスに送信された配布は転送されます。

例2:ユーザーIDおよびネットワーク・ユーザーIDの名前変更

```
RNMDIRE  OLDUSRID(HURST PAYROLL)  NEWUSRID(HURST NEWYORK)
          FWDFRM(*OLDUSRID)  NETUSRID(*NEWUSRID)
```

このコマンドは現行ユーザーID HURST PAYROLLおよび現行ネットワーク・ユーザーIDを新規ユーザーID HURST NEWYORKに名前変更します。旧ユーザーIDおよびアドレスに送信された配布は転送されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF897F

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2の名前変更が正常に実行されなかった。

CPI90F1

名前変更がエラーで完了した。前にリストされたメッセージを参照してください。

上

文書ライブラリー・オブジェクト名変更 (RNMDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト名変更(RNMDLO)コマンドによって、文書またはフォルダーの名前を変更することができます。文書またはフォルダーが使用中の場合には、名前を変更することはできません。

制約事項:

- 名前を変更している文書またはフォルダーに対して全(*ALL)権限が必要で、それらが入っているフォルダーに対して変更(*CHANGE)権限が必要です。
- このコマンドの使用中に、内部オブジェクトはロックされていることを示すエラー・メッセージが見つかることがあります別のユーザーが文書ライブラリー機能を使用中で、これはRNMDLOコマンドと同時に実行することはできません。したがって、数分してからこのコマンドをやり直してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値	必須, 定位置 1
NEWDLO	新しい文書ライブラリー・オブジェクト	文字値	必須, 定位置 2
FLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション, 定位置 3

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

名前を変更している文書またはフォルダーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

新しい文書ライブラリー・オブジェクト (NEWDLO)

文書またはフォルダーの新しい名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

フォルダー中 (FLR)

名前を変更中の文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

名前を変更中のフォルダーは第1レベルのフォルダーです。名前を変更中のオブジェクトが文書である場合には、*NONEを指定することはできません。

名前 名前を変更中の文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定してください。

上

例

RNMDLO DLO(A) NEWDLO(B) FLR(FLR1)

このコマンドは、フォルダーFLR1にある文書またはフォルダーAの名前をBに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A14

フォルダー&1中のタイプ&4の&2が&3に名前変更されなかった。

上

配布リストの名前変更 (RNMDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト名前変更(RNMDSTL)コマンドは、既存の配布リストのリストID (ID)を名前変更します。

配布リストは、配布ディレクトリーからの項目のリストです。配布リストは、ローカル、リモート、間接、および独立ワークステーション・ユーザーの項目を含むことができます。配布リストはまた、リモート配布リストを含むことはできますが、ローカル配布リストを含むことはできません。配布リストの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

配布リストを名前変更する時には、新しいリストIDはディレクトリー中のすべてのローカル・ユーザーIDおよび他のリストIDに固有のものでなければなりません。新しいリストIDが固有でない場合には、リストは名前変更されず、エラー・メッセージが戻されます。

制約事項: 所有していない配布リストを名前変更するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。所有している配布リストを名前変更するには特殊権限は不要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
NEWLSTID	新しいリスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	

上

リスト識別コード (LSTID)

名前が変更される配布リストの2部分から成るリストIDを指定します。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

これは必須パラメーターです。

上

新しいリスト識別コード (NEWLSTID)

配布リストの新しい2部分から成るリストIDを指定します。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
RNMDSTL LSTID(DEPTABC DLIST) NEWLSTID(DEPTXYZ DLIST)
```

このコマンドは、部門ABCのメンバーが入っている配布リストを名前変更します。リストIDは、新規部門名XYZと対応するように変更されています。新規リストIDが固有であると、配布リストが変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9A8B

配布リスト&1 &2は名前変更されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

LANアダプターの名前変更 (RNMLANADPI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

このコマンドは、アダプター・ファイルのLANアダプター情報に関連した名前を変更するために使用します。

制約事項: アダプター名は固有でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ADPTNAME	アダプター	名前	必須, 定位置 1
NEWNAME	新しい名前	名前	必須, 定位置 2

上

アダプター (ADPTNAME)

現在アダプターに関連のある名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

新しい名前 (NEWNAME)

アダプター情報に関連した新しい名前を指定します。新しい名前のオブジェクト・タイプは*NAMEです。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
RNMLANADPI ADPTNAME(ACCTG3A) NEWNAME(BILLING2)
```

このコマンドは、名前をACCTG3AからBILLING2に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B48

アダプター名- &29またはアドレス- &30はすでにネットワーク・アダプターにある。

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

CPF8B83

アダプター&29の名前変更要求が正常に実行されなかった。アダプター名が見つかりません。

上

メンバー名変更 (RNMM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メンバー名変更(RNMM)コマンドは、指定されたファイルのメンバーの名前を変更します。使用中にメンバーの名前を変更することはできません。他のユーザーは、名前変更されるメンバーが入っているファイル内の他のメンバーのレコードを読み取ったり、変更したりすることができます。同じジョブ内でオープンされたメンバーの名前を変更することはできません。

制約事項:

- 名前変更されるメンバーが入っているファイルに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限およびファイルが入っているライブラリーに対する更新(*UPDATE)および実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは*SNAタイプの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前	必須, 定位置 2
NEWMBR	新しいメンバー	名前	必須, 定位置 3

上

データベース・ファイル (FILE)

名前変更されるメンバーが入っているデータベース・ファイル（物理または論理）を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データベース・ファイル

名前 データベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

メンバー (MBR)

名前変更される物理ファイル・メンバーまたは論理ファイル・メンバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

新しいメンバー (NEWMBR)

ファイル・メンバーに割り当てられる新しい名前を指定します。そのメンバーは、名前の変更後も同じファイルの中に残っています。新しい名前は、**メンバー(MBR)**パラメーターに指定された名前と同じではありません。新しい名前は、ファイル内で固有のものとしなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 ファイル・メンバーの新しい名前を指定してください。

上

例

```
RNMM FILE(ELEMENT) MBR(LEAD) NEWMBR(GOLD)
```

このコマンドは、ファイルELEMENT中のメンバーLEADをGOLDに名前変更します。ファイルを見つけるために、ライブラリー・リスト(*LIBL)が使用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3178

メンバー&3が&4に名前変更されなかった。

上

ニックネームの名前変更 (RNMNCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム名前変更(RNMNCK)コマンドは、システム配布ディレクトリー中の既存のニックネームを名前変更するために使用されます。新しいニックネームは、共用ニックネームの時には固有でなければなりません。新しいニックネームが私用ニックネームの時には、所有者の場合にのみ固有でなければなりません。

ニックネームは、ディレクトリー項目または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. 所有していない共用ニックネームを名前変更するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。所有している共用ニックネームを名前変更するには特殊権限は不要です。
2. 私用ニックネームを名前変更できるのは所有者だけです。特殊権限は不要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NCK	ニックネーム	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ニックネーム	文字値	
	要素 2: アクセス	*PRIVATE, *PUBLIC	
NEWNCK	新しいニックネーム	文字値	必須, 定位置 2

上

ニックネーム (NCK)

名前が変更される既存のニックネームおよびそのニックネームのアクセスを指定します。

指定できるニックネームの値は次の通りです。

ニックネーム

名前を変更するニックネームを指定してください。

指定できるニックネーム・アクセスの値は次の通りです。

*PRIVATE

ユーザーが所有する私用ニックネームが名前変更されます。

*PUBLIC

共用ニックネームが名前変更されます。 共用ニックネームを名前変更できるのは、機密保護管理者(*SECADM)権限をもっているユーザーと所有者だけです。

これは必須パラメーターです。

上

新しいニックネーム (NEWNCK)

新しいニックネームを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
RNMNCK NCK(SEC44A *PUBLIC) NEWNCK(SEC44C)
```

このコマンドは、共通ニックネームSEC44AをSEC44Cに名前変更します。新規ニックネームが固有であると、ニックネームが名前変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AA1

ライブラリーQUSRSYSの導入が完全でない。

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF9A80

共通ニックネーム&1は使用中である。

CPF9A80

共通ニックネーム&1は使用中である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

オブジェクト名変更 (RNMOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト名変更(RNMOBJ)コマンドは、ライブラリーの中のオブジェクトの名前を変更します。オブジェクトに対して指定される新しい名前は、ライブラリーの中でそのオブジェクト・タイプに固有でなければなりません。名前変更されるオブジェクトがコマンドの入力時に使用中である場合は、そのオブジェクトは名前変更されません。ライブラリーの名前変更時に活動ユーザーのライブラリー・リストにライブラリーがある場合には、ライブラリー・リスト表示(DSPLIBL)コマンドはその新しい名前を反映します。ライブラリー名を変更すると、プログラミング・エラーになります。したがって、これはお奨めできません。

名前の付け直しをしているオブジェクトが現在ジャーナル処理されている場合には、変更を記録するジャーナルに項目が書き込まれます。オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して、オブジェクトのジャーナル情報を表示してください。

注: ジャーナル処理に関する詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

1. 名前変更されるオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限およびオブジェクトが入っているライブラリーに対する更新(*UPDATE)および実行(*EXECUTE)権限が必要です。
2. ライブラリーに*CRG, *DTADCT, *JRN, *JRNRCV, *SQLPKG,および*SQLUDTのいずれかのオブジェクト・タイプが含まれる場合には、名前を変更することができません。
3. PL/Iプログラムは、作成した後で名前を変更することはできません。
4. 制御装置記述, 回線記述, 装置記述, およびネットワーク・インターフェース記述などの構成オブジェクトは、名前変更するためにはオフに構成変更しなければなりません。
5. 次のオブジェクトは名前変更できません。
 - ジョブの一時ライブラリー(QTEMP)
 - 以下のシステム・ライブラリー (ここでXXXXXXは5桁の番号) :
 - QSYSまたはQSYSXXXXXX
 - QSYS2またはQSYS2XXXXXX
 - QRCLまたはQRCLXXXXXX
 - QRECOVERYまたはQRCYXXXXXX
 - SYSIBMまたはSYSIBXXXXXX
 - SYSIBMADM
 - SYSPROC
 - SYSTOOLS
 - QQALIB
 - QSYSCGI
 - システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)

- すべてのワークステーション・ユーザー・メッセージ待ち行列
 - システム・ログ(QHST)
 - 構成オブジェクト(QCTLおよびQCONSOLE)
 - 構成リスト(QAPPNRMT, QAPPNLCL, QASYNCLC, QRTLPASTR)
 - エレクトロニック支援通信構成オブジェクト(QESLINE, QESPAP, QESCTL, QTILINE, QTICTL, QTIDA, QTIDA2, QIADSP, QIAPRT, QQAHOST)
6. ユーザー・ライブラリーは、次の名前に名前変更することはできません(XXXXXXは5桁の番号)。
- QSYSXXXXXX
 - QSYSまたはQSYS2XXXXXX
 - QRCLまたはQRCLXXXXXX
 - QRECOVERYまたはQRCYXXXXXX
 - SYSIBMまたはSYSIBXXXXXX
 - SYSIBMADM
 - SYSPROC
 - SYSTOOLS
 - QTEMP
7. タイプ*CSI, *GSS, *FNTRSC, *FORMDF, *OVL, *PAGDFN,および*PAGSEGのオブジェクトを名前変更する時には、そのオブジェクトの新しい名前の長さは8桁以内でなければなりません。
8. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
- マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。またこのコマンドは、タイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルにスレッド・セーフでもなく、SYSTEM(*RMT)またはSYSTEM(*FILETYPE)を指定すると正常に実行されません。
 - タイプ*CFGL, *CNL, *CTLD, *DEVD, *LIND,または*NWIDのオブジェクトを名前変更すると、マルチスレッド・ジョブで失敗することになります。

注:

1. 次の項目に対する参照は、構成オブジェクトを名前変更した後でユーザーが更新しなければならない場合があります。
- 接続リスト
 - ワークステーション項目
 - 通信項目
 - 表示装置ファイル
 - 印刷装置ファイル
 - テープ・ファイル
 - ディスケット・ファイル
 - ICFファイル
 - ユーザー・プロファイル
 - ジョブ記述
 - CLプログラム
 - QPRTDEVシステム値

- これを補助印刷装置として参照する表示装置記述
 - 通信サイド情報(CSI)オブジェクト
 - 分散データ管理ファイル (APPC装置名)
 - 名前が変更された接続リスト(CNNL)を参照する統合サービス・デジタル網(ISDN)制御装置記述
 - 名前が変更されたCNNLを参照するISDN回線記述
 - その他の構成オブジェクト。例えば、名前が変更された構成オブジェクトを参照する回線、制御装置、およびその他の装置など。
2. 名前が変更されたオブジェクトに対する次の項目による参照は、名前変更操作の後にシステムによって自動的に変更されます。参照の変更は、名前の変更された構成オブジェクトに対して行われた変更を反映します。
- QCONSOLEシステム値
 - 表示装置と関連したメッセージ待ち行列
 - システム/36環境装置テーブル
 - 旧印刷装置と関連した出力待ち行列
 - 平衡型データ・リンク制御(TDLC)回線と関連したローカル・ワークステーション制御装置
 - ローカルまたはリモート・ワークステーション制御装置と関連したTDLC回線

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNNL, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEV, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IMGCLG, *IPXD, *JOB, *JOBQ, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SRVPGM, *SSND, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
NEWOBJ	新しいオブジェクト	名前	必須, 定位置 3
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT, *FILETYPE	オプション, 定位置 4

上

オブジェクト (OBJ)

名前変更されるオブジェクトを指定します。ライブラリー (修飾子2)が指定されていない場合には、*LIBLが使用されます。修飾子2にライブラリー名を指定して、確実に正しいオブジェクトが名前変更されるようにすることができます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 名前変更されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。この値が使用される時にASP装置 (ASPDEV)パラメーターが指定される場合、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されている

ライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時にASP装置 (ASPDEV)パラメーターが指定される場合、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

名前変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

名前変更されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

上

新しいオブジェクト (NEWOBJ)

名前変更されるオブジェクトの新しい名前を指定します。オブジェクトは、同じライブラリーの中にそのまま残ります。

これは必須パラメーターです。

名前 オブジェクトの新しい名前を指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

名前変更されるオブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール (ASP)装置を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいオブジェクトが名前変更されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。名前変更されるライブラリーが現在スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部でない補助記憶域プール(ASP)装置にある場合には、そのライブラリーをOBJ(QSYS/名前)として指定し、オブジェクト・タイプをOBJTYPE(*LIB)として指定し、ASP装置をASPDEV (名前)として指定してください。

注: オブジェクト(OBJ)パラメーターのライブラリー (修飾子2)に*LIBLまたは*CURLIBを指定し時には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

* 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*CURASPRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「活動中」または「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (1)と定義済み基本ユーザーASP (2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

上

システム (SYSTEM)

ファイルが分散データ管理(DDM)ファイルの場合には、名前変更がローカル・システムで行うかまたはリモート・システムで行うかを指定します。

***LCL** ローカル・システムのファイルが名前を変更されます。

***RMT** DDMソース・ファイルによって参照されたりリモート・ファイルが名前を変更されます。

注: リモート・ファイルを名前変更したい場合には、2つのDDMファイルを使用しなければなりません。既存のDDMファイルは、**オブジェクト(OBJ)**パラメーターに指定し、新しいDDMファイルは、**新しいオブジェクト(NEWOBJ)**パラメーターに指定します。新しいDDMファイルは、既存のDDMファイルと同じライブラリーの中になければなりません。リモートの名前変更が起こった時には、それは新しいDDMファイル名に名前変更される既存のDDMファイルのリモート・ファイル名です。

*FILETYPE

OBJパラメーターの名前がDDMファイルである場合には、名前変更はリモート名前変更となります。OBJパラメーターの名前がDDMファイルでない場合には、名前変更はローカル名前変更となります。

上

例

RNMOBJ OBJ(PAYROLL/FILEX) OBJTYPE(*FILE) NEWOBJ(MSTR)

PAYROLLという名前のライブラリーがFILEXという名前のファイルを見つけるために検索されます。このファイルが見つかった場合、FILEXに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびPAYROLLライブラリーに対する更新(*UPD)権限をもっていれば、FILEXがMSTRに名前変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF0601

&2のファイル&1に対する操作は許可されていない。

CPF0602

ファイル&1は、すでにライブラリー&2に存在している。

CPF0605

&2の装置ファイル&1は、記憶域を解放して保管された。

CPF0610

&2のファイル&1が使用可能でない。

CPF0678

&2のファイル名&1に対する操作は実行されなかった。

CPF1763

1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF180B

機能&1は使用できない。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2111

ライブラリー&1はすでに存在している。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2114

&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。

CPF2132

オブジェクト&1はライブラリー&2にすでに存在している。

CPF2136

ライブラリー&1の名前変更が正常に実行されなかった。

CPF2139

ライブラリー&1の名前変更が正常に実行されなかった。

CPF2140

ライブラリー&1の名前変更が前に正常に実行されていない。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2160

オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。

CPF2164

ライブラリー&2の名前変更は完了していない。

CPF2166

ライブラリー名&1は無効である。

CPF2173

ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3に対する権限がありません。

CPF2190

リモート削除または名前変更要求を行うことはできない。

CPF22BC

タイプ&3のオブジェクト&1はプログラム定義のオブジェクトでない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF2512

メッセージ待ち行列&1に対してこの操作を使用することはできない。

CPF2691

&2タイプ*&5の名前変更は完了していない。

CPF2692

オブジェクト&2タイプ*&5はオフに構成変更しなければならない。

CPF2693

&2タイプ*&5を名前変更を使用することはできない。

CPF2694

オブジェクト&2タイプ*&5は名前変更することができない。

CPF2696

オブジェクト&2タイプ*&5は名前変更されなかった。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF3201

ライブラリー&2にファイル&1はすでに存在している。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF322D

データベース・ファイル&1の操作は実行されなかった。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF323D

ユーザーは正しい権限をもっていない。

CPF324C

並行権限ホルダー操作のため、移動、名前変更、または復元を行なうことはできない。

CPF3245

ファイル&1メンバー&6の損傷により、ファイル&3に対する操作は行なわれなかった。

CPF326A

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF327F

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF329D

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF3323

ジョブ待ち行列&1はすでに&2に存在している。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3353

&2に出力待ち行列&1はすでに存在している。

CPF3375

&2のジョブ待ち行列&1の名前は変更されなかった。ジョブ待ち行列は使用中です。

CPF3376

&2の出力待ち行列&1の名前は変更されなかった。出力待ち行列は使用中です。

CPF3467

出力待ち行列&1が削除されてから、再作成された。

CPF3469

出力待ち行列に対する操作は認められない。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF8D05

ライブラリー&1はすでに存在している。

CPF88C4

新しいオブジェクトの値&1が8桁を超えている。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9876

保護されたライブラリー&2は変更できません。

上

TCP/IP ホスト・テーブル項目名の変更 (RNMTCPHTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP ホスト・テーブル項目名の変更 (RNMTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルのホスト・テーブル項目を名前変更するために使用されます。これは、既存のホスト・テーブル項目に新しいIPアドレスを割り当てることによって行われます。これは、古いIPアドレスのホスト名を新しいIPアドレスと対応させる効果があります。ホスト名およびテキスト記述フィールドはRNMTCPHTEコマンドでは変更できません。

ローカル・ホスト・テーブルは、項目当たり1つのIPアドレス、65個のホスト名、および1つのテキスト記述フィールドを使用できるように定義されています。

RNMTCPHTEコマンドは、既存のホスト・テーブル項目を除去して、新しいIPアドレスを含む新しいホスト・テーブル項目をテーブルの終わりに追加することによって、ホスト・テーブル項目の名前変更を実行します。

次のホスト・テーブル・コマンドも参照してください。

- TCP/IP ホスト・テーブル項目の追加 (ADDTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルに新しい項目を追加します。
- TCP/IP ホスト・テーブル項目の変更 (CHGTCPHTE)コマンドは、1つまたは複数のホスト名、あるいはテキスト記述フィールドを変更します。
- TCP/IPホスト・テーブルのコピー (CPYTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルの内容を物理ファイル・メンバーにコピーします。
- TCP/IP ホスト・テーブルの組み合わせ (MRGTCPHTE)コマンドは、ホスト名、インターネット・アドレス、およびテキスト注記項目を物理ファイル・メンバーからローカル・ホスト・テーブルに合併します。ローカル・ホスト・テーブル全体を物理ファイル・メンバーで置き換えることのできる置き換えオプションも提供されています。
- TCP/IP ホスト・テーブル項目の除去 (RMVTCPHTE)コマンドは、ローカル・ホスト・テーブルから項目全体を除去します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1
NEWINTNETA	新IPアドレス	文字値	必須, 定位置 2

IPアドレス (INETADR)

名前変更したいホスト・テーブル項目と関連づけるIPアドレスを指定します。IPv4 IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定され、*NNN*は0から255までの範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、*x:x:x:x:x:x*の形式で指定することができます。ここで*x*は0からX'FFFF'の範囲の16進数です。IPv6アドレス中で「::」を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「::」は、アドレスの先行ゼロ、組み込みゼロ、または後続ゼロを切り詰めるために使用できます。

IPv4マップされたIPv6アドレスを指定することができます。IPv4マップされたIPv6アドレスは *::FFFF:nnn.nnn.nnn.nnn*の形式で指定します。*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

文字値 現在のIPアドレスを指定してください。

新IPアドレス (NEWINETA)

ホスト・テーブル項目の新しいIPアドレスを指定します。IPv4 IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定され、*NNN*は0から255までの範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、*x:x:x:x:x:x*の形式で指定することができます。ここで*x*は0からX'FFFF'の範囲の16進数です。IPv6アドレス中で「::」を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「::」は、アドレスの先行ゼロ、組み込みゼロ、または後続ゼロを切り詰めるために使用できます。

IPv4マップされたIPv6アドレスを指定することができます。IPv4マップされたIPv6アドレスは *::FFFF:nnn.nnn.nnn.nnn*の形式で指定します。*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

文字値 新しいIPアドレスを指定してください。

例

例1: IPv4アドレスを含むホスト・テーブル項目の名前変更

```
RNMTCPHTE  INTNETADR('132.28.71.5')  NEWINTNETA('142.48.81.6')
```

このコマンドは、ホスト・テーブル項目IPアドレスの132.28.71.5をIPアドレスの142.48.81.6によって置き換えられます。項目と関連付けられたホスト名およびテキスト記述フィールドはすべて同じままになっています。

例2: IPv6アドレスを含むホスト・テーブル項目の名前変更

```
RNMTCPHTE  INTNETADR('1234::5678')  NEWINTNETA('5678::1234')
```

このコマンドは、1234::5678のホスト・テーブル項目IPアドレスをIPアドレス5678::1234で置き換えます。項目と関連付けられたホスト名およびテキスト記述フィールドはすべて同じままになっています。

例3: IPv4アドレスを含むホスト・テーブル項目の名前変更

```
RNMTCPHTE  INTNETADR('132.28.71.5')  NEWINTNETA('5678::1234')
```

このコマンドは、132.28.71.5のホスト・テーブル項目IPアドレスをIPアドレス5678::1234で置き換えます。この項目と関連付けられたホスト名およびテキスト記述フィールドはすべて同じままになっています。IPv6アドレスを含むホスト・テーブル項目の名前を変更し、IPv4アドレスを新しいIPアドレスとして指定することもできます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1901

IPアドレス&2が正しくない。

TCP1902

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1904

ホスト・テーブルに重複したIPアドレス&2が見つかった。

TCP1907

IPアドレス項目&1が存在しない。

TCP1908

IPアドレス&1が正しくない。

TCP1910

LOOPBACK IPアドレス&2が正しくない。

TCP1929

ホスト・テーブルが使用できない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

ロールバック (ROLLBACK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ロールバック(ROLLBACK)コマンドは、現行のトランザクションを再始動して、コマンドのプログラム発行に関連したコミットメント定義の現行のコミットメント境界として最後のコミットメント境界を再確立するために使用されます。

ROLLBACKコマンドが出される場合：

- コミットメント境界の最後の確立以降にコミットメント定義のコミットメント制御のもとにあるデータベース・ファイルおよびその他のコミットメント資源に対する変更は、ロールバックされます。そのコミットメント境界以降にデータベース・ファイルのデータに対して行われた更新、追加、または削除はロールバックまたは除去されて、元の項目がファイルに戻されます。ファイルに追加されたレコードは削除済みレコードとしてそのままとなります。ファイルは最後のコミットメント境界に位置変更されず。さらに、その他のコミットメント資源に対する変更もロールバックされます。
- コミットメント定義のコミットメント制御下でオープンされたファイルで保留されたすべてのレコード・ロックが解放されます。
- トランザクション中に資源が作成または変更された時に獲得された、オブジェクト・レベル・コミットメント制御資源のロックが解放されます。

ROLLBACKコマンドの詳細はi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「コミットメント制御」トピック・コレクションを参照してください。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

ROLLBACK

このコマンドは、コマンドを出したプログラムに関連するコミットメント定義について、最後のコミットメント境界（コミット(COMMIT)コマンドまたはロールバック(ROLLBACK)コマンドが最後に出された時点）を再確立します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF83D0

コミットメント操作は使用できない。

CPF835F

コミットまたはロールバック操作が正常に実行されなかった。

CPF8350

コミットメントの定義が見つからない。

CPF8359

ロールバック操作が正常に実行されなかった。

CPF8367

コミットメント制御操作を実行できない。

*STATUS メッセージ

CPF83E6

コミットメント制御操作が進行中の再同期化とともに完了した。

上

RPC BIND プログラム・デーモンの開始 (RPCBIND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPC BIND プログラム・デーモンの開始 (RPCBIND)コマンドは、リモート・プロシージャ呼び出し (RPC) RPCBINDデーモンを開始します。ネットワーク・ファイル・システム(NFS)のデーモンとコマンド、および一部のTI-RPC APIを使用して実行するためには、RPCバインド・プログラム・デーモン・ジョブが実行中でなければなりません。

このコマンドは、次の代替コマンドを使用して出すこともできます。

- STRNFSSVR SERVER(*RPC)

このデーモンを開始しようとして、すでに実行中の場合には、それがコマンドの失敗原因にはなりません。デーモンがすでに実行中であれば、コマンドが診断メッセージCPDA1BAを出します。

RPCBINDデーモンが実行中かどうかを判別するには、活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)コマンドを使用して、サブシステムQSYSWRKに次のジョブが存在するかどうかを調べてください。

QNFSRPCD RPCBINDデーモン

制約事項

- このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RTVRPCREG	RPC登録の検索	*NO, *YES	オプション、定位置 1

上

RPC登録の検索 (RTVRPCREG)

RPCBINDデーモンが開始された時、以前に記録された登録情報を内部ファイルから検索するかどうかを指定します。登録情報がファイルから検索されれば、RPCBINDデーモンにすでに登録済みのサービスは、RPCBINDデーモンに改めて登録する必要はありません。

***NO** 登録情報を検索しません。

***YES** 登録情報を内部ファイルから検索します。

上

例

例1: RPCバインダー・デーモンの開始

```
RPCBIND RTVRPCREG(*YES)
```

このコマンドはRPCバインダー・デーモン・ジョブを開始して、前に記録されている登録情報をリトリブします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

RPCソースの変換 (RPCGEN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPCソースの変換 (RPCGEN)コマンドは、リモート・プロシージャ呼び出し(RPC)言語で書かれた入力ファイルからCコードを生成します。生成されたCコードを使用して、RPCプロトコルを実装することができます。

このコマンドは、UNIXシステムでRPCGENユーティリティーを実行するのと同じです。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CVTRPCSRC

制約事項:

- 入力ファイルと出力ファイルの両方のパス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 入力ファイルに対する読み取り(*R)権限が必要です。
- 出力ファイルのディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMFILE	FROMファイル	パス名	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ALL, *XDR, *HDR, *CLTSTUB, *SVRSTUB, *CLTSAMP, *SVRSAMP, <u>*NOSAMP</u>	オプション
PROTOCOL	プロトコル	値 (最大 2 回の繰り返し): <u>*NONE</u> , *TCP, *UDP	オプション
TOFILE	TOファイル	パス名	オプション

上

FROMファイル (FROMFILE)

リモート・プロシージャ呼び出し(RPC)言語で書かれた入力ソース・ファイルのパス名を指定します。入力ソース・ファイルは、ルート(/)またはQOPENSYSファイル・システム内のファイルでなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

オプション (OPTION)

コンパイル・オプションを指定します。

***NOSAMP**

サンプル・ファイル(*CLTSAMPおよび*SVRSAMP)以外のすべてのファイル・タイプが生成されません。

***ALL** すべてのファイル・タイプが生成されます。

***XDR** 入力ファイルは、XDR（外部データ表示形式）ルーチンにコンパイルされます。

***HDR** 入力ファイルは、Cデータ定義（ヘッダー・ファイル）にコンパイルされます。

***CLTSTUB**

入力ファイルは、クライアント側のスタブ・プロシージャにコンパイルされます。

***SVRSTUB**

入力ファイルは、サーバー側のスタブ・プロシージャにコンパイルされます。ただし、「メイン」ルーチンは生成されません。

***CLTSAMP**

リモート・プロシージャ呼び出しを使用するサンプル・クライアントが生成されます。ファイルはアプリケーション用にカスタマイズすることができます。

***SVRSAMP**

リモート・プロシージャ呼び出しを使用するサンプル・サーバーが生成されます。ファイルはアプリケーション用にカスタマイズすることができます。

プロトコル (PROTOCOL)

指定されるトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャにコンパイルします。指定された値は、サーバー・アプリケーションの実行時に/ETC/NETCONFIGファイルに存在していなければなりません。このパラメーターが有効なのは、OPTION(*SVRSTUB)が指定されている場合だけです。次のオプションの1つまたは複数指定することができます。

***NONE**

/ETC/NETCONFIGファイルにあるすべてのトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャをコンパイルします。

***TCP** TCPトランスポートのサーバー側スタブ・プロシージャをコンパイルします。

***UDP** UDPトランスポートのサーバー側スタブをコンパイルします。

TOファイル (TOFILE)

出力ファイルのパス名を指定します。このオプションを使用できるのは、OPTION(*ALL)もOPTION(*NOSAMP)も指定されない場合だけです。OPTION(*ALL)またはOPTION(*NOSAMP)が指定されているか、あるいは別のオプションを使用しているときにTOFILEパラメーターが指定されなかった場合には、次のように **FROMファイル (FROMFILE)**パラメーターを使用してTOFILE名が生成されます。ここで、FILENAMEはFROMFILEパラメーターからの入力ファイル名の名前です。

- FILENAME.H -ヘッダー・ファイルの場合
- FILENAME_XDR.C - XDRファイルの場合
- FILENAME_CLNT.C -クライアント側スタブの場合
- FILENAME_SVC.C -サーバー側スタブの場合
- FILENAME_CLIENT.C -クライアント側サンプル・ファイルの場合
- FILENAME_SERVER.C -サーバー側サンプル・ファイルの場合

サンプル・コードの出力ファイルは存在してはいけません。サンプル出力ファイルのいずれかが存在していると、コマンドは正常に実行されません。その他の出力ファイルは、存在していると上書きされます。

'TOファイル・パス名

TOFILE名を生成するために使用するパス名を指定してください。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

上

例

RPCGENの代替コマンド名はCVTRPCSRCです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、RPCGENはそれらのすべてで直接CVTRPCSRCに置き換えることができます。

例1:省略時のファイルへのRPCソースの変換

```
CVTRPCSRC FROMFILE('/MYRPC') OPTION(*ALL)
```

これは、RPC言語ファイル'/MYRPC'を4つのファイル・タイプ(*XDR, *HDR, *CLTSTUB,および*SVRSTUB)すべてに変換します。サーバー側のスタブ・プログラムの生成には、省略時の値PROTOCOL(*TCP)が使用されます。ファイルは次のファイル名に入れられます。

- ヘッダー・ファイルの場合にはMYRPC.H
- XDRファイルの場合にはMYRPC_XDR.C
- クライアント側スタブの場合にはMYRPC_CLNT.C
- サーバー側スタブの場合にはMYRPC_SVC.C

例2:クライアント・スタブのみへのRPCソースの変換

```
CVTRPCSRC FROMFILE('/MYRPC2') OPTION(*CLTSTUB)
           TOFILE('/MYCLNT.C')
```

このコマンドは、RPC言語ファイル'/MYRPC2'をクライアント側スタブ・プロシージャーに変換します。結果は、指定されているファイル'/MYCLNT.C'に入れられます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF416

CVTRPCSRCまたはRPCGENコマンドが正しく実行されなかった。

文書置き換え (RPLDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書置き換え(RPLDOC)コマンドは、文書ライブラリーに存在する文書の文書内容および交換文書プロファイル(IDP)を置き換えるために使用されます。このコマンドは、文書の新しいバージョンを文書ライブラリーに戻します。文書をチェックアウトしなければ、データを置き換えることはできません。

制約事項:

- このコマンドを使用する前に、USRIDパラメーターに指定されたユーザーが文書検索(RTVDOC)コマンドを使用して、文書をチェックアウトしなければなりません。
- ユーザーには、少なくとも、その文書に対する変更(*CHANGE)権限、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているか、あるいはその文書に対して認可されているユーザーの代行処理を行う場合でなければなりません。
- 他のユーザーの代行処理の権限はユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによって認可されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TODOC	文書	文字値, *DOCID	必須, 定位置 1
TOFLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション
DOCFILE	文書ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 文書ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DOCMBR	文書メンバー	名前, *FIRST	オプション
DOCPART	文書パート	*DOC, *IDP, *BOTH	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
DOCTYPE	文書タイプ	2-65535, *DFT, *FFT, *RFT	オプション
DOCCHRID	文書文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

文書 (TODOC)

データを入れる文書の名前を指定するか、あるいはデータを入れるライブラリー割り当て文書名を指定するために文書識別コード (DOCID)パラメーターが使用されることを指定します。

名前 置き換える文書のユーザー割り当て名を指定してください。

*DOCID

置き換える文書は、DOCIDパラメーターで指定するライブラリー割り当て文書名によって識別されます。

フォルダー中 (TOFLR)

置き換える文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

文書が文書識別コード (DOCID)パラメーターで識別される時には、フォルダーは指定されません。

名前 置き換える文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。置き換える文書が入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

文書ファイル (DOCFILE)

データベース・ファイルの名前および文書データが入っているライブラリーの名前を指定します。データベース・ファイルは、ユーザー定義ファイルであるか、あるいは配布受信(RCVDST)コマンドまたは文書検索(RTVDOC)コマンドのいずれかに指定されている出力ファイルです。出力ファイルが指定されている場合には、文書データ・レコードのデータ部分だけが出力ファイルから読み取られます。文書データ・レコードから接頭部が除去されます。

名前 文書データが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブのライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

文書メンバー (DOCMBR)

使用する文書データベース・ファイル・メンバーを指定します。

*FIRST

データベース・ファイルに作成された最初のメンバーが使用されます。

名前 使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

文書パート (DOCPART)

置き換える文書の部分を指定します。

注: *BOTHを指定して、一方の置き換えが正常に実行されなかった場合には、両方とも置き換えられず、文書はチェックアウトされたままになります。

***DOC** 文書内容のみを置き換えてください。指定されたファイルに文書内容レコードが存在しない場合には、文書は置き換えられますが、文書内容が置き換えられなかったことをユーザーに警告するメッセージが戻されます。

***IDP** 文書の交換文書プロファイル(IDP)のみを置き換えてください。この値が指定された場合には、指定されたファイルにIDPレコード (レコード・コード500)が存在していなければなりません。そうでないと、コマンドが正常に実行されません。

***BOTH**

文書の文書内容とIDPの両方を置き換えてください。この値が指定された場合には、指定されたファイルにIDPレコード (レコード・コード500)が存在していなければなりません。そうでないと、コマンドが正常に実行されません。

上

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連付けるかどうかを指定します。

単一値

*CURRENT

自分自身で要求を実行します。

要素1: ユーザー識別コード

文字 別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーの代行処理が許可されているか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっていなければなりません。

要素2: アドレス

文字 別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

上

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSNSNSNSN

ここで

YYYY =年
MM =月
DD =日
HH =時
MN =分
SS =秒
HS = 100分の1秒
SNSNSNSN =システム名

*NONE

文書が文書 (DOC)パラメーターで識別される時には、ライブラリー割り当て文書名は必要ありません。

名前 送信する文書のライブラリー割り当て名を指定してください。

上

文書タイプ (DOCTYPE)

使用する文書のタイプを指定します。このIDは、データ・ストリームを正しく処理できるかどうかを調べるためにシステムによって使用されます。

***DFT** システムが、データのソース仕様に基づいて適切な文書タイプIDを作成します。

***FFT** 文書は最終形式テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討され、印刷することを目的としたものですが、編集は行われません。

***RFT** 文書は変更可能テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討、印刷、および編集することができます。

2から65,535

文書タイプID値を指定します。2から32,767の番号は、IBM文書交換アーキテクチャーでこれらを登録することによって制御され、IBM定義の文書タイプで使用されます。32,768から65,535の範囲の番号は、IBMとしては登録されず、IBM定義以外の文書タイプで使用することができます。

上

文書文字識別コード (DOCCHRID)

使用中の文書データの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字IDは、文書データの作成で使用した表示装置と関連しています。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVVD

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

ユーザー識別コード (USRID)パラメーターに指定された値は、文字セットおよびコード・ページ'930 500'に変換されます。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVVD

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

使用するコード・ページを指定してください。

上

例

```
RPLDOC  TODOC(*DOCID)  DOCFILE(*LIBL/MYFILE)  DOCPART(*BOTH)
        DOCID('1987060710102053SYSTEM1')  DOCTYPE(*FFT)
```

このコマンドは、ファイルMYFILE中の文書データおよびIDPを置き換えます。データは、文書ID '1987060710102053SYSTEM1'で識別された文書に入れられます。文書タイプは最終形式テキストに変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF906A

ライブラリー中で文書が置き換えられなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

発注援助の要求 (RQSORDAST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

発注援助の要求(RQSORDAST)コマンドは、発注援助の要求を弊社に送ります。次のものを含むサービスおよびプロダクトの発注に関する援助を要求することができます。

- ソフトウェア更新
- ハードウェア更新
- System i情報
- サービス提供
- 一般ヘルプ（例えば、ネットワーク計画）

RQSORDASTコマンドが正常に処理されると、発注情報が入っているファイルが作成され、発注援助要求とともに送信されます。このファイルには次のものが入っています。

- ハードウェア構成情報（重要なプロダクト・データ(VPD)およびトポロジー・データ)
- ソフトウェア構成情報（導入されたIBMプログラム・プロダクト)

発注情報ファイルはすべての要求によって送信されます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限をもっているか、あるいはQSYSOPRまたはQSRVとしてサインオンしていなければなりません。

このコマンドにはパラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

RQSORDAST

このコマンドは、「順序アシスタンス要求」入力パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ジョブ経路再指定 (RRTJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ経路再指定 (RRTJOB)コマンドは、現行サブシステム中のジョブの新しいルーティング・ステップを開始します。再経路指定によって、ジョブのルーティング・データ中での変更が可能となり、またこれによって、新しいルーティング・ステップで使用される別のプログラムが呼び出されます。ジョブは、別のクラスのもとで実行するか、別の記憶域プール内で実行するために、再経路指定を使用することができません。このコマンドを使用すると、前のルーティング・ステップに割り振られているオブジェクトはすべて割り振り解除され、オープンされているファイルはすべてクローズされます。新しいルーティング・ステップで、オブジェクトまたはファイルが必要な場合には、あらためて割り振りまたはオープンしなければなりません。

注:

- このコマンドをバッチ・ジョブで実行すると、スプール・インライン・ファイルが失われます。スプール・インライン・ファイルは、新しいルーティング・ステップではアクセスできません。
- システムの終了中に(サブシステム終了 (ENDSBS)コマンド、システム終了 (ENDSYS)コマンド、またはシステム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドの実行によって) RRTJOBコマンドが実行されると、新しいルーティング・ステップは開始されず、ジョブは終了されます。
- CLプログラム内でRRTJOBコマンドが出されると、CLプログラム内の後続のすべてのコマンドがう回されます。

制約事項:

- ジョブは、グループ・ジョブ、事前開始ジョブ、バッチ即時ジョブ、または制限状態のバッチ・ジョブであってはなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RTGDTA	経路指定データ	文字値, <u>QCMDI</u> , *RQSDTA	オプション、定位置 1
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, * <u>NONE</u> , *RTGDTA	オプション、定位置 2

上

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの次のルーティング・ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。この経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決めるために使用されます。

QCMDI

このルーティング・データはIBM提供のサブシステム記述QINTERの中のルーティング項目に相当するものであり、QSYSライブラリー中のIBM提供の制御言語処理プログラムQCMDによって処理されるルーティング・ステップを示すものです。

***RQSDTA**

このコマンドの**要求データまたはコマンド (RQSDTA)**パラメーターに指定された要求データの最初の80文字は、次のルーティング・ステップのルーティング・データとしても使用されます。

文字値 次のルーティング・ステップを開始するためのルーティング・データとして使用する文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

上

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブのメッセージ待ち行列に最後の項目として入れられる要求データを指定します。この要求データは実行するCLコマンドまたは別のプログラムによって使用される文字ストリングとすることができます。

***NONE**

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

***RTGDTA**

経路指定データ (RTGDTA)パラメーターに指定されたルーティング・データは、ジョブのメッセージ待ち行列の終わりにも入ります。

文字値 新しいルーティング・ステップ、またはジョブの中の一部の後続のルーティング・ステップによって使用されるために、ジョブのメッセージ待ち行列の終わりに入れる文字ストリングを指定してください。最大256文字まで入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。

上

例

```
RRTJOB RTGDTA(INQUIRY)
```

このコマンドは、ルーティング・データINQUIRYを含む新しいルーティング・ステップを開始することによって、このコマンドが出されるジョブを転送します。このジョブは同じサブシステム内にとどまります。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1315

この環境では、コマンド&1を使用することはできない。

上

停止点再開始 (RSMBKP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

停止点再開(RSMBKP)コマンドは、プログラムが停止点で停止した後で、そのプログラムに処理を続行させます。続行するプログラムは、最後に停止点で停止したプログラムです。ジョブの中で、1つの停止点で複数のプログラムが停止している場合には、要求終了(ENDRQS)コマンドを使用することによって、停止点で停止している前のプログラム呼び出しに関するコマンド入力画面に戻ることができます。

別のジョブをサービス中であり、それが終了していない場合には、このコマンドは停止点からそのジョブを再開します。また、このコマンドは、停止点画面が表示される直前のポイントにサービス・ジョブを戻します。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードにおいてプログラムがユーザー定義の停止点で停止している場合だけです。
- 監視対象外のメッセージが原因で生じた停止点では、このコマンドは無効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

RSMBKP

制御を持っているプログラムが停止点で停止されるとして、このコマンドによって、プログラムは停止点位置から処理を続行します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

上

制御装置回復手順再開 (RSMCTLRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置回復手順再開(RSMCTLRCY)コマンドは、特定の制御装置に対するエラー回復手順を再開します。エラー回復手順は、制御装置回復終了(ENDCTLRCY)コマンドを使用するか、あるいは障害に関連した照会メッセージに取り消しオプションで応答することによって終了することができます。

制御装置回復手順再開(RSMCTLRCY)コマンドで、自動エラー回復手順を停止した後に再開したり、あるいは制御装置を取り消した後に（その制御装置を使用するジョブと一緒に）再活動化することができます。

（制御装置の障害と関連した照会メッセージにCを応答した場合。）制御装置をC応答で取り消した場合には、すべてのジョブが終了します。制御装置が修理され、RSMCTLRCYコマンドを入力すると、ジョブはその制御装置を使用して再び開始することができるようになります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、制御装置に対するオブジェクト操作権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTL	制御装置	名前	必須, 定位置 1

上

制御装置 (CTL)

エラー回復手順を再開する制御装置を指定します。有効なタイプの制御装置は次の通りです。

CTL 値

制御装置

5251 表示装置

*PU2 物理装置 (タイプ2)。基本BSCおよびRJE用のSDLC。

*BSC BSC装置 (基本BSCおよびRJE)

*BSCT

BSC装置 (マルチポイント従属端末および3270装置エミュレーション)

*APPC

拡張プログラム間通信機能

*WSC ローカル・ワークステーション

*WSCE

ローカル・ワークステーション (拡張)

これは必須パラメーターです。

上

例

RSMCTRLCY CTL(TROLL3)

このコマンドは、制御装置TROLL3に対してのエラー・リカバリー手順を再開します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2703

制御装置記述&1が見つかりません。

CPF5924

制御装置&1では自動エラー回復手順を使用することはできない。

CPF5928

制御装置&1がオンに変更されていません。

CPF5929

制御装置&1は別のジョブに割り当てられている。

CPF5930

制御装置&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5931

制御装置&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF5936

制御装置&1が認可されていない。

上

入出力装置回復再開 (RSMDEVRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

入出力装置回復手順再開(RSMDEVRCY)コマンドは、特定の装置に対するエラー回復手順を再開します。エラー回復手順は、装置回復終了(ENDDEVRCY)コマンドの使用、あるいは障害に関連した照会メッセージに取り消しオプションで応答することによって終了します。

RSMDEVRCYコマンドによって、自動エラー回復手順を停止した後これらを再開し、装置を取り消した（装置障害と関連した照会メッセージに応答をCと入力した場合）後に再活動化することができます。装置をC応答で取り消した場合には、すべてのジョブが終了します。装置が修理され、RSMDEVRCYコマンドを入力すると、ジョブはその装置を使用して再び開始することができるようになります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、装置に対するオブジェクト操作権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1

上

装置 (DEV)

エラー回復手順を再開する装置を指定します。有効な装置タイプは次の通りです。

DEVタイプ

装置

5219 印刷装置 (ワークステーション)

5224 印刷装置 (ワークステーション)

5225 印刷装置 (ワークステーション)

5251 表示装置

5252 複式表示装置

5256 印刷装置 (ワークステーション)

5291 表示装置

5292 表示装置

*PLU1 物理装置 (タイプ1)

*BSC BSC装置

***BSCT**

BSCマルチポイント従属端末

***APPC**

拡張プログラム間通信機能

これは必須パラメーターです。

上

例

RSMDEVRCY DEV(WSPR03)

このコマンドは、再開する装置WSPR03に対してのエラー・リカバリー手順を再開します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF5923

装置&1では自動エラー回復手順を使用することはできない。

CPF5925

装置&1がオンに変更されていません。

CPF5926

装置&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5927

装置&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

上

回線回復再開 (RSMLINRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線回復手順再開(RSMLINRCY)コマンドは、特定の回線に対するエラー回復手順を再開します。エラー回復手順は、回線回復終了(ENDLINRCY)コマンドの使用、あるいは障害に関連した照会メッセージに取り消しオプションで応答することによって終了します。

回線回復手順再開(RSMLINRCY)コマンドで、自動エラー回復手順を停止した後に再開したり、あるいは回線を取り消した後に（その回線を使用するジョブと一緒に）再活動化したりすることができます。回線をC応答で取り消した場合には、すべてのジョブが終了します。回線が修理され、RSMLINRCYコマンドを入力すると、ジョブはその回線を使用して再び開始することができるようになります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、回線に対するオブジェクト操作権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LINE	回線	名前	必須, 定位置 1

上

回線 (LINE)

回復手順を再開する通信回線の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

例

RSMLINRCY LINE(NYC2)

このコマンドは、再開する回線NYC2に対してのエラー・リカバリー手順を再開します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2704

回線記述&1が見つからない。

CPF5917

回線記述&1の使用は認可されていない。

CPF5932

回線&1をアクセスすることができない。

CPF5933

回線&1がオンに構成変更されていない。

CPF5934

回線&1の回復手順は再開されなかった。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

NWI回復処置の再開 (RSMNWIRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース回復再開(RSMNWIRCY)コマンドは、ネットワーク・インターフェース記述のエラー回復手順を再開します。エラー回復手順は、ネットワーク・インターフェース回復終了(ENDNWIRCY)コマンドを使用して終了するか、あるいは取り消しオプションで障害関連照会メッセージに応答することによって終了します。ネットワーク・インターフェース回復再開(RSMNWIRCY)コマンドによって、停止した後の自動エラー回復手順を再開したり、また、取り消された後のネットワーク・インターフェース記述（およびその記述を使用するジョブ）を再活動化することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
NWI	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1

上

ネットワーク・インターフェース記述 (NWI)

自動エラー回復を再始動するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

例

RSMNWIRCY NWID(ISDNNET)

このコマンドは、ISDNNETという名前のネットワーク・インターフェース記述に対してのエラー・エラー・リカバリー手順を再開します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF591A

ネットワーク・インターフェース記述&1は認可されていない。

CPF593A

ネットワーク・インターフェース&1はオンに構成変更されていない。

CPF593B

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF593C

ネットワーク・インターフェース&1をアクセスすることができない。

CPF593D

ネットワーク・インターフェース&1に対する回復は再開されなかった。

上

オブジェクトの復元 (RST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

復元(RST)コマンドは、統合ファイル・システムで使用することができる1つまたは複数のオブジェクトのコピーを復元します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- ルート・ディレクトリーで名前パターンを使用することでオブジェクトを復元するため、オブジェクトをライブラリーに復元するため、あるいは文書ライブラリー・オブジェクトを復元するために、このコマンドを使用する際の制約事項の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 1
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
	要素 3: 新しいオブジェクト名	パス名, *SAME	
PATTERN	名前パターン	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *DIR, *NONE, *OBJ, *STG	オプション
OUTPUT	出力	パス名, *NONE, *PRINT	オプション
CRTPRNDIR	親ディレクトリーの作成	*NO, *YES	オプション
PRNDIROWN	親ディレクトリーの所有者	単純名, *PARENT	オプション
RBDMFS	マウント・ファイル・システムの再ビルド	*NONE, *UDFS	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *SEARCH	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
INFTYPE	出力情報のタイプ	*ALL, *ERR, *SUMMARY	オプション
SYSTEM	システム	*ALL, *LCL, *RMT	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SAVDATE	保管日	日付	オプション
SAVTIME	保管時刻	時刻	オプション
OPTION	オプション	*ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: *SYSVAL, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	*YES	
	要素 2: 変換するオブジェクト	*RQD, *ALL	
OBJID	オブジェクトID	*SAVED, *SYS	オプション
PVTAUT	私用専用権限	*NO, *YES	オプション

上

装置 (DEV)

復元されるオブジェクトが入っている装置を指定します。

装置パス名の指定の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションの「装置名の指定」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

’保管ファイルのパス名’

オブジェクトの復元に使用される保管ファイルのパス名を指定してください。

’光ディスク装置のパス名’

オブジェクトの復元に使用される光ディスク装置のパス名を指定してください。

’テープ媒体ライブラリー装置のパス名’

オブジェクトの復元に使用されるテープ媒体ライブラリーのパス名を指定してください。

’テープ装置のパス名’

オブジェクトの復元に使用されるテープ装置のパス名を指定してください。最大4 つのテープ装置を指定することができます。仮想テープ装置を使用する場合には、指定された装置のみでなければなりません。

’媒体定義パス名’

データを復元するために使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトのパス名を指定します。

媒体定義の作成の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれるAPIトピック・コレクションの媒体定義作成APIを参照してください。

媒体定義の使用の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)、およびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションのサーバー・バックアップ・トピックを参照してください。

上

オブジェクト (OBJ)

復元するオブジェクトのパス名を指定します。このパス名のパターンを指定することができます。最大300個のパス名を指定することができます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

オブジェクト名パターンの詳細説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素1: 名前

媒体上に保管されたオブジェクトを指定します。ディレクトリーの略語（例えば、現行ディレクトリー）は、それが保管操作時に持っていた値ではなく、現在の値によって拡張されます。

****** 現行ディレクトリーのオブジェクトが復元されます。

パス名 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクトのパス名またはパターンを指定してください。このパラメーターの3番目の要素に*SAMEが指定された場合には、パス名の中の最後の構成要素を除く各構成要素が存在していなければなりません。最後の構成要素のオブジェクト名が存在していないと、新しいものとして復元されます。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって一時変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトが復元されます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトは復元されません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

要素3: 新しいオブジェクト名

オブジェクトの新しいパス名を指定します。

***SAME**

オブジェクトは、保管された時の名前と同じ名前で復元されます。

パス名 オブジェクトを復元する先のパス名を指定してください。最初の要素にパターンが指定された場合には、新しいパス名は、パターンと一致したすべてのオブジェクトを復元する先のディレクトリでなければなりません。オブジェクト名を要素1に指定すると、新しいパス名の中の最後の構成要素は例外であるが、各構成要素は存在していなければなりません。オブジェクトが、存在していない最後の構成要素の中に記述されると、それは新しいものとして復元されます。

上

名前パターン (PATTERN)

オブジェクトを組み込みまたは除外するために使用するパターンを指定します。最大300のパターンを指定することができます。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素1: パターン

****** 操作について限定する全オブジェクトが組み込まれるか除外されます。

文字値 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクト名またはパターンを指定します。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって一時変更されない限り、OBJパラメーターによって組み込まれ、PATTERNパラメーターと一致するオブジェクトのみが、復元に組み込まれます。

***OMIT**

PATTERNパラメーターと一致するオブジェクトを除き、OBJパラメーターによって組み込まれたすべてのオブジェクトが復元に組み込まれます。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを復元操作に含めるかどうかを指定します。

***ALL** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーのサブツリー全体が処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

***DIR** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーの第1レベルにあるオブジェクトが処理されます。一致した各ディレクトリーのサブディレクトリーは含まれますが、そのサブディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***NONE**

サブツリーは復元操作に含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致した場合には、そのディレクトリーのオブジェクトが含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがあった場合には、サブディレクトリーもそのサブディレクトリー内のオブジェクトも含まれません。

***OBJ** オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名パターンがディレクトリーを指定している場合には、ディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***STG** オブジェクト名パターンに一致するオブジェクトが関連オブジェクトの記憶域とともに処理されます。この値を使用してオブジェクトを復元できるのは、そのオブジェクトがSUBTREE(*STG)によって保管された場合だけです。

上

出力 (OUTPUT)

復元されたオブジェクトについての情報のリストを作成するかどうかを指定します。情報は、スプール・ファイル、ストリーム・ファイル、またはユーザー・スペースを対象とすることができます。

ストリーム・ファイルまたはユーザー・スペースは、パス名として指定されます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

復元についての出力情報が印刷されます。

'ストリーム・ファイルのパス名'

コマンドの出力が向けられる既存のストリーム・ファイルのパス名を指定してください。

'ユーザー・スペースのパス名'

コマンドの出力が向けられる既存のユーザー・スペースのパス名を指定してください。

上

親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)

復元されるオブジェクトの親ディレクトリーが存在しない場合に、これを作成するかどうかを指定します。例えば、オブジェクト'/A/B/C/FILE1'を復元しようとする場合には、ディレクトリー'/A', '/A/B',および'/A/B/C'が存在しなければなりません。このパラメーターは、「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用され、他のすべてのファイル・システムは無視されます。

***NO** 親ディレクトリーがまだ存在しない場合には、それは作成されません。診断メッセージCPD375Bが送信され、オブジェクトは復元されません。

***YES** 親ディレクトリーが存在しない場合には、復元でこれが作成されます。復元によって作成されたディレクトリーには*EXCLUDE共通権限があり、親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルによって所有されます。その他の親ディレクトリー属性は、ディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンド・パラメーターの出荷時の省力時の値を使用して設定されます。

上

親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)

復元によって作成される親ディレクトリーを所有することになる既存のユーザー・プロファイルの名前を指定します。このパラメーターは、「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用され、他のすべてのファイル・システムは無視されます。

注: このパラメーターに値が指定されている場合には、親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)パラメーターに*YESを指定しなければなりません。

***PARENT**

復元によって作成される親ディレクトリーの所有者は、これが作成されるディレクトリーの所有者と同じとなります。例えば、オブジェクト'/A/B/C/FILE1'が復元され、ディレクトリー'/A'が存在するのに、'/B'および'/B/C'ディレクトリーが存在しない場合には、'/B'および'/B/C'ディレクトリーが'/A'ディレクトリーと同じ所有者で作成されます。

名前 復元によって作成される親ディレクトリーの所有者となるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

マウント・ファイル・システムの再ビルド (RBDMFS)

復元時に再構築するマウント・ファイル・システムを指定します。

注: このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、システム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

***NONE**

復元時にマウント・ファイル・システムは再構築されません。マウント・ファイル・システムから保管されたオブジェクトは、復元先ディレクトリーがあるファイル・システムに復元されます。

*UDFS

復元時にユーザー定義のマウント・ファイル・システムは再構築されます。ユーザー定義ファイル・システムが存在しない場合には作成され、保管時にマウントされたのと同じディレクトリーにマウントされます。

復元時にユーザー定義ファイル・システムが作成される場合には、「大文字小文字の区別」や「省略時のファイル形式」などのユーザー定義ファイル・システムの特定の属性などの保管されたユーザー定義ファイル・システムに基づいて属性が設定されます。ユーザー定義ファイル・システムが復元前に存在している場合には、属性は変更されません。

ユーザー定義ファイル・システムの作成時またはマウント時にエラーが発生した場合には、ユーザー定義のマウント・ファイル・システムから保管されたオブジェクトは復元されません。

注: 復元前に存在していなかった場合には、マウントされるディレクトリーが作成され、復元先のディレクトリーから属性および権限がコピーされます。このため、マウントを行うために権限が十分ではない場合には、ユーザー定義ファイル・システムがアンマウントされてから再マウントされたときに問題が生じる可能性があります。

上

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

注: SAVDATEおよびSAVTIMEパラメーターの値によって特定のバージョンが識別されていない限り、復元されるボリュームのバージョンは、指定されたロケーションで最初に見つかったバージョンです。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、装置 (DEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETT APCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

ラベル (LABEL)

復元操作に使用される媒体のファイルIDを指定します。

*SEARCH

検索するファイル・ラベルがシステムによって判別されます。

文字値 復元操作に使用するテープ・ファイルのID (最高17桁) を指定します。

順序番号 (SEQNBR)

使用するテープ・ファイル順序番号を指定します。

***SEARCH**

次のファイルについて、指定されたオブジェクトが入っているテープ・ボリュームが検索されます。

1から16777215

ファイルの順序番号を指定してください。

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

’光ディスクのパス名/*’

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

’光ディスク・ファイル・パス名’

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

出力情報のタイプ (INFTYPE)

スプール・ファイル、ストリーム・ファイル、またはユーザー・スペースを対象とする情報のタイプを指定します。

***ALL** ファイルには、コマンド、各ディレクトリーの項目、正常に復元された各オブジェクトの項目、および正常に復元されなかった各オブジェクトの項目についての情報が入ります。

***ERR** ファイルには、コマンド、各ディレクトリーの項目、および正常に復元されなかった各オブジェクトの項目についての情報が入ります。

***SUMMARY**

ファイルには、コマンドおよび各ディレクトリーの項目についての情報が入ります。

上

システム (SYSTEM)

ローカル・システムまたはリモート・システムに存在しているオブジェクトを処理するかどうかを指定します。

***LCL** ローカル・オブジェクトだけが処理されます。

***RMT** リモート・オブジェクトだけが処理されます。

***ALL** ローカルおよびリモートの両方のオブジェクトが処理されます。

上

保管日 (SAVDATE)

オブジェクトが保管された日付を指定します。復元されているバージョンが保管された最新のバージョンでない場合、あるいは媒体上に複数の保管されたバージョンがある場合には、復元するオブジェクトのバージョンを識別する日付を指定してください。

この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。システム値QDATSEPによって指定された区切り記号が使用される場合には、値をアポストロフで囲まなければなりません。

注: このパラメーターが有効なのは、ボリュームIDまたは値*MOUNTEDがVOLパラメーターに指定されているか、あるいは*SAVFがDEVパラメーターに指定されている場合だけです。このパラメーターが有効であって指定されない場合には、復元されるオブジェクトのバージョンは最初に見つかったバージョンです。

日付 復元するオブジェクトが保管された日付を指定します。

保管時刻 (SAVTIME)

オブジェクトが保管された時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド入力行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

ボリュームIDまたは値*MOUNTEDがVOLパラメーターに指定され、SAVTIMEパラメーターが指定されていない場合には、復元されるオブジェクトのバージョンはボリューム上で最初に見つかったバージョンです。

注:

- このパラメーターが有効なのは、SAVDATEパラメーターが指定された場合だけです。
- SEQNBRパラメーターが指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

時刻 復元するオブジェクトが保管された時刻を指定します。

オプション (OPTION)

システム上にすでに存在しているオブジェクトまたはシステム上にすでに存在していないオブジェクトを復元するかどうかを指定します。

***ALL** システム上にすでに存在しているかどうかに関係なく、指定されたすべてのオブジェクトが復元されます。

***NEW** システム上にすでに存在していない場合にのみ、オブジェクトが復元されます。

***OLD** システム上にすでに存在している場合にのみ、オブジェクトが復元されます。

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

- このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
- 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大3個指定可能）

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は ***EXCLUDE** に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が ***EXCLUDE** に設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

- *PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

上

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時に、現行バージョンのオペレーティング・システムでの使用に必要な形式に変換するのか、または現行マシンと互換になるように変換するのかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および *SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないければなりません。
3. 変換が必要なオブジェクトである（古いバージョンのオペレーティング・システム用に形式設定されているか、または現行マシンと非互換であるため）が、この復元操作中に変換されない場合、そのオブジェクトは最初に使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトの変換は、現行オペレーティング・システムで使用されるため、または現行マシンと互換にするために変換が必要な場合のみ行われます。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** 既に現行形式になっている互換のオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式およ

びマシン互換性に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

上

オブジェクトID (OBJID)

このパラメーターは使用不可となっており、もはや有効ではありません。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

復元されたオブジェクトで、専用権限を復元するかどうかを指定します。

***NO** どの専用権限も復元されていません。

***YES** 専用権限はオブジェクトで復元されました。専用権限をオブジェクトとともに保管するよう指定した保管操作からのみ、オブジェクトは復元されます。

注: この値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

上

例

例1: ライブラリー内にはない、または文書ライブラリー・オブジェクトでないすべてのデータの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('//*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT)
```

このコマンドは、ライブラリー内にはない、文書ライブラリー・オブジェクトでないすべてのオブジェクトを復元します。

例2: ライブラリーの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('/QSYS.LIB/A.LIB')
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ装置からライブラリーAを復元します。

例3: MYLIB内のすべてのファイルの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/*.FILE')
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ装置からライブラリーMYLIB内のすべてのファイルを復元します。

例4: 現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトの復元

```
RST  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
```

このコマンドは、OBJパラメーターの省略時の値を使用して、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトおよびそのサブディレクトリーを復元します。


```
RST DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('*') SUBTREE(*NONE)
```

このコマンドは、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを復元しますが、サブディレクトリー内のオブジェクトは復元しません。

```
RST DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('.') SUBTREE(*DIR)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーおよびその現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを復元します。現行ディレクトリーのサブディレクトリー内のオブジェクトは復元しません。

例5:オブジェクトの除外

```
RST DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')  
OBJ(('*') ('**.BACKUP' *OMIT) ('**TEMP' *OMIT))
```

このコマンドは、.BACKUPおよび.TEMPの拡張子をもつオブジェクトを除き（これらの拡張子をもつディレクトリーのサブツリー全体は除外されます）、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを復元します。

例6:オブジェクトの名前変更または移動

```
RST DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')  
OBJ(('MYDIR/X.PGM' *INCLUDE 'YOURDIR/Y.PGM'))
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRからのプログラムXをディレクトリーYOURDIR内のプログラムYとして復元します。

```
RST DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')  
OBJ(('MYDIR/*.PGM' *INCLUDE 'YOURDIR')) SUBTREE(*OBJ)
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIR内のすべてのプログラムをディレクトリーYOURDIRに復元します。

例7:保管ファイルからの復元

```
RST DEV('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYSAVF.FILE') OBJ(MYDIR)
```

このコマンドは、MYLIBという名前のライブラリー内のMYSAVFという名前の保管ファイルからディレクトリーMYDIRを復元します。

例8:シンボリック・リンクの使用

現行ディレクトリーには次のシンボリック・リンクが含まれているものとします。

- DEVLINK = /QSYS.LIB/TAP01.DEVD
- DIRLINK = /SOMEDIRECTORY
- FILELINK = /SOMEDIRECTORY/SOMEFILE

シンボリック・リンクは、装置および出力ファイルを指定するために使用することができます。シンボリック・リンクが復元される場合には、関連したオブジェクトの名前だけが復元され、その関連したオブジェクトの内容は復元されません。ディレクトリーに対するシンボリック・リンクは、ディレクトリー内のオブジェクトを復元するために使用することができます。シンボリック・リンクに関する追加情報は、INFORMATION CENTER の「ファイル・システムおよび管理」カテゴリーの「統合ファイル・システム」トピックにあります。DIRLINKおよびFILELINKと関連した名前を装置TAP01から復元するには、以下のようになります:

```
RST DEV('DEVLINK') OBJ(('DIRLINK') ('FILELINK'))
```

SOMEDIRECTORY内のオブジェクトを装置TAP01から復元するには、以下のようにします:

```
RST DEV('DEVLINK') OBJ(('DIRLINK/*'))
```

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA0DB

オブジェクトがQSYS.LIBオブジェクトではありません。オブジェクトは&1です。

CPFA0DC

オブジェクトがQDLSオブジェクトではありません。オブジェクトは&1です。

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF380D

システム全体の保管または復元が異常終了した。

CPF3805

&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。

CPF381E

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF382A

指定されたパラメーターがQDLSファイル・システムには正しくない。

CPF382B

複数ファイル・システムでパラメーターが正しくない。

CPF382C

QSYSファイル・システムについてのOBJパラメーター値が正しくない。

CPF382D

指定されたパラメーターがQSYSファイル・システムには正しくない。

CPF382F

QDLSファイル・システムに対してOBJパラメーター値が正しくない。

CPF3823

オブジェクトが保管または復元されなかった。

CPF3826

OBJパラメーターに*INCLUDEオブジェクトが必要である。

CPF3828

&1を使用しようとした時にエラーが起こった。

CPF383A

保管または復元が正常に終了しなかった。

CPF383B

ファイル&1の終わり。

CPF383C

ユーザー・プロファイル&1の記憶域が限界を超えた。

CPF383D

&1を使用することができない。

CPF383E

&1個のオブジェクトが復元された。&2個のオブジェクトは復元されなかった。

CPF3833

DEVパラメーターに指定された値が正しくない。

CPF3834

DEVパラメーターに指定された値が多すぎる。

CPF3835

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3839

&1個のオブジェクトが復元された。&2個が復元されませんでした。

CPF384A

ボリューム識別コード&1は正しくない。

CPF384B

指定された光ディスク・ファイルが正しくない。

CPF384C

CCSIDの変換中にエラーが起こった。

CPF384F

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3840

復元操作に指定されたファイルが見つからなかった。

CPF38A5

PATTERNパラメーターでエラー。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

OPT1498

装置&1でボリューム名リストが使い切られた。

OPT1502

マルチボリューム・セットの終わりを乗り越して処理しようとしてしました。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

上

権限復元 (RSTAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限復元(RSTAUT)コマンドにより、専用権限がユーザー・プロファイルに復元されます。このコマンドは、すべてのプロファイルがシステム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管された時に、各ユーザー・プロファイルの中で指定されたオブジェクトに、同じオブジェクト権限を復元します。保管後に与えられた既存の権限は残すことができます。プロファイルがユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドによって最初にシステムに復元され、(権限が与えられている)すべてのオブジェクトが保管されたライブラリーと同じライブラリーに復元されるまでは、権限をユーザー・プロファイルに復元することはできません。オブジェクトは、ライブラリー復元(RSTLIB)またはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドによって復元することができます。文書およびフォルダーは、文書ライブラリー・オブジェクト復元(RSTDLO)コマンドを使用して復元することができます。装置構成オブジェクトは、構成復元(RSTCFG)コマンドを使用して復元することができます。統合ファイル・システム・オブジェクトは、オブジェクト復元(RST)コマンドによって復元することができます。

システム全部を復元する場合には、次の順序に従わなければなりません。RSTAUT コマンドは順序の最終ステップで使用しなければなりません。

1. オペレーティング・システムを復元します。これはプログラムをロードする代替方式です。これで QSYSライブラリーが復元され、IBM提供のユーザー・プロファイルは必ずそこに存在するようになります。
2. RSTUSRPRFコマンドを使用して、保管済みのユーザー・プロファイルをすべてシステムに復元します (*ALLはUSRPRFパラメーターの省略時の値です)。
3. RSTCFGコマンドを使用して、構成およびシステム資源管理(SRM)オブジェクトをすべてシステムに復元します。
4. RSTLIBコマンドを使用して、すべてのユーザー・ライブラリーを復元します。
5. RSTDLOコマンドを使用して、すべての文書ライブラリー・オブジェクトをシステムに復元します。
6. RSTコマンドを使用して、すべてのオブジェクトをディレクトリーに復元します。
7. RSTAUTコマンドを使用して、ユーザー・プロファイルに対するオブジェクト権限を復元します。

注: ステップ2から7までは複数回実行することができます。例えば、ユーザー・プロファイルを復元した(ステップ2)後に、重要なアプリケーション・ライブラリーだけを復元して(ステップ3)から、オブジェクト権限を復元する(ステップ7)ことができます。これで、重要なライブラリーしか使用しないという制限付きの操作可能システムが提供されます。後から、残りのユーザー・プロファイルを復元してから、ライブラリーおよびオブジェクト権限を復元する操作を行うことができます。

すべてにサブシステムが終了している間に、RSTAUTコマンドを使用してユーザー・プロファイルの権限を復元する場合には、ユーザー・プロファイルについての他の権限を復元する前に、再びユーザー・プロファイルを復元しなければなりません。

ユーザー・プロファイルを1つ復元する場合には、次の順序に従わなければなりません。RSTAUTコマンドは最終ステップで使用しなければなりません。

1. RSTUSRPRFコマンドを使用して指定したユーザー・プロファイルをシステムに復元します。

2. RSTCFGコマンドを使用して、入出力装置構成およびSRMオブジェクトをすべてシステムに復元します。
3. RSTOBJコマンドを使用して指定したユーザー・ライブラリーをシステムに復元します。システム上の現行プロファイルが損傷したためにユーザー・プロファイルを復元する場合は、必要なライブラリーはすでにシステム上に存在していて、そのライブラリーの復元は不要です。
4. RSTDLOコマンドを使用して、すべての文書ライブラリー・オブジェクトをシステムに復元します。
5. RSTコマンドを使用して、すべてのオブジェクトをディレクトリーに復元します。
6. RSTAUTコマンドを使用して、ユーザー・プロファイルに対するオブジェクト権限を復元します。指定されたプロファイルはRSTUSRPRFコマンドを使用して復元済みの場合があります。

制約事項:

- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
- システム上で実行できるRSTAUTコマンドは一度に1つだけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション, 定位置 1
SAVASPDEV	保管元ASP装置	名前, *ALLAVL , *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, *SAVASPDEV , *SYSBAS	オプション

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

専用権限を復元したい1つまたは複数のユーザー・プロファイルの名前を指定します。指定されたユーザー・プロファイルは、ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF) コマンドを用いて最初に復元しなければなりません。

単一値

***ALL** 復元はされるが、その専用権限は復元されないユーザー・プロファイルのすべてを指定します。これには、複数の前のユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドを使用して、復元されたユーザー・プロファイルが含まれます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 ユーザー・プロファイルのセットの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前と一緒に*が指定されていない場合には、システムはその名前がユーザー・プロファイル名全体であるとみなします。

名前 1つまたは複数の特定のユーザー・プロファイルの名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。最大300のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

上

保管元ASP装置 (SAVASPDEV)

保管された専用権限が入っていた補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

*ALLAVL

システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),および使用可能なすべての独立ASPから保管された専用権限が復元されます。

* システムASP,すべての基本ユーザーASP,さらに現行スレッドにASPグループがある場合には,そのASPグループ中のすべての独立ASPから保管された専用権限が復元されます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPから保管された専用権限が復元されます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には,そのASPグループ中のすべての独立ASPから保管された専用権限が復元されます。

名前 保管された専用権限が入っていたASP装置の名前を指定します。

上

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

専用権限を復元する補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

*SAVASPDEV

専用権限は,保管された時と同じASPに復元されます。

*SYSBAS

専用権限は,システムASP (ASP番号1)または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されます。

名前 専用権限が復元される独立ASP装置の名前を指定してください。

上

例

例1:すべての権限の復元

RSTAUT

このコマンドは,システムが保管された時点でプロファイルに含まれていた各オブジェクトを使用する権限をそれぞれのユーザー・プロファイルに復元します。RSTAUTコマンドが送られる前に,ユーザー・プロファイルとライブラリーおよびそれらのオブジェクトが復元されていることが必要です。

例2:特定のユーザーの権限の復元

```
RSTUSRPRF  USRPRF(USER1 USER2 USER3 USER4)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIB)
RSTAUT    USRPRF(USER1 USER2 USER3)
```

このコマンドは、正常に復元された指定のそれぞれのユーザーに、システムが保管された時点でプロファイルに含まれていた各オブジェクトを使用する権限を復元します。RSTAUTコマンドが送られる前に、ユーザー・プロファイルとライブラリーおよびそれらのオブジェクトが復元されていることが必要です。

USER4はRSTAUTコマンドに指定されていないので、その権限はまだ使用可能であり、後日復元することができます。

例3:特定のライブラリーの権限の復元

```
RSTUSRPRF  USRPRF(*ALL)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBA)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBB)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBC)
RSTAUT    USRPRF(*ALL)
```

このコマンドは、システム上で復元されたすべてのユーザー・プロファイルの専用権限を復元します。これには、RSTUSRPRFコマンドによって復元されたすべてのユーザー・プロファイルの権限が含まれます。これらのコマンドが指定される前にその権限が復元されていないシステム上のその他のユーザー・プロファイルも、RSTAUT(*ALL)コマンドによって復元されます。

例4:複数のRSTUSRPRFコマンドの後の権限の復元

```
RSTUSRPRF  USRPRF(USER1 USER2)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBA)
RSTUSRPRF  USRPRF(USER1 USER3)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBB)
RSTAUT    USRPRF(*ALL)
```

このコマンドは、USER2およびUSER3の専用権限とUSER1の最新バージョンの専用権限を復元します。このユーザー・プロファイルは同じ名前を持っているので、2番目のRSTUSRPRFコマンドがUSER1の最初のバージョンをオーバーレイします。

例5:独立ASPへのライブラリーおよび権限の復元

```
RSTUSRPRF  USRPRF(*ALL) SAVASPDEV(*SYSBAS)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBA) RSTASPDEV(DIVISION1)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBB) RSTASPDEV(DIVISION1)
RSTLIB    SAVLIB(USERLIBC) RSTASPDEV(DIVISION1)
RSTAUT    USRPRF(*ALL) SAVASPDEV(*SYSBAS)
          RSTASPDEV(DIVISION1)
```

この例は、データおよび権限を独立補助記憶域プール(ASP)へ移動する方法を示しています。RSTUSRPRFコマンドは、保管されたすべてのユーザー・プロファイルおよび専用権限情報をシステムASP (ASP番号1) および基本ユーザーASP (ASP番号2から32)から復元します。RSTLIBコマンドは、ライブラリーUSERLIBA, USERLIBB, およびUSERLIBCをDIVISION1という名前の独立ASPに復元します。RSTAUTコマンドは、すべてのユーザー・プロファイルの保管された権限を、システムASPおよび基本ユーザーASPから現在DIVISION1 ASPに存在するオブジェクトに復元します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF3776

権限が復元されなかったユーザー・プロファイルがある。

CPF3785

終了していないサブシステムがある。

CPF3855

この時点でRSTAUTは使用できない。

CPF386D

事前開始ジョブが正常に実行されなかった。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

上

構成の復元 (RSTCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成復元(RSTCFG)コマンドは、システム保管(SAVSYS)または構成保管(SAVCFG) コマンドによって保管された構成オブジェクトをシステムに復元します。このコマンドで復元できるオブジェクトのタイプは、**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターにリストされます。システムに復元され、その所有者がシステムに認識されないオブジェクトについては、QDFTOWNユーザー・プロファイルが省略時の所有者となります。オブジェクトを復元するライブラリーに、すでにそのオブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの共通権限および専用権限が保存されます。そのライブラリーにオブジェクトが存在していない場合には、すべての共通権限は復元されますが、専用権限は再び指定しなければなりません。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- オブジェクトがすでにシステムに存在している場合には、システム保管(*SAVSYS)特殊権限または指定された各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限（あるいはその所有者であること）が必要です。
- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- 装置構成オブジェクトはそれが復元されている時にオフに構成変更しなければなりません。装置構成オブジェクトをオフに構成変更するためには、構成変更(VRYCFG)コマンドを使用してください。
- システム資源管理(SRM)オブジェクトは、V2R2M0より前に作成された媒体を使用してRSTCFGコマンドが実行された場合には復元されません。
- RSTCFGコマンドおよびSAVSYSまたはSAVCFGコマンドが同じシステムで実行されていない場合には、構成オブジェクトはターゲット・システムで物理ハードウェアと合致しない可能性があります。
- SAVSYSまたはSAVCFGコマンドが保管されたシステム以外のシステムでシステム資源管理オブジェクトを復元する場合には、システムはターゲット・システムのハードウェアを新規のものとして取り扱い、既存の構成記述を不用とすることによりすべての新しい資源名を作成します。これが行われた場合には、そのコマンドについて最新のSAVSYSまたはSAVCFGコマンドから正しいシステム資源管理オブジェクトを復元する必要があります。これらのすべてが使用不能な場合には、新しい資源名を反映するように既存の構成記述を変更しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL, *SRM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *CFGL, *CNL, *COSD, *CTLD, *DEVD, *LIND, *MODD, *NTBD, *NWID, *NWS	オプション, 定位置 3
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 4
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRM	システム資源管理	*ALL, *NONE, *HDW, *TRA	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾子リスト	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*ALL, *CFGL, *CNL, *COSD, *CTLD, *DEVD, *LIND, *MODD, *NTBD, *NWID, *NWS	

上

オブジェクト (OBJ)

復元するオブジェクトを指定します。復元する各オブジェクトの名前、またはオブジェクトの各グループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。アスタリスク(*)が名前と一緒に指定されていない場合には、システムは、その名前がオブジェクト名全体であるとみなします。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターが*ALLの値を持っている場合には、OBJTYPEパラメーターの記述にリストされたオブジェクト・タイプが、指定された名前を持っていればすべて復元されます。

システム資源管理(SRM)オブジェクトは、個別に、または総称名を指定して復元することはできません。SRMオブジェクトだけを復元するには、このパラメーターに*SRMを指定し、**システム資源管理 (SRM)**パラメーターに値を指定してください。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、すべての装置構成オブジェクトが復元されます。

***SRM** 装置構成オブジェクトは復元されませんが、システム資源管理(SRM)オブジェクトはSRMパラメーターの値に基づいて復元されます。

注意復元しようとしているシステムのハードウェア構成が、オリジナルの構成が保管されたシステムと正確に同じでない場合には、SRM情報が復元されないように、RSTCFGにSRM(*NONE)を指定する必要があります。SRM情報が復元された場合には、構成オブジェクトは使用できなくなる可能性があります。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の復元するオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 復元する特定のオブジェクトの1つまたは複数の名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。最大300のオブジェクト名を指定することができます。

上

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

復元されるシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

単一値

ALL** 名前によって指定されたすべての装置構成オブジェクトが復元されます。 **オブジェクト (OBJ)**パラメーターにもALL**が指定されている場合には、保管されたすべての装置構成オブジェクトが復元されます。

その他の値（最大10個指定可能）

文字値 復元するオブジェクトの各タイプの値を指定してください。

表示されているオブジェクト・タイプは、システム保管(SAVSYS)コマンドまたは構成保管(SAVCFG)コマンドによって装置構成ファイルに保管されるものです。

*CFGL

構成リスト

*CNL

接続リスト

*COSD

サービス・クラス記述

*CTLD

制御装置記述

*DEVD

装置記述

***IPXD** インターネット・パケット交換記述

***LIND** 回線記述

***MODD**

モード記述

***NTBD**

NETBIOS記述

***NWID**

ネットワーク・インターフェース記述

***NWS D**

ネットワーク・サーバー記述

注: *SRMSPCを保管することはできますが、オブジェクト・タイプとして復元することはできません。
*SRMデータを復元するには、OBJパラメーターに*SRMを指定してください。

上

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリ装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

注: 特定のバージョンがSAVDATEパラメーターおよびSAVTIMEパラメーター、またはテープの場合にはSEQNBRパラメーターによって識別されない限りは、指定されたロケーションで見つかったオブジェクトの最初のバージョンが復元されます。

単一値

***MOUNTED**

オブジェクトは、装置 (DEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリ装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定 (SETT APCGY)コマンドによって装着されているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリ装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

復元操作に使用される順序番号を指定します。

***SEARCH**

装置に入れられたボリュームの中で、保管された装置構成オブジェクトが入っているデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかった時に、その構成オブジェクトが復元されます。

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

システム資源管理 (SRM)

復元するシステム資源管理(SRM)情報のタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに*ALLまたは*SRMが指定された場合だけです。

注意復元しようとしているシステムのハードウェア構成が、オリジナルの構成が保管されたシステムと正確に同じでない限り、SRM情報が復元されないように、このコマンドにSRM(*NONE)を指定する必要があります。別のハードウェア構成のシステムでSRM情報が復元された場合には、構成オブジェクトが使用できなくなる場合があります。

***ALL** すべてのシステム資源管理情報が復元されます。

***NONE**

システム資源管理情報は復元されません。

***HDW** すべてのハードウェア情報が復元されます。

***TRA** すべてのトークンリング・アダプター情報が復元されます。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注: 保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権: システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ: システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大3個指定可能)

*AUTL

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は *EXCLUDE に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が *EXCLUDE に設定されます。

*OWNER

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

- *PGP 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

上

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRRSTのファイルQASRRSTOをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。 OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。 OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されません。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

例

例1:すべてのオブジェクトの復元

```
RSTCFG OBJ(*ALL) DEV(TAP01) OBJTYPE(*ALL)
```

このコマンドは、すべての装置構成およびSRMオブジェクトをTAP01駆動機構上のテープから復元します。

例2:装置記述の復元

```
RSTCFG OBJ(PRT01) DEV(TAP01) OBJTYPE(*DEV) VOL(ABCD)
```

テープ・ボリュームABCDに保管されているPRT01の装置記述がシステムに復元されます。装置記述PRT01がすでにシステムに存在している場合には、復元する前にそれをオフに構成変更しなければなりません。

例3:ネットワーク・サーバー記述の復元

```
RSTCFG OBJ(SERVER1) DEV(TAP01) OBJTYPE(*NWS) VOL(SAV1)
```

テープ・ボリュームSAV1に保管されているネットワーク・サーバー記述SERVER1がシステムに復元されます。ネットワーク・サーバー記述SERVER1がすでにシステムに存在している場合には、復元する前にそれをオフに構成変更しなければなりません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF26C1

ネットワーク・サーバー&1がオフに構成変更されなかった。

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF376B

ファイル&1が見つからない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3769

データが暗号化されているか、保管データではない。

CPF377B

オブジェクトは復元されません。&3個のオブジェクトが除外されました。

CPF377C

&1個のオブジェクトが復元された。&2個は復元されませんでした。&6個が除外されました。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF379B

&2の保管ファイル&1のオブジェクトは復元されなかった。

CPF3791

&3の&2 &1の処理中にファイル&4の終わりになった。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3796

ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。

CPF3805

&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。

CPF3807

&2の保管ファイル&1でデータ圧縮解除エラーが起こった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3883

S/38装置構成オブジェクトは復元されなかった。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

上

遅延オブジェクトの復元 (RSTDFROBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

遅延オブジェクトの復元(RSTDFROBJ)コマンドは、依存しているオブジェクトが使用できるようになっている場合に、遅延オブジェクトの復元を完了します。

遅延オブジェクトは、論理ファイルまたはSQL具体化QUERY表(MQT)にすることができます。遅延論理ファイルは、復元が完了するまで作成されません。遅延MQTは作成されますが、復元が完了するまで基礎ファイルにアクセスする必要があるすべての機能は失敗します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DFRID	遅延ID	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	*OBJ, *MBR	オプション

上

遅延ID (DFRID)

保管操作の遅延ID (DFRID)パラメーターで使用された名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 保管操作の遅延ID (DFRID)パラメーターで使用された名前を指定します。

上

出力 (OUTPUT)

復元済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力は作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRRSTのファイルQASRRSTOをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

出力情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイル向けの情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***MBR** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

上

例

```
(LFLIBの前にライブラリーを復元。)  
RSTLIB SAVLIB(LFLIB) DEV(TAP01) ENDOPT(*LEAVE) DFRID(ABC)  
(LFLIBとPFLIBの間にライブラリーを復元。)  
RSTLIB SAVLIB(PFLIB) DEV(TAP01) ENDOPT(*LEAVE) DFRID(ABC)  
(PFLIBの後にライブラリーを復元。)  
RSTDFROBJ DFRID(ABC)
```

この例では、アルファベット順で保管されたライブラリーの復元を示します。ライブラリーLFLIBには、ライブラリーPFLIB内に基本ファイルを持つファイルが含まれます。LFLIB内のファイルは、PFLIBが復元されるまで、復元できません。DFRIDが指定されているため、LFLIB内のファイルは遅延されます。これらのファイルの復元は、テープを使用しない、RSTDFROBJコマンドを使用して完了されます。DFRIDが指定されていないければ、LFLIB内のファイルを復元するには、テープを巻き戻すか再ロードする必要があります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF32C7

据え置きファイルが復元されなかった。

CPF37C1

&2オブジェクトが完了しました。&3個のオブジェクトが遅延しました。

上

文書ライブラリー・オブジェクト復元 (RSTDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト復元(RSTDLO)コマンドは、文書、フォルダー、および配布オブジェクト（メール）を復元します。

文書が文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドによって解放されたか、あるいはされない場合に、その文書およびフォルダーを復元するか、あるいは文書ライブラリー・オブジェクト削除(DLTDLO)コマンドによって削除された文書およびフォルダーを復元するためには、このコマンドを使用することができます。

文書の復元によって、文書がシステム上に存在している場合には、既存の文書の内容および制御情報が置き換えられ、文書がシステム上に存在しない場合には、新しい文書の内容および制御情報が追加されます。

ファイル済み文書（文書ライブラリーに記憶されている電子メールまたは文書）の場合には、復元操作時に文書が名前変更されて、別のフォルダーに入れられない限り、媒体上の文書オブジェクトの文書およびフォルダー名は、システム上の文書の文書名およびフォルダー名と同じでなければなりません。

注: 復元されるフォルダーのフォルダー名は完全に一致しなければなりません。使用中でないすべてのオブジェクトが、媒体上または保管ファイル内のフォルダーから既存のフォルダーに復元されます。フォルダーを復元すると、そのフォルダーが存在していなければ新しいフォルダー・オブジェクトが作成され、媒体上または保管ファイル内のフォルダーで保管されたすべてのオブジェクトがこの新しいフォルダーに追加されます。フォルダーが存在している場合には、その中に存在していない文書またはフォルダー・オブジェクトがすべて作成されます。既存の文書は、媒体からのバージョンで置き換えられます。

ファイル済み文書がシステムに復元され、その所有者がシステムに知られていないか、またはシステム配布ディレクトリーに登録されていない場合には、省略時の所有者のユーザー・プロファイル(QDFTOWN)がその文書またはフォルダーの所有者になります。

文書の作成日は、その文書が存在している場合には変わりません。文書が存在していない場合には、作成日は文書が作成される日付に設定されます。

機密保護は、文書またはフォルダーがそれらの復元されるシステムに存在している場合には変わりません。文書またはフォルダーが存在していない場合には、共通認可、権限リスト、および個人状況が復元されます。ただし、他のすべての私用文書およびフォルダー権限は復元されません。これらの権限は、所有者が再び設定しなければなりません。

保管時にメール・ログ項目をもっていた文書が復元される場合には、配布追跡オブジェクトがシステムに存在していれば、そのメール・ログ項目が復元されます。配布追跡オブジェクトがシステムに存在していない場合には、文書がメール・ログ項目なしで復元されたことを示すメッセージが送られます。

このコマンドが異常終了すると、オブジェクトは不明状態でシステムに残され、ライブラリーに見つからなくなります。これは、このコマンドの実行時に電源障害が発生した場合に起こることがあります。記憶域再

利用(RCLSTG)コマンドを使用すれば、補助記憶域を整理し、システムからそれらのオブジェクトの大部分を削除することができます。ただし、不明のメール・オブジェクトは、RCLSTGコマンドでは整理できません。

1セットの文書およびフォルダーを復元する場合は、そのセット内のすべての文書およびフォルダーが同じ磁気テープ、光ディスク・ボリューム、または保管ファイルに存在していなければなりません。

文書が複数の磁気テープ・ファイルに存在している場合は、ユーザーは、順序番号またはラベル・パラメーターを使用して媒体ファイルを指定することによって、どの文書を復元するかを制御することができます。その文書に複数のバージョンが存在する場合には、さらにSAVDATEおよびSAVTIMEパラメーターを使って正しい文書を選択することができます。

テキスト検索サービスがシステムにある時に、ユーザーが文書ライブラリー・オブジェクトを復元すると、そのオブジェクトのテキスト検索索引が復元されます。

制約事項:

- このコマンドは共通認可(*EXCLUDE)で出荷されます。
- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要であるか、システム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
- このコマンドは、RCLDLO DLO(*ALL)を実行しているときには実行できません。これは、RCLDLOが内部オブジェクトの排他的使用を必要とするためです。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存データベース・ファイルに対する保管または復元を行う場合は、出力データベース・ファイルがあるライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	単一値: *ALL, *SYSOBJNAM, *MAIL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
SAVFLR	保管されたフォルダー	単一値: *ANY, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
RENAME	新しいオブジェクト名	単一値: *SAME その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
RSTFLR	フォルダーへの復元	文字値, *SAME	オプション
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前, *NONE	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	単一値: *SEARCH その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始順序番号	1-16777215	
	要素 2: 終了順序番号	1-16777215, *ONLY	
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *GEN	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
NEWOBJ	オブジェクト名生成	*SAME, *NEW	オプション
SAVDATE	保管日	日付	オプション
SAVTIME	保管時刻	時刻	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	*NONE, *ALL	オプション
SAVASP	保管元ASP番号	1-32, *ANY	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, *SAVASP	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

復元される文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 媒体に保管され、保管されたフォルダー (SAVFLR)パラメーターに指定された基準を満たす文書、フォルダー、および配布オブジェクト (メール) のすべてが復元されます。

*MAIL

メール・ログによって示されるすべての配布オブジェクトおよび文書が復元されます。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名をもつすべての文書が復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

文書名 復元する文書のユーザー割り当て名を指定します。指定のすべての文書は、SAVFLRパラメーターに指定されたフォルダー内になければなりません。

上

保管されたフォルダー (SAVFLR)

文書およびフォルダーが復元されるその媒体のフォルダーの名前を指定します。

単一値

***ANY** 保管されているフォルダー（ある場合）とは関係なく、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定された値を満たすすべての文書ライブラリー・オブジェクトが復元されます。この値が有効なのは、DLOパラメーターに*ALL、*MAIL、または*SYSOBJNAMが指定されている場合だけです。

*NONE

フォルダー以外に文書として保管されたすべての文書が復元されます。*NONEが有効なのは文書に対してだけで、*ALLがDLOパラメーターに指定されているときだけ有効です。

その他の値（最大300個指定可能）

フォルダー名

文書を復元する元の保管フォルダーの名前、あるいは*ALLがDLOパラメーターに指定された場合には復元中のフォルダーの名前を指定してください。フォルダー名に対して最大63文字を指定することができます。*ALLがDLOパラメーターに指定された場合には、最大300個のフォルダー名を指定することができます。DLO（文書名）が指定された場合には、保管済みフォルダーの名前を指定しなければなりません。

上

新しいオブジェクト名 (RENAME)

復元された文書の新しいユーザー割り当て名を指定します。

単一値

*SAME

文書は、その文書が保管された時の名前でも復元されます。

その他の値（最大300個指定可能）

文書名 復元後のその文書の新しいユーザー割り当て名を指定します。文書名が**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定される場合には、復元中の文書に対して最大300個のユーザー割り当て名を指定することができます。

上

フォルダーへの復元 (RSTFLR)

復元されたフォルダーおよび文書を入れるフォルダーの名前を指定します。このフォルダーはシステム上に存在するか、あるいは*ALLが**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定された場合には、保管されるフォルダーは媒体上に存在していなければなりません。

*SAME

復元中のフォルダーおよび文書は、保管されていたのと同じフォルダーに入れられます。

フォルダー名

復元される文書およびフォルダーを入れるフォルダーの名前を指定してください。

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

*SYSOBJNAMが**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定された場合には、復元される文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

単一値

*NONE

システム・オブジェクト名は指定されません。

その他の値（最大300個指定可能）

システム・オブジェクト名

復元する文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、装置 (DEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETT APCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

復元操作に使用されるテープ・ファイルの順序番号を指定します。

注: 文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)を複数の補助記憶域プール(ASP)から復元する時には、開始および終了の順序番号を指定しなければなりません。開始および終了の順序番号は、テープ媒体ファイルを作成するために使用されるSAVDLOコマンドの完了メッセージに表示されます。あるいは、テープの表示 (DSPTAP) コマンドを使用して、QDOCおよびQDOCNNNNファイルの順序番号を検索します。ここでNNNNはASP番号です。

単一値

*SEARCH

ラベル (LABEL)パラメーター値と一致した識別コードをもち、指定された文書ライブラリー・オブジェクトの1つの最小値の内容をもつ最初のデータ・ファイルのテープが検索されます。装置の最後の操作で、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられるENDOPT(*LEAVE)が指定されていた場合には、ファイルの検索は、現在のテープの位置を超えて最初のデータ・ファイルから開始されます。装置の最後の操作でENDOPT(*LEAVE)が指定されなかった場合、あるいはENDOPT(*LEAVE)操作以降にテープが巻き戻された場合には、検索は、そのボリュームの最初のデータ・ファイルから開始されます。

要素1: 開始順序番号

1-16777215

復元操作に使用される最初のファイルの順序番号を指定してください。

要素2: 終了順序番号

*ONLY

終了順序番号は開始順序番号と同じです。

復元操作に使用される最後のファイルの順序番号を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

ラベル (LABEL)

保管操作中に媒体に書き出されたファイルの検索に使用されるファイル・ラベルを指定します。

***GEN** システムは検索を行なうファイル・ラベルの省略時の名前を生成します。

文字値 復元する文書ライブラリー・オブジェクトが入っているファイルのファイル・ラベルを指定します。最大17の英数字を使用することができます。

上

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

***** システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

オブジェクト名生成 (NEWOBJ)

新規ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名を復元するフォルダーおよび文書に対して生成するかどうかを指定します。

***SAME**

ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名は変わりません。

***NEW** 新規ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名が、復元するフォルダーおよび文書ごとに生成されます。

上

保管日 (SAVDATE)

文書ライブラリー・オブジェクトが保管された日付を指定します。媒体上に複数のバージョンの文書ライブラリー・オブジェクトが存在する場合には、このパラメーターを使用して、復元する文書ライブラリー・オブジェクトのバージョンを識別してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。区切り記号を使用すると、その値はアポストロフィで囲まなければなりません。SAVDATEパラメーターが

指定されていない場合には、復元される文書およびフォルダーのバージョンは、ボリューム上で見つかった最初のバージョンとなるか、あるいは指定されたファイル・ラベルで見つかったバージョンとなります。

上

保管時刻 (SAVTIME)

文書ライブラリー・オブジェクトが保管された時刻を指定します。保管された日付に同じ値をもつ複数のバージョンの文書ライブラリー・オブジェクトが媒体上に存在する場合には、このパラメーターを使用して、復元する文書ライブラリー・オブジェクトのバージョンを識別してください。この時刻は時間、分、秒 (HHMMSS)の形式の6桁の値として指定してください。区切り記号が使用された場合には、その値をアポストロフィで囲まなければなりません('HH:MM:SS')。ボリューム識別コードが指定され、**保管時刻 (SAVTIME)**パラメーターが指定されていない場合には、復元される文書およびフォルダーのバージョンは、ボリューム上で見つかった最初のバージョンとなるか、あるいは指定されたファイル・ラベルで見つかったバージョンとなります。

このパラメーターが有効なのは、**保管日 (SAVDATE)**パラメーターも指定されている場合だけです。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

復元操作中に見つかった次の相違点が許されるかどうかを指定します。

- 所有権—システム上のオブジェクトの所有者が保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- システム・オブジェクト名—システム上のシステム・オブジェクト名が媒体上のシステム・オブジェクト名と一致しない。
- 権限リストのリンカーオブジェクトが、オブジェクトを保管したものと異なるシステム上に復元されます。

システム上の所有者またはオブジェクト名が復元操作で使用される媒体の場合と異なるオブジェクトを復元できるようにするためには、ALWBJDIFパラメーターを使用することができます。*ALL特殊値を指定することによって、別の名前をもつオブジェクトが媒体上の名前に復元され、一方、別の所有者をもつオブジェクトは、その所有者名は媒体からではなくシステムから保持します。

注: このパラメーターを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)権限が必要です。

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。権限リストの場合には、オブジェクトは復元されますが、そのオブジェクトは当該の権限リストにはリンクされず、共通権限が*EXCLUDEに設定されます。他のケースについては、オブジェクトの診断メッセージが送信されて、オブジェクトは復元されません。

***ALL** 上で説明したすべての相違点が復元操作で許されます。通知メッセージが送られて、そのオブジェクトが復元されます。

注:

- オブジェクトの所有者が一致しない場合には、そのオブジェクトは復元されますが、復元操作の前のシステム上のオブジェクト所有権および権限のままとなります。

- このパラメーターに*ALLが指定された場合には、オブジェクト名生成 (NEWOBJ)パラメーターに*NEWを指定することはできません。
- オブジェクトが保管されたシステムで、そのオブジェクトが権限リストによって保護されているシステムとは異なるシステムからオブジェクトを復元中の場合には、*ALLを指定すると、そのオブジェクトを権限リストに自動的にリンクします。新しいシステムに権限リストが存在していない場合には、欠落しているリストの名前が入っているメッセージが出されます。

上

保管元ASP番号 (SAVASP)

復元される保管された文書およびフォルダーが入っている媒体上の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

***ANY** 任意のASPで保管された文書およびフォルダーが復元されます。

注：文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)を複数のASPから復元する時には、順序番号(SEQNBR)パラメーターを指定しなければなりません。

I-32 復元する文書およびフォルダーが入っているASPの番号を指定してください。

上

復元先ASP番号 (RSTASP)

復元された文書およびフォルダーが入れられる媒体上の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

***SAVASP**

文書およびフォルダーは、保管される前と同じASPに入れられます。

I-32 復元された文書およびフォルダーが入るASPの番号を指定してください。

上

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

*OUTFILEが出力 (OUTPUT)パラメーターに指定された時に、そのオブジェクトについての情報が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルが作成された場合には、システムは様式名QOJRSTをもつQSYSのQAOJRSTOをモデルとして使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

例

例1:システム・オブジェクト名を指定した文書の復元

```
RSTDLO DLO(*SYSOBJNAM) DEV(TAP01) SYSOBJNAM(HZ83B55219)
```

このコマンドは、HZ83B55219という名前の文書を磁気テープ装置TAP01から復元します。

例2:保管フォルダーからの文書の復元

```
RSTDLO DLO(A) DEV(TAP01) SAVFLR(X)
```

このコマンドは、Aという名前の文書をフォルダーXから復元します。

例3:文書すべての復元

```
RSTDLO DLO(*ALL) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、磁気テープ装置TAP01の最初の磁気テープ・ファイルにある文書およびフォルダーのすべてを復元します。

例4:システムASPから保管したフォルダーのユーザーASPへの復元

```
RSTDLO DLO(*ALL) FLR(Y) SAVASP(1) RSTASP(2)
```

このコマンドは、ASP 1から保管されたフォルダーYをユーザーASP 2に復元します。フォルダーYは、ASP 2に復元する前にASP 1から削除しなければなりません。

例5:新規ライブラリー割り当て名の作成

```
RSTDLO DLO(*SYSOBJNAM) DEV(TAP01) SYSOBJNAM(HZ83B55219)  
NEWOBJ(*NEW)
```

このコマンドは、文書HZ83B55219を磁気テープ装置TAP01から復元し、新規ライブラリー割り当て名および新規システム・オブジェクト名を付けます。

例6:文書の名前変更

```
RSTDLO DLO(A B) DEV(TAP01) SAVFLR(C)  
RENAME(Y Z) RSTFLR(X)
```

このコマンドは、文書AおよびBをフォルダーC内から復元します。文書AはYに名前変更され、文書BはZに名前変更されます。次に、それらの文書をフォルダーXに書き込みます。

例7:シーケンス番号の指定

```
RSTDLO DLO(*ALL) DEV(磁気テープ装置名) SAVFLR(A)  
SEQNBR(1 3) LABEL(*GEN)
```

このコマンドは、フォルダーAのすべてをソース順序番号1, 2,および3と、ラベルQDOCまたはQDOCXXXXをもつ磁気テープ・ファイルから復元します。

例8:許可される差の指定

```
RSTDLO DLO(A) DEV(TAP01) SAVFLR(X) ALWOBJDIF(*ALL)
```

このコマンドは、文書AをフォルダーXから復元します。フォルダーX内の文書Aがシステム上に存在していて、システム上の文書の所有者が復元しようとする文書の所有者と一致しない場合は、その文書は復元されて、システム上の文書の所有者は未変更のままです。

例9:復元されたオブジェクトおよび復元されなかったオブジェクトに関する情報の報告

```
RSTDLO DLO(*ALL) DEV(TAP01) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(INFO92) OUTMBR(FOURQT *ADD)
```

このコマンドは文書およびフォルダーのすべてを磁気テープ装置から復元します。復元されたオブジェクトおよび復元されなかったオブジェクトに関する情報が報告されているリストは、出力ファイルINFO92に送られます。この出力は、メンバーFOURQT中に、そのメンバー中の既存情報への追加として受け取られます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3718

ファイル&1の復元コマンドが正しくない。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF381B

DLOがASP &1に復元されなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384D

ASP &1では保管または復元操作は使用できない。

CPF8AB5

ASP &5は構成されていない。

CPF8A47

内部システム・オブジェクトが使用中である。

CPF90AF

RSTFLR値は使用できない。

CPF90A4

RENAME値は使用できない。

CPF90B4

&1個のフォルダーがシステムに復元されたが、&2個のは復元されなかった。

CPF90CD

配布の復元は認可されていない。

CPF90CF

見出し検索データベースに損傷がある。

CPF90E0

ALWOBJDIF(*ALL)に対する権限が不十分である。

CPF90E7

文書ライブラリー・オブジェクトが復元されなかった。

CPF9003

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが復元された。&10個は復元されませんでした。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9050

終了順序番号が正しくない。

CPF9069

ユーザーにはフォルダー&1への復元は許されていない。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF909B

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが復元された。&10個は復元されませんでした。

CPF9412

DLOパラメーターと一緒にフォルダー名のリストは使用できない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

OPT1498

装置&1でボリューム名リストが使い切られた。

OPT1502

マルチボリューム・セットの終わりを乗り越して処理しようとしてしました。

OPT1605

媒体または装置エラーが起こりました。

上

ライブラリー復元 (RSTLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー復元(RSTLIB)コマンドは、ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドによって保管された1つのライブラリーまたはライブラリー・グループをシステムに復元します。ライブラリー復元(RSTLIB)コマンドは、ライブラリー記述、オブジェクト記述、およびライブラリーのオブジェクトの内容を含めたライブラリー全体を復元します。

ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、ユーザー待ち行列、および論理ファイルの場合は、定義しか保管されないため、オブジェクト記述だけが保管されます。また、論理ファイルのアクセス・パスが保管された場合には、それを復元することもできます。アクセス・パス復元の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリを参照してください。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、これらが保管されている場合に、**スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)**パラメーターに*NEWを指定することによって復元することができます。

このコマンドを使用して、オブジェクトの記憶域が復元操作の対応するSAVLIBコマンドで解放済みのライブラリー、またはライブラリー削除(DTLIB)コマンドで削除されたライブラリーを復元することができます。保管済みライブラリー内のオブジェクトのデータ部分が解放されていなかった場合は、各ライブラリーはそれが前に占めていた記憶域の同一域を占有します。記憶域が解放されていた場合、システムは、ライブラリーの内容（すべてのファイル、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、ジャーナル・レシーバー、構造化照会言語(SQL)パッケージ、およびジャーナル・レシーバーのオブジェクト記述およびデータ部分）を記憶するために必要な記憶スペースを検出します。ライブラリーが削除済みであるか、あるいは復元を別のシステムに行っているために、システム上に存在していない場合は、システムはライブラリー中のすべて（ライブラリー記述を含む）の記憶域を検出しなければなりません。

システム上の既存のオブジェクトの上に重ねてオブジェクトを復元する場合には、所有者、1次グループ、共通権限、専用権限、権限リスト、および既存オブジェクトのオブジェクト監査値は保持されます。**オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)**パラメーターは、オブジェクトが復元されるかどうかに影響を与えることがあり、**私用専用権限 (PVTAUT)**パラメーターは、保管された専用権限を既存の専用権限に追加することがあります。アクティブにスプーリングしている出力待ち行列などの使用中の既存オブジェクトは、復元されません。既存のデータ待ち行列は復元されません。

オブジェクトがシステムに新規に復元されている場合には、保管された所有者名、1次グループ名、共通権限、およびオブジェクト監査値が使用されます。ALWOBJDIFパラメーターは、保管された権限リスト名が使用されるかどうかに影響を与えることがあり、PVTAUTパラメーターは、保管された専用権限を復元することがあります。所有者ユーザー・プロファイルが存在しない場合には、システム・デフォルト所有者(QDFTOWN)がオブジェクトの所有者になります。1次グループが存在しない場合には、*NONEが使用されます。

ライブラリーがシステム上の既存のライブラリーに復元されている場合には、既存のライブラリーに作成されたオブジェクトの省略時の共通権限および監査値が保持されます。ライブラリーが新規に復元されている場合には、これらの値は媒体から復元されます。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のすべてのオブジェクト権限が必要です。
 1. 指定された各ライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限、あるいはその所有者であること。
 2. オブジェクトがすでにシステム上のライブラリーに存在している場合には、そのライブラリー内の各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、あるいはその所有者であること。メッセージ待ち行列オブジェクトには*OBJEXISTおよび使用(*USE)権限が必要です。オブジェクトが存在していない場合は、復元中のオブジェクトを所有しているユーザー・プロファイルに対する追加(*ADD)権限。スプール・ファイル・データの場合、復元される出力待ち行列に対して*OBJEXIST権限が必要です。

指定されたすべてのライブラリーおよびオブジェクトに対する正しい権限がない場合には、ユーザーが権限を持っているものだけが復元されます。

 3. VOL(*SAVVOL)が指定された場合には、保管元ライブラリーに対する*USE権限。
 4. ライブラリーを保管ファイルから復元する場合には、保管ファイルに対する*USE権限が必要です。ライブラリーをテープまたは光ディスク装置から復元する場合には、装置記述および装置ファイルに対する*USE権限が必要です。
- 現在システムに存在していない保管ファイルの復元時には、保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義ライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルへの保管または復元を行う場合には、出力ファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- システム上の現行バージョンのプログラムが入っているライブラリーの復元中は、そのプログラムを実行してはいけません。復元中にOPMプログラムが実行中の場合は、実行中のプログラムは失敗し、予測できない動作を行なう可能性があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SAVLIB	保管されたライブラリー	単一値: *NONSYS, *ALLUSR, *IBM, *ANY その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVF, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED, *SAVVOL その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*SEARCH</u>	オプション, 定位置 4
LABEL	ラベル	文字値, <u>*SAVLIB</u>	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, <u>*FIRST</u>	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, <u>*</u>	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 総称名, 名前	オプション
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NEW, *OLD, *FREE	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプ ション	<u>*MATCH</u> , *ALL, *NEW, *OLD	オプション
DFRID	遅延ID	名前, <u>*DFT</u> , *NONE	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	<u>*NEW</u> , *NONE	オプション
PVTAUT	私用専用権限	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SAVDATE	保管日	日付	オプション
SAVTIME	保管時刻	時刻	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り 返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, <u>*SAVLIB</u>	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, <u>*SAVASPDEV</u>	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, <u>*SAVASP</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファ イル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバ ー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えま たは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	<u>*OBJ</u> , *MBR	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL	

上

保管されたライブラリー (SAVLIB)

システムに復元するライブラリーを指定します。

注:

- 複数のライブラリー、特殊値、または総称値を指定した場合には、以下のことが必要です。
 - 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFを指定してはなりません。
 - 復元先ライブラリー (RSTLIB)パラメーターに*SAVLIBを指定しなければなりません。
 - ラベル (LABEL)パラメーターに*SAVLIBを指定しなければなりません。
 - 光ディスク・ファイル (OPTFILE)パラメーターに*を指定するか、あるいはそれが*で終わっていないなければなりません。
- 値*NONSYSおよび*IBMの場合には、このオプションを指定する前に、システム上の他のすべての操作を終了していなければなりません。これには、サブシステム終了(ENDSBS)コマンドまたはシステム終了(ENDSYS)コマンドによってすべてのサブシステムを終了する必要があります。
- 復元に選択するテープまたは光ディスク・ファイルには、このパラメーターに指定する値と一致しないライブラリーが含まれている場合があります。このパラメーターは、テープ・ファイルの省力時の LABEL値および光ディスク・ファイルの省力時の OPTFILE値を判別するのに使用されますが、復元操作ではこのパラメーターが保管ライブラリーと一致することは検証されません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*NONSYS

LIB(*NONSYS)を指定したライブラリー保管(SAVLIB)コマンドで保管されたライブラリーが復元されます。

SAVLIB LIB(*NONSYS)からRSTLIB SAVLIB(*IBM)およびRSTLIB SAVLIB(*ALLUSR) を実行することができます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが復元されます。次のもの以外で名前が文字Qで始まらないすべてのライブラリーが復元されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」とみなされ、復元もされます。

QDSNX	QRCLxxxxx	QUSRDIRDB	QUSRVI
QGPL	QSRVAGT	QUSRIJS	QUSRVRxRxMx
QGPL38	QSYS2	QUSRINFSKR	
QMGTC	QSYS2xxxxx	QUSRNOTES	
QMGTC2	QS36F	QUSROND	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS	
QMQMATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA	
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR	
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRARS	
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS	

***IBM** 以下のものを除くIBM提供のすべてのライブラリーが復元されます。

QDOC	QRCYxxxxx	QTEMP	QUSRPYMSVR
QDOCxxxx	QRECOVERY	QUSER38	QUSRDRARS
QDSNX	QRPLOBJ	QUSRADSM	QUSRSYS
QGPL	QRPLxxxxx	QUSRBRM	QUSRVI
QGPL38	QSPL	QUSRDIRCF	QUSRVRxRxMx
QMGTC	QSPLxxxxx	QUSRDIRCL	
QMGTC2	QSRV	QUSRDIRDB	
QMPGDATA	QSRVAGT	QUSRIJS	
QMQMATA	QSYS	QUSRINFSKR	
QMQMPROC	QSYSxxxxx	QUSRNOTES	
QPFRDATA	QSYS2	QUSROND	
QRCL	QSYS2xxxxx	QUSRPOSGS	
QRCLxxxxx	QS36F	QUSRPOSSA	

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVRXRMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVRXRMXユーザー・ライブラリーのVXRMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前が文字Qで始まらない次のライブラリーも復元されます。

#CGULIB	#DSULIB	#SEULIB
#COBLIB	#RPLIB	
#DFULIB	#SDALIB	

***ANY** 順序番号 (SEQNBR)パラメーターに指定された順序番号で始まるテープにある、保管されたすべてのライブラリーの最初のバージョンが復元されるか、あるいは光ディスク・ファイル (OPTFILE)パラメーターに指定されたディレクトリー内の光ディスク媒体にある、保管されたすべてのライブラリーが復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 復元するライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 復元するライブラリーの名前を指定します。復元されるライブラリーの名前は、ライブラリーが保管された時に使用された名前と同じでなければなりません。

上

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

復元操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

上

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

注: 特定のバージョンが**保管日 (SAVDATE)**および**保管時刻 (SAVTIME)**パラメーター、またはテープの場合は**順序番号 (SEQNBR)**パラメーターによって識別されない限り、媒体で見つかった保管ライブラリーの最初のバージョンが復元されます。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、**装置 (DEV)**パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定 (SETT APCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

***SAVVOL**

システムは、保管または復元ヒストリー情報を使用して、どのボリュームにライブラリーの最新保管バージョンが入っているかを判別します。装置(DEV)パラメーターに指定された装置タイプがライブラリーの最新保管バージョンの装置タイプと一致しない場合には、ユーザーにエラー・メッセージが送られ、機能は終了します。*SAVVOLを指定した場合は、SAVDATEパラメーターおよびSAVTIMEパラメーターを指定することはできません。*SAVVOLが指定された場合には、SEQNBRパラメーターに*SEARCHを指定しなければなりません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、復元操作に使用される順序番号を指定します。

***SEARCH**

装置のボリュームから、FROMLABELパラメーター値と一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかり、そのオブジェクトが復元されます。テープ装置に対する最後の操作でテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられることを指示する*LEAVEが指定されていた場合には、現在のテープ位置を越えたところにある最初のデータ・ファイルからファイル検索が開始されます。最後の操作のテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに*LEAVEが使用されなかった場合、あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

*NONSYS, *ALLUSR,または*IBMが保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに指定された場合には、順序番号はファイルQFILEのロケーションを指定します。QFILEファイルは*NONSYS, *ALLUSR または*IBM保管操作の始めにあります。QFILEファイルには保管されたライブラリーのリストが入っています。

上

ラベル (LABEL)

復元操作に使用されるデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このラベルは保管コマンドで指定されたものでなければなりません。

***SAVLIB**

ファイル・ラベルは保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに指定された名前です。

文字値 復元操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは単一ライブラリーの復元の場合にのみ有効です。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

開始ライブラリー (STRLIB)

*NONSYS, *IBM,または*ALLUSR復元操作の開始ライブラリー名を指定します。

復元操作中に回復不能媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して、操作を再開することができます。

注: 以下の回復ステップでは、このコマンドの保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに*NONSYSが指定されています。IBM提供ライブラリーを復元する場合、あるいはすべてのユーザー作成ライブラリーおよびIBM提供ライブラリーを復元する場合には、かわりに*IBMまたは*ALLUSRを指定してください。

復元操作の基本回復ステップは次の通りです。

1. ジョブ・ログを調べて、前のライブラリー復元(RSTLIB SAVLIB(*NONSYS))コマンドが正常に行われなかったライブラリーを判別してください。最後に復元されたライブラリーを見つけてください。このライブラリーは、復元操作完了メッセージによって示されます。
2. SAVLIB LIB(*NONSYS)媒体の最初のテープを装てんしてください。
3. 次のコマンドを入力して、実行キーを押してください。

```
RSTLIB SAVLIB(*NONSYS) DEV(TAP01) ENDOPT(*LEAVE)
STRLIB(ライブラリー名) OMITLIB(ライブラリー名)
```

ここで、STRLIBおよびOMITLIBパラメーターのライブラリー名は最後のRSTLIBが正常に行われなかったライブラリーです。これによって、復元操作が正常に行われなかったライブラリーの後のライブラリーに対して復元操作が開始されます。

4. プロンプト表示されたら、開始ライブラリーが入っているボリュームを装てんしてください。
5. 復元操作が完了した後で、以前の保管操作の媒体を使用して復元操作が正常に行われなかったライブラリーを復元してください。

注: 別のテープ・エラーを防止するために、次の保管ローテーション・サイクルから媒体エラーのあるテープを除外することを考慮してください。

注: このパラメーターが有効なのは、SAVLIBパラメーターに*NONSYS, *IBM,または*ALLUSRが指定された場合だけです。

***FIRST**

復元操作は、最初に保管されたライブラリーで開始されます。

名前 復元操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

上

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

媒体定義 (MEDDFN)

データを復元するために使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)、およびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションの媒体定義作成APIを参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

除外するライブラリー (OMITLIB)

復元操作から除外するライブラリーのリストを指定します。

単一値

*NONE

復元操作から除外するライブラリーはありません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

ライブラリー名

復元操作から除外するライブラリーの名前を指定します。

上

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

- *ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。
- *NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。
- *OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。
- *FREE** 保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

上

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

***MATCH**が使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

***MATCH**

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)パラメーターで***ALL**が指定されている場合には、MBROPT(***MATCH**)は無効です。

***ALL** 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

***NEW** 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

***OLD** システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

上

遅延ID (DFRID)

まだ使用できない他のオブジェクトに依存するオブジェクトの復元を遅延させる場合に使用するIDを指定します。遅延オブジェクトの復元を完了するには、依存するオブジェクトを復元して、同じ遅延IDを指定します。他のオブジェクトが使用可能な場合にオブジェクトが遅延したままの場合には、遅延オブジェクトの復元(RSTDFROBJ)コマンドを使用して、同じ遅延IDを指定します。このパラメーターによって、依存があるオブジェクトのあるライブラリーが依存先のオブジェクトのあるライブラリーの前に復元される場合に一連のライブラリーのすべてのオブジェクトを復元することができます。

遅延オブジェクトは、論理ファイルまたはSQL具体化QUERY表(MQT)にすることができます。遅延論理ファイルは、復元が完了するまで作成されません。遅延MQTは作成されますが、復元が完了するまで基礎ファイルにアクセスする必要があるすべての機能は失敗します。

注:

1. 以下の条件が真の場合には、遅延オブジェクトの復元は、依存先のオブジェクトの復元時に完了することがあります。

- 遅延オブジェクトが、保管された時と同じライブラリーに復元される。
- 遅延オブジェクトと依存先のオブジェクトの復元操作に同じ遅延IDが指定されている。

***DFT** *NONSYS, *ALLUSR,または*IBMが保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに指定して、システム保管(*SAVSYS)特殊権限がある場合には、ID QRSTLIBが使用されます。オブジェクトは、使用できない他のオブジェクトに依存している場合には、遅延されます。たいていの場合、遅延オブジェクトは、この復元操作が他のオブジェクトの復元を行うと、完了されます。

SAVLIBパラメーターに他の値が指定されるか、*SAVSYS特殊権限がない場合には、IDは使用されません。オブジェクトは、使用できない他のオブジェクトに依存している場合には、復元も遅延もされません。

*NONE

オブジェクトは、使用できない他のオブジェクトに依存している場合には、復元も遅延もされません。

名前 まだ使用できない他のオブジェクトに依存するオブジェクトの復元を遅延させるIDを指定します。名前を指定するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。

上

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

スプール・ファイル・データおよび属性を復元するかどうかを指定します。

***NEW** 出力待ち行列とともに保管されたスプール・ファイル・データがシステムにすでにない場合には、復元される出力待ち行列ごとにこれが復元されます。

*NONE

スプール・ファイル・データは復元されません。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

復元されたオブジェクトで、専用権限を復元するかどうかを指定します。

***NO** どの専用権限も復元されていません。

***YES** 専用権限はオブジェクトで復元されました。専用権限をオブジェクトとともに保管するよう指定した保管操作からのみ、オブジェクトは復元されます。

注: この値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

上

保管日 (SAVDATE)

ライブラリーが保管された日付を指定します。最新の保管されたバージョンが復元されない場合、あるいは複数の保管されたバージョンがボリューム上にある場合には、ライブラリーのどのバージョンを復元するのかを示す日付を入力してください。

ボリュームIDまたは*MOUNTEDをボリューム識別コード (VOL)パラメーターに指定したが、このパラメーターを指定しなかった場合には、そのボリュームで見つかったライブラリー最初のバージョンが復元されません。このパラメーターは、VOL(*SAVVOL)については無効です。

日付 復元するライブラリーが保管された日付を指定します。この日付はジョブ日付の形式で入力しなければなりません。

上

保管時刻 (SAVTIME)

現行バージョンを復元しない場合には、ライブラリーが保管された時刻を指定します。

ボリュームIDまたは*MOUNTEDをボリューム識別コード (VOL)パラメーターに指定したが、このパラメーターを指定しなかった場合には、そのボリュームで見つかったライブラリー最初のバージョンが復元されません。このパラメーターが有効なのは、保管日 (SAVDATE)パラメーターも指定されている場合だけです。

時刻 復元するライブラリーが保管された時刻を指定します。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

- 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- ファイル・レベルID：システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- メンバー・レベルID：システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があつて、データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があつた場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大4個指定可能)

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が*EXCLUDEに設定されます。

*FILELVL

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

*OWNER

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

*PGP 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

上

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時に、現行バージョンのオペレーティング・システムでの使用に必要な形式に変換するのか、または現行マシンと互換になるように変換するのかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていなければなりません。
3. 変換が必要なオブジェクトである（古いバージョンのオペレーティング・システム用に形式設定されているか、または現行マシンと非互換であるため）が、この復元操作中に変換されない場合、そのオブジェクトは最初に使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

*NO オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注:

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトの変換は、現行オペレーティング・システムで使用されるため、または現行マシンと互換にするために変換が必要な場合のみ行われます。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** 既に現行形式になっている互換のオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式およびマシン互換性に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

上

復元先ライブラリー (RSTLIB)

ライブラリーの内容を保管されたのと同じライブラリーに復元するか、あるいは別のライブラリーに復元するかを指定します。

***SAVLIB**

ライブラリーの内容を保管されたのと同じライブラリー(1つまたは複数)に復元します。

名前 保管ライブラリーの内容が復元されるライブラリーの名前を指定してください。 *NONSYS, *IBM, または*ALLUSRが保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに指定された場合には、このパラメーターにライブラリー名を指定することはできません。

注: 構造化照会言語(SQL)データベースを保管時にあったライブラリー以外のライブラリーに復元される場合には、ジャーナルは復元されません。

上

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

***SAVASPDEV**

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

上

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP)、システムASP (ASP番号1)、または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要：システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー)は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

***SAVASP**

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

上

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注：OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRRSTのファイルQASRRSTOをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

出力情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***MBR** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

例

例1:新規オブジェクトの復元

```
RSTLIB SAVLIB(JOE) DEV(TAP01) OPTION(*NEW)
```

このコマンドは、ライブラリーJOEの保管バージョンをテープ装置TAP01から復元します。復元されるライブラリー内のオブジェクトは、新規オブジェクト（それらが保管された時にライブラリーの中にあり、その後削除されたオブジェクト）だけです。

例2:出力の印刷

```
RSTLIB SAVLIB(*NONSYS) DEV(TAP01) OUTPUT(*PRINT)
DFRID(*DFT)
```

このコマンドは、保管されているすべての非システム・ライブラリーをテープからシステムに復元します。ライブラリーの内容は、それらが保管された通りに正確に復元されます。新規オブジェクト（テープ上）がシステムに追加され、システムの旧オブジェクトはテープ上の旧オブジェクトのバージョンによってオーバーレイされます。OUTPUT(*PRINT)が指定されているので、各ライブラリーのすべてのオブジェクト（復元されたものと復元されないもの）の印刷出力がジョブのスパール出力を使用して印刷装置に送られます。最初のライブラリーの後の各ライブラリーは改ページで開始されます。各ライブラリーの後の完了メッセージに、いくつかのオブジェクトが復元され、いくつかのオブジェクトが復元されなかったかが示されます。印刷出力の最後で、遅延したすべてのオブジェクトのリストが印刷され、最終完了メッセージで復元されたライブラリー数および復元されなかったライブラリー数が示されます。

例3:復元操作を開始する場所の指定

```
RSTLIB SAVLIB(*NONSYS) DEV(TAP01) STRLIB(MIKESLIB)
```

このコマンドは、保管されている非システム・ライブラリーを、ライブラリーMIKESLIBから順にテープ装置TAP01から復元します。非システム保管の最初のテープがロードされていることが必要です。MIKESLIBが入っているテープをロードするよう、照会メッセージがユーザーに指示します。必要に応じて、MIKESLIBが入っているテープが見つかるまで同じメッセージが送られます。

例4:特定の日付および時刻からのバージョンの復元

```
RSTLIB SAVLIB(PAYROLL) DEV(TAP01) SAVDATE(060193)
SAVTIME(103214) RSTLIB(OLDPAY) VOL(PAY)
```

このコマンドは、PAYROLLライブラリーのバージョンを、ボリュームIDがPAYである装置TAP01から復元します。復元されるバージョンは、06/01/93の日付の10:32:14に保管されています。保管されているPAYROLLライブラリーのすべてのオブジェクトがライブラリーOLDPAYに復元されます。すべての新規ファイルが復元されます。旧ファイルは、テープ上のファイルのメンバー・リストがシステム上のファイルのメンバー・リストと一致した場合にのみ復元されます。

例5:複数のテープ・ボリュームからの復元

```
RSTLIB SAVLIB(QGPL) DEV(TAP01) VOL(QGPL QGPL)
```

このコマンドは、QGPLライブラリーをどちらもQGPLという名前の2つのテープから復元します。ボリュームIDは同じですが、この両方を指定しなければなりません。

例6:複数のテープ装置からの逐次復元

```
RSTLIB SAVLIB(USRLIB) DEV(TAP01 TAP02 TAP03)  
VOL(USRA USRB USRC USRD) ENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、ライブラリーUSRLIBを3つのテープ装置上の4つのボリュームから復元します。ボリュームUSRAはテープ装置TAP01に、ボリュームUSRBはTAP02に、ボリュームUSRCはTAP03に、およびボリュームUSRDはTAP01に入れます。操作員がボリュームUSRAをTAP01から除去すると、TAP01がボリュームUSRDに使用できるようになります。テープ・ボリュームが間違った順序で入っていた場合には、エラー・メッセージがシステム操作員メッセージ待ち行列に送られます。

例7:複数の装置からの並列復元

```
RSTLIB SAVLIB(USRLIB) DEV(*MEDDFN) MEDDFN(LIBA/MEDDFNA)
```

このコマンドは、ライブラリーLIBAのMEDDFNAという名前の媒体定義に指定された装置およびボリュームを使用して、ライブラリーUSRLIBを復元します。媒体定義の作成および使用については、INFORMATION CENTERの「バックアップ、回復、および可用性」トピックを参照してください。

例8:特定のバージョンの復元

```
RSTLIB SAVLIB(LIB1) DEV(TAP01) MBROPT(*ALL)  
SAVDATE(082392) SAVTIME(123251)  
RSTLIB(LIB2) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1のバージョンを装置TAP01から復元します。復元されるバージョンは、08/23/92の日付の12:32:51に保管されています。保管されているライブラリーLIB1のすべてのオブジェクトがライブラリーLIB2に復元されます。復元されたオブジェクトと復元されなかったオブジェクトのリストが示されます。すべてのファイルおよびファイル・メンバーが復元されます。

例9:保管ファイルからのライブラリーの復元

```
RSTLIB SAVLIB(LIB1) DEV(*SAVF) SAVF(SAVF1)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1を保管ファイルSAVF1から復元します。

例10 :基本ユーザーASPへの復元

```
RSTLIB SAVLIB(LIB1) DEV(*SAVF) SAVF(SAVF1) RSTASP(2)
```

このコマンドは、LIB1という名前のライブラリーをSAVF1という名前の保管ファイルから復元します。以下の場合を除き、LIB1の保管バージョンのライブラリーおよびすべてのオブジェクトが基本ユーザー補助記憶域プール(ASP) 2に復元されます:

- このライブラリーがすでに別のASPに存在している。
- ASP 2に、システムASPのライブラリーの一部であるジャーナル、ジャーナル・レシーバー、またはSAVFが含まれている。
- ASP 2がシステムに存在していない。
- ライブラリーの中にユーザーASPには復元できないオブジェクト・タイプある。これらのオブジェクトは復元されません。

例11 :独立ASPへの復元

```
RSTLIB SAVLIB(LIB1) DEV(*SAVF) SAVF(SAVF1)
RSTASPDEV(DIVISION1)
```

このコマンドは、LIB1という名前のライブラリーをSAVF1という名前の保管ファイルから復元します。以下の場合を除き、LIB1の保管バージョンのライブラリーおよびすべてのオブジェクトがDIVISION1という名前の独立ASPに復元されます:

- ライブラリーがDIVISION1と同じリンクされたASPグループのシステムASP、基本ユーザーASP、または別の独立ASPにすでに存在している。
- ASP DIVISION1がシステムで使用できない。
- ライブラリーの中に独立ASPには復元できないオブジェクト・タイプある。これらのオブジェクトは復元されません。

例12 :テープからの1つ以上のライブラリーの復元

```
RSTLIB SAVLIB(*ANY) DEV(TAP01) SEQNBR(75)
```

このコマンドは、各ライブラリーの最初の保管バージョンを、テープ・ファイル順序番号75から順にテープ装置TAP01から復元します。

例13 :光ディスクからの1つ以上のライブラリーの復元

```
RSTLIB SAVLIB(A* B*) DEV(OPT01) OPTFILE('/BACKUP/*')
```

このコマンドは、装置OPT01の光ディスク・ボリューム上のディレクトリーBACKUPで見つかった、名前がAまたはBで始まるすべてのライブラリーを復元します。

例14:スプール・ファイルの復元

```
RSTLIB SAVLIB(JOE) DEV(TAP01) SPLFDTA(*NEW)
```

このコマンドは、ライブラリーJOEの保管バージョンをテープ装置TAP01から復元します。現在システムに存在していないスプール・ファイル、およびこのライブラリーに出力待ち行列とともに保管されたスプール・ファイルが復元されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF370C

ALWOBIDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3705

&3の&2 &1はジャーナル処理されなかった。

CPF3706

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF372C

ライブラリー&1はASP &2に復元されなかった。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF373E

ライブラリー&1はASP &2に復元されなかった。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3732

復元操作中の&2 &1の状況エラー。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3739

&3のデータベース・ファイル&1のメンバーに損傷がある。

CPF3740

&3のオブジェクト&1タイプ&2が見つからない。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF375F

ファイルが選択されていない。保管タイプからファイル&1を復元することはできません。

CPF3752

ライブラリー&1の保管操作の記録がない。

CPF3757

&2 &1は&3に復元されなかった。

CPF3758

&2 &1は&3に復元されなかった。

CPF376B

ファイル&1が見つからない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

- CPF3769**
データが暗号化されているか、保管データではない。
- CPF3770**
ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。
- CPF3773**
&1個のオブジェクトが復元された。&2個が&4に復元されませんでした。
- CPF3779**
&1のライブラリーが復元され、&4が部分的に復元され、&2は復元されなかった。
- CPF378B**
ライブラリー&1が作成されなかった。
- CPF3780**
ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。
- CPF3782**
&2のファイル&1は保管ファイルでない。
- CPF3783**
VOL(*SAVVOL)の位置を調べることができない。オブジェクトは復元されません。
- CPF3784**
DEVパラメーターに指定した復元装置はVOL(*SAVVOL)装置と一致していない。
- CPF3785**
終了していないサブシステムがある。
- CPF3791**
&3の&2 &1の処理中にファイル&4の終わりになった。
- CPF3793**
マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。
- CPF3794**
保管または復元操作が正常に終了しなかった。
- CPF3796**
ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。
- CPF37A5**
RSTASP &1がオンラインではありません。
- CPF37B8**
専用権限の復元は認可されていない。
- CPF37C2**
このDFRIDの使用は認可されていない。
- CPF380E**
ユーザー・プロファイル&1は復元されなかった。UIDまたはGIDを作成することができません。
- CPF3805**
&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。
- CPF3807**
&2の保管ファイル&1でデータ圧縮解除エラーが起こった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3818

開始ライブラリー&1が見つからない。

CPF384F

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A6

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9829

補助記憶域プール&1が見つからない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

OPT1498

装置&1でボリューム名リストが使い切られた。

OPT1502

マルチボリューム・セットの終わりを乗り越して処理しようとしてしました。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

***STATUS** メッセージ**CPF3770**

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3773

&1個のオブジェクトが復元された。 &2個が&4に復元されませんでした。

ライセンス・プログラム復元 (RSTLICPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・プログラム復元(RSTLICPGM)コマンドは、初期導入のため、新しいリリースの導入のため、または回復のためにライセンス・プログラムをロードまたは復元します。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用するためには、ユーザーは*SECADMおよび*ALLOBJの権限が必要です。
3. このコマンドを使用してライセンス・プログラムのプログラムを復元する場合には、そのプログラムの復元中に、システム上に現在あるプログラムのコピーが実行中であってははいけません。この場合には、処理プログラムは異常終了されます。
4. ライセンス・プログラムのその他のオブジェクトが使用中の場合には、これらは復元されません。
5. OUTPUT(*PRINT)を印刷する復元操作の一時変更の例外によって、このコマンドは、このジョブで現在有効となっているすべてのファイルの一時変更を無視します。
6. ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されている場合にかぎり、いくつかのライセンス・プログラムが復元されます。この制約の説明については、それぞれのライセンス・プログラムの資料を参照してください。
7. このコマンドは、基本オペレーティング・システムのコードおよび言語オブジェクトを復元しません。
8. このコマンドはユーザーASP（補助記憶域プール）の使用をサポートしません。ライセンス・プログラムから供給されるすべてのオブジェクトはシステムASPの中に残らなければなりません。
9. 指定できるのは、多くても、1台の光ディスク装置、1つの保管ファイル、1台の仮想テープ装置、または1台のテープ媒体ライブラリー装置です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OPTION	復元される任意選択部分	*BASE , 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09	オプション
RSTOBJ	復元するオブジェクトのタイプ	*ALL , *PGM, *LNG	オプション
LNG	ライセンス・プログラムの言語	文字値, *PRIMARY , *SAVVOL	オプション
OUTPUT	出力	*NONE , *PRINT	オプション
RLS	リリース	文字値, *FIRST	オプション
REPLACERLS	リリースの置き換え	文字値, *ONLY , *NO	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LIB	ライブラリー	要素リスト	オプション
	要素 1: ライブラリー 1	名前, *SAME	
	要素 2: ライブラリー 2	名前, *SAME	
	要素 3: ライブラリー 3	名前, *SAME	
	要素 4: ライブラリー 4	名前, *SAME	
	要素 5: ライブラリー 5	名前, *SAME	
	要素 6: ライブラリー 6	名前, *SAME	
	要素 7: ライブラリー 7	名前, *SAME	
	要素 8: ライブラリー 8	名前, *SAME	
	要素 9: ライブラリー 9	名前, *SAME	
	要素 10: ライブラリー 10	名前, *SAME	
要素 11: ライブラリー 11	名前, *SAME		
LNLIB	言語ライブラリー	名前, *SAME	オプション
FLR	フォルダー	名前, *SAME	オプション
CODHOMEDIR	コード・ホーム・ディレクトリー	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 300 回の繰り返し): パス名, *SAME	オプション
LNGHOMEDIR	言語ホーム・ディレクトリー	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 300 回の繰り返し): パス名, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: *SYSVAL, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	*YES	
	要素 2: 変換するオブジェクト	*RQD, *ALL	

上

プロダクト (LICPGM)

復元されるライセンス・プログラムの7文字のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置 (DEV)

ライセンス・プログラムの復元に使用される装置名を指定します。この装置名は、装置記述により、システム上ですでに認識されているものでなければなりません。このシステムで使用可能な装置の名前を表示するためには、装置記述処理(WRKDEV D)コマンドを使用してください。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

*SAVF

復元操作は、保管ファイル(SAVF)パラメーターで指定した保管ファイル名を使用して実行されます。

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

ライセンス・プログラムの復元に使用する1つ以上のテープ装置の名前を指定します。仮想テープ装置を使用する場合は、それが指定される唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、それらは互換性のある媒体形式であり、それらの名前は、使用する順序に指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用することによって、あるテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理している間に、別のテープ・ボリュームを巻き戻して取り外すことができます。

上

復元される任意選択部分 (OPTION)

プロダクトプロンプト(LICPGMパラメーター) に与えられたライセンス・プログラムの、復元したい任意選択部分を1つ指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

ライセンス・プログラムの基本部分だけが復元されます。

ライセンス・プログラム・オプションの番号

復元したいリストされたライセンス・プログラムの任意選択部分の番号を指定します。

上

復元するオブジェクトのタイプ(RSTOBJ)

復元したいライセンス・プログラム・オブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** ライセンス・プログラムのすべてのオブジェクトが復元されます。これには、プログラム・オブジェクトと **ライセンス・プログラムの言語**プロンプト (LNGパラメーター) に指定された言語オブジェクトの両方が含まれます。

DEVパラメーターにテープ装置が指定された場合には、テープ媒体上で言語オブジェクトがプログラム・オブジェクトの直後にくるようにSAVLICPGMコマンドによってライセンス・プログラムの保管が行なわれている時には、RSTOBJ(*ALL)値が使用されます。言語オブジェクト(*LNG)とプログラミング・オブジェクト(*PGM)が配布テープ上で連続していない場合には、ほとんどの場合、*ALLを使用することはできません。その場合には、プログラム・オブジェクトと言語オブジェクトを個別に復元しなければなりません。テープ上におけるこれらのオブジェクトの順序は、DSPTAPコマンドを使って調べることができます。言語オブジェクトとプログラム・オブジェクトを個別に復元する方法の例が、このコマンドの終わりの「例」セクションにあります。

DEVパラメーターに*SAVFが指定された場合には、OBJTYPE(*ALL)を使ってSAVLICPGMコマンドによってライセンス・プログラムの保管が行なわれている時には、RSTOBJ(*ALL)値を使用することができます。

***PGM** ライセンス・プログラムのプログラム・オブジェクトだけが復元されます。プログラム・オブジェクトと選択された言語オブジェクトが同じ配布媒体上にないか、または連続していない配布媒体からプログラム・オブジェクトを復元する時には、*PGMを使用しなければなりません。

***LNG** ライセンス・プログラムの言語オブジェクトだけが復元されます。 **ライセンス・プログラムの言語**プロンプト(LNGパラメーター) は、そのオブジェクトがライセンス・プログラム・ライブラリーと関連しているか、あるいは多国語ライブラリーと関連しているかを判別します。

上

ライセンス・プログラムの言語 (LNG)

ライセンス・プログラムを復元するために使用される各国語バージョン(NLV)を指定します。保管媒体のライセンス・プログラムの言語機能がシステム言語機能と一致している場合には、言語オブジェクトはライセンス・プログラムのライブラリーに復元されます。言語機能が一致していない場合には、言語オブジェクトはその言語機能の多国語ライブラリーに復元されます。

考えられる値は次の通りです。

***PRIMARY**

指定されたライセンス・プログラムについてオペレーティング・システムの言語機能が復元されます。

注: オプション20でGO LICPGMを使用して、オペレーティング・システムの1次言語を表示します。

***SAVVOL**

装てんされたボリューム上の言語ファイルがライセンス・プログラム用に復元されます。このオプションは、DEV(*SAVF)の場合には無効です。

機能コード

ライセンス・プログラムの復元する言語ファイルのNLV IDを指定してください。機能識別の詳細と弊社提供の機能コードのリストは、INSTALL, UPGRADE, OR DELETE I5/OS AND RELATED SOFTWARE BOOK (SC41-5120)にあります。

上

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況についての情報を示すリストを作成するかどうかを指定します。このリストは、指定されたパラメーター値およびすべてのオブジェクト（復元されたものおよび復元されなかったもの）を示します。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

上

リリース (RLS)

復元されるライセンス・プログラムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

配布媒体で見つかった最初のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルが復元されます。

リリース・レベル

VXRYMZの形式でリリース・レベルを指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

上

リリースの置き換え (REPLACERLS)

置き換えられるライセンス・プログラムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ONLY**

現在導入されているライセンス・プログラムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルだけが置き換えられます。

***NO** システムに現在導入されているライセンス・プログラムは置き換えられません。復元されるライセンス・プログラムは、現在導入されているライセンス・プログラムと異なったリリースでなければなりません。復元されるライセンス・プログラムが導入されているプログラムと同じライブラリーに存在している場合には、ライセンス・プログラムがどのライブラリーに復元されるかを示すために一時変更パラメーターを指定しなければなりません。

リリース・レベル

VXRYMZの形式でリリース・レベルを指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

上

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

考えられる値は次の通りです。

***MOUNTED**

ライセンス・プログラムは、現在装置プロンプト(DEV パラメーター)に指定された装置上にあるボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合は、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリーの次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

ボリュームID

1つまたは複数のボリュームのIDを装置に入っていて、ライセンス・プログラムの復元に使用される順序で指定してください。最大75のボリュームIDを指定することができます。

順序番号 (SEQNBR)

復元処理に使用する順序番号を指定します。このオプションが有効なのはテープ装置の場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***SEARCH**

装置に入っているボリュームから、指定されたライセンス・プログラムまたはライセンス・プログラム・オプションのラベルと一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかり、そのオブジェクトが復元されます。装置での最後の操作で最後の操作の終了位置にテープを位置付けることを指示する*LEAVEが**媒体の終わりオプションプロンプト**(ENDOPTパラメーター)に指定された場合には、ファイルの検索はテープの現在位置より先の最初のデータ・ファイルから開始されます。最後の操作の**媒体の終わりオプションプロンプト**(ENDOPTパラメーター)に*LEAVEが使用されていない場合、あるいは操作の後にテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

ファイル順序番号

復元処理に使用するファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から16777215です。

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

保管ファイル (SAVF)

プロダクトが入っている保管ファイルの修飾名を指定します。

保管ファイルの名前は、次のライブラリー値のいずれかで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

保管ファイル名

保管ファイルの名前を指定してください。

上

ライブラリー (LIB)

ライセンス・プログラムを復元する先のライブラリーを指定します。この機能は、すべてのライセンス・プログラムでサポートされているとは限りません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

ライセンス・プログラムは指定されたライブラリーに復元されます。

ライブラリー名

ライセンス・プログラムを復元する先のライブラリーの名前を指定してください。最大11のライブラリーを指定することができます。

上

言語ライブラリー (LNGLIB)

2次言語オブジェクトを復元する先の2次言語ライブラリーを指定します。この機能は、すべてのライセンス・プログラムでサポートされているとは限りません。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

ライセンス・プログラムは指定された2次言語ライブラリーに復元されます。

ライブラリー名

ライセンス・プログラムを復元する先の2次言語ライブラリーの名前を指定してください。

上

フォルダー (FLR)

ライセンス・プログラムを復元する先のルート・フォルダーの名前を指定します。この機能は、すべてのプロダクトでサポートされているとは限りません。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

指定されたルート・フォルダーを使用します。

フォルダー名

ルート・フォルダーの名前を指定してください。ルート・フォルダーは、他のすべてのフォルダーが入っているシステム上のフォルダーです。

上

コード・ホーム・ディレクトリー (CODHOMEDIR)

プロダクトのコード部分が復元されるディレクトリーを指定します。この機能は、すべてのプロダクトでサポートされているわけではありません。

注: このパラメーターは、FLRパラメーターと一緒に使用することはできません。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

プロダクトのコード部分は、パッケージ化または前に導入された時に指定されたディレクトリーに復元されます。*SAMEは、唯一のパラメーター値として、あるいはディレクトリーのリスト内に指定することができます。リスト内で使用された場合には、*SAMEは、一定のディレクトリーが未変更のままですが、他のディレクトリーはプロダクトがパッケージ化または前に導入された時のものと異なることがあるということを指定します。

*PROMPT

使用されるコード・ディレクトリーが表示されます。プロダクトが現在導入されていない場合には、ディレクトリー名を変更することができます。

パス名 プロダクトのコード部分が復元されるホーム・パス・ディレクトリー名を指定してください。最大300のディレクトリーを指定することができます。未変更のディレクトリー名項目の場合には、パス名に*SAMEを指定することができます。

上

言語ホーム・ディレクトリー (LNGHOMEDIR)

プロダクトの言語部分が復元されるディレクトリーを指定します。この機能は、すべてのプロダクトでサポートされているわけではありません。

注: このパラメーターは、FLRパラメーターと一緒に使用することはできません。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

プロダクトの言語部分は、パッケージ化または前に導入された時に指定されたディレクトリーに復

元されます。*SAMEは、唯一のパラメーター値として、あるいはディレクトリーのリスト内に指定することができます。リスト内で使用された場合には、*SAMEは、一定のディレクトリーが未変更のままですが、他のディレクトリーはプロダクトがパッケージ化または前に導入された時のものと異なることがあるということを指定します。

***PROMPT**

使用される言語ディレクトリーが表示されます。プロダクトが現在導入されていない場合には、ディレクトリー名を変更することができます。

パス名 プロダクトの言語部分が復元されるホーム・パス・ディレクトリー名を指定してください。最大300のディレクトリーを指定することができます。未変更のディレクトリー名項目の場合には、パス名に*SAMEを指定することができます。

上

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時に、現行バージョンのオペレーティング・システムでの使用に必要な形式に変換するのか、または現行マシンと互換になるように変換するのかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM,および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていなければなりません。
3. 変換が必要なオブジェクトである（古いバージョンのオペレーティング・システム用に形式設定されているか、または現行マシンと非互換であるため）が、この復元操作中に変換されない場合、そのオブジェクトは最初に使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

***SYSVAL**

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトの変換は、現行オペレーティング・システムで使用されるため、または現行マシンと互換にするために変換が必要な場合のみ行われます。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** 既に現行形式になっている互換のオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式およびマシン互換性に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

上

例

例1:省略時値を使用してプログラムを復元

```
RSTLICPGM LICPGM(5761WDS) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、WEBSphere DEVELOPMENT STUDIO (5761WDS)ライセンス・プログラムをシステムを復元します。ライセンス・プログラム・オブジェクトが入っているテープをTAP01 テープ装置に入れなければなりません。他のパラメーターが指定されていないので、コマンドには省略時の値が使用されます。

例2:プロダクトの3番目のバージョンの復元

```
RSTLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
DEV(TAP01) RLS(V5R2M0)
REPLACERLS(*NO) LIB(A B C)
```

このコマンドは、V5R2M0 1MYPRODプロダクトの基本部分が現在システムに導入されていない場合にV5R2M0 1MYPRODプロダクトの基本部分をシステムに復元します。

例3:プロダクトの1つのバージョンを他のバージョンに重ねて復元

```
RSTLICPGM LICPGM(2MYPROD) OPTION(*BASE)
DEV(TAP01) RLS(*FIRST)
REPLACERLS(*ONLY)
```

このコマンドは、TAP01装置のテープで見つかった2MYPRODプロダクトの基本部分の最初のバージョン、リリース、モディフィケーション・レベルを復元します。テープ上のプロダクトの基本部分のバージョン、リリース、モディフィケーション・レベルがシステム上のプロダクトの基本部分のバージョン、リリース、モディフィケーション・レベルに一致するかどうかには関係ありません。

例4:保管ファイルからのプロダクトの復元

```
RSTLICPGM LICPGM(5761WDS) DEV(*SAVF) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、MYLIB中の保管ファイルMYSAVFからWEBSphere DEVELOPMENT STUDIO (5761WDS)ライセンス・プログラムをシステムに復元します。他のパラメーターが指定されていないので、コマンドには省略時の値が使用されます。

例5:保管ファイルからのプロダクトの3番目のバージョンの復元

```
RSTLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
DEV(*SAVF) RLS(V5R2M0)
REPLACERLS(*NO) LIB(A B C) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```


このコマンドは、V5R2M0 1MYPRODプロダクトの基本部分が現在システムに導入されていない場合に、V5R2M0 1MYPRODプロダクトの基本部分をMYLIB中の保管ファイルMYSAVFからシステムに復元します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3D96

プロダクト&1オプション&2リリース&4のオブジェクトは復元されなかった。

上

オブジェクト復元 (RSTOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドは、1つのコマンドを使用してテープまたは光ディスク・ボリューム上、あるいは保管ファイルに保管された1つのライブラリーにある1つのオブジェクトまたは1グループのオブジェクトをシステムに復元します。復元するオブジェクトは、オブジェクト保管(SAVOBJ)、変更済みオブジェクト保管(SAVCHGOBJ)、またはライブラリー保管(SAVLIB)コマンドによって保管されている場合があります。RSTOBJコマンドは、このコマンドに指定された各オブジェクトのオブジェクト記述および内容を復元します。

ジョブ待ち行列、ユーザー定義のメッセージ待ち行列、論理ファイル、およびユーザー待ち行列の場合には、オブジェクト記述だけが復元され、オブジェクトの内容は復元されません。しかし、論理ファイルのアクセス・パスは、保管コマンドでACCPH(*YES)を指定すると保管することができます。このように保管した場合は、アクセス・パスを復元することができます。アクセス・パス復元の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリーを参照してください。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、これらが保管されている場合に、スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)パラメーターに*NEWを指定することによって復元することができます。

オブジェクトが保管された時にそのオブジェクトの記憶域が解放されていたり、あるいはオブジェクトが保管された後に削除されていた場合であっても、このコマンドを使用して、オブジェクトを復元することができます。記憶域が保管操作の一部として解放されていない場合には、各オブジェクトはそれが前に占めていた記憶域の同一域に復元されます。復元中のオブジェクトのバージョンがシステム内のバージョンより大きい（例えば、ファイルの保管済みバージョンにまだ存在している、システムから削除されたデータ・レコードなど）場合は、そのオブジェクトに必要な追加記憶域が獲得されます。オブジェクトの保管済みバージョンが小さい（例えば、システムに追加されるデータ・レコードなど）場合は、そのオブジェクト用に獲得されたスペースはそのオブジェクトに割り当てられたまま残り、そのオブジェクトによって使用可能です。

論理ファイルのアクセス・パスが保管された（オブジェクトの保管時にACCPH(*YES)が指定された）場合に、アクセス・パスは次の場合に復元されます。(1) 基礎になる物理ファイルもすべて同一復元コマンドで復元されている、(2)論理ファイルもすべて同一復元コマンドで復元されているか、あるいは論理ファイルがすでにシステム上に存在している（再作成バージョンではなく同一ファイルが存在している）、および(3)論理ファイルがまだシステム上に存在している場合にその論理ファイルに対してMAINT(*IMMEDまたは*DLY)が有効になっている。

記憶域が解放された場合、システムは、ファイル、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、ジャーナル・レシーバー、および構造化照会言語(SQL)パッケージのそれぞれの内容（データ部分のみ）を記憶するために必要な記憶スペースを検出します。オブジェクトが削除されたか、あるいは復元を別のシステムに行っているために、システム上に存在しない場合、システムは不明のオブジェクトごとにすべて（記述およびデータ部分）を記憶する記憶域を検出しなければなりません。

システム上の既存のオブジェクトの上に重ねてオブジェクトを復元する場合には、所有者、1次グループ、共通権限、専用権限、権限リスト、および既存オブジェクトのオブジェクト監査値は保持されます。オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)パラメーターは、オブジェクトが復元されるかどうかに影響を与えること

があり、**私用専用権限 (PVTAUT)**パラメーターは、保管された専用権限を既存の専用権限に追加すること
があります。アクティブにスプーリングしている出力待ち行列などの使用中の既存オブジェクトは、復元さ
れません。既存のデータ待ち行列は復元されません。

オブジェクトがシステムに新規に復元されている場合には、保管された所有者名、1次グループ名、共通権
限、およびオブジェクト監査値が使用されます。ALWOBJDIFパラメーターは、保管された権限リスト名が
使用されるかどうかに影響を与えることがあり、PVTAUTパラメーターは、保管された専用権限を復元す
ることがあります。所有者ユーザー・プロファイルが存在しない場合には、システム・デフォルト所有者
(QDFTOWN)がオブジェクトの所有者になります。1次グループが存在しない場合には、*NONEが使用され
ます。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更
を無視します。

注意: ライブラリーQSYSへのライセンス・プログラムの復元には、このコマンドは使用しないでください。
予測できない結果が起こることがあります。

制約事項:

- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- 現在システムに存在していない保管ファイルの復元時には、保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドに対
する使用(*USE)権限が必要です。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルへの保管または復元を行う場合には、
出力データベース・ファイルが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のすべてのオブジェクト権限が必要です。
 - 指定したライブラリーおよび保管ファイル・ライブラリーに対する追加(*ADD)および実行
(*EXECUTE)権限。
 - オブジェクトがすでにシステム上のライブラリーに存在している場合には、指定した各オブジェクト
に対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限、あるいはその所有者であること。メッセージ待ち行列
オブジェクトには*OBJEXISTおよび使用(*USE)権限が必要です。オブジェクトがまだシステム上のラ
イブラリーに存在していない場合には、復元中の各オブジェクトを所有しているユーザー・プロファ
イルに対する*ADD権限が必要です。スプール・ファイル・データの場合、復元される出力待ち行列に
対して*OBJEXIST権限が必要です。
 - VOL(*SAVVOL)が指定された場合には、保管元ライブラリーに対する*USE権限。
- RSTOBJコマンドはライブラリーのデータ・ディクショナリーまたはその関連するデータベース・ファイ
ルを復元しません。これを行うためには、RSTLIBコマンドを使用しなければなりません。
- 保管ファイルから復元するには、保管ファイルに対する*USE権限が必要です。さらに、テープまたは光
ディスク装置から復元する場合には、装置記述に対する*USE権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義ライブラリーに対する
*EXECUTE権限が必要です。
- このコマンドを使用してOPMプログラムを復元する場合は、プログラムの復元中は、現在システム内に
存在しているそのプログラムのコピーが実行中であってはけません。これが発生した場合には、実行
中のプログラムは失敗して、予測できない動作を行なう場合があります。
- また、別個のコマンドで保管されたオブジェクトは別個のコマンドで復元しなければなりません。コマ
ンドを1つしか使用しない場合は、オブジェクトの一部が復元されません。

- ユーザー・ドメイン・オブジェクトのユーザー・スペース(*USRSPC),ユーザー索引(*USRIDX),またはユーザー待ち行列(*USRQ)がシステム値QALWUSRDMN (ライブラリー内でユーザー・ドメイン・オブジェクトが使用可能) で許可されていないライブラリーに復元された場合には, そのオブジェクトはシステム・ドメイン・オブジェクトに変換されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
SAVLIB	保管されたライブラリー	単一値: *ANY その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *SAVF, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 74 回の繰り返し): *ALRTBL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NWSCFG, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション, 定位置 4
VOL	ボリューム識別コード	単一値: <u>*MOUNTED</u> , *SAVVOL その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 5
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*SEARCH</u>	オプション, 定位置 6

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LABEL	ラベル	文字値, <u>*SAVLIB</u>	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NEW, *OLD, *FREE	オプション
FILEMBR	ファイル・メンバー	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: メンバー	単一値: <u>*ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	<u>*MATCH</u> , *ALL, *NEW, *OLD	オプション
DFRID	遅延ID	名前, <u>*NONE</u>	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	<u>*NEW</u> , *NONE	オプション
PVTAUT	私用専用権限	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SAVDATE	保管日	日付	オプション
SAVTIME	保管時刻	時刻	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, <u>*SAVLIB</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, <u>*SAVASPDEV</u>	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, <u>*SAVASP</u>	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	<u>*OBJ</u> , *MBR	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *NONE , *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL	

上

オブジェクト (OBJ)

復元する1つまたは複数のオブジェクトの名前を指定します。指定したオブジェクトは、検索値を満たし、指定したオブジェクトのどれかを含む最初のファイルから復元されます。同じライブラリーの複数のファイルがテープに入っている場合には、正しいオブジェクトがすべて確実に復元されるように、テープ・ファイル順序番号の指定が必要な場合もあります。

指定したオブジェクトのうちファイルに入っていないものがあつた場合には、その見つからなかったファイルについて診断メッセージが出されます。完了メッセージには、復元されたオブジェクトと復元されなかったオブジェクトの総数が示されます。

コマンドの実行時に**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターが指定されていない場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが媒体上の指定されたライブラリーまたは保管ファイルにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて復元されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**および**オプション (OPTION)**パラメーターに指定された値に基づき、指定されたライブラリーから保管されたすべてのオブジェクトが復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の復元するオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 復元する特定のオブジェクトの1つまたは複数の名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

上

保管されたライブラリー (SAVLIB)

保管されたオブジェクトが含まれていたライブラリーを指定します。復元先ライブラリー (RSTLIB)パラメーターの*SAVLIBが指定されているか、あるいはその省略時の値の場合には、これがオブジェクトの復元先のライブラリーの名前にもなります。

注:

1. 複数のライブラリー、単一値、または総称ライブラリー値を指定した場合には、以下のことが必要です。
 - 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFを指定してはなりません。
 - 復元先ライブラリー (RSTLIB)パラメーターに*SAVLIBを指定しなければなりません。
 - ラベル (LABEL)パラメーターに*SAVLIBを指定しなければなりません。
 - 光ディスク・ファイル (OPTFILE)パラメーターに*を指定するか、あるいはそれが*で終わっていないなければなりません。
2. 復元に選択するテープまたは光ディスク・ファイルには、このパラメーターに指定する値と一致しないライブラリーが含まれている場合があります。このパラメーターは、テープ・ファイルの省力時のLABEL値および光ディスク・ファイルの省力時のOPTFILE値を判別するのに使用されますが、復元操作ではこのパラメーターが保管ライブラリーと一致することは検証されません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*ANY 順序番号 (SEQNBR)パラメーターに指定された順序番号で始まるテープにあるすべての保管ライブラリーの最初のバージョンからオブジェクトが復元されるか、あるいはOPTFILEパラメーターに指定されたディレクトリー内の光ディスク媒体にあるすべての保管ライブラリーからオブジェクトが復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 復元するライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 復元するライブラリーの名前を指定してください。復元されるライブラリーの名前は、ライブラリーが保管された時に使用された名前と同じでなければなりません。

上

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

復元操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

復元されるシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

単一値

ALL** すべてのオブジェクト・タイプの、（指定したライブラリーから保管された）指定したオブジェクトが復元されます。 **オブジェクト (OBJ)**パラメーターにもALL**が指定されている場合には、そのライブラリーについて保管されたすべてのオブジェクトが復元されます。

その他の値

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)など、復元するオブジェクトの各タイプの値を指定してください。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

注: *CFGLオブジェクト・タイプは、V2R2M0より前のリリースで保管されているオブジェクトからだけオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドを使用して復元することができます。V2R2M0以降のリリースで保管された*CFGLオブジェクト・タイプは、構成復元(RSTCFG)コマンドを使用して復元されます。

上

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

注: 復元されるオブジェクトのバージョンは、特定のバージョンが保管日 (SAVDATE)および保管時刻 (SAVTIME)パラメーターで識別されない限り、指定されたロケーションで最初に見つかったバージョンです。

単一値

*MOUNTED

オブジェクトは、装置 (DEV)パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETT APCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

*SAVVOL

システムは、保管または復元履歴情報を使用して、オブジェクトの最新保管バージョンが入っているボリュームを判別します。

注: これが光ディスク装置からの復元である場合には、ボリューム名の最初の6文字のみが使用可能です。光ディスク媒体のボリューム名が6文字を超えている場合には、そのボリュームが見つからない場合があります。光ディスク媒体の名前が6文字を超えている場合は、VOL(*SAVVOL)を使用する代わりに、完全なボリューム名またはファイル名を指定する必要があります。

*SAVVOLを指定した場合は、次の操作可能特性および制約事項が適用されます。

- DEVパラメーターに指定された装置の特性が、ライブラリーの最後に保管されたバージョンの装置およびロケーションと一致しない場合には、エラー・メッセージがユーザーに送られ、機能は終了します。
- コマンドによって指定されたロケーションにある装置に間違ったボリュームが入れられた場合には、オブジェクトを復元する前に、装置に入れなければならない最初のボリュームを識別するメッセージがシステム操作員に送られます。
- OBJ(*ALL)およびOBJTYPE(*ALL)を指定した場合には、オブジェクトがライブラリー表示 (DSPLIB)コマンドによって作成される表示画面に表示される順序になっているものと見なされます。RSTOBJコマンドで指定されたオブジェクト名およびタイプを使用して、復元操作で使用する保管済みオブジェクトのファイルを判別します。それぞれのSAVLIBコマンドまたはSAVOBJコマンドの実行ごとにファイルが1つ作成されます。選択されるファイルは、最後に保管されたものとみなされた最初のファイルです。処理のために選択されたファイルに保管されていないオブジェクト、またはさらに後から保管されたオブジェクトは復元されません。それぞれの未復元オブジェクトごとにエラー・メッセージがユーザーに送られます。
- *SAVVOLを指定した場合は、SAVDATEパラメーターおよびSAVTIMEパラメーターを指定することはできません。
- *SAVVOLを指定し、RSTLIB値がSAVLIB値と等しい場合には、OPTION(*NEW)を指定することはできません。
- *SAVVOLを指定する場合には、SEQNBR(*SEARCH)およびLABEL(*SAVLIB)を指定しなければなりません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、復元操作に使用される順序番号を指定します。

*SEARCH

装置のボリュームから、FROMLABELパラメーター値と一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかる、そのオブジェクトが復元されます。テープ装置に対する最後の操作でテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられることを指示する*LEAVEが指定されていた場合には、現在のテープ位置を越えたところにある最初のデータ・ファイルからファイル検索が開始されます。最後の操作のテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに*LEAVEが使用されなかった場合、あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

上

ラベル (LABEL)

復元操作に使用されるデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このラベルは保管コマンドで指定されたものでなければなりません。

*SAVLIB

ファイル・ラベルは保管されたライブラリー (SAVLIB)パラメーターに指定された名前です。

文字値 復元操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは単一ライブラリーの復元の場合にのみ有効です。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。

***NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。

***OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブ

ジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。

*FREE

保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

上

ファイル・メンバー (FILEMBR)

復元するデータベース・ファイル・メンバーを指定します。このパラメーターは、ファイル名およびメンバー名の2つの部分からなります。データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに *MATCHを指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。

ここで指定した各データベース・ファイルは、特定の名前、総称名、または*ALLのいずれかによってオブジェクト (OBJ)パラメーターにも指定しなければなりません。オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターは、*ALLであるか*FILEを含んでいるかのいずれかでなければなりません。総称名は、データベース・ファイル名としては正しくありませんが、メンバー名としては使用することができます。重複ファイル名は使用することができません。

このパラメーターには、ファイル/メンバー要素リストの最大50の組み合わせを指定することができます。

要素1: ファイル

***ALL** この値に続くメンバー名の値のリストは、OBJパラメーターで指示されたすべてのファイルに適用されます。

名前 復元するためにリストしたメンバーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。

要素2: メンバー

単一値

***ALL** すべてのメンバーが、指定されたファイルから復元されます。

*NONE

指定されたファイルからメンバーは復元されません。ファイル記述だけが復元されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

総称名 指定したファイルから復元するメンバーの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムはその名前が完全なメンバー名であるとみなします。

名前 指定されたファイルから復元するメンバーの名前を指定してください。

上

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

*MATCHが使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

*MATCH

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)パラメーターで*ALLが指定されている場合には、MBROPT(*MATCH)は無効です。

*ALL 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

*NEW 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

*OLD システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

上

遅延ID (DFRID)

まだ使用できない他のオブジェクトに依存するオブジェクトの復元を遅延させる場合に使用するIDを指定します。遅延オブジェクトの復元を完了するには、依存するオブジェクトを復元して、同じ遅延IDを指定します。他のオブジェクトが使用可能な場合にオブジェクトが遅延したままの場合には、遅延オブジェクトの復元(RSTDFROBJ)コマンドを使用して、同じ遅延IDを指定します。このパラメーターによって、依存があるオブジェクトのあるライブラリーが依存先のオブジェクトのあるライブラリーの前に復元される場合に一連のライブラリーのすべてのオブジェクトを復元することができます。

遅延オブジェクトは、論理ファイルまたはSQL具体化QUERY表(MQT)にすることができます。遅延論理ファイルは、復元が完了するまで作成されません。遅延MQTは作成されますが、復元が完了するまで基礎ファイルにアクセスする必要があるすべての機能は失敗します。

注:

1. 以下の条件が真の場合には、遅延オブジェクトの復元は、依存先のオブジェクトの復元時に完了することがあります。

- 遅延オブジェクトが、保管された時と同じライブラリーに復元される。
- 遅延オブジェクトと依存先のオブジェクトの復元操作に同じ遅延IDが指定されている。

*NONE

オブジェクトは、使用できない他のオブジェクトに依存している場合には、復元も遅延もされません。

名前 まだ使用できない他のオブジェクトに依存するオブジェクトの復元を遅延させるIDを指定します。名前を指定するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。

上

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

スプール・ファイル・データおよび属性を復元するかどうかを指定します。

***NEW** 出力待ち行列とともに保管されたスプール・ファイル・データがシステムにすでにない場合には、復元される出力待ち行列ごとにこれが復元されます。

***NONE**

スプール・ファイル・データは復元されません。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

復元されたオブジェクトで、専用権限を復元するかどうかを指定します。

***NO** どの専用権限も復元されていません。

***YES** 専用権限はオブジェクトで復元されました。専用権限をオブジェクトとともに保管するよう指定した保管操作からのみ、オブジェクトは復元されます。

注: この値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

上

保管日 (SAVDATE)

オブジェクトが保管された日付を指定します。最新の保管バージョンが復元されない場合、あるいは複数の保管バージョンが媒体ボリュームに存在する場合には、どのバージョンのオブジェクトを復元するかを示す日付を指定してください。ボリュームIDまたは*MOUNTEDをボリューム識別コード (VOL)パラメーターに指定したが、SAVDATEを指定しなかった場合には、復元されるオブジェクトのバージョンはそのボリュームで見つかった最初のバージョンです。このパラメーターが有効なのは、ボリュームIDまたは値*MOUNTEDがVOLパラメーターに指定されているか、あるいは保管ファイルが保管ファイル (SAVF)パラメーターに指定されている場合だけです。順序番号 (SEQNBR)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

日付 復元するライブラリーが保管された日付を指定します。この日付はジョブ日付の形式で入力しなければなりません。

上

保管時刻 (SAVTIME)

オブジェクトが保管された時刻を指定します。

ボリュームIDまたは*MOUNTEDをボリューム識別コード (VOL)パラメーターに指定したが、このパラメーターを指定しなかった場合には、復元されるオブジェクトのバージョンはそのボリュームで見つかった最初のバージョンです。このパラメーターが有効なのは、保管日 (SAVDATE)パラメーターも指定されている場合だけです。

順序番号 (SEQNBR)パラメーターに番号を指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

時刻 復元するライブラリーが保管された時刻を指定します。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

- このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
- 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- ファイル・レベルID：システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- メンバー・レベルID：システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があって、データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があった場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大4個指定可能）

*AUTL

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が*EXCLUDEに設定されます。

*FILELVL

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

*OWNER

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

上

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時に、現行バージョンのオペレーティング・システムでの使用に必要な形式に変換するのか、または現行マシンと互換になるように変換するのかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および *SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないなければなりません。
3. 変換が必要なオブジェクトである（古いバージョンのオペレーティング・システム用に形式設定されているか、または現行マシンと非互換であるため）が、この復元操作中に変換されない場合、そのオブジェクトは最初に使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

***SYSVAL**

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注:

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトの変換は、現行オペレーティング・システムで使用されるため、または現行マシンと互換にするために変換が必要な場合のみ行われます。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** 既に現行形式になっている互換のオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式およびマシン互換性に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

上

復元先ライブラリー (RSTLIB)

オブジェクトを保管されたのと同じライブラリーに復元するか、あるいは別のライブラリーに復元するかを指定します。

***SAVLIB**

オブジェクトは、保管時と同じライブラリーに復元されます。

名前 保管オブジェクトが復元されるライブラリーの名前を指定してください。

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

媒体定義 (MEDDFN)

データを復元するために使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)、およびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションの媒体定義作成APIを参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

*SAVASPDEV

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

上

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP)、システムASP (ASP番号1)、または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要: システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー)は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

*SAVASP

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRRSTのファイルQASRRSTOをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名)が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

出力情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***MBR** リストには、復元するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

上

除外するライブラリー (OMITLIB)

復元操作から除外するライブラリーのリストを指定します。

単一値

***NONE**

復元操作から除外するライブラリーはありません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

ライブラリー名

復元操作から除外するライブラリーの名前を指定します。

上

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***NONE**

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

例

例1:最新の保管バージョンの復元

```
RSTOBJ OBJ(PAYROLL) SAVLIB(LIBX) DEV(TAP01)
        OBJTYPE(*PGM) VOL(*SAVVOL)
```

このコマンドは、LIBXから保管されたPAYROLLという名前のプログラムをLIBXに復元します。プログラムの最新の保管バージョンを復元するために、TAP01という名前のテープ装置が使用されます。

例2:保管日付および時刻の指定

```
RSTOBJ OBJ(PAY*) SAVLIB(LIBX) DEV(OPT01) VOL(ABCD)
        OPTION(*OLD) SAVDATE(102202)
        SAVTIME(143000) RSTLIB(LIBY)
```

名前がPAYで始まり、10/22/02の日付の14:30:00に光ディスク・ボリュームABCDのLIBXという名前のライブラリーから保管されたすべてのオブジェクトがLIBYに復元されます。ボリュームABCDはOPT01という名

前の光ディスク装置に入れられていることが必要です。OPTION(*OLD)が指定されているので、復元されるのは、システム上のLIBYと光ディスク・ボリューム上のLIBXの両方で同じオブジェクト名およびタイプをもつオブジェクトだけです。

例3: QGPLライブラリーへの新規プログラムの追加

```
RSTOBJ OBJ(NEWPROG) SAVLIB(QGPL) DEV(OPT01) OBJTYPE(*PGM)
VOL(PGMS) OPTION(*NEW) ALWOBJDIF(*AUTL)
```

NEWPROGという名前の新規プログラムが汎用ライブラリーQGPLに追加されます。これは、OPT01という名前の光ディスク装置に挿入されたPGMSというラベルのボリュームから復元されます。オブジェクトが別のシステムで保管され、権限リストにリンクされていた場合には、それがこのシステムでも同じ名前でも権限リストにリンクされます。

例4:出力リストの印刷

```
RSTOBJ OBJ(*ALL) SAVLIB(LIB) DEV(TAP01) OBJTYPE(*PGM)
VOL(SVOL) SEQNBR(2) SAVDATE(082392)
SAVTIME(143000) OUTPUT(*PRINT)
```

SVOLという名前のテープ・ボリューム上の保管バージョンに存在するLIBという名前のライブラリーから保管され、順序番号2で08/23/92の日付の14:30:00に保管されたすべてのプログラムが、LIBという名前のライブラリーに復元されます。復元されたすべてのオブジェクトだけでなく、復元されなかったオブジェクトも含む出力リストが提供されます。

例5:ジャーナル・レシーバーの復元

```
RSTOBJ OBJ(*ALL) SAVLIB(BACKUP) DEV(*SAVF)
OBJTYPE(*JRNRCV) SAVF(SAVEJ) RSTASP(3)
```

BACKUPという名前のライブラリーからSAVEJという名前の保管ファイルに保管されたすべてのジャーナル・レシーバーが、BACKUPという名前のライブラリーに復元されます。ジャーナル・レシーバーは、基本ユーザーASP 3に復元されます（ただし、それがBACKUPという名前のライブラリーおよび別のASPにすでに存在していないか、あるいはASP 3にライブラリーが含まれていない場合に限りです）。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3705

&3の&2 &1はジャーナル処理されなかった。

CPF3706

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3739

&3のデータベース・ファイル&1のメンバーに損傷がある。

CPF374C

オブジェクトはASP &2に復元されない。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3769

データが暗号化されているか、保管データではない。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3773

&1個のオブジェクトが復元された。&2個が&4に復元されませんでした。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3783

VOL(*SAVVOL)の位置を調べることができない。オブジェクトは復元されません。

CPF3784

DEVパラメーターに指定した復元装置はVOL(*SAVVOL)装置と一致していない。

CPF3791

&3の&2 &1の処理中にファイル&4の終わりになった。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3796

ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。

CPF37A5

RSTASP &1がオンラインではありません。

CPF37B8

専用権限の復元は認可されていない。

CPF37C2

このDFRIDの使用は認可されていない。

CPF3805

&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。

CPF3807

&2の保管ファイル&1でデータ圧縮解除エラーが起こった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384F

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3867

FILEMBRパラメーターの内容が正しくない。

CPF3868

FILEMBRを指定しているが、OBJTYPEは*ALLまたは*FILEでなければならない。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

CPF3872

&1個のオブジェクトが復元された。&2個が&4に復元されませんでした。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A6

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9829

補助記憶域プール&1が見つからない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

OPT1498

装置&1でボリューム名リストが使い切られた。

OPT1502

マルチボリューム・セットの終わりを乗り越して処理しようとしてしました。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

上

パフォーマンス収集の復元 (RSTPFCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集の復元 (RSTPFCOL)コマンドは、パフォーマンス収集の保管 (SAVPFCOL)コマンドで保管ファイルに保管された、1つのパフォーマンス収集、または1つのライブラリー中のパフォーマンス収集のグループを、システムに復元します。

制約事項:

- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- 指定されるライブラリーおよび保管ファイル・ライブラリーに対する追加(*ADD)権限と実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COL	集合	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
SAVLIB	保管されたライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション
COLTYPE	収集タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 文字値, <u>*CSFILE</u>	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: [bボ]メー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, <u>*SAVLIB</u>	オプション

上

集合 (COL)

復元する 1 つまたは複数のパフォーマンス収集の名前を指定します。

指定したパフォーマンス収集のうち保管ファイルに入っていないものがある場合、見つからないパフォーマンス収集について診断メッセージが発行されます。完了メッセージには、復元されたパフォーマンス収集と復元されなかったパフォーマンス収集の総数が示されます。

コマンド実行時に**収集タイプ (COLTYPE)**パラメーターが指定されていない場合は、そのパラメーターの記述にリストされているすべての収集タイプが、指定されたライブラリー内の保管ファイルにあり、指定された名前であれば、それらがすべて復元されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 収集タイプ (COLTYPE)およびオプション (OPTION)パラメーターに指定された値に基づき、指定されたライブラリーから保管されたすべてのパフォーマンス収集が復元されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中にある復元する対象のパフォーマンス収集グループの総称名を1つ以上指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムはその名前が完全なパフォーマンス収集名であるとみなします。

名前 復元する特定の1つ以上のパフォーマンス収集の名前を指定します。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

上

保管されたライブラリー (SAVLIB)

保管されたパフォーマンス収集が含まれていたライブラリーを指定します。復元先ライブラリー (RSTLIB)パラメーターの*SAVLIBが指定されているか、あるいはその省略時の値の場合には、これがパフォーマンス収集の復元先のライブラリーの名前にもなります。

QPFRDATA

保管されたパフォーマンス収集が入っていたのは、弊社提供パフォーマンス・ライブラリー QPFRDATAです。

名前 復元するライブラリーの名前を指定してください。復元されるライブラリーの名前は、ライブラリーが保管された時に使用された名前と同じでなければなりません。

上

収集タイプ (COLTYPE)

復元される収集のタイプを指定します。

単一値

***ALL** 集合 (COL)パラメーターに指定されたものと同じ名前のすべてのタイプのパフォーマンス収集が復元されます。これには、ファイル・ベースの収集とオブジェクト・ベースの収集が含まれます。

その他の値 (最大10個指定可能)

*CSFILE

集合 (COL)パラメーターに指定された、収集サービスのファイル・ベースの収集のみが復元されません。

*CSMGTCOL

集合 (COL)パラメーターに指定された、収集サービスのオブジェクト・ベースの収集のみが復元されます。

***DWFFILE**

集合 (COL)パラメーターに指定された、ディスク監視のファイル・ベースの収集のみが復元されます。

***JWFILE**

集合 (COL)パラメーターに指定された、ジョブ監視のファイル・ベースの収集のみが復元されます。

***PEXFILE**

集合 (COL)パラメーターに指定された、Performance Explorerのファイル・ベースの収集のみが復元されます。

***PEXMGTCOL**

集合 (COL)パラメーターに指定された、Performance Explorerのオブジェクト・ベースの収集のみが復元されます。

タイプ 復元する収集のタイプを指定してください。

有効な値は、システムによってサポートされるパフォーマンス収集によって異なります。このコマンド・パラメーターのプロンプトが表示されている間にF4を押すと、有効な収集タイプ値のリストが表示されます。

上

保管ファイル (SAVF)

パフォーマンス収集を復元するために使用される保管ファイルを指定します。これは必須パラメーターです。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

復元先ライブラリー (RSTLIB)

パフォーマンス収集を保管されたのと同じライブラリーに復元するか、あるいは別のライブラリーに復元するかを指定します。

***SAVLIB**

パフォーマンス収集は、保管時と同じライブラリーに復元されます。

名前 保管パフォーマンス収集が復元されるライブラリーの名前を指定してください。

例

例1:すべてのタイプのパフォーマンス収集を復元

```
RSTPFRCOL COL(PFRCOL) COLTYPE(*ALL)
          SAVF(QGPL/MYSAVF)
```

このコマンドは、弊社提供パフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAに、名前がPFRCOLのすべてのパフォーマンス収集を復元します。ライブラリーQGPL内の保管ファイルMYSAVFが使用されて、パフォーマンス収集がシステムに復元されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3706

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

CPF3707

&2の保管ファイル&1にデータが入っていない。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3739

&3のデータベース・ファイル&1のメンバーに損傷がある。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3773

&1個のオブジェクトが復元された。&2個が&4に復元されませんでした。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3796

ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。

CPF37B8

専用権限の復元は認可されていない。

CPF3805

&2中の保管ファイル&1からのオブジェクトは復元されなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384F

&2 &1はライブラリー&3に復元されなかった。

上

S/36ファイル復元 (RSTS36F)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36ファイル復元(RSTS36F)コマンドは、すべての保管セットから1つのファイルまたは1グループのファイルをシステムに復元します。データベース物理ファイル、ディスク・ファイル、またはテープ・ファイルから1つのファイルを復元することができます。グループのファイルは、ディスクまたはテープのすべての保管セットから復元することができます。

復元操作は、ファイルの記述をデータベース物理ファイル、ディスク、またはテープから読み取り、データベース物理または論理ファイルを作成し、データベース物理ファイル、ディスク・ファイル、またはテープ・ファイルからデータを新しいデータベース・ファイルにコピーします。データベース物理ファイルは、システム/36ファイル保管(SAVS36F)コマンドによって作成しておかなければなりません。ディスク・ファイルまたはテープ・ファイルは、SAVEシステム操作員制御言語(OCL) プロシーチャー（または¥COPY SSPユーティリティーの同等のOCL使用）を使用するか、あるいはシステム/36ファイル保管(SAVS36F)コマンドを使用して、システム/36で作成されていることがあります。システム/36ファイル復元(RSTS36F)コマンドは、¥COPYユーティリティーを使用してシステム/34またはシステム/32で作成されたディスク・ファイルまたはテープ・ファイルを受け入れます。

RSTS36Fコマンドは圧縮ファイルとして作成されたディスク・ファイルを受け入れます。

復元するファイルが、TOLIBパラメーターに指定されたライブラリーに存在していない場合には、そのファイルが作成されます。物理ファイル・メンバーは、'MYMMDD' という名前の構文を使用して追加されます。これは、元のファイルの作成日を識別します。この命名規則は、日付区分ファイルをサポートするためにシステム/36環境で必要とされるものです。

ファイル名をTOFILEパラメーターに指定する場合には、その名前はi5/OS命名基準を満たしている必要があります。i5/OSの命名規則の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの第2章の「制御言語構文」を参照してください。

TOFILE(*SET)を指定すると、復元されるファイルは、i5/OS単純オブジェクト名では使用できない文字を含む名前をもつことができます。この場合には、ファイル名はi5/OS拡張名に変更され、ファイルが復元されます。

名前にブランク、単一引用符、二重引用符、アスタリスク、疑問符、または装置制御文字(16進数00から3Fまたは16進数FF)が含まれていると、無効文字は下線で置き換えられます。次に、このファイルは、その結果の単純名または拡張名（例えば、A_?は"A_"になります）を使用して復元されます。この新しい名前をもつファイルがすでに存在している場合には、他の名前と同様に取り扱われます(MBROPTパラメーターを参照してください。)

無効文字のためにファイル名が変更された場合には、通知メッセージ(CPF 2C1F)が、このコマンドを実行しているプログラム上の再帰レベルに送信されます。名前が単純名から拡張名に変更されても、メッセージは送信されません。

復元機能がファイルを作成し、そのファイルが以前に保護されていなかった場合には、新しいファイルは RSTS36F コマンドを発行しているユーザーによって所有され、このファイルは省略時の権限 *ALL（すなわち、AUT(*ALL)と同じ）によって作成されます。

属性がゼロの拡張値であるか、あるいは値が指定されないような S/36 からファイルが保管された場合には、レコード長によって除算される 32,767 の省略時の値が割り当てられます。ゼロの拡張値が必要な場合には、（復元が完了した後に）物理ファイル変更 (CHGPF) コマンドを使用して、SIZE(*EXTEND) をゼロに設定してください。ファイルが i5/OS を使用して保管されている場合には、そのファイルが復元され、拡張値は変更されません。

注：この機能は、システム/36 との間でのファイルの交換だけを目的としたものです。

制約事項:

1. このコマンドは共通 *EXCLUDE 権限で出荷されます。
2. 資源保護を使用してシステムで実行する時には、次の権限が必要です。
 - このコマンドの *USE, *SECADM, および *ALLOBJ 権限
 - TOLIB パラメーターに指定されたライブラリーに対する *USE 権限
 - システムにまだ存在しないファイルの復元時に TOLIB パラメーターに指定されたライブラリーに対する *CHANGE 権限
 - 日付区分物理ファイル、および同じ名前であるが、異なった作成日のファイルを復元する時に、既存ファイル（新しいメンバーの追加が必要）に対する *CHANGE および *OBJMGMNT 権限
 - 同じ作成日をもつ既存の物理ファイルへの復元時に、MBROPT(*REPLACE) が指定されたファイルに対する *ALL 権限
 - 復元しているファイルがシステム/36 の代替索引ファイル（すなわち、論理ファイル）である場合に、基礎になっている物理ファイル（この物理ファイルはシステム/36 で親ファイルとして示されている）に対する *CHANGE 権限
 - ディスケットからの復元時には、そのディスク装置記述オブジェクトに対する *USE 権限、およびライブラリー QSYS の装置ファイル QSYSDKT に対する *USE 権限
 - テープからの復元時には、そのテープ装置記述オブジェクトに対する *USE 権限、およびライブラリー QSYS の装置ファイル QSYSTAP に対する *USE 権限
 - データベース物理ファイルからの復元の場合には、そのファイルに対する *USE 権限、およびそのファイル (PHYFILE パラメーター) が入っているライブラリーに対する *USE 権限
 - このファイルがシステム上に存在しないが、同じ名前のファイル権限ホルダー・オブジェクトが存在する場合には、その権限ホルダー・オブジェクトに対する *ALL 権限または所有権
3. システム/36 の代替索引ファイル（論理ファイル）を復元時にサポートされる置き換え機能はありません。代替索引ファイルを復元する場合には、同じ名前のファイル・オブジェクトが指定したライブラリーにすでに存在することはありません。
4. 論理ファイルを復元する場合には、TOLIB パラメーターに指定されたライブラリーに、基礎になっている物理ファイルがすでに存在していなければなりません。
5. システム/36 の日付区分ファイルと同じ i5/OS のファイルは、複数メンバーの物理ファイルです。日付区分の代替索引ファイルはサポートされていません。物理ファイルのデータは、構文 'MYMMDD' を使用して命名されたメンバーに記憶されます。この 'YMMDD' はそのファイルの元の作成日（年/月/日の形式）を表わします。

物理ファイルのすべてのメンバーが同じファイル属性（例えば、レコード長およびキー情報）を共有するために、同じライブラリーに復元される同じ名前の日付区分ファイルは、同じファイル属性をもっていなければなりません。属性の不一致があると、そのファイルは復元されません。

- 読み取り操作を含む、オブジェクト・レベルおよびレコード・レベルの機能は、RSTS36Fコマンドによって復元しているファイルに対して使用しないでください。そのファイルで同時に別の操作（例えば、ファイルの移動、またはレコードの読み取りまたは追加）を実行している場合に、そのファイルを割り振ることができなければ、復元操作は停止されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TOFILE	TOファイル	名前, *SET	必須, 定位置 1
TOLIB	TOライブラリー	名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *PHYFILE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
SET	セット識別コード	文字値, #SAVE	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
FROMLABEL	ファイル・ラベル	文字値	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *SEARCH	オプション
VOL	ボリューム識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, *MOUNTED	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
PHYFILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*NOREPLACE, *REPLACE	オプション
DATDIFF	日付区分ファイル	*NO, *YES	オプション

上

TOファイル (TOFILE)

システムに復元するすべての保管セットから、システムまたはグループのファイルに1つのファイルを復元する時には、そのファイルに指定された名前を指定します。1つのファイルを復元する場合には、このパラメーターによってシステムに復元する時点でファイルの名前を変更することができます。

これは必須パラメーターです。

***SET** ディスケットまたはテープのすべての保管セットからファイルのグループをシステムに保管することを指定します。

ファイル名

ファイルをシステムに復元する時に1つのファイルに指定したファイル名を指定します。

上

TOライブラリー (TOLIB)

復元したファイルをどのライブラリーに入れるかを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置 (DEV)

ディスク装置の名前、1つ以上のテープ装置の名前、あるいは復元するファイルがデータベース物理ファイル中にあるという指示を指定します。最大4つのテープ装置名を指定することができます。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を入力してください。各装置名は、装置記述によってすでにシステムに知られていなければなりません。

*PHYFILE

復元されるファイルは、データベース物理ファイルにあります。このデータベース物理ファイルの名前は、物理ファイルプロンプト(PHYFILEパラメーター)によって指定されます。

装置名 復元操作に使用するディスク装置の名前、あるいは1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を入力してください。最大4つのテープ装置名を指定することができます。

上

セット識別コード (SET)

システム/36,システム/34,またはシステム/32のSAVEプロシージャーまたは¥COPYユーティリティーによって、ディスクまたはテープに保管されるすべての保管セット・ファイルの識別に使用される名前を指定します。

#SAVE

ファイルは、#SAVEのセットIDによってすべての保管セットから復元されます。

セットID

すべての保管セットのセットIDを指定します。セットIDは、1から8桁の長さとすることができます。最初の文字は英字 (AからZ, #, ¥,または@)でなければなりません。その他の文字は、コンマ、アポストロフィ、およびブランクを除く任意の文字の組み合わせ (数字, 英字, および特殊な文字) とすることができます。

上

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

ファイルに2バイト文字セット(DBCS)データが入っているかどうかを指定します。

注: ファイルが **TOファイル**プロンプト(TOFILEパラメーター)に指定された名前ですでに存在している場合には、既存のファイルの2バイト文字セット(DBCS)機能は、復元操作では変更されません。

***NO** 復元中のファイルにDBCSデータが入っていないことがあります。復元中のファイルと同じ名前指定したライブラリーにファイルがすでに存在していて、そのファイルがDBCSデータを使用でき

る場合には、通知メッセージが送信されて、復元操作が続行します。結果のファイルでは、DBCSデータを使用することができます（ファイルのIGC属性は復元操作によって変更されません。）

- *YES** 復元中のファイルにはDBCSデータが入っていることがあります。復元中のファイルと同じ名前のファイルが指定したライブラリーにすでに存在していて、そのファイルでDBCSデータを使用できない場合には、通知メッセージが送信されて、復元操作が続行されます。その結果のファイルではDBCSデータを使用することはできません（ファイルのIGC属性は復元操作によって変更されません）。

上

ファイル・ラベル (FROMLABEL)

1つのファイルの復元操作では、このパラメーターを使用して、システムに復元されるファイルが入っているディスクまたはテープ・ファイルのラベルを指定することができます。値を指定しない場合には、**TO**ファイルプロンプト(TOFILEパラメーター)に指定されたファイル名がディスクまたはテープのファイル・ラベルとして使用されます。

グループの復元操作では、このパラメーターを使用して、復元操作を開始するすべての保管セット内のディスクまたはテープ・ファイルのラベルを指定することができます。値を指定しない場合には、復元操作はセット内の最初のファイルから開始します。

ラベルが指定される場合には、最大8桁の長さでなければなりません。

上

作成日 (CRTDATE)

復元操作で使用されるディスク・ファイルまたはテープ・ファイルの作成日を指定します。指定された日付は、テープの場合には年間通算日形式(CYYDDD)、ディスクの場合には国際形式(Yymmdd)に変更されます。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、復元操作に使用される順序番号を指定します。

***SEARCH**

装置のボリュームから、FROMLABELパラメーター値と一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかる、そのオブジェクトが復元されます。テープ装置に対する最後の操作で**テープ終了オプション (ENDOPT)**パラメーターに、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられることを指示する***LEAVE**が指定されていた場合には、現在のテープ位置を越えたところにある最初のデータ・ファイルからファイル検索が開始されます。最後の操作の**テープ終了オプション (ENDOPT)**パラメーターに***LEAVE**が使用されなかった場合、あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルの復元に使用するテープまたはディスクットのボリュームIDを指定します。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリュームID

ファイルの復元に使用するテープまたはディスクットのボリュームIDを指定してください。 ボリュームIDは50個まで指定することができます。

テープ終了オプション (ENDOPT)

テープを使用する場合に限り、復元操作の終了後に、テープに対してどのような自動位置付けを行うかを指定してください。このパラメーターは、最後に使用されたリールだけに適用されます。

***REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは巻き戻されません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

物理ファイル (PHYFILE)

復元処理用の入力ファイルとして使用されるデータベース物理ファイルの名前を指定します。指定されたファイルが存在していないか、または物理ファイルでないか、あるいはファイルにメンバーが含まれていない場合には、メッセージが送られます。ファイルに複数のメンバーが入っている場合には、ファイルの最初のメンバーが使用されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

既存の物理ファイル・メンバーのデータを置き換えるかどうかを指定します。

***NOREPLACE**

同じ名前をもつ既存の物理ファイル・メンバーの中のデータは置き換えられません。そして、ユーザーにエラー・メッセージが送られます。

***REPLACE**

同じ名前をもつ既存の物理ファイル・メンバーのデータは置き換えられます。

上

日付区分ファイル (DATDIFF)

復元操作で、同じ名前であるが、異なったファイル作成日の複数ファイルを使用できるかどうかを指定します。

***NO** 同じ名前で作成日の異なる複数のファイルが生じてはならない。

復元操作が***NO**の指定によって実行され、ファイルが同じ名前で指定したライブラリーにすでに存在している場合には、次の処置が取られます。

- メンバーの置き換え(***REPLACE**)が必要と**MBROPT**パラメーターが指定した場合には、メンバー内のデータは、保管ファイルからのデータと置き換えられます。
- **MBROPT**パラメーターでメンバーを置き換えないと指定している場合には、メッセージが送られて、ファイルは復元されません。
- 指定したライブラリーの**TOFILE**パラメーターに指定された名前のファイルが存在していない場合には、ファイルは正常に復元されます。

***YES** 同じ名前で作成日の異なるファイルが生じてもよい。

復元操作が***YES**の指定で実行され、ファイルが指定したライブラリーにすでに同じ名前で存在している場合には、次の処置が取られます。

- メンバーが**YYMMDD**の名前で存在していない場合には(**YYMMDD**は保管ファイルの作成日です)、新しいメンバーがファイルに追加され、保管ファイルからのデータがそこにコピーされます。
- メンバーが**YYMMDD**の名前で存在していて(**YYMMDD**は保管ファイルの作成日です)、メンバーの置き換えの必要(***REPLACE**)を**MBROPT**パラメーターが指定した場合には、メンバーのデータは保管ファイルからのデータで置き換えられます。
- メンバーが**YYMMDD**の名前で存在していて(**YYMMDD**は保管ファイルの作成日です)、メンバーの置き換えの不要(***NOREPLACE**)を**MBROPT**パラメーターが指定した場合には、メッセージが送られて、ファイルは復元されません。

指定したライブラリーに同じ名前でファイルがまだ存在していない場合には、新しいファイルが作成され、メンバーがファイルに追加され、保管ファイルからのデータは新しいメンバーにコピーされます。

上

例

例1: ディスケットからの復元

```
RSTS36F  TOFILE(ACCTRCV)  TOLIB(QS36F)  DEV(I1)
          CRTDATE('01/22/85') VOL(SAVE1)
```

このコマンドはファイルACCTRCVをライブラリーQS36Fに復元します。I1がディスク出入力装置記述オブジェクトの名前であるとする、ファイルはそのディスク装置に入っているディスクから復元されます。このディスクにはボリューム名のSAVE1が必要です。復元に使用されるディスク・ファイルにはファイル・ラベルのACCTRCVおよび作成日1985年1月22日（ジョブ日付形式が*MDYで、日付分離文字が/と想定する）が必要です。

例2: テープからの復元

```
RSTS36F  TOFILE(PAY.VIEW) TOLIB(PAYLIB)  DEV(T1)  FROMLABEL('P*V')
          ENDOPT(*LEAVE)
```

ファイルP*Vが装置T1からPAY.VIEWという名前でライブラリーPAYLIB内に復元されます。T1が磁気テープ装置であるとする、装置T1上にあるファイルが1つ以上のテープからコピーされます。テープ・ボリューム名の検査は行われません。復元操作が終了すると、そのテープは磁気テープ・ファイルP*Vの終わりに位置付けられたままです。

例3: 物理ファイルからの復元

```
RSTS36F  TOFILE(ACCTPAY)  TOLIB(QS36F)  DEV(*PHYFILE)
          PHYFILE(NETLIB/SENDFILE)
```

このコマンドは、ライブラリーNETLIB内の物理ファイルSENDFILEからライブラリーQS36F内にファイルACCTPAYを復元します。

例4: シーケンス番号の指定

```
RSTS36F  TOFILE(*SET)  TOLIB(QS36F)  DEV(T1 T2)
          SET(PAYFILES) FROMLABEL(FILE10)
          MBROPT(*REPLACE) DATDIFF(*YES)
          SEQNBR(*SEARCH) VOL(*MOUNTED) ENDOPT(*REWIND)
```

このコマンドは、PAYFILESと呼ばれるすべてのセットの保管のファイルのサブセットをテープからライブラリーQS36Fに復元します。復元操作はラベルがFILE 10であるテープ・ファイルで始められます。作成日が保管済みファイルと同じ、復元しようとするファイルのいずれかがライブラリーQS36Fにすでに存在している場合は、そのファイルが置き換えられます。別の作成日をもつファイルがライブラリーQS36Fにすでに存在している場合は、新規日付識別番号がファイルに追加されます。復元操作では、磁気テープ装置T1およびT2に入っているテープ・ボリュームが使用されます。復元操作が完了した後で、最後のテープ・ボリュームがテープの先頭まで巻き戻されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2C4A

このコマンドに対して装置&1が正しくない。

CPF2C4B

装置名リストに重複する装置&1が指定された。

CPF2C4C

ディスク装置&1が複数の装置仕様に含まれている。

CPF2C4D

すべてのファイルが復元されたわけではない。

CPF2C4E

すべてのファイルを復元する前に復元操作が終了した。

CPF2C45

入力ファイル&1をRSTS36Fで処理することはできない。

CPF2C47

ライブラリー&2の既存のファイル&1またはメンバー&3が置き換えられなかった。

CPF2C48

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C49

このコマンドに対して、&2の出力ファイル&1が正しくない。

CPF2C5A

ライブラリー&2の代替索引ファイル&1は置き換えられなかった。

CPF2C5E

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C50

ファイル&1のファイル記述が使用可能でない。

CPF2C52

ライブラリー&2にファイル&1を作成しようとした時にエラーが起こった。

CPF2C53

メンバー&3はエラーのためにライブラリー&2のファイル&1に追加されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

STATUS メッセージ*CPI2C11**

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3にレコードをコピー中。

上

S/36 ライブラリー・メンバー復元 (RSTS36LIBM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36ライブラリー・メンバー復元(RSTS36LIBM)コマンドは、ライブラリー・メンバーが入っているファイルを読み取り、データベース・ソースまたはデータ・ファイル・メンバーをこのシステム上に作成し、ファイルからのメンバー・データを復元される各メンバーにコピーします。

入力ファイルは、ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはこのシステム上のデータベース物理ファイルとすることができます。

このファイルは、システム/36,システム/34,またはシステム/32で、システム操作員制御言語(OCL)プロシージャFROMLIBRかSAVELIBR（または¥MAINT の同等の使用）を使用するか、あるいはシステム/36ライブラリー・メンバー保管(SAVS36LIBM)コマンドを使用して、作成することができます。

BACKUPプロシージャまたは¥BACKユーティリティーを使用してシステム/34上に作成されたディスク・ファイルは、このコマンドでは受け入れられません。圧縮されたSAVELIBRディスク・ファイル（リリース5.0以降のシステム/36にシステム・ライブラリーを配布するためにIBMで使用される）は、このコマンドでは受け入れられません。

システム/36の項では、入力ファイルの形式はSAVELIBRディスク・ファイルまたはテープ・ファイル、レコード・モードLIBRFILEディスク・ファイル、テープ・ファイル、または物理ファイル、またはセクター・モードLIBRFILEディスク・ファイル、テープ・ファイル、または物理ファイルとすることができます。言い換えると、入力ファイルはシステム/36 ¥MAINT SSPユーティリティーによって作成された任意のディスク・ファイル、テープ・ファイル、または物理ファイルとすることができます。

TOライブラリープロンプト(TOLIBパラメーター)に指定した値によって識別されるライブラリーが存在しない場合には、そのライブラリーが作成されます。また復元先ライブラリー中にソース・ファイルQS36SRCおよびQS36PRCが存在しない場合には、それらのファイルも作成されます。復元操作でライブラリーが作成されると、新しいライブラリーは、RSTS36LIBMコマンドを実行しているユーザーによって所有され、このライブラリーは省略時の権限*ALL（すなわち、AUT(*ALL)と同じ）によって作成されます。

システム/36に作成されたセクター方式FROMLIBRファイルまたはSAVELIBRを復元する場合には、復元済みロード・メンバーおよびサブルーチン・メンバーを保持するために、データ・ファイルQS36LODおよびQS36SBRも作成されることがあります。復元済みロード・メンバーおよびサブルーチン・メンバーは現行システムでは変換されません。

制約事項:

- 資源保護を使用してシステムで実行する時には、次の権限が必要です。
 1. *SECADM権限および*ALLOBJ権限
 2. このコマンドの*USE権限およびライブラリー作成(CRTLIB)コマンド*USE権限（ライブラリーを作成する必要がある場合）
 3. CRTSRCPFコマンドの*USE権限(QS36SRCまたはQS36PRCを作成する必要がある場合)
 4. CRTPFコマンドの*USE権限(QS36LODまたはQS36SBRを作成する必要がある場合)

5. TOLIBパラメーターに指定されたライブラリーの*CHANGE権限
 6. 指定したライブラリー中のファイルQS36SRCの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限（ソース・ライブラリー・メンバーを復元する場合）
 7. 指定したライブラリー中のファイルQS36PRCの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限（プロシージャー・ライブラリー・メンバーを復元する場合）
 8. 指定したライブラリー中のファイルQS36LODの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限（ロード・ライブラリー・メンバーを復元する場合）
 9. 指定したライブラリー中のファイルQS36SBRの*CHANGE権限および*OBJMGMT権限（サブルーチン・ライブラリー・メンバーを復元する場合）
 10. ライブラリーQSYS中のディスク装置記述オブジェクトの*USE権限，装置ファイルQSYSDKTの*USE権限（ディスクから復元する場合）
 11. ライブラリーQSYS中のテープ装置記述オブジェクトの*USE権限，装置ファイルQSYSTAPの*USE権限（テープから復元する場合）
 12. データベース物理ファイルからの復元の場合には，そのファイルに対する*USE権限，およびそのファイル(PHYFILEパラメーター)が入っているライブラリーに対する*USE権限
- RSTS36LIBMによってメンバーを復元するときは，ファイルQS36SRC, QS36PRC, QS36SBR,およびQS36LODのオブジェクト・レベル操作またはレコード・レベル操作が活動状態になっている必要があります。必要ファイルを排他的に割り振ることができない場合には，メンバーは復元されません。
 - 指定されたメンバー名または総称メンバー名(TOMBRパラメーター)は，i5/OS命名基準に従っている必要があります。

総称メンバー名または*ALLを指定すると，i5/OS単純オブジェクト名では使用できない文字を含む名前をもつメンバーを復元のために選択することができます。この場合には，メンバー名はi5/OS拡張名の構文（例えば，A!Bは'A!B'になる）を使用して復元されます。

名前にブランク，単一引用符('),二重引用符("),アスタリスク(*),疑問符(?),または装置制御文字(16進数'00'から'3F'または'FF')が含まれていると，これらの文字は下線によって置き換えられ，メンバーは置き換えた後の単純名または拡張名（例えば，A*/?はA_/_となり，A?はA_になる）を使用して復元されます。

有効な名前にするために無効文字を置き換えるたびに，通知メッセージが送信されます。置き換えた後の名前が変更されると，メンバーが置き換えられ，追加の通知メッセージが送信されます。メンバーが，無効文字を置き換えないで拡張名を使用して復元されると，メッセージは送信されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TOMBR	TOメンバー	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
TOLIB	TOライブラリー	名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *PHYFILE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
SRCMBRS	S/36ソース・メンバー	*ALL, *SRC, *PRC, *NONE	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	*NEW, *OLD, *ALL	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
FROMLABEL	ファイル・ラベル	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CRTDATE	作成日	日付, <u>*NONE</u>	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, <u>*SEARCH</u>	オプション
VOL	ボリューム識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値, <u>*MOUNTED</u>	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
PHYFILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OBJMBRS	S/36オブジェクト・メンバー	<u>*NONE</u> , *SBR, *LOD, *ALL	オプション

上

TOメンバー (TOMBR)

復元するメンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定したメンバー・タイプのすべてのメンバーが復元されます。

メンバー名

指定したメンバー名をもつメンバーが復元されます。

総称*メンバー名

指定された総称メンバー名をもつすべてのメンバーが復元されます。

上

TOライブラリー (TOLIB)

入力ファイルから復元するメンバーを入れるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置 (DEV)

復元操作に使用する装置の名前を指定します。最大4つの装置名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

***PHYFILE**

入力ファイルは、物理ファイルプロンプト(PHYFILEパラメーター)によって指定されたデータベース物理ファイルです。

装置名 復元操作に使用するディスク装置の名前、あるいは1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置名を指定してください。最大4つのテープ装置名を指定することができます。

上

S/36ソース・メンバー (SRCMBRS)

システム/36のどのソース・メンバー・タイプ（ソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバー）を復元するかを指定します。

***ALL** 入力ファイル中のソース・メンバーおよびプロシージャ・メンバーのうち、**TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定したメンバー名に該当するすべてのメンバーが復元されます。

***SRC** **TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定したメンバー名と一致するシステム/36ソース・メンバーだけが復元されます（受け入れファイルはQS36SRC）。

***PRC** **TO**メンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定したメンバー名と一致するシステム/36 OCLプロシージャ・メンバーだけが復元されます（受け入れファイルはQS36PRC）。

***NONE**

システム/36のどのソース・ライブラリー・メンバーもプロシージャ・ライブラリー・メンバーも復元されません。

上

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に現在データベース・ファイルがある場合には、ファイル・メンバーを復元するかどうかを指定します。

***NEW** 新しいメンバー（該当するファイルにまだ存在していないメンバー）だけが復元されます。

***OLD** 古いメンバー（該当するファイルにすでに存在しているメンバー）だけが復元されます。既存のメンバーは、ファイルから復元されたメンバーのコピーによって置き換えられます。

***ALL** すべてのメンバーが復元されます。存在していないメンバーは作成され、すでに存在しているメンバーは置き換えられます。

上

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

復元するソースおよびプロシージャ・メンバーに2バイト文字セット(DBCS)データを入れることができるかどうかを指定します。この属性は、復元されたライブラリー・メンバーを収めるために、復元操作でソース・ファイルQS36SRCおよびQS36PRCを作成する必要がある場合に使用されます。

注: **TO**ライブラリープロンプト(TOLIBパラメーター)に指定したライブラリーの中に、QS36SRCまたはQS36PRCソース・ファイルがすでに存在していて、そのファイルのDBCS機能がこのパラメーターと一致していない場合には、エラー・メッセージが送られ、メンバーは復元されません。

***NO** 復元するソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーは2バイト文字セット・データを含むことはできません。

***YES** 復元されているソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーは2バイト文字セット・データを含むことができます。

上

ファイル・ラベル (FROMLABEL)

復元するメンバーの入っているディスクレット・ファイルまたはテープ・ファイルのラベル値（最大8文字）を指定します。装置プロンプト(DEV パラメーター)に*PHYFILEを指定しなかった場合には、ここで値を指定しなければなりません。

上

作成日 (CRTDATE)

復元操作で使用されるディスクレット・ファイルまたはテープ・ファイルの作成日を指定します。指定された日付は、テープの場合には年間通算日形式(CYYDDD)、ディスクレットの場合には国際形式(Yymmdd)に変更されます。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、復元操作に使用される順序番号を指定します。

*SEARCH

装置のボリュームから、FROMLABELパラメーター値と一致するIDをもつデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかり、そのオブジェクトが復元されます。テープ装置に対する最後の操作でテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに、最後の操作が終了した位置にテープが位置づけられることを指示する*LEAVEが指定されていた場合には、現在のテープ位置を越えたところにある最初のデータ・ファイルからファイル検索が開始されます。最後の操作のテープ終了オプション (ENDOPT)パラメーターに*LEAVEが使用されなかった場合、あるいは操作の後でテープが手操作で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のデータ・ファイルから開始されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

上

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルの復元に使用するテープまたはディスクレットのボリュームIDを指定します。

*MOUNTED

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリュームID

ファイルの復元に使用するテープまたはディスクレットのボリュームIDを指定してください。ボリュームIDは50個まで指定することができます。

上

テープ終了オプション (ENDOPT)

テープを使用する場合に限り、復元操作の終了後に、テープに対してどのような自動位置付けを行うかを指定してください。このパラメーターは、最後に使用されたりールだけに適用されます。

*REWIND

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは巻き戻されません。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

上

物理ファイル (PHYFILE)

復元操作の入力ファイルとして使用されるデータベース物理ファイルの名前を指定します。指定されたファイルが存在していないか、あるいは物理ファイルでない場合には、ライブラリー・メンバーは復元されません。ファイルに複数のメンバーが入っている場合には、ファイルの最初のメンバーが使用されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

上

S/36オブジェクト・メンバー (OBJMBRS)

システム/36のどのオブジェクト・メンバー・タイプ（ロード・メンバーおよびサブルーチン・メンバー）を復元するかを指定します。システム/36とi5/OSのオブジェクトは互換性がないので、復元されたメンバーは復元操作の後ただちに使用可能にはなりません。そのオブジェクト・メンバーを使用可能なi5/OS オブジェクトに変換するためには、IBM提供コマンドまたはユーザー作成操作を実行しなければなりません。

*NONE

システム/36ロードまたはサブルーチン・ライブラリー・メンバーは復元されません。

***SBR** TOメンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定されたメンバー名に一致するシステム/36サブルーチン・メンバー（受け入れファイルQS36SBR）だけが復元されます。

***LOD** TOメンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定されたメンバー名に一致するシステム/36ロード・メンバー（受け入れファイルQS36LOD）だけが復元されます。

***ALL** TOメンバープロンプト(TOMBRパラメーター)に指定されたメンバー名に一致する入力ファイル中のすべてのロードおよびサブルーチン・メンバーが復元されます。

上

例

例1:メンバーのすべての復元

```
RSTS36LIBM  TOMBR(XYZ1)  TOLIB(JOHNSON)  DEV(I1)
              SRCMBRS(*PRC)  MBROPT(*ALL)  FROMLABEL('XYZ1')
```

このコマンドは、単一のOCLプロシージャ・メンバーXYZ1をライブラリーJOHNSON内のソース・ファイルQS36PRCのメンバーとして復元します。I1がディスク装置を指しているとする、入力ディスク・ファイルにはラベルXYZ1が必要です。

例2:ファイルからのメンバーの復元

```
RSTS36LIBM  TOMBR(X*)  TOLIB(ORDER)  DEV(*PHYFILE)
              PHYFILE(NETLIB/S36SRC)
```

このコマンドは、すべてのソースおよびプロシージャ・メンバーを、ライブラリーORDER内のQS36SRCおよびQS36PRCのメンバーとしてまだ存在していない、文字'X'で始まっている名前を復元します。メンバーはライブラリーNETLIB内のファイルS36SRCから復元されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2C4A

このコマンドに対して装置&1が正しくない。

CPF2C4B

装置名リストに重複する装置&1が指定された。

CPF2C4C

ディスク装置&1が複数の装置仕様に含まれている。

CPF2C41

&2個のメンバーが復元され、&3個のメンバーが復元されず、&4個のメンバーが除外された。

CPF2C42

ライブラリー&1に復元されたメンバーはない。&4個のメンバーが除外されました。

CPF2C46

入力ファイル&1をRSTS36LIBMで処理することはできない。

CPF2C48

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C49

このコマンドに対して、&2の出力ファイル&1が正しくない。

CPF2C5E

このコマンドに対して、&2の入力ファイル&1が正しくない。

CPF2C50

ファイル&1のファイル記述が使用可能でない。

CPF2C52

ライブラリー&2にファイル&1を作成しようとした時にエラーが起こった。

CPF2C53

メンバー&3はエラーのためにライブラリー&2のファイル&1に追加されなかった。

CPF2C57

DBCS属性が&2の既存のファイル&1と同じでない。

CPF2C70

入力ファイル&1に正しくない制御ステートメント・レコードが入っている。

CPF2C71

COPYステートメントのNAMEキーワードがないか、あるいは正しくない。

CPF2C72

COPYステートメントのLIBRARYキーワードがないか、あるいは正しくない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9824

ライブラリー&2のコマンド&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

***STATUS メッセージ**

CPI2C12

ライブラリー&2のファイル&1ラベル&3を作業ファイルにコピー中。

上

システム情報の復元 (RSTSYSINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム情報復元(RSTSYSINF)コマンドはシステム情報保管(SAVSYSINF)コマンドによって保管されるシステム・データおよびオブジェクトのサブセットを復元します。

RSTSYSINFは、システム・アップグレードまたはマイグレーションには使用されません。

機密保護関連システム値がロックされている場合には、これらは復元できません。機密保護関連システム値のロックおよびアンロックの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)を参照してください。

QPWDLVL (パスワード・レベル) システム値は、復元されません。QPWDLVLシステム値を変更する前に、System i機密保護解説書(SD88-5027)の第7章にある「パスワード・レベル変更の計画」を参照してください。また、QPWDLVLシステム値の現行設定値に基づき、QPWDMAXLEN (最大パスワード長)、QPWDMINLEN (最小パスワード長)、およびQPWDLDPGM (パスワード検証プログラム) システム値は復元できません。

注: RSTSYSINFコマンドは、オブジェクトの復元用に幾つかの復元コマンドを出します。パラメーターは、すべての復元コマンドに使用されることもされない場合もあります。

詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

上

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***SAVF**

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

上

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

単一値

***MOUNTED**

オブジェクトは、**装置 (DEV)**パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETT APCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

復元操作に使用される順序番号を指定します。

***SEARCH**

装置に入れられたボリュームの中で、保管されたシステム情報オブジェクトが入っているデータ・ファイルが検索されます。一致するものが見つかったら、そのシステム情報オブジェクトが復元されます。

1から16777215

復元操作に使用するファイルの順序番号を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況に関する情報を示すリストを作成して出力ファイルに入れるかどうかを指定します。このリストには、復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったオブジェクト、および除外されたオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機密保護についての情報が復元オブジェクト用にリストされます。

*NONE

出力は作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、OUTFILEパラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRRSTのファイルQASRRSTOをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

例

例1:TAP01から復元されるシステム情報

```
RSTSYSINF DEV(TAP01)
```

このコマンドは、システム情報をTAP01テープ装置に入れられたテープから復元します。

例2:SAVFから復元されるシステム情報および生成される印刷出力

```
RSTSYSINF DEV(*SAVF) SAVF(QGPL/SAVF) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中のSAVFという名前の保管ファイルからシステム情報を復元します。何が復元されたかについての情報は、スプール・ファイルに書き込まれます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF38A8

RSTSYSINFが完了しました。1つ以上のオブジェクトが保管されていません。

上

ユーザー・プロファイル復元 (RSTUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドは、システム保管(SAVSYS)コマンドまたは機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管されたユーザー・プロファイルの基本部分あるいはユーザー・プロファイルのセットを復元します。ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドは、ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF)コマンドで与えられた特殊権限だけを復元します。他のユーザーによって所有される指定されたオブジェクトの権限は復元しません。他のユーザーによって所有されるオブジェクトの権限を復元するためには、プロファイル、ライブラリー、およびオブジェクトが復元された後に権限復元(RSTAUT)コマンドを使用しなければなりません。すべてのユーザー・プロファイルを復元しようとする場合には、SAVSYSまたはSAVSECDTAコマンドの実行時に存在していた権限リストおよび権限ホルダーも復元されます。

USRPRF(*ALL)またはSECDTA(*DCM)を指定する場合には、システム上の他のすべての操作を停止しなければなりません。これには、サブシステム終了(ENDSBS(*ALL))コマンドまたはシステム終了(ENDSYS)コマンドによってすべてのサブシステムを終了するか、あるいはオペレーティング・システムの開始時にこのコマンドを指定する必要があります。通常、RSTUSRPRF コマンドは、オペレーティング・システムの復元後で、ユーザー・ライブラリーの復元前に使用します。ユーザー・プロファイルはそこに属しているライブラリーまたはオブジェクトをすべて復元する前に復元しなければなりません。ライブラリーおよびそのオブジェクトを復元した後に、RSTAUTコマンドによって、オブジェクトに対する権限をユーザー・プロファイルに復元します。コマンドの完了時に、メッセージCPF3775またはメッセージCPC3705がQHSTに送られます。システム復元の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

RSTUSRPRFコマンドによって復元中のユーザー・プロファイルには、次の状態が適用される場合があります。

- ユーザー・プロファイルがシステム上に存在しているが、媒体には存在しない場合は、システム上のプロファイルはそのまま残ります。
- ユーザー・プロファイルが媒体に存在しているが、システム上に存在していない場合は、新規にユーザー・プロファイルが作成されます。
- ユーザー・プロファイルが媒体とシステムの両方に存在する場合は、媒体のユーザー・プロファイルが復元されます。
- ユーザー・プロファイルが媒体に存在し、個別に復元中の場合は、パスワードまたはグループ接続なしの新規ユーザー・プロファイルが作成されます。
- ユーザー・プロファイルが媒体とシステムの両方に存在し、個別に復元中の場合は、媒体のユーザー・プロファイルが復元されます。しかし、システム上のパスワードおよびグループ接続は未変更のまま残ります。
- すべてのユーザー・プロファイルを復元中の場合は、パスワードおよびグループ接続も媒体から復元されます。
- ユーザー・プロファイルがシステム上に存在している場合は、既存のオブジェクト権限に変更はありません。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- USRPRF(*ALL)またはSECDDTA(*DCM)を指定する場合には、システム上の他のすべての操作を終了しなければなりません。システム終了(ENDSYS)またはサブシステム終了(ENDSBS)コマンドを使用して、これらの操作を終了することができます。ENDSYSまたはENDSBSコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。
- 権限リストおよび権限ホルダーを復元するためには、USRPRF(*ALL)を指定しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単一値: *ALL, *NEW, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 3
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル 修飾子 1: 保管ファイル 修飾子 2: ライブラリー	修飾オブジェクト名 名前 名前, *LIBL, *CURLIB	オプション
MAIL	メール	*NO, *YES	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション
OMITUSRPRF	除外するユーザー・プロファイル	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SECDDTA	機密保護データ	*USRPRF, *PVTAUT, *PWDGRP, *DCM	オプション
OMITSECDDTA	機密保護データの除外	単一値: *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *DCM, *FCNUSG	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *OUTFILE	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
SAVASPDEV	保管元ASP装置	名前, *ANY, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル 修飾子 1: 出力を受け取るファイル 修飾子 2: ライブラリー	修飾オブジェクト名 名前 名前, *LIBL, *CURLIB	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

上

装置 (DEV)

復元操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***SAVF**

復元操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

復元操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

復元操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

復元操作に使用される1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置（最大4つまで）を使用する場合には、使用する順序で装置の名前を指定してください。複数のテープ・ボリュームを復元するときに複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻しながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

復元するユーザー・プロファイルを指定します。復元するためには、このユーザー・プロファイルがシステム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドの時の媒体に存在していなければなりません。

単一値

***ALL** システム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管されたすべてのユーザー・プロファイル、権限リスト、権限ホルダー、および内部権限オブジェクトが復元されます。

***NEW** システム保管(SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDDTA)コマンドによって保管され、現在システム上に存在しないすべてのユーザー・プロファイル、権限リスト、権限ホルダー、および内部権限オブジェクトが復元されます。

***NONE**

ユーザー・プロファイルは復元されません。この値を指定できるのは、**機密保護データ (SECDDTA)** パラメーターに*DCMが指定された場合だけです。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 復元するユーザー・プロファイルのセットの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前と一緒に*が指定されていない場合には、システムはその名前がユーザー・プロファイル名全体であるとみなします。

名前 復元される特定ユーザー・プロファイルの名前を1つまたは複数個指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

上

ボリューム識別コード (VOL)

オブジェクト復元元である媒体のボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、データが保管された時と同じ順序で入れなければなりません。復元されるファイルの先頭が入っているボリュームを装置に入れておく必要があります。

単一値

***MOUNTED**

オブジェクトは、**装置 (DEV)**パラメーターに指定された装置に入っているボリュームから復元されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定 (SETT APCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの復元に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

復元処理に使用されるテープ・ファイルの順序番号を指定します。

***SEARCH**

装置に入れられたボリュームは、保管されたユーザー・プロファイルが入っているファイルを検索されます。一致が見つかり、ユーザー・プロファイルが復元されます。一致が見つからない場合には、別のテープを装てんしてコマンドをやり直さなければなりません。

装置での最後の操作で、テープを最後の操作が終了したロケーションに位置付けることを指示する *LEAVEが**媒体の終わりオプション (ENDOPT)**パラメーターに指定された場合には、ファイルの検

索は現在のテープ位置より先の最初のデータ・ファイルから開始されます。最後の操作の ENDOPTパラメーターに*LEAVEが使用されなかったり、あるいは操作の後にテープが手動で巻き戻された場合には、検索はボリューム上の最初のファイルから開始されます。

1から16777215

ユーザー・プロファイルの復元に使用するファイルの順序番号を指定します。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

復元操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームにおいて自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

保管ファイル (SAVF)

データを復元するために使用される保管ファイルを指定します。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

メール (MAIL)

V2R2M0より前のリリースから保管されたOFFICEVISION配布オブジェクトを復元するかどうかを指定します。

注: このパラメーターに*YESを指定できるのは、ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターに*ALLを指定した場合だけです。

***NO** メールの一部である配布オブジェクトは、ユーザー・プロファイルの復元と一緒に復元されません。

***YES** 保管データがリリースV2R2M0より前に作成されていた場合には、メールの一部である配布オブジェクトは、ユーザー・プロファイルの復元とともに復元されます。そうでない場合には、配布オブジェクトは復元されません。V2R2M0以降に作成された保管配布オブジェクトの場合には、文書ライブラリー・オブジェクト復元(RSTDLO)コマンドにDLO(*MAIL)を指定してメールを復元してください。

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト: 保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注: 保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権: システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ: システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大3個指定可能）

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は***EXCLUDE**に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が***EXCLUDE**に設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

注: ***PGP**値はユーザー・プロファイルには適用されません。1次グループとの相違があるユーザー・プロファイルは常に復元されます。

上

除外するユーザー・プロファイル (OMITUSRPRF)

復元から除外するユーザー・プロファイルを指定します。

単一値

***NONE**

どのユーザー・プロファイルも復元から除外されません。

その他の値（最大300個指定可能）

総称名 復元から除外されるユーザー・プロファイルのセットの1つまたは複数の総称名を指定します。総

称名は1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は任意の有効文字で置き換えられます。総称名は、その接頭部で始まるすべてのユーザー・プロファイルを指定します。総称名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 復元から除外される特定のユーザー・プロファイルの1つまたは複数の名前を指定します。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

上

機密保護データ (SECDTA)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルで復元される権限情報を指定します。

*USRPRF

指定されたユーザー・プロファイルおよび専用権限が復元されます。USRPRFパラメーターに*ALLが指定した場合には、パスワードおよびグループ・リンケージも復元されます。そうではない場合には、指定されたユーザー・プロファイルのパスワードおよびグループ・リンケージは復元されません。

*PVTAUT

指定されたユーザー・プロファイルおよび補助記憶域プールの専用権限だけが復元されます。参照されるオブジェクトへの専用権限を復元するには、この情報が権限復元(RSTAUT) コマンドによって使用されます。USRPRFパラメーターに*NEWが指定する場合には、この値は指定できません。

*PWDGRP

指定されたユーザー・プロファイル、その専用権限、およびパスワードとグループ・リンケージが復元されます。

***DCM** デジタル証明書マネージャー(DCM)に必要な内部オブジェクトだけが復元されます。ユーザー・プロファイルは復元されません。この値が指定された場合には、USRPRFパラメーターに*NONEを指定する必要があります。

上

機密保護データの除外 (OMITSECDTA)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターに*ALLが指定された場合に復元操作から除外される権限情報を指定します。

単一値

*NONE

機密保護情報は除外されません。

その他の値 (最大3個指定可能)

*AUTL

権限リスト(*AUTL)および権限ホルダー(*AUTHLR)オブジェクトは除外されます。ただし、システムに既に存在しているこれらのオブジェクトについては、すべての特定のユーザー権限が復元されます。これらの権限の復元を完了させるには、権限復元(RSTAUT)コマンドを実行する必要があります。

*DCM デジタル証明書マネージャー(DCM)に必要な内部オブジェクトが除外されます。

***FCNUSG**

機能使用法情報は除外されます。ただし、システムに既に存在している機能IDについては、すべての特定のユーザー設定が復元されます。これらの設定の復元を完了させるには、権限復元 (RSTAUT)コマンドを実行する必要があります。

上

出力 (OUTPUT)

オブジェクトの状況についての情報を示すリストを作成して出力ファイルに送るかどうかを指定します。このリストには復元情報が表示され、復元されたすべてのオブジェクト、復元されなかったすべてのオブジェクト、および除外されたすべてのオブジェクトが表示されます。復元されたオブジェクトの場合には、それぞれのオブジェクトの機密保護についての情報がリストされます。

***NONE**

出力は作成されません。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: このパラメーターに*OUTFILEを指定した場合には、データベース・ファイル名をOUTFILEパラメーターに指定する必要があります。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

復元操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

'光ディスクのパス名'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリーから対応する保管操作によって生成された省略時の名前を検索します。

上

保管元ASP装置 (SAVASPDEV)

保管された専用権限情報が入っていた補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。この専用権限情報は、後で権限復元(RSTAUT)機能によって使用できるように復元されます。

*ANY 保管操作に組み込まれたすべてのASPから保管された専用権限情報が復元されます。

- * システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPから保管された専用権限情報が復元されます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPから保管された専用権限情報が復元されます。

***CURASGRP**

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPから保管された専用権限が復元されます。

名前 保管された専用権限情報が入っていたASP装置の名前を指定します。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRRSTのファイルQASRRSTOをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メン

バーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。 OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

例

例1:すべてのプロファイルの復元

```
RSTUSRPRF  DEV(TAP01)  SEQNBR(*SEARCH)  ENDOPT(*REWIND)
```

このコマンドは、現在TAP01という名前のテープ装置に入れられたテープに入っているすべてのユーザー・プロファイルシステムに復元します。テープからファイルが検索され、完了時または復元の終了時にテープが巻き戻されます。

例2:特定のユーザー・プロファイルの復元

```
RSTUSRPRF  DEV(TAP01)  USRPRF(USRA USRB USRC USER*)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルUSRA, USRB,およびUSRCを、名前がUSERで始まるすべてのユーザー・プロファイルと一緒に復元します。すべてのユーザー・プロファイルの保管バージョンがテープ装置TAP01に入れられたテープ上に存在していることが必要です。

例3:保管ファイルからのユーザー・プロファイルの復元

```
RSTUSRPRF  DEV(*SAVF)  USRPRF(USRX USRY)  SAVF(QGPL/SAVESEC)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルUSRXおよびUSRYをライブラリーQGPLの保管ファイルSAVESECからシステムに復元します。

例4:復元されたユーザー・プロファイルと復元されなかったユーザー・プロファイルに関する情報の報告

```
RSTUSRPRF  DEV(TAP01)  USRPRF(*ALL)  OUTPUT(*OUTFILE)
           OUTFILE(PRFS92)  OUTMBR(FOURQT *ADD)
```

このコマンドは、テープ装置TAP01からすべてのユーザー・プロファイルを復元します。復元されたユーザー・プロファイルと復元されなかったユーザー・プロファイルに関する情報を報告するリストが出力ファイルPRF S92に送られます。この出力は、メンバー内の既存の情報への追加としてメンバーFOURQTで受け取られます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPD3774

MAIL(*YES)を指定した場合には、USRPRF(*ALL)が必要である。

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF370C

ALWOBJDIFパラメーターが認可されていない。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3748

ライブラリー&1のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF376B

ファイル&1が見つからない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3775

一部のユーザー・プロファイルまたは権限オブジェクトが復元されていない。

CPF3780

ライブラリー&1に指定したファイルが見つからない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3785

終了していないサブシステムがある。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3796

ユーザー・プロファイル&4の記憶域限界を超えた。

CPF380C

ライブラリー&1は復元されなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

上

サブルーチンからの戻り (RTNSUBR)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブルーチンからの戻り(RTNSUBR)コマンドは、サブルーチンを呼び出したサブルーチン呼び出し(CALLSUBR) コマンド直後のコマンドに制御を戻します。RTNSUBRコマンドはサブルーチン内で使用する必要があります。またサブルーチン内では複数のRTNSUBRコマンドを使用できます。エラー・コードなどの値を戻す場合には、戻り値が4バイトの符号付き整数CL変数に保管できるようになっていなければなりません。戻り値 (RTNVAL)パラメーターは変数または定数とすることができます。RTNVALパラメーターを定義しない場合は、値は省略時のゼロになります。

制約事項:

- このコマンドは、CLサブルーチン内でのみ有効です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RTNVAL	戻り値	整数, <u>0</u>	オプション

上

戻り値 (RTNVAL)

サブルーチンから戻される値を指定します。これは、4バイトの符号付き整数CL変数に保管できる変数または定数とすることができます。サブルーチンを呼び出したサブルーチン呼び出し(CALLSUBR)コマンドが戻された値のCL変数を指定している場合には、変数がこの値に設定されます。

0 サブルーチンはゼロを戻します。

整数定数

戻り値の定数整数値を指定してください。

CL変数名

呼び出されるサブルーチンからの戻り値を入れるCL変数の名前を指定してください。これは符号付き整数CL変数でなければなりません。

上

例

```
PGM
:
SUBR SUBR1
:
IF (&A *LT 30) THEN(RTNSUBR RTNVAL(-1))
:
ENDSUBR
ENDPGM
```

このCLサブルーチンは、&Aが30未満の場合に、RTNSUBRコマンドによって終了され、戻り値は-1となります。

上

エラー・メッセージ

なし

上

権限リスト項目検索 (RTVAUTLE)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト項目検索(RTVAUTLE)コマンドは、CLコマンドまたはREXXプロシージャーで使用して、ユーザーが権限リスト上にもつ権限を検索します。このコマンドは、ユーザーの既存の権限に加えて新しい権限を組み込む目的でユーザーの権限を変更するために、権限リスト項目変更コマンドと一緒に使用することができます。

権限リスト名およびユーザー名を指定しなければなりません。ユーザーに必要な各権限用の変数に空白が戻されるのは、ユーザーにその権限がない場合です。ユーザーに権限がある場合は、権限リスト項目変更(CHGAUTLE)コマンドの正しい値が変数に戻されます。この値は、指定されたユーザーのために指定された変数に戻されます。

権限リスト管理(*AUTLMGT)権限をもつユーザーまたは権限リストを所有するユーザー・リスト上のユーザーの権限を検索することができます。その他のユーザーは、ユーザー自身の権限または*PUBLIC権限を得ることができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
AUTL	権限リスト	名前	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	名前, *PUBLIC	必須, 定位置 2
ALL	*ALLのCL変数 (10)	文字値	オプション
CHANGE	*CHANGEのCL変数 (10)	文字値	オプション
USE	*USEのCL変数 (10)	文字値	オプション
EXCLUDE	*EXCLUDEのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJALTER	*OBJALTERのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJEXIST	*OBJEXISTのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJMGT	*OBJMGTのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJOPR	*OBJOPRのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJREF	*OBJREFのCL変数 (10)	文字値	オプション
READ	*READのCL変数 (10)	文字値	オプション
ADD	*ADDのCL変数 (10)	文字値	オプション
UPDATE	*UPDのCL変数 (10)	文字値	オプション
DELETE	*DLTのCL変数 (10)	文字値	オプション
EXECUTE	*EXECUTEのCL変数 (10)	文字値	オプション
AUTLMGT	*AUTLMGTのCL変数 (10)	文字値	オプション

上

権限リスト (AUTL)

ユーザーの権限が由来する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 変更する権限リストの名前を指定してください。

上

ユーザー (USER)

情報を検索するユーザーを指定します。変数を指定する場合には、ユーザー名または値*PUBLICが入っている10文字のフィールドでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

*PUBLIC

指定したパラメーターに戻される情報は、権限リストに対する特定権限がなく、そのグループが権限リストに対して特定権限をもっていないユーザーに関するものです。

名前 情報を検索するユーザーのユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

*ALLのCL変数 (10) (ALL)

ユーザーが*ALL権限をもっている場合には、特殊値*ALLを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

*CHANGEのCL変数 (10) (CHANGE)

ユーザーが変更権限をもっている場合には、特殊値*CHANGEを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

*USEのCL変数 (10) (USE)

ユーザーが使用権限をもっている場合には、特殊値*USEを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***EXCLUDEのCL変数 (10) (EXCLUDE)**

ユーザーが実行権限をもっている場合には、特殊値*EXCLUDEを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***OBJALTERのCL変数 (10) (OBJALTER)**

ユーザーに*OBJALTER権限がある場合には、*OBJALTERを戻すために使用する変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、この変数は10文字の長さです。ユーザーに*OBJALTER権限がない場合には、変数にブランクが戻されます。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***OBJEXISTのCL変数 (10) (OBJEXIST)**

ユーザーがオブジェクト存在権限をもっている場合には、特殊値*OBJEXISTを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***OBJMGTのCL変数 (10) (OBJMGT)**

ユーザーがオブジェクト管理権限をもっている場合には、特殊値*OBJMGTを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***OBJOPRのCL変数 (10) (OBJOPR)**

ユーザーがオブジェクト操作権限をもっている場合には、特殊値*OBJOPRを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***OBJREFのCL変数 (10) (OBJREF)**

ユーザーに*OBJREF権限がある場合には、*OBJREFを戻すために使用する変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、この変数は10文字の長さです。ユーザーに*OBJREF権限がない場合には、変数にブランクが戻されます。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***READのCL変数 (10) (READ)**

ユーザーが読み取り権限をもっている場合には、特殊値*READを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***ADDのCL変数 (10) (ADD)**

ユーザーが追加権限をもっている場合には、特殊値*ADDを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***UPDのCL変数 (10) (UPDATE)**

ユーザーが更新権限をもっている場合には、特殊値*UPDを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

***DLTのCL変数 (10) (DELETE)**

ユーザーが削除権限をもっている場合には、特殊値*DLTを戻すために使用される変数の名前を指定します。CLでは、これは10文字の変数でなければなりません。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数にはブランクが戻されます。

上

*EXECUTEのCL変数 (10) (EXECUTE)

ユーザーに*EXECUTE権限がある場合には、*EXECUTEを戻すために使用する変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、この変数は10文字の長さです。ユーザーに*EXECUTE権限がない場合には、変数に空白が戻されます。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数には空白が戻されます。

上

*AUTLMGTのCL変数 (10) (AUTLMGT)

ユーザーが権限リスト管理権限をもっている場合には、特殊値*AUTLMGTを戻すために使用される変数の名前を指定します。

ユーザーにこの権限がない場合は、変数には空白が戻されます。

上

例

```
ADDAUTLE  AUTL(PAYROLL)  USER(TOM)
           AUT(*OBJOPR *READ *UPD *AUTLMGT)
```

ユーザーSMITHが以下の入っている制御言語プログラムを呼び出す場合:

```
DCL      &CHG          *CHAR 10
DCL      &ALL          *CHAR 10
DCL      &USE          *CHAR 10
DCL      &EXCL        *CHAR 10
DCL      &OBJJOP      *CHAR 10
DCL      &ALTER       *CHAR 10
DCL      &REFER       *CHAR 10
DCL      &READ        *CHAR 10
DCL      &ADD         *CHAR 10
DCL      &UPD         *CHAR 10
DCL      &DLT         *CHAR 10
DCL      &EXEC        *CHAR 10
DCL      &AUTLM       *CHAR 10
:
RTVAUTLE AUTL(PAYROLL)  USER(TOM)  USE(&USE) +
           OBJOPR(&OBJJOP)  AUTLMGT(&AUTLM)
```

このコマンドは、以下の権限をユーザーTOMの権限リストPAYROLLから検索します。つまり、*USE,*OBJOPR,および*AUTLMGTです。TOMにこの権限がない場合は、空白が戻されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF22A7

ユーザー&1は権限リスト&2になく、権限の検索は行われなかった。

CPF22A8

ユーザー&1の権限の検索は認可されていない。

CPF2204

ユーザー・プロフィール&1が見つからない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

上

バックアップ・オプション検索 (RTVBCKUP)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ検索(RTVBCKUP)コマンドは、ユーザーが事前定義バックアップのいずれかにあるオプションを検索してCL変数に入れることができる制御言語プログラムまたはREXXプロシージャーで使用されます。バックアップの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
BCKUPOPT	バックアップ・オプション	*DAILY, *WEEKLY, *MONTHLY	必須, 定位置 1
DEV	DEVのCL変数 (43)	文字値	オプション
TAPSET	TAPSETのCL変数 (34)	文字値	オプション
CLRTAP	CLRTAPのCL変数 (4)	文字値	オプション
SBMJOB	SBMJOBのCL変数 (4)	文字値	オプション
CHGONLY	CHGONLYのCL変数 (4)	文字値	オプション
PRTRPT	PRTRPTのCL変数 (4)	文字値	オプション
LIB	LIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
FLR	FLRのCL変数 (10)	文字値	オプション
DIR	DIRのCL変数 (10)	文字値	オプション
SECDTA	SECDTAのCL変数 (4)	文字値	オプション
CFG	CFGのCL変数 (4)	文字値	オプション
MAIL	MAILのCL変数 (4)	文字値	オプション
CAL	CALのCL変数 (4)	文字値	オプション
EXITPGM	EXITPGMのCL変数 (10)	文字値	オプション
EXITPGMLIB	EXITPGMLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション

上

バックアップ・オプション (BCKUPOPT)

検索するバックアップ・オプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DAILY

日次バックアップ・オプションが検索されます。

*WEEKLY

週次バックアップ・オプションが検索されます。

***MONTHLY**

月次バックアップ・オプションが検索されます。

上

DEVのCL変数 (43) (DEV)

装置値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は43桁です。戻される値は空白で区切られた4個の10桁の装置名から成る文字ストリングです。

上

TAPSETのCL変数 (34) (TAPSET)

テープ・セット名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は34桁（空白で区切られた7個の4桁のテープ・セット名）です。

上

CLRTAPのCL変数 (4) (CLRTAP)

バックアップ用のテープの消去に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

上

SBMJOBのCL変数 (4) (SBMJOB)

バックアップがバッチ・ジョブとして実行されるかどうかの標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

上

CHGONLYのCL変数 (4) (CHGONLY)

変更されたオブジェクトのみの保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

上

PRTRPTのCL変数 (4) (PRTRPT)

保管したオブジェクトの印刷に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

上

LIBのCL変数 (10) (LIB)

このバックアップで保管するライブラリーを指定する値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の長さは、少なくとも10文字でなければなりません。値*ALLUSR, *FROMLIST,または*NONEが戻されます。

上

FLRのCL変数 (10) (FLR)

このバックアップで保管するフォルダーを指定する値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の長さは、少なくとも10文字でなければなりません。値*ALL, *FROMLIST,または*NONEが戻されます。

上

DIRのCL変数 (10) (DIR)

このバックアップで保管するユーザー・ディレクトリーを指定した値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の長さは、少なくとも10文字でなければなりません。*ALLUSRまたは*NONEの値が戻されます。

上

SECDTAのCL変数 (4) (SECDTA)

機密保護データの保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

上

CFGのCL変数 (4) (CFG)

構成データの保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

上

MAILのCL変数 (4) (MAIL)

OFFICEVISIONメールの保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

上

CALのCL変数 (4) (CAL)

OFFICEVISION予定表の保管に関する標識を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の最小長は4桁でなければなりません。戻される値は*YESまたは*NOです。

上

EXITPGMのCL変数 (10) (EXITPGM)

バックアップの実行の前後に呼び出すユーザー・プログラムの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、少なくとも10桁の長さでなければなりません。出口プログラムが指定されていない場合には、*NONEが戻されます。

上

EXITPGMLIBのCL変数 (10) (EXITPGMLIB)

出口プログラムが入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、少なくとも10桁の長さでなければなりません。出口プログラムが指定されていない場合には、空白が戻されます。*LIBLが戻された場合には、プログラムはライブラリー・リストを使用します。

上

例

```
RTVBCKUP BCKUPOPT(*DAILY) SBMJOB(&SBMJOBVAR) LIB(&LIBVAR)
```

このコマンドは、CL変数SBMJOBVARおよびLIBVAR中で、日次バックアップのSBMJOBおよびLIB値を個別に検索します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1EE3

バックアップ・オプションは認可されていない。

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

上

バインダー・ソース検索 (RTVBNDSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインダー・ソース検索(RTVBNDSRC)コマンドを使用して、1セットのモジュール、サービス・プログラム、またはその両方からのエクスポートを検索し、それらを（エクスポートに必要なバインダー言語ステートメントとともに）指定したファイル・メンバーに入れることができます。このファイル・メンバーは、後でサービス・プログラム作成(CRTSRVPGM)コマンドのSRCMBRパラメーターへの入力として使用することができます。バインダー言語が検索されてソース・ファイルのメンバーに入れられた後に、そのバインダー言語を編集して、必要な変更を行うことができます。

省略時の値によって、CRTSRVPGMコマンドには、サービス・プログラムからの搬出を識別するためにEXPORTおよびSRCFILEパラメーターに指定されたバインダー言語ファイルが入れられます。RTVBNDSRCコマンドは、このバインダー言語を自動的に作成する際に有効に役立てることができます。

制約事項:

- このファイルが存在していない場合には、ソース物理ファイル作成(CRTSRCPF)コマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。
- 物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)コマンドに対する*USE権限が必要です。
- このメンバーが存在していない場合には、物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドに対する*USE権限が必要です。
- ユーザーには、エクスポートの検索元のモジュールまたはサービス・プログラムに対する*USE権限が必要です。
- ユーザーには、モジュールまたはサービス・プログラムが存在しているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- バインダー言語を受け取るためのソース・ファイルおよびソース・メンバーが存在している場合には、ファイルに対して変更(*CHANGE)権限とオブジェクト変更(*OBJALTER)またはオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要であり、そのファイルが入っているライブラリーに対して*EXECUTE権限が必要です。
- ソース・ファイルは存在しているが、ソース・メンバーを作成する必要がある場合には、ファイルに対する変更(*CHANGE)権限および*OBJALTERまたは*OBJMGTのいずれかの権限と、そのファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE、読み取り(*READ)、および追加(*ADD)権限が必要です。
- ソース・ファイルおよびソース・メンバーを作成する必要がある場合には、ライブラリーに対する*EXECUTE、*READ、および*ADD権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MODULE	モジュール	値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サービス・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイルのエクスポート	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイルのエクスポート	名前, <u>QSRVSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバーのエクスポート	名前, *DFT	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE	オプション

上

モジュール (MODULE)

エクスポートされた記号を検索するモジュールのリストを指定します。重複するモジュールおよびライブラリーの指定が見つかった場合には、重複するモジュールおよびライブラリーの最初に見つかったものだけが使用されます。

このパラメーターまたはサービス・プログラム (SRVPGM) パラメーターには、少なくとも1つの値が指定されていなければなりません。

このパラメーターには最大300個までの値を指定することができます。

修飾子1: モジュール

***ALL** 指定したライブラリーのすべてのモジュールからエクスポートされた記号が検索されます。

総称名 エクスポートされた記号を検索する総称モジュール名を指定してください。指定した1つまたは複数のライブラリーの接頭部が同じ名前のすべてのモジュールが使用されます。総称名は1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 エクスポートされた記号を検索するモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーのみが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

サービス・プログラム (SRVPGM)

エクスポートされる記号の検索元のサービス・プログラムを指定します。このパラメーターまたは**モジュール (MODULE)**パラメーターには、少なくとも1つの値が指定されていなければなりません。

修飾子1: サービス・プログラム

名前 エクスポートされる記号の検索元のサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイルのエクスポート (SRCFILE)

エクスポートされた記号用のバインダー言語を入れるソース・ファイルを指定します。ソース・ファイルが存在していない場合には作成されます。

注:

- 指定できるのは、タイプ*SRCのデータベース物理ファイルだけです。分散データ管理機能(DDM)ファイルはサポートされません。
- バインダー言語を受け取るためのソース・ファイルが存在している場合には、そのレコード長は最小92バイトでなければなりません。

修飾子1: ソース・ファイルのエクスポート

QSRVSRC

ソース・ファイル名はQSRVSRCです。

名前 ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。指定した名前ライブラリー・リストにソース・ファイルが見つからない場合には現行ライブラリーに作成されます。現行ライブラリーがない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。指定した名前がソース・ファイルが存在しない場合には現行ライブラリーに作成されます。現行ライブラリーがない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。指定した名前がこのライブラリーにソース・ファイルが見つからない場合には、このライブラリーにソース・ファイルが作成されます。

上

ソース・メンバーのエクスポート (SRCMBR)

エクスポートされた記号用のバインダー言語を入れるソース・ファイル・メンバーを指定します。ただ1つのソース・メンバーだけにバインダー言語が入ります。

メンバーが指定したソース・ファイルに存在しない場合にはメンバーが作成されます。

***DFT** サービス・プログラムが指定されていると、ソース・ファイル・メンバーの名前は**サービス・プログラム (SRVPGM)**パラメーターに指定された値から取られます。そうでない場合は、ソース・ファイル・メンバーの名前は**モジュール (MODULE)**パラメーターに指定された値から取られます。

- モジュールを1つしか指定していない場合には、そのモジュールの名前が使用されるメンバー名です。
- 複数のモジュールが指定されている場合には、最初指定されたモジュールが使用されます。
- 値*ALLまたは総称名が指定されている場合には、最初に見つかったモジュール名が使用されるソース・メンバーになります。

名前 生成されたソース・バインダー言語が入るメンバーの名前を指定してください。

上

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

生成されたバインダー言語ステートメントを置き換えるかあるいは既存のステートメントに追加するかを指定します。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

注: メンバーがすでに存在していて、たとえば、すでにSTRPGMEXPおよびENDPGMEXP ステートメントが入っている場合には、このメンバーには、この操作の終わりにバインダー言語の複数のSTRPGMEXPおよびENDPGMEXPステートメントが入っている場合があります。バインダー言語をサービス・プログラム作成(CRTSRVPGM)コマンドで使用するためには、これら複数のステートメントを編集する必要があります。

上

例

```
RTVBNSRC  MODULE(MYLIB/*ALL)
           SRCFILE(MYLIB/MYBINDFILE) MBROPT(*ADD)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のすべてのモジュールからエクスポートを検索し、それを最初に見つかったモジュールの名前を付けてソース・メンバーに入れます。このソース・メンバーがライブラリーMYLIB内のファイルMYBINDFILE中に存在していない場合は、そのメンバーが作成されます。エクスポート・ステートメントがメンバーの終わりに追加されます。このコマンドの終了時に、複数プログラム・エクスポート開始および終了ステートメントが存在している場合は、ソース・メンバーを使用してサービス・プログラムを作成する前に、そのソース・メンバーを編集する必要があります。エクスポート・ブロックの一部がサービス・プログラムの前のバージョン用である場合は、余分のSTRPGMEXP、ENDPGMEXPステートメントを除去できるか、PGMLVLパラメーターをSTRPGMEXPステートメントに追加できるかのいずれかです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5CA5

データベース・ソース・ファイルのレコード長が小さすぎる。

CPF5D06

ライブラリー&2,ライブラリー&2のファイル&1,またはメンバー&3は認可されていない。

CPF5D08

ライブラリー&2のファイル&1のファイル・タイプはサポートされていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9832

DDMファイル&2はこの機能でサポートされていない。

CPF9834

ライブラリー&2の入力ファイル&1はソース・ファイルでない。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

構成ソースの検索 (RTVCFGSRG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成ソースの検索(RTVCFGSRG)コマンドは、既存の構成オブジェクトを記述しているCLソース・ステートメントを検索するために使用されます。これらのソース・ステートメントは、ソース・ファイル・メンバーに入れられます。CLソース仕様は、構成オブジェクトを再作成するために使用することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CFGD	構成記述	単一値: *ALL その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*ALL, *NWS, *NWID, *LIND, *CTLD, *DEVD, *MODD, *COSD, *CNL, *NTBD	必須, 定位置 2
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QCLSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *CFGD	オプション, 定位置 4
RTVOPT	検索オプション	*NET, *OBJ	オプション
MBROPT	メンバー・オプション	*ADD, *REPLACE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *CFGDTXT, *BLANK	オプション

上

構成記述 (CFGD)

検索する構成オブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*ALL 指定された構成タイプ(CFGTYPEパラメーター) のすべての構成オブジェクトが検索されます。

総称構成オブジェクト名

構成記述名の総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング (例えば, ABC*など) です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

構成記述名

構成記述のユーザー定義名を指定してください。

最大256個の名前を指定することができます。 構成オブジェクト名と総称名をどのようにでも組み合わせることができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

上

タイプ (CFGTYPE)

検索する構成オブジェクトのタイプを指定します。

***ALL** 指定された名前と一致するすべてのネットワーク・サーバー記述、ネットワーク・インターフェース、回線、制御装置、装置、接続リスト、モード、サービス・クラス、およびNETBIOS記述が次の順序で検索されます。

1. 接続リスト
2. ネットワーク・サーバー記述
3. ネットワーク・インターフェース
4. 非TDLC回線記述
5. 非TDLC制御装置記述
6. TDLC回線記述
7. TDLC制御装置記述
8. 装置記述
9. モード記述
10. サービス・クラス記述
11. NETBIOS記述
12. 回線記述のSWTCTLLST
13. 制御装置記述のSWTLINLST
14. 回線記述のSWTNWILST
15. リモート表示用の印刷装置

***NWS**

指定された名前と一致するすべてのネットワーク・サーバー記述が検索されます。

***NWID**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター)に指定された名前と一致するすべてのネットワーク・インターフェース記述が検索されます。

***LIND** **構成記述**プロンプト(CFGDパラメーター)に指定された名前と一致するすべての回線記述が検索されます。

***CTLD**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター)に指定された名前と一致するすべての制御装置記述が検索されます。

***DEV**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に指定された名前と一致するすべての装置記述が検索されます。

***MOD**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に指定された名前と一致するすべてのモード記述が検索されます。

***COS**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に指定された名前と一致するすべてのサービス・クラス記述が検索されます。

***CN**

構成記述プロンプト(CFGDパラメーター) に指定された名前と一致するすべての接続リストが検索されます。

***NT**

指定された名前と一致するすべてのNETBIOS記述が検索されます。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

ソース・ファイル・メンバーが含まれる、以前に作成されているデータベース・ソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

指定できるソース・ファイル値は次の通りです。

QCLSRC

QCLSRCという名前のソース・ファイルが使用されます。

ソース・ファイル

ソース・ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

LIB 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。 スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

CLソース・ステートメントが書き込まれるデータベース・ソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

***CFGD**

名前が1つだけ指定され、その名前が総称名でも*ALLでもない場合には、ソース・メンバー名は構成オブジェクト名となります。そうでない場合には、名前はCFGSRRC となります。

ソース・メンバー名

CLソース・ステートメントを入れるソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

検索オプション (RTVOPT)

指定されたオブジェクトについて、どの接続機構情報が検索されるかを指定します。

***NET** ネットワーク・インターフェースの場合には、各ネットワーク・インターフェース記述およびそれに接続されている非交換回線、制御装置、および装置の記述が検索されます。回線の場合には、各回線記述およびそれに接続されている非交換制御装置と装置の記述が検索されます。制御装置の場合には、各制御装置記述およびそれに接続されている装置の記述が検索されます。ネットワーク・インターフェース、回線、および制御装置の場合には、交換接続情報も検索されます。

***OBJ** すべての接続機構情報と一緒に、指定された各構成オブジェクト記述が検索されます。

CFGTYPEパラメーターが*ALLの場合には、RTVOPTは無視されます。

上

メンバー・オプション (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***CFGDTXT**

複数のオブジェクトが指定されていないか、あるいは名前が総称名でない限り、テキスト記述は、CFGDパラメーターで指定されたオブジェクトのテキスト記述と同じです。この場合には、テキスト記述に*BLANKが使用されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

例

```
RTVCFGSRG  CFGD(CTL*) CFGTYPE(*CTLD)
           SRCMBR(CTLS) RTVOPT(*OBJ)
```

このコマンドは、CLソース・ステートメントをソース・ファイルQCLSRC中のファイル・メンバーCTLSに入れます。これらのソース・ステートメントは、名前がCTLで始まる既存のすべての制御装置のオブジェクト記述を再作成するために使用できます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF263E

ファイル・メンバー&1にその最大順序番号が入っている。

CPF263F

オブジェクトが見つからなかった。

CPF264A

ライブラリー&2の&1のレコード長が小さすぎる。

CPF264C

ソース・ファイル・メンバー&1が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

構成状況検索 (RTVCFGSTS)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成状況検索(RTVCFGSTS)コマンドは、構成オブジェクトの状況を表す数値とともにCLプログラムを提供します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CFGD	構成記述	名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*NWI, *NWS, *LIN, *CTL, *DEV	必須, 定位置 2
STSCDE	状況コードのCL変数	10 進数	必須, 定位置 3

上

構成記述 (CFGD)

状況を検索する構成記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

タイプ (CFGTYPE)

状況を検索したい記述のタイプを指定します。

***NWS** このオブジェクトはネットワーク・サーバー記述です。

***NWI** ネットワーク・インターフェースの状況が検索されます。

***LIN** 回線の状況が検索されます。

***CTL** 制御装置の状況が検索されます。

***DEV** 装置の状況が検索されます。

これは必須パラメーターです。

上

状況コードのCL変数 (STSCDE)

検索された状況を入れる変数の名前を指定します。CLプログラムでは、これは長さ(5 0)の10進変数でなければなりません。

戻される可能性のある値は次の通りです。

値 定義

- 0 オフに構成変更—システムはこの記述を使用していません。
- 10 オフへの構成変更保留中—この記述はオフに構成変更されている途中です。この間にシステムは資源の管理などのタスクを取り除くことがあります。
- 20 オンへの構成変更保留中—この記述はオンに構成変更されている途中です。この間にシステムは資源の管理、入出力プロセッサへのプログラムのダウンロード、回線終端装置(DCE)との通信などのタスクを行なっていることがあります。
- 30 オンに構成変更—ネットワーク・インターフェース、ネットワーク・サーバー記述、回線、制御装置、または装置を管理するタスクがシステムによって行なわれ、システムがそれらと通信することができます。
- 32 オンに構成変更／CNN保留—OPTICONNECT制御装置の最初の対がオンに構成変更されていますが、その接続されている装置がまだオンに構成変更状態になっていません。
- 40 接続保留中—この状況は、SDLC, IDLC, BSC,または非同期の交換回線の場合にだけ有効です。回線は、交換接続の確立（ダイヤル呼び出しによる接続または応答による接続の確立）を待機している間にこの状況になります。
- 50 サインオン画面—この状況は、表示装置の場合にだけ有効です。システムは、サインオン画面を受け取れるように装置を準備中であるか、サインオン画面を送信中であるか、あるいは実際のサインオン画面が表示装置に表示されています。
- 51 活動中/CNN保留—OPTICONNECT制御装置の最初の対がオンに構成変更され、その接続されている装置がオンに構成変更されていて、OPTICONNECT経路が確立されるのを待機中です。
- 60 活動状態—オブジェクトが正常にオンへの構成変更状況になりました。また、ネットワーク・インターフェースおよびネットワーク・サーバー記述の場合には、接続された1つまたは複数の回線がオンへの構成変更保留中またはそれ以上の状況になっています。回線の場合には、接続された1つまたは複数の制御装置がオンへの構成変更保留中またはそれ以上の状況になっています。制御装置の場合には、接続された1つまたは複数の装置がオンへの構成変更保留中またはそれ以上の状況になっています。装置の場合には、活動状況は装置のタイプによって異なります—詳細についてはAS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。システム要求キーを押した結果として2番目のサインオン画面が表示されている表示装置は活動状態と見なされます。
- 63 読み取りプログラム活動中—スプール読み取りプログラムが装置を使用中です。
- 66 書き出しプログラム活動中—スプール書き出しプログラムが装置を使用中です。
- 67 使用可能—独立補助記憶域プール(ASP)装置が機能制限なしで使用できます。
- 70 保留中—この状況は、装置記述の場合にだけ有効です。ユーザーまたはシステムが通信できないように通信装置を保留しています。装置を解放するためには、通信装置解放(RLSCMNDEV)コマンドを使用することができます。
- 80 回復保留—回線、制御装置、または装置のエラー回復処置が保留されています。起こったエラーを示すメッセージはQSYSOPRメッセージ待ち行列にあります。
- 90 回復取り消し—ネットワーク・インターフェース、回線、制御装置、または装置のエラーの回復が

取り消されました。エラーが起こり、操作員がメッセージに対しC（エラー回復の取り消し）で応答したか、あるいは操作員がコマンド(ENDNWIRCY, ENDLINRCY, ENDCTLR CY, ENDDEVRCY)を使用してエラーの回復を終了しました。

- 95 システム要求—システムが表示装置を要求していて、それと関連したジョブが保留されています。これは、ユーザーがシステム要求キーを押した結果として起こります。
- 100 障害—ネットワーク・インターフェース、ネットワーク・サーバー記述、回線、制御装置、または装置でエラーが起こりましたが、このエラーはオフに構成変更してから、もう一度オンに構成変更することによってしか回復することはできません。
- 103 読み取りプログラム失敗—スプール読み取りプログラムが使用中の装置にエラーが起こりました。
- 106 書き出しプログラム失敗—スプール書き出しプログラムが使用中の装置にエラーが起こりました。
- 107 SHUTDOWN - NWSDはアプリケーション・プログラム・インターフェース(API)を使用してシャットダウンされました。
- 110 診断モード—ネットワーク・インターフェース資源、ネットワーク・サーバー記述資源、回線資源、制御装置資源、または装置資源は、問題を診断するために問題分析手順で使用されており、他のユーザーがこの資源を使用することはできません。
- 111 損傷—ネットワーク・インターフェース記述、ネットワーク・サーバー記述、回線記述、制御装置記述、または装置記述に損傷があります。これはシステム・エラー状態です。この損傷が起こった時点を示す情報はヒストリー・ログ(QHST)にあります。詳細な情報が垂直ライセンス内部コード(VLIC)ログに入っている可能性があります。再度使用する前に記述を削除して、もう一度作成しなければなりません。
- 112 ロック—別のジョブがこの記述を占有ロックしているので、資源の実際の状況は判別することはできません。後からやり直すか、あるいはオブジェクト・ロック処理(WRKOBJLCK)コマンドを使用してどのジョブがこの記述をロックしているかを判別してください。
- 113 不明—記述の状況標識は、判別することができません。これはシステム・エラー状態です。オブジェクト・ダンプ(DMPOBJ)コマンドを使用して、この記述の内容または属性をスプール印刷装置ファイルにダンプし、弊社技術員に連絡してください。

これは必須パラメーターです。

詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

上

例

```
RTVCFGSTS CFGD(ND01) CFGTYPE(*LIN) STSCDE(&STSCODE)
```

このコマンドは、CL変数&STSCODEで使用するために回線構成記述ND01の構成状況を検索します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

上

C ロケール記述の検索 (RTVCLDSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

C/400*ロケール記述ソース検索(RTVCLDSRC)コマンドは、SRCFILEパラメーターに指定したロケールを検索します。調整されたロケール記述を作成するためにモデルとして、*SYSVALロケールを検索し使用することができます。ロケール・ソースで使用されるロケール・コマンドおよび形式は、AS/400 言語: IBM システム・アプリケーション体系 C/400 使用者の手引き(N:SC09-1347)に要約されています。ロケール・ソースを完了すると、CRTCLDコマンドを使用して、その記述を処理してください。

エラー・メッセージ: RTVCLDSRC

*ESCAPE メッセージ

PSE1708

指定したファイルおよびライブラリーにメンバー&3が見つからなかった。

PSE1709

ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

PSE1739

必要な記憶域を割り振ることができなかった。

PSE1751

ファイル&3のソース&1は検索されなかった。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CLD	ロケール名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ロケール名	名前, *SYSVAL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QCLDSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *CLD	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション, 定位置 4

上

ロケール名 (CLD)

検索するC/400ロケール記述を指定します。ロケール名およびライブラリーを指定する代わりに*SYSVALを使用する場合には、システム値を検索することができます。

ロケール名

ロケール記述の名前を入力してください。

*SYSVAL

検索されるロケール記述ソースの基礎として、システムの省略時の値が使用されます。省略時のロケール記述の値は、対応するシステム値をもっていないロケール記述情報に対して使用されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

指定されたソース・ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ロケール記述が入っているライブラリーの名前を入力してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

検索されたC/400ロケール記述ソースを受け取るファイルの名前およびライブラリーを指定します。指定したライブラリーが存在していない場合には、処理は終了します。指定されたファイルが存在していない場合には、それを作成します。

QCLDSRC

Cロケール記述ソースの省略時のソース・ファイル名。SEUを使用してソースおよびそれに対応したリストを走査検索したい場合には、この省略時の値を使用してください。

ソース・ファイル名

Cロケール記述ソースを保管したいファイルの名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ロケール記述ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

検索されたロケールを記憶するために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索されたロケールを記憶するためのライブラリーの名前を入力してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

処理の後でC/400ロケール記述ソースを記憶することになるソース・ファイル・メンバーを指定します。指定されたメンバーが存在していない場合には、それを作成します。

***CLD** CLDパラメーターによって指定されたCロケール記述名が、ソース・ファイル・メンバー名として使用されることを指定します。たとえば、システム値を検索した場合には、ロケール・ソースはSYSVALと呼ばれるメンバーに記憶されます。

ソース・ファイル・メンバー名

検索されたCロケール記述を保管するソース・ファイル・メンバーの名前を入力してください。

上

テキスト記述 (TEXT)

処理するソース・ファイル・メンバーと対応させたいテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

Cロケール記述に指定したテキスト記述と同じものが使用されることを指定します。

***BLANK**

テキストはありません。

'記述' 検索されたCロケール記述に付ける記述テキストを入力してください。50桁以内のテキストを入力することができます。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

PSE1708

指定したファイルおよびライブラリーにメンバー&3が見つからなかった。

PSE1709

ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

PSE1739

必要な記憶域を割り振ることができなかった。

PSE1751

ファイル&3のソース&1は検索されなかった。

上

クリーンアップの検索 (RTVCLNUP)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ

リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

クリーンアップ検索(RTVCLNUP)コマンドは、CLまたはREXXプログラムでの使用のためにクリーンアップ操作の値を検索します。値はプログラム中の指定されたCL変数に戻されます (コピーされます)。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ALWCLNUP	ALWCLNUPのCL変数 (4)	文字値	オプション
STRTIME	STRTIMEのCL変数 (10)	文字値	オプション
USRMSG	USRMSGのCL変数 (5)	文字値	オプション
SYSMSG	SYSMSGのCL変数 (5)	文字値	オプション
CRITSYSMSG	CRITSYSMSGのCL変数 (5)	文字値	オプション
SYSVRT	SYSVRTのCL変数 (5)	文字値	オプション
SYSLOG	SYSLOGのCL変数 (5)	文字値	オプション
JOBQ	JOBQ名のCL変数 (10)	文字値	オプション
JOBQLIB	JOBQライブラリーのCL変数(10)	文字値	オプション
RUNPTY	RUNPTYのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
JRNRCVSIZ	JRNRCVSIZのCL変数 (7 0)	10 進数	オプション
CALITM	CALITMのCL変数 (5)	文字値	オプション

上

ALWCLNUPのCL変数 (4) (ALWCLNUP)

クリーンアップ可能値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小4文字です。クリーンアップ操作を実行できる場合には、'*YES'が戻されます。そうでない場合には、'*NO'が戻されます。

上

STRTIMEのCL変数 (10) (STRTIME)

毎日のクリーンアップ開始時刻を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小10文字です。特殊値'*NONE'または'*SCDPWROFF'あるいは開始時刻が戻されます。

上

USRMSGのCL変数 (5) (USRMSG)

ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列上のユーザー・メッセージをクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたはユーザー・メッセージが削除されずに保存されている日数が戻されます。

上

SYSMSGのCL変数 (5) (SYSMSG)

QSYSOPRメッセージ待ち行列およびワークステーション・メッセージ待ち行列上のユーザー・メッセージをクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたはシステム・メッセージが削除されずに保存されている日数が戻されます。

上

CRITSYSMSGのCL変数 (5) (CRITSYSMSG)

QSYSMSGメッセージ待ち行列上のメッセージをクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたは重要なシステム・メッセージが削除されずに保持されている日数が戻されます。

上

SYSPRTのCL変数 (5) (SYSPRT)

ジョブ・ログおよび他のシステム出力をクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたはジョブ・ログが削除されずに保存されている日数が戻されます。

上

SYSLOGのCL変数 (5) (SYSLOG)

システム・ジャーナル、ヒストリー・ファイル、問題ログ・ファイル、アラート・データベース、およびプログラム一時修正をクリーンアップするための値を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小5文字です。特殊値*KEEPまたはシステム・ジャーナルおよびシステム・ログが削除前に保持されている日数が戻されます。

上

JOBQ名のCL変数 (10) (JOBQ)

クリーンアップ・バッチ・ジョブが投入されるジョブ待ち行列の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小10文字です。クリーンアップ・バッチ・ジョブが実行されるジョブ待ち行列の名前が戻されます。

上

JOBQライブラリーのCL変数(10) (JOBQLIB)

クリーンアップ・バッチ・ジョブが投入されるジョブ待ち行列のライブラリー名を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小10文字です。

上

RUNPTYのCL変数 (2 0) (RUNPTY)

ジョブの一部である経路指定ステップの実行（または処理）優先順位である1から99までの範囲の2桁の値を受け取るCL変数の名前を指定します。実行優先順位の詳細については、CHGJOB（ジョブ変更）コマンドのこのパラメーターの説明を参照してください。この変数は、小数部のない2桁の10進変数で指定しなければなりません。

上

JRNRCVSIZのCL変数 (7 0) (JRNRCVSIZ)

1から1,919,999 (KB)までの範囲のジャーナル・レシーバー・サイズの値を受け取るCL変数の名前を指定します。ジャーナル・レシーバー用のスペースのサイズがこの値によって指定されたサイズより大きい場合には、操作援助機能(OA)の自動クリーンアップ機能がそれを切り離します。小数部のない7桁の10進変数で指定しなければなりません。

上

CALITMのCL変数 (5) (CALITM)

V5R1以降のリリースでは、このパラメーターはサポートされていません。

上

例

例1:メッセージが保持される日数の検索

```
DCL VAR(&UMSGDAYS) TYPE(*CHAR) LEN(5)
RTVCLNUP USRMSG(&UMSGDAYS)
```

これらのコマンドは、ユーザー・メッセージが削除されるまでに保持される日数を検索します。

例2:クリーンアップ操作が開始される時刻の検索

```
DCL VAR(&CLNUPTIME) TYPE(CHAR) LEN(10)
RTVCLNUP STRTIME(&CLNUPTIME)
```

これらのコマンドは、クリーンアップ操作が開始される時刻を検索します。

例3:実行優先順位の検索

```
DCL VAR(&RPTY) TYPE(*DEC) LEN(2 0)
RTVCLNUP RUNPTY(&RPTY)
```

このコマンドは、クリーンアップ・ジョブの実行優先順位を検索します。この実行優先順位番号は、CL変数&RPTY中にコピーされます。この変数は、小数部分のない2桁の10進変数でなければなりません。

例4:ジャーナル・レシーバー・サイズの検索

```
DCL VAR(&JRNSIZ) TYPE(*DEC) LEN(7 0)
RTVCLNUP JRNRCVSIZ(&JRNSIZ)
```

このコマンドは、クリーンアップ・ジョブのジャーナル・レシーバー・サイズを検索します。このジャーナル・レシーバー・サイズは、CL変数&JRNSIZ中にコピーされます。この変数は、小数部を持たない7桁の10進変数でなければなりません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2B

電源スケジューラーおよびクリーンアップ・オプションが見つからない。

CPF1E33

クリーンアップ・オプションまたは電源スケジューラーは別のユーザーが使用中である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

上

CLソース検索 (RTVCLSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドは、CLプログラムをコンパイルするために使用されたOPM CLプログラムのソース・ステートメントを検索するために使用されます。このソース・ステートメントはソース・ファイル・メンバーに入れられ、このソース・ファイル・メンバーはCLプログラムを再コンパイルする時に入力として使用することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3
RTVINCSRC	組み込まれたソースの検索	*NO, *YES	オプション

上

プログラム (PGM)

ソースを検索するOPM CLプログラムを指定します。

注: ILE CLプログラムおよびモジュールのソース・ステートメントを検索するのにRTVCLSRCを使用することはできません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

CLソース・ステートメントを書き込むデータベース・ソース・ファイルを指定します。このファイルは、コマンドの実行時に存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

CLソース・ステートメントを書き込むデータベース・ソース・ファイル・メンバーを指定します。名前が指定されていない場合には、CLプログラム名が使用されます。コマンドの実行前にメンバーが存在している場合には、ソース・ステートメントを書き出す前にメンバーが消去されます。メンバーが存在していない場合には、作成されます。

***PGM** CLプログラムの名前がメンバー名として使用されます。

名前 CLソース・ステートメントを入れるソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

組み込まれたソースの検索 (RTVINCSRC)

元のソースCLプログラムのINCLUDE (CLソース組み込み)コマンドによって組み込まれたCLコマンドを検索するかどうかを指定します。

***NO** 元のCLソース・プログラムにINCLUDEコマンドが含まれていた場合、検索されたソースには同じINCLUDEコマンドが含まれますが、CLソースがコンパイルされたときに組み込まれたCLコマンドは含まれません。

このパラメーターに*NOを指定すると、元のCLソースに最も一致するCLソースが作成されます。

***YES** 元のCLソース・プログラムにINCLUDEコマンドが含まれていた場合、検索されたソースには元のINCLUDEコマンドの代わりに組み込まれたCLソース・コマンドが含まれます

このパラメーターに*YESを指定すると、CLプログラムの作成に使用された完全なCLソースに最も一致するCLソースが作成されます。

上

例

例1:オリジナルのCLソースの検索

```
RTVCLSRC PGM(JOHN1/TEXT1) SRCFILE(JOHN2) SRCMBR(JOHN3)
```

このコマンドは、ライブラリーJOHN1にあるTEXT1という名前のCLプログラムから、ソース・ステートメントを検索します。検索されたソース・ステートメントは、JOHN2という名前のファイルに入れられ、メンバーJOHN3として命名されます。オリジナルのCLソース・プログラムにINCLUDEコマンドが含まれている場合、検索されたソースにも同じINCLUDEコマンドが含まれます。

例2:拡張されたCLソースの検索

```
RTVCLSRC PGM(MYAPP1) SRCFILE(RTVAPPSRC) RTVINCSRC(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストを使用して見つけられたMYAPP1という名前の制御言語プログラムからソース・ステートメントを検索します。検索されたCLソース・ステートメントは、ソース・ファイルRTVAPPSRC（このファイルもライブラリー・リストを使用して見つけられます）のメンバーMYAPP1に入れられます。オリジナルのCLソースにINCLUDEコマンドが含まれている場合、検索されたCLソースには、INCLUDEコマンドの代わりに組み込みのCLソースが含まれます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0560

&2のプログラム&1がCLプログラムでない。

CPF0561

CLプログラム&2からCLソースを検索することができない。

CPF0562

&2のファイル&1がデータベース・ソース・ファイルでない。

CPF0563

データベース・ソース・ファイルのレコード長が小さすぎる。

CPF0564

データベース・メンバー&3をファイルに追加することができない。

CPF0565

CLプログラム&4のソースは検索されなかった。

CPF0566

&2のCLプログラム&1のソースを使用することができない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

上

現行ディレクトリーの検索 (RTVCURDIR)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの検索 (RTVCURDIR)コマンドは、現行ディレクトリーの名前を検索して指定された CL変数に入れるために制御言語(CL)プログラムで使用されます。シンボリック・リンクを含まない絶対パス名が検索されます。現行ディレクトリーの名前の長さも検索されます。

このコマンドに対するCLプロンプトでは、検索された変数の最小長が該当するパラメーターの横にリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小桁数を示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

- 現行ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要で、パス内の各ディレクトリーに対する読み取り、実行(*RX)権限が必要です。
- このコマンドを使用できるのは、CLプログラム中だけです。
- 検索できるディレクトリー名の最大長は、文字変数の最大長によって制限されます。

注: 文字変数の最大長は9999バイトを超えることができません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RTNDIR	RTNDIRのCL変数 (9999)	文字値	必須, 定位置 1
DIRNAMLEN	DIRNAMLENのCL変数 (7 0)	10 進数	必須, 定位置 2

上

RTNDIRのCL変数 (9999) (RTNDIR)

現行ディレクトリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、文字変数でなければなりません。現行ディレクトリー名が変数に使用可能な文字数より少ない場合には、値に埋め込みは行われません。

上

DIRNAMLENのCL変数 (7 0) (DIRNAMLEN)

現行ディレクトリー名の長さ（バイト数）を受け取るCL変数の名前を指定します。この長さは、ディレクトリー名を受け取る文字変数より長くすることができます。この変数は、小数部をもたないものとして指定された7桁の10進変数でなければなりません。

上

例

例1:現行ディレクトリーのリトリート

```
RTVCURDIR RTNDIR(&CD) DIRNAMLEN(&CDLEN)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーの名前と現行ディレクトリーの名前の長さを検索して、&CDおよび&CDLEN CLプログラム変数に入れます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

上

ディレクトリー情報の検索 (RTVDIRINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー情報検索(RTVDIRINF)コマンドは、統合ファイル・システム中のディレクトリーおよびファイルの属性を収集するのに使用されます。収集した情報は、INFFILEPFXパラメーターで指定された情報ファイル接頭部を使用して名付けられるデータベース・ファイルに保管されます。このファイルは、INFLIBパラメーターで指定されたライブラリー中に作成されます。

ディレクトリー情報印刷(PRTDIRINF)コマンドを実行して、検索したディレクトリー情報を使用した報告書を印刷します。

最も正確な結果を得るには、指定したディレクトリー中のファイルで活動状態が非常に少ない時に、このコマンドを実行しなければなりません。SUBTREE(*ALL)を指定した場合には、指定したディレクトリーのすべてのサブディレクトリー中のファイルで活動状態が非常に少ない時に、このコマンドを実行してみてください。

注: ファイルに複数のメンバーがある場合には、このコマンドを実行した結果は予期できません。

制約事項:

- マウントしたファイル・システムでのみ、ディレクトリー情報を検索することができます。
- ローカル・ファイル・システムでのみ、ディレクトリー情報を検索することができます。
- このコマンドを実行するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *NONE	オプション
INFFILEPFX	情報ファイルの接頭部	単純名, *GEN	オプション
INFLIB	情報ライブラリー	名前, QUSRSYS	オプション

上

ディレクトリー (DIR)

情報が収集される統合ファイル・システム・オブジェクトのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

ディレクトリー・パス名

統合ファイル・システム・オブジェクトのパス名を指定します。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

DIRパラメーターで指定されたディレクトリーのサブディレクトリーのディレクトリー情報を収集するかどうかを指定します。

***ALL** 指定したディレクトリーのサブディレクトリーのディレクトリー情報が収集されます。

***NONE**

指定したディレクトリー中のファイルでのみ、ディレクトリー情報が収集されます。サブディレクトリーでは、ディレクトリー情報が収集されません。

上

情報ファイルの接頭部 (INFFILEPFX)

検索したディレクトリー情報が保管されるデータベース・ファイルのファイル名接頭部を指定します。

***GEN** このコマンドで生成された固有の接頭部付きでデータベース・ファイルが作成されます。この接頭部は、QAEZDで始まり、後ろに4桁の数字が付きます。収集した情報を保管するのに作成されるこのファイルは、この接頭部を使用して名付けられ、文字'D'（ディレクトリー情報を含むファイルの場合）、あるいは文字'O'（ディレクトリー中のオブジェクトについての情報を含むファイルの場合）が後ろに付きます。例えば、コマンドが*GENを指定してこのコマンドが最初に実行される時に、ファイルQAEZD0001DおよびQAEZD0001OがINFLIBパラメーターで指定したライブラリー中に作成されます。通知メッセージCPIIE30がジョブ・ログに送信され、作成されるファイルの名前がこれに含まれます。

情報ファイル接頭部

収集したディレクトリー情報の保管に使用されるデータベース・ファイルを作成するのに使用するファイル接頭部を指定します。接頭部は、最大9文字とすることができます。収集した情報を保管するのに作成されるこのファイルは、この接頭部を使用して名付けられ、文字'D'（ディレクトリー情報を含むファイルの場合）、あるいは文字'O'（ディレクトリー中のオブジェクトについての情報を含むファイルの場合）が後ろに付きます。例えば、指定した接頭部がMYDIRの場合には、データベース・ファイルMYDIRDおよびMYDIROがINFLIBパラメーターで指定したライブラリー中に作成されます。

上

情報ライブラリー (INFLIB)

ディレクトリー情報の保管に使用されるデータベース・ファイルが作成されるライブラリーを指定します。

QUSRSYS

このファイルはライブラリーQUSRSYS内に作成されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルを作成するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1: サブディレクトリーを含む情報の検索

```
RTVDIRINF DIR('/MYDIR/MYDOCS') SUBTREE(*ALL)
          INFFILEPFX(*GEN) INFLIB(QUSRSYS)
```

このコマンドは、ネストされたすべてのサブディレクトリーの情報を含む、ディレクトリー/MYLIB/MYDOCSについてのディレクトリー情報を検索し、ライブラリーQUSRSYS中に作成されるデータベース・ファイルにこれを保管します。'QAEZD'で始まり4桁の数字が後ろに付く固有の名前で、データベース・ファイルが作成されます。これがRTVDIRINFコマンドを実行した最初である場合には、ファイル名はQAEZD0001OおよびQAEZD0001Dとなります。

例2: 指定したディレクトリーのみ情報の検索

```
RTVDIRINF DIR('/') SUBTREE(*NO) INFFILEPFX(MYROOTDIR)
          INFLIB(MYLIB)
```

このコマンドは、ネストされたサブディレクトリーを検査せずにルート・ディレクトリーについてのディレクトリー情報を検索し、ライブラリーMYLIB中のデータベース・ファイルMYROOTDIROおよびMYROOTDIRD中にこれを保管します。データベース・ファイルが、すでにMYLIBにあるいずれかの名前をもつ場合には、エラー・メッセージが送られ、ディレクトリー情報は検索されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超過している。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPF1ED2

ファイル&1は使用中で、アクセスできない。

CPF1ED4

ディレクトリー情報の収集が認可されていない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

上

DLO権限の検索 (RTVDLOAUT)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限検索(RTVDLOAUT)コマンドは、フォルダーまたはファイルされた文書に割り当てられた権限を検索します。

制約事項:

- 各種の権限を検索するためには、ユーザーがシステム配布ディレクトリー項目に入っていなければなりません。
- ユーザーは、ファイルされた文書またはフォルダーに対して、少なくとも使用(*USE)権限を持っていないければなりません。
- ファイルされた文書またはフォルダーに対して全(*ALL)権限より小さい権限を持つユーザーは、そのユーザーの権限または所有者しか検索できません。
- すべての権限を検索するには、ユーザーには、オブジェクトに対して*ALLまたは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているか、あるいはファイルされた文書またはフォルダーの所有者でなければなりません。
- ユーザーは、*ROOTフォルダーの共通権限を検索するためには、*ALLOBJ特殊権限を持っていないければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *DOCID, *LADNTSP, *SYSOBJNAM, *ROOT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
LADNTSP	LADNタイム・スタンプ	0000000000000001-FFFFFFFFFFFFFFFF, *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前, *NONE	オプション
STRUSRAUTE	開始ユーザー権限項目	1-99999, <u>1</u>	オプション
OWNER	OWNERのCL変数 (10)	文字値	オプション
AUTL	AUTLのCL変数 (10)	文字値	オプション
SENSITIV	SENSITIVのCL変数 (20)	文字値	オプション
PUBAUT	PUBAUTのCL変数 (10)	文字値	オプション
CHKOUTUSR	CHKOUTUSRのCL変数 (32)	文字値	オプション
ACC	ACCのCL変数 (220)	文字値	オプション
USRAUT	USRAUTのCL変数 (1020)	文字値	オプション
GRPAUT	GRPAUTのCL変数 (340)	文字値	オプション
PGP	PGPのCL変数 (10)	文字値	オプション

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

権限を検索する文書またはフォルダーの名前を指定します。

*ROOT

ルート・フォルダーには第1レベルのすべてのフォルダーが入っています。フォルダー*ROOTを指定すると、PUBAUTパラメーターによって共通権限だけが戻されます。他の権限は戻されません。

*LADNTSP

文書またはフォルダーの識別には、LADNTSPパラメーターに指定されたライブラリー割り当て文書名(LADN)からのタイム・スタンプが使用されます。

*SYSOBJNAM

文書またはフォルダーの識別には、SYSOBJNAMパラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名が使用されます。

名前 文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。

フォルダー (FLR)

DLOパラメーターに指定されたオブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

オブジェクトが指定されていないか、オブジェクトがフォルダーに入っていないか、オブジェクトがLADNTSPまたはSYSOBJNAMパラメーターを使用して指定されているか、あるいはDLOパラメーターに*ROOTが指定されているフォルダーの名前。

名前 オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定してください。

注: オブジェクトが第1レベルのフォルダーの場合には、FLR(*NONE)を指定しなければなりません。

文書識別コード (DOCID)

文書またはフォルダーのライブラリー割り当て名を指定します。

*NONE

オブジェクトはその文書ID (DOCID)を使用して識別されません。

文書ID

文書またはフォルダーの文書IDを指定してください。文書IDは、長さが16進数で24文字でYYYYMMDDHHMNSSHSSNSNSNSNの形式です。この場合に、それぞれの文字は次のようになります。

- YYYY =年
- MM =月

- DD =日
- HH =時
- MN =分
- SS =秒
- HS = 100分の1秒
- SNSNSNSN =システム名

上

LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)

文書またはフォルダーのLADNタイム・スタンプを指定します。

*NONE

オブジェクトはそのLADNタイム・スタンプを使用して識別されません。

タイム・スタンプ

文書またはフォルダーのLADNタイム・スタンプを指定してください。LADNタイム・スタンプは、長さが16進数で16文字でYYYYMMDDHHMNSSHSの形式です。この場合に、それぞれの文字は次のようになります。

- YYYY =年
- MM =月
- DD =日
- HH =時
- MN =分
- SS =秒
- HS = 100分の1秒

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

システム・オブジェクト名を指定します。

*NONE

オブジェクトはそのシステム・オブジェクト名を使用して識別されません。

名前 文書またはフォルダーの10桁のシステム・オブジェクト名を指定してください。

上

開始ユーザー権限項目 (STRUSRAUTE)

特定のユーザー権限の検索時に使用する開始ユーザー権限項目番号を指定することができます(USRAUTパラメーター)。STRUSRAUTEは、50を超える特定ユーザー権限を持つDLOの特定ユーザー権限の検索を可能にします。USRAUTパラメーターにCL 変数が指定されていない場合には、このパラメーターは無視されます。

1 最初の特定ユーザー権限からのユーザー権限が戻されます。

2から99,999

指定した項目番号からのユーザー権限が戻されます。この値がDLOの特定ユーザー権限の数より大きい場合には、エラー・メッセージが送られて特定ユーザー権限は戻されません。

上

OWNERのCL変数 (10) (OWNER)

選択した文書またはフォルダーの所有者の検索に使用する10桁のCL変数の名前を指定します。

上

AUTLのCL変数 (10) (AUTL)

選択した文書またはフォルダーに割り当てられた権限リストの検索に使用する10桁のCL変数の名前を指定します。権限リストが割り当てられていない場合には、値*NONEが戻されます。

上

SENSITIVのCL変数 (20) (SENSITIV)

選択した文書またはフォルダーに割り当てられた重要度の検索に使用する20桁のCL変数の名前を指定します。

***NONE**

この文書には、機密上の制限はありません。

***PERSONAL**

この文書はユーザーの個人用です。

***PRIVATE**

この文書には所有者しかアクセスできない情報が入っています。

***CONFIDENTIAL**

この文書には会社の処理手順に従って処理しなければならない情報が入っています。

上

PUBAUTのCL変数 (10) (PUBAUT)

選択した文書またはフォルダーに割り当てられた共通権限の検索に使用する10桁のCL変数の名前を指定します。

***USE** ユーザーは文書またはフォルダーを表示、印刷、またはコピーすることができます。

***CHANGE**

ユーザーは*USEにリストされているすべての操作を実行することができ、オフライン記憶装置の文書を編集し、マークを付けることもできます。

***ALL** ユーザーは文書にすべての操作を実行することができます。ただし、文書またはフォルダーの所有権を変更したり、権限が取り消された後で文書の処理権限をユーザー自身に与える操作を除きません。

***EXCLUDE**

この文書またはフォルダーに対して権限を認可されていないすべてのユーザーはアクセスを拒否されます。

USER DEF

この文書に対する権限はユーザー定義であり、システム定義の権限セット(*ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE)のいずれでもありません。

***AUTL**

この文書によって使用される権限リストに指定された権限は共通権限を定めるものでなければなりません。

上

CHKOUTUSRのCL変数 (32) (CHKOUTUSR)

文書をチェックアウトしたユーザー・プロファイルおよび文書のチェックアウトを代行したユーザー・プロファイルの検索に使用する32桁のCL変数の名前を指定します。文書をチェックアウトしたユーザーがいない場合には、32桁の変数はブランクになります。文書をチェックアウトした代行ユーザーがいない場合には、最後の16桁がブランクになります。

上

ACCのCL変数 (220) (ACC)

指定した文書またはフォルダーに割り当てられたアクセス・コードの検索に使用する200桁のCL変数の名前を指定します。

上

USRAUTのCL変数 (1020) (USRAUT)

文書またはフォルダーに割り当てられた特定ユーザー権限の検索に使用する1020桁のCL変数の名前を指定します。USRAUTは、1回のRTVDLOAUTコマンドの呼び出し当たり最大50の特定権限を戻します。文書またはフォルダーに50を超える特定ユーザー権限が関連付けられている場合には、RTVDLOAUTの以後の呼び出しでSTRUSRAUTEパラメーターを使用して、指定した項目番号からのユーザー権限を戻すことができます。

1020桁のCL変数の中にあるのは、認可ユーザーの合計数、戻される権限項目の数、開始項目番号および終了項目番号です。

例えば、次の通りです。

```
RTVDLOAUT DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) USRAUT(&RTNUSRAUT) + STRUSRAUTE(1)
```

上の例では、MYDOCは55の認可ユーザーをもっています。特定ユーザー権限の合計数は55になります。戻される権限項目の数は50個です。開始権限項目番号は1です。終了権限項目番号は51です。

GRPAUTのCL変数 (340) (GRPAUT)

指定した文書またはフォルダーに割り当てられたグループ権限の検索に使用する340桁のCL変数の名前を指定します。このコマンドのユーザーに関連付けられたグループだけが戻されます。

上

PGPのCL変数 (10) (PGP)

指定した文書またはフォルダーに割り当てられた1次グループの検索に使用する10桁のCL変数の名前を指定します。1次グループが割り当てられていない場合には、値*NONEが戻されます。

上

例

例1: 文書ライブラリー・オブジェクトの所有者の検索

```
RTVDLOAUT DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) OWNER(&OWNER)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書ライブラリー・オブジェクトMYDOCの所有者を検索し、値を変数&OWNERに保管します。

例2: 文書に対する専用ユーザー権限の検索

```
RTVDLOAUT DLO(MYDOC) FLR(MYFLR)
           USRAUT(&RTNUSRAUT) STRUSRAUTE(1)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書MYDOCに対するユーザー権限を検索し、リストを&RTNUSRAUT変数に保管します。このリストには、最大50個までの専用権限ユーザーおよびその権限が入ります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AC0

&1コマンドが正しく実行されなかった。

上

DLO名の検索 (RTVDLONAM)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト名検索(RTVDLONAM)コマンドは、ファイル済み文書、フォルダー、または配布文書の代替名を検索し、指定された変数にその値を入れるために使用されます。このコマンドを使用できるのは、CLプログラムまたはREXX EXECの中だけです。

制約事項:

- 名前の各種形式を検索するためには、ファイル済み文書またはフォルダーに対して使用(*USE)権限が必要です。
- 配布文書の名前の各種形式を検索するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *DOCID, *LADNTSP, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
LADNTSP	LADNタイム・スタンプ	0000000000000001-FFFFFFFFFFFFFFFF, *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前, *NONE	オプション
OBJCLS	オブジェクト・クラス	*DOC, *FLR, *DST	オプション
RTNDLO	RTNDLOのCL変数 (12)	文字値	オプション
RTNFLR	RTNFLRのCL変数 (63)	文字値	オプション
RTNDOCID	RTNDOCIDのCL変数 (24)	文字値	オプション
RTNLADNTSP	RTNLADNTSPのCL変数 (16)	文字値	オプション
RTNOBJNAM	RTNOBJNAMのCL変数 (10)	文字値	オプション
RTNOBJCLS	RTNOBJCLSのCL変数 (8)	文字値	オプション
RTNASP	RTNASPのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
RTNOVRFLW	RTNOVRFLWのCL変数 (1)	文字値	オプション

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

名前が検索される文書またはフォルダーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DOCID

文書またはフォルダーは、DOCIDパラメーターに指定されたそのライブラリー割り当て文書名を使用して識別されます。フォルダー (FLR)パラメーターは*NONEでなければなりません。

*LADNTSP

文書またはフォルダーは、LADNTSPパラメーターに指定されたそのライブラリー割り当て文書名 (LADN)タイム・スタンプを使用して識別されます。FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

*SYSOBJNAM

文書またはフォルダーは、SYSOBJNAMパラメーターに指定されたそのシステム・オブジェクト名を使用して識別されます。FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

名前 文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダーはFLRパラメーターに指定されます。

これは必須パラメーターです。

上

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダー・パスを指定します。DLOパラメーターが*DOCID, *LADNTSP,または*SYSOBJNAM である場合には、FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

*NONE

文書またはフォルダーがフォルダー内に入っていないか、あるいはDOCID, LADNTSP,またはSYSOBJNAMパラメーターを使用して識別されます。

名前 DLOパラメーターに指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定してください。

上

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSSNSNSNSN

ここで

YYYY =年
MM =月
DD =日
HH =時

MN =分
SS =秒
HS = 100分の1秒
SNSNSNSN =システム名

***NONE**

オブジェクトのライブラリー割り当て文書名は指定されません。

名前 文書またはフォルダー・オブジェクトのライブラリー割り当て名を指定します。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、あるいは文書ファイル(FILDOC)またはその他のコマンドから戻されたメッセージによって識別することができます。

上

LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)

文書またはフォルダー・オブジェクトのライブラリー割り当て文書名(LADN)タイム・スタンプを指定します。LADNタイム・スタンプが指定されるのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*LADNTSPが指定された場合だけです。

***NONE**

オブジェクトのLADNタイム・スタンプは指定されません。

タイム・スタンプ

文書ライブラリー・オブジェクトのLADNタイム・スタンプを指定します。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。システム・オブジェクト名が指定されるのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*SYSOBJNAMが指定された場合だけです。

***NONE**

オブジェクトのシステム・オブジェクト名は指定されません。

名前 文書ライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。

上

オブジェクト・クラス (OBJCLS)

見つけるオブジェクトのクラスを指定します。

***DOC** 指定されるDLOはファイル済み文書です。

***FLR** 指定されるDLOはフォルダーです。

***DST** 指定されるDLOは配布文書です。

上

RTNDLOのCL変数 (12) (RTNDLO)

選択された文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を検索するために使用される12桁のCL変数の名前を指定します。配布文書またはフォルダーなしの文書の場合には、*NONEの値が戻されます。

上

RTNFLRのCL変数 (63) (RTNFLR)

選択された文書またはフォルダーのフォルダーのパスを検索するために使用される63桁のCL変数の名前を指定します。配布文書、フォルダーなしの文書、または第1レベルのフォルダーの場合には、*NONEの値が戻されます。

上

RTNDOCIDのCL変数 (24) (RTNDOCID)

選択されたオブジェクトのライブラリー割り当て文書名を検索するために使用される24桁のCL変数の名前を指定します。ライブラリー割り当て文書名の形式については、**文書識別コード (DOCID)**パラメーターを参照してください。

上

RTNLADNTSPのCL変数 (16) (RTNLADNTSP)

選択されたオブジェクトのLADNからタイム・スタンプを検索するために使用される16桁のCL変数の名前を指定します。この変数はYYYYMMDDHHMNSSNNの形式です。

上

RTNOBJNAMのCL変数 (10) (RTNOBJNAM)

選択されたオブジェクトのシステム・オブジェクト名を検索するために使用される10桁のCL変数の名前を指定します。

上

RTNOBJCLSのCL変数 (8) (RTNOBJCLS)

オブジェクト・クラスを検索するために使用される8桁のCL変数の名前を指定します。ファイル済み文書に対しては*DOCが、フォルダーには*FLRが、配布文書には*DSTが戻されます。

上

RTNASPのCL変数 (2 0) (RTNASP)

補助記憶域プールIDを戻すために使用する変数の名前を指定します。制御言語(CL)プログラムでは、これは長さ(2 0)の10進数変数でなければなりません。戻される可能性のある値は次の通りです。

1 オブジェクトはシステム補助記憶域プールに入っています。

2から32

オブジェクトはユーザー補助記憶域プールに入っています。

上

RTNOVRFLWのCL変数 (1) (RTNOVRFLW)

当該オブジェクトのオーバーフロー状況を検索するために使用される1桁のCL変数の名前を指定します。状況は次の通りです。

- N = NO,オブジェクトはそのASPをオーバーフローしていない
- Y = YES,オブジェクトはそのASPをオーバーフローしており、オブジェクトの一部または全部がシステムASPに存在している

上

例

```
RTVDLONAM DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) OBJCLS(*DOC) +  
RTNDOCID(&DOCID)
```

このコマンドは、文書MYDOCをフォルダーMYFLR内で検索し、その文書IDを変数&DOCIDに戻します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AC0

&1コマンドが正しく実行されなかった。

CPF8AC1

文書の配布は認可されていない。

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

文書検索 (RTVDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書検索(RTVDOC)コマンドにより、特定の文書から情報を検索することができます。

制約事項:

- 文書からレコードを検索してデータベース・ファイルに入れるには、文書に対して使用(*USE)権限をもっているか、あるいは文書に対して*USE権限をもっているユーザーの代行処理を行なっていなければなりません。
- 文書をチェックアウトするには、少なくとも、文書に対して変更(*CHANGE)権限をもっているか、あるいは文書に対して*CHANGE権限をもっているユーザーの代行処理を行なっていなければなりません。
- 他のユーザーの代行処理を行うには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限または特殊認可（ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによって与えられる）が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FROMDOC	取り出し文書	文字値, *DOCID	必須, 定位置 1
FROMFLR	取り出しフォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
OUTDTATYP	出力のデータ・タイプ	単一値: *DFT, *ALL その他の値 (最大 21 回の繰り返し): *DOCD, *DOCCLS, *SUBJECT, *AUTHOR, *FILCAB, *CPYLST, *KWD, *DOCDATE, *FILDATE, *CRTDATE, *CHGDATE, *EXPDATE, *ACTDATE, *CMPDATE, *REF, *STATUS, *PROJECT, *IDP, *DOC	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
CHKOUT	検査	*NO , *YES	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

上

取り出し文書 (FROMDOC)

検索する文書の名前を指定します。

名前 検索する文書のユーザー割り当て名を指定してください。

***DOCID**

検索している文書は、**文書識別コード (DOCID)**パラメーターに指定する必要がある、ライブラリー割り当て文書名によって識別されます。

上

取り出しフォルダー (FROMFLR)

検索する文書が入っているフォルダーの名前を指定します。これは、作成時にフォルダーに割り当てられた名前です。文書名を指定する場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

***NONE**

文書がライブラリー割り当て文書名によって識別される時に、フォルダー名は指定されません。

名前 検索する文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイル指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルを作成する場合には、システムは、QSYS中の様式名OSRTVDのQAOSIRTVをモデルとして使用します。

このファイルは、他のRTVDOCコマンドが使用される時に再使用することができます。出力はファイルに追加するか、あるいは既存のレコードと置き換えることができます。ライブラリーQSYS中の弊社提供データベース・ファイルQAOSIRTVを指定することはできません。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが既に存在している場合、その既存メンバーの終わりに新規レコードを追加するのか、あるいはそのメンバーをクリアして新規レコードを追加するのかを選択できます。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

上

出力のデータ・タイプ (OUTDTATYP)

文書に関する情報のうちデータベース・ファイルに書き出す部分を指定します。

***DFT** 文書情報レコードが書き出されます。これは*DOCDおよび*DOCを指定することと同じです。

- レコード・コード- 105,文書記述
- レコード・コード- 800,文書データ

*ALL すべての情報レコードが書き出されます。

***ACTDATE**

処置期日レコードが書き出されます。レコード・コードは135です。

***AUTHOR**

作成者レコードが書き出されます。レコード・コードは145です。

***CHGDATE**

最終変更日レコードが書き出されます。レコード・コードは130です。

***CMPDATE**

完了日レコードが書き出されます。レコード・コードは140です。

***CPYLST**

コピー・リスト・レコードが書き出されます。レコード・コードは150です。

***CRTDATE**

作成日レコードが書き出されます。レコード・コードは110です。

***DOCCLS**

文書クラス・レコードが書き出されます。レコード・コードは155です。

***DOCD**

文書記述レコードが書き出されます。レコード・コードは105です。

***DOCDATE**

文書日付レコードが書き出されます。レコード・コードは120です。

***EXPDATE**

満了日レコードが書き出されます。レコード・コードは115です。

***FILCAB**

ファイル・キャビネット参照レコードが書き出されます。レコード・コードは160です。

***FILDATE**

ファイル日付レコードが書き出されます。レコード・コードは125です。

*IDP 交換文書プロファイル(IDP)が書き出されます。レコード・コードは500です。

***IDXDATE**

最終索引付け日付レコードが出力ファイルに書き出されます。

*KWD キーワード・レコードが書き出されます。レコード・コードは170です。

***PROJECT**

プロジェクト・レコードが書き出されます。レコード・コードは185です。

*REF 参照レコードが書き出されます。レコード・コードは175です。

***REVDATE**

文書内容に対する最終変更の日付が出力ファイルに書き出されます。

***STATUS**

状況レコードが書き出されます。レコード・コードは180です。

***SUBJECT**

件名レコードが書き出されます。レコード・コードは165です。

***USEDATE**

最終使用日付レコードが書き込まれました。レコード・コードは200です。

*DOC 文書データ・レコードが書き出されます。レコード・コードは800です。

上

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連付けるかどうかを指定します。

単一値

*CURRENT

自分自身で要求を実行します。

要素1: ユーザー識別コード

文字 別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーの代行処理が許可されているか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっていなければなりません。

要素2: アドレス

文字 別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

上

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけを持っています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSNSNSNSN

ここで

YYYY =年
MM =月
DD =日
HH =時
MN =分
SS =秒
HS = 100分の1秒
SNSNSNSN =システム名

*NONE

文書が文書 (DOC)パラメーターで識別される時には、ライブラリー割り当て文書名は必要ありません。

名前 送信する文書のライブラリー割り当て名を指定してください。

上

検査 (CHKOUT)

検索する文書を新しいデータまたは変更したデータで置き換えることができることを指定します。文書が読み取り専用の場合には、*NOを指定してください。検索する文書を置き換えることができない場合に*YESを指定すると、エラーが起こります。

***NO** 検索要求はデータを読み取るだけです。この機能を要求するユーザーに必要なのは、その文書に対する読み取り(*READ)権限だけです。共通権限は*READ権限です。

***YES** 文書データを更新して、後から置き換えることができます。この機能を要求するユーザーは変更(*CHANGE)権限をもっていなければなりません。この文書の置き換えが行なわれるまで、他のユーザーは更新のためにこの文書を使用することはできません。この置き換えは、文書置き換え(RPLDOC)コマンドを使用して行うことができます。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

ユーザー識別コード (USRID)パラメーターに指定された値は、文字セットおよびコード・ページ'930 500'に変換されます。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

例

例1:すべての情報のコピー

```
RTVDOC FROMDOC(MYDOC) FROMFLR(PERSONAL) USRID(*CURRENT)
        OUTFILE(*CURLIB/MYFILE) OUTMBR(*FIRST) MBROPT(*ADD)
        OUTDTATYP(*ALL)
```

このコマンドは、このコマンドの現行ユーザー用のフォルダーPERSONAL内にある文書MYDOCに関するすべての情報をコピーします。CHECKOUT(*NO)が想定されます。したがって、文書データは読み取ることしかできません。出力はユーザーの現行ライブラリー内のデータベース・ファイルMYFILEに送られ、そのファイル中の先頭メンバーに追加されます。

例2:省略時情報のコピー

```
RTVDOC FROMDOC(SECOP) FROMFLR(PERSONAL) USRID(MARY SYSTEM1 )
        CHKOUT(*YES)
        OUTFILE(MARLIB/SECFILE) OUTMBR(*FIRST *ADD)
```

このコマンドは、MARY用のフォルダーPERSONAL内にある文書SECOPに関する省略時情報(*DOCDおよび*DOC)をコピーします。文書は新規データで更新してから、置き換えることができます。このコマンドの現行ユーザーには、GRTUSRPMNコマンドを使用してマリー(MARY)によって付与されたMARYの代行処理を行う権限が必要です。出力は、MARYのライブラリーMARLIB内のデータベース・ファイルSECFILEに送られます。その出力はSECFILEの先頭メンバーに追加されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF905F

ライブラリーからの文書の検索が正常に実行されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上

ディスク情報の検索 (RTVDSKINF)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ディスク情報検索(RTVDSKINF)コマンドは、ディスク・スペース情報の収集に使用されます。収集された情報は、ライブラリーQUSRSYSのデータベース・ファイルに保管されます。ファイル名は、ディスク・スペース情報を検索する補助記憶域プール(ASP)装置によって異なります。情報がシステムおよび基本ASPから検索された場合には、収集された情報はファイルQAEZDISKに保管されます。情報が独立ASP装置から検索された場合には、収集された情報はファイルQAEZNNNNNに保管されます。ここで「NNNNN」は独立ASPのASP番号です。情報はQCURRENTという名前のデータベース・ファイル・メンバーに保管されます。

このコマンドを実行するたびに、QCURRENTの既存の情報が書き直されます。既存の情報をメンバーQCURRENTに保管するには、ファイルQAEZDISKまたはQAEZDNNNNNを名前変更するか、あるいはメンバーを別のファイルにコピーしてください。

最も正確な結果を得るには、活動状態のシステムが非常に少ないときにこのコマンドを実行してください。

また、RTVDSKINFは、特定のオブジェクトがライブラリーを介して指定可能であるかどうかも検査します。オブジェクトがライブラリーに付加されていない場合は、該当するライブラリーか、あるいはQRCLライブラリー（システムまたは基本の補助記憶域プールにあるオブジェクトの場合）、またはライブラリーQRCLxxxxx（独立した補助記憶域プールにあるオブジェクトの場合。ここで「xxxxx」は、独立ASPに関連付けられた番号）に移されます。損傷があるか、または使用不能であると判明したオブジェクトは削除されます。その場合、RTVDSKINFによって削除される各オブジェクトごとにメッセージが送信されます。

注: ファイルQAEZDISKまたはQAEZDNNNNN内のメンバーQCURRENTは名前変更しないでください。QAEZDISKまたはQAEZDNNNNNに複数のメンバーある場合には、このコマンドを実行した結果は予想できません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ASPDEV	ASP装置	名前, *SYSBAS	オプション, 定位置 1

上

ASP装置 (ASPDEV)

ディスク・スペース情報が検索される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ASPのディスク情報が検索されます。システムASPのASP番号は1です。基本ASPのASP番号は2から32です。

名前 ディスク・スペース情報を検索するASP装置の名前を指定してください。独立ASP装置のASP番号は32より大きくなります。異なるASP装置上でRTVDSKINFを実行するたびに複数のジョブを投入すると、複数のASP装置のディスク・スペース情報を平行して検索できます。

上

例

RTVDSKINF ASPDEV(*SYSBAS)

このコマンドは、システムおよび基本補助記憶域(ASP)のディスク・スペース情報を検索し、データベース・ファイルQAEZDISKのメンバーQCURRENT中にこれを保管します。メンバーQCURRENTの情報が書き込まれます。

一部のオブジェクトは、ライブラリーを介して指定可能かどうかを確認するために検査され、浮動であると判明した場合は、ライブラリー内に移されます。損傷があるか、または使用不能なオブジェクトは、システムから削除されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1ED1

ディスク・スペース情報の収集は認可されていない。

CPF1ED2

ファイル&1は使用中で、アクセスできない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

上

データ域検索 (RTVDTAARA)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域検索 (RTVDTAARA) コマンドは、指定されたデータ域のすべてまたは一部を検索し、それを変数にコピーするために、CLプログラムまたはREXXプロシージャの中で使用されます。RTVDTAARAはデータ域の他の属性は検索しません。CLプログラムをコンパイルする時に、データ域は存在する必要はありません。

ジョブがグループ・ジョブの場合には、指定されたデータ域はグループ・データ域(*GDA)の可能性があり、このデータ域はグループと自動的に関連付けられ、グループ外のジョブからアクセスできません。この文字データ域の長さは512バイトです。グループ・ジョブの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

ローカル・データ域(*LDA)は長さ1024バイトの文字データ域であり、ジョブと自動的に関連付けられます。他のジョブはローカル・データ域にアクセスできません。

ジョブが事前開始ジョブの場合には、指定されたデータ域はプログラム初期設定パラメーター・データ(*PDA)が入っているデータ域である可能性があります。このデータ域は事前開始ジョブと自動的に関連付けられ、他のジョブからアクセスできません。この文字データ域の長さは2000バイトです。事前開始ジョブの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域以外のデータ域をRTVDTAARAコマンドの処理中に検索する必要がある場合には、そのデータ域は、操作が完了するまで、他のジョブのコマンドがそれを変更または破棄できないように、検索操作の間はロックされます。データ域を他のジョブと共用し、ジョブの複数のコマンドを含むステップで更新される場合には、すべてのステップが実行されるまでデータ域をそのジョブに明示的に割り振る必要があります。ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域以外のデータ域は、オブジェクト割り振り (ALCOBJ) コマンドで明示的に割り振ることができます。ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域は、割り振る必要はありません。

制約事項

1. このコマンドを使用するには、データ域に対する*USE権限とデータ域があるライブラリーに対する*EXECUTE権限がユーザーに必要です。ローカル・データ域またはグループ・データ域の値を検索するために、特定権限は必要ありません。
2. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
 - a. マルチスレッドを使用できるジョブのDDMデータ域の検索はスレッド・セーフではありません。
 - b. 複数のスレッドがジョブで活動状態の時には、DDMデータ域の検索は正常に実行されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DTAARA	データ域指定	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: データ域	単一値: *LDA, *GDA, *PDA その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: サブstring仕様	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	
	要素 1: サブstring開始位置	1-2000	
要素 2: サブstringの長さ	1-2000		
RTNVAR	戻された値のCL変数	無制限	必須, 定位置 2

上

データ域指定 (DTAARA)

検索する値が入っているデータ域の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: データ域

単一値

***LDA** ローカル・データ域の値を検索します。

***GDA** グループ・データ域の値を検索します。この値はこのジョブがグループ・ジョブの場合にだけ有効です。

***PDA** プログラム初期設定パラメーター・データ域の値を検索します。この値は、事前開始ジョブの場合にだけ有効です。

修飾子1: データ域

名前 データ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ域があるライブラリーを指定してください。

要素2: サブストリング仕様

単一値

***ALL** データ域全体が検索されます。

要素1: サブストリング開始位置

1から2000

検索するデータ域の開始位置を指定します。

要素2: サブストリングの長さ

1から2000

検索するデータ域サブストリングの長さを指定します。データ域外のデータを検索することはできません。開始位置および長さの組み合わせが、データ域内の位置を常に指定する必要があります。

上

戻された値のCL変数 (RTNVAR)

データ域の内容を受け取る変数の名前を示します。

次の場合には、タイプ変換はRTVDTAARAコマンドによって実行されません。

- RTNVARがTYPE(*DEC)として宣言されている場合には、検索されるデータ域はTYPE(*DEC)でなければなりません。
- RTNVARがTYPE(*CHAR)として宣言されている場合には、検索されるデータ域はTYPE(*CHAR)またはTYPE(*LGL)のいずれかでなければなりません。
- RTNVARがTYPE(*LGL)として宣言されている場合には、検索されるデータ域は'0'または'1'の値を持つTYPE(*LGL)またはTYPE(*CHAR)でなければなりません。

検索する文字ストリングがRTNVARパラメーターで指定された変数の長さより短い場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。検索されるストリングの長さは、変数の長さより小さいか等しくなければなりません。

10進数データ域を検索する時には、10進数は位置合わせされます。データ域の整数部分の値は、変数の整数部分に収まらなければなりません。小数のデータは、小数部の桁が変数より多い場合には切り捨てられます。

これは必須パラメーターです。

非制限値

データ域の内容を受け取るプログラム変数の名前を指定します。

例

データ域DA1は次のコマンドによって作成されているものとします:

```
CRTDTAARA DTAARA(DA1) TYPE(*CHAR) LEN(3) VALUE(ABC)
```

そして、変数&CLVAR1は次のように宣言されています:

```
DCL VAR(&CLVAR1) TYPE(*CHAR) LEN(5) VALUE(VWXYZ)
```

例1: 文字データ域の検索

```
RTVDTAARA DTAARA(DA1) RTNVAR(&CLVAR1)
```

結果:

```
&CLVAR1 = 'ABC '
```

例2: 文字データ域のサブセットの検索

```
RTVDTAARA DTAARA(DA1 (2 1)) RTNVAR(&CLVAR1)
```

結果:

```
&CLVAR1 = 'B '
```

例3: 10進数データ域の検索

データ域DA2は次の属性で作成されているものとします:

```
CRTDTAARA DTAARA(DA2) TYPE(*DEC) LEN(5 2) VALUE(12.39)
```

そして、変数&CLVAR2は次のように宣言されています:

```
DCL VAR(&CLVAR2) TYPE(*DEC) LEN(5 1) VALUE(4567.8)
```

次のコマンドを実行します。

```
RTVDTAARA DTAARA(DA2) RTNVAR(&CLVAR2)
```

結果:

```
&CLVAR2 = 0012.3
```

注: 小数桁は、丸められるのではなく切り捨てられます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0811

データ域のRTNVARパラメーターの長さが正しくない。

CPF0812

データ域&1のRTNVARパラメーターのタイプが正しくない。

- CPF0813**
データ域&1の値が論理値でない。
- CPF101A**
&2のDDMデータ域&1に対する操作が正常に実行されなかった。
- CPF1015**
&2にデータ域&1が見つからない。
- CPF1016**
&2のデータ域&1に対する権限がない。
- CPF1021**
データ域&2のライブラリー&1が見つからない。
- CPF1022**
ライブラリー&1データ域&2に対する権限がない。
- CPF1043**
データ域の境界位置合わせが正しくない。
- CPF1044**
データ域のAREAパラメーターが正しくない。
- CPF1045**
データ域のCPYPTRパラメーターが正しくない。
- CPF1046**
ジョブがグループ・ジョブでないので、DTAARA(*GDA)は正しくない。
- CPF1063**
ライブラリー&2のデータ域&1を割り振ることができない。
- CPF1067**
ライブラリー&1を割り振ることができない。
- CPF1072**
ジョブが事前開始ジョブでないので、DTAARA(*PDA)は正しくない。
- CPF1087**
1 0進または論理データ域にサブストリングを使用することはできない。
- CPF1088**
開始位置がデータ域の範囲外になっている。
- CPF1089**
データ域に指定したサブストリングが正しくない。
- CPF180B**
機能&1は使用できない。
- CPF9899**
コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

グループ属性検索 (RTVGRPA)

実行可能場所:

- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グループ属性検索(RTVGRPA)コマンドは、コマンドを出したジョブが属しているグループに関する情報を検索します。次の属性を検索することができます。

- このRTVGRPAコマンドを呼び出したジョブのグループ・ジョブ名
- グループ内のすべての活動ジョブについての情報のリスト
- グループ内の活動ジョブ数
- グループ・メッセージ待ち行列の名前
- グループ・メッセージ待ち行列が入っているライブラリー
- グループ内の前の活動ジョブのグループ・ジョブ名およびジョブ番号
- グループ内の現在の活動ジョブが制御を得た理由を示す制御コード

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
GRPJOB	GRPJOBのCL変数 (10)	文字値	オプション、定位置 1
GRPJOBL	GRPJOB リストのCL変数(1056)	文字値	オプション、定位置 2
GRPJOBCNT	GRPJOBCNTのCL変数 (3 0)	10 進数	オプション、定位置 3
MSGQ	MSGQのCL変数 (10)	文字値	オプション
MSGQLIB	MSGQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
PRVGRPJOB	PRVGRPJOBのCL変数 (16)	文字値	オプション
CTLCDE	CTLCDEのCL変数 (3 0)	10 進数	オプション

上

GRPJOBのCL変数 (10) (GRPJOB)

ジョブのグループ・ジョブ名を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。グループ・ジョブ名の文字数が、変数に使用できるものより少ない場合には、その値の右側にブランクが埋め込まれます。

上

GRPJOB リストのCL変数(1056) (GRPJOB)

グループ内のジョブのリストを受け取るCL変数の名前を指定します。各項目には、ジョブのグループ・ジョブ名(10)、ジョブ番号(6)、および50文字の記述テキストが入っています。変数の中の項目の最大数は16です。これらの項目は、最も新しい活動ジョブによって配列されます。変数は、最小の長さである1056文字の文字変数でなければなりません。グループ・ジョブ・リストの文字数が、変数に使用できる文字数より少ない場合には、その値の右側に空白が埋め込まれます。

上

GRPJOBcntのCL変数 (3 0) (GRPJOBcnt)

グループ中の活動ジョブのカウントを受け取るCL変数を指定します。CL変数は、小数部分のない3桁の10進数の変数でなければなりません。CL変数には、グループ・ジョブ・リストの非空白項目の数が入っています。カウントには、グループ内のすべての活動ジョブが算入されます。完全に終了していないジョブ（取り消されたジョブ）はカウントされません。

上

MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)

グループ・メッセージ待ち行列名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長10文字の文字変数でなければなりません。メッセージ待ち行列名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。グループに関連したメッセージ待ち行列がない場合には、CL変数は特殊値*NONEにセットされます。

上

MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)

グループ・メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長10文字の文字変数でなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。グループに関連したメッセージ待ち行列がない場合には、CL変数は空白にセットされます。

上

PRVGRPJOBのCL変数 (16) (PRVGRPJOB)

グループ・ジョブ名とグループ内で前に活動状態だったジョブ番号を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小の長さである16文字の文字変数でなければなりません。グループ・ジョブ名の文字数が、変数に使用できるものより少ない場合には、その値の右側に空白が埋め込まれます。グループ内に前に活動状態であったジョブがない場合には、CL変数のグループ・ジョブ名部分は特殊値*NONEにセットされ、CL変数のジョブ番号部分は空白にセットされます。CL変数は次の様式で戻されます。

グループ・ジョブ名 CHAR(10)
ジョブ番号 CHAR(6)

上

CTLCDEのCL変数 (3 0) (CTLCDE)

グループ内の活動ジョブが制御を獲得した理由に関する情報を受け取るCL変数の名前を指定します。CL変数は、小数部分のない3桁の10進数の変数でなければなりません。次の制御コード（およびその意味）が考えられます。

- 0 事前活動ジョブがなかった（このグループに対してグループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB)コマンドが実行されていない）。
- 10 事前活動ジョブが、TFRGRPJOBコマンドでの転送先ジョブとして、このジョブを選択した。
- 20 事前活動ジョブの最初のグループ・プログラムが正常に終了し、このジョブがグループ内の最新の活動ジョブになった。
- 30 事前活動ジョブがグループ・ジョブ終了 (ENDGRPJOB)コマンドによって終了され、制御権を取得するためにこのジョブが選択された(再開するグループ・ジョブ (RSMGRPJOB)パラメーターがこのグループ・ジョブを指定した)。
- 40 事前活動ジョブがENDGRPJOBコマンドによって終了され、制御権を取得するためにこのジョブ以外のジョブ（再開できないうちに終了された）を選択した。このジョブがグループ内で最新の活動ジョブになったため、制御権はこれに渡されます。
- 50 事前活動ジョブがENDGRPJOBコマンドによって終了され、このジョブがグループ内の最新の活動ジョブになった(RSMGRPJOBパラメーターが*PRVを指定した)。
- 60 事前活動ジョブの最初のグループ・プログラムが異常終了し、このジョブがグループ内の最新の活動ジョブになった。
- 70 事前活動ジョブがジョブ終了 (ENDJOB)コマンドによって終了され、このジョブがグループ内の最新の活動ジョブになった。

上

例

ジョブ030001/QUSER/WORKST01および030002/QUSER/WORKST01が、それぞれグループ・ジョブ名GROUPJ1およびGROUPJ2をもつグループ・ジョブであるとして。また、メッセージ待ち行列QGPL/GROUPMSGQがグループと関連付けられているとして。グループ・ジョブGROUPJ1がグループ・ジョブGROUPJ2に移行するためにTFRGRPJOBコマンドを出したばかりで、GROUPJ2が次のCLプログラムを呼び出した場合：

PGMの例

```
DCL VAR(&GRPJOB) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&GRPJOB) TYPE(*CHAR) LEN(1056)
DCL VAR(&GRPCOUNT) TYPE(*DEC) LEN(3 0)
DCL VAR(&MSGQNAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&MSGQLIB) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&PRVJOB) TYPE(*CHAR) LEN(16)
DCL VAR(&CTLCODE) TYPE(*DEC) LEN(3 0)
RTVGRPA GRPJOB(&GRPJOB) GRPJOB(&GRPJOB) +
        GRPJOBNT(&GRPCOUNT) MSGQ(&MSGQNAME) +
        MSGQLIB(&MSGQLIB) PRVGRPJOB(&PRVJOB) +
        CTLCDE(&CTLCODE)
```

戻されたCL変数の内容は次の通りです。

&GRPJOBN: GROUPJ2
&GRPJOB: GROUPJ2 030002 このグループ・ジョブの
50文字のテキスト...
GROUPJ1 030001 このグループ・ジョブの
50文字のテキスト...

ブランクで埋められた、さらに14個の項目

&GRPCOUNT: 002
&MSGQNAME: GROUPMSGQ
&MSGQLIB: QGPL
&PRVJOB: GROUPJ1 030001
&CTLCODE: 010

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1309

サブシステムは&1コマンドを完了することができない。

CPF1311

このジョブはグループ・ジョブでない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

上

イメージ・カタログの検索 (RTVIMGCLG)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

仮想装置にロードされたイメージ・カタログの名前を検索するか、あるいはイメージ・カタログがロードされている仮想装置の名前を検索するには、CLプロシージャでイメージ・カタログ検索(RTVIMGCLG)コマンドを使用します。

制約事項:

- イメージ・カタログがロードされている仮想装置の名前を検索するには、次の権限が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - イメージ・カタログに対する使用(*USE)権限。
- 仮想装置にロードされたイメージ・カタログの名前を検索するために、装置に対する使用(*USE)権限が必要です。
- このコマンドを使用できるのは、コンパイルされたCLプロシージャ中だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	オプション
DEV	仮想装置	名前	オプション
DEVLOD	DEVLODのCL変数(10)	文字値	オプション
IMGCLGLOD	IMGCLGLODのCL変数(10)	文字値	オプション

上

イメージ・カタログ (IMGCLG)

その関連した仮想装置名を検索するイメージ・カタログを指定します。

注: このパラメーターまたは**仮想装置 (DEV)**パラメーターに値を指定する必要があります。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

上

仮想装置 (DEV)

その関連したイメージ・カタログ名を検索する仮想装置を指定します。

注: このパラメーターまたは**仮想装置 (IMGCLG)**パラメーターに値を指定しなければなりません。

名前 仮想装置の名前を指定します。

上

DEVLODのCL変数(10) (DEVLOD)

指定されたイメージ・カタログをロードする、その現行の仮想装置の名前を受け取る、CL変数の名前を指定します。最小10文字の長さのTYPE(*CHAR)で宣言されたCL変数を指定しなければなりません。イメージ・カタログ (IMGCLG)パラメーターに指定した名前が仮想装置と関連していない場合には、値*NONEが戻されることになります。

上

IMGCLGLODのCL変数(10) (IMGCLGLOD)

指定された仮想装置に現在ロードされているイメージ・カタログの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小10文字の長さのTYPE(*CHAR)で宣言されたCL変数を指定しなければなりません。仮想装置 (DEV)パラメーターに指定した名前がイメージ・カタログと関連していない場合には、値*NONEが戻されることになります。

上

例

例1:ロード済み仮想装置名の検索

```
DCL VAR(&MYLODDEV) TYPE(*CHAR) LEN(10)
RTVIMGCLG IMGCLG(MYCLG) DEVLOD(&MYLODDEV)
```

このコマンドは、イメージ・カタログMYCLGと関連したロード済み仮想装置の名前を検索します。

例2:仮想装置にロードされたイメージ・カタログの検索

```
DCL VAR(&MYCLGLOD) TYPE(*CHAR) LEN(10)
RTVIMGCLG DEV(OPTVRT01) IMGCLGLOD(&MYCLGLOD)
```

このコマンドは、仮想装置OPTVRT01と関連したイメージ・カタログの名前を検索します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

上

ジョブ属性検索 (RTVJOBA)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ属性検索 (RTVJOBA) コマンドは、1つ以上のジョブ属性の値を検索し、それらの値を指定された変数に入れるために、CLプログラムまたはREXXプロシージャで使用されます。これらの属性は、このコマンドが使用されるジョブで検索されます。

このコマンドに対するCLプロンプトでは、検索された変数の最小長が該当するパラメーターの横にリストされます。文字変数の場合には、1つの数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小の長さを示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

1. このコマンドが有効なのは、CLプログラムまたはREXXプロシージャの中だけです。
2. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。追加情報については、「属性有効範囲およびスレッド・セーフティに関する考慮事項」を参照してください。

属性有効範囲およびスレッド・セーフティに関する考慮事項:

このコマンドは、コマンドが使用されたジョブのジョブ属性を検出するために使用されることを目的としています。しかし、現在属性がスレッド・レベルでのみサポートされているために、ジョブ属性が存在しない場合には、このコマンドが使用されたスレッドについてスレッド属性が検索されます。

「有効範囲」欄は、属性の有効範囲がジョブまでであるかまたはスレッドまでであることを示します。

「スレッド・セーフ」欄は、属性がスレッド・セーフとみなされるかどうかを指示します。

はい: -この値でマークされた属性は、初期スレッドか2次スレッドのいずれかから安全に検索できます。

いいえ: -この値でマークされた属性は、スレッド・セーフではなく、マルチスレッド化ジョブで検索してはなりません。

属性有効範囲およびスレッド・セーフティ・テーブル:

属性	有効範囲スレッド・セーフ	
-----	-----	-----
ASPグループ名(ASPGRP)	スレッド	はい
中断メッセージの処理(BRKMSG)	ジョブ	はい
文字ID制御(CHRIDCTL)	ジョブ	はい
コード化文字セットID (CCSID)	ジョブ	はい
国別または地域別ID (CNTRYID)	ジョブ	はい
現行ライブラリー(CURLIB)	スレッド	はい
現行ユーザー・プロファイル(CURUSER)	スレッド	はい
日付形式(DATFMT)	ジョブ	はい
日付区切り記号(DATSEP)	ジョブ	はい
曜日(DAYOFWEEK)	ジョブ	はい
DDM会話処理(DDMCNV)	ジョブ	はい
10進数形式(DECfmt)	ジョブ	はい
省略時のコード化文字セットID (DFTCCSID)	ジョブ	はい
省略時の待機時間(DFTWAIT)	ジョブ	はい
装置の回復処置(DEVRCYACN)	ジョブ	はい
終了状況(ENDSTS)	ジョブ	はい
照会メッセージ応答(INQMSGRPY)	ジョブ	はい
ジョブ会計コード(ACGCDE)	ジョブ	はい
世紀付きジョブ日付(CYMDDATE)	ジョブ	はい
世紀なしジョブ日付(DATE)	ジョブ	はい
ジョブのローカル日時(DATETIME)	ジョブ	はい
ジョブ・ログ出力(LOGOUTPUT)	ジョブ	はい
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時の処置(JOBMSGQFL)	ジョブ	はい
ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ(JOBMSGQMX)	ジョブ	はい
ジョブ名(JOB)	ジョブ	はい
ジョブ番号(NBR)	ジョブ	はい
ジョブ・サブタイプ(SUBTYPE)	ジョブ	はい
ジョブ・スイッチ(SWS)	ジョブ	はい
ジョブ・タイプ(TYPE)	ジョブ	はい
言語ID (LANGID)	ジョブ	はい
ロギング・レベル(LOGLVL)	ジョブ	はい
CLプログラムのロギング(LOGCLPGM)	ジョブ	はい
ログ重大度(LOGSEV)	ジョブ	はい
ロギング・テキスト(LOGTYPE)	ジョブ	はい
出力待ち行列ライブラリー名(OUTQLIB)	ジョブ	はい
出力待ち行列名(OUTQ)	ジョブ	はい
印刷キー形式(PRTKEYFMT)	ジョブ	はい
印刷テキスト(PRTTXT)	ジョブ	はい
印刷装置名(PRTDEV)	ジョブ	はい
プログラム戻りコード(RTNCDE)	ジョブ	いいえ
除去(PURGE)	ジョブ	はい
資源類縁性グループ(RSCAFNGRP)	ジョブ	はい
実行優先順位(RUNPTY)	ジョブ	はい
分類順序(SRTSEQ)	ジョブ	はい
分類順序ライブラリー(SRTSEQLIB)	ジョブ	はい
スプール・ファイル処置(SPLFACN)	ジョブ	はい
状況メッセージの処理(STSMMSG)	ジョブ	はい
送信者のメッセージ待ち行列ライブラリー名(SBMSGQLIB)	ジョブ	はい
送信者のメッセージ待ち行列名(SBMSGQ)	ジョブ	はい
システム・ライブラリー・リスト(SYSLIBL)	スレッド	はい
スレッド資源類縁性(THDRSCAFN)	スレッド	はい
時刻区切り記号(TIMSEP)	ジョブ	はい
タイム・スライス(TIMESLICE)	ジョブ	はい
タイム・スライス終了プール(TSEPOOL)	ジョブ	はい
時間帯省略名(TIMZONABBR)	ジョブ	はい
時間帯記述(TIMZON)	ジョブ	はい
時間帯フルネーム(TIMZONFULL)	ジョブ	はい
時間帯オフセット(TIMOFFSET)	ジョブ	はい
ユーザー・ライブラリー・リスト(USRLIBL)	スレッド	はい
ユーザー名(USER)	ジョブ	はい
年オフセット(YEAROFFS)	ジョブ	はい

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOB	JOBのCL変数 (10)	文字値	オプション, 定位置 1
USER	USERのCL変数 (10)	文字値	オプション, 定位置 2
NBR	NBRのCL変数 (6)	文字値	オプション, 定位置 3
CURUSER	CURUSERのCL変数 (10)	文字値	オプション
TYPE	TYPEのCL変数 (1)	文字値	オプション
SUBTYPE	SUBTYPEのCL変数 (1)	文字値	オプション
SYSLIBL	SYSLIBLのCL変数 (165)	文字値	オプション
CURLIB	CURLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
USRLIBL	USRLIBLのCL変数 (2750)	文字値	オプション
ASPGRP	ASPGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
LOGLVL	LOGLVLのCL変数 (1)	文字値	オプション
LOGSEV	LOGSEVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
LOGTYPE	LOGTYPEのCL変数 (10)	文字値	オプション
LOGCLPGM	LOGCLPGMのCL変数 (10)	文字値	オプション
LOGOUTPUT	LOGOUTPUTのCL変数 (10)	文字値	オプション
JOBMSGQMX	JOBMSGQMXのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
JOBMSGQFL	JOBMSGQFLのCL変数 (10)	文字値	オプション
INQMSGRPY	INQMSGRPYのCL変数 (10)	文字値	オプション
STSMMSG	STSMMSGのCL変数 (7)	文字値	オプション
BRKMSG	BRKMSGのCL変数 (7)	文字値	オプション
DEVRCYACN	DEVRCYACNのCL変数 (13)	文字値	オプション
RTNCDE	RTNCDEのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
ENDSTS	ENDSTSのCL変数 (1)	文字値	オプション
PRTDEV	PRTDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQ	OUTQのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQLIB	OUTQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
SPLFACN	SPLFACNのCL変数 (10)	文字値	オプション
PRTTXT	PRTTXTのCL変数 (30)	文字値	オプション
PRTKEYFMT	PRTKEYFMTのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRTSEQ	SRTSEQのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRTSEQLIB	SRTSEQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
LANGID	LANGIDのCL変数 (3)	文字値	オプション
CNTRYID	CNTRYIDのCL変数 (2)	文字値	オプション
CCSID	CCSIDのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
DFTCCSID	DFTCCSIDのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
CHRIDCTL	CHRIDCTLのCL変数 (10)	文字値	オプション
DECfmt	DECfmtのCL変数 (1)	文字値	オプション
DATfmt	DATfmtのCL変数 (4)	文字値	オプション
DATSEP	DATSEPのCL変数 (1)	文字値	オプション
TIMSEP	TIMSEPのCL変数 (1)	文字値	オプション
DATE	DATEのCL変数 (6)	文字値	オプション
CYMDDATE	CYMDDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
DATETIME	DATETIMEのCL変数 (20)	文字値	オプション
DAYOFWEEK	DAYOFWEEKのCL変数 (4)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TIMZON	TIMZONのCL変数 (10)	文字値	オプション
TIMZONABBR	TIMZONABBRのCL変数 (10)	文字値	オプション
TIMZONFULL	TIMZONFULLのCL変数 (50)	文字値	オプション
TIMOFFSET	TIMOFFSETのCL変数 (3 0)	10 進数	オプション
YEAROFS	YEAROFSのCL変数 (3 0)	10 進数	オプション
ACGCDE	ACGCDEのCL変数 (15)	文字値	オプション
SWS	SWSのCL変数 (8)	文字値	オプション
RUNPTY	RUNPTYのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
TIMESLICE	TIMESLICEのCL変数 (7 0)	10 進数	オプション
PURGE	PURGEのCL変数 (10)	文字値	オプション
DFTWAIT	DFTWAITのCL変数 (7 0)	10 進数	オプション
SBMMSGQ	SBMMSGQのCL変数 (10)	文字値	オプション
SBMMSGQLIB	SBMMSGQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
DDMCNV	DDMCNVのCL変数 (5)	文字値	オプション
TSEPOOL	TSEPOOLのCL変数 (10)	文字値	オプション
THDRSCAFN	THDRSCAFNのCL変数 (20)	文字値	オプション
RSCAFNGRP	RSCAFNGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション

上

JOBのCL変数 (10) (JOB)

ジョブの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

USERのCL変数 (10) (USER)

ジョブの開始時にジョブと関連付けられたユーザー・プロファイルの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。ユーザー名は修飾ジョブ名の2番目の部分です。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

NBRのCL変数 (6) (NBR)

システムによってジョブに割り当てられた6文字の番号を受け取るCL変数の名前を指定します。ジョブ番号は修飾ジョブ名 (ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名) の最初の部分です。

上

CURUSERのCL変数 (10) (CURUSER)

現行ユーザー・プロファイルの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

TYPEのCL変数 (1) (TYPE)

ジョブの環境を表す1桁の値を受け取るCL変数の名前を指定します。文字値0は、ジョブがバッチ・ジョブとして実行中であることを示します。1は、対話式ジョブを示します。この変数は最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

上

SUBTYPEのCL変数 (1) (SUBTYPE)

ジョブの環境のサブタイプ値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長が1文字の文字変数でなければなりません。次の値が戻されます。

値	環境
*	このジョブにはサブタイプがない
E	このジョブは呼び出されたジョブとして実行中である
T	このジョブは複数リクエスター端末(MRT)ジョブとして実行中である
J	このジョブは事前開始ジョブとして実行中である
P	このジョブは印刷ドライバーとして実行中である

上

SYSLIBLのCL変数 (165) (SYSLIBL)

スレッドのライブラリー・リストのシステム部分を受け取るCL変数の名前を指定します。戻される各ライブラリー名は11桁のフィールドに左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。この変数は、最小165桁の文字変数でなければなりません。

上

CURLIBのCL変数 (10) (CURLIB)

スレッドの現行ライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

注: スレッドに現行ライブラリーがない場合は、この変数に*NONEの値が戻されます。

上

USRLIBLのCL変数 (2750) (USRLIBL)

スレッドのライブラリー・リストのユーザー部分を受け取るCL変数の名前を指定します。戻される各ライブラリー名は11桁のフィールドに左寄せされ、右側に空白が埋め込まれます。CL変数がライブラリー・リストで小さすぎる場合には、例外信号が出されて、ライブラリー名は戻されません。この変数は、最小長が275桁の文字変数でなければなりません。ライブラリー・リストのユーザー部分に250のライブラリー名が含まれている場合には、最小長2750文字の文字変数が必要です。

上

ASPGRPのCL変数 (10) (ASPGRP)

補助記憶域プール(ASP)グループ名を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。スレッドにASPグループがない場合には、特殊値*NONEが戻されます。

上

LOGLVLのCL変数 (1) (LOGLVL)

ジョブ・ログに記録されるメッセージのタイプを決めるために使用されるメッセージ・ロギング・レベルを示す、1桁の値(0から4の範囲)を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

上

LOGSEVのCL変数 (2 0) (LOGSEV)

2桁の値(00から99の範囲)を受け取るCL変数の名前を指定します。これは、どのエラー・メッセージがジョブ・ログに記録されるかを判別するために、ログ・レベルと一緒に使用される重大度レベルです。この変数は、小数部分を指定しない2桁の10進変数でなければなりません。

上

LOGTYPEのCL変数 (10) (LOGTYPE)

ジョブ・ログに書き出されるメッセージの場合に現れるテキストのレベルを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

LOGCLPGMのCL変数 (10) (LOGCLPGM)

CLプログラム中の処理されたコマンドをジョブ・ログに記録するかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

LOGOUTPUTのCL変数 (10) (LOGOUTPUT)

ジョブの完了時にジョブのジョブ・ログを作成する方法を示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。特殊値*JOBEND, *JOBLOGSVR,または*PNDが戻されます。

上

JOBMSGQMXのCL変数 (2 0) (JOBMSGQMX)

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は小数部分のない2桁の10進数の変数でなければなりません。

上

JOBMSGQFLのCL変数 (10) (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時取る処置を指定します。この変数の長さは、最小でも10文字が必要です。特殊値*NOWRAP, *WRAP,または*PRTWRAPが戻されます。

上

INQMSGRPYのCL変数 (10) (INQMSGRPY)

ジョブでどのように照会メッセージを処理するかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

STSMSGのCL変数 (7) (STSMSG)

ジョブに対する状況メッセージの処理方法を示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が7文字の文字変数でなければなりません。

上

BRKMSGのCL変数 (7) (BRKMSG)

ジョブで有効となっている中断メッセージ処理のモードを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が7文字の文字変数でなければなりません。

上

DEVRCYACNのCL変数 (13) (DEVRCYACN)

対話式ジョブで*REQUESTER装置に入出力エラーが見つかった時にジョブに対して取る回復処置を示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が13文字の文字変数でなければなりません。

上

RTNCDEのCL変数 (5 0) (RTNCDE)

RPG, COBOL, DFU,または分類ユーティリティ・プログラムの5桁の10進数戻りコードを受け取るCL変数の名前を指定します。戻りコードは、これらのプログラムがこれらのプログラムを呼び出すプログラムに戻る前に、これらのプログラムによって設定されます。戻りコードは、次のように、ジョブ内で処理を完了した最後のプログラム（上記のタイプのプログラム）の完了状況を示します。

- 0 正常戻り(RPG, COBOL, DFU,または分類プログラム・ユーティリティ)
- 1 LR (最終レコード) 標識がオン(RPG)
- 2 エラー停止標識がセットされていない(RPG, COBOL, DFU,または分類プログラム・ユーティリティ)
- 3 停止標識がオンにセットされている(RPGの標識H1からH9の1つ)

CL変数は、小数部分のない5桁の10進数の変数でなければなりません。

上

ENDSTSのCL変数 (1) (ENDSTS)

取り消し状況を受け取るCL変数の名前を指定します。単一桁の値は、ジョブに影響を及ぼす制御付き取り消しが現在実行されていることを示します。値1は、システム、ジョブが実行中のサブシステム、またはジョブそのものが取り消し中であることを示します。0は、制御付き取り消しは実行されていないことを示します。このCL変数は、最小の長さが1文字の文字変数でなければなりません。

上

PRTDEVのCL変数 (10) (PRTDEV)

印刷装置の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)

スプール出力のためにジョブで使用される出力待ち行列の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)

スプール出力のためにジョブで使用される出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

SPLFACNのCL変数 (10) (SPLFACN)

スプール・ファイルをジョブとともに保管するか、あるいはジョブの終了時に切り離すかを指示する特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。特殊値*KEEPまたは*DETACHが戻されます。

上

PRTTXTのCL変数 (30) (PRTTXT)

ジョブの印刷テキストを受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長30桁の文字変数でなければなりません。

上

PRTKEYFMTのCL変数 (10) (PRTKEYFMT)

ジョブのページ印刷キー形式を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数の長さは、最小でも10文字が必要です。特殊値*NONE, *PRTBDR, *PRTHDR,または*PRTALLが戻されます。

上

SRTSEQのCL変数 (10) (SRTSEQ)

ジョブに使用される分類順序テーブルの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。特殊値*LANGIDUNQ, *LANGIDSHR,または*HEXが変数に戻される可能性があります。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

SRTSEQLIBのCL変数 (10) (SRTSEQLIB)

ジョブに使用される分類順序テーブルが入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。SRTSEQが*LANGIDUNQ, *LANGIDSHRまたは*HEXの場合は、ブランクが変数に戻されます。

上

LANGIDのCL変数 (3) (LANGID)

ジョブに使用される言語IDを示す値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が3桁の文字変数でなければなりません。

上

CNTRYIDのCL変数 (2) (CNTRYID)

ジョブに使用される国別または地域別のIDを示す値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が2桁の文字変数でなければなりません。

上

CCSIDのCL変数 (5 0) (CCSID)

使用されるコード化文字セットID値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、小数部分を指定しない5桁の10進変数でなければなりません。

上

DFTCCSIDのCL変数 (5 0) (DFTCCSID)

ジョブに使用される省略時のコード化文字セットID値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、小数部を持たない5桁の10進数でなければなりません。

上

CHRIDCTLのCL変数 (10) (CHRIDCTL)

ジョブに対する文字ID制御として使用される値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

DECFMTのCL変数 (1) (DECFMT)

ジョブの10進数形式として使用されている文字を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

上

DATFMTのCL変数 (4) (DATFMT)

ジョブの日付形式として使用される特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。

上

DATSEPのCL変数 (1) (DATSEP)

ジョブの日付区切り文字として使用される文字を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

上

TIMSEPのCL変数 (1) (TIMSEP)

ジョブの時刻区切り文字として使用される文字を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が1文字の文字変数でなければなりません。

上

DATEのCL変数 (6) (DATE)

ジョブの開始時に、システムによってジョブに割り当てられた日付を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が6文字の文字変数でなければなりません。ジョブ日付はジョブ日付の形式で戻されます。

上

CYMDDATEのCL変数 (7) (CYMDDATE)

ジョブの開始時に、システムによってジョブに割り当てられた日付を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が7文字の文字変数でなければなりません。ジョブ日付は形式CYYYMMDDで戻されます。ここで、Cは世紀、YYは年、MMは月、DDは日です。

上

DATETIMEのCL変数 (20) (DATETIME)

ジョブの現在のローカル日時を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が20文字の文字変数でなければなりません。ジョブのローカル日時は、YYYYMMDDHHNNSSXXXXXXXXの形式で戻されます。ここで、YYYYは年、MMは月、DDは日、HHは時間、NNは分、SSは秒、およびXXXXXXXXはマイクロ秒です。

上

DAYOFWEEKのCL変数 (4) (DAYOFWEEK)

ジョブの現在のローカル曜日を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。特殊値*SUN, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI,または*SAT が戻されます。

上

TIMZONのCL変数 (10) (TIMZON)

ローカル・ジョブ時間を計算するために使用される現行時間帯記述を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

TIMZONABBRのCL変数 (10) (TIMZONABBR)

ローカル・ジョブ時間を計算するために使用される時間帯の現行省略名、すなわち短い名前、を受け取るCL変数の名前を指定します。この値には、夏時間調整時が有効であるかどうかに基づいて、標準時省略名か夏時間調整時省略名が含まれます。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

TIMZONFULLのCL変数 (50) (TIMZONFULL)

ローカル・ジョブ時間を計算するために使用される時間帯の現行フルネーム（つまり長い名前）を受け取るCL変数の名前を指定します。この値には、夏時間調整時が有効であるかどうかに応じて、標準時間フルネームか夏時間調整時フルネームのいずれかが入ります。この変数は、最小長が50文字の文字変数でなければなりません。

上

TIMOFFSETのCL変数 (3 0) (TIMOFFSET)

ローカル・ジョブ時間を計算するために使用される現行オフセット（分数）を受け取るCL変数の名前を指定します。この値は、必要に応じて夏時間調整時に調整されています。この変数は小数部分のない3桁の10進数の変数でなければなりません。

上

YEAROFSのCL変数 (3 0) (YEAROFS)

ジョブの年オフセットを受け取るCL変数の名前を指定します。この値は、現在のグレゴリオ年とジョブが使用する暦体系の現在の年の差（年数）を指定します。範囲は-140から140です。この変数は小数部分のない3桁の10進数の変数でなければなりません。

上

ACGCDEのCL変数 (15) (ACGCDE)

ジョブの会計コードを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が15文字の文字変数でなければなりません。

上

SWSのCL変数 (8) (SWS)

ジョブによって使用される8個のジョブ・スイッチの値を受け取るCL変数の名前を指定します。ジョブ・スイッチは、各桁が対応するスイッチの値として1または0を指定する単一の8文字の値として検索されます。このCL 変数は、最小の長さが8文字の文字変数でなければなりません。

上

RUNPTYのCL変数 (2 0) (RUNPTY)

このコマンドが使用されるジョブの処理優先順位を示す2桁の値(1から99の範囲)を受け取るCL変数の名前を指定します。この値は、ジョブ内のすべてのスレッドについて許される最高の実行優先順位です。ジョブ内の個々のスレッドはこれより低い実行優先順位になります。この変数は、小数部分を指定しない2桁の10進変数でなければなりません。

上

TIMESLICEのCL変数 (7 0) (TIMESLICE)

このジョブ内のスレッドが処理時間を与えられた時に実行できる最大ミリ秒数を示す7桁の値 (8から9999999)を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は小数部分のない7桁の10進数の変数でなければなりません。

上

PURGEのCL変数 (10) (PURGE)

タイム・スライス終わりまたは長時間待機状態に入った時にこのジョブが主記憶域から取り出して、補助記憶域に入れるのに適格となるかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。ジョブの除去の詳細については、ジョブ変更 (CHGJOB)コマンドのこのパラメーターの説明を参照してください。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

DFTWAITのCL変数 (7 0) (DFTWAIT)

システムが資源を獲得するためにマシン語命令を待機する最大秒数の省略時値を示す7桁の値(1から9999999の範囲あるいは値が*NOMAXに設定されている場合は-1)を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は小数部分のない7桁の10進数の変数でなければなりません。

上

SBMMSGQのCL変数 (10) (SBMMSGQ)

メッセージ待ち行列の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

SBMMSGQLIBのCL変数 (10) (SBMMSGQLIB)

前に記述されたメッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

DDMCNVのCL変数 (5) (DDMCNV)

ジョブでの分散データ管理機能(DDM)会話に取られる処置を示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が5文字の文字変数でなければなりません。

上

TSEPOOLのCL変数 (10) (TSEPOOL)

対話式ジョブがタイム・スライス終わりに達した時に対話式ジョブを別の主記憶域プールに移動するかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

THDRSCAFNのCL変数 (20) (THDRSCAFN)

2次スレッドに初期スレッドと同じシステム資源のグループへの類縁性があるかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。特殊値*NOGROUPまたは*GROUPが最初の10文字で戻されます。2番目の10文字には、類縁性のレベルを示す特殊値が入ります。特殊値*NORMALまたは*HIGHが戻されます。この変数は、最小長が20文字の文字変数でなければなりません。

上

RSCAFNGRPのCL変数 (10) (RSCAFNGRP)

ジョブに同じルーティング項目または事前開始ジョブ項目を使用する他のジョブと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性があるかどうかを示す特殊値を受け取るCL変数の名前を指定します。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。特殊値*NOまたは*YESが戻されます。

上

例

```
RTVJOBA NBR(&JOBNBR) DATE(&JOBDATE) DFTCCSID(&DFTCSID)
```

このコマンドは、このコマンドが実行されるジョブのジョブ番号、ジョブ日付、および省略時のコード化文字セットIDを検索します。6桁のジョブ番号がCL変数&JOBNBRにコピーされます。ジョブ日付はCL変数&JOBDATEにコピーされます。&JOBNBRと&JOBDATEの両方の値は6文字の長さでなければなりません。5

桁のDFTCCSID値がCL変数&DFTCCSIDにコピーされます。この値は5文字長さでなければなりません。日付の形式は、システム日付形式を制御するシステム値QDATFMTの内容によって決定されます。

```
/*変数の宣言*/
DCL  &LIBL *CHAR 2750
DCL  &CHGLIBL *CHAR 2760
/*ライブラリー・リストの保管*/
RTVJOBA  USRLIBL(&LIBL)
:
/*ライブラリー・リストの一時的な変更*/
CHGLIBL  LIBL(MYLIB QGPL)
:
/*コマンド・ストリングの構築*/
CHGVAR  &CHGLIBL ('CHGLIBL (' *CAT &LIBL *TCAT ')')
/*ライブラリー・リストの復元*/
CALL QCMDEXC (&CHGLIBL 2760)
```

上記のコマンドは、ライブラリー・リストのユーザー部分にMYLIBおよびQGPLだけが合ったような場合に、それを後で一時的な状態からオリジナルの状態に復元できるように、ライブラリー・リストのユーザー部分を検索します。

ライブラリー・リストのユーザー部分にライブラリーがない場合には、空白が変数に戻されます。ライブラリー・リストのライブラリーが削除されていた場合には、変数のその名前の位置に値「*DELETED」が入れられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF098A

USRLIBLパラメーター・サイズが小さすぎる。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

ジャーナル項目検索 (RTVJRNE)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル項目検索(RTVJRNE)コマンドにより、特定のジャーナル項目を取り出して、結果をCL変数に入れることができます。CL変数には、検索された項目の順序番号などの情報が含まれるので、特定タイプの回復機能を自動化する際に有用です。ジャーナル項目の検索は、オブジェクト、ある範囲のジャーナル・レシーバー、ある範囲のジャーナル項目、ジャーナル・コード、項目タイプ、ジョブ、プログラム、ユーザー・プロファイル、またはコミット・サイクルIDに制限することができます。複数の制限基準を指定することができます。指定された検索値を複数のジャーナル項目が満たした場合には、指定されたすべての検索値を満たすジャーナル項目の最初のオカレンスが戻されます。指定された検索値を満たすジャーナル項目がなかった場合には、コマンドはエスケープ・メッセージとともに終了し、戻りCL値(RTNSEQNBRLRG, RTNSEQNBR, RTNJRNCD, RTNENTTYP, RTNRCV, RTNRCVLIB,およびRTNJRNE)は同じままです。

ジャーナル項目全体の検索の順序は、昇順または降順とすることができます。検索順序は、SEARCHパラメーターに指定された値によって決まります。FROMパラメーターの値は、指定された検索順序の中でTOパラメーターに指定された値より前になければなりません。

このコマンドのCLプロンプトによって、正しいパラメーターの横に検索される変数の最小長がリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数値は最小変数長を示し、2番目の数値は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

- 順序番号が指定されたレシーバーの範囲内でリセットされる場合には、FROMENTLRGまたはFROMENTが指定されていれば、最初に現れた方が使用されます。TOENTLRGまたはTOENTが指定されている場合には、FROMENTLRGまたはFROMENTが指定されていれば、FROMENTLRGまたはFROMENT項目の後で最初に現れた方が使用されます。そうでない場合には、最初に現れたものが使用されます。
- FILE, OBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE, PATTERN, OBJJID, JRNCD, ENTYP, JOB, PGM, USRPRF, CCIDLRG, CMTCYCID, およびDEPENTパラメーターを使用して、ジャーナル項目の範囲内の使用可能なすべての項目のサブセットを指定することができます。
 - これらのパラメーターを使用して値を指定しない場合には、使用可能なすべてのジャーナル項目が検索されます。
 - これらのパラメーターの複数を指定する場合には、JRNCDパラメーターで*IGNFILSLTまたは*IGNOBSLTが指定されている場合を除き、ジャーナル項目はこれらのパラメーターで指定されているすべての値を満たさなければなりません。
 - JRNCDパラメーターでジャーナル・コードが指定されていて、*IGNFILSLTがそのジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、それらがFILEパラメーターで指定されているものを除くすべての選択基準を満たしていれば、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が選択されます。
 - JRNCDパラメーターでジャーナル・コードが指定されていて、*IGNOBSLTがそのジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、それらがOBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE, PATTERNおよびOBJJIDパラメーターで指定されているものを除くすべての選択基準を満たしていれば、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が選択されます。

- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが、このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には、選択基準の指定にJOB, PGM, およびUSRPRFパラメーターを使用することはできません。
- オブジェクトの最大数(32767オブジェクト)を超えるオブジェクトが識別されている場合には、エラーが起こって項目は検索されません。 *ALLFILEが指定されているか、オブジェクトが指定されていない場合には、この制約事項は無視されます。
- ジャーナル・キャッシュが使用されている場合には、キャッシュ内の項目を検索することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILE	ジャーナル処理ファイル	単一値: *ALLFILE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *ALL, *NONE	
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*FILE, *DTAARA, *DTAQ, *LIB	
要素 3: データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *FIRST, *ALL, *NONE		
OBJPATH	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
PATTERN	名前パターン	値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	

キーワード	記述	選択項目	ノート
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: *CURRENT, *CURCHAIN その他の値: 要素リスト	オプション、位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: *CURRENT その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB		
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, *FIRST, *LAST	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, *LAST, *FIRST	オプション
TOTIME	終了日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
SEARCH	検索	*ASCEND, *DESCEND	オプション
JRNCD	ジャーナル・コード	単一値: *ALL, *CTL その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジャーナル・コード値	A, B, C, D, E, F, J, L, M, P, Q, R, S, T, U, Y	
	要素 2: ジャーナル・コードの選択	*ALLSLT, *IGNFILSLT, *IGNOBSLT	
ENTTYP	ジャーナル項目タイプ	単一値: *ALL, *RCD その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: *ALL, * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
PGM	プログラム	名前, *ALL	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *ALL	オプション
CCIDLRG	大きいコミット・サイクルID	文字値, *ALL	オプション
DEPENT	従属項目	*ALL, *NONE	オプション
OBJFID	ファイル識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 16 進値	オプション
OBJJID	オブジェクト・ジャーナルID	値 (最大 300 回の繰り返し): 16 進値	オプション
ENTFMT	入力様式	*TYPE1, *TYPE2, *TYPE3, *TYPE4, *TYPE5	オプション
NULLINDLEN	ヌル値標識の長さ	1-8000	オプション
FMTMINDTA	最小化データの形式設定	*NO, *YES	オプション
INCENT	項目の組み込み	*CONFIRMED, *ALL	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-9999999999, *FIRST, *LAST	オプション
TOENT	終了順序番号	1-9999999999, *LAST, *FIRST	オプション
CMTCYCID	コミット・サイクル識別コード	1-9999999999, *ALL	オプション
RTNSEQLRG	RTNSEQLRGのCL変数 (20)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RTNJRNCD	RTNJRNCDのCL変数 (1)	文字値	オプション
RTNENTTYP	RTNENTTYPのCL変数 (2)	文字値	オプション
RTNRCV	RTNRCVのCL変数 (10)	文字値	オプション
RTNRCVLIB	RTNRCVLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
RTNJRNE	RTNJRNEのCL変数 (1)	文字値	オプション
RTNSEQNBR	RTNSEQNBRのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション

上

ジャーナル (JRN)

受け取られたジャーナル項目が入っていたジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ジャーナルされた物理ファイル (FILE)

ジャーナル項目が検索される最大300のファイルを指定します。このパラメーターは、ジャーナル項目が検索されるファイル・メンバーも指定します。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH, OBJFID, または OBJJID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

指定されたファイル・メンバー名に基づいて検索するジャーナル項目を判別するために、次が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在している場合には、ジャーナルIDは指定されたファイル・メンバーから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在していない場合には、指定されたファイル・メンバーと対応している使用可能なジャーナルID

をすべて判別するために、指定されたレシーバーの範囲が検索されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。項目をファイル用に戻すには、ライブラリー名または*CURLIBを指定してください。

指定されたレシーバー範囲内には、指定されたオブジェクトと関連付けられた複数のジャーナルIDがある場合があります。これは、ジャーナル処理されたオブジェクトが削除されて同じ名前で新しいオブジェクトが作成され、同じジャーナルにジャーナル処理された場合に起こり得ます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。
2. このパラメーターにデータベース・ファイルを指定した時に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が検索されるのは、それらが他のパラメーターに指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードF (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードR (レコード・レベルの情報項目)
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)
 - その他のジャーナル・コード (そのジャーナル・コードに*IGNFILSLTが指定されている場合)。そのジャーナル・コードに*ALLSLTが指定されている場合には、そのコードを持つジャーナル項目は検索されません。

単一値

*ALLFILE

検索する項目の検索は、指定したファイル名に限定されません。項目がどのオブジェクト (もしあれば) に関連付けられているかに関係なく、すべてのジャーナル項目が検索されます。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

*ALL ジャーナル処理された変更が現在ジャーナル・レシーバーに入っている指定のライブラリー (このライブラリー名が指定されている必要がある) にあるすべての物理ファイルまたは論理ファイルのジャーナル項目が検索されます。*ALLが指定されていて、ユーザーがファイルのすべてに対して必要な権限を持っていない場合には、エラーが起こり、コマンドは終了します。

ファイル名

ジャーナル項目が受け取られるデータベース物理ファイルまたは論理ファイルの名前を検索してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

データベース・ファイルのジャーナル項目およびファイルの最初のメンバーが検索されます。この値はリモート・ジャーナルには無効です。

***ALL** データベース・ファイルのジャーナル項目および現在ファイルに存在しているすべてのメンバーが検索されます。

***NONE**

データベース・ファイルの項目だけが検索されます。ファイルのメンバーの項目は検索されません。

メンバー名

項目が検索されるメンバーの名前を指定してください。

ファイル名要素に***ALL**を指定した場合には、このメンバー名がライブラリー中のすべての適用可能なファイルに対して使用されます。例えば、**FILE**パラメーターでライブラリー名/***ALL *FIRST**が指定された場合には、指定されたライブラリー内の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が検索されます。

上

オブジェクト (OBJ)

ジャーナル項目が検索される最大300の修飾オブジェクト名を指定します。考えられるオブジェクト・タイプは***FILE**、***FILE**、***DTAARA**、***DTAQ**、および***LIB**です。***FILE**が指定されている場合には、このパラメーターはジャーナル項目が検索されるファイル・メンバーの名前も指定します。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(**OBJ**、**OBJPATH**、**OBJFID**、または**OBJJID**)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

指定されたオブジェクト名に基づいて検索するジャーナル項目を判別するために、以下が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルの場合、および指定されたオブジェクトが現在システムに存在している場合には、ジャーナルIDは指定されたオブジェクトから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルの場合、または指定されたオブジェクトが現在システムに存在しない場合には、指定されたレシーバー範囲が検索されて、指定されたオブジェクトと関連付けられている可能なすべてのジャーナルIDが判別されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。項目をオブジェクト用に戻すには、ライブラリー名または***CURLIB**を指定してください。

指定されたレシーバー範囲内には、指定されたオブジェクトと関連付けられた複数のジャーナルIDがある場合があります。これは、ジャーナル処理されたオブジェクトが削除されて同じ名前でも新しいオブジェクトが作成され、同じジャーナルにジャーナル処理された場合に起こり得ます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であって

も、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

2. このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が検索されるのは、オブジェクト名の指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードE (データ域情報項目)。
 - ジャーナル・コードF (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードQ (データ待ち行列情報項目)。
 - ジャーナル・コードR (レコード・レベルの情報項目)
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)
 - ジャーナル・コードY (ライブラリー情報項目)。
 - *IGNOBSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
*ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は検索されません。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 指定されたライブラリー (ライブラリー名を指定する必要がある) 内の、ジャーナル処理された変更が現在ジャーナル・レシーバーに入っている、指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトのジャーナル項目が検索されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。*ALLが指定されていても、ユーザーがライブラリー内のすべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていないければ、メッセージが送られて、コマンドは終了します。

オブジェクト名

ジャーナル処理された変更が検索されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

ジャーナル処理された変更が検索されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

***FILE** データベース・ファイルの項目およびデータベース・ファイル・メンバーが検索されます。

*DTAARA

データ域の項目が検索されます。

*DTAQ

データ待ち行列の項目が検索されます。

*LIB ライブラリーの項目が検索されます。

要素3: データベース・ファイルの場合にメンバー

ジャーナル項目が検索されるファイルのメンバーの名前を指定してください。このパラメーターの最初の部分に*ALLを指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。例えば、*FIRSTが指定されていると、指定されたライブラリー内の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が検索されます。

注: 指定のオブジェクト・タイプが*FILEではない場合は、メンバー名要素値は無視されます。

***FIRST**

データベース・ファイルのジャーナル項目およびファイルの最初のメンバーが検索されます。この値はリモート・ジャーナルには無効です。

*ALL データベース・ファイルのジャーナル項目および現在ファイルに存在しているすべてのメンバーが検索されます。

***NONE**

データベース・ファイルの項目だけが検索されます。ファイルのメンバーの項目は検索されません。

メンバー名

項目が検索されるメンバーの名前を指定してください。

オブジェクト名要素に*ALLが指定されている場合には、ライブラリー内の適用可能なすべてのファイルにこのメンバー名が使用されます。例えば、OBJパラメーターでライブラリー名/*ALL *FILE *FIRSTが指定されていると、指定されたライブラリー内の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が検索されます。

上

オブジェクト (OBJPATH)

ジャーナル項目が検索される最大300個のオブジェクトを指定します。「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに入っていて、タイプが*STMF, *DIR,または*SYMLNKのオブジェクトを識別するパス名を持つオブジェクトだけがサポートされます。他のオブジェクトはすべて無視されます。

このパラメーターはリモート・ジャーナルには無効です。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH, OBJFID, または OBJJID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

現在指定されたパス名とリンクされていて、それらと関連付けられているジャーナルIDを持つオブジェクトだけがジャーナル項目の選択に使用されます。指定されたオブジェクトが存在しない場合には、そのリンクと関連付けられたジャーナルIDがジャーナル項目の選択に使用されます。指定されたオブジェクトが存在しないか、それと関連付けられたジャーナルIDを持っていない場合には、そのリンクはジャーナル項目の選択には使用されず、エラーは送られません。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であって

も、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

2. このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が検索されるのは、オブジェクト名の指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードB (統合ファイル・システム情報項目)。
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)
 - *IGNOBSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
*ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は検索されません。

要素1: 名前

パス名 パス名によって識別されたオブジェクトの項目が検索されます。

パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。修飾されているパス名、パターンが入っているパス名は、アポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。パス名が波形記号文字で始まっている場合には、そのパスは該当するホーム・ディレクトリーに相対するものとみなされます。

パス名パターンの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL)トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パス名と一致する名前を操作に含めるか、それとも操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

オブジェクト名のパターンと一致するオブジェクトは、*OMITの指定によって指定変更されない限り、どのジャーナル項目を検索するかの決定に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名のパターンと一致するオブジェクトは、どのジャーナル項目を検索するかの決定に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を指定変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることになります。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ジャーナル項目が検索されるオブジェクトの決定にディレクトリー・サブツリーを組み込むかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、OBJPATHパラメーターに1つまたは複数のパス名を指定する場合にだけ有効です。

***NONE**

選択基準と一致するオブジェクトだけが処理されます。選択したディレクトリーにあるオブジェクトは、暗黙に処理されません。

***ALL** 選択基準と一致する各ディレクトリーのサブツリー全体に加えて、選択基準と合ったすべてのオブジェクトが、処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内でのオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

上

名前パターン (PATTERN)

ジャーナル項目が検索されるオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用する最大20個のパターンを指定します。

名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。修飾されているパス名、パターンが入っているパス名は、アポストロフで囲まなければなりません。

名前パターンのパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

注: このパラメーターは、OBJPATHパラメーターに1つまたは複数のパス名を指定する場合にだけ有効です。

要素1: パターン

***'** 入力OBJPATHパラメーターと一致するすべてのオブジェクトが組み込まれます。

名前パターン

ジャーナル項目が検索されるオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用するパターンを指定します。名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。

名前パターンのパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

パス名パターンの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが操作に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは操作に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を指定変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

上

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

取り出されるジャーナル項目の検索で使用される開始（最初の）および終了（最後の）ジャーナル・レシーバーを指定します。システムは開始ジャーナル・レシーバー（最初の値で指定）で検索を開始し、終了ジャーナル・レシーバー（最後の値で指定）が処理されるまでレシーバー連鎖を検索していきます。

検索プロンプト（SEARCHパラメーター）に*ASCENDが指定された場合には、ジャーナル・レシーバーは古いものから新しいものへの順序で指定しなければなりません。検索 (SEARCH)パラメーターに*DESCENDが指定されている場合には、ジャーナル・レシーバーを最も新しいものから最も古いものへの順に指定しなければなりません。

注: この範囲内のレシーバーの最大数(2045)を超えると、エラーが起こって、ジャーナル項目は検索されません。

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の検索開始時に接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

***CURCHAIN**

ジャーナル項目の検索開始時に接続されているジャーナル・レシーバーが入っているジャーナル・レシーバー連鎖が使用されます。このレシーバー連鎖は連鎖の切れ目を越えません。連鎖に切れ目がある場合には、レシーバーの範囲は連鎖中の最新の切れ目からジャーナル項目の検索開始時に接続されているレシーバーまでとなります。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

開始ジャーナル・レシーバー名

検索されるジャーナル項目が入っている最初のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

***CURRENT**

ジャーナル項目の検索開始時に接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

終了ジャーナル・レシーバー

検索されるジャーナル項目が入っている最後のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。この名前のレシーバーが見つかる前にレシーバー連鎖の終わりに達した場合には、エラー・メッセージが送られて、ジャーナル項目は検索されません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

上

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

検索の対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***FIRST**

指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目が、検索対象とみなされる最初の項目です。SEARCH(*DESCEND)が指定されている場合に、FROMENT(*FIRST)が有効なのは、TOENTLRG(*FIRST)またはTOENT(*FIRST)も指定されている場合だけです。

***LAST**

指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目が、検索対象とみなされる最初の

項目です。SEARCH(*ASCEND)が指定されている場合に、FROMENT(*LAST)が有効なのは、TOENTLRG(*LAST)またはTOENT(*LAST)も指定されている場合だけです。

開始順序番号

割り当てられた順序番号を持つジャーナル項目が、検索の対象とみなされる最初の項目です。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

上

開始日および時刻 (FROMTIME)

検索の対象とみなされる最初のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。指定された日付と時刻で見つかった最初のジャーナル項目またはその後のジャーナル項目が検索の開始点となります。

要素1: 開始日付

開始日 日付を指定してください。指定した日付および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、検索の開始点となります。

要素2: 開始時刻

開始時刻

時刻を指定してください。指定した日付および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、検索の開始点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁の字符串を指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、字符串をアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁の字符串(hhmmまたはhhmmss)を指定します。ここで、**hh** =時、**mm** =分、および**ss** =秒です。

上

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

検索の対象とみなされる最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LAST

検索は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目が処理されるまで続行されます。SEARCH(*DESCEND)が指定されている場合に、TOENT(*LAST)が有効なのは、FROMENTLRG(*LAST)またはFROMENT(*LAST)も指定されている場合だけです。

*FIRST

検索は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目が処理されるまで続行されます。SEARCH(*ASCEND)が指定されている場合に、TOENT(*FIRST)が有効なのは、FROMENTLRG(*LAST)またはFROMENT(*FIRST)も指定されている場合だけです。

終了順序番号

検索の対象とみなされる最終ジャーナル項目の順序番号を指定します。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

注: FROMENTおよびTOENTパラメーターに指定する値は同じにすることができます。例えば、FROMENT(234)およびTOENT(234)を指定することができます。

上

終了日および時刻 (TOTIME)

検索の対象とみなされる最後のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。指定された日付と時刻で最初に見つかったジャーナル項目またはその直前のジャーナル項目が検索の終了点となります。

要素1: 終了日付

終了日 終了日を指定してください。指定した日付および時刻またはその前のジャーナル項目の終了日および時刻が、検索の終了点となります。

要素2: 終了時刻

終了時刻

時刻を指定してください。指定した日付および時刻またはその前のジャーナル項目の終了日および時刻が、検索の終了点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

検索 (SEARCH)

項目を検索するためにジャーナル項目が検索される順序を指定します。

*ASCEND

ジャーナル項目は、昇順（最も古い項目から最も新しい項目への順）で検索されます。

*DESCEND

ジャーナル項目は、降順（最も新しい項目から最も古い項目への順）で検索されます。

上

ジャーナル・コード (JRNCDE)

検索の対象とみなされるジャーナル項目のジャーナル・コードを指定します。

単一値

***ALL** 項目の検索は、指定したジャーナル・コードに限定されません。

***CTL** 検索されるジャーナル項目は、ジャーナル機能を制御するために使用されるものです。ジャーナル・コードは**J**および**F**です。

要素1: ジャーナル・コード値

ジャーナル・コード

ジャーナル項目を限定するジャーナル・コードを指定してください。指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目だけが検索されます。

指定できるジャーナル・コードの説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照のこと。にあります。その場合、「ジャーナル項目ファインダー」で検索してください。

要素2: ジャーナル・コードの選択

***ALLSLT**

その他のすべての選択パラメーターが満足されている場合に限り、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が検索されます。

***IGNFILSLT**

指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が検索されるのは、FILEパラメーターを除くすべての選択パラメーターが満たされた場合だけです。

注: この値はジャーナル・コードD, F,およびRの場合には無効です。この値は、OBJ, OBJPATH, OBJFID, またはOBJJIDパラメーターが指定されている場合には無効です。

***IGNOBJSLT**

指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が検索されるのは、OBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE, PATTERN,およびOBJJIDを除くすべての選択パラメーターが満たされた場合だけです。

注: この値はジャーナル・コードB, D, E, F, Q, R, およびYの場合には無効です。この値は、FILEパラメーターが指定されている場合には無効です。

上

ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)

検索するジャーナル項目を、指定したジャーナル項目のタイプに限定するかどうかを指定します。

単一値

***ALL** 項目の検索は特定の項目タイプに限定されません。

***RCD** レコード・レベル操作の項目タイプを持つ項目だけが検索されます。有効な項目タイプはBR, DL, DR, IL, PT, PX, UB, UP,およびURです。

その他の値

項目タイプ

項目の検索を限定する項目タイプを指定してください。指定された項目タイプが入っているジャーナル項目だけが検索の対象とみなされます。最大300の有効な項目タイプを指定できます。項目タイプの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照のこと。にあります。その場合、「ジャーナル項目ファイナダー」で検索してください。

上

ジョブ名 (JOB)

検索のために検索するジャーナル項目を、指定したジョブのジャーナル項目に限定するように指定します。

単一値

***ALL** 検索は、指定したジョブの項目に限定されません。

* 検索は現行ジョブの項目に限定されます。

その他の値

ジョブID

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

プログラム (PGM)

検索されるジャーナル項目を、指定したプログラムによって作成されたジャーナル項目に限定するように指定します。

***ALL** 検索は、指定したプログラムの項目に限定されません。

プログラム名

ジャーナル項目が検索の対象とみなされるプログラム名を指定します。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

検索の対象とみなされるジャーナル項目は指定されたユーザー・プロファイルのジャーナル項目に限定されることを指定します。

***ALL** ジャーナル項目の検索は、指定したユーザー・プロファイルの項目に限定されません。

ユーザー・プロファイル名

ジャーナル項目が検索の対象とみなされるユーザー・プロファイル名を指定します。

上

大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)

検索されるジャーナル項目を、指定したコミット・サイクルIDが入っているジャーナル項目に限定するように指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクルIDを共用するすべてのジャーナル項目から構成されます。ジャーナル項目のコミット・サイクルIDは、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用し、オプション5を入力することによって表示することができます。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** 検索は、指定したコミット・サイクルIDの項目に限定されません。

コミット・サイクルID

検索されるジャーナル項目のコミット・サイクルIDを指定してください。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

上

従属項目 (DEPENT)

次のジャーナル項目記録処置を検索するかどうかを指定します

- トリガー・プログラムの結果として行われる
- 参照制約の一部であるレコード上
- ジャーナル処理済み変更適用(APYJRNCHG)またはジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)の操作中に無視

***ALL** トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目を検索します。

***NONE**

トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目を検索しません。

上

ファイル識別コード (OBJFID)

ジャーナル項目が検索される最大300個のファイルID (FID)を指定します。FIDは統合ファイル・システム関連オブジェクトと関連付けされている固有のIDです。このフィールドは16進形式で入力されます。「ルート」(/)、QOPENSYS、およびユーザー定義ファイル・システムに入っていて、FIDがタイプ*STMF、*DIR、または*SYMLNKのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされます。他のオブジェクトはすべて無視されます。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH, OBJFID, または OBJJID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

指定されたファイルIDに基づいて、受信するジャーナル項目を判別するために、以下が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルの場合、および指定されたオブジェクトが現在システムに存在している場合には、ジャーナルIDは指定されたオブジェクトから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルの場合、または指定されたオブジェクトが現在システムに存在しない場合には、指定されたレシーバー範囲が検索されて、指定されたオブジェクトと関連付けられている可能なすべてのジャーナルIDが判別されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて検索されます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。
2. このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が検索されるのは、FIDの指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードB (統合ファイル・システム情報項目)。
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)
 - *IGNOBSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
 - *ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は検索されません。

ファイルID

FIDで識別されたオブジェクトの項目が検索されます。

上

オブジェクト・ジャーナルID (OBJJID)

ジャーナル項目が検索される最大300個のジャーナルIDを指定します。このフィールドは16進形式で入力されます。16進数ゼロは無効です。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH, OBJFID, または OBJJID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

2. このパラメーターでジャーナルIDを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が出力用に変換されるのは、それらのジャーナル項目が、ジャーナルIDの指定に加えて他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。

- ・ ジャーナル・コードB (統合ファイル・システム情報項目)。
- ・ ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。
- ・ ジャーナル・コードE (データ域情報項目)。
- ・ ジャーナル・コードF (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
- ・ ジャーナル・コードJ (ジャーナル・レシーバー情報項目)。
- ・ ジャーナル・コードQ (データ待ち行列情報項目)。
- ・ ジャーナル・コードR (レコード・レベルの情報項目)
- ・ ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)
- ・ ジャーナル・コードY (ライブラリー情報項目)。
- ・ *IGNOBSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
*ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は出力用に変換されません。

ジャーナルID

指定したジャーナルIDに関連付けられたオブジェクトの項目が検索されます。

上

入力様式 (ENTFMT)

検索されるジャーナル項目の形式を指定します。ジャーナル項目のそれぞれのフィールドが何を表すかについては、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。その場合、「ジャーナル項目ファインダー」で検索してください。

検索されるジャーナル項目の形式に関する明細情報を示すリストは、RTNJRNEパラメーターの説明の中にあります。

注: ENTFMT(*TYPE1)またはENTFMT(*TYPE2)が指定されていない場合には、NULLINDLENパラメーターを指定しなければなりません。

注: ジャーナルの **レシーバー・サイズ・オプション**フィールド(RCVSIZOPT)が*MAXOPT3として指定されていた場合には、順序番号、コミット・サイクルID、適用または除去された項目のカウント、あるいは相対レコード番号フィールドが、18,446,744,073,709,551,600の最大値に達する可能性があります。

ENTFMT(*TYPE1), ENTFMT(*TYPE2), ENTFMT(*TYPE3),およびENTFMT(*TYPE4)形式のこれらのフィールドの長さは、10桁の数字を保持するように定義されます。この最大値を保持できるだけの十分な大きさのフィールドがあるのは*TYPE5形式だけです。*TYPE5以外の形式でこれらのフィールドが戻された時に、10桁より大きい順序番号、コミット・サイクルID、適用または除外された項目のカウント、あるいは相対レコード番号が見つかった場合には、その項目に対してフィールドは-1に設定されます。

*TYPE1

検索されるジャーナル項目は、指定可能な最少の情報が入るように形式設定されます。

*TYPE2

検索されるジャーナル項目に、ENTFMT(*TYPE1)が指定された時に戻される情報およびユーザー・プロファイル・フィールドが含まれます。これは、検索されるジャーナル項目を記録したユーザーの名前、および項目を送信したシステムの名前を示します。

*TYPE3

検索されるジャーナル項目にENTFMT(*TYPE2)が指定された時に戻される情報およびヌル値標識が含まれます。

*TYPE4

検索されたジャーナル項目には、ENTFMT(*TYPE3)が指定された時に戻される情報、ジャーナルID、物理ファイル・トリガー標識、および参照制約標識が含まれます。

*TYPE5

検索されるジャーナル項目には、プログラム・ライブラリー名、プログラム・ライブラリーASP装置名、プログラム・ライブラリーASP番号、システム・シーケンス番号、論理作業単位、トランザクションID、スレッドID、リモート・アドレス、アドレス・ファミリー、リモート・ポート、アーム番号、レシーバー名、レシーバー・ライブラリー名、レシーバー・ライブラリーASP装置レシーバー・ライブラリーASP装置名、およびレシーバー・ライブラリーASP番号のほかに、OUTFILFMT(*TYPE4)が指定された時に戻される情報が含まれます。

上

ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)

検索される項目のヌル値標識部分に使用される長さを指定してください。このパラメーターは、ENTFMT(*TYPE1)またはENTFMT(*TYPE2)が指定されている場合には無効です。有効な値の範囲は1から8000バイトです。検索されるジャーナル項目に、指定されたフィールド長より小さいヌル値標識がある場合には、ヌル値標識フィールドの後書きバイトは'F0'Xに設定されます。

以下のように、ヌル値標識がレコード・レベル操作のジャーナル項目に表示されます。

1. 対応する物理ファイルにはヌル値可能フィールドがあります。
2. レコード・イメージは、項目特定データで最小化されています。

レコード・イメージが項目特定データで最小化されていない場合には、物理ファイル中の各フィールドごとに1つのヌル値標識が入っています。各標識の長さは1桁で、次のいずれかとすることができます。

- 'F0'X =対応するフィールドはヌル値ではありません。
- 'F1'X =対応するフィールドはヌル値です。

レコード・イメージが項目特有のデータのフィールド境界で最小化されていて、RCVJRNEコマンドでFMTMINDTA(*YES)が指定されている場合には、物理ファイル内のフィールドごとに1つのヌル値標識が入っています。各標識の長さは1桁で、次のいずれかとすることができます。

- 'F0'X =対応するフィールドはヌル値ではありません。
- 'F1'X =対応するフィールドはヌル値です。
- 'F9'X =対応するフィールドは変更されず、そのフィールドの省略時値が戻されます。

レコード・イメージが項目特有のデータのファイル・フィールド境界で最小化されていて、RTVJRNEコマンドでFMTMINDTA(*NO)が指定されている場合には、ヌル値標識に内部値が戻されます。

上

最小化データの形式設定 (FMTMINDTA)

フィールド境界で最小化されている項目特有のデータを読み取り可能な形式で戻すかどうかを指定します。

- *NO** フィールド境界で最小化されている項目特有のデータを持つジャーナル項目は、読み取り可能な形式で戻されません。したがって、この項目特有のデータは表示されません。
- *YES** フィールド境界で最小化されている項目特有のデータを持つジャーナル項目は、読み取り可能な形式で戻されます。したがって、この項目特有のデータは表示可能で、監査目的に使用することができます。変更されたフィールドは正確に反映されています。変更されず、記録されなかったフィールドには、省略時のデータが表示され、ヌル値標識フィールドに'F9'Xの値で示されています。

上

項目の組み込み (INCENT)

確認済みのジャーナル項目だけを検索するか、あるいは確認済みと未確認の両方のジャーナル項目を出力用に変換するかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、リモート・ジャーナルからのジャーナル項目を出力用に変換する場合だけです。

確認済みの項目とは、このリモート・ジャーナルに送られていて、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっているジャーナル項目のことです。

未確認の項目とは、このリモート・ジャーナルに送られているが、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっていないジャーナル項目、あるいはこれらのジャーナル項目のオブジェクト名情報がまだリモート・ジャーナルにわかっていない項目のことです。未確認のジャーナル項目が存在できるのは、リモート・ジャーナルの接続されたレシーバー内だけです。これが適用されるのは、特定のリモート・ジャーナルに対して同期転送モードが使用されている場合だけです。

***CONFIRMED**

確認済みのジャーナル項目だけを検索します。

- *ALL** 確認済みおよび未確認のジャーナル項目をすべて検索します。

上

開始順序番号 (FROMENT)

検索の対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***FIRST**

指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目が、検索対象とみなされる最初の項目です。SEARCH(*DESCEND)が指定されている場合に、FROMENT(*FIRST)が有効なのは、TOENTLRG(*FIRST)またはTOENT(*FIRST)も指定されている場合だけです。

***LAST**

指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目が、検索対象とみなされる最初の項目です。SEARCH(*ASCEND)が指定されている場合に、FROMENT(*LAST)が有効なのは、TOENTLRG(*LAST)またはTOENT(*LAST)も指定されている場合だけです。

開始順序番号

割り当てられた順序番号を持つジャーナル項目が、検索の対象とみなされる最初の項目です。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

上

終了順序番号 (TOENT)

検索の対象とみなされる最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LAST**

検索は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル項目が処理されるまで続行されます。SEARCH(*DESCEND)が指定されている場合に、TOENT(*LAST)が有効なのは、FROMENTLRG(*LAST)またはFROMENT(*LAST)も指定されている場合だけです。

***FIRST**

検索は、指定されたジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル項目が処理されるまで続行されます。SEARCH(*ASCEND)が指定されている場合に、TOENT(*FIRST)が有効なのは、FROMENTLRG(*LAST)またはFROMENT(*FIRST)も指定されている場合だけです。

終了順序番号

検索の対象とみなされる最終ジャーナル項目の順序番号を指定します。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

注: FROMENTおよびTOENTパラメーターに指定する値は同じにすることができます。例えば、FROMENT(234)およびTOENT(234)を指定することができます。

上

コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)

検索されるジャーナル項目を、指定したコミット・サイクルIDが入っているジャーナル項目に限定するように指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクルIDを共用するすべてのジャーナル項目から構成されます。ジャーナル項目のコミット・サイクルIDは、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用し、オプション5を入力することによって表示することができます。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** 検索は、指定したコミット・サイクルIDの項目に限定されません。

コミット・サイクルID

検索されるジャーナル項目のコミット・サイクルIDを指定してください。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

上

RTNSEQLRGのCL変数 (20) (RTNSEQLRG)

検索されたジャーナル項目のジャーナル項目順序番号がコピーされるプログラムのCL文字変数の名前を指定します。CL変数名を指定しない場合には、ジャーナル項目の順序番号がプログラムにコピーされません。指定される変数は、20桁の長さを持つ文字変数でなければなりません。検索された順序番号がこのフィールドの長さより短い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

上

RTNJRNCDのCL変数 (1) (RTNJRNCD)

検索されたジャーナル項目のジャーナル・コードがコピーされるプログラムのCL文字変数名を指定します。CL変数名を指定しない場合には、検索されたジャーナル項目のジャーナル・コードがプログラムにコピーされません。指定する変数は、少なくとも1文字の長さの文字変数でなければなりません。変数の長さが1文字より長い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

上

RTNENTTYPのCL変数 (2) (RTNENTTYP)

検索されたジャーナル項目の項目タイプがコピーされるプログラムのCL文字変数名を指定します。CL変数名を指定しない場合には、検索されたジャーナル項目の項目タイプがプログラムにコピーされません。指定する変数は、少なくとも2文字の長さの文字変数でなければなりません。変数の長さが2文字より長い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

上

RTNRCVのCL変数 (10) (RTNRCV)

戻されたジャーナル項目が検索されたジャーナル・レシーバー名がコピーされるプログラムCL文字変数名を指定します。CL変数名を指定しない場合には、ジャーナル・レシーバー名がプログラムにコピーされません。指定する変数は、少なくとも10文字の長さの文字変数でなければなりません。変数の長さが10文字より長い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

上

RTNRCVLIBのCL変数 (10) (RTNRCVLIB)

検索されたジャーナル項目のレシーバーが入っているライブラリーの名前がコピーされるCL文字変数の名前を指定します。CL変数名を指定しない場合には、ジャーナル・レシーバーのライブラリー名がプログラムにコピーされません。指定する変数は、少なくとも10文字の長さの文字変数でなければなりません。変数の長さが10文字より長い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

上

RTNJRNEのCL変数 (1) (RTNJRNE)

検索されたジャーナル項目がコピーされるプログラムのCL文字変数の名前を指定します。CL変数名を指定しない場合には、検索されたジャーナル項目がプログラムにコピーされません。指定する変数は、文字変数でなければなりません。検索されたジャーナル項目が変数のフィールド長より長い場合には、項目が切り捨てられます。項目が短い場合には、右側にブランクが埋め込まれます。

以下のリストは、検索されたジャーナル項目の形式に関する明細情報を示しています。

ジャーナル項目は、使用可能な次の形式の1つで検索することができます。

ENTFMT(*TYPE1)が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目のフィールドの形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号(1)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
日付	TYPE(*CHAR) LEN(6)
時刻	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN (2)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID (3)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
未完了データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
最小化された項目データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
予約済み	TYPE(*CHAR) LEN(6)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) LEN (最大32642)

注：
(1)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
(2)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

ENTFMT(*TYPE2)が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目のフィールドの形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号(1)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
日付	TYPE(*CHAR) LEN(6)
時刻	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN (2)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID (3)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ユーザー・プロファイル	TYPE(*CHAR) LEN(10)
システム名	TYPE(*CHAR) LEN(8)
未完了データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
最小化された項目データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
予約済み	TYPE(*CHAR) LEN(18)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) LEN (最大32612)
注:	
	(1)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
	(2)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
	(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

注: ENTFMT(*TYPE3)が指定されている場合には、この形式では以下の情報は使用できません。

- LOBフィールドまたはバイト・ストリーム・ファイル操作のために、ジャーナル項目データが未完であるかどうかを示す未完了データ。
- ジャーナル項目に最小化された項目特定データがあるかどうかを示す最小化項目。これは、ジャーナルではジャーナル項目のオブジェクト・タイプにMINENTDTAが指定されているためです。

未完了データ標識、最小化された項目特定データ標識、およびこれらのジャーナル項目に関する詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照してください。

ENTFMT(*TYPE3)が指定され、NULLINDLENパラメーターに値が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目の形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号(3)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
タイム・スタンプ	TYPE(*TIMESTAMP) LEN(26)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN (4)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID (5)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ユーザー・プロファイル	TYPE(*CHAR) LEN(10)
システム名	TYPE(*CHAR) LEN(8)
ヌル値標識	TYPE(*CHAR) フィールド長(1)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) ((最大32618) - (フィールド長)) (2)

注：

(1)このフィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。

(2)項目のこの部分の長さは、RTNJRNEパラメーターに指定された長さとNULLINDLENパラメーターに指定された長さによって異なります。

(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(4)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(5)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

ENTFMT(*TYPE4)が指定され、NULLINDLENパラメーターに値が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目の形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号(3)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
タイム・スタンプ	TYPE(*TIMESTAMP) LEN(26)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN (4)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID (5)	TYPE(*DEC) LEN(10 0)
ユーザー・プロファイル	TYPE(*CHAR) LEN(10)
システム名	TYPE(*CHAR) LEN(8)
ジャーナルID	TYPE(*CHAR) LEN(10)
参照制約	TYPE(*CHAR) LEN(1)
トリガー	TYPE(*CHAR) LEN(1)
未完了データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
APYJRNHGH/RMVJRNCHG	TYPE(*CHAR) LEN(1)
の間は無視	
最小化された項目データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
予約済み	TYPE(*CHAR) LEN(5)
ヌル値標識	TYPE(*CHAR) フィールド長(1)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) ((最大32598) - (フィールド長)) (2)

注：

(1)このフィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。

(2)項目のこの部分の長さは、RTNJRNEパラメーターに指定された長さとNULLINDLENパラメーターに指定された長さによって異なります。

(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(4)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(5)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

ENTFMT(*TYPE5)が指定され、NULLINDLENパラメーターに値が指定されている場合には、検索されたジャーナル項目の形式は以下のようになります。

フィールド名	フィールド属性
項目の長さ	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
順序番号	TYPE(*CHAR) LEN(20)
ジャーナル・コード	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ジャーナル項目タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(2)
タイム・スタンプ	TYPE(*TIMESTAMP) LEN(26)
ジョブ名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ユーザー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
ジョブ番号	TYPE(*DEC) LEN(6 0)
プログラム名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
プログラム・ライブラリー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
プログラムASP装置名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
プログラムASP番号	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
オブジェクト名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
オブジェクト・ライブラリー	TYPE(*CHAR) LEN(10)
メンバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
カウント/RRN	TYPE(*CHAR) LEN(20)
フラグ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
コミット・サイクル ID	TYPE(*CHAR) LEN(20)
ユーザー・プロファイル	TYPE(*CHAR) LEN(10)
システム名	TYPE(*CHAR) LEN(8)
ジャーナルID	TYPE(*CHAR) LEN(10)
参照制約	TYPE(*CHAR) LEN(1)
トリガー	TYPE(*CHAR) LEN(1)
未完了データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
APYJRNHG/RMVJRNCHG	TYPE(*CHAR) LEN(1)
の間は無視	
最小化された項目データ	TYPE(*CHAR) LEN(1)
オブジェクト標識	TYPE(*CHAR) LEN(1)
システム順序番号	TYPE(*CHAR) LEN(20)
レシーバー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
レシーバー・ライブラリー名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
レシーバーASP装置名	TYPE(*CHAR) LEN(10)
レシーバーASP番号	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
アーム番号	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
スレッドID	TYPE(*CHAR) LEN(8)
スレッドID 16進	TYPE(*CHAR) LEN(16)
アドレス・ファミリー	TYPE(*CHAR) LEN(1)
リモート・ポート	TYPE(*DEC) LEN(5 0)
リモート・アドレス	TYPE(*CHAR) LEN(46)
作業論理単位	TYPE(*CHAR) LEN(39)
トランザクションID	TYPE(*CHAR) LEN(140)
オブジェクト・タイプ	TYPE(*CHAR) LEN(7)
ファイル・タイプ標識	TYPE(*CHAR) LEN(1)
ネストされたコミット・レベル	TYPE(*DEC) LEN(7 0)
予約済み	TYPE(*CHAR) LEN(5)
ヌル値標識	TYPE(*CHAR) フィールド長(1)
項目特有のデータ	TYPE(*CHAR) ((最大32212) - (フィールド長)) (2)

注：
(1)このフィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。
(2)項目のこの部分の長さは、RTNJRNEパラメーターに指定された長さでNULLINDLENパラメーターに指定された長さによって異なります。

上

RTNSEQNBRのCL変数 (10 0) (RTNSEQNBR)

検索されたジャーナル項目のジャーナル項目順序番号がコピーされるプログラムのCL 10進変数の名前を指定します。CL変数名を指定しない場合には、ジャーナル項目の順序番号がプログラムにコピーされません。指定する変数は、小数部のない10桁の長さの10進変数でなければなりません。順序番号が9,999,999,999より大きい場合には、この値は-1に設定され、左寄せされて、右側にはブランクが埋め込まれます。9,999,999,999より大きい値を検索するには、**RTNSEQLRGのCL変数 (20) (RTNSEQLRG)**パラメーターを使用してください。

上

例

例1

次の変数が指定されているものとします:

```
DCL &SEQ      TYPE(*DEC)  LEN(10 0)
DCL &JRNENT   TYPE(*CHAR) LEN(200)
DCL &RCVNAME  TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &RCVLIB   TYPE(*CHAR) LEN(10)
```

そして、次のコマンドが実行されます:

```
RTVJRNE  JRN(MYLIB/JRNA)  ENTYP(PR)  +
          RTNSEQNBR(&SEQ)  RTNJRNE(&JRNENT)
```

このコマンドには開始ジャーナル項目が指定されていないので、項目の検索の開始時点にライブラリーMYLIBのジャーナルJRNAに接続されていたジャーナル・レシーバーからの最初の項目が、検索対象とみなされます。どのレシーバーの最初の項目も、常に前に接続されていたレシーバーのIDです。この最初のレシーバー項目は、タイプPR項目として知られており、その項目特定データには、前に接続されていたレシーバーの名前が入っています。PR項目は、現在接続されているレシーバー内の昇順での最初の項目であり、見つかった場合には、この項目が&JRNENTという名前のCL変数に入れられます。

次に、変数変更(CHGVAR)を以下のように使用し、項目特定データで見つかった前のジャーナル・レシーバーの名前とライブラリーを分離することができます:

```
CHGVAR  &RCVNAME  (%SST(&JRNENT 126 10))
CHGVAR  &RCVLIB   (%SST(&JRNENT 136 10))
```

例2

次の変数が指定されているものとします:

```
DCL &ENTNO     TYPE(*DEC)  LEN(10 0)
DCL &JCODE     TYPE(*CHAR) LEN(1)
DCL &ETYP      TYPE(*CHAR) LEN(2)
DCL &RCVNAME   TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &RCVLIB    TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &JENTRY    TYPE(*CHAR) LEN(205)
```

そして、次のコマンドが実行されます:

```
RTVJRNE  JRN(MYLIB/JRNLA)  OBJ(LIB1/A *FILE MBR3)  +
          RCVRNG(RCVLIB/RCV30 RCVLIB/RCV27)  ORDER(*DESCEND)  +
          JRNCDE(R)  ENTYP(UP DL)  JOB(000666/QPGMR/PRESTR)  +
```

```
PGM(WAKEUP) USRPRF(MAC7) ENTFMT(*TYPE2) +
RTNSEQNBR(&ENTNO) RTNJRNCD(&JCODE) +
RTNENTTYP(&ETYP) RTNRCV(&RCVNAME) +
RTNRCVLIB(&RCVLIB) RTNJRNE(&JENTRY)
```

このコマンドは、ライブラリーRCVLIBのレシーバーRCV30からライブラリーMYLIBのジャーナルJRNLAを通じてジャーナル処理されたライブラリーRCVLIBのレシーバーRCV27までのジャーナル・レシーバー連鎖を降順に検索して、ジャーナル項目を入手し、その項目を指定されたCL変数にコピーします。検索される項目は、ユーザー・プロファイルMAC7によってプログラムWAKEUPのジョブ000666/QPGMR/PRESTRTにより作成された、ライブラリーLIB1のファイルAのメンバーMBR3からのジャーナル・コードRを持つUPDATEまたはDELETE項目です。検索されたジャーナル項目にはユーザー・プロファイル・フィールドが含まれます。検索された項目の順序番号は、CL変数&ENTNOにコピーされます。検索された項目のジャーナル・コードは、CL変数&JCODEにコピーされます。検索された項目の項目タイプは、CL変数&ETYPにコピーされます。戻された項目が検索されたジャーナル・レシーバーの名前は、&RCVNAMEにコピーされます。戻された項目が検索されたジャーナル・レシーバーのライブラリー名は、&RCVLIBにコピーされます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF705C

INCENT(*ALL)はローカル・ジャーナルに使用できない。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF7055

最大オブジェクト数を超えた。

CPF7057

*LIBLでは*ALL, *ALLLIB,または総称名は使用できません。

CPF7060

オブジェクトが指定されたレシーバー範囲でジャーナル処理されていません。

CPF7061

ジャーナル処理された項目の変換が正常に行なわれなかった。

- CPF7062**
ジャーナル&1から項目が変換されなかったか、または受け取られなかった。
- CPF7065**
ジャーナル・コード(JRNCDE)に項目タイプ(ENTTYP)は正しくない。
- CPF7072**
ジャーナル項目の検索が正常に実行されなかった。
- CPF7073**
&2のジャーナル&1から検索された項目がない。
- CPF7074**
指定したSEARCHに対してRCVRNGが正しくない。
- CPF708D**
ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。
- CPF709C**
JOB, PGM,およびUSRPRFはレシーバー範囲に正しくない。
- CPF70A9**
OBJPATHパラメーターはリモート・ジャーナルには無効です。
- CPF70AC**
ファイルID &1のオブジェクトが見つかりません。
- CPF70AE**
リモート・ジャーナルにはメンバー*FIRSTは使用できません。
- CPF9801**
ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。
- CPF9802**
&3のオブジェクト&2は認可されていない。
- CPF9803**
ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。
- CPF9809**
ライブラリー&1をアクセスすることができない。
- CPF9810**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF9820**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF9822**
ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。
- CPF9825**
装置&1は認可されていない。

上

ライブラリー記述の検索 (RTVLIBD)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー記述検索(RTVLIBD)コマンドは、ライブラリーの記述およびライブラリーのジャーナル処理情報を検索します。値は、プログラムの指定した変数に戻され（コピーされ）ます。

このコマンドによってCL変数に戻されるパラメーターの場合、パラメーターの記述タイトルまたはプロンプト・テキスト（あるいはその両方）にはCL変数の最小の長さがリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小桁数を示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

1. ライブラリーの属性を検索するには、ライブラリーに対する*EXCLUDE権限以外の何らかの権限が必要です。
2. 全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限を持つ場合にかぎり、ライブラリーに作成されたオブジェクトの省略時の実際の監査値が表示されます。少なくともこれらの特殊権限の1つを持たない限り、省略時値の監査値は利用不能(*NOTAVL)として表示されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
TYPE	TYPEのCL変数 (10)	文字値	オプション
ASP	ASPのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
ASPDEV	ASPDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
ASPGRP	ASPGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
CRTAUT	CRTAUTのCL変数 (10)	文字値	オプション
CRTOBJAUD	CRTOBJAUDのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNSTS	JRNSTSのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRN	JRNのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNLIB	JRNLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNIMG	JRNIMGのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRNOMTE	JRNOMTEのCL変数 (1)	文字値	オプション
INHERIT	INHERITのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRNSTRDATE	JRNSTRDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
STRJRNRCV	STRJRNRCVのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNRCVLIB	JRNRCVLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
RCVLIBASP	RCVLIBASPのCL変数 (10)	文字値	オプション
RCVLIBGRP	RCVLIBGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
INHRULES	INHRULESのCL変数 (1280)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TEXT	TEXTのCL変数 (50)	文字値	オプション

上

ライブラリー (LIB)

属性が検索されるライブラリーを指定します。変数を指定する場合には、長さが10文字でライブラリー名が入っていないければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 属性が検索されるライブラリーの名前を指定してください。

上

TYPEのCL変数 (10) (TYPE)

ライブラリー・タイプを戻すために使用される10文字の変数を指定します。値PRODまたは値TESTが戻されます。

上

ASPのCL変数 (2 0) (ASP)

システムがライブラリー用に割り振る記憶域を取り出す補助記憶域プール(ASP)の番号を戻すために使用される10進数(2 0)の変数の名前を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

1 ライブラリーはシステム補助記憶域プールに入っています。

2から32

ライブラリーはユーザー補助記憶域プールに入っています。

-1 ライブラリーは、32より大きいASP番号を持つ1次または2次補助記憶域プール(ASP)に入っています。この1次または2次ASPのASP装置名はASPDEVパラメーターを使って検索することができます。

上

ASPDEVのCL変数 (10) (ASPDEV)

ライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。戻される可能性のある特殊値は次のいずれかです。

***N** ASP装置の名前を決定できません。

***SYSBAS**

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

ASPGRPのCL変数 (10) (ASPGRP)

ライブラリーの記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される可能性のある特殊値は次のいずれかです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

CRTAUTのCL変数 (10) (CRTAUT)

ライブラリーの作成権限値を戻すために使用される10文字の変数を指定します。値*SYSVAL, *CHANGE, *ALL, *USE,または*EXCLUDE,あるいは権限リストの名前が戻されます。

上

CRTOBJAUDのCL変数 (10) (CRTOBJAUD)

ライブラリーの監査値を戻すために使用される10文字の変数を指定します。全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限のいずれかがない場合は、*NOTAVLの値が戻されます。戻される可能性のある値には*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL,および*NOTAVLです。詳細については、ライブラリー作成(CRTLIB)コマンドのオブジェクト監査の作成(CRTOBJAUD)パラメーターを参照してください。

上

JRNSTSのCL変数 (1) (JRNSTS)

ライブラリーの現在のジャーナル処理状況を戻すために使用される1文字の変数を指定します。ライブラリーのジャーナル処理の詳細については、ライブラリーのジャーナル開始(STRJRNLIB)コマンドを参照してください。戻される可能性のある値は以下の1つです。

'0' ライブラリーは現在ジャーナル処理されていません。

'1' ライブラリーは現在ジャーナル処理されています。

ライブラリーが現在ジャーナル処理されていない場合であっても、他のジャーナル処理関連フィールドにデータが入っていることがあります。

上

JRNのCL変数 (10) (JRN)

ライブラリーが現在ジャーナル処理されている場合には、ジャーナル処理の変更を受信するジャーナルの名前をライブラリーに戻すために使用される10文字の変数を指定します。ライブラリーが以前はジャーナル処理されていて現在はジャーナル処理されていない場合には、フィールドにはライブラリーがジャーナル処理された最後のジャーナルの名前が表示されます。ライブラリーに対してジャーナルが開始されたことがない場合には、このフィールドはブランクです。

JRNLIBのCL変数 (10) (JRNLIB)

ライブラリーが現在ジャーナル処理されている場合には、ジャーナル処理の変更を受信する現行または最後のジャーナルを持つライブラリーの名前をライブラリーに戻すために使用される10文字の変数を指定します。ライブラリーが以前はジャーナル処理されていて現在はジャーナル処理されていない場合には、フィールドにはライブラリーがジャーナル処理された最後のジャーナルを持つライブラリーの名前が表示されません。ライブラリーに対してジャーナルが開始されたことがない場合には、このフィールドは空白です。

上

JRNIMGのCL変数 (1) (JRNIMG)

ジャーナル・イメージ情報を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は以下の1つです。

- ' '
- '0'

上

JRNOMTEのCL変数 (1) (JRNOMTE)

除外されるジャーナル項目に関係する情報を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は以下の1つです。

- ' '
- '0'

ライブラリーに対してジャーナル項目を除外することはできません。

上

INHERITのCL変数 (1) (INHERIT)

ライブラリーに作成、移動、または復元された新しいジャーナル使用可能オブジェクトが、ライブラリーのジャーナル継承規則に従ってライブラリーからジャーナル処理を継承するかどうかに関する情報を戻すために使われる、1文字の値を指定します。ジャーナル継承規則は、**INHRULES**パラメーターを使用して検索可能です。

注: ジャーナル継承規則が、このフィールドの値にかかわらず、ライブラリーのQDFTJRNという名前のデータ域の存在によってオーバーライドされるかどうかを判別するために、ジャーナル継承規則を検証する必要があります。

戻される可能性のある値は以下の1つです。

- '0'

- '1' 新しいジャーナル使用可能オブジェクトは、ジャーナル継承規則に従ってライブラリーからジャーナル処理を継承します。

上

JRNSTRDATEのCL変数 (13) (JRNSTRDATE)

ライブラリーに対してジャーナル処理が最後に開始された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。値はCYYMMDDHHMMSSの形式で戻されます。ここで、C =世紀で、'0'の場合は年19XXを示し、'1'は年20XXを示します。YY=年、MM=月、DD=日、HH=時、MM=分、およびSS=秒です。ライブラリーに対してジャーナルが開始されたことがない場合には、このフィールドはブランクです。

上

STRJRNRCVのCL変数 (10) (STRJRNRCV)

ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドの正常使用に必要な最古のジャーナル・レシーバーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。ライブラリーがジャーナル処理されたことがないか、またはジャーナル処理が開始されてから保管または復元されたことがない場合には、このフィールドはブランクです。

上

JRNRCVLIBのCL変数 (10) (JRNRCVLIB)

適用する開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。ライブラリーがジャーナル処理されたことがないか、またはジャーナル処理が開始されてから保管または復元されたことがない場合には、このフィールドはブランクです。

上

RCVLIBASPのCL変数 (10) (RCVLIBASP)

適用する開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。ライブラリーがジャーナル処理されたことがないか、またはジャーナル処理が開始されてから保管または復元されたことがない場合には、このフィールドはブランクです。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

RCVLIBGRPのCL変数 (10) (RCVLIBGRP)

適用する開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される値は、開始ジャーナル・レシーバーのライブラリーASP装置名フィールドで戻される値と同じであることがあります。ライブラリーがジャーナル処理されたことがないか、またはジャーナル処理が開始されてから保管または復元されたことがない場合には、このフィールドはブランクです。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

INHRULESのCL変数 (1280) (INHRULES)

このライブラリーでジャーナル処理が行われたことがない場合は、ジャーナル処理済みライブラリー開始(STRJRNLIB)コマンド(またはジャーナル処理済みオブジェクト変更(CHGJRNOBJ)コマンド)のINHRULESキーワードに指定された情報を戻すために使用する、1280文字の変数を指定します。このライブラリーでジャーナル処理が開始されたことがない場合は、省略時のジャーナル継承規則が戻されます。ジャーナル継承規則では、ライブラリーに作成、移動、または復元されたどのジャーナル使用可能オブジェクトがライブラリーからジャーナル処理を継承するかを指定します。

ジャーナル継承規則は以下の両方の条件がそろった場合に適用されます。

- **INHERIT**パラメーターに戻された値が1である。
- ジャーナル継承規則のジャーナル継承規則のオーバーライドを指定するフィールド(rulesOverridden)の値が0である。

各規則は、規則が適用されるオブジェクトを決定するオブジェクト・タイプおよび操作を決定します。複数の規則をオブジェクトの同一セットに定義できます。同一のオブジェクト・タイプおよび操作に適用される複数の規則が定義された場合は、そのオブジェクトに定義された最後の規則が適用されます。

このフィールドは以下に示した順番で戻されます。フィールドのいくつかはオフセットもしくは変位フィールドを使用してアクセスしなければならないことに注意してください。

1. **Version**:この構造体のバージョンを示す4バイトの符号なし整数フィールド。戻される可能性のある値は以下のみです。
 - 1 各ボリュームのしきい値パーセントを指定します。
2. **dispEntry**:ジャーナル継承規則情報の先頭から最初のジャーナル継承規則項目までのオフセットを含む、4バイトの符号なし整数フィールド。
3. **lengthRules**:すべてのジャーナル継承規則情報の合計の長さを含む、4バイトの符号なし整数フィールド。
4. **numRules**:ジャーナル継承規則項目の数を含む、4バイトの符号なし整数フィールド。
5. **rulesOverridden**:ライブラリーのジャーナル継承規則がライブラリーに存在するQDFTJRNデータ域でオーバーライドされるかどうかを指定する、1文字のフィールド。QDFTJRNデータ域の情報は、ライブラリーに戻されたジャーナル継承規則に対し優先して使用されることを意味します。戻される可能性のある値は以下の1つです。

- '0' QDFTJRNデータ域はライブラリーのジャーナル継承規則をオーバーライドしません。
 - '1' QDFTJRNデータ域はライブラリーのジャーナル継承規則をオーバーライドします。
6. 16進数のゼロを含む3文字の予約フィールド。
7. **Inherit_Rules_Entry**:以下の構造体がジャーナル継承規則項目の数だけ繰り返します。この最初のジャーナル継承規則への変位は、上記のdispEntryフィールドに戻されます。
- a. **nextEntryDisp**:このジャーナル継承規則項目の先頭から次のジャーナル継承規則項目までの変位を含む、4バイトの符号なし整数フィールド。
 - b. 16進数のゼロを含む20文字の予約フィールド。
 - c. **objectType**:規則が適用されるジャーナル使用可能オブジェクト・タイプを示す10文字のフィールド。戻される可能性のある値は以下の1つです。
 - ***ALL** ジャーナル処理がサポートされているすべてのオブジェクト・タイプ。
 - ***DTAARA**
データ域
 - ***DTAQ**
データ待ち行列
 - ***FILE** データベース物理ファイル
 - d. **Operation**:ジャーナル属性がライブラリーから継承されるオブジェクト・タイプ上の操作を示す1文字のフィールド。戻される可能性のある値は以下の1つです。
 - '0' このライブラリーに作成('1'),移動('2'),または復元('3')される指定されたオブジェクト・タイプにジャーナル処理が継承されます。詳細については、以下の各操作の記述を参照してください。操作'0'は操作'1','2',および'3'を含みますが、操作'4'を含まないことに注意してください。
 - '1' この規則に指定された他の基準が満たされている場合は、このライブラリーに作成される指定されたオブジェクト・タイプにジャーナル処理が継承されます。
 - '2' オブジェクトがすでにジャーナル処理されていないと、この規則に指定された他の基準が満たされている場合は、このライブラリーに移動される指定されたオブジェクト・タイプにジャーナル処理が継承されます。
 - '3' オブジェクトがすでにライブラリーに存在していない限り、またはオブジェクトが保管された時にそれがジャーナル処理されていない限り、この規則に指定された他の基準が満たされている場合は、このライブラリーに復元される指定されたオブジェクト・タイプにジャーナル処理が継承されます。そのライブラリーにオブジェクトがすでに存在している場合は、既存のオブジェクトのジャーナル処理属性は変更されません。オブジェクトが保管された時にジャーナル処理されていた場合は、可能な場合、それが保管された時に持っていたジャーナル処理属性をそのまま保持します。不可能な場合（例えば保管された時にジャーナル処理されたジャーナルが見つからない場合）、復元されたオブジェクトはライブラリーからジャーナル処理を継承します。
 - '4' オブジェクトがすでにライブラリーに存在していない限り、オブジェクトが保管された時のオブジェクトのジャーナル処理の属性にかかわらず、この規則に指定された他の基準が満たされている場合は、このライブラリーに復元される指定されたオブジェクト・タイプにジャーナル処理が継承されます。そのライブラリーにオブジェクトがすでに存在している場合は、既存のオブジェクトのジャーナル処理属性は変更されません。

- e. ruleAction:オブジェクト・タイプに一致するオブジェクトおよびこの規則の操作を、ライブラリーからジャーナル処理を継承するオブジェクトのリストに含めるか、もしくはリストから除外するかを指定する1文字のフィールド。戻される可能性のある値は以下の1つです。
- '0' オブジェクト・タイプに一致するすべてのオブジェクトおよびこの規則の操作は、ジャーナル継承規則に従ってライブラリーからジャーナル処理を継承するオブジェクトのリストに含まれます。
 - '1' オブジェクト・タイプに一致するすべてのオブジェクトおよびこの規則の操作は、ライブラリーからジャーナル処理を継承するオブジェクトのリストから除外されます。
- f. Images:この規則により、ライブラリーからジャーナル処理を継承するオブジェクトに対する変更用のジャーナル・レシーバーに書き込む、イメージの種類を指示する1文字のフィールド。戻される可能性のある値は以下の1つです。
- '0' オブジェクトがライブラリーからジャーナル処理を継承する時に、各オブジェクト・タイプの省略時の値がこのジャーナル処理属性に使用されます。データベース・ファイル(*FILE)は、システムによって生成された変更前および変更後の両方のイメージを持つこととなります('2')。データ域(*DTAARA)およびデータ待ち行列(*DTAQ)は、システムによって生成された変更後のイメージのみを持ちます('1')。
 - '1' ライブラリーからジャーナル処理を継承するオブジェクトの、変更後のイメージのみがジャーナル処理されます。
 - '2' ライブラリーからジャーナル処理を継承するオブジェクトの、変更前および変更後の両方イメージがジャーナル処理されます。値'2'はデータ域(*DTAARA)およびデータベース・ファイル(*FILE)のみに有効です。'2'が指定されてオブジェクト・タイプに*ALLが指定された場合は、システムはデータ域およびデータベース・ファイルの変更前および変更後の両方のイメージを生成し、データ待ち行列に対してシステムは変更後のイメージのみを生成します。
- g. OmtJrnE:この規則のためにライブラリーからジャーナル処理を継承するオブジェクトに対する変更に対し(ジャーナル・レシーバーに書き込まれない)、除外するジャーナル項目を指示する1文字のフィールド。戻される可能性のある値は以下の1つです。
- '0' この規則により、オブジェクトがライブラリーからジャーナル処理を継承する時に、各オブジェクト・タイプの省略時の値がこのジャーナル処理属性に使用されます。データ域(*DTAARA)およびデータ待ち行列(*DTAQ)から除外されるジャーナル項目('1')はありません。データベース・ファイル(*FILE)からはジャーナルのオープンおよびクローズ項目('2')除外されます。
 - '1' この規則により、ライブラリーからジャーナル処理を継承するオブジェクトに対し、除外される項目はありません。
 - '2' この規則により、ライブラリーからジャーナル処理を継承するデータベース・ファイル(*FILE)に対し、オープンおよびクローズ・ジャーナル処理項目は書き込まれません。'2'を指定することにより、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドおよびジャーナル処理済み変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドでTOJOB0およびTOJOB0C項目を使用できなくなりますが、ジャーナル・レシーバーの一部の記憶域スペースを節約します。値'2'はデータベース・ファイル(*FILE)のみに有効です。'2'が指定されてオブジェクト・タイプに*ALLが指定された場合は、データベース・ファイルはオープンおよびクローズジャーナル処理項目を除外しますが、データ域(*DTAARA)およびデータ待ち行列(*DTAQ)はどんなジャーナル処理項目も除外しません。
- h. 16進数のゼロを含む2文字の予約フィールド。

TEXTのCL変数 (50) (TEXT)

ライブラリーのテキスト記述を戻すために使用される50文字のCL変数を指定します。

例

TESTLIBという名前のライブラリーが次のように作成されていたとします。

```
CRTLIB LIB(TESTLIB) CRTAUT(*ALL) TEXT('JOHN SMITH LIBRARY')
```

また、ジャーナル処理が、以下のジャーナル処理済みライブラリー開始(STRJRNLIB)コマンドを使用してTESTLIBという名前のライブラリーで開始されていたとします。

```
STRJRNLIB LIB(TESTLIB) JRN(TESTLIB/LIBJRN)
```

PGMの例

```
DCL VAR(&CRTAUT) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&JRNSTS) TYPE(*CHAR) LEN(1)
DCL VAR(&JRN) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&JRNLIB) TYPE(*CHAR) LEN(10)
RTVLIBD LIB(TESTLIB) CRTAUT(&CRTAUT) JRNSTS(&JRNSTS)
      JRN(&JRN) JRNLIB(&JRNLIB)
```

RTVLIBDコマンドは以下の値を戻します。

- プログラム変数&CRTAUTの値 '*ALL ', ERROR! SEGMENT DATA CORRUPTED, SEGDATA=
- プログラム変数&JRNSTSの値 '1',
- プログラム変数&JRNの値 'LIBJRN ',および
- プログラム変数&JRNLIBの値 'TESTLIB '。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF21AD

INHRULESパラメーター・サイズが小さすぎる。

CPF210E

理由コード&2が原因で、ライブラリー&1が使用できません。

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF980B

ライブラリー&2のオブジェクト&1を使用できない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

メンバー記述の検索 (RTVMBRD)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メンバー記述検索(RTVMBRD)コマンドはCLプログラムまたはREXXプロシージャー中で使用され、データベース・ファイルから(CL変数中の)メンバー・レベル情報を検索します(戻します)。

指定したCL変数に値が戻されます(複写されます)。次の種類のメンバー情報を検索することができます。

- ライブラリー名
- メンバー名
- ファイル属性
- ファイル・タイプ
- ソース・タイプ
- ソース日付
- 作成日付
- 満了日
- メンバー・テキスト
- 未削除レコードの数
- 削除済みレコードの数
- オープン・データ・パスの状況(共用または非共用)
- データ・スペース・サイズ
- アクセス・パス・サイズ
- 変更日付
- 保管日付
- 復元日付
- データ・メンバーの数
- 最終使用日付
- カウント使用日数
- カウントがリセットされた日付および日数

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MBR	メンバー	単一値: *FIRST, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 参照メンバー	総称名, 名前, *FIRSTMBR, *LASTMBR	
	要素 2: 関係	*SAME, *NEXT, *PRV	
RTNSYSTEM	RTNSYSTEMのCL変数 (4)	文字値	オプション
RTNLIB	RTNLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
RTNMBR	RTNMBRのCL変数 (10)	文字値	オプション
FILEATR	FILEATRのCL変数 (3)	文字値	オプション
FILETYPE	FILETYPEのCL変数 (5)	文字値	オプション
SRCTYPE	SRCTYPEのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCCHGDATE	SRCCHGDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
CRTDATE	CRTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
EXPDATE	EXPDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
TEXT	TEXTのCL変数 (50)	文字値	オプション
NBRCURRCD	NBRCURRCDのCL変数(10 0)	10 進数	オプション
NBRDLTRCD	NBRDLTRCDのCL変数(10 0)	10 進数	オプション
SHARE	SHAREのCL変数 (4)	文字値	オプション
DTASPCSI	DTASPCSIのCL変数(15 0)	無制限	オプション
ACCPHSIZ	ACCPHSIZのCL変数(12 0)	無制限	オプション
CHGDATE	CHGDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
SAVDATE	SAVDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
RSTDATE	RSTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
NBRDTAMBR	NBRDTAMBRのCL変数(2 0)	10 進数	オプション
USEDATE	USEDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
USECOUNT	USECOUNTのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
RESETDATE	RESETDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション

上

ファイル (FILE)

検索されるメンバー記述が入っているファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

注: メンバー記述情報を検索するためには、ファイルに対する使用(*USE)権限とライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

修飾子1: ファイル

名前 ファイル・メンバーが入っているファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストに現行項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリー名を指定してください。

上

メンバー (MBR)

その記述が検索されるファイル・メンバーを指定します。単一値(*FIRSTまたは*LAST)あるいは2重値(参照メンバーおよび関係)のいずれかを指定することができます。

単一値

***FIRST**

日付順のリストの最初のメンバーが検索されます。

***LAST**

日付順のリストの最後のメンバーが検索されます。

要素1: 参照メンバー

***FIRSTMBR**

名前順のリストの最初のメンバーが検索されます。関係値*SAMEが必要です。

***LASTMBR**

名前順のリストの最後のメンバーが検索されます。関係値*SAMEが必要です。

名前 参照メンバーの名前を指定してください。検索されるメンバーと参照メンバーとの関係は、このパラメーターの2番目の要素に指定します(*SAME, *NEXT,または*PRV)。変数を指定する場合には、参照メンバーの名前が入っている10文字のフィールドでなければなりません。

総称名 メンバー名の最初の文字をその後にアスタリスクを付けて指定してください。これにより、指定された文字で始まる名前順リスト中の最初のメンバーが検索されます。関係値を*SAMEとする必要があります。

要素2: 関係

***SAME**

参照メンバーが検索されます。

***NEXT**

名前順のリストで参照メンバーの直後のメンバーが検索されます。

***PRV** 名前順リストの中の参照メンバーの直前のメンバーが検索されます。

上

RTNSYSTEMのCL変数 (4) (RTNSYSTEM)

検索されたファイルからシステムの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは4桁の文字変数でなければなりません。

戻されることのある値は、*LCL（ファイルがローカル・システムで見つかった）および*RMT（ファイルがリモート・システムで見つかった）です。

上

RTNLIBのCL変数 (10) (RTNLIB)

指定されたファイル・メンバーを含むファイルの中から見つけるライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

RTNMBRのCL変数 (10) (RTNMBR)

その記述を検索しているファイル・メンバーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

FILEATRのCL変数 (3) (FILEATR)

ファイル属性を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムにおいて、これは3桁の文字変数でなければなりません。

戻されることのある値は、*PF（物理ファイル・メンバー）および*LF（論理ファイル・メンバー）です。

上

FILETYPEのCL変数 (5) (FILETYPE)

ファイル・タイプを検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムにおいて、これは5文字の文字変数でなければなりません。

戻される値は、*DATA（データ・ファイル・メンバー）および*SRC（ソース・ファイル・メンバー）です。

上

SRCTYPEのCL変数 (10) (SRCTYPE)

これがソース・ファイル・メンバーの場合に、ソース・ファイル・メンバーを検索するために使用される変数の名前を指定します。これがソース・ファイル・メンバーでない場合には、空白が戻されます。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

SRCCHGDATEのCL変数 (13) (SRCCHGDATE)

最後のソース・ファイル・メンバーが変更された世紀、日付、および時刻を検索するために使用される13桁のCL変数の名前を指定します。形式はCYYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

使用可能な日付がない場合には、ブランクが戻されます。リモートの非System i5および非システム/38ファイル、あるいは非ソース物理ファイルはブランクを戻します。

上

CRTDATEのCL変数 (13) (CRTDATE)

ファイル・メンバー作成の世紀、日付、および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは13桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

上

EXPDATEのCL変数 (7) (EXPDATE)

ファイル・メンバー満了の世紀および日付を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは7桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日です。

使用可能な日付がない場合には、*NONEが戻されます。

上

TEXTのCL変数 (50) (TEXT)

ファイル・メンバー・テキストを検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは50文字の変数でなければなりません。

上

NBRCURRCDのCL変数(10 0) (NBRCURRCD)

このファイル・メンバー内の非削除レコードの現在数を検索するために使用する変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、10桁の10進変数とする必要があります。

このメンバーがキー付き論理メンバーである場合には、索引項目の数に戻されます。キー付きでない論理メンバーの場合には、基礎になっている物理ファイル・メンバー内の非削除レコード数に戻されます。

結合論理ファイルでは、戻されたレコード数は、結合している非削除レコードのすべての合計です。この数値には、1次ファイルのレコードと一致しないレコードで、2次ファイル中にあるレコードも含まれます。除外または選択基準を使用した場合には、戻されるレコード数は、指定されたファイルでその選択基準を満たしているレコードの数だけ増減します。

NBRDLTRCDのCL変数(10 0) (NBRDLTRCD)

このファイル・メンバー内の削除済みレコード数の現在数を検索するために使用する変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、10桁の10進変数とする必要があります。キー付き論理ファイルの場合は、ゼロ(0)が戻されます。リモート非System i5 および非S/38ファイルは値0を戻します。キー付きでない論理メンバーの場合には、基礎になっている物理ファイル・メンバー内の削除済みレコード数が戻されます。

上

SHAREのCL変数 (4) (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じジョブで他のプログラムとの共用を可能にするかどうかを指示する値を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは4桁の文字変数でなければなりません。

ODPの共用を示す値は、*YES (ODPの共用が許される) および*NO (ODPの共用は許されない) です。

リモートの非System i5およびS/38ファイルは*NOを戻します。

上

DTASPCSIZのCL変数(15 0) (DTASPCSIZ)

このファイル・メンバーのデータ・スペース・サイズ (バイト数) を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは15桁の10進変数でなければなりません。これが論理ファイル・メンバーの場合には、ゼロ(0)が戻されます。

上

ACCPHSIZのCL変数(12 0) (ACCPHSIZ)

このファイル・メンバーのアクセス・パス・サイズ (バイト数) を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは12桁の10進変数でなければなりません。ファイル・メンバーがキー付きでない場合には、ゼロ(0)が戻されます。リモート非System i5 および非S/38ファイルは値0を戻します。

上

CHGDATEのCL変数 (13) (CHGDATE)

ファイル変更の世紀、日付、および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは13桁の変数でなければなりません。形式はCYMMDDHHMMSSであり、ここでC = 世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

SAVDATEのCL変数 (13) (SAVDATE)

ファイル・メンバーとその保管の世紀、日付、および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは13桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

使用可能な日付がない場合には、空白が戻されます。リモートの非System i5および非システム/38ファイルは空白を戻します。

上

RSTDATEのCL変数 (13) (RSTDATE)

ファイル・メンバーとその復元の世紀、日付、および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは13桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDHHMMSSであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日, H =時間, M =分, およびS =秒です。

使用可能な日付がない場合には、空白が戻されます。リモートの非System i5および非システム/38ファイルは空白を戻します。

上

NBRDTAMBRsのCL変数(2 0) (NBRDTAMBRs)

この論理ファイル・メンバーのデータ・ファイル・メンバーの数を検索するために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムにおいて、これは2桁の10進変数でなければなりません。これが物理ファイル・メンバーの場合には、値0が戻されます。

上

USEDATEのCL変数 (7) (USEDATE)

メンバーが最後に使用した世紀および日付を戻すために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは7桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDであり、ここでC =世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y =年, M =月, D =日です。

上

USECOUNTのCL変数 (5 0) (USECOUNT)

メンバーが使用された日数を戻すために使用される変数の名前を指定します。CLプログラムにおいて、これは5桁の10進変数でなければなりません。メンバーに最終使用日付がない場合には、0が戻されます。

RESETDATEのCL変数 (7) (RESETDATE)

使用日数カウントが最後に0にリセットされた世紀および日付を戻すために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは7桁の変数でなければなりません。形式はCYYMMDDであり、ここでC = 世紀 (0 = 1940年から1999年まで, 1 = 2000年から2039年まで), Y = 年, M = 月, D = 日です。使用日数カウントがリセットされていない場合には、ブランクが戻されます。

例

ユーザーには、ライブラリーMYLIB (現行ライブラリー) の中にメンバーQMEMBER, BMEMBER, ZMEMBER, およびJMEMBER (この順序で作成されます) を持つMYFILEという名前のファイルがあるものとします。

また、次の変数がCLプログラムに指定されているものとします:

```
DCL &LIB          TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &MBR          TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL &SYS          TYPE(*CHAR) LEN(4)
DCL &MTYPE        TYPE(*CHAR) LEN(5)
DCL &CRTDATE      TYPE(*CHAR) LEN(13)
DCL &CHGDATE      TYPE(*CHAR) LEN(13)
DCL &TEXT         TYPE(*CHAR) LEN(50)
DCL &NBRRCD       TYPE(*DEC) LEN(10 0)
DCL &SIZE         TYPE(*DEC) LEN(10 0)
```

例1: メンバー記述値の検索

```
RTVMBRD FILE(*CURLIB/MYFILE) MBR(BMEMBER *SAME) +
        RTNLIB(&LIB) RTNSYSTEM(&SYS) +
        RTNMBR(&MBR) FILEATR(&MTYPE) +
        CRTDATE(&CRTDATE) TEXT(&TEXT) +
        NBRCURCD(&NBRRCD) DTASPCSIZ(&SIZE)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストを使用して見つけられたファイルMYFILEのメンバーBMEMBERのメンバー記述を検索します。要求された情報は、次のようにCL変数に入れられます:

- 現行ライブラリー名(MYLIB)は&LIBという名前のCL変数に入れられます。
- MYFILEが見つかったシステムは&SYSという名前のCL変数に入れられます。(*LCLはファイルがローカル・システムで見つかったことを意味し、*RMTはファイルがリモート・システムで見つかったことを意味します。)
- メンバー名(BMEMBER)は&MBRという名前のCL変数に入れられます。
- MYFILEのファイル属性は&MTYPEという名前のCL変数に入れられます。(*DATAはメンバーがデータ・メンバーであることを意味し、*SRCはファイルがソース・ファイルであることを意味します。)
- BMEMBERの作成日は&CRTDATEという名前のCL変数に入れられます。
- BMEMBERと関連したテキストは&TEXTと呼ばれるCL変数に入れられます。
- BMEMBER内の現在のレコードの数は&NBRRCDと呼ばれるCL変数に入れられます。
- BMEMBERのデータ・スペースのサイズ (バイト数) は&SIZEと呼ばれるCL変数に入れられます。

例1: 次のメンバー記述の検索

```
RTVMBRD FILE(&LIB/MYFILE) MBR(&MBR *NEXT) +
RTNMBR(&MBR) CRTDATE(&CRTDATE) +
TEXT(&TEXT) NBRCURRCD(&NBRRCD) +
DTASPCSI(&SIZE)
```

このコマンドは、ファイルMYFILEの（名前順の）「次の」メンバーのメンバー記述を検索します。要求された情報は、次のようにCL変数に入れられます：

- MYFILEのBMEMBERの後のメンバーの名前（ファイルは名前順に検索されるのでJMEMBER）は&MBRという名前のCL変数に入れられます。
- JMEMBERの作成日は&CRTDATEという名前のCL変数に入れられます。
- JMEMBERと関連したテキストは&TEXTと呼ばれるCL変数に入れられます。
- JMEMBER内の現在のレコードの数は&NBRRCDと呼ばれるCL変数に入れられます。
- JMEMBERのデータ・スペースのサイズ（バイト数）は&SIZEと呼ばれるCL変数に入れられます。

ファイルは逆方向に検索することもできます。例として：

```
RTVMBRD FILE(*CURLIB/MYFILE) MBR(ZMEMBER *PRV) +
RTNMBR(&MBR) CHGDATE(&CHGDATE) TEXT(&TEXT)
```

要求された情報は、次のようにCL変数に入れられます：

- メンバー名（名前順のリストのZMEMBER直前のメンバーであるのでQMEMBER）は&MBRという名前のCL変数に入れられます。
- QMEMBERが最後に変更された日付は&CHGDATEという名前のCL変数に入れられます。
- QMEMBERと関連したテキストは&TEXTと呼ばれるCL変数に入れられます。

メンバー名の最初の部分だけが判明している場合には、次のようにメンバーのリストの総称名（または部分名）検索を使用することができます：

```
RTVMBRD FILE(*LIBL/MYFILE) MBR(JM*) RTNMBR(&MBR) +
CHGDATE(&CHGDATE) TEXT(&TEXT)
```

要求された情報は、次のようにCL変数に入れられます：

- メンバー名（名前順のリストの文字JMで始まる最初のメンバーであるのでJMEMBER）は&MBRと呼ばれるCL変数に入れられます。
- JMEMBERが最後に変更された日付は&CHGDATEという名前のCL変数に入れられます。
- JMEMBERと関連したテキストは&TEXTと呼ばれるCL変数に入れられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3018

&2のファイル&1のメンバー&3が使用できない。

CPF3019

ライブラリー&2のファイル&1にはメンバーがない。

CPF3027

&2のファイル&1はデータベース・ファイルではない。

CPF3038

戻り変数&1の属性が正しくない。

CPF3039

戻り変数&1は結果を入れるには小さすぎる。

CPF3049

*NEXTまたは*PRVメンバーが存在していない。

CPF3051

ライブラリー&2のファイル&1を使用することができない。

CPF325F

テキストの変換が正常に実行されなかった。

CPF327B

ファイル&1の情報を検索することができない。

CPF8109

物理データベース・ファイル&4で&8の損傷がある。

CPF8110

&9の論理データベース・ファイル&4に&8の損傷がある。VLOGは&7です。

CPF8111

ファイル&4メンバー&9に&8の損傷がある。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

上

メッセージ検索 (RTVMSG)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
 リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
 スレッド・セーフ: はい

パラメーター
 例
 エラー・メッセージ

メッセージ検索(RTVMSG)コマンドは、指定された事前定義メッセージをメッセージ・ファイルから検索してCL変数にコピーするために、CLコマンドまたはREXXプロシージャの中で使用されます。事前定義メッセージ・テキスト内の置換変数を置き換えるために、置き換え値をMSGDTAパラメーターに(1つ以上の連結されたメッセージ・データ・フィールドを含む単一の文字ストリングとして) 指定することができます。プログラムは後から、印刷する出力装置ファイルなどにメッセージを書き込むことができます。

このコマンドのCLプロンプトでは、最小長を持つパラメーターの横に、検索された変数の最小長がリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小桁数を示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:このコマンドのユーザーには、メッセージ・ファイルに対する使用(*USE)権限、およびそのメッセージ・ファイルが入っているライブラリーに対する*USE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, 定位置 1
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGDTA	メッセージ・データ・フィールドの値	文字値	オプション
MSG	第1 レベル・テキストのCL変数	文字値	オプション
MSGLEN	MSGLENのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
SECLVL	第2 レベル・テキストのCL変数	文字値	オプション
SECLVLEN	SECLVLENのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
SEV	SEVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
ALROPT	ALROPTのCL変数 (9)	文字値	オプション
LOGPRB	LOGPRBのCL変数 (1)	文字値	オプション
CCSID	CCSIDへの変換	1-65535, *HEX, *JOB	オプション
MDTACCSID	メッセージ・データCCSID	1-65535, *HEX, *JOB	オプション
TXTCCSID	テキスト CCSIDのCL変数(5 0)	10 進数	オプション
DTACCSID	データ CCSIDのCL変数(5 0)	10 進数	オプション

上

メッセージ識別コード (MSGID)

指定されたメッセージ・ファイルから検索される定義済みメッセージのメッセージIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

メッセージ・ファイル (MSGF)

検索される事前定義メッセージが入っているメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メッセージ・ファイル

名前 検索されるメッセージが入っているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

上

メッセージ・データ・フィールドの値 (MSGDTA)

事前定義メッセージに置換変数が含まれている場合には、検索されたメッセージで使用される置き換え値を指定します。文字ストリングまたは文字ストリングを含むCL変数を指定することができます。

上

第1 レベル・テキストのCL変数 (MSG)

検索されたメッセージのテキストのコピー先プログラムの中のCL文字変数の名前を指定します。CL変数名が指定されていない場合には、メッセージ・テキストはプログラムにコピーされません。これは可変長フィールドですが、ほとんどのメッセージは長さが132文字より短くなるように設計されています。

上

MSGLENのCL変数 (5 0) (MSGLEN)

検索可能なメッセージ・テキストの合計長がコピーされるコピー先のプログラムの中のCL 10進変数の名前を指定します。

指定された変数は5桁の長さを持つ10進変数でなければなりません。

第2 レベル・テキストのCL変数 (SECLVL)

検索されたメッセージの第2レベル・メッセージまたはメッセージ・ヘルプがコピーされるコピー先プログラムの中のCL文字変数の名前を指定します。変数名が指定されていない場合には、メッセージ・ヘルプはプログラムにコピーされません。これは可変長フィールドですが、ほとんどのメッセージ・ヘルプは長さが3000文字より短くなるように設計されています。

上

SECLVLENのCL変数 (5 0) (SECLVLEN)

検索されるメッセージ・ヘルプの合計長がコピーされるコピー先プログラムの中のCL 10進変数の名前を指定します。

指定された変数は5桁の長さを持つ10進変数でなければなりません。

上

SEVのCL変数 (2 0) (SEV)

検索されたメッセージの重大度コードのコピー先CL 10進変数の名前を指定します。指定された変数は、2桁の長さを持つ10進変数でなければなりません。変数名が指定されない場合は、検索されたメッセージの重大度コードはプログラムにコピーされません。

上

ALROPTのCL変数 (9) (ALROPT)

検索されたメッセージの警報オプションのコピー先CL変数の名前を指定します。変数は、長さが9桁の文字変数でなければなりません。文字変数が指定されない場合は、検索されたメッセージの警報オプションはプログラムにコピーされません。

上

LOGPRBのCL変数 (1) (LOGPRB)

メッセージを問題ログに記録するかどうかを指定します。変数は1桁の長さの文字変数でなければなりません。

上

CCSIDへの変換 (CCSID)

メッセージ・テキストを戻したいコード化文字セットID (CCSID)を指定します。これは、MSGおよびSECLVLパラメーターに戻されるテキストにのみ適用されます。置き換えデータがMSGまたはSECLVLパラメーターに戻されたテキストに代入されると、変換可能な文字(*CCHAR)として定義されている置き換えデータの部分のみが変換されます。置き換えデータの残りの部分は変換されません。*CCHARフィールドの詳細については、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドを参照してください。

***JOB** 受け取ったメッセージ記述は、戻される前にジョブのCCSIDに変換されます。

***HEX** 受け取ったメッセージ記述は、戻される前に変換されません。

コード化文字セットID

戻される前にメッセージ記述を変換したいCCSIDを指定してください。

注: 有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「グローバル化」情報を参照してください。受け入れられるのは、ジョブの変更先とすることができるCCSIDだけです。

メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OSのグローバル化」トピック・コレクションを参照してください。

上

メッセージ・データCCSID (MDTACCSID)

指定されたメッセージ・データが入っているとみなされるCCSIDを指定します。これは、*CCHARとして定義された置き換えデータの部分にのみ適用されます。置き換えデータの残りの部分は決して変換されず、65535のCCSIDを持つとみなされます。

***JOB** 指定されたメッセージ・データはこのコマンドを実行するジョブのCCSIDに入っているとみなされます。

***HEX** 指定されたメッセージ・データは65535であるとみなされ、決して変換されません。

コード化文字セットID

指定されたメッセージ・データは、指定されたCCSIDに入っているとみなされます。有効な値の範囲は1から65535です。有効なCCSIDの値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「グローバル化」情報を参照してください。

上

テキスト CCSIDのCL変数(5 0) (TXTCCSID)

MSGおよびSECLVLパラメーターによって戻されるテキストと関連付けられているコード化文字セットID (CCSID)を戻すために使用されるCL変数がある場合に、その名前を指定します。次の1つが起こった場合には、メッセージ記述が記憶されているCCSIDが戻されます。

- 変換エラーが起こった場合。
- ジョブのCCSIDが65535であって、CCSIDパラメーターを指定していない場合。

- CCSIDパラメーターに*JOBを指定した場合。
- テキストを変換するように要求したCCSIDが65535である場合。

そうでない場合には、テキストを変換したかったCCSIDが戻されます。戻される前にテキストを変換したくないが、メッセージ記述が記憶されているCCSIDを知りたい場合には、CCSIDパラメーターに65535を指定してください。メッセージ記述が記憶されているCCSIDはTXTCCSIDパラメーターに戻されます。また、渡したCCSIDを戻されたTXTCCSIDと比較することによって、変換エラーの有無を調べることもできます。この両者が等しくなく、65535でない場合には、変換エラーが起きました。

上

データ CCSIDのCL変数(5 0) (DTACCSID)

*CCHARとして定義された置き換えデータと関連付けられているコード化文字セットID (CCSID)を戻すために使用されるCL変数がある場合に、その名前を指定します。他のすべての置き換えデータは戻される前に変換されません。次の1つが起こった場合には、MDTACCSIDパラメーターに指定されたCCSIDが戻されます。

- 変換エラーが起こった場合。
- ジョブのCCSIDが65535であって、CCSIDパラメーターを指定していない場合。
- CCSIDパラメーターに*JOBを指定した場合。
- テキストを変換するように要求したCCSIDが65535である場合。

そうでない場合には、テキストを変換したかったCCSIDが戻されます。テキストに*CCHAR置き換えデータがない場合には、65535が戻されます。渡したCCSIDを戻されたDTACCSIDと比較することによって、変換エラーの有無を調べることができます。この両者が等しくなく、65535でない場合には、変換エラーが起きました。

上

例

例1:置き換え変数の置き換え

```
RTVMSG MSGID(UIN0145) MSGF(INVN) MSG(&WORK)
        MSGDTA('ANY OLD TIME')
```

このコマンドは、INVNメッセージ・ファイルに保管されているメッセージUIN0145のメッセージ・テキストを検索します。検索されたテキストは、置き換え変数が値ANY、OLD、およびTIMEで置き換えられた後に、CL変数&WORKにコピーされます。この例では、置き換え変数&1、&2、および&3がそれぞれ4文字の長さの文字変数としてメッセージに定義されていることを前提としています。

例2:第1レベルおよび第2レベル・メッセージ・テキストの検索

```
RTVMSG MSGID(UIN0150) MSGF(INV) MSG(&MSG)
        SECLVL(&SECLVL)
```

このコマンドは、メッセージ・ファイルINVに保管されているメッセージUIN0150の第1レベル・メッセージ・テキストおよび第2レベル・メッセージ・テキストを検索し、それをCL変数&MSGおよび&SECLVLに移動させます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2471

フィールドの長さが正しくない。

CPF2499

メッセージ識別コード&1が正しくない。

CPF2531

&3のための&2のメッセージ・ファイル&1に損傷がある。

CPF2547

メッセージ・ファイルQCPFMSGに損傷がある。

CPF2548

&2のメッセージ・ファイル&1に損傷がある。

CPF8126

&9のメッセージ・ファイル&4に損傷がある。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

*STATUS メッセージ

CPF2419

メッセージ識別コード&1が&3のメッセージ・ファイル&2に見つからない。

*NOTIFY メッセージ

CPF2465

&3の&2のメッセージ&1の置き換えテキストが、指定された形式には正しくない。

上

ネットワーク属性検索 (RTVNETA)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク属性検索 (RTVNETA)コマンドは、システムのネットワーク属性を検索するためにCLプログラムまたはREXXプロシージャー中で使用されます。値は、プログラムの指定した変数に戻され（コピーされ）ます。

制約事項:ネットワーク属性と受け取り変数の属性には互換性がなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SYSNAME	SYSNAME のCL 変数 (8)	文字値	オプション
PNDSYSNAME	PNDSYSNAMEのCL変数 (8)	文字値	オプション
LCLNETID	LCLNETIDのCL変数 (8)	文字値	オプション
LCLCPNAME	LCLCPNAMEのCL変数 (8)	文字値	オプション
LCLLOCNAME	LCLLOCNAMEのCL変数 (8)	文字値	オプション
DFTMODE	DFTMODEのCL変数 (8)	文字値	オプション
NODETYPE	NODETYPEのCL変数 (8)	文字値	オプション
DTACPR	DTACPRのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション
DTACPRINM	DTACPRINMのCL変数(10 0)	10 進数	オプション
MAXINTSSN	MAXINTSSNのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
RAR	RARのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
NETSERVER	NETSERVERのCL変数 (85)	文字値	オプション
ALRSTS	ALRSTSのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRPRIFP	ALRPRIFPのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRDFTFP	ALRDFTFPのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRLOGSTS	ALRLOGSTSのCL変数 (7)	文字値	オプション
ALRBCKFP	ALRBCKFPのCL変数 (16)	文字値	オプション
ALRRQSFP	ALRRQSFPのCL変数 (16)	文字値	オプション
ALRCTLD	ALRCTLDのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRHLCNT	ALRHLCNTのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
ALRFTR	ALRFTRのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALRFTRLIB	ALRFTRLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
MSGQ	MSGQのCL変数 (10)	文字値	オプション
MSGQLIB	MSGQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQ	OUTQのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQLIB	OUTQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JOBACN	JOBACNのCL変数 (10)	文字値	オプション
MAXHOP	MAXHOPのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DDMACC	DDMACCのCL変数 (10)	文字値	オプション
DDMACCLIB	DDMACCLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
PCSACC	PCSACC用CL変数 (10)	文字値	オプション
PCSACCLIB	PCSACCLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
DFTNETTYPE	DFTNETTYPEのCL変数 (10)	文字値	オプション
DFTCNLST	DFTCNLSTのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALWANYNET	ALWANYNETのCL変数 (10)	文字値	オプション
NWSDOMAIN	NWSDOMAINのCL変数 (8)	文字値	オプション
ALWVRTAPPN	ALWVRTAPPNのCL変数 (10)	文字値	オプション
ALWHPRTWR	ALWHPRTWRのCL変数 (10)	文字値	オプション
VRTAUTODEV	VRTAUTODEVのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
HPRPTHMR	HPRPTHMRのCL変数 (40)	文字値	オプション
ALWADDCLU	ALWADDCLUのCL変数 (10)	文字値	オプション
MDMCNTRYID	MDMCNTRYIDのCL変数 (2)	文字値	オプション

上

SYSNAME のCL 変数 (8) (SYSNAME)

現行システム名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

上

PNDSYSNAMEのCL変数 (8) (PNDSYSNAME)

保留中のシステム名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。保留中のシステム名がない場合には、戻される値はブランクになります。

上

LCLNETIDのCL変数 (8) (LCLNETID)

ローカル・ネットワークIDを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

上

LCLCPNAMEのCL変数 (8) (LCLCPNAME)

ローカル制御点名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

上

LCLLOCNAMEのCL変数 (8) (LCLLOCNAME)

省略時ローカル・ロケーション名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

上

DFTMODEのCL変数 (8) (DFTMODE)

省略時モード名を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

上

NODETYPEのCL変数 (8) (NODETYPE)

APPNノード・タイプを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*ENDNODE

ノードは、他のノードにネットワーク・サービスを提供しませんが、接続されたネットワーク・サーバーのサービスを使用してAPPNネットワークに加入するか、あるいは下位入りロネットワーク・ノードと同様に対等環境で作動することができます。

*NETNODE

ノードは、サービス中であるローカル・ユーザー、エンド・ノード、および下位入りロネットワーク・ノードに対して、中間ルーティング・サービス、経路選択サービス、および配布ディレクトリー・サービスを提供します。

*BEXNODE

このノードは分岐拡張ノードとして機能します。このノードはバックボーンAPPN ネットワーク内ではエンド・ノードとして機能し、そのローカル・ドメインではエンド・ノードに対するネットワーク・ノード・サーバーとして機能します。

上

DTACPRのCL変数 (10 0) (DTACPR)

データ圧縮の現行レベルを受け取るCL変数の名前を指定します。小数点以下の桁数でない最小長が10桁の10進変数の名前を指定してください。

データ圧縮レベルとして変数に戻される可能性がある値は、次の通りです。

- 0 *NONE -データ圧縮は、セッションで使用することができません。
- 1 *REQUEST -データ圧縮は、ローカル・システムによるセッションで要求されます。しかし、リモート・システムでは、要求を拒否したり、あるいはその要求をより低い圧縮レベルに変更することができます。データ圧縮は、それがリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用することができます。

- 2 *ALLOW -リモート・システムによって要求された場合には、データ圧縮をローカル・システムによるセッションで使用することができます。ローカル・システムは圧縮を要求しません。
- 3 *REQUIRE -データ圧縮がセッションに必要です。リモート・システムがローカル・システムに必要な正確なレベルの圧縮に変更しない場合には、セッションは確立されません。ローカル・システムが必要とするデータ圧縮レベルは、指定されたレベルです。

上

DTACPRINMのCL変数(10 0) (DTACPRINM)

中間ノードのデータ圧縮の現行レベルを受け取るCL変数の名前を指定します。小数点以下の桁数でない最小長が10桁の10進変数の名前を指定してください。

中間ノードのデータ圧縮レベルとして変数に戻される可能性がある値は、次の通りです。

- 0 *NONE -システムがSNA中間ノードである時に、データの圧縮が必要であることはリモート・システムに通知されません。
- 1 *REQUEST -システムがSNA中間ノードである時に、データ圧縮が必要であることがリモート・システムに要求されます。

上

MAXINTSSNのCL変数 (5 0) (MAXINTSSN)

中間セッションの最大数を受け取るCL変数の名前を指定します。小数部分がない最小長が5桁の10進数の変数の名前を指定します。

上

RARのCL変数 (5 0) (RAR)

経路追加抵抗を受け取るCL変数の名前を指定します。小数部分がない最小長が5桁の10進数の変数の名前を指定します。

上

NETSERVERのCL変数 (85) (NETSERVER)

ネットワーク・ノード・サーバーのリストを受け取るCL変数の名前を指定します。最小長が85桁の文字変数の名前を指定します。サーバー名またはネットワークIDの桁数が変数に可能な桁数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。リストには5つのノード・サーバーが含まれます。各サーバーはネットワークID (9文字) にサーバー名(8文字) が続くような形式になっています。区切り文字はありません。ネットワークIDに値の*LCLNETIDを指定することができます。これは、現行ネットワークIDが使用されることを指定します。指定したノード・サーバーが5つに満たない場合には、残りのノードの名前としてブランクが使用されます。リスト中で最初のブランクの名前が見つかったら、残りの名前もブランクと見なされます。

上

ALRSTSのCL変数 (10) (ALRSTS)

警報状況を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。（警報状況値の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。）

次の値がCL変数に戻されることがあります。

***ON** 不在時状態を除くすべての警報状態についてシステムによって警報が作成されます。

***OFF** 警報はシステムによって作成されません。

***UNATTEND**

メッセージ記述追加 (ADDMSGD)またはメッセージ記述変更 (CHGMSGD)コマンドの**警報オプション (ALROPT)**パラメーターに***UNATTEND**が指定されているメッセージを含めて、すべての警報条件に対し、システムによって警報が作成されます。

上

ALRPRIFPのCL変数 (10) (ALRPRIFP)

警報1次フォーカル・ポイントを受け取るCL変数の名前を指定します。最小で10文字の長さのCL変数の名前を指定してください。（警報1次フォーカル・ポイントの値の文字数が変数に許されているより少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。）

次の値が変数に戻されることがあります。

***NO** このシステムは警報1次フォーカル・ポイントではありません。

***YES** システムは警報1次フォーカル・ポイントです。

上

ALRDFTFPのCL変数 (10) (ALRDFTFP)

省略時の警報フォーカル・ポイントの値を受け取るCL変数の名前を指定します。最小10文字の長さのCL変数を指定してください。（省略時の警報フォーカル・ポイントの値の文字数が変数に許されている文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。）

次の値が変数に戻されることがあります。

***NO** このシステムは省略時の警報フォーカル・ポイントではありません。

***YES** システムは省略時の警報フォーカル・ポイントです。

上

ALRLOGSTSのCL変数 (7) (ALRLOGSTS)

警報ログ状況を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が7文字の文字変数でなければなりません。

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*NONE

警報は記録されません。

*LOCAL

ローカルで作成された警報だけが記録されます。

*RCV 他のノードから受信した警報だけが記録されます。

*ALL ローカルに作成された警報と他のノードから受け取られた警報の両方が記録されます。

上

ALRBCKFPのCL変数 (16) (ALRBCKFP)

1次フォーカル・ポイントが使用できない場合に、警報フォーカル・ポイント・サービスを提供するシステムの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小の長さが16文字の文字変数の名前を指定します。(バックアップ・システム名の文字数に変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。)

上

ALRRQSFPのCL変数 (16) (ALRRQSFP)

警報フォーカル・ポイント・サービスを提供するために要求されたシステムの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小の長さが16文字の文字変数の名前を指定します。(要求元システム名の文字数に変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。)

上

ALRCTLDDのCL変数 (10) (ALRCTLDD)

警報処理が活動状態である時に、別のシステムに送られる警報メッセージが通過する制御装置の名前を受け取るCL変数の名前を指定します。最小10文字の長さのCL変数を指定してください。(警報制御装置名の文字数に変数に許されている文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。)

次の値が変数に戻されることがあります。

*NONE

警報用の制御装置はありません。

名前 制御装置警報セッションの警報について使用中である制御装置の名前を指定してください。この制御装置はシステムの1次または省略時の警報フォーカル・ポイントの場合、無視されます。(例えば、ノードが別のシステムの制御範囲である場合)

上

ALRHLCNTのCL変数 (5 0) (ALRHLCNT)

警報が制御装置警報セッション（ALRCTLDネットワーク属性）に送られる前に作成される警報の最大数を受け取るCL変数の名前を指定します。指定された数の警報が作成されるまで、警報はシステムによって保留されます（待ち行列に入れられる）。このパラメータは、警報が送信される回数を減らすことによって、制限された資源を介して送信される警報を管理するために使用することができます。

注：ALRHLCNTネットワーク属性は、ALRCTLDネットワーク属性が使用される時にだけ適用されます。管理サービス・セッションAPPNおよび制御の範囲サポートが使用される時には、ALRHLCNT値は無視されます。

警報が送信される前に作成できる警報の最大数は32,767です。小数点以下の桁のない全長5桁の10進数変数の名前を指定してください。

次の値が変数に戻されることがあります。

- 2 この値は*NOMAXを表します。警報は無制限に保留されます。現行の警報保留カウントが最大値です。ALRHLCNT 値を低い値に変更することによって、後で警報を送信することができます。

0から32767

送信する前に作成することのできる警報の最大数を指定します。この最大数に達するまで、警報は「保留」状況になっています。値0を指定した場合には、警報は作成されると同時に送信されません。

上

ALRFTRのCL変数 (10) (ALRFTR)

活動状態の警報フィルターの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。（警報フィルター名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。）

上

ALRFTRLIBのCL変数 (10) (ALRFTRLIB)

警報フィルターの定義が入っているライブラリーの名前を受信するCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。

上

MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)

システムの省略時ネットワーク・メッセージ待ち行列名を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。メッセージ待ち行列名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。

上

MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)

システムの省略時ネットワーク・メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。

上

OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)

システムの省略時ネットワーク出力待ち行列名を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。(出力待ち行列名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。)

上

OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)

システムの省略時ネットワーク出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。

上

JOBACNのCL変数 (10) (JOBACN)

ネットワークを通して受け取られたジョブ・ストリームの現行ジョブ処置を受け取るCL変数の名前を指定します。最小長10文字の変数を指定してください。(ジョブ処置の値が変数で使用できるより少ない文字数である場合には、その値の右側に空白が埋め込まれます。)

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*REJECT

入力ストリームはシステムによって拒否されます。この処置によって、システムはネットワークから受信されたジョブ・ストリームを保護することができます。

***FILE** 送り先のユーザーによって受け取られたネットワーク・ファイルの待ち行列で入力ストリームがファイルされます。ここでこのユーザーは、入力ストリームを表示、終了、または受け取るか、あるいはジョブ待ち行列に投入することができます。

*SEARCH

入力ストリームに対して取られる処置を決定するためにネットワーク・ジョブ項目のテーブルが検索されます。

上

MAXHOPのCL変数 (5 0) (MAXHOP)

SNADSネットワークでこのノードを起点とする配布待ち行列を受信して、経路上でその最終の宛先に再経路指定できる最大回数を受け取るCL変数の名前を指定します。小数部分がない合計が5桁の長さの10進数の変数の名前を指定します。

上

DDMACCのCL変数 (10) (DDMACC)

他のシステムからのDDMまたはDRDA要求についての現行システム処置を受け取るCL変数の名前を指定します。最小で10文字の長さのCL変数を指定してください。(DDMアクセスの値の文字数が変数に許されている文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。)

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*REJECT

このシステムでは、リモート・システムからのDDM要求およびDRDA要求は許されません。しかし、このシステムでは、まだDDMまたはDRDAを使用してリモート・システムのファイルまたはSQLテーブルにアクセスすることができます。ソース(クライアント)システムは、*REJECTを指定した他のすべてのシステムのファイルまたはSQLテーブルにアクセスすることはできません。

*OBJAUT

DDMまたはDRDAジョブに関連するユーザー・プロファイルがファイルに対する権限を認可されている場合には、すべてのファイル要求またはリモートSQL要求が受け入れられます。ファイルに対する読み取り、書き出し、または更新などのオブジェクト権限も存在していなければなりません。

名前 オブジェクト・レベルの機密保護を補足することのできる得意先妥当性検査プログラムの名前を指定します。このユーザー出口プログラムは、*PUBLICおよび私用ファイルに対するユーザーのアクセスを制限することができます。ターゲットDDMサポートは、ファイルを参照するたびにユーザー・プログラムを呼び出します。ユーザー出口プログラムは、要求を続行すべきか終了すべきかをDDMに指示します。DRDAを使用する場合には、妥当性検査プログラムは接続要求の場合にだけ呼び出され、個々のファイル・アクセスでは呼び出されません。

上

DDMACCLIBのCL変数 (10) (DDMACCLIB)

DDMアクセス・プログラムが入っているライブラリーの名前を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の名前は最小の長さの10文字で指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側に空白が埋め込まれます。**DDMACCのCL変数 (10) (DDMACC)**パラメーターに*REJECTまたは*OBJAUTが戻された場合には、このパラメーターの値はすべて空白となります。

上

PCSACC用CL変数 (10) (PCSACC)

IBM System i Access for Windows の要求に対する現行のシステムの処置を受け取るCL 変数の名前を指定します。最小10文字の長さのCL変数を指定してください。(IBM System i Access for Windows アクセスの値の文字数が変数に許されている文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。)

次の値がCL変数に戻されることがあります。

*REJECT

システムはIBM System i Access for Windows のすべての要求を許可しません。

*OBJAUT

IBM System i Access for Windows の要求は、すべてシステムのオブジェクト権限によって許可され、制御されます。

*REGFAC

登録機能を使用して別のサーバー用の出口プログラムを判別します。登録機能でプログラムが定義されていない場合には、*OBJAUTが使用されます。

名前 システムのオブジェクト・レベルの機密保護を補足できるユーザー提供のIBM System i Access for Windows ホスト・システム・アプリケーション出口プログラムの名前。

上

PCSACCLIBのCL変数 (10) (PCSACCLIB)

IBM System i Access for Windows アクセス・プログラムが入っているライブラリーの名前を受け取るCL 変数の名前を指定します。最小長が10文字の文字変数の名前を指定しなければなりません。ライブラリー名の文字数が変数に使用できる文字数より少ない場合には、値の右側にブランクが埋め込まれます。

PCSACC用CL変数 (10) (PCSACC)パラメーターに*REJECT, *REGFAC,または*OBJAUTが戻された場合には、このパラメーターの値はすべてブランクとなります。

上

DFTNETTYPEのCL変数 (10) (DFTNETTYPE)

デジタル総合サービス網(ISDN)ネットワーク・タイプのシステム省略時の値を受信するCL変数の名前を指定します。オペレーティング・システムは、もはやこのネットワーク属性を使用しません。このネットワーク属性に対して行われた変更は効力を持ちません。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

DFTCNLSTのCL変数 (10) (DFTCNLST)

ISDN接続リストのシステム省略時値を受け取るCL変数の名前を指定します。オペレーティング・システムは、もはやこのネットワーク属性を使用しません。このネットワーク属性に対して行われた変更は効力を持ちません。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

ALWANYNETのCL変数 (10) (ALWANYNET)

通信APIがそのAPIに固有でない他の通信トランスポートを使用できるようにするネットワーク属性を受け取るCL変数の名前を指定します。例にはICF OVER TCP/IPまたはSOCKETS OVER SNAが含まれています。変数は、最小長が10文字の文字変数でなければなりません。

上

NWSDOMAINのCL変数 (8) (NWSDOMAIN)

システム上のファイル・サーバー入出力プロセッサ(FSIOP)として知られるすべての統合PCサーバーが属しているLANサーバー・ドメインを受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が8文字の文字変数でなければなりません。

上

ALWVRTAPPNのCL変数 (10) (ALWVRTAPPN)

仮想APPNサポートの現在の設定値を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の長さは最小でも10文字は必要です。

上

ALWHPRTWRのCL変数 (10) (ALWHPRTWR)

HPRタワー・トランスポート・サポートの現在の設定値を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の長さは最小でも10文字は必要です。

上

VRTAUTODEVのCL変数 (5 0) (VRTAUTODEV)

仮想制御装置上で許可される自動的に作成されるAPPC装置の最大数の現在の設定値を受け取るCL変数の名前を指定します。小数部分がない合計が5桁の長さの10進数の変数の名前を指定します。

上

HPRPTHMTMRのCL変数 (40) (HPRPTHMTMR)

HPRパス・スイッチ・タイマーの時間の最大の長さ(分数)の現在の設定値を受け取るCL変数の名前を指定します。このフィールドには40文字の変数が必要であり、10文字ずつがそれぞれネットワーク、高優先順位、中優先順位、および低優先順位の順に4つのタイマーの値を表します。

上

ALWADDCLUのCL変数 (10) (ALWADDCLU)

このシステムで別のシステムをクラスター中のノードとして追加できるようにするかどうかを指定する値を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の長さは最小でも10文字は必要です。

「クラスターへの追加可能」の変数に入れて戻される値は次の通りです。

*NONE

他のシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することはできません。

*ANY 他のすべてのシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することができます。

*RQSAUT

クラスターの追加要求が認証された後に限り、他のすべてのシステムはこのシステムをクラスター中のノードとして追加することができます。

上

MDMCNTRYIDのCL変数 (2) (MDMCNTRYID)

モデムと関連した国別または地域別のIDのネットワーク属性を受け取るCL変数の名前を指定します。文字変数の長さは最小の長さが2文字以上でなければなりません。

MDMCNTRYIDはシステム入出力アダプターの内部にあるモデムの各国特有または各地域特有の省略時特性を定義します。この値は、適切な操作を保証するために、また、一部の国または地域の法的要件を満たすように、正しく構成しなければなりません。モデムの国別または地域別IDが設定されていないと、アダプターは回線のオンへの変更を正常に実行できません。

上

例

例1:現行システム名の検索

```
DCL VAR(&SNAME) TYPE(*CHAR) LEN(8)
RTVNETA SYSNAME(&SNAME)
```

このコマンドは、現行システム名を検索します。

例2:仮想APPNサポート、APPC装置限界、およびHPRパス・スイッチ・タイマーの検索

```
DCL VAR(&ALWVRTAPPN) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&VRTAUTODEV) TYPE(*DEC) LEN(5 0)
DCL VAR(&HPRPTHMR) TYPE(*CHAR) LEN(40)
RTVNETA ALWVRTAPPN(&ALWVRTAPPN) VRTAUTODEV(&VRTAUTODEV)
        HPRPTHMR(&HPRPTHMR)
```

このコマンドは、仮想APPNサポート、仮想制御装置上に自動的に作成されたAPPC装置、およびHPRパス・スイッチ・タイマーを使用可能にするための現在のネットワーク属性の設定値を検索します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1844

ネットワーク属性&1をアクセスすることができない。

上

オブジェクト記述の検索 (RTVOBJD)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト記述検索(RTVOBJD)コマンドは、CLプログラムまたはREXXプロシージャーに特定のオブジェクトの記述を取り出します。

このコマンドによってCL変数に戻されるパラメーターの場合、パラメーターの記述タイトル/プロンプト・テキストにはCL変数の最小の長さがリストされます。文字変数の場合には、単一の数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小桁数を示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

1. ライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
2. オブジェクトに対する*EXCLUDE権限以外の何らかの権限が必要です。オブジェクトがファイルの場合には、そのオブジェクトに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。
3. OBJAUDパラメーターで*NOTAVL以外の値を検索するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限のいずれかが必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	単一値: *, *ALLAVL, *CURASPGRP, *SYSBAS その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置	名前	
	要素 2: 検索タイプ	*ASP, *ASPGRP	
RTNLIB	RTNLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJATR	OBJATRのCL変数 (10)	文字値	オプション
USRDFNATR	USRDFNATRのCL変数 (10)	文字値	オプション
TEXT	TEXTのCL変数 (50)	文字値	オプション
OWNER	OWNERのCL変数 (10)	文字値	オプション
PGP	PGPのCL変数 (10)	文字値	オプション
ASP	ASPのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
LIBASP	LIBASPのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
OBJASPDEV	OBJASPDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJASPGRP	OBJASPGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
LIBASPDEV	LIBASPDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
LIBASPGRP	LIBASPGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション
OVFASP	OVFASPのCL変数 (1)	文字値	オプション
CRTDATE	CRTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
CHGDATE	CHGDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SAVDATE	SAVDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
SAVACTDATE	SAVACTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
RSTDATE	RSTDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
CRTUSER	CRTUSERのCL変数 (10)	文字値	オプション
CRTSYSTEM	CRTSYSTEMのCL変数 (8)	文字値	オプション
OBJDMN	OBJDMNのCL変数 (2)	文字値	オプション
USEUPD	USEUPDのCL変数 (1)	文字値	オプション
USEDATE	USEDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
USECOUNT	USECOUNTのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
RESETDATE	RESETDATEのCL変数 (7)	文字値	オプション
STG	STGのCL変数 (10)	文字値	オプション
CPR	CPRのCL変数 (1)	文字値	オプション
SIZE	SIZEのCL変数 (15 0)	10 進数	オプション
SPCSIZE	SPCSIZEのCL変数 (15 0)	10 進数	オプション
SPCALIGN	SPCALIGNのCL変数 (1)	文字値	オプション
SAVSIZE	SAVSIZEのCL変数 (15 0)	10 進数	オプション
SAVCMD	SAVCMDのCL変数 (10)	文字値	オプション
SAVSEQNBR	SAVSEQNBRのCL変数 (4 0)	10 進数	オプション
SAVLRGSEQ	SAVLRGSEQのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション
SAVVOL	SAVVOLのCL変数 (71)	文字値	オプション
SAVDEV	SAVDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
SAVF	SAVFのCL変数 (10)	文字値	オプション
SAVFLIB	SAVFLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
SAVLABEL	SAVLABELのCL変数 (17)	文字値	オプション
SRCF	SRCFのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCFLIB	SRCFLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCMBR	SRCMBRのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCDATE	SRCDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
SYSLVL	SYSLVLのCL変数 (9)	文字値	オプション
COMPILER	COMPILERのCL変数 (16)	文字値	オプション
OBJLVL	OBJLVLのCL変数 (8)	文字値	オプション
ALWAPICHG	ALWAPICHGのCL変数 (1)	文字値	オプション
APICHG	APICHGのCL変数 (1)	文字値	オプション
USRCHG	USRCHGのCL変数 (1)	文字値	オプション
LICPGM	LICPGMのCL変数 (16)	文字値	オプション
PTF	PTFのCL変数 (10)	文字値	オプション
APAR	APARのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJAUD	OBJAUDのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJSIG	OBJSIGのCL変数 (1)	文字値	オプション
SYSSIG	SYSSIGのCL変数 (1)	文字値	オプション
MLTSIG	MLTSIGのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRNSTS	JRNSTSのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRN	JRNのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNLIB	JRNLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNIMG	JRNIMGのCL変数 (1)	文字値	オプション
JRNOMTE	JRNOMTEのCL変数 (1)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
JRNSTRDATE	JRNSTRDATEのCL変数 (13)	文字値	オプション
STRJRNCV	STRJRNCVのCL変数 (10)	文字値	オプション
JRNRCVLIB	JRNRCVLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
RCVLIBASP	RCVLIBASPのCL変数 (10)	文字値	オプション
RCVLIBGRP	RCVLIBGRPのCL変数 (10)	文字値	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

情報が検索されるオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 記述が検索されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、**QGPL**ライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

情報を検索したいオブジェクトのタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

情報が検索されるオブジェクトのタイプを指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクトが入っているライブラリーに記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいライブラリーが検索されるように、このパラメーターを指定しなければなりません。オブジェクト(OBJ)パラメーターに指定されたライブラリー修飾子が*CURLIBまたは*LIBLの時にこのパラメーターを使用する場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。このパラメーターは、単一値、あるいは1個または2個の要素のリストとして指定することができます。

単一値

*
- 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*ALLAVL

使用可能なすべてのASPが検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済みユーザー基本ASP (ASP 2から32),およびすべての1次および2次ASP (状況が「使用可能」となっているASP 33から255)が含まれます。

*CURASPGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

要素1: 装置

名前

検索される1次または2次ASP装置の名前を指定します。1次および2次ASPは(ASP装置をオンに変更することによって)活動化されていなければならず、状況が「使用可能」になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 要素2に指定された検索タイプが*ASPの時に、特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、その特定のASP装置に対する実行(*EXECUTE)権限がなければなりません。

要素2に指定された検索タイプが*ASPGRPの時に特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、そのASPグループ中の各ASP装置に対する実行(*EXECUTE)権限がなければなりません。

要素2: 検索タイプ

要素1で名付けられた単一ASP装置またはASPグループ全体が検索されるかどうかを指定します。

*ASP 要素1で名付けられた単一の補助記憶域プール(ASP)装置だけが検索されます。

*ASPGRP

要素1で名付けられた1次補助記憶域プール(ASP)装置のグループ全体が検索されます。

RTNLIBのCL変数 (10) (RTNLIB)

オブジェクトが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。 **オブジェクト(OBJ)**パラメーターのライブラリー（修飾子2）に*LIBLまたは*CURLIBが指定された場合には、戻される値は、オブジェクトが見つかったライブラリーの名前です。ライブラリー名が指定されている場合には、このパラメーターによってその名前が戻されます。

上

OBJATRのCL変数 (10) (OBJATR)

プログラムまたはファイルのタイプなどのオブジェクトの拡張属性を戻すために使用される10文字の変数を指定します。例えば、変数はPRODまたはCLPで戻されることがあります。値の前に*は置かれません。

上

USRDFNATRのCL変数 (10) (USRDFNATR)

オブジェクトのユーザー定義属性を戻すために使用される10文字の変数を指定します。検索されたオブジェクトにユーザー定義属性がない場合には、ブランクが戻されます。

上

TEXTのCL変数 (50) (TEXT)

オブジェクトのテキスト記述を戻すために使用される50文字のCL変数を指定します。

上

OWNERのCL変数 (10) (OWNER)

オブジェクトの所有者の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。

上

PGPのCL変数 (10) (PGP)

オブジェクトの1次グループであるユーザーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトの1次グループがない場合には、このフィールドに*NONEの値が入ります。

上

ASPのCL変数 (2 0) (ASP)

オブジェクトの補助記憶域プール(ASP)の番号を戻すために使用される10進数(2 0)の変数の名前を指定します。この変数には最大32までのASP番号が入ります。ASP番号が32より大きい場合には、この変数で-1が戻されます。ASP番号が32より大きい時にASP装置名を戻すためには、OBJASPDEVパラメーターを使用してください。戻される可能性のある値は次の通りです。

1 オブジェクトはシステム補助記憶域プールに入っています。

2から32

オブジェクトは基本ユーザー補助記憶域プールに入っています。

-1 オブジェクトは、32より大きいASP番号を持つ1次または2次補助記憶域プールに入っています。この1次または2次ASPのASP装置名はOBJASPDEVパラメーターを使って検索することができます。

上

LIBASPのCL変数 (5 0) (LIBASP)

オブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)の番号を戻すために使用される10進数(5 0)の変数を指定します。この変数には最大32までのASP番号が入ります。ASP番号が32より大きい場合には、この変数で-1が戻されます。ASP番号が32より大きい時にASP装置名を戻すためには、LIBASPDEVパラメーターを使用してください。戻される可能性のある値は次の通りです。

1 ライブラリーはシステム補助記憶域プールに入っています。

2から32

ライブラリーは基本ユーザー補助記憶域プールに入っています。

-1 ライブラリーは、32より大きいASP番号を持つ1次または2次補助記憶域プールに入っています。この1次または2次ASPのASP装置名はLIBASPDEVパラメーターを使って検索することができます。

上

OBJASPDEVのCL変数 (10) (OBJASPDEV)

オブジェクトの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

オブジェクトはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

OBJASPGRPのCL変数 (10) (OBJASPGRP)

オブジェクトの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される値は、OBJASPDEVパラメーターで戻される値と同じであることがあります。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N 1次ASP装置の名前を決定することができません。

*SYSBAS

オブジェクトはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

LIBASPDEVのCL変数 (10) (LIBASPDEV)

オブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

LIBASPGRPのCL変数 (10) (LIBASPGRP)

オブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている1次補助記憶域プール(ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される値は、LIBASPDEVパラメーターで戻される値と同じであることがあります。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N 1次ASP装置の名前を決定することができません。

*SYSBAS

オブジェクトはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

OVFASPのCL変数 (1) (OVFASP)

「オブジェクト・オーバーフローの補助記憶域プール(ASP)」フラグを戻すために使用される1文字の変数を指定します。

'1' オブジェクトがその存在するASPをオーバーフローしました。

'0' オブジェクトはASPをオーバーフローしていません。システムASP (ASP 1)あるいは1次または2次ASP (ASP 33から255)にあるオブジェクトはそのASPをオーバーフローできないので、システムASP (ASP 1)あるいは1次または2次ASP (ASP 33から255)にあるオブジェクトの場合には、常に値'0'が戻されます。

上

CRTDATEのCL変数 (13) (CRTDATE)

オブジェクトが作成された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。値はCYYMMDDHHMMSSの形式で戻されます。ここで、C =世紀で、'0'の場合は年19XXを示し、'1'は年20XXを示します。YY=年、MM=月、DD=日、HH=時、MM=分、およびSS=秒です。

CHGDATEのCL変数 (13) (CHGDATE)

オブジェクトが最後に変更された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはオブジェクトが変更されていない場合には、空白になって戻されます。

上

SAVDATEのCL変数 (13) (SAVDATE)

オブジェクトが最後に保管された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはオブジェクトが保管されていない場合には、空白になって戻されます。

上

SAVACTDATEのCL変数 (13) (SAVACTDATE)

SAVACTパラメーターに*NO以外のものが指定された保管操作の時に、オブジェクトが最後に保管された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。この日付/時刻は、オブジェクト自身が保管された時点を示します。SAVDATパラメーターは、保管操作が開始された時点を示します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、オブジェクトが保管されていない場合、あるいはオブジェクトの最後の保管操作でSAVACT(*NO)が指定された場合には、空白になって戻されます。

上

RSTDATEのCL変数 (13) (RSTDATE)

オブジェクトが最後に復元された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはオブジェクトが復元されていない場合には、空白になって戻されます。

上

CRTUSERのCL変数 (10) (CRTUSER)

オブジェクトを作成したユーザーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。

上

CRTSYSTEMのCL変数 (8) (CRTSYSTEM)

オブジェクトが作成されたシステムの名前を戻すために使用される8文字の変数を指定します。

上

OBJDMNのCL変数 (2) (OBJDMN)

オブジェクトのオブジェクト・ドメイン値を戻すために使用される2文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- *U オブジェクトはユーザー・ドメイン・オブジェクトです。
- *S オブジェクトはシステム・ドメイン・オブジェクトです。

上

USEUPDのCL変数 (1) (USEUPD)

このオブジェクト・タイプに対してオブジェクト使用状況情報が更新されるかどうかをの指示を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- Y このオブジェクト・タイプに対してオブジェクト使用状況情報が更新されます。
- N このオブジェクト・タイプに対してオブジェクト使用状況情報が更新されません。'N'が戻された場合には、オブジェクトの最終使用日付はブランクであり、オブジェクトが使用された日数はゼロ(0)です。

上

USEDATEのCL変数 (7) (USEDATE)

オブジェクトが最後に使用された日付を戻すために使用される7文字の変数を指定します。日付はCYYMMDDの形式で戻されるか、オブジェクトに最終使用日付がない場合には、ブランクになって戻されます。

上

USECOUNTのCL変数 (5 0) (USECOUNT)

オブジェクトが使用されていた日数を戻すために使用される10進数(5 0)の変数を指定します。オブジェクトに最終使用日付がない場合には、ゼロ(0)が戻されます。

上

RESETDATEのCL変数 (7) (RESETDATE)

使用日数カウントが最後にゼロ(0)にリセットされた日付を戻すために使用される7文字の変数を指定します。日付はCYYMMDDの形式で戻されるか、使用日数カウントがリセットされていない場合には、ブランクになって戻されます。

上

STGのCL変数 (10) (STG)

オブジェクト・データの記憶域状況に戻すために使用される10文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

*FREE

オブジェクト・データは解放されていて、オブジェクトが保留されています。

*KEEP

オブジェクト・データは解放されておらず、オブジェクトが保留されていません。

上

CPRのCL変数 (1) (CPR)

オブジェクトの圧縮状況に戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

Y オブジェクトは圧縮されています。

X オブジェクトは圧縮に不適合です。

N オブジェクトは永続的に圧縮解除されています。

T オブジェクトは一時的に圧縮解除されています。

F オブジェクトは圧縮に適合ですが、記憶域を解放されて保管されています。

上

SIZEのCL変数 (15 0) (SIZE)

オブジェクトのサイズ (バイト数) を戻すために使用される10進数(15 0)の変数を指定します。この値は、SPCSIZEパラメーターによって戻される値を含みます。

上

SPCSIZEのCL変数 (15 0) (SPCSIZE)

オブジェクトの1次関連スペースのサイズ (バイト数) を戻すために使用される10進数(15 0)の変数を指定します。オブジェクトに関連スペースがない場合には、ゼロ(0)が戻されます。

上

SPCALIGNのCL変数 (1) (SPCALIGN)

オブジェクトに関連したスペースが最適に位置合わせされているかどうかを戻すために使用される1文字の変数を指定します。最適位置合わせによって、オブジェクトを使用するアプリケーションのパフォーマンスはよくなる場合があります。戻される可能性のある値は次の通りです。

'0' オブジェクトに関連したスペースが最適に位置合わせされていません。

'1' オブジェクトに関連したスペースが最適に位置合わせされています。

'2' オブジェクトと関連したスペースはありません。

上

SAVSIZEのCL変数 (15 0) (SAVSIZE)

最後の保管操作の時点でのオブジェクトのサイズ（バイト数）を戻すために使用される10進数(15 0)の変数を指定します。 オブジェクトが保管されていない場合には、ゼロ(0)が戻されます。

上

SAVCMDのCL変数 (10) (SAVCMD)

オブジェクトの保管に使用されたコマンドを戻すために使用される10文字の変数を指定します。 オブジェクトが保管されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

上

SAVSEQNBRのCL変数 (4 0) (SAVSEQNBR)

テープへのオブジェクトの保管時に割り当てられたテープ順序番号を戻すために使用される10進数(4 0)の変数を指定します。 この変数には、最大9999までの順序番号が入ります。 オブジェクトが保管されていない場合、あるいはテープに保管されていない場合には、ゼロ(0)が戻されます。順序番号が実際には9999より大きい場合には、この変数には-5が戻されます。 9999より大きくなる可能性がある順序番号を戻すためには、SAVLRGSEQパラメーターを使用してください。

上

SAVLRGSEQのCL変数 (10 0) (SAVLRGSEQ)

テープ順序番号を戻すために使用される10進数(10 0)の変数を指定します(SAVSEQNBRパラメーターと同様)。 この変数には、SAVSEQNBRパラメーターより大きいテープ順序番号を入れることができます。

上

SAVVOLのCL変数 (71) (SAVVOL)

オブジェクトの保管に使用されたテープ、ディスケット、または光ディスク・ボリュームを戻すために使用される71文字の変数を指定します。 変数は最大10個の6文字のボリュームを戻します。 ボリュームIDは、1, 8, 15, 22, 29, 36, 43, 50, 57,および64桁目から始まります。 それぞれのボリュームID項目は、単一の文字で区切られます。 オブジェクトが並行形式で保管されていた場合には、2番目の媒体ファイルの最初のボリュームの前の'2'、3番目の媒体ファイルの前の'3'といったものが区切り文字に含まれます(10番目の媒体ファイルの前は'0')。 そうでない場合には、区切り文字はブランクです。 10を超えるボリュームが使用され、オブジェクトが逐次形式で保管されていた場合には、変数の71番目の文字に'1'が戻されます。 オブジェクトが並行形式で保管されていた場合には、変数の71番目の文字に'2'が戻されます。 そうでない場合には、71番目の文字はブランクです。 オブジェクトが最後に保管ファイルに保管された場合、あるいは保管されたことがない場合には、変数がブランクになって戻されます。

SAVDEVのCL変数 (10) (SAVDEV)

オブジェクトが最後に保管された装置のタイプを戻すために使用される10文字の変数を指定します。最後の保管操作に使用された装置に応じて、変数は次の値の1つで戻されます。

- 保管ファイルの場合は*SAVF
- ディスケットの場合は*DKT
- テープの場合は*TAP
- 光ディスク・ボリュームの場合は*OPT
- オブジェクトが保管されていない場合には、変数は空白で戻されます。

上

SAVFのCL変数 (10) (SAVF)

オブジェクトが保管ファイルに保管された場合に保管ファイルの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトが保管ファイルに保管されていない場合には、変数は空白になって戻されます。

上

SAVFLIBのCL変数 (10) (SAVFLIB)

オブジェクトが保管ファイルに保管された場合に、保管ファイルが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトが保管ファイルに保管されていない場合には、変数は空白になって戻されます。

上

SAVLABELのCL変数 (17) (SAVLABEL)

オブジェクトの保管時に使用されたファイル・ラベルを戻すために使用される17文字の変数を指定します。オブジェクトがテープ、ディスク、または光ディスク・ボリュームに保管されない場合には、変数は空白になって戻されます。戻される値は、オブジェクトを保管するために使用されたコマンドのLABELパラメーターに指定された値と一致しています。

上

SRCFのCL変数 (10) (SRCF)

オブジェクトの作成に使用されたソース・ファイルの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトの作成にソース・ファイルが使用されなかった場合には、変数は空白になって戻されます。ILE *PGMおよび*SRVPGMオブジェクトの場合には、ソース・ファイルおよびメンバーは空白です。ソース・ファイル情報は、*MODULEオブジェクトと一緒に保管されます。

SRCFLIBのCL変数 (10) (SRCFLIB)

オブジェクトの作成に使用されたソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトの作成にソース・ファイルが使用されなかった場合には、変数は空白になって戻されます。

上

SRCMBRのCL変数 (10) (SRCMBR)

ソース・ファイル(SRCFパラメーター)のメンバーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトの作成にソース・ファイルが使用されなかった場合には、変数は空白になって戻されます。

上

SRCDATEのCL変数 (13) (SRCDATE)

ソース・ファイルのメンバーが最後に更新された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数はCRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはメンバーが更新されていない場合には空白になって戻されます。

上

SYSLVLのCL変数 (9) (SYSLVL)

オブジェクトの作成時のオペレーティング・システムのレベルを戻すために使用される9文字の変数を指定します。変数は、1桁目から始まる3文字のバージョン・レベル、3桁目から始まる3文字のリリース・レベル、および7桁目から始まる3文字のモディフィケーション・レベルで戻されます。バージョン・レベルの最初の文字は常に文字'V'、リリース・レベルの最初の文字は常に文字'R'、モディフィケーション・レベルの最初の文字は常に文字'M'です。

上

COMPILERのCL変数 (16) (COMPILER)

コンパイラーのライセンス・プログラムID、バージョン・レベル、リリース・レベル、およびモディフィケーション・レベルを戻すために使用される16文字の変数を指定します。変数は、1桁目から始まる7文字のプログラムID、8桁目から始まる3文字のバージョン・レベル、11桁目から始まる文字のリリース・レベル、および14桁目から始まる3文字のモディフィケーション・レベルで戻されます。バージョン・レベルの最初の文字は常に文字'V'、リリース・レベルの最初の文字は常に文字'R'、モディフィケーション・レベルの最初の文字は常に文字'M'です。コンパイラーが使用されなかった場合には、変数は空白になって戻されます。

上

OBJLVLのCL変数 (8) (OBJLVL)

作成されたオブジェクトのオブジェクト制御レベルを戻すために使用される8文字の変数を指定します。

上

ALWAPICHGのCL変数 (1) (ALWAPICHG)

「プログラムによる変更可能」フラグを戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトは、オブジェクト記述変更(QLICOBJD) APIで変更できます。
- '0' オブジェクトは、このAPIで変更できません。

上

APICHGのCL変数 (1) (APICHG)

「プログラムにより変更」フラグを戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトは、オブジェクト記述変更(QLICOBJD) APIで変更されています。
- '0' オブジェクトは、このAPIによって変更されていません。

上

USRCHGのCL変数 (1) (USRCHG)

オブジェクトがユーザーによって変更されたかどうかの指示を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトは、ユーザーによって変更されています。
- '0' オブジェクトは、ユーザーによって変更されていません。

上

LICPGMのCL変数 (16) (LICPGM)

検索されたオブジェクトがライセンス・プログラムの一部である場合に、そのライセンス・プログラムの名前、バージョン・レベル、リリース・レベル、およびモディフィケーション・レベルを戻すために使用される16文字の変数を指定します。変数は、1桁目から始まる7文字の名前、8桁目から始まる3文字のバージョン・レベル、11桁目から始まる3文字のリリース・レベル、および14桁目から始まる3文字のモディフィケーション・レベルで戻されます。バージョン・レベルの最初の文字は常に文字'V'、リリース・レベルの最初の文字は常に文字'R'、モディフィケーション・レベルの最初の文字は常に文字'M'です。検索されたオブジェクトがライセンス・プログラムの一部でない場合には、変数はブランクになって戻されます。

上

PTFのCL変数 (10) (PTF)

検索されたオブジェクトを作成することとなったプログラム一時修正番号を戻すために使用される10文字の変数を指定します。ユーザー作成オブジェクトの場合には、変数はブランクになって戻されます。

上

APARのCL変数 (10) (APAR)

正式プログラム分析報告書ID (APAR ID)を戻すために使用される10文字の変数を指定します。変数には、このオブジェクトにパッチがあてられる原因となったAPAR IDで戻されます。APARの結果としてオブジェクトが変更されたものでない場合には、変数はブランクになって戻されます。

このフィールドは、弊社提供のプログラム一時修正が適用されても更新されません。このフィールドが変更されるのは次の場合です。

- コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT) CLコマンドによってコマンドの省略時値が変更された場合。フィールドはCHGDFTに設定されます。
- オブジェクト記述変更(QLICOBJD) APIによって、このフィールドをどの値にも変更できます。

上

OBJAUDのCL変数 (10) (OBJAUD)

オブジェクトの監査値を戻すために使用される10文字の変数を指定します。全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限のいずれかがない場合は、*NOTAVLの値が戻されます。戻される可能性のある値には*NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL,および*NOTAVLです。詳細については、オブジェクト監査変更(CHGOBJAUD)コマンドのオブジェクト監査値(OBJAUD)パラメーターを参照してください。

上

OBJSIGのCL変数 (1) (OBJSIG)

オブジェクトにデジタル署名があるかどうかを戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトはデジタル・シグニチャーをもちます。
- '0' オブジェクトはデジタル・シグニチャーをもちません。

上

SYSSIGのCL変数 (1) (SYSSIG)

オブジェクトがシステムの信頼するソースによって署名されているかどうかの指示を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトはシステムの信頼するソースによって署名されています。オブジェクトが複数の署名を持っている場合には、それらの署名のうち少なくとも1つはシステムの信頼するソースからきたものです。

'0' いずれのオブジェクト署名もシステムの信頼するソースからきたものではありません。

上

MLTSIGのCL変数 (1) (MLTSIG)

オブジェクトに複数のデジタル署名があるかどうかを戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトに複数のデジタル・シグニチャーがあります。 SYSSIGパラメーターの値が'1'の場合には、それらの署名のうち少なくとも1つはシステムの信頼するソースからきたものです。
- '0' オブジェクトにはただ1つのデジタル署名を持っているか、またはデジタル署名はありません。 OBJSIGパラメーターを参照して、オブジェクトにデジタル署名があるかどうかを調べてください。

上

JRNSTSのCL変数 (1) (JRNSTS)

オブジェクトの現在のジャーナル処理状況を戻すために使用される1文字の変数を指定します。戻される可能性のある値は次の通りです。

- '1' オブジェクトは現在ジャーナル処理されています。
- '0' オブジェクトは現在ジャーナル処理されていません。

注: オブジェクトが現在ジャーナル処理されていない場合であっても、他のジャーナル・フィールドにデータが入っていることがあります。

上

JRNのCL変数 (10) (JRN)

現行ジャーナルまたは最後のジャーナルの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

上

JRNLIBのCL変数 (10) (JRNLIB)

ジャーナルが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

上

JRNIMGのCL変数 (1) (JRNIMG)

ジャーナル・イメージ情報を戻すために使用される1文字の変数を指定します。オブジェクトに対する変更用に生成されたイメージに応じて、以下の値が戻されます。

- '0' 変更後イメージだけがオブジェクトに対する変更のジャーナルに書き込まれます。
- '1' 変更前イメージと変更後イメージの両方がオブジェクトに対する変更のジャーナルに書き込まれます。

オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

上

JRNOMTEのCL変数 (1) (JRNOMTE)

除外されるジャーナル項目に関係する情報を戻すために使用される1文字の変数を指定します。除外されるジャーナル項目について次の値が戻されることがあります。

- '1' 指定されたオブジェクトに対するオープン操作およびクローズ操作はオープンおよびクローズ・ジャーナル項目を生成しません。
- '0' ジャーナル項目は除外されません。

オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、変数はブランクになって戻されます。

上

JRNSTRDATEのCL変数 (13) (JRNSTRDATE)

ジャーナル処理が最後に開始された日付と時刻を戻すために使用される13文字の変数を指定します。変数は、CRTDATEパラメーターと同じ形式で戻されるか、あるいはオブジェクトがジャーナル処理されていないかた場合にはブランクになって戻されます。

上

STRJRNRCVのCL変数 (10) (STRJRNRCV)

ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)またはジャーナル処理済み変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドの正常使用に必要な最古のジャーナル・レシーバーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、このフィールドはブランクになります。

ファイル・オブジェクトでは、ジャーナル・レシーバーには、保管開始操作を表す項目が入れられます。ただし、部分トランザクションを含むメンバーがファイル中にある場合は、それらのメンバーで以前のジャーナル・レシーバーが必要になることがあります。ファイル内のメンバーの部分トランザクションの状態を調べるには、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを使用してください。

上

JRNRCVLIBのCL変数 (10) (JRNRCVLIB)

開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、このフィールドはブランクになります。

上

RCVLIBASPのCL変数 (10) (RCVLIBASP)

開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール (ASP)装置の名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、このフィールドはブランクになります。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

RCVLIBGRPのCL変数 (10) (RCVLIBGRP)

開始ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール (ASP)グループの名前を戻すために使用される10文字の変数を指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASPの名前です。戻される値は、RCVLIBASPパラメーターで戻される値と同じであることがあります。オブジェクトがジャーナル処理されていない場合には、このフィールドはブランクになります。戻される可能性のある特殊値は次の通りです。

*N ASP装置の名前を決定できません。

*SYSBAS

ライブラリーはシステムASP (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に入っています。

上

例

JANE BROWNが次のコマンドを入力してライブラリーを作成します。

```
CRTLIB LIB(PGMLIB) TYPE(*PROD)
      TEXT('LIBRARY FOR TEST PROGRAMS')
```

後でJANEまたは適切な権限をもつ他の誰かが次に示すCLプログラムでライブラリーの属性を検索できます。

```
DCL &CRTDATE *CHAR 13
DCL &OWN *CHAR 10
DCL &RTNLIB *CHAR 10
DCL &OBJJASPDEV *CHAR 10
:
RTVOBJD OBJ(*LIBL/PGMLIB) OBJTYPE(*LIB) TEXT(&TEXT) +
      CRTDATE(&CRTDATE) OWNER(&OWN) +
      RTNLIB(&RTNLIB) OBJJASPDEV(&OBJJASPDEV)
```

CLプログラムの変数に戻される値を以下に示します。

```
&TEXT = テスト・プログラムのライブラリー
&CRTDATE = 0900211130000
&OWN = JBROWN
&RTNLIB = QSYS
&OBJJASPDEV = *SYSBAS
```

変数&CRTDATEに戻される値は、PGMLIBが1990年2月11日の1300時に作成されたことを示します。変数&OWNに戻される値は、ライブラリーがユーザー・プロファイルJBROWNによって作成されたことを示します。変数&RTNLIBに戻される値は、PGMLIBがライブラリーQSYSにあることを示します。変数&OBJASPDEVに戻される値は、PGMLIBの記憶域がシステム補助記憶域プール(ASP 1)およびいずれかの定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)を含む*SYSBASから割り振られたことを示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2173

ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF218D

*ASPGRPが指定されている時に、&1が1次ASPになっていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF36F7

メッセージ待ち行列QSYSOPRは別のジョブに割り振られている。

CPF980B

ライブラリー&2のオブジェクト&1を使用できない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振れません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

上

PDGプロフィール検索 (RTVPDGPRF)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ・プロフィール検索(RTVPDGPRF)コマンドをCLプログラムまたはREXXプロシージャで使用して、ユーザー・プロフィールと関連した1つまたは複数の印刷記述子グループのプロフィール値を検索します。所要のユーザーに指定されたCL変数に値が戻されます。

制約事項:

1. プログラムはそのコマンドに対して*OBJOPR権限が必要です。
2. プログラムはそのユーザー・プロフィールに対して*READ権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USER	ユーザー・プロフィール	名前, *CURRENT	必須, 定位置 1
RTNUSER	RTNUSER用CL変数	文字値	オプション
PDG	PDG用CL変数	文字値	オプション
PDGLIB	PDGLIB用CL変数	文字値	オプション
PRTD	PRTD用CL変数	文字値	オプション

上

ユーザー・プロフィール (USER)

印刷記述子グループ(PDG)プロフィールについて確認するユーザー・プロフィール名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

現行ジョブのユーザーのユーザー・プロフィールを検査します。

ユーザー名

確認するユーザー・プロフィールを指定してください。

上

RTNUSER用CL変数 (RTNUSER)

制御言語(CL)プログラムで、情報が必要なユーザー・プロフィールの名前を受け取るために使用される10桁の変数の名前を指定します。

PDG用CL変数 (PDG)

制御言語(CL)プログラムで、情報が必要なユーザーのPDGプロファイルを受け取るために使用される10桁の変数の名前を指定します。

上

PDGLIB用CL変数 (PDGLIB)

制御言語(CL)プログラムで、情報が必要なユーザーのPDGプロファイルのライブラリーを受け取るために使用される10桁の変数の名前を指定します。

上

PRTD用CL変数 (PRTD)

制御言語(CL)プログラムで、情報が必要なユーザーのPDGプロファイルのライブラリーを受け取るために使用される10桁の変数の名前を指定します。

上

例

*OBJMGT権限をもつユーザーが次のコマンドを入力したとします。

```
CHGUSRPRF  USER(JWONG)  PDG(*LIBL/TAXFORMS)  PRTD(FORM_C1)
```

また、*OBJMGT権限をもつプログラムに次のコマンドおよび宣言が含まれているものとします。

```
DCL  VAR(&USER)      TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&GROUP)     TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&LIBRARY)   TYPE(*CHAR)  LEN(10)
DCL  VAR(&DESCRIPT)  TYPE(*CHAR)  LEN(256)
RTVPDGPRF  USER(JWONG)  RTNUSER(&USER)  PDG(&GROUP)  PDGLIB(&LIBRARY)
           PRTD(&DESCRIPT)
```

上記のプログラムを呼び出すと、以下の値が戻されます。

```
&USER      'JWONG      '
&GROUP     'TAXFORMS   '
&LIBRARY   'TAXLIB     '
&DESCRIPT  'FORM_C1 ... '
```

注:変数&DESCRIPTに戻される値はFORM_C1とその後に249個の空白が続いて値です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロフィール&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロフィール&1には認可されていません。

CPF2247

内部機密保護オブジェクトが使用可能でない。理由コードは&1です。

上

電源スケジュール項目の検索 (RTVPWRSCDE)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

電源オン/オフ・スケジュール項目検索(RTVPWRSCDE)コマンドは、CLまたはREXXプログラムでの使用のために電源オン/オフ・スケジュール項目の値を検索します。値はプログラム中の指定されたCL変数に戻されます(コピーされます)。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、電源オン/オフ・スケジュール表示(DSPPWRSCD)コマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DAY	日	日付, *TODAY, *SUN, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT	オプション, 定位置 1
PWRONTIME	PWRONTIMEのCL変数 (6)	文字値	オプション
PWROFFTIME	PWROFFTIMEのCL変数 (6)	文字値	オプション
DAYDESC	DAYDESCのCL変数 (38)	文字値	オプション
MSGITV	MSGITVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション

上

日 (DAY)

電源オン/オフ・スケジュール項目を検索する日付を指定します。

*TODAY

現行日付のスケジュール項目が検索されます。

*SUN 日曜日のスケジュール項目が検索されます。

*MON 月曜日のスケジュール項目が検索されます。

*TUE 火曜日のスケジュール項目が検索されます。

*WED 水曜日のスケジュール項目が検索されます。

*THU 木曜日のスケジュール項目が検索されます。

*FRI 金曜日のスケジュール項目が検索されます。

*SAT 土曜日のスケジュール項目が検索されます。

日付 スケジュール項目を検索する日付を指定してください。日付はジョブ属性によって指定したものと同一形式で指定しなければなりません。

上

PWRONTIMEのCL変数 (6) (PWRONTIME)

電源オン時刻を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小6文字です。特殊値*NONEまたは形式HHMMSS（ここで、HH=時間、MM=分、およびSS=秒）の時刻が戻されます。

上

PWROFFTIMEのCL変数 (6) (PWROFFTIME)

電源オフ時刻を受け取るCL変数の名前を指定します。指定する変数の長さは最小6文字です。特殊値*NONEまたは形式HHMMSS（ここで、HH=時間、MM=分、およびSS=秒）の時刻が戻されます。

上

DAYDESCのCL変数 (38) (DAYDESC)

日付記述値を受け取るCL変数の名前を指定します。日付記述はその日付の電源オン/オフ・スケジュールの説明です。指定する変数の長さは最小38文字です。

上

MSGITVのCL変数 (2 0) (MSGITV)

メッセージ間隔値を受け取るCL変数の名前を指定します。メッセージ間隔は、ユーザーに電源オフを警告するメッセージがすべてのワークステーションに送られてからスケジュールされた電源オフが実行されるまでの時間（分数）です。指定する変数の長さは最小2文字です。

上

例

例1:本日のスケジュール項目の検索

```
DCL VAR(&ONTIME) TYPE(*CHAR) LEN(6)
DCL VAR(&OFFTIME) TYPE(*CHAR) LEN(6)
RTVPWRSCDE DAY(*TODAY) PWRONTIME(&ONTIME) +
            PWROFFTIME(&OFFTIME)
```

このコマンドは、本日の電源オンとオフ時刻を検索します。

例2:火曜日のスケジュール項目の検索

```
DCL VAR(&ONTIME) TYPE(*CHAR) LEN(6)
DCL VAR(&OFFTIME) TYPE(*CHAR) LEN(6)
RTVPWRSCDE DAY(*TUE) PWRONTIME(&ONTIME) PWROFFTIME(&OFFTIME)
```

このコマンドは、火曜日の電源オンとオフ時刻を検索します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2B

電源スケジューラーおよびクリーンアップ・オプションが見つからない。

CPF1E23

電源スケジュールまたはクリーンアップ・オプションは別のユーザーが使用中である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

上

QUERY管理機能書式の検索 (RTVQMFORM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能書式検索(RTVQMFORM)コマンドによって、QUERY管理機能書式(QMFORM)オブジェクトからエンコードされた書式ソース・レコードを検索することができます。ソース・レコードは編集可能なソース・ファイル・メンバーに入れられます。

指定されたQMFORMが存在しない場合には、QUERY定義(QRYDFN)オブジェクトから書式のソース・レコードを検索することもできます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QMFORM	QUERY管理機能報告書書式	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能報告書書式	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *QMFORM	オプション, 定位置 3
ALWQRYDFN	QRYDFNからの情報使用可能	*NO, *YES, *ONLY	オプション

上

QUERY管理機能報告書書式 (QMFORM)

ソースを検索するQUERY管理機能書式オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能報告書書式

名前 検索する書式の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

書式を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

エンコードされた書式のソース・レコードが書き出される前に作成されたソース物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 書式のソース・レコードを受け取るソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

エンコードされた書式のソース・レコードが書き出されるソース物理ファイル・メンバーを指定します。ソース・ファイル・メンバー名が指定されていない場合には、QMFORMパラメーターに指定された書式名が使用されます。

このコマンドを実行する前にメンバーが存在していた場合には、ソース・ステートメントが書き出される前に消去されます。メンバーが存在しない場合には作成されます。

***QMFORM**

メンバー名は、QMFORMパラメーターに指定された書式名と同じです。

名前 書式ソースを検索するためにメンバーの名前を指定してください。

上

QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)

指定されたオブジェクト名を使用してQUERY管理機能書式(QMFORM)オブジェクトを見つけることができない時にQRYDFNオブジェクトから書式情報を取り出すかどうかを指定します。この方法で得られた情報は、コマンドが処理を完了した時に破棄されます。QUERY 管理機能オブジェクトは作成されません。

***NO** 情報はQRYDFNオブジェクトから取り出されません。

***YES** 指定されたQMQRyオブジェクトが見つからない時に、QRYDFNオブジェクトから情報が取り出されます。

***ONLY**

情報はQRYDFNからしか取り出されません。QUERY管理機能オブジェクトは無視されます。

上

例

例1:エンコードされた書式ソースを検索

```
RTVQMFORM QMFORM(RPTLIB/SALFORM) SRCFILE(FORMS)
          SRCMBR(EMPFORM)
```

このコマンドは、ライブラリーRPTLIBにある書式（名前SALFORM）からエンコードされた書式ソースを検索します。エンコードされた書式ソース・レコードが検索されると、ユーザー・ライブラリー・リストの最初のファイル（名前FORMS）の新しく作成されたかクリアされたメンバー（名前EMPFORM）に入れられます。

例2: QMFORMまたはQRYDFNのいずれかからソースを検索

```
RTVQMFORM QMFORM(RPTLIB/SALFORM) SRCFILE(FORMS)
          SRCMBR(EMPFORM) ALWQRYDFN(*YES)
```

このコマンドは、RPTLIBライブラリーにある名前SALFORMのQUERY管理機能書式(QMFORM)からエンコードされた書式ソースを検索します。名前SALFORMのQMFORMオブジェクトがRPTLIBライブラリーにない場合には、書式ソースはRPTLIBライブラリーの名前SALFORMのQUERY定義(QRYDFN)から検索されます。エンコードされた書式ソース・レコードが検索されると、ユーザー・ライブラリー・リストの最初のファイル（名前FORMS）に入れられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2705

&2のソース・ファイル&1が使用不能である。

上

QUERY管理機能プログラム検索 (RTVQMQR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY管理機能プログラム検索(RTVQMQR)コマンドによって、QUERY管理機能プログラム(QMQR)オブジェクトから構造化照会言語(SQL)のソース・レコードを検索することができます。ソース・レコードは編集可能なソース・ファイル・メンバーに入れられます。

指定されたQMQRが存在しない場合には、QUERY定義(QRYDFN)オブジェクトからQUERYのソース・レコードを検索することもできます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QMQR	QUERY管理機能プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY管理機能プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *QMQR	オプション, 定位置 3
ALWQRYDFN	QRYDFNからの情報使用可能	*NO, *YES, *ONLY	オプション

上

QUERY管理機能プログラム (QMQR)

ソースを検索するQUERY管理機能プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY管理機能プログラム

名前 ソースを検索するQUERYの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

QUERYのソース・レコードが書き出される、前に作成されたソース物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 検索するQUERYのソース・レコードを受け取るソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

QUERYのソース・レコードが書き出されるソース・ファイル・メンバーを指定します。このコマンドを実行する前にメンバーが存在していた場合には、ソース・レコードが書き出される前に消去されます。メンバーが存在しない場合には作成されます。

***QMQR**

メンバー名は、QMQRパラメーターに指定されたQUERY名と同じです。

名前 QUERYソースを受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

QRYDFNからの情報使用可能 (ALWQRYDFN)

指定されたオブジェクト名を使用してQUERY管理機能(QMQR)オブジェクトを見つけることができない場合に、QUERY定義(QRYDFN)オブジェクトからQUERY情報を取り出すかどうかを指定します。この方法で得られた情報は、コマンドが処理を完了した時に破棄されます。QUERY 管理機能オブジェクトは作成されません。

***NO** 情報はQRYDFNオブジェクトから取り出されません。

***YES** 指定されたQMQRオブジェクトが見つからない時に、QRYDFNオブジェクトから情報が取り出されます。

*ONLY

情報はQRYDFNオブジェクトからのみ取り出されます。QUERY管理機能オブジェクトは無視されます。

上

例

例1: SQLソースを検索

```
RTVQMQR  QMQR(RPTLIB/SALQR) SRCFILE(QRYS) SRCMBR(EMPQR)
```

このコマンドは、RPTLIBライブラリーにあるQUERY（名前SALFORM）からソースを検索します。ソース・レコードが検索されると、ユーザー・ライブラリー・リストの最初のファイル（名前QRYS）の新しく作成されたかクリアされたメンバー（名前EMPQR）に入れられます。

例2: QMQRまたはQRYDFNのいずれかからソースを検索

```
RTVQMQR  QMQR(RPTLIB/SALQR) SRCFILE(QRYS) SRCMBR(EMPQR)
          ALWQRYDFN(*YES)
```

このコマンドは、RPTLIBライブラリーの名前SALQRのQUERY管理機能プログラムQUERY(QMQR)からソースを検索します。名前SALQRのQMQRオブジェクトがRPTLIBライブラリーにない場合には、QUERYソースはRPTLIBライブラリーの名前SALQRのQUERY定義(QRYDFN)から検索されます。ソース・レコードは、ユーザー・ライブラリー・リストの最初のファイル（名前QRYS）の新しく作成されたかクリアされたメンバー（名前EMPQR）に入れられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

QWM2701

&1コマンドが正しく実行されなかった。

QWM2703

&1コマンドは終了した。

QWM2705

&2のソース・ファイル&1が使用不能である。

上

S/36環境属性の検索 (RTVS36A)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

システム/36属性の検索(RTVS36A)コマンドによって、ユーザーはシステム/36 環境構成の特定の属性情報を検索して、CLプログラムまたはREXXプロシージャに指定された変数にその情報を提供することができます。1つまたは複数の属性に関する情報を検索することができます。

検索できるシステム/36属性の詳細については、システム/36属性変更(CHGS36A)コマンドのヘルプ情報を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ENV	環境名	名前, # <u>LIBRARY</u>	オプション, キー
SLIB	SLIBのCL変数 (8)	文字値	オプション
FLIB	FLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
LIBL	LIBLのCL変数 (4)	文字値	オプション
DATDIFF	DATDIFFのCL変数 (4)	文字値	オプション
S36ESHARE	S36ESHAREのCL変数 (4)	文字値	オプション
RCDBLK	RCDBLKのCL変数 (4)	文字値	オプション
CACHEDLTF	CACHEDLTFのCL変数 (4)	文字値	オプション
LPPAGE	LPPAGEのCL変数 (3)	文字値	オプション
FORMTYPE	FORMTYPEのCL変数 (4)	文字値	オプション
DFTMSGACN	DFTMSGACNのCL変数 (9)	文字値	オプション
HALTOPT	HALTOPTのCL変数 (4)	文字値	オプション
EVKJOBINIT	EVKJOBINITのCL変数 (6)	文字値	オプション
EVKJOBPOL	EVKJOBPOLのCL変数 (8)	文字値	オプション
EVKJOBPTY	EVKJOBPTYのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRCRCLEN	SRCRCLENのCL変数 (3)	文字値	オプション
CHGACT	CHGACT用のCL変数 (4)	文字値	オプション
ADDS36ONLY	ADDS36ONLY用のCL変数 (4)	文字値	オプション
ICFSUBST	ICFSUBST用のCL変数 (4)	文字値	オプション
MRTUSRPRF	MRTUSRPRFのCL変数 (8)	文字値	オプション
MRTAUT	MRTAUTのCL変数 (8)	文字値	オプション
MRTDLY	MRTDLYのCL変数 (5)	文字値	オプション
MRTJOBINIT	MRTJOBINITのCL変数 (6)	文字値	オプション
MRTJOBPOL	MRTJOBPOLのCL変数 (8)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MRTJOBPTY	MRTJOBPTYのCL変数 (10)	文字値	オプション

上

環境名 (ENV)

ユーザーが属性を検索しているシステム/36環境の名前を指定します。値は#LIBRARYで、これを変更することはできません。

これは必須パラメーターです。

上

SLIBのCL変数 (8) (SLIB)

システム/36環境で実行中のジョブについて省略時のセッション・ライブラリーの名前を受け取るための8桁の変数の名前を指定します。

上

FLIBのCL変数 (10) (FLIB)

システム/36環境で実行中のジョブについて省略時のファイル・ライブラリーの名前を受け取る10桁の変数の名前を指定します。

上

LIBLのCL変数 (4) (LIBL)

システム/36環境で実行中のジョブで、ライブラリー・リストが使用されるかどうかについての情報を受け取るための4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

上

DATDIFFのCL変数 (4) (DATDIFF)

システム/36環境で実行中のジョブで、同じ名前だが、別の日付をもつファイルを使用できるかどうかについて、情報を受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

上

S36ESHAREのCL変数 (4) (S36ESHARE)

システム/36環境でオープンされたデータベース・ファイルに対して、プログラムがオープン・データ・パス(ODP)を共用するかどうかについて、情報を受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

RCDBLKのCL変数 (4) (RCDBLK)

システム/36環境でオープン・データ・パスを共用する順次データベース・ファイルで、レコードのブロック化を使用するかどうかについて、情報を受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

上

CACHEDLTFのCL変数 (4) (CACHEDLTF)

システム/36環境のキャッシュに削除されるファイルを保管するかどうかの情報を受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*YESまたは*NOの値が戻されます。

上

LPPAGEのCL変数 (3) (LPPAGE)

システム/36環境で実行中のジョブについて、1ページに印刷される行数を受け取る3桁の変数の名前を指定します。変数には、1-112の範囲の値が戻されます。

上

FORMTYPEのCL変数 (4) (FORMTYPE)

システム/36環境でジョブを印刷する時に、使用される印刷装置用紙の用紙タイプを受け取る4桁の変数の名前を指定します。変数には、*STDまたはユーザー定義の用紙タイプの値が戻されます。

上

DFTMSGACNのCL変数 (9) (DFTMSGACN)

システム/36環境のプロシージャ内でCLコマンドを実行中にエラーが起こった時に、システム/36環境で使用される省略時のメッセージの処置を受け取る9桁の変数の名前を指定します。変数には、*CONTINUE, *HALT, IGNORE,または*CANCELの値が戻されます。

上

HALTOPTのCL変数 (4) (HALTOPT)

省略時のメッセージの処置に*HALTが指定されている時に、システム/36環境でエラーが起こった後、継続についてのオプション・リストを受け取る4桁の変数の名前を指定します。

上

EVKJOBINITのCL変数 (6) (EVKJOBINIT)

システム/36環境でEVOKEジョブまたはジョブ・ステップの開始に使用される方式について、値を受け取る6桁の変数の名前を指定します。変数には、*IMMEDまたは*JOBQの値が戻されます。

上

EVKJOBPOLのCL変数 (8) (EVKJOBPOL)

システム/36環境で*IMMEDオプションで開始されるジョブに使用される記憶域プールについて、値を受け取る8桁の変数の名前を指定します。変数には、*BASEまたは*CURRENTの値が戻されます。

上

EVKJOBPTYのCL変数 (10) (EVKJOBPTY)

システム/36環境で*IMMEDオプションでジョブが開始される時に、そのジョブを開始する優先順位について、値を受け取る10桁の変数の名前を指定します。変数には、1-99の範囲の値または*SUBMITTERの値が戻されます。

上

SRCRCDLLENのCL変数 (3) (SRCRCDLLEN)

システム/36ソース・ファイルQS36PRCおよびQS36SRCのレコード長（バイト数）を受け取る3桁の変数の名前を指定します。変数には、52-132の範囲の値が戻されます。

上

CHGACT用CL変数(4) (CHGACT)

他のユーザーがシステム/36環境にサインオンしている時に、システム/36変更(CHGS36)コマンドを使用して構成オブジェクトを更新できるかどうかを指示する値を受け取る4桁のCL変数の名前を指定します。この変数には、値*NOまたは*YESが戻されます。

上

ADDS36ONLY用CL変数(4) (ADDS36ONLY)

装置がシステム/36環境にサインオンしている時に、ワークステーション装置をシステム/36環境構成に追加できるかどうかを指示する値を受け取る4桁のCL変数の名前を指定します。この変数には、値*NOまたは*YESが戻されます。

上

ICFSUBST用CL変数(4) (ICFSUBST)

システム間通信機能(ICF)開始要求を置換式のために走査するかどうかを指示する値を受け取る4桁のCL変数の名前を指定します。この変数には、値*NOまたは*YESが戻されます。

上

MRTUSRPRFのCL変数 (8) (MRTUSRPRF)

複数要求端末(MRT)プログラムを実行する時のユーザー・プロファイルを受け取る8桁の変数の名前を指定します。変数には、*OWNERまたは*FRSTUSRの値が戻されます。

上

MRTAUTのCL変数 (8) (MRTAUT)

MRTプログラムで使用されるファイルに対するユーザー権限を受け取る8桁の変数の名前を指定します。変数には、*ALLUSRまたは*FRSTUSRの値が戻されます。

上

MRTDLYのCL変数 (5) (MRTDLY)

MRTプログラムを終了する前にシステムが遅延する時間(秒数)を受け取る5桁の変数の名前を指定します。変数には、0-32767の範囲の値が戻されます。

上

MRTJOBINITのCL変数 (6) (MRTJOBINIT)

システム/36環境でMRTジョブの開始に使用される方式の値を受け取る6桁の変数の名前を指定します。変数には、*IMMEDまたは*JOBQの値が戻されます。

上

MRTJOBPOLのCL変数 (8) (MRTJOBPOL)

システム/36環境で*IMMEDオプションで開始されるMRTジョブに使用される記憶域プールの値を受け取る8桁の変数の名前を指定します。変数には、*BASEまたは*CURRENTの値が戻されます。

上

MRTJOBPTYのCL変数 (10) (MRTJOBPTY)

*IMMEDオプションで開始されるMRTジョブを開始するための優先順位の値を受け取る10桁の変数の名前を指定します。変数には、1-99の範囲の値または*SUBMITTERの値が戻されます。

上

例

RTVS36A RCBBLK(&RBLOCK) HALT(&OPTION) MRTUSRPRF(&USERID)

このコマンドは共用ファイルのレコード・ブロッキング値、停止オプション・リスト、およびMRTを実行しているそのユーザー・プロファイルを検索します。共用ファイルのレコード・ブロッキング値はCL変数&RBLOCKにコピーされます。これは4桁の長さでなければなりません。停止オプション・リストはCL変数&OPTIONにコピーされます。これは少なくとも4桁の長さでなければなりません。MRTを実行しているそのユーザー・プロファイルはCL変数&USERIDにコピーされます。これは8桁の長さでなければなりません。

上

エラー・メッセージ

なし

上

サービス・エージェントの検索 (RTVSRVAGT)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインターブ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの検索(RTVSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントについての情報を検索できます。

サービス・エージェントの自動処理が可能な最大3つの有効な曜日を検索して、指定したCL変数に入れることができます。この曜日は、コマンドが使用されるシステムまたは論理区画に有効なものです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DAY1	1番目の日のCL変数	文字値	オプション
DAY2	2番目の日のCL変数	文字値	オプション
DAY3	3番目の日のCL変数	文字値	オプション

上

1番目の日のCL変数(DAY1)

サービス・エージェントの自動処理を行うことができる最初の曜日を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。

戻される曜日は以下の特殊値のいずれかです。*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT,または*SUN。

上

2番目の日のCL変数(DAY2)

サービス・エージェントの自動処理を行うことができる2番目の曜日を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。

戻される曜日は以下の特殊値のいずれかです。*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT,または*SUN。

上

3番目の日のCL変数(DAY3)

サービス・エージェントの自動処理を行うことができる3番目の曜日を受け取るCL変数の名前を指定します。この変数は、最小長が4文字の文字変数でなければなりません。

戻される曜日は以下の特殊値のいずれかです。*MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT,または*SUN。

上

例

```
DCL &FIRSTDAY TYPE(*CHAR) LEN(4)
DCL &SECONDDAY TYPE(*CHAR) LEN(4)
DCL &THIRDDAY TYPE(*CHAR) LEN(4)
:
RTVSRVAGT DAY1(&FIRSTDAY) DAY2(*SECONDDAY) DAY3(&THIRDDAY)
```

このコマンドは、サービス・エージェント自動機能（自動PTFと自動テスト）の3つの有効な曜日を検索します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

停止語句リスト・ソースの検索 (RTVSWLSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE RETRIEVE STOP WORD LIST SOURCE (RTVSWLSRC) COMMAND IS USED TO RETRIEVE THE WORDS FROM AN IBM-SUPPLIED OR USER-CREATED STOP WORD LIST INTO A SOURCE FILE.

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LANGID	言語識別コード	文字値	必須、定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須、定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *LANGID	オプション
TYPE	停止語句リスト・タイプ	*IBM, *USER	オプション

上

言語識別コード (LANGID)

SPECIFIES THE LANGUAGE IDENTIFIER (ID) FOR THE STOP WORD LIST.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

SPECIFIES THE QUALIFIED NAME OF THE SOURCE FILE USED TO RECEIVE THE STOP WORD LIST WORDS. THE CONTENTS OF THE SOURCE FILE ARE REPLACED.

SOURCE-FILE-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE SOURCE FILE.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

***LIBL** ALL LIBRARIES IN THE LIBRARY LIST FOR THE CURRENT THREAD ARE SEARCHED UNTIL THE FIRST MATCH IS FOUND.

***CURLIB**

THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB IS USED TO LOCATE THE SOURCE FILE. IF NO LIBRARY IS SPECIFIED AS THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB, THE QGPL LIBRARY IS USED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY WHERE THE SOURCE FILE IS LOCATED.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

SPECIFIES THE NAME OF THE SOURCE FILE MEMBER USED TO RECEIVE THE STOP WORD LIST WORDS. THE MEMBER IS IN THE SOURCE FILE SPECIFIED ON THE SRCFILE PARAMETER.

***LANGID**

THE LANGUAGE ID IS USED AS THE SOURCE FILE MEMBER NAME.

SOURCE-FILE-MEMBER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE MEMBER IN THE SOURCE FILE USED TO RECEIVE THE STOP WORD LIST.

上

停止語句リスト・タイプ (TYPE)

SPECIFIES THE TYPE OF STOP WORD LIST BEING RETRIEVED

***IBM** THE STOP WORD LIST IS IBM-SUPPLIED.

***USER**

THE STOP WORD LIST IS USER-CREATED.

上

例

```
RTVSWLSRC LANGID(ENG) SRCFILE(MYLIB/MYFILE)
```

THIS COMMAND RETRIEVES THE STOP WORD LIST INTO SOURCE FILE MYFILE IN LIBRARY MYLIB THAT HAS THE LANGUAGE ID ENG.

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF8723

データベース・ソース・ファイルのレコード長が小さすぎる。

CPF8725

&1タイプ停止語リストが言語用にサポートされていない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

システム情報の検索 (RTVSYSDIAG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム情報検索(RTVSYSDIAG)コマンドは、システムから重要なシステム情報を収集し、それをライブラリー(LIB)パラメーターで指定したライブラリーに入れます。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*SAVSYS権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1

上

ライブラリー (LIB)

システム情報を含むオブジェクトが記憶されるライブラリーを指定します。省略時の値はありません。また、このライブラリーはシステムに存在しているものでなければなりません。

ライブラリー

システム情報を含むオブジェクトが記憶されるライブラリーを指定してください。省略時の値はありません。そのライブラリーはシステム上に存在しなければなりません。

上

例

なし

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPFA95F

システム情報の検索中にエラーが起こった。

上

システム値検索 (RTVSYVAL)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
 リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
 スレッド・セーフ: はい

パラメーター
 例
 エラー・メッセージ

システム値検索 (RTVSYVAL)コマンドは、指定されたシステム値から値を検索してプログラムでそれが使用できるようにするために、CLプログラムで使用します。値はプログラム中の指定されたCL変数に戻されます (コピーされます)。

制約事項:

1. このコマンドはCLプログラムまたはREXXプロシージャーの中でのみ有効です。
2. システム値および受け取るCL変数の属性は、互換性のあるものでなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SYVAL	システム値	QABNORMSW, QACGLVL, QACTJOB, QADLACTJ, QADLSPLA, QADLTOTJ, QALWJOBITP, QALWBJRST, QALWUSRDMN, QASTLVL, QATNPGM, QAUDCTL, QAUDENDACN, QAUDFRCLVL, QAUDLVL, QAUDLVL2, QAUTOCFG, QAUTORMT, QAUTOSPRPT, QAUTOVRT, QBASACTLVL, QBASPOOL, QBOOKPATH, QCCSID, QCENTURY, QCFGMSGQ, QCHRID, QCHRIDCTL, QCMNARB, QCMNRCYLMT, QCNTYID, QCONSOLE, QCRTAUT, QCRTOJAUD, QCTLSBSD, QCURSYM, QDATE, QDATETIME, QDATFMT, QDATSEP, QDAY, QDAYOFWEEK, QDBFSTCCOL, QDBRCVYWT, QDECFMT, QDEVNAMING, QDEVRCYACN, QDSCJOBITV, QDSPSGNINF, QDYNPTYADJ, QDYNPTYSCD, QENDJOBMT, QFRCCVNRST, QHOUR, QHSTLOGSIZ, QIGC, QIGCCDEFNT, QIGCFNTSIZ, QINACTMSGQ, QINACTITV, QIPLDATTIM, QIPLSTS, QIPLTYPE, QJOBMSGQFL, QJOBMSGQMX, QJOBMSGQSZ, QJOBMSGQTL, QJOBSPLA, QKDBBUF, QKBDTYPE, QLANGID, QLEAPADJ, QLIBLCKLVL, QLMTDEVSSN, QLMTSECOFR, QLOCALE, QLOGOUTPUT, QMAXACTLVL, QMAXJOB, QMAXSGNACN, QMAXSIGN, QMAXSPLF, QMCHPOOL, QMINUTE, QMLTTHDACN, QMODEL, QMONTH, QPASTHRSVR, QPFRADJ, QPRBFTR, QPRBHLDTIV, QPRCFEAT, QPRCMLTTSK, QPRTDEV, QPRTKEYFMT, QPRTTXT, QPWDCHGBLK, QPWDEXPITV, QPWDEXPWRN, QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDLVL, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDIF, QPWDRODDGT, QPWDRODDIF, QPWRDRLS, QPWDVLDPGM, QPWRDWNLMT, QPWRSTIPL, QQRYDEGREE, QQRYTIMLMT, QRCLSPLSTG, QRETSVRSEC, QRMTIPL, QRMTSIGN, QRMTSRVATR, QSAVACCPH, QSCANFS, QSCANFCTL, QSCPFCONS, QSECOND, QSECURITY, QSETJOBATR, QSFWERRLOG, QSHRMEMCTL, QSPCENV, QSPLFACN, QSRLNBR, QSRTSEQ, QSRVDMP, QSSLCSL, QSSLCSLCTL, QSSLPCL, QSTGLOWACN, QSTGLOWLMT, QSTRPRTWTR, QSTRUPPGM, QSTMSG, QSVRAUTITV, QSYSLIBL, QTHDRSCADJ, QTHDRSCAFN, QTIMADJ, QTIME, QTIMSEP, QTIMZON, QTOTJOB, QTSEPOOL, QUPSDLYTIM, QUPSMSGQ, QUSEADPAUT, QUSRLIBL, QUTCOFFSET, QVFOBJRST, QYEAR	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RTNVAR	戻された値の CL変数	無制限	必須, 定位置 2

上

システム値 (SYSVAL)

値を検索して、プログラムで使用するために戻すシステム値の名前を指定します。指定することができるシステム値の名前および説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

これは必須パラメーターです。

システム値は次の通りです。

QABNORMSW

前のシステム終了標識。この値は変更できません。

- '0'は直前の終了が正常であったことを意味します。
- '1'は直前の終了が異常であったことを意味します。

QACGLVL

アカウント・レベル。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *NONE -会計情報はジャーナルに書き込まれません。
- *JOB -ジョブ資源の用途がジャーナルに書き込まれます。
- *PRINT -スプールおよび印刷装置ファイル資源の用途がジャーナルに書き込まれます。

QACTJOB

記憶域が割り振られる初期活動ジョブ数。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QADLACTJ

記憶域が割り振られる追加の活動ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QADLSPLA

スプーリング制御ブロックを拡張するための追加の記憶域 (バイト数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QADLTOTJ

記憶域が割り振られる追加の合計ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QALWJOBITP

ジョブは割り込みできます。このシステム値は、そのジョブでユーザー定義の出口プログラムを実行するジョブを割り込みするユーザー開始要求にシステムが応答する方法を指定します。i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のジョブ割り込みプログラムの呼び出し(QWCJBITP) APIには、ジョブ割り込み出口プログラムを使用する時の情報が入っています。i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のジョブ割り込み状況の変更

(QWCCJITP) APIには、ジョブの割り込み状況を検索および変更する時の情報が入っています。活動ジョブの割り込み状況は、任意の時に変更できますが、有効になるのはQALWJOBITPの値によりジョブを割り込みできる時だけです。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は0です。

- 0は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できないことを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、省略時解釈として割り込み不可になります。ジョブ割り込み状況の設定内容にかかわらず、すべての活動ジョブは割り込み不可です。
- 1は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できることを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、省略時解釈として割り込み不可になります。
- 2は、システムによりジョブを割り込みしてユーザー定義出口プログラムを実行できることを意味します。活動状態になるすべての新規ジョブは、省略時解釈として割り込み可能になります。

QALWBJRST

オブジェクト復元の許可。このシステム値は、機密属性を持つオブジェクトが復元されるかどうかを決定します。詳細については、復元オプションを参照してください。

QALWUSRDMN

ライブラリーまたはディレクトリー中のユーザー・ドメイン・オブジェクトを許可します。このシステム値は、システム上のどのライブラリーにユーザー・ドメイン・ユーザー・オブジェクト *USRSPC (ユーザー・スペース) , *USRIDX (ユーザー見出し) , および*USRQ (ユーザー待ち行列) を入れることができるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QASTLVL

操作援助レベル。ASTLVL(*SYSVAL)が指定されたユーザー・プロファイルについてシステム画面の操作援助機能レベルを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *BASIC -操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。
- *INTERMED -システム・インターフェースが使用されます。
- *ADVANCED - EXPERTシステム・インターフェースが使用されます。

*ADVANCEDレベル・インターフェースがないコマンドの場合には、*INTERMEDが使用されます。

QATNPGM

アテンション・プログラム。このシステム値に対して*ASSISTが指定された場合には、ユーザーがアテンション(ATTN)キーを押した時に、操作援助機能メイン・メニューが呼び出されます。この値は、ユーザー・プロファイルにATNPGM(*SYSVAL)が指定されたジョブでユーザーがATTNキーを押した時に呼び出されるプログラムの名前に変更することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QAUDCTL

監査制御。このシステム値には、オブジェクトおよびユーザー処置の監査用のオン/オフ・スイッチが入っています。このシステム値は、オブジェクト監査の変更 (CHGOBJAUD)およびユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD)コマンドとQAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値によって選択されたシステム上の監査を活動化します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *NONE -システム上で機密保護監査は行われません。これが配送値です。

- *AUDLVL - QAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値に指定された処置が機密保護ジャーナルに対して記録されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値によって指定された処置も監査されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値は、CHGUSRAUDコマンドのAUDLVLパラメーターを通じて設定されます。
- *OBJAUD - *NONE以外のオブジェクト監査値を持つオブジェクトに対する処置が監査されません。オブジェクトの監査値は、監査値変更 (CHGAUD)コマンドまたはCHGOBJAUDコマンドを通じて設定されます。
- *NOQTEMP - QTEMP中のほとんどのオブジェクトの監査は行われません。*NOQTEMPは、*OBJAUD または*AUDLVLのいずれかと一緒に指定しなければなりません。*NOQTEMP単独で指定することはできません。

QAUDENDACN

監査ジャーナル・エラー処置。このシステム値は、オペレーティング・システムが機密保護監査ジャーナルに監査ジャーナル項目を送ろうとした時にエラーが起こった場合にシステムが取る処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *NOTIFY -障害通知がQSYSOPRおよびQSYSMSGメッセージ待ち行列に送られ、その後で、監査を試みる原因となった処置が続行されます。
- *PWRDWN SYS - システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが出されます。システムはIPLの後で制限状態で立ち上げられ、監査(*AUDIT)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持つユーザーだけがそのシステムにサインオンすることができます。

QAUDFRCLVL

強制監査ジャーナル。このシステム値は、ジャーナル項目データが補助記憶域に強制的に書き込まれる前に、機密保護監査ジャーナルに書き出すことができる監査ジャーナル項目の数を指定します。

- 1から100。
- *SYS -内部システム処理に基づいてジャーナル項目を補助記憶域に書き出す時点を、システムが決定します。*SYSを10進変数で戻すことはできないので、値*SYSが指定される時にコマンドは0を戻します。
- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。*NOTAVLを10進数変数で戻すことはできないので、コマンドは*NOTAVLの代わりに-1を戻します。

このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QAUDLVL

機密保護監査レベル。システム上の処置監査のレベルを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- *NONE -システム上で機密保護処置監査は行われません。これが配送値です。
- *AUDLVL2 - QAUDLVLとQAUDLVL2の両方のシステム値を使用して、監査する機密保護処置が決定されます。

注:

- QAUDLVL2システム値を排他的に使用したい場合には、QAUDLVLシステム値を*AUDLVL2に設定して、監査値をQAUDLVL2システム値に追加します。

- *AUDLVL2値とともに値をQAUDLVLシステム値に設定できる両方のシステム値を使用したい場合には、追加の値をQAUDLVL2処置に追加します。
- *ATNEVT -重要イベントが監査されます。重要イベントは、条件の機密保護重要度を判別するためにさらに評価する必要がある条件です。例えば、条件が侵入であるか偽の肯定であるかを判別するために、侵入モニター・イベントを調べる必要があります。
- *AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- *CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- *DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- *JOBBAS -ジョブに影響する基本処置が監査されます。
- *JOBCHGUSR-スレッドの活動中ユーザー・プロファイルまたはそのグループ・プロファイルの変更処置が監査されます。
- *JOBDTA -ジョブに影響する処置が監査されます。

注: *JOBDTAは、監査をよりカスタマイズできる2つの値から構成されています。両方の値を指定した場合には、*JOBDTAを指定した場合と同じ監査が行われます。 *JOBDTAは次の値で構成されています。

- *JOBBAS
- *JOBCHGUSR
- *NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- *NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- *NETCMN -ネットワークングおよび通信機能が監査されます。

注: *NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われます。 *NETCMNは次の値で構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK
- *NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- *NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。 システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- *OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- *OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- *PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- *PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- *PRTDTA -印刷機能が監査されます。
- *SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- *SECCFG -機密保護構成が監査されます。

- *SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- *SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- *SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- *SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- *SECSCCKD -ソケット記述子が監査されます。
- *SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: *SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われます。*SECURITYは次の値で構成されています。

- *SECCFG
- *SECDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECSCCKD
- *SECVFY
- *SECVLDL
- *SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- *SECVLDL -妥当性検査リスト・オブジェクトに対する変更が監査されます。
- *SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、資料System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
- *SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- *SYSMGT -システム管理タスクが監査されます。

QAUDLVL2

機密保護監査レベル拡張機能。このシステム値は、16更新されている場合超える監査値が必要であった場合に必要になります。*AUDLVL2を値の1つとしてQAUDLVLシステム値に指定すると、システムはQAUDLVL2システム値中の監査値も検索します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- *NONE -このシステム値には監査値が含まれません。これが配送値です。
- *ATNEVT -重要イベントが監査されます。重要イベントは、条件の機密保護重要度を判別するためにさらに評価する必要がある条件です。例えば、条件が侵入であるか偽の肯定であるかを判別するために、侵入モニター・イベントを調べる必要があります。
- *AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- *CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- *DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- *JOBBAS -ジョブに影響する基本処置が監査されます。
- *JOBCHGUSR-スレッドの活動中ユーザー・プロファイルまたはそのグループ・プロファイルの変更処置が監査されます。
- *JOBDTA -ジョブに影響する処置が監査されます。

注: *JOBDDTAは、監査をよりカスタマイズできる2つの値から構成されています。両方の値を指定した場合には、*JOBDDTAを指定した場合と同じ監査が行われます。*JOBDDTAは次の値で構成されています。

- *JOBDDTA
- *JOBCHGUSR
- *NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- *NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- *NETCMN -ネットワーキングおよび通信機能が監査されます。

注: *NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われます。*NETCMNは次の値で構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK
- *NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- *NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- *OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- *OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- *PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- *PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- *PRTDDTA -印刷機能が監査されます。
- *SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- *SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- *SECDDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- *SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- *SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- *SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- *SECCKD -ソケット記述子が監査されます。
- *SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: *SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われます。*SECURITYは次の値で構成されています。

- *SECCFG
- *SECDDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS

- *SECRUN
- *SECSCKD
- *SECVFY
- *SECVLDL
- *SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- *SECVLDL -妥当性検査リスト・オブジェクトに対する変更が監査されます。
- *SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、資料System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
- *SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- *SYSMTGT -システム管理タスクが監査されます。

QAUTOCFG

自動装置構成標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

QAUTOSRPT

自動システム使用不可報告。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QAUTORMT

リモート制御装置の自動構成。QAUTORMTシステム値は、リモート制御装置の自動構成を制御します。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

QAUTOVRT

自動仮想装置構成標識。このシステム値を変更するためには、ユーザーは*ALLOBJ 権限を持っていなければなりません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、仮想装置の自動構成を参照してください。

QBASACTLVL

基本記憶域プールの活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QBASPOOL

基本記憶域プールの最小サイズ (キロバイト数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QBOOKPATH

ブックおよびブックシェルフの検索パス。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QCCSID

コード化文字セットID。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QCENTURY

システム日付の世紀値。

- 0は、19XX年を示します。
- 1は、20XX年を示します。

QCFGMSGQ

通信メッセージを受け取るメッセージ待ち行列を指定するために使用される構成メッセージ待ち行列。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対する変更は、MSGQパラメーターをサポートする回線、制御装置、または装置記述がオンに構成変更されると有効となります。

QCHRID

データの表示または印刷に使用される省略時の図形文字セットおよびコード・ページ。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で作成、変更、または一時変更される表示装置ファイル、表示装置記述、および印刷装置ファイルに対して有効となります。

QCHRIDCTL

ジョブの文字ID制御。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対して行われるCCSID変換のタイプを制御します。この属性を使用する前に、*CHRIDCTL特殊値を、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループの作成、変更、または一時変更コマンドのCHRIDパラメーターに指定しなければなりません。

- 0は*DEVD特殊値が使用されることを意味します。
- 1は*JOBCCSID特殊値が使用されることを意味します。

QCMNARB

通信アービター。制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数。この値に対する変更は次のIPL時に有効となります。出荷時の値は*CALCです。

- *CALC: オペレーティング・システムが通信アービター・ジョブの数を計算します。
- 0から99: 制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数を指定します。

注: このシステム値がゼロ(0)に設定された場合には、通信アービターとは対照的にこれらのジョブの作業はQSYSARBおよびQLUSシステム・ジョブで実行されます。

QCMNRCYLMT

システム通信回復の回復限界を提供します。回復を試みる回数と、指定された回復試行回数に達した場合に装置メッセージ待ち行列またはシステム操作員に対して照会メッセージを送る時点を指定します。このシステム値に対して行われた変更は現在オンに構成変更されている装置には影響しませんが、変更が行われた後で装置がオンに構成変更された時に有効になります。

QCNTYID

省略時の国別または地域ID。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QCONSOLE

システム・コンソール。この値を変更することはできません。

QCRTAUT

作成されたオブジェクトに対する共通権限。このシステム値を変更するためには、*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *CHANGEは、ユーザーがオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。変更権限によって、ユーザーは、所有者に限定された以外のオブジェクトまたはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。
- *ALLは、ユーザーがオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトの所有者を変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行で

きることを意味します。全権限によりユーザーは、所有者にのみ許されるかあるいは権限リスト管理権によって制御されるオブジェクトを除くすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。オブジェクトが権限リストである場合には、ユーザーはユーザーの追加、変更、除去を行えず、また権限リストの所有権を移すことができません。

- *USEは、ユーザーがオブジェクトに対して、プログラムの実行やファイルの読み取りなど基本的な操作を実行できることを意味します。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。使用権限はオブジェクト操作権限および読み取り権限を提供します。
- *EXCLUDE権限はユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。

QCRTOBJAUD

オブジェクト作成監査。このシステム値は、ライブラリーまたはディレクトリーに作成されたオブジェクトに省略時のオブジェクト監査値を指定します。オブジェクト監査値は、オブジェクトが使用または変更された時に監査ジャーナル項目がシステム監査ジャーナルに送られるかどうかを判別します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOTAVL -コマンドを実行しているユーザーは、現行監査値を表示できません。システム値は選択不可(*NOTAVL)に変更できません。
- *NONE -このオブジェクトについては、監査項目は送られません。
- *USRPRF -ユーザーが現在監査中の場合に、監査項目が送られます。
- *CHANGE -このオブジェクトが変更された場合に、監査項目が送られます。
- *ALL -このオブジェクトが使用または変更された場合に、監査項目が送られます。

QCTLBSBD

制御サブシステム記述名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QCURSYM

通貨記号。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATE

システム日付。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATETIME

システム日付および時刻。これは、単一値としてのローカル・システム時間の日付および時刻です。この値を検索または変更することは、単一の操作でQDATEおよびQTIMEを検索または変更することと類似しています。フィールドの形式は、YYYYMMDDHHNNSSXXXXXXです。ここで、YYYYは年、MMは月、DDは日、HHは時間、NNは分、SSは秒、およびXXXXXXはマイクロ秒です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATFMT

日付形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QDATSEP

日付区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QDAY 日（システム日付の形式が年間通算日形式の場合には、年の始めから数えた日付）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDAYOFWEEK

曜日。

- *SUN -日曜日

- *MON -月曜日
- *TUE -火曜日
- *WED -水曜日
- *THU -木曜日
- *FRI -金曜日
- *SAT -土曜日

QDBFSTCCOL

データベース・ファイル統計の収集。システム・ジョブQDBFSTCCOLによってバックグラウンドで処理することのできる統計収集要求のタイプを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *ALLは、すべてのユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求と、データベース・マネージャーによって自動的に要求された統計収集が、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *SYSTEMは、自動的に要求されたデータベース統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *USERは、ユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *NONEは、データベース・ファイル統計収集要求をデータベース統計システム・ジョブによって処理することができないことを意味します。

QDBRCVYWT

データベース回復待機標識。このシステム値に対する変更は、不在時モードで次回のIPL時に有効となります。

- 0は待機しないことを意味します。
- 1は待機することを意味します。

QDECFMT

10進数形式。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDEVNAMING

装置の命名規則を示します。このシステム値に対して行われた変更は、次回に装置が自動的に構成された時に有効となります。既存の構成済み装置名は変更されません。

- *NORMALはSystem i標準に従うことを意味します。
- *S36はS/36標準に従うことを意味します。
- *DEVADRは装置名が資源名から得られることを意味します。

QDEVRCYACN

ジョブの要求プログラム装置で入出力エラーが起こった時に取られる処置を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *DSCMSGはジョブを切り離します。再接続時に、ユーザーのアプリケーション・プログラムにエラー・メッセージが送られます。
- *DSCENDRQSはジョブを切り離します。再接続時に、取り消し要求機能を実行して、ジョブの制御を最後の要求レベルに戻す必要があります。
- *ENDJOBはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログが生成されます。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがジョブ・ログおよびQHSTログに送られます。

- *ENDJOBNO LISTはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログは生成されません。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがQHSTログに送られます。
- *MSGは入出力エラー・メッセージをアプリケーション・プログラムに送ります。アプリケーション・プログラムはエラー回復を自身で実行します。

QDSCJOBTV

ジョブを終了前に切断できる時間間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。対話式ジョブは、ある時間間隔中非活動状態であった（システム値QINACTIVおよびQINACTMSGQ）場合、あるいは対話式ジョブのワークステーションで入出力エラーが起こった（システム値QDEVRCYACN）場合に、ジョブの切断（DSCJOB）コマンドによって切断することができます。

- 5から1440がタイムアウトの間隔（分）です。
- *NONEはタイムアウト間隔がないことを意味します。

QDSPSGNINF

サインオン情報の表示を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はサインオン情報が表示されないことを意味します。
- 1はサインオン情報が表示されることを意味します。

QDYNPTYADJ

動的な優先度の調整。QDYNPTYADJシステム値は、バッチ・ジョブ処理をハイパフォーマンスに維持するために、対話式ジョブの優先順位を動的に調整するかどうか制御します。この調整機能が有効なのは、対話式および非対話式の両方のスループットが評価され、動的優先順位スケジューリングが使用可能になっているシステムの場合だけです。このシステム値に対する変更は、次のIPLで有効になります。

- 0は動的優先順位調整がオフにされることを意味します。
- 1は動的優先順位調整がオンにされることを意味します。

QDYNPTYSCD

動的優先順位スケジューラー。QDYNPTYSCDシステム値は、動的優先順位スケジューラーのアルゴリズムを制御します。この値によって動的優先順位スケジューリングを使用することができます。

- 0は、動的優先順位スケジューラーがオフであることを意味します。
- 1は、動的優先順位スケジューラーがオンであることを意味します。

QENDJOB LMT

ジョブの即時終了時にアプリケーションをクリーンアップするための最小時間（秒数）。

終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャがある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成されます。SIGTERM信号のための信号処理プロシージャに制御が与えられた場合には、そのプロシージャでは、該当する処置を取って、部分的に更新されたアプリケーション・データなどの望ましくない結果を避けることができます。SIGTERM信号ハンドラーが指定された時間内に完了しない場合には、システムはジョブを終了します。

ジョブが制御された方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はコマンドに指定されます。ジョブが即時の方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はこのシステム値によって指定されます。この時間制限は、1つのジョブの終了時、サブシステム内のすべてのジョブの終了時、またはすべてのサブシステムのすべてのジョブの終了時に使用されま

す。2分後に、システム操作員は、OPTION(*IMMED)を指定したジョブ終了 (ENDJOB)コマンドを使用して、QENDJOBLMT値を一時変更し、それぞれの個別ジョブを即時に終了することができます。

この値に対する変更は即時に効力を持ちます。すでに終了中のジョブは影響されません。

QFRCCVNRST

復元時の強制変換。このシステム値を使用すると、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびモジュール・オブジェクトを復元時に変換するかしないかを指定することができます。また、一部のオブジェクトを復元しないようにすることもできます。復元コマンドにおける省略時の値はこのシステム値の値を使用します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

- 0 何も変換しません。何も復元しないようにしません。
- 1 妥当性検査エラーのあるオブジェクトが変換されます。
- 2 オペレーティング・システムの現行バージョンまたは現行マシンで使用するために変換を必要とするオブジェクトが変換されます。妥当性検査エラーのあるオブジェクトも変換されます。
- 3 改ざんされていると考えられるオブジェクト、妥当性検査エラーのあるオブジェクト、およびオペレーティング・システムの現行バージョンまたは現行マシンで使用するために変換を必要とするオブジェクトが変換されます。
- 4 変換に十分な作成データが入っていて有効なデジタル署名がないオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは変換されずに復元されます。
注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要としても変換できないオブジェクト（署名ありおよび未署名）は、復元されません。
- 5 十分な作成データが入っているオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは復元されます。注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。
- 6 有効なデジタル署名のないすべてのオブジェクトが変換されます。注: 有効なデジタル署名があり、さらに妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。
- 7 すべてのオブジェクトが変換されます。

オブジェクトを変換すると、そのデジタル署名は廃棄されます。変換されたオブジェクトの状態は、ユーザーの状態に設定されます。変換後は、オブジェクトは望ましい妥当性検査値を持ち、改ざんの懸念はありません。

QHOUR

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QHSTLOGSIZ

ヒストリー・ログの各バージョンの最大レコード数。有効な値範囲の1から10,000,000、または特殊値の*DAILY（ヒストリー・ログ・メッセージの日付が変更されるたび、または現行ログのバージョンが最大レコード・サイズの10,000,000に達する時に、ヒストリー・ログの新規バージョンが作成されることを意味します）。*DAILYは10進数変数で戻すことができないので、システム値が

*DAI LYに設定されていると、システム値の検索(RTVSYSVAL)コマンドは値-1を戻します。システム値の変更(CHGSYSVAL)コマンドに値-1を指定することは、*DAILYの指定と同じ効果があります。このシステム値に対して行った変更は、ヒストリー・ログの次のバージョンが作成された時に有効になります。

QIGC システムの2バイト文字セット(DBCS)バージョンが導入されているかどうかを示します。この値は変更できません。

- 0はDBCSバージョンが導入されていないことを意味します。
- 1はDBCSバージョンが導入されていることを意味します。

QIGCCDEFNT

2バイト文字セット(DBCS)コード化フォント名。SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)に変換する時、およびデータにシフトイン/シフトアウト(SI/SO)文字が入っているAFPDSスプール・ファイルを作成する時に使用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIGCFNTSIZ

2バイト・コード化フォントのポイント・サイズ。システム値QIGCCDEFNT 2バイト・コード化フォントと一緒に使用されます。これが使用されるのは、SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷装置データ・ストリーム(AFPDS)に変形する時およびデータ内にシフト・イン/シフト・アウト(SI/SO)文字が存在しているAFPDSスプール・ファイルを作成する時です。

- *NONEは、ポイント・サイズがシステムに識別されないことを意味します。ポイント・サイズは、システムが使用する印刷装置のタイプを基にして選択します。
- 000.1から999.9は2バイト・コード化フォントのポイント・サイズを意味します。

QINACTIV

非活動状態の対話式ジョブのタイムアウト間隔(分数)。時間間隔が*NONE以外の値に変更されると、新しい非活動間隔が設定され、ジョブ非活動の分析が再び開始されます。システム値QINACTMSGQは、システムが行う処置を判別します。ターゲット・パススルーおよびTELNETセッションの制約の説明については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照してください。

現在リモート・システムにサインオンされているローカル・ジョブは除外されます。例えば、ワークステーションがシステムAに直接接続していて、システムAがQINACTIVに設定されているとします。システムBにサインオンするために表示装置パススルーまたはTELNETが使用された場合には、このワークステーションはシステムAで設定されたQINACTIV値による影響を受けません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEはシステムが非活動について検査を行わないことを意味します。
- 5から300は処置が取られる前にジョブが非活動状態でいられる時間(分数)を意味します。

QINACTMSGQ

QINACTMSGQが*NONEでない場合にジョブ非活動メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名。このメッセージ待ち行列が存在していなければ、システム値をメッセージ待ち行列名に変更することはできません。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *ENDJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが終了することを意味します。
- *DSCJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが切り離されることを意味します。

- メッセージ待ち行列名は、ジョブが非活動状態になった時にメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前です。

QIPLDATTIM

自動IPLの日付および時刻。このシステム値は各区画で個々に設定できます。2次区画で自動IPLを実行する必要がある時に1次区画の電源が遮断されている場合には、このIPLは実行されません。1次区画でIPLが実行される時、2次区画はそのIPLの日付および時刻が過ぎている場合は、IPLが実行されます。IPL処置が保留状態で構成されている場合には、2次区画のIPLは実行されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIPLDATTIMは次の2つの部分から成る単一のシステム値です。

- 日付： システムでIPLが自動的に行われる日付。この日付は日付区切り記号を含まないQDATEFMT形式で指定されます。
- 時刻： システムでIPLが自動的に行われる時刻。この時刻は時刻区切り記号なしで指定されません。

特定の日付と時刻の代わりに、時限自動IPLがスケジュールされないことを示す*NONEを指定することができます。

次の例は、IPLの日付と時刻を1993年9月10日(QDATEFMTはMDY)の午前9時00分に変更する方法を示しています。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QIPLDATTIM) VALUE('091093 090000')
```

QIPLSTS

初期プログラム・ロード(IPL)状況標識。

- 0はオペレーター・パネルIPLを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。
- 2はIPLの再始動を意味します。
- 3はIPLの時刻を意味します。
- 4はリモートIPLを意味します。

QIPLTYPE

実行するIPLのタイプを示します。このシステム値に対して行われた変更は次回の手動IPL時に有効となります。

- 0は不在時IPLを意味します。
- 1は専用保守ツールによる在席IPLを意味します。
- 2はデバッグ・モードのコンソールによる在席IPLを意味します。

注： これを使用するとワークステーション制御装置上の他の装置が使用できなくなるので、問題分析のためだけにこれを使用するようにしてください。

QJOBMSGQFL

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時の処置。このシステム値は、いっぱいになったとみなされた時のジョブ・メッセージ待ち行列の取り扱い方を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *NOWRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列の折り返しません。
- *WRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列は折り返します。
- *PRTWRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列は折り返され、オーバーレイされるメッセージが印刷されます。

QJOBMSGQMX

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ。このシステム値は、メッセージ待ち行列がいっぱいであるとみなされる前にこの待ち行列をどれくらいの大きさ（メガバイト）にできるかを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QJOBMSGQSZ

ジョブ・メッセージ待ち行列の初期サイズ（Kバイト(KB)数）。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QJOBMSGQTL

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ(KB数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QJOBSPLA

ジョブのスプーリング制御ブロックの初期サイズ（バイト数）。このシステム値に対して行なわれた変更は、オペレーティング・システム・ライセンス・プログラムの導入時にコールド・スタートが要求されると有効となります。

QKBDBUF

キーボード・バッファ。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがログオンした時に有効となります。

- *NOは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- *TYPEAHEADは、先行入力機能をオンにするが、ATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- *YESは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオンにすることを意味します。

QKBDTYPE

キーボード言語文字セット。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QLANGID

省略時の言語ID。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QLEAPADJ

うるう年の調整。このシステム値は、異なる暦体系でのうるう年のシステム暦アルゴリズムを調整するために使用されます。

このシステム値は、システム値QTIMZONに指定された時間帯記述と関連した年オフセットによって決定されます。QTIMZONの異なる時間帯記述を変更すると、関連した調整値が異なってきます。

QLEAPADJをその現行値と異なる値に変更することはできません。変更しようとする、診断メッセージCPD168Bが出されます。QLEAPADJの値はシステムによって管理されています。

QLIBLCKLVL

ライブラリーのロック・レベル。ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーがそのジョブによってロックされるかどうかを指定します。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。

- 0は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをロックしないことを意味します。

- 1は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをそのジョブによってロックすることを意味します。

QLMTDEVSSN

並行装置セッションを制限します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、ユーザーの装置セッション数に特定の数による制限がないことを意味します。
- 1から9は、並行装置セッションの最大数を表します。

QLMTSECOFR

機密保護担当者の装置アクセスの制限。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、*ALLOBJまたは*SERVICE特殊権限を持つユーザーが任意のワークステーションにサインオンできることを意味します。
- 1は、*ALLOBJまたは*SERVICE特殊権限を持つユーザーがワークステーションに対して明示的な権限を持っていないなければならないことを意味します。

QLOCALE

ロケール・パス名。このシステム値は、システムのロケールを設定するために使用されます。ロケール・パス名は、ロケールを指定するパス名でなければなりません。ロケールは、1セットの言語規則を識別するために使用される言語、地域、およびコード・セットの組み合わせからなります。システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドのロケール・パス名に使用できる最大パス長は1,024バイトです。

このシステム値に対して行った変更はただちに有効となります。出荷時の値は各国で異なることがあります。

- *NONEは、QLOCALEシステム値にロケール・パス名がないことを意味します。
- *Cは、Cロケールが使用されることを意味します。
- *POSIXは、POSIXロケールが使用されることを意味します。

QLOGOUTPUT

ジョブ・ログ出力。このシステム値は、ジョブの完了時にジョブ・ログが作成される方法を指定します。これは、メッセージ待ち行列がフルであり、ジョブ・メッセージ待ち行列フル・アクションが*PRTWRAPを指定する時に作成されたジョブ・ログに影響しません。ジョブ・メッセージ待ち行列のメッセージはスプール・ファイルに書き込まれます。ジョブ・ログのメッセージがデータベース・ファイルに書き込まれることを指定するジョブでジョブ・ログ出力の制御(QMHCTLJL) APIが使用されない限り、このスプール・ファイルからジョブ・ログを印刷できます。

このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後でシステムに入力されるジョブに対して即時に有効となります。

- *JOBENDは、ジョブ・ログがジョブそのものによって作成されることを意味します。ジョブがその固有のジョブ・ログを作成できない場合は、ジョブ・ログはジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。
- *JOBLOGSVRは、ジョブ・ログがジョブ・ログ・サーバーによって作成されることを意味します。
- *PNDは、ジョブ・ログが作成されないことを意味します。ジョブ・ログは除去されるまで保留で残されます。

QMAXACTLVL

システムの最大活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMAXJOB

システム上のジョブの許容最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMAXSGNACN

QMAXSIGNシステム値によって課された限界に達した時のシステムの応答。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

- 1は装置が使用禁止になることを意味します。
- 2はユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。
- 3は装置とユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。

QMAXSIGN

サインオンを試みて失敗しても許される最大回数。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

QMAXSPLF

ジョブ当たりに作成できるスプール・ファイルの最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。この値をより低い数に変更すると、スプール・ファイルは削除されなくなります。ジョブのスプーリングに対するこのシステム値の影響については、**PRINTER DEVICE PROGRAMMING**を参照してください。

QMCHPOOL

マシン記憶域プール・サイズ(KB数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

注:プール・サイズを変更するには、ページを補助記憶域に書き込むことが必要な場合があります。システムが大規模の変更を完了するために必要な時間は、省力時の待ち時間を上回る可能性があります。これが起こる場合は、変更が完了してもメッセージCPF1001 (システム応答の待機時間が満了した。)が出されます。

QMINUTE

分。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMLTTHDACN

マルチスレッド・ジョブ処置。この値は、スレッド・セーフでない可能性がある機能がマルチスレッド・ジョブで呼び出される時に行う処置を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は2です。

- 1はスレッド・セーフでない機能をメッセージの送信なしに実行することを意味します。
- 2はスレッド・セーフでない機能を通知メッセージを送信して実行することを意味します。
- 3はスレッド・セーフでない機能を実行しないことを意味します。

QMODEL

システムのモデル番号。システムのモデルを識別するために使用される数字または英字です。QMODELを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラム中で4桁の値を表示または検索することができます。システム・モデル番号のシステム値は、システム上の各区分で同じです。

QMONTH

月 (年間通算日の場合には使用されない)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QPASTHRSVR

パススルー・サーバー。表示装置パススルー、IBM System i Access for Windows ワークステーション機能(WSF)、およびプログラム式ワークステーション上の他の5250エミュレーション・プロ

グラムを処理するために使用可能なターゲット表示装置バス・スルー・サーバー・ジョブの数。
このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。 出荷時の値は*CALCです。

QPFRAJ

初期プログラム・ロード(IPL)時のパフォーマンスの調整および動的なパフォーマンスの調整。 動的なパフォーマンスの調整は、共用記憶域プールの記憶域プール・サイズおよび活動レベルを自動的に変更します。 私用記憶域プールは変更されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はパフォーマンス調整なしを意味します。 動的なパフォーマンスの調整は開始されません。
- 1はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。 動的なパフォーマンスの調整は開始されません。
- 2はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。 動的なパフォーマンスの調整が開始されます。 QPFRAJが2から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されます。
- 3は動的なパフォーマンスの調整が開始されることを意味します。 QPFRAJが3から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されます。

ライブラリーQSYSにジャーナルQPFRAJを作成すれば、記憶域プール・サイズ、活動レベル、およびシステムのパフォーマンス・レベルに対して行われた変更は、その変更が行われた時に、動的調整プログラムによって記録されます（プール、プール・サイズ、および活動レベルごとの障害率）。

QPRBFTR

問題フィルター名。 問題の処理時にサービス活動マネージャーが使用するフィルター・オブジェクトの名前を指定します。 このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

QPRBHDITV

問題ログ項目保留間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QPRCFEAT

プロセッサ機能。 これはシステムのプロセッサ機能コード・レベルです。 QPRCFEATを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラムで4桁の値を表示または検索することはできます。プロセッサ機能システム値は、システムの各区画で同じです。

QPRCMLTTSK

プロセッサ・マルチタスキング。システム上のハードウェアがプロセッサ・マルチタスキングをサポートしている場合は、このシステム値によってマルチタスキング機能をオン、オフ、またはシステム制御にすることができます。このシステム値を変更すると、システムのパフォーマンスの影響します。

このシステム値を有効にするためには、IPLが必要な場合があります。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム値」トピックを参照してください。

- 0はプロセッサ・マルチタスキングがオフにされることを意味します。
- 1はプロセッサ・マルチタスキングがオンラインにされることを意味します。
- 2はプロセッサ・マルチタスキングがシステム制御下にあることを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「論理区画」トピックを参照してください。

QPRTDEV

省略時の印刷装置記述。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QPRTKEYFMT

ページ印刷キー形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *PRTHDRは、ページ印刷キーが押された時に見出し情報が印刷されることを意味します。
- *PRTBDRは、ページ印刷キーが押された時に枠情報が印刷されることを意味します。
- *PRTALLは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されることを意味します。
- *NONEは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されないことを意味します。

QPRTTXT

リストおよび分離ページの最後に印刷できる最大30文字のテキスト。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QPWDCHGBLK

パスワードの変更操作が成功した後に、続けてパスワードを変更できないようにブロックする時間枠を指定します。このシステム値は、ユーザー・プロファイルの変更(CHGUSRPRF)コマンドによるパスワードの変更は制限しません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEは、ユーザーのパスワードの変更の頻度に制限がないことを意味します。
- 1から99は、前回のパスワードの変更操作の成功後、再度パスワードが変更可能になるまで待たなければならない時間数を表します。

QPWDEXPITV

パスワードが有効な日数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOMAXは、パスワードを使用できる日数に制限がないことを意味します。
- 1から366はパスワードが終了する前の日数を意味します。

QPWDEXPWRN

パスワード期限切れの前に、サインオン画面にパスワード期限切れの警告メッセージを表示し始める日数を制御します。

- 1から99は、パスワード期限切れの前に、サインオン画面にパスワード期限切れの警告メッセージを表示し始める日数を表します。

QPWDLMTAJC

パスワードに隣接した番号を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は隣接番号が使用できることを意味します。
- 1は隣接番号が使用できないことを意味します。

注: QPWDRULESシステム値に*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

QPWDLMTCHR

パスワードにある種の文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- *NONEは制限文字がないことを意味します。
- 制限文字は、10文字以内の制限文字をアポストロフィで囲んで指定できることを意味します。有効な文字は次の通りです。AからZ, 0から9,および特殊文字#, ¥, @,または下線()。

注：システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、このシステム値は無視されます。

注：QPWDRULESシステム値に*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

QPWDLMTREP

パスワードに繰り返し文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は文字を複数回使用できることを意味します。
- 1は文字を複数回使用できないことを意味します。
- 2は文字を連続して使用できないことを意味します。

注：QPWDRULESシステム値に*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

QPWDLVL

パスワード・レベルを指定します。

このシステム値の変更には、慎重な考慮が必要です。システムがネットワーク内の他のシステムに接続される場合には、すべてのシステムが、有効になるパスワード規則で実行できなければなりません。

このシステム値を変更する前に、追加の考慮事項について、資料System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

このシステム値に対する変更は、次のIPL時に有効になります。

- 0は、1から10文字のパスワードが使用できることを意味します。
- 1は、1から10文字のパスワードが使用できることを意味します。Windows 95/98/MEクライアント用のi5/OS NetServerパスワードは除去され、プロダクトが使用できなくなります。
- 2は、1から128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。
- 3は、1から128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。Windows 95/98/MEクライアント用のi5/OS NetServerパスワードは除去され、プロダクトが使用できなくなります。

QPWDMAXLEN

パスワードの最大文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1から128は、1から128の値をパスワードの最大文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

注：QPWDRULESシステム値に*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

QPWDMINLEN

パスワードの最小文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1から128は、1から128の値をパスワードの最小文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

注: QPWDRULESシステム値に*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

QPWDPOSDIF

新しいパスワードの中の文字の位置を制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できることを意味します。
- 1は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できないことを意味します。

注: QPWDRULESシステム値に*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

QPWDRQDDGT

新しいパスワードに数字が必要。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は番号が必要でないことを意味します。
- 1は1つまたは複数の数字が必要であることを意味します。

注: QPWDRULESシステム値に*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合は、新しいパスワードの形式が正しいか検査される時に、このシステム値は無視されます。さらに、QPWDRULESが*PWDSYSVAL以外の値の場合、このシステム値は変更できません。

QPWDRQDDIF

パスワードが前のパスワードと異なるものでなければならぬかを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0はパスワードは前に使用されたものと同じでもよいことを意味します。
- 1はパスワードが前の32個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 2はパスワードが前の24個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 3はパスワードが前の18個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 4はパスワードが前の12個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 5はパスワードが前の10個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 6はパスワードが前の8個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 7はパスワードが前の6個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 8はパスワードが前の4個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。

QPWDRULES

パスワードが正しい形式になっているかどうかを検査するために使用する規則を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- *PWDSYSVAL -このシステム値は無視され、パスワードが正しい形式になっているかどうかを検査するために、他のパスワードシステム値が使用されます。特に、QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDIF,および QPWDRQDDGTシステム値がQPWDRULESの代わりに使用されます。

注: QPWDRULESに*PWDSYSVAL以外の値が指定された場合には、新しいパスワードが正しい形式になっているかどうか検査される時に、QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDIF, およびQPWDRQDDGTシステム値は無視されます。

- *CHRLMTAJC -パスワードに、互いに隣接（連続）した2つ以上の同じ文字は使用できません。また、*CHRLMTREP値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。
- *CHRLMTREP -パスワードに、同じ文字を2回以上使用できません。また、*CHRLMTAJC値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。
- *DGTLMTAJC -パスワードに、隣接（連続）した2つ以上の数字は使用できません。
- *DGTLMTFST -パスワードの先頭文字に数字は使用できません。また、*LTRLMTFSTおよび*SPCCHRLMTFST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。
- *DGTLMTLST -パスワードの最後の文字に数字は使用できません。また、*LTRLMTLSTおよび*SPCCHRLMTLST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。
- *DGTMAXn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用できる数字の最大文字数を指定します。

指定できる*DGTMAXn値は1つだけです。*DGTMINn値も指定された場合は、*DGTMAXnのn値は*DGTMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- *DGTMINn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用しなければならない数字の最小文字数を指定します。

指定できる*DGTMINn値は1つだけです。*DGTMAXn値も指定された場合は、*DGTMAXnのn値は*DGTMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- *LMTSAMPOS -前のパスワードの同じ位置に対応する位置に同じ文字を使用することはできません。
- *LMTPRFNAME -大文字のパスワード値には、連続した位置に完全なユーザー・プロファイル名を含めることはできません。
- *LTRLMTAJC -パスワードに、隣接（連続）した2つ以上の英字は使用できません。
- *LTRLMTFST -パスワードの先頭文字に英字は使用できません。また、*DGTLMTFSTおよび*SPCCHRLMTFST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合は、*LTRLMTFSTおよび*SPCCHRLMTFSTの両方は指定できません。
- *LTRLMTLST -パスワードの最後の文字に英字は使用できません。また、*DGTLMTLSTおよび*SPCCHRLMTLST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。
- *LTRMAXn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用できる英字の最大文字数を指定します。

指定できる*LTRMAXn値は1つだけです。*LTRMINn値も指定された場合は、*LTRMAXnのn値は*LTRMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- *LTRMINn -ここでnは0から9の数です。パスワードに使用しなければならない英字の最小文字数を指定します。

指定できる*LTRMINn値は1つだけです。 *LTRMAXn値も指定された場合は、*LTRMAXnのn値は*LTRMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- *MAXLENnnn -ここでnnnは1から128の数(先行ゼロなし)です。パスワードの最大文字数。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

指定されたnnn値は、*MIXCASEn、*DGTMAXn、*LTRMAXn、*SPCCHRMAXn、先頭および最後の文字制約事項、および非隣接文字制約事項のすべてを許容するだけの大きさでなければなりません。

*MINLENnnn値も指定された場合は、*MAXLENnnnのnnn値は*MINLENnnnのnnn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

*MAXLENnnn値が指定されなかった場合は、システムがQPWDLVL値0または1で作動中の場合 *MAXLEN10の値と見なされ、システムがQPWDLVL値2また3で作動中の場合 *MAXLEN128の値と見なされます。

- *MINLENnnn -ここでnnnは1から128の数(先行ゼロなし)です。パスワードの最小文字数。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1から10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1から128です。

*MAXLENnnn値も指定された場合は、*MAXLENnnnのnnn値は*MINLENnnnのnnn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

*MINLENnnn値が指定されない場合は、*MINLEN1の値と見なされます。

- *MIXCASEn -ここでnは0から9の数です。パスワードには、少なくともn個の大文字およびn個の小文字が含まれていなければなりません。システムがQPWDLVL値0または1で作動中の場合は、大文字のパスワードが必要なため、この値は拒否されます。

指定できる*MIXCASEn値は1つだけです。

*LTRMAXn値が指定された場合は、*LTRMAXnに指定するn値は、*MIXCASEnに指定したn値の2倍より大きいか等しくなければなりません。

- *REQANY3 -パスワードには以下の4つの文字タイプの少なくとも3つを含んでいなければなりません。

- 英大文字
- 英小文字
- 数字
- 特殊文字

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合は、*REQANY3は、*DGTMIN1、*LTRMIN1、および*SPCCHRMIN1のすべてが指定されたのと同じ効果を持ちます。

- *SPCCHRLMTAJC -パスワードに、隣接（連続）した2つ以上の特殊文字は使用できません。
- *SPCCHRLMTFST -パスワードの先頭文字に特殊文字は使用できません。また、*DGTLMFST および*LTRLMTFST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。システムがQPWDLVL値0または1で作動中の場合は、*LTRLMTFSTおよび*SPCCHRLMTFSTの両方は指定できません。

- *SPCCHRLMTLST -パスワードの最後の文字に特殊文字は使用できません。 また、*DGTLMTLSTおよび*LTRLMTLST 値が指定された場合には、この値を指定することはできません。
- *SPCCHRMAXn -ここでnは0から9の数です。 パスワードに使用できる特殊文字の最大文字数を指定します。

指定できる*SPCCHRMAXn値は1つだけです。 *SPCCHRMINn値も指定された場合は、*SPCCHRMAXnのn値は*SPCCHRMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

- *SPCCHRMINn -ここでnは0から9の数です。 パスワードに使用しなければならない特殊文字の最小文字数を指定します。

指定できる*SPCCHRMINn値は1つだけです。 *SPCCHRMAXn値も指定された場合は、*SPCCHRMAXnのn値は*SPCCHRMINnのn値と同じかもしくはそれより大きくなければなりません。

QPWDVLDPGM

パスワード妥当性検査プログラムは、ユーザー作成プログラムがパスワードに対して追加の妥当性検査を行う機能を提供します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。詳細については、パスワード妥当性検査プログラムを参照してください。

QPWRDWNLMT

PWRDWN SYS *IMMEDに許される最大時間 (秒数)。これは、次のいずれかが行われた後で電源遮断の正常完了を待機するために使用される時間です。

- 終了方法 (OPTION)パラメーターに*IMMEDを指定したシステム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが入力された。
- 終了方法 (OPTION)パラメーターに*CNTRLDを指定したPWRDWN SYSコマンドが入力され、制御された終了遅延時間 (DELAY)パラメーターに指定された時間が終了した。

この値に対する変更は、PWRDWN SYSコマンドが入力された時に有効となります。

QPWRRSTIPL

電源復元後の自動初期プログラム・ロード(IPL)が可能になります。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- 0は電源復元後の自動IPLが行われなことを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。

区画に分割されたAS/400 7XXおよびISERIES 8XXサーバーでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画に分割されたESERVER I5サーバーおよびSystem iでは、このシステム値はサービス・プロセッサのADVANCED SYSTEM MANAGEMENT (ASM)インターフェースから変更する必要があります。

区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「論理区画」トピックを参照してください。

QQRYDEGREE

QUERY並列処理の程度。この値は、システムのユーザーに使用可能な並列処理の程度を指定します。

- *NONEは、データベースQUERY処理またはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成で並列処理が使用可能でないことを意味します。
- *IOは、データベースQUERY最適化プログラムがQUERYに入出力並列処理を使用することを選択した時に、いくつでもタスクを使用できることを意味します。データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成時を含め、SMP並列処理は行うことができません。
- *OPTIMIZEは、QUERYあるいはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成を処理するためにQUERY最適化プログラムが入出力またはSMP並列処理のためにいくつでもタスクを選択して使用できることを示します。並列処理の使用および使用タスクの数は、ジョブの実行プールで使用可能なプロセッサの数、およびQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成の予想経過時間がCPU処理または入出力資源によって制限されるかどうかに基づいて決定されます。
- *MAXは、QUERY最適化プログラムがQUERYを処理するために入出力並列処理またはSMP並列処理のいずれかを使用するように選択できることを意味します。QUERY最適化プログラムによって行われる選択は、値*OPTIMIZEの場合と似ていますが、最適化プログラムはQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスのビルドまたは再ビルドを処理するためにプールで活動状態のすべてのメモリーを使用できるものと見なします。

QQRYSMTLMT

QUERY処理時間制限。

- *NOMAXは、最大QUERY間隔が使用されることを意味します。
- 0から2147352578は、QUERY処理に使用可能な秒数を示します。

QRCLSPLSTG

空のスプール・メンバーの自動削除は、メンバー保存間隔に基づいて許されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEは保存間隔がないことを意味します。

注: この値を使用すると、システム・パフォーマンスに悪い影響を及ぼすことがあります。詳細な情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ファイルおよびファイル・システム」カテゴリを参照してください。

- *NOMAXは空のメンバーがすべて保存されることを意味します。
- 1から366は、新しいスプール・ファイルの使用に備えて空のスプール・メンバーが保存される日数を意味します。

QRETSVRSEC

サーバー機密保護データ保存標識。この値は、クライアント/サーバー・インターフェースを介してターゲット・システムのユーザーを認証するためにサーバーが必要とする機密保護データがこのシステムに保存できるかどうかを決定します。

- 0は、サーバー機密保護データが保存されないことを意味します。
- 1は、サーバー機密保護データが保存されることを意味します。

QRMTSRVATR

リモート・サービス属性。QRMTSRVATRシステム値は、リモート・サービス問題分析機能を制御します。この値により、システムをリモート分析することができます。

- 0は、リモート・サービス属性がオフであることを意味します。
- 1は、リモート・サービス属性がオンであることを意味します。

QRMTIPL

リモート電源オンおよびIPL標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はリモート電源オンおよびIPLが許されないことを意味します。
- 1はリモート電源オンおよびIPLが許されることを意味します。

注: 電話呼び出しを行うとシステムのIPLが行われます。

区画に分割されたAS/400 7XXおよびISERIES 8XXサーバーでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画に分割されたESERVER I5サーバーおよびSystem iでは、このシステム値はサービス・プロセッサのADVANCED SYSTEM MANAGEMENT (ASM)インターフェースから変更する必要があります。

区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「論理区画」トピックを参照してください。

QRMTSIGN

リモート・サインオンを制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *FRCSIGNONは通常のサインオンが必要なことを意味します。
- *SAMEPRFは、ソース・ユーザー・プロファイルとターゲット・ユーザー・プロファイルが同じ時には、リモート・サインオンが試みられるようにサインオンをう回できることを意味します。
- *REJECTはリモート・サインオンが許されないことを意味します。
- *VERIFYは、システムが、ユーザーがシステムにアクセスできることを確認した後で、ユーザーがサインオンをう回できるようにすることを意味します。
- プログラムは、どのリモート・セッションが許され、どのロケーションからどのユーザー・プロファイルに自動的にサインオンできるかどうかを決定するプログラムを指定できることを意味します。

QSAVACPTH

アクセス・パスの保管。このシステム値に対して行った変更は、次の保管操作の開始時に有効となります。

- 0は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスは保管しないことを意味します。
- 1は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管することを意味します。

QSCANFS

ファイル・システムのスキャン。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、オブジェクトがスキャンされる統合ファイル・システムを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンを参照してください。

QSCANFCTL

ファイル・システムのスキャンの制御。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、システム上の統合ファイル・システムのスキャンを制御します。これらの制御は、QSCANFS（ファイル・システムのスキャン）システム値によって取り扱われるファイル・システム内の統合ファイル・システム・オブジェクトに適用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンの制御を参照してください。

QSCPFCONS

コンソールに問題のある場合のIPL処置。このシステム値に対して行われた変更は次のIPLの前に有効となります。

- 0はシステム終了を意味します。
- 1は不在時IPLの続行を意味します。

QSECOND

秒。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QSECURITY

システム機密保護レベル。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

- 20はシステムがサインオンにパスワードを必要とすることを意味します。
- 30はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。すべてのシステム資源にアクセスできる権限が必要です。
- 40はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。サポートされていないインターフェースを介してオブジェクトにアクセスしようとするプログラムは、正常に実行されません。
- 50は、システムがサインオンにパスワードを必要とし、ユーザーはオブジェクトおよびシステム資源にアクセスできる権限を持っていないなければならないことを意味します。QTEMPライブラリーおよびユーザー・ドメイン・オブジェクトの機密保護と安全性が強制されます。サポートされていないインターフェースを通してオブジェクトにアクセスを試みるプログラムや、サポートされていないパラメータ値をサポートされているインターフェースに渡そうとするプログラムは、正常に実行されません。

QSFWERRLOG

ソフトウェア・エラー・ログ。システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *LOGは、ソフトウェア・エラーがシステムによって検出されると、エラーを無条件に記録する必要があるかどうか、またはエラーを記録する決定をサービス・モニターに基づいてポリシーに据え置きする必要があるかどうか判別するために、エラーが評価されることを意味します。

エラーが無条件に記録される場合は、PARABLE（問題の分析と解決）メッセージがQSYSOPRに送信され、項目が問題ログに作成されます。報告書作成構成要素がエラー・データを提供する場合は、そのデータを入れるためにスプール・ファイルが作成されます。そのスプール・ファイル名は、エラー・ログおよび問題ログの項目に記憶されます。

エラーが条件付きで記録される場合は、エラーを記録する決定はサービス・モニターに基づいてポリシーによって行われます。決定が問題を記録することである場合は、項目は問題ログに作成されます。問題データは問題データ・ライブラリーに保管され、問題記録項目はライブラリーの名前で更新されます。

- *NOLOGは、ソフトウェア・エラーが検出された場合にロギングが起これないことを意味します。

QSHRMEMCTL

共用メモリー制御。ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できるか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できないか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できないことを意味します。
- 1は、ユーザーがユーザー共用メモリー、または書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できることを意味します。

QSPCENV

特殊環境。すべてのユーザーについて省略時の値として使用されるシステム環境。このシステム値に対して行われた変更は、次回にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- *NONEは、サインオンした時に特殊環境に入らないことを意味します。
- *S36は、サインオンするとシステム/36環境に入ることを意味します。

QSPLFACN

スプール・ファイル処置。スプール・ファイルがジョブとともに保持されるか、あるいはジョブから切り離されるかを指定します。スプール・ファイルをジョブで保持すると、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB)コマンドなどのジョブ・コマンドによってスプール・ファイルを処理することができます。スプール・ファイルをジョブから切り離すと、ジョブ終了時にジョブ構造を再生できるので、システム資源の使用が削減されます。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。出荷時の値は*KEEPです。

- *KEEPは、ジョブの終了時に、そのジョブについて少なくとも1つのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP番号1)または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に存在している限り、スプール・ファイルはジョブで保持され、ジョブが完了したことを示すようにそのジョブの状況が更新されることを意味します。そのジョブの残りのすべてのスプール・ファイルが独立ASP (ASP番号33から255)にあった場合には、スプール・ファイルがジョブから切り離され、そのジョブはシステムから除去されます。
- *DETACHは、ジョブの終了時にスプール・ファイルがジョブから切り離されることを意味します。

QSRLNBR

システム製造番号。この値は変更できません。これは、オペレーティング・システム・ライセンス・プログラムの導入時に、システムによってデータ・フィールドから検索されます。QSRLNBRを表示するか、あるいはユーザー作成プログラム中でこの値を検索することができます。システム製造番号はシステム上の各区画で同じです。

QSRTSEQ

分類順序。このシステム値は、システムが使用する省略時の分類順序アルゴリズムを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QSRVDMP

保守ダンプ。監視されないエスケープ・メッセージの保守ダンプが作成されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *DMPUSRJOBは、保守ダンプがシステム・ジョブではなくユーザー・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。
- *DMPSYSJOBは、保守ダンプがユーザー・ジョブではなくシステム・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。システム・ジョブには、オペレーティング・システム、サブシステム・モニター、LUサービス・プロセス、スプール読み取りプログラムおよび書き出しプログラム、それにSCPFジョブがあります。
- *DMPALLJOBは、すべてのジョブについて保守ダンプが作成されることを意味します。

- *NONEは、保守ダンプが作成されないことを意味します。

QSSLCSL

Secure Sockets Layer (SSL)暗号規格のリストです。このシステム値は、System SSLがサポートする暗号スイートのリストを指定します。値は、QSSLCSLCTL (SSL暗号制御) システム値が*USRDFNに設定されない限り、読み取り専用です。

System SSLおよびSSL暗号の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の機密保護参照情報の「SSL」セクションを参照してください。

このシステム値に対する変更は、すべての後続するSystem SSLセッションについてただちに効力をもたらします。出荷時の値は、*RSA_AES_128_CBC_SHA, *RSA_RC4_128_SHA,

*RSA_RC4_128_MD5, *RSA_AES_256_CBC_SHA, *RSA_3DES_EDE_CBC_SHA, *RSA_DES_CBC_SHA, *RSA_EXPORT_RC4_40_MD5, *RSA_EXPORT_RC2_CBC_40_MD5, *RSA_NULL_SHA,および*RSA_NULL_MD5です。

注: このシステム値を変更するためには、*IOSYSCFG, *ALLOBJ, および*SECADM特殊権限が必要です。

暗号スイートに必要なSSLプロトコル値がQSSLPCL (SSLプロトコル・リスト) システム値に設定されていない場合は、暗号はQSSLCSLに追加できません。

- *RSA_AES_128_CBC_SHA - cipher block changing (CBC)による次世代暗号化標準(AES)暗号および128ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- *RSA_RC4_128_SHA - Rivest Cipher 4 (RC4)暗号および128ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- *RSA_RC4_128_MD5 - Rivest Cipher 4 (RC4)暗号および128ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- *RSA_AES_256_CBC_SHA - cipher block changing (CBC)による次世代暗号化標準(AES)暗号および256ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- *RSA_3DES_EDE_CBC_SHA - Encrypt-Decrypt-Encrypt (EDE)によるTriple Data Encryption Standard (3DES)暗号およびcipher block changing (CBC)モードおよび168ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- *RSA_DES_CBC_SHA - cipher block changing (CBC)モードによるデータ暗号化規格(DES)暗号および56ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。
- *RSA_EXPORT_RC2_CBC_40_MD5 - cipher block changing (CBC)モードによるRivest Cipher 2 (RC2)暗号および40ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- *RSA_EXPORT_RC4_40_MD5 - Rivest Cipher 4 (RC4)暗号および40ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- *RSA_NULL_SHA - RSAエンコード・アルゴリズムを使用しますが、暗号は使用しません。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、Secure Hash Algorithm (SHA)を使用します。

- *RSA_NULL_MD5 - RSAエンコード・アルゴリズムを使用しますが、暗号は使用しません。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- *RSA_RC2_CBC_128_MD5 - cipher block changing (CBC)モードによるRivest Cipher 2 (RC2)暗号および128ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- *RSA_3DES_EDE_CBC_MD5 - Encrypt-Decrypt-Encrypt (EDE)によるTriple Data Encryption Standard (3DES)暗号およびcipher block changing (CBC)モードおよび168ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。
- *RSA_DES_CBC_MD5 - cipher block changing (CBC)モードによるデータ暗号化規格(DES)暗号および56ビット・キーにRSAエンコード・アルゴリズムを使用します。メッセージ認証コード(MAC)の生成に、メッセージ要約アルゴリズム5 (MD5)を使用します。

注: System SSL省略時の暗号規格リストを順序付けするために、System SSLはQSSLCSLの値の順序を使用します。省略時の暗号規格リスト項目はシステムで定義されていて、リリースを変更するときに変更可能です。QSSLCSLから省略時値の暗号を除去すると、その暗号は省略時値のリストから除去されます。その省略時値の暗号は、QSSLCSLに追加して戻されると、省略時値の暗号規格リストに追加されて戻されます。リリース用にシステムが定義した設定以外の、別の暗号を省略時値のリストに追加することはできません。

QSSLCSLCTL

Secure Sockets Layer (SSL)暗号制御。このシステム値は、QSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値をシステムが制御するかしないかあるいはユーザーが制御するかしないかを指定します。

System SSLおよびSSL暗号の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の機密保護参照情報の「SSL」セクションを参照してください。

このシステム値に対して行った変更はただちに有効となります。出荷時の値は*OPSYS です。

注: このシステム値を変更するためには、*IOSYSCFG, *ALLOBJ, および*SECADM特殊権限が必要です。

- *OPSYS - QSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値は読み取り専用です。QSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値に含まれる値は、オペレーティング・システム・リリースによって決定された、サポートされる暗号スイートのリストを含むように、自動的に変更されます。

注: *OPSYSは、新しい暗号スイート機能を持つ将来のリリースをインストールする時に、この値が、より新しくして堅固な暗号で自動的に更新されることを許可します。

- *USRDFN - QSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値は更新可能です。

注: 追加の暗号スイート機能は、将来のリリースに移行する時に、自動的に追加されません。新しい使用可能な暗号スイートがあるかどうかをユーザーが判断し、それをQSSLCSL (SSL暗号規格リスト) システム値に手動で追加しなければなりません。

QSSLPCL

Secure Sockets Layer (SSL)プロトコル。このシステム値は、System SSLがサポートするSSLプロトコル・バージョンを指定します。

System SSLおよびSSLプロトコルの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の機密保護参照情報の「SSL」セクションを参照してください。

このシステム値に対する変更は、すべての後続するSystem SSLセッションについてただちに効力を持ちます。出荷時の値は*OPSYS です。

注: このシステム値を変更するためには、*IOSYSCFG、*ALLOBJ、および*SECADM特殊権限が必要です。

- *OPSYS -サポートされるSSLプロトコルはシステムによって判断されます。プロトコルは各オペレーティング・システムのリリースによって違う可能性があります。ユーザーのリリースによってサポートされている値については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の機密保護参照情報の「SSL」セクションを参照してください。
- *TLSV1 -トランスポート層機密保護バージョン1.0がサポートされます。また、*OPSYS値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。
- *SSLV3 - Secure Sockets Layerバージョン3.0がサポートされます。また、*OPSYS値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。
- *SSLV2 - Secure Sockets Layerバージョン2.0がサポートされます。また、*OPSYS値が指定されている場合には、この値を指定することはできません。

QSTGLOWACN

補助記憶域の下限の処置。システムASP中の使用可能な記憶域が補助記憶域の下限より低くなった場合にとるべき処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*MSGです。

- *MSG: メッセージCPI099CをQSYSMSGおよびQSYSOPRメッセージ待ち行列に送ります。このメッセージは、他の処置の場合にも送られます。
- *CRITMSG: 重大メッセージCPI099Bを、重大メッセージを受け取るためにサービス属性に指定されたユーザーに送ります。
- *REGFAC: QIBM_QWC_QSTGLOWACN出口点用に登録された出口プログラムを呼び出すためにジョブを投入します。
- *ENDSYS: システムを終了して制限状態にします。
- *PWRDWN SYS: システムの電源を即時に遮断して、再始動します。

QSTGLOWLMT

補助記憶域の下限。補助記憶域の下限の処置がとられる時にシステムASP中に残されている使用可能な記憶域のパーセントを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は5.0です。

- 下限: QSTGLOWACNに指定された処置がとられる時にシステムASP内に残っている使用可能な記憶域のパーセント。システムASP内で現在使用されている記憶域のパーセントは、システム状況処理 (WRKSYSSTS)コマンドによって表示することができます。

QSTRPRTWTR

初期プログラム・ロード(IPL)時における印刷書き出しプログラムの開始。このシステム値は、IPL時にシステムによって設定されるか、あるいはIPLオプション画面でユーザーによって設定されます。このシステム値は、システム値変更 (CHGSYSVAL)コマンドを使用して変更することはできません。

- 0は印刷書き出しプログラムが開始されなかったことを意味します。
- 1は印刷書き出しプログラムが開始されたことを意味します。

QSTRUPPGM

制御サブシステム中の自動始動ジョブからの始動プログラム名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QSTSMMSG

状況メッセージが表示されるかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- *NORMALは状況メッセージが表示されることを意味します。
- *NONEは状況メッセージが表示されないことを意味します。

QSVRAUTIV

サーバー認証間隔。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QSYSLIBL

ライブラリー・リストのシステム部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QTHDRSCADJ

スレッド資源の調整。このシステム値は、このシステムで現在実行中のスレッドの特定のプロセッサおよびメモリーに対する類縁性または設定をシステム動的に調整する必要があるかどうかを指定します。一部の資源が他の資源より多く使用されている場合に、システムは、より多く使用されている資源で実行中のスレッドの一部を再割り当てして、さほど多く使用されていない資源への類縁性を持たせることができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は'1'です。

- '0'はシステムによるスレッドの自動調整は行われなことを意味します。スレッドは、それらが終了するかまたはシステム値が変更されるまで、現在割り当てられている資源への類縁性を持ち続けます。
- '1'は、スレッドのシステムの資源への類縁性の調整が動的に行われることを意味します。これによって、スレッド内の類縁性のグループおよびレベルが変更されることはありません。

QTHDRSCAFN

スレッド資源の類縁性。特定のプロセッサおよびメモリーへのスレッドの類縁性または設定。このシステム値に対して行われた変更は、変更の後に開始されたジョブのスレッドには即時に有効となりますが、現在実行中のスレッドには効力を持ちません。

- *NOGROUP - 2次スレッドには、必ずしもその開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性はありません。
- *GROUP - 2次スレッドは、その開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性を持ちます。

スレッド資源の類縁性レベルは、次の値に設定することができます。

- *NORMAL -スレッドは、それが類縁性を持つ資源が容易に使用可能でなくなった場合に、任意のプロセッサまたはメモリーを使用します。
- *HIGH -スレッドは、それが類縁性を持つ資源のみを使用し、必要な場合は、それらの資源が使用可能になるまで待機します。

QTIMADJ

時間調整。このシステム値は、システム・クロックが外部時間ソースと同期を保つように調整するソフトウェアを識別するために使用することができます。この値は、時間調整ソフトウェアによって保守する必要があり、複数の時間調整アプリケーションが相互に競合するのを防ぐ援助機能として意図されたものです。この値の確認、あるいはそのソフトウェアが時間調整を実行するかどうかを確認するための検査は、システムによって行われません。IBM時間調整オフリングは、「QIBM_OS400_Sntp」のように、QIBMで始まるIDを使用します。その他のソフトウェア提供者も、会社名および製品名と類似の命名規則に従っているはずで

時間調整ソフトウェアは、開始前にQTIMADJを検査する必要があります。 QTIMADJが他の時間調整ソフトウェアのIDをもっている場合には、開始されているソフトウェアは、必ずこの潜在的な競合をユーザーに通知してくるので、この時間調整ソフトウェアを開始する必要があるかどうかを確認してください。 QTIMADJが*NONEの時は、ソフトウェアは現在システム・クロックを調整する責任があることを示すためにQTIMADJを更新しなければなりません。 時間調整ソフトウェアは、終了前にQTIMADJを再検査する必要があります。 QTIMADJを*NONEに設定するのは、現行値が終了中のこの時間調整ソフトウェアを識別する場合だけにしてください。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。 出荷時の値は*NONEです。

- *NONE -時間調整ソフトウェアは識別されていないことを指示します。
- ID -システム・クロックの調整に使用されるソフトウェアを識別します。

QTIME

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QTIMSEP

時刻区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

この値は、時刻区切り記号として*SYSVALが指定されたジョブに影響します。 コマンドに時刻を指定する時には、ユーザーは、自分のジョブに指定された時刻区切り記号を使用するか、あるいは時刻区切り記号を使用しないか、このどちらかにしなければなりません。 ジョブの時刻区切り記号と異なる時刻区切り記号を使用してコマンドに時刻を指定した場合には、そのコマンドは正常に実行されません。

QTIMZON

時間帯。これは、ローカル・システム時間を計算するために使用される時間帯記述の名前を指定します。別の時間帯へ記述の変更は、この新規時間帯記述と関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。別のオフセットは、ローカル・システム時間 (システム値QTIME)を変更する原因となる場合があります。さらに、システム値QUTCOFFSETはこの新規オフセットと一致するように変更されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QTOTJOB

記憶域を割り振らなければならないジョブの合計数。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時にジョブ・テーブルが再構築された時に有効となります。

QTSEPOOL

対話式ジョブがタイム・スライスの終わりに達した時にその対話式ジョブを別の主記憶域プールに移動するかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

- *NONEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されないことを意味します。
- *BASEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されることを意味します。

QUPSDLYTIM

補助電源機構の遅延時間。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- *BASICおよび*CALCは、遅延時間としての特殊値をライセンス内部コード(LIC)が割り当てる原因になります。
- *NOMAXは、システムが自分からいかなる処置も開始しないことを意味します。
- 0は、システム通常電源に障害が起こった時にシステムが自動的に電源遮断することを意味します。
- 1から99999は、システムが電源遮断する前の遅延時間 (秒数) を指定することを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。

区画の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「論理区画」トピックを参照してください。

QUPSMMSGQ

補助電源機構メッセージのメッセージ待ち行列。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

QUSEADPAUT

借用権限の使用(USEADPAUT(*YES))属性によってプログラムおよびサービス・プログラムを作成、変更、および更新できるユーザーを定義します。プログラムまたはサービス・プログラムが*YESの借用権限の使用属性を持っている場合には、そのプログラム/サービス・プログラムは、呼び出しスタック中の高位のプログラム/サービス・プログラムから渡されるどの借用権限でも使用することができます。

このシステム値は次のものには影響しません。

- USEADPAUT(*YES)属性で作成された既存のプログラム/サービス・プログラム。既存のプログラム/サービス・プログラムをUSEADPAUT(*NO)に変更しなければならないかどうかは、ユーザーが決定しなければなりません。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの復元。こうしたプログラムは、ユーザーのシステムには復元することができます。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの複製。既存のプログラム/サービス・プログラムのUSEADPAUT属性が新しいオブジェクトにコピーされます。

次の値を指定することができます。

- *NONEは、借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるユーザーに制限がないことを意味します。どのユーザーでもUSEADPAUT(*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新することができます。
- 「名前」は、USEADPAUT(*YES)属性を設定できるユーザーを制御する権限リストの名前を指定できることを意味します。USEADPAUT(*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるようになるためには、ユーザーは権限リストに対する*USE権限を必要とします。権限リストに対する権限は、借用権限から取ることはできません。すなわち、権限を借用するプログラムを実行している場合には、権限リストに対する権限を検査する時には、借用権限は使用されません。

QUSRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効になります。

QUTCOFFSET

現在のシステム時刻と協定世界時(UTC)のオフセットである時間数(24時間形式) および分数を示します。

- +HHMMは、現在のシステム時刻がUTCよりHH時間MM分進んでいることを意味します。
- -HHMMは、現在のシステム時刻がUTCにHH時間MM分遅れていることを意味します。

注: このシステム値は、システム値QTIMZONに指定された時間帯記述と関連したオフセットと同じでなければなりません。QTIMZONの別の時間帯記述への変更は、関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。システム値QUTCOFFSETは、この新規オフセットとも一致するように変更されます。QUTCOFFSETは、現在QTIMZONと関連しているオフセットと異なる値に変更することはできません。それを行おうとすると、診断メッセージCPD1687が出されます。

QVFIYOBJRST

復元時のオブジェクトの検査。このシステム値は、復元操作中のオブジェクト署名の検査に使用されるポリシーを指定します。この値は、オブジェクト・タイプ*CMD, *PGM, *SRVPGM, *SQLPKG,および*MODULEに適用されます。また、JAVAプログラムが入る*STMFオブジェクトにも適用されます。この値は、また、ライセンス内部コードの修正を含むシステムにPTFを適用するポリシーも指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、復元時のオブジェクトの検査を参照してください。

QYEAR

年。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

上

戻された値のCL変数 (RTNVAR)

戻されるシステム値の値を受け取るCLプログラム変数の名前を指定します。CL変数が宣言された時のタイプおよび長さ、受け取られるシステム値のタイプおよび長さに互換性がなければなりません。個別のシステム値の属性は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。で説明されています。

一般的に、戻り変数のタイプはシステム値のタイプと一致していなければなりません。1桁の長さである文字システム値の場合には、CL変数は文字変数または論理変数とすることができます。文字および論理システム値の場合には、CL変数の長さはシステム値の長さと同じでなければなりません。10進数システム値の場合には、CL変数の長さはシステム値の長さより大きいか等しくなければなりません。

次の表は、各システム値のタイプおよび長さを示したものです。

システム値タイプ 長さ

システム値	タイプ	長さ
QABNORMSW	文字	1
QACGLVL	文字	80
QACTJOB	10進数	(5 0)
QADLACTJ	10進数	(5 0)
QADLSPLA	10進数	(5 0)
QADLTOTJ	10進数	(5 0)
QALWJOBITP	文字	1
QALWBJRST	文字	150
QALWUSRDMN	文字	500
QASTLVL	文字	10
QATNPGM	文字	20
QAUDCTL	文字	50
QAUDENDACN	文字	10
QAUDFRCLVL	10進数	(5 0)
QAUDLVL	文字	160
QAUDLVL2	文字	990
QAUTOCFG	文字	1
QAUTORMT	文字	1
QAUTOSPRPT	文字	1
QAUTOVRT	10進数	(5 0)
QBASACTLVL	10進数	(5 0)
QBASPOOL	10進数	(10 0)
QBOOKPATH	文字	(315)
QCCSID	10進数	(5 0)
QCENTURY	文字	1
QCFMSGQ	文字	20
QCHRID	文字	20
QCHRIDCTL	文字	10
QCMNARB	文字	10

QCMNRCYLMT	文字	20
QCNTYID	文字	2
QCONSOLE	文字	10
QCRTAUT	文字	10
QCRTOBJAUD	文字	10
QCTLSBSD	文字	20
QCURSYM	文字	1
QDATE	文字	5 (年間通算日の場合) または6
QDATETIME	文字	20
QDATFMT	文字	3
QDATSEP	文字	1
QDAY	文字	2または3 (年間通算日の場合)
QDAYOFWEEK	文字	4
QDBFSTCCOL	文字	10
QDBRCVYWT	文字	1
QDECFMT	文字	1
QDEVNAMING	文字	10
QDEVRCYACN	文字	20
QDSCJOBITV	文字	10
QDSPSGNINF	文字	1
QDYNPTYADJ	文字	1
QDYNPTYSCD	文字	1
QENDJOBLMT	10進数	(5 0)
QFRCCVNRST	文字	1
QHOUR	文字	2
QHSTLOGSIZ	10進数	(8 0)
QIGC	文字	1
QIGCCDEFNT	文字	20
QIGCFNTSIZ	10進数	(4 1)
QINACTITV	文字	10
QINACTMSGQ	文字	20
QIPLDATTIM	文字	20
QIPLSTS	文字	1
QIPLTYPE	文字	1
QJOBMSGQFL	文字	10
QJOBMSGQMX	10進数	(5 0)
QJOBMSGQSZ	10進数	(5 0)
QJOBMSGQTL	10進数	(5 0)
QJOBSPLA	10進数	(5 0)
QKBDBUF	文字	10
QKBDTYPE	文字	3
QLANGID	文字	3
QLEAPADJ	10進数	(5 0)
QLIBLCKLVL	文字	1
QLMTDEVSSN	文字	1
QLMTSECOFR	文字	1
QLOCALE	文字	1024
QLOGOUTPUT	文字	10
QMAXACTLVL	10進数	(5 0)
QMAXJOB	10進数	(10 0)
QMAXSGNACN	文字	1
QMAXSIGN	文字	6
QMAXSPLF	10進数	(10 0)
QMCHPOOL	10進数	(10 0)
QMINUTE	文字	2
QMLTTHDACN	文字	1
QMODEL	文字	4
QMONTH	文字	2
QPASTHRSVR	文字	10
QPFRAJ	文字	1
QPRBFTR	文字	20

QPRBLDITV	10進数	(5 0)
QPRCFEAT	文字	4
QPRCMLTTSK	文字	1
QPRTDEV	文字	10
QPRTKEYFMT	文字	10
QPRTTXX	文字	30
QPWDCHGBLK	文字	10
QPWDEXPITV	文字	6
QPWDEXPWRN	10進数	(5 0)
QPWDLMTAJC	文字	1
QPWDLMTCHR	文字	10
QPWDLMTREP	文字	1
QPWDLVL	10進数	(5 0)
QPWDMAXLEN	10進数	(5 0)
QPWDMINLEN	10進数	(5 0)
QPWDPOSDIF	文字	1
QPWDRQDDGT	文字	1
QPWDRQDDIF	文字	1
QPWDRULES	文字	750
QPWDVLDPGM	文字	20
QPWRDWNLMT	10進数	(5 0)
QPWRRSTIPL	文字	1
QQRVDEGREE	文字	10
QQRVTIMLMT	文字	10
QRCLSPLSTG	文字	10
QRETSVRSEC	文字	1
QRMTIPL	文字	1
QRMTSRVATR	文字	1
QRMTSIGN	文字	20
QSAVACCPH	文字	1
QSCANFS	文字	200
QSCANFCTL	文字	200
QSCPFCONS	文字	1
QSECOND	文字	2
QSECURITY	文字	2
QSETJOBATR	文字	160
QSFWERRLOG	文字	10
QSHMEMCTL	文字	1
QSPCENV	文字	10
QSPLFACN	文字	10
QSRNBR	文字	8
QSRSEQ	文字	20
QSRVDMP	文字	10
QSSLCSL	文字	1280
QSSLCSLCTL	文字	10
QSSLPCL	文字	100
QSTGLOWACN	文字	10
QSTGLOWLMT	10進数	(7 4)
QSTRPRTWTR	文字	1
QSTRUPPGM	文字	20
QSTMSG	文字	10
QSVRAUTITV	10進数	(6 0)
QSYSLIBL	文字	150
QTHDRSCADJ	文字	1
QTHDRSCAFN	文字	20
QTIMADJ	文字	30
QTIME	文字	6, 7, 8, または9 (秒, 1/10秒, 1/100秒, 1/1000秒)
QTIMSEP	文字	1
QTIMZON	文字	10
QTOTJOB	10進数	(5 0)
QTSEPOOL	文字	10

QUPSDLYTIM	文字	20
QUPSMGQ	文字	20
QUSEADPAUT	文字	10
QUSRLIBL	文字	250
QUTCFFSET	文字	5
QVFYOBJRST	文字	1
QYEAR	文字	2

これは必須パラメーターです。

上

例

```
RTVSYVAL SYSVAL(QDATE) RTNVAR(&DATE)
```

このコマンドは、システム値QDATEから日付値を検索し、それをCL変数&DATEに入れます。CL変数は、QDATEシステム値の属性と一致するように6文字の変数として宣言されている必要があります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1028

パラメーターSYSVALには、&1は正しくない。

CPF1074

SYSVAL(QMONTH)が年間通算日形式に対して正しくない。

CPF1094

CL変数が、システム値&1と同じタイプではない。

CPF1095

システム値&1のCL変数の長さが正しくない。

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF268D

システム値&1をアクセスすることができない。

上

テーブル・ソースの検索 (RTVTBLSRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

*CVTまたは*SRTSEQテーブルのソースを検索するためには、テーブル・ソース検索(RTVTBLSRC)コマンドを使用します。このソース・ステートメントはソース・ファイル・メンバーに入れられ、CRTTBLコマンドによってテーブルを作成する時に、入力として使用することができます。さらにこのコマンドは、*SRTSEQテーブルのソースを*UCSSRTSEQテーブルを作成するために使用される形式に変換します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TBL	テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *TBL	オプション, 定位置 3
CVTTOUCS	UCS-2への変換	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

上

テーブル (TBL)

ソースが検索されるテーブルの修飾名を指定します。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

テーブル・ソースが書き込まれる作成済みのデータベース・ソース・ファイルの修飾名を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

テーブル・ソースが書き込まれるデータベース・ソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。指定されていない場合には、テーブル名と見なされます。このコマンドの実行前にメンバーが存在している場合には、それが消去されてからソース・ステートメントが書き込まれます。メンバーが存在しない場合には、それが作成されます。

考えられる値は、次の通りです。

***TBL** テーブルの名前がメンバー名として使用されます。

ソース・メンバー名

検索されたテーブル・ソースが入るソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

上

UCS-2への変換 (CVTTOUCS)

ファイルに入れる時に*SRTSEQテーブルのソースを*SRTSEQテーブルの形式から*UCSSRTSEQテーブルの形式に変換するかどうかを指定します。*UCSSRTSEQを作成したいが、既存の*SRTSEQテーブルに基づいて作成したい場合に、これを行うことができます。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 情報はファイルに入れられる時に変換されません。

***YES** 情報がファイルに入れられる時に変換されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
RTVTBLSRC  TBL(QSYS/TABLE1)  SRCFILE(TBLSRC)  SRCMBR(TABLEOUT)
            CVTTOUCS(*NO)
```


このコマンドは、ソース・ステートメントをライブラリーQSYSのTABLE1という名前のテーブルから検索します。検索されたソースは、TBLSRCという名前のファイルに入れられ、メンバーTABLEOUTとしての名前が付けられて、*UCSSRTSEQ形式には変換されません。

上

エラー・メッセージ

不明

上

ユーザー・プロファイル検索 (RTVUSRPRF)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル検索(RTVUSRPRF)コマンドは、記憶され、ユーザーと関連した1つまたは複数の値を見つけるために、制御言語(CL)プログラムまたはREXXプロシージャーで使用されます。値は、指定された変数に入れて所要のユーザーに戻されます。

このパラメーター・プロンプト・テキストには、検索したいパラメーターの横に変数の最小文字数がリストされています。文字変数の場合には、1つの数値が表示されます。10進変数の場合には、2つの数値が表示されます。最初の数は変数の最小の長さを示し、2番目の数は小数点以下の最小桁数を示します。

制約事項:

- USRPRFパラメーターに指定するユーザー・プロファイルには読み取り(*READ)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション, 定位置 1
RTNUSRPRF	RTNUSRPRFのCL変数 (10)	文字値	オプション
SPCAUT	SPCAUTのCL変数 (100)	文字値	オプション
MAXSTG	MAXSTGのCL変数 (11 0)	10 進数	オプション
STGUSED	STGUSEDのCL変数 (15 0)	10 進数	オプション
PTYLMT	PTYLMTのCL変数 (1)	文字値	オプション
INLPGM	INLPGMのCL変数 (10)	文字値	オプション
INLPGMLIB	INLPGMLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JOB	JOBのCL変数 (10)	文字値	オプション
JOBDLIB	JOBDLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
GRPPRF	GRPPRFのCL変数 (10)	文字値	オプション
OWNER	OWNERのCL変数 (10)	文字値	オプション
GRPAUT	GRPAUTのCL変数 (10)	文字値	オプション
ACGCDE	ACGCDEのCL変数 (15)	文字値	オプション
MSGQ	MSGQのCL変数 (10)	文字値	オプション
MSGQLIB	MSGQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQ	OUTQのCL変数 (10)	文字値	オプション
OUTQLIB	OUTQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
TEXT	TEXTのCL変数 (50)	文字値	オプション
PWDCHGDAT	PWDCHGDATのCL変数 (6)	文字値	オプション
USRCLS	USRCLSのCL変数 (10)	文字値	オプション
ASTLVL	ASTLVLのCL変数 (10)	文字値	オプション
SPCENV	SPCENVのCL変数 (10)	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CURLIB	CURLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
INLMNU	INLMNUのCL変数 (10)	文字値	オプション
INLMNULIB	INLMNULIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
LMTCPB	LMTCPBのCL変数 (10)	文字値	オプション
DLVRY	DLVRYのCL変数 (10)	文字値	オプション
SEV	SEVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプション
PRTDEV	PRTDEVのCL変数 (10)	文字値	オプション
ATNPGM	ATNPGMのCL変数 (10)	文字値	オプション
ATNPGMLIB	ATNPGMLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
USROPT	USROPTのCL変数 (240)	文字値	オプション
DSPSGNINF	DSPSGNINFのCL変数 (7)	文字値	オプション
PWDEXPITV	PWDEXPITVのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
PWDEXP	PWDEXPのCL変数 (4)	文字値	オプション
STATUS	STATUSのCL変数 (10)	文字値	オプション
PRVSIGN	PRVSIGNのCL変数 (13)	文字値	オプション
NOTVLDSIGN	NOTVLDSIGNのCL変数(11 0)	10 進数	オプション
LMTDEVSSN	LMTDEVSSNのCL変数 (7)	文字値	オプション
KBDBUF	KBDBUFのCL変数 (10)	文字値	オプション
LANGID	LANGIDのCL変数 (10)	文字値	オプション
CNTRYID	CNTRYIDのCL変数 (10)	文字値	オプション
CCSID	CCSIDのCL変数 (5 0)	10 進数	オプション
SRTSEQ	SRTSEQのCL変数 (10)	文字値	オプション
SRTSEQLIB	SRTSEQLIBのCL変数 (10)	文字値	オプション
OBJAUD	OBJAUDのCL変数 (10)	文字値	オプション
AUDLVL	AUDLVLのCL変数 (640)	文字値	オプション
GRPAUTYP	GRPAUTYPのCL変数 (10)	文字値	オプション
SUPGRPPRF	SUPGRPPRFのCL変数 (150)	文字値	オプション
UID	UIDのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション
GID	GIDのCL変数 (10 0)	10 進数	オプション
SETJOBATR	SETJOBATR CL変数 (160)	文字値	オプション
CHRIDCTL	CHRIDCTL用CL変数 (10)	文字値	オプション
LCLPDMGT	LCLPDMGTのCL変数 (10)	文字値	オプション
PWDCHGBLK	PWDCHGBLKのCL var (10)	文字値	オプション

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

情報を検索したいユーザー・プロファイルを指定します。変数を指定する場合には、10文字の長さでなければならず、ユーザー名または値*CURRENTを含めなければなりません。

*CURRENT

現在実行中のユーザー・プロファイルが使用されます。

名前 情報を検索したいユーザー・プロファイルの名前を指定します。

上

RTNUSRPRFのCL変数 (10) (RTNUSRPRF)

ユーザー・プロファイルの名前の検索に使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。ユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターに*CURRENTが指定されている場合には、戻される値は現在実行されているユーザー・プロファイル名です。名前が指定されている場合には、このパラメーターにその名前が戻されます。

上

SPCAUTのCL変数 (100) (SPCAUT)

ユーザーがもっている特殊権限のリストを検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは100文字の変数でなければなりません。戻される形式は最大10項目のリストです。各項目の長さは10文字で、各項目には特殊権限が入ります。リスト中の特殊権限が10より少ない場合には、残りの項目は右から空白で埋め込まれます。ユーザーが特殊権限をもっていない場合には、最初の項目には値*NONEが入り、空白が後に続きます。

上

MAXSTGのCL変数 (11 0) (MAXSTG)

指定したユーザーが所有している永続オブジェクトを記憶するために割り当てることができる補助記憶域の最大量を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは長さ(11 0)の10進変数でなければなりません。戻される値は、11桁の値か、あるいは*NOMAXの場合には-1の値です。変数は、小数点以下の桁数のない11桁の値でなければなりません。

上

STGUSEDのCL変数 (15 0) (STGUSED)

指定したユーザー・プロファイルが所有している永続オブジェクトを記憶するために、現在使用中の補助記憶域の大きさを得るのに使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは長さ(15 0)の10進変数でなければなりません。その値はキロバイトで戻されます。(1キロバイト(KB)は1024バイトです。)

上

PTYLMTのCL変数 (1) (PTYLMT)

システムに投入されるジョブごとにユーザーがもつことができる最高スケジューリング優先順位を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、変数は1文字の長さです。この値は、このユーザーのもとで実行中のすべてのジョブに指定できるジョブ処理優先順位を制御します。これは、ジョブ・コマンドのJOBPTYおよびOUTPTYパラメーター中に指定される値は、そのジョブを実行するユーザーに指定されたPTY LMT値を超えることができないという意味です。スケジューリング優先順位は0から9の範囲の値とすることができます。0は最高の優先順位、9は最低の優先順位です。

INLPGMのCL変数 (10) (INLPGM)

指定されたユーザーがシステムにサインオンした時に開始される初期プログラムの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。指定されたユーザーと関連する初期プログラム名がない場合には、変数に戻される値は*NONEです。

上

INLPGMLIBのCL変数 (10) (INLPGMLIB)

指定されたユーザーと関連する初期プログラムが入っているライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。指定されたユーザーと関連する初期プログラムがない場合には、空白が変数に戻されます。

上

JOBのCL変数 (10) (JOB)

指定されたユーザーと関連するジョブ記述の名前を検索するために使用される変数の名前。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

JOBDLIBのCL変数 (10) (JOBDLIB)

指定されたユーザーと関連するジョブ記述が入っているライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

GRPPRFのCL変数 (10) (GRPPRF)

グループ・プロファイルの名前の検索に使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。指定したユーザー・プロファイルにグループ・プロファイルが存在していない場合には、値*NONEが変数に戻されます。

上

OWNERのCL変数 (10) (OWNER)

特殊値*USRPRFまたは*GRPPRFを検索するために使用される変数の名前を指定します。このパラメーターは、新しく作成されたオブジェクトの所有者を指定します。これは指定されたユーザーまたはユーザーのグループ・プロファイルです。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。指定されたユーザー・プロファイルにグループ・プロファイルが存在していない場合には、変数に戻される値は*USRPRFです。

GRPAUTのCL変数 (10) (GRPAUT)

新しく作成されたオブジェクトのグループ・プロファイルに認可された権限の検索に使用される変数の名前を指定します。特殊値*NONE, *CHANGE, *ALL, *USE,または*EXCLUDEが変数に戻されます。指定されたユーザーにグループ・プロファイルがない場合、あるいはグループ・プロファイルが指定されたユーザーの作成するオブジェクトの所有者である場合には、戻される特殊値は*NONEです。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

ACGCDEのCL変数 (15) (ACGCDE)

指定されたユーザーに割り当てられた会計コードの値を検索するために使用される変数の名前。制御言語プログラムでは、これは15桁の変数でなければなりません。ユーザー・プロファイルに会計コードが存在していない場合には、ブランクが戻されます。

上

MSGQのCL変数 (10) (MSGQ)

指定されたユーザーと関連するメッセージ待ち行列の名前を検索するために使用される変数の名前。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

MSGQLIBのCL変数 (10) (MSGQLIB)

指定されたユーザーと関連するメッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

OUTQのCL変数 (10) (OUTQ)

指定されたユーザーに関連した出力待ち行列の名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。特殊値*DEVまたは*WRKSTNがこの変数に組み込まれて戻されます。

上

OUTQLIBのCL変数 (10) (OUTQLIB)

指定されたユーザーと関連する出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。出力待ち行列 (OUTQ)パラメーターの現在の値が*DEVまたは*WRKSTNの場合には、ブランクが戻されます。

TEXTのCL変数 (50) (TEXT)

指定されたユーザー・プロファイルのユーザー定義の記述を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは50文字の変数でなければなりません。ユーザーと関連したテキストがない場合には、空白がCL変数に戻されます。

上

PWDCHGDATのCL変数 (6) (PWDCHGDAT)

指定されたユーザーのパスワードが最後に変更された日付を検索するために使用される変数の名前を指定します。日付はYYMMDDの形式で戻されます。制御言語プログラムでは、これは6文字の変数でなければなりません。ユーザーに日付がない場合には、空白が戻されます。

上

USRCLSのCL変数 (10) (USRCLS)

指定されたユーザーのユーザー・クラスを検索するために使用される変数の名前を指定します。特殊値*USER, *SYSOPR, *PGMR, *SECADM,または*SECOFRが変数に戻されます。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

ASTLVLのCL変数 (10) (ASTLVL)

指定されたユーザーの操作援助レベルを検索するために使用される変数の名前を指定します。特殊値*SYSVAL, *BASIC, *INTERMED,または*ADVANCEDがこの変数に入れて戻されます。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

SPCENVのCL変数 (10) (SPCENV)

指定されたユーザーの開始環境である変数の名前を指定します。特殊値*SYSVAL, *NONE,または*S36がこの変数に入れて戻されます。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

CURLIBのCL変数 (10) (CURLIB)

指定されたユーザーのジョブの省略時のライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前。このユーザーに現行ライブラリーが存在していない場合には、値*CRTDFTが変数に戻されます。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

INLMNUのCL変数 (10) (INLMNU)

指定されたユーザーがシステムにサインオンした時に表示される初期メニューの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

INLMNULIBのCL変数 (10) (INLMNULIB)

初期メニューを含むライブラリー名を検索するために使用される変数の名前。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

LMTCPBのCL変数 (10) (LMTCPB)

ユーザーが自分のユーザー・プロファイル、および実行コマンドを変更できる限界値を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。特殊値*NO、*YES、または*PARTIALが変数に戻されます。

上

DLVRYのCL変数 (10) (DLVRY)

指定されたユーザー・プロファイルのメッセージ制御配布値を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。この変数には特殊値の*NOTIFY、*BREAK、*HOLD、または*DFTが戻されます。

上

SEVのCL変数 (2 0) (SEV)

指定されたユーザーのメッセージ制御重大度レベルを検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは長さ(2 0)の変数でなければなりません。

上

PRTDEVのCL変数 (10) (PRTDEV)

指定されたユーザーの印刷装置の名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。印刷装置名がシステム値QPRTDEVからとられたものである場合には、値*SYSVALが戻されます。印刷装置名がユーザーのワークステーションに割り当てられた印刷装置からとられたものである場合には、値*WRKSTNが戻されます。

上

ATNPGMのCL変数 (10) (ATNPGM)

指定されたユーザーのATTNキー処理プログラムの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、この変数は10文字の長さです。ATTNキー処理プログラムがシステム値QATNPGMからのものである場合は、値*SYSVALが戻されます。このユーザーにATTNキー処理プログラムが指定されていない場合には、値*NONEが戻されます。

上

ATNPGMLIBのCL変数 (10) (ATNPGMLIB)

指定されたユーザーのATTNキー処理プログラム・ライブラリーの名前を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。アテンション・プログラム (ATNPGM)パラメーターの現在の値が*NONEの場合には、ブランクが変数に戻されます。

上

USROPTのCL変数 (240) (USROPT)

指定されたユーザーのユーザー・オプションの値のリストを検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは240文字の変数でなければなりません。この変数には特殊値の*NONEまたは値のリストが戻されます。

上

DSPSGNINFのCL変数 (7) (DSPSGNINF)

指定されたユーザーのサインオン情報表示標識を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは7文字の変数でなければなりません。特殊値*SYSVAL, *YES,または*NOが変数に戻されます。*SYSVALが戻された場合には、サインオン情報表示標識はシステム値QDSPSGNINFから取られます。

上

PWDEXPITVのCL変数 (5 0) (PWDEXPITV)

指定されたユーザーのパスワード有効期限を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、指定する変数は長さ(5,0)のバック形式でなければなりません。戻される値は、1から366の範囲の数、*SYSVALの場合の0,または*NOMAXの場合の-1のいずれかです。0が戻された場合には(*SYSVAL)、パスワード有効期限はシステム値QPWDEXPITVから取られます。

上

PWDEXPのCL変数 (4) (PWDEXP)

指定されたユーザーのパスワード満了標識を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは4文字の変数でなければなりません。特殊値*YESまたは*NOが変数に戻されます。

上

STATUSのCL変数 (10) (STATUS)

指定されたユーザー・プロファイルの状況を検索するために使用される変数の名前。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。特殊値*ENABLEDまたは*DISABLEDがこの変数に入れて戻されます。

上

PRVSIGNのCL変数 (13) (PRVSIGN)

指定されたユーザーの前のサインオン日付および時刻を検索するために使用される変数の名前を指定します。日付および時刻はCYYMMDDHHMMSSの形式で戻されます。制御言語プログラムでは、これは13文字の変数でなければなりません。ユーザーが前にサインオンしていなかった場合には、ブランクが戻されます。

上

NOTVLDSIGNのCL変数(11 0) (NOTVLDSIGN)

指定されたユーザーの正しくないパスワード確認の試行回数を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、指定する変数は長さ(11 0)のバック形式でなければなりません。

上

LMTDEVSSNのCL変数 (7) (LMTDEVSSN)

指定されたユーザーの装置セッション限界標識を検索するために使用される変数の名前を指定します。値*SYSVAL, *YES, *NO, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8,または9をCL変数で戻すことができます。can be returned in the CL variable. *SYSVALが戻された場合には、装置セッション限界標識はシステム値QLMTDEVSSNから取られます。制御言語プログラムでは、これは7文字の変数でなければなりません。

上

KBDBUFのCL変数 (10) (KBDBUF)

指定されたユーザーのキーボード・バッファリング値を検索するために使用される変数の名前を指定します。特殊値*SYSVAL, *NO, *TYPEAHEAD,または*YESがこのCL変数に組み込まれて戻されます。*SYSVALが戻された場合には、キーボード・バッファリング値はシステム値QKBDBUFと同じになります。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

LANGIDのCL変数 (10) (LANGID)

指定されたユーザーの言語IDを検索するために使用される変数の名前を指定します。この変数で、特殊値*SYSVALまたは言語IDが戻されます。*SYSVALが戻された場合には、そのユーザーの言語IDはQLANGIDシステム値によって決定されます。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

CNTRYIDのCL変数 (10) (CNTRYID)

指定されたユーザーの国または地域IDを検索するために使用される変数の名前を指定します。この変数には特殊値*SYSVALか、国または地域IDが戻されます。*SYSVALが戻された場合には、ユーザーの国または地域IDはQC CNTRYIDシステム値によって決定されます。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

CCSIDのCL変数 (5 0) (CCSID)

指定されたユーザーのコード化文字セットID (CCSID)を検索するために使用される変数の名前を指定します。5桁の値が戻されるか、あるいはユーザーのCCSIDを決定するためにシステム値QCCSIDが使用されている場合には、-2の値が戻されます。制御言語プログラムでは、これは(5,0)の長さの10進数の変数としなければなりません。

上

SRTSEQのCL変数 (10) (SRTSEQ)

指定されたユーザーに対する分類順序テーブルの検索に使用される変数の名前を指定します。戻される値は次の1つです。*HEX, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR, *SYSVAL,または10文字のテーブルID。*SYSVALが戻された場合には、このユーザーのテーブルIDはQSRTSEQシステム値によって決定されます。

上

SRTSEQLIBのCL変数 (10) (SRTSEQLIB)

指定されたユーザーに対する分類順序テーブル・ライブラリーの検索に使用される変数の名前を指定します。戻される値は、10文字のライブラリーIDです。分類順序テーブル名が指定されない場合には、この変数はブランクに設定されます。

上

OBJAUDのCL変数 (10) (OBJAUD)

指定されたユーザーに対するオブジェクト監査値の検索に使用される10文字の変数の名前。この変数には、ユーザー監査変更(CHGUSRAUD)コマンドで指定された*NONE, *CHANGE,または*ALLの特殊値が戻されます。このコマンドのユーザーが*ALLOBJ特殊権限か*AUDIT特殊権限のどちらかをもたない時には、*NOTAVLが戻されます。10文字に満たない変数が戻された場合には、その変数の右側にブランクが埋め込まれます。

上

AUDLVLのCL変数 (640) (AUDLVL)

指定されたユーザーに対する処置監査値の検索に使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、変数は640文字の長さです。戻された形式は、最大のリストが64処置監査値で、各値が10文字の長さです。リスト中の64処置監査値より小さい場合には、右側の残りの値はブランクで埋め込まれます。

このコマンドのユーザーが*ALLOBJ特殊権限か*AUDIT特殊権限のどちらかをもたない場合には、最初に戻される値は、*NOTAVLとそれに続くブランクです。

ユーザーに処置監査値がない場合には、最初に戻される値は*NONEとそれに続くブランクです。

ユーザーに処置オブジェクト値がある場合には、この変数にユーザー監査変更(CHGUSRAUD)コマンドで指定された次の特殊値の1つまたは複数に戻されます。

- *AUTFAIL
- *CMD
- *CREATE
- *DELETE
- *JOBBAS
- *JOBCHGUSR
- *JOBDTA
- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETCMN
- *NETFAIL
- *NETSCK
- *OBJMGT
- *OFCSRVR
- *OPTICAL
- *PGMADP
- *PGMFAIL
- *PRTDTA
- *SAVRST
- *SECCFG
- *SECDIRSRV

- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECSCKD
- *SECURITY
- *SECVFY
- *SECVLDL
- *SERVICE
- *SPLFDTA
- *SYSMGT

上

GRPAUTTYPのCL変数 (10) (GRPAUTTYP)

新しく作成されたオブジェクトのグループ・プロファイルに認可された権限のタイプの検索に使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、この変数は10文字の長さです。*PRIVATEまたは*PGPの特殊値が変数に戻されます。

上

SUPGRPPRFのCL変数 (150) (SUPGRPPRF)

指定されたユーザーの補足グループ・プロファイルの検索に使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、変数は150文字の長さです。戻される形式は最大15までの補足グループ・プロファイルのリストで、各項目の長さは10文字です。リストの補足グループが15以下の場合には、残りの項目の右側に空白が埋め込まれます。ユーザーに補足グループがない場合には、最初の項目に*NONEが入っていて、その後に空白が入っています。

補足グループ・プロファイルは次の形式で戻されます。

```

項目1
  補足グループ・プロファイルCHAR(10)
項目2
  補足グループ・プロファイルCHAR(10)
  .
  .
項目15
  補足グループ・プロファイルCHAR(10)

```

上

UIDのCL変数 (10 0) (UID)

指定されたユーザーのユーザーID番号(UID)の検索に使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは長さ(10 0)の10進変数でなければなりません。

上

GIDのCL変数 (10 0) (GID)

指定されたユーザーのグループID番号(GID)の検索に使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、これは長さ(10 0)の10進変数でなければなりません。GIDが*NONEの場合には、戻される値は10桁の値または値0です。変数は、小数部を持たない10桁の値でなければなりません。

上

SETJOBATR CL変数 (160) (SETJOBATR)

指定されたユーザーのLOCALEパス名からジョブ属性セットを検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムでは、変数の長さは160文字です。戻される形式は、設定されている最大16のジョブ属性からなるリストであり、それぞれの項目の長さは10文字です。リスト中の属性が16より少ない場合には、残りの項目は右側にブランクが埋め込まれます。ユーザーのLOCALEパス名から属性が設定されていない場合には、最初の項目に値の*NONEが入り、その後にはブランクが続きます。

上

文字識別コードの制御 (CHRIDCTL)

指定されたユーザーの文字ID制御を検索するために使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムではこの変数の長さは10文字にしてください。特殊値*DEVD, *JOBCCSID,または*SYSVALが変数に戻されます。*SYSVALが戻される場合には、ユーザーのCHRID制御はQCHRIDCTLシステム値によって判別されます。

上

LCLPWDMGTのCL変数 (10) (LCLPWDMGT)

指定されたユーザーのローカル？パスワード管理の検索に使用される変数の名前を指定します。制御言語プログラムではこの変数の長さは10文字にしてください。特殊値*YESまたは*NOが変数に戻されます。

上

PWDCHGBLKのCL var (10) (PWDCHGBLK)

指定されたユーザーに対するブロック・パスワード変更値の検索に使用される変数の名前を指定します。値*NONE, *SYSVAL,または1から99がCL変数に戻されることがあります。*SYSVALが戻された場合には、ユーザーのブロック・パスワード変更値はQPWDCHGBLKシステム値によって決定されます。制御言語プログラムでは、これは10文字の変数でなければなりません。

上

例

```
CRTUSRPRF  USRPRF(SMITH)  SPCAUT(*SAVSYS *SECADM)
           MAXSTG(*NOMAX)  PTYLM(4)
           INLPGM(*NONE)  MSGQ(QGPL/SMITHMQ)
           OUTQ(QGPL/QSMITH)  TEXT('JOHN SMITH USER PROFILE')
```

SMITHユーザー・プロファイルが前述のコマンドを使用して作成される場合は、ユーザーSMITHが以下の入っている制御言語プログラムを呼び出す場合:

```
DCL  &UNAME    *CHAR  10
DCL  &URIGHT   *CHAR  100
DCL  &IPGM     *CHAR  10
DCL  &IPGMLB  *CHAR  10
DCL  &UMSGQ   *CHAR  10
DCL  &UMSQLB  *CHAR  10
DCL  &USED    *CHAR  10
:
RTVUSRPRF  USRPRF(*CURRENT)  STGUSED(&USED)  +
           RTNUSRPRF(&UNAME)  SPCAUT(&URIGHT)  +
           INLPGM(&IPGM)  INLPGMLIB(&IPGMLB)
```

このコマンドは、ジョブの現行ユーザー・プロファイルについてのユーザー・プロファイル情報を検索し、その情報を以下の制御言語プログラム変数に戻します。

```
&UNAME      'SMITH          '
&URIGHT     '*SAVSYS *SECADM ... |
           |_____|100文字_____|
&IPGM       '*NONE          '
&IPGMLB     '                '
           |_____|100文字_____|
```

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF8134

ユーザー・プロファイル&4に損傷がある。

上

ユーザー印刷情報の検索 (RTVUSRPRTI)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ

リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ユーザー印刷情報検索(RTVUSRPRTI)コマンドは、ユーザー・プロファイルに関連したユーザー印刷情報値を検索するために制御言語プログラムで使用されます。 所要のユーザーに指定されたCL変数に値が戻されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	必須, 定位置 1
RTNTEXT	RTNTEXTのCL変数	文字値	必須, 定位置 2

上

ユーザー (USER)

ユーザー印刷情報が検索されるユーザーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*CURRENT

現行ジョブを実行しているユーザー・プロファイルが使用されます。

名前 検索されるユーザー印刷情報を持つユーザーの名前を指定してください。

上

RTNTEXTのCL変数 (RTNTEXT)

情報が要求されるユーザー・プロファイルのユーザー印刷情報を検索するために使用される10文字のCL変数を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

例

```
RTVUSRPRTI USER(FEIST) RTNTEXT(&TEXT)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルFEISTに関するユーザー印刷情報を検索し、それを制御言語プログラム変数&TEXTに保管します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2247

内部機密保護オブジェクトが使用可能でない。理由コードは&1です。

CPF34D5

CCSID変換エラー。

上

WSCSTソースの検索 (RTVWSCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト検索(RTVWSCST)コマンドによって、ユーザーは指定の装置タイプ、キーボードの言語タイプ、およびキーボード・タイプ、あるいは指定のASCII印刷装置のメーカー、機種、および型式に関するシステム提供のテーブル属性のセットをソース物理ファイル・メンバーで検索することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVTYPE	装置タイプ	*TRANSFORM, *CTXFORM, 3101, 3151, 3161, 3162, 3163, 3164, 3179, 3180, 3196, 3197, 3476, 3477, 3486, 3487, 4019, 4201, 4202, 4207, 4208, 4216, 4224, 4234, 5204, 5251, 5291, 5292, 6252, D220, T910, T925, T955, V100, V220, W30, W50, W60	必須, 定位置 1
KBDTYPE	キーボード言語タイプ	AGB, AGE, AGI, ALI, BGB, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAI, CAM, CLB, CSB, CYB, DMB, DME, DMI, FAB, FAE, FAI, FNB, FNE, FNI, FQB, FQI, GKB, GNB, HNB, ICB, ICE, ICI, INB, INI, ITB, ITE, IRB, ITI, JEB, JEI, JPB, KAB, MKB, NCB, NEB, NEE, NEI, NWB, NWE, NWI, PLB, PRB, PRE, PRI, RMB, ROB, RUB, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SPB, SPE, SQB, SPI, SSB, SSE, SSI, SWB, SWE, SWI, THB, TKB, TRB, UKB, UKE, UKI, USB, USE, USI, YGI	オプション, 定位置 2
MFRTPMDL	メーカー・タイプ, 型式	文字値	オプション
SRCMBR	ソース・メンバー	名前	オプション, 定位置 3
KBD	接続されたキーボード	*DATA5250, *TYPE5250, *DATA122, *TYPE122, *ENHANCED	オプション
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QTXSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, <u>*LIBL</u>	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TEXT	テキスト'記述'	文字値、*BLANK	オプション

上

装置タイプ (DEVTYPE)

装置タイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*TRANSFORM

SCS-ASCIIホスト印刷変換機能サポートが、ASCII印刷装置によって使用されます。

*CTXFORM

IBM変換サービス構成サポート。

装置タイプ

使用する装置タイプを指定してください。使用可能な装置タイプのリストについては、WORKSTATION CUSTOMIZATION PROGRAMMINGを参照してください。

上

キーボード言語タイプ (KBDTYPE)

この表示装置の（EBCDICおよびASCIIに使用される）3桁のキーボード言語IDを指定します。

考えられる値は次の通りです。

キーボードの言語タイプ

この表示装置の3文字の国別または地域ID（EBCDICおよびASCIIに使用される）を指定します。

有効なIDおよびIDが表す言語のリストについては、AS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の表示装置記述の変更(CHGDEV DSP)または表示装置記述の作成(CRTDEV DSP)のキーボード言語タイププロンプト（KBDTYPEパラメーター）を参照してください。各言語ごとに、ASCII装置グループも表示されます（適用可能な場合）。

上

メーカー・タイプ、型式 (MFRTYPMDL)

変換サービス構成サポートのホスト印刷変換機能サポートを使用するASCII印刷装置のメーカー、機種、および型式を指定します。ホスト印刷変換機能サポートまたは変換サービス構成サポートを使用するASCII印刷装置についてサポートされているメーカー、機種、および型式のリストについては、AS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の印刷装置記述の作成(CRTDEV PRT)コマンドを参照してください。

上

ソース・メンバー(SRCMBR)

検索されたテーブル属性を受け取るソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

接続されたキーボード (KBD)

キーボード・タイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*DATA5250

5250データ入力キーボードが指定されます。

*TYPE5250

5250タイプライター・キーボードが指定されます。

*DATA122

122キー・データ入力キーボードが指定されます。

*TYPE122

122キー・タイプライター・キーボードが指定されます。

*ENHANCED

拡張キーボードが指定されます。

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

検索されたテーブル属性を入れるためにメンバーを作成するソース・ファイルの名前を指定します。ソース・ファイルが存在しない場合には、これが作成されます。ソース・ファイルのコード化文字セットIDは*HEXです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ソース・ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QTXTSRC

IBM提供ソース・ファイルQTXTSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・ファイルの名前を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

作成されたソース物理ファイル・メンバーの説明を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' ソース物理ファイル・メンバーの説明を指定します。

例

```
RTVWSCST  DEVTYPE(5251)  KBDTYPE(USB)  SRCMBR(MYSOURCE)
           KBD(*DATA5250)  SRCFILE(MYLIB/QTXTSRC)
```

このコマンドは、米国基本言語を使用する5250データ入力タイプのキーボードが接続された5251平衡型表示装置用システム・マッピング・テーブルを検索します。このテーブルは、ライブラリーMYLIB のソース・ファイルQXTXSRRCのソース・メンバーMYSOURCEに保管されています。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF5D33

システム・テーブルの要求は正常に実行されなかった。理由コードは&4です。

バックアップの実行 (RUNBCKUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ実行(RUNBCKUP)コマンドにより、ユーザーは指定されたオブジェクトのテープへの事前定義バックアップを実行することができます。このバックアップでは、ライブラリー（バックアップ・リスト中のすべてのユーザー・ライブラリーまたは選択されたユーザー・ライブラリー）、フォルダー（バックアップ・リスト中のすべてのフォルダーまたは選択されたルート・フォルダー）、機密保護データ、構成データ、メール、および予定表を組み込むことができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
BCKUPOPT	バックアップ・オプション	*DAILY, *WEEKLY, *MONTHLY	必須, キー, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *BCKUPOPT その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2

上

バックアップ・オプション (BCKUPOPT)

使用するバックアップ・オプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DAILY

日次バックアップ・オプションが使用されます。

*WEEKLY

週次バックアップ・オプションが使用されます。

*MONTHLY

月次バックアップ・オプションが使用されます。

上

装置 (DEV)

バックアップに使用するテープ装置のリストを指定します。

単一値

***BCKUPOPT**

指定されたオプションに記憶されているテープ装置名がバックアップに使用されます。

その他の値（最大4個指定可能）

名前 バックアップに使用されるテープ装置のリストを指定してください。仮想テープ装置を使用している場合には、1つの装置名だけを指定することができます。

上

例

例1:日次バックアップの実行

```
RUNBCKUP BCKUPOPT(*DAILY)
```

このコマンドは、オプションで指定した装置を使用して日次バックアップを実行します。

例2:月次バックアップの実行

```
RUNBCKUP BCKUPOPT(*MONTHLY) DEV(TAP02)
```

このコマンドは、オプションで指定した装置の代わりに装置TAP02を使用して月次バックアップを実行します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF1EE3

バックアップ・オプションは認可されていない。

CPF1EE4

バックアップの実行は認可されていない。

CPF1EE6

指定された装置は使用できない。

CPF1EE7

バックアップ中に予期しないエラーが起こった。

CPF1EE8

出口プログラム&2/&1から予期しないエラー。

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E6E

バックアップ用に選択されていない。

CPF1E63

バックアップ権限の検査中にエラーが起こった。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E68

バックアップが不完全である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

上

DNS更新の実行 (RUNDNSUPD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DNS更新の実行 (RUNDNSUPD)コマンドまたは別名のNSUPDATEは、ドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバーに動的更新要求を送信するために使用されます。これによって、ゾーン・ファイルを手動で編集することなく、リソース・レコードをゾーンに追加またはゾーンから除去することができます。単一更新要求には、複数のリソース・レコードの追加または除去要求を含めることができます。

RUNDNSUPDまたはDHCPサーバーで動的制御されるゾーンは、手動で編集しないでください。手動の編集は動的更新と競合してデータが失われる可能性があります。

RUNDNSUPDで動的に追加または除去されるリソース・レコードは、同じゾーン内にある必要があります。要求はゾーン・マスター・サーバーに送信されます。これはゾーンSOAレコードのMNAMEフィールドによって識別されます。

このユーティリティーは、*NONEがバッチ入力ファイル (BCHFILE)パラメーターに指定されている場合には、対話モードで実行されます。このユーティリティーを非対話モードで実行するには、BCHFILEパラメーターにファイル名を指定してください。

制約事項:

- ユーザーには、バッチ入力ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- バッチ入力ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、キー・ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- キー・ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、出力ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 出力ファイルが存在する場合にはそのファイルに対する書き込み(*W)権限が必要です。
- 出力ファイルがまだ存在しない場合には、出力ファイルの親ディレクトリーに対する、読み取り、書き込み、および実行(*RWX)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
BCHFILE	バッチ入力ファイル	パス名, *NONE	オプションナル, 定位置 1
DEBUG	デバッグ情報の表示	*NO, *YES	オプションナル, 定位置 2
KEYNAME	鍵名	文字値, *NONE	オプションナル
KEYFILE	鍵ファイル	パス名, *NONE	オプションナル
TIMEOUT	更新タイムアウト	1-300, 300, *NOMAX	オプションナル
UDPRTYITV	UDPタイムアウト	1-65535, 3, *CALC	オプションナル
UDPNBRRTY	UDP再試行	0-100, 3	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	ノート
PROTOCOL	ネットワーク・プロトコル	<u>*UDP</u> , *TCP	オプション
TOSTMF	出力ファイル	パス名, <u>*STDOUT</u>	オプション

上

バッチ入力ファイル (BCHFILE)

バッチ入力で使用されるすべての更新コマンドでストリーム・ファイルを指定します。

ファイル内の各コマンドは、ちょうど1行の入力で提供されます。一部のコマンドは、管理用です。それ以外のコマンドは、ゾーンのコンテンツに関する更新の指示か前提条件検査です。これらの検査は名前またはリソース・レコード・セット(RRset)のどちらかが存在しているかゾーンに存在しない条件を設定します。これらの条件は、更新要求全体が成功するためには、満たされる必要があります。更新は、前提条件のテストが失敗した場合には拒否されます。

すべての更新要求は、ゼロ以上の前提条件およびゼロ以上の更新で構成されます。これによって、一部の指定されたリソース・レコードがゾーンに存在していたり欠落していても、適切に認証された更新要求を進めることができます。ブランクの入力行（または送信コマンド）によって、累積コマンドが1つの動的DNS更新要求としてネーム・サーバーに送信されます。

コマンドのフォーマットは以下のとおりです。セミコロンで始まるファイルの行は、コメントと見なされ無視されます。

```
server {servername} [port]
local {address} [port]
zone {zonename}
class {classname}
key {name} {secret}
prereq nxdomain {domain-name}
prereq yxdomain {domain-name}
prereq nxrrset {domain-name} [class] {type}
prereq yxrrset {domain-name} [class] {type}
prereq yxrrset {domain-name} [class] {type} {data...}
update delete {domain-name} [ttl] [class] [type [data...]]
update add {domain-name} [ttl] [class] {type} {data...}
show
send
answer
quit
```

これらのコマンドの記述の例を参照してください。

*NONE

バッチ・ファイルを使用しません。これによって対話モードに入ります。対話モードから戻るには、コマンド「quit」を入力してください。

注: この値は、コマンドが対話式ジョブで実行される場合にのみ有効です。

パス名 入力を読み取られるストリーム・ファイルのパスを指定します。このファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。

上

デバッグ情報の表示 (DEBUG)

デバッグ・モードをオンにするかどうかを指定します。デバッグ・モードがオンになると、サーバーに送信されるパケットおよびその結果の応答に関するさらに詳細な情報が表示されます。

***NO** デバッグ・メッセージをオフにします。

***YES** デバッグ・メッセージをオンにします。

上

鍵名 (KEYNAME)

DNS QUERYに署名するTSIG (Transaction Signature)鍵を指定します。TSIGで現在使用されている唯一のメッセージ要約アルゴリズムは、HMAC-MD5です。他のアルゴリズムは将来追加されることがあります。TSIG鍵はBase64エンコードされたストリングで、通常DNS鍵の生成(GENDNSKEY)コマンドで生成されます。QUERYが送られるDNSサーバーは、TSIG鍵および使用されているアルゴリズムで構成されている必要があります。そうになっていない場合にはトランザクションが失敗します。TSIGについては、RFC 2845を参照してください。

*NONE

キー名を指定しません。

文字値 TSIG鍵を指定します。フォーマットは、「name:key」(nameはキー名で、鍵はBase64エンコード・ストリングの実際の鍵です)。例：

```
my-tsig-key:JNvcpxysbJ2hsd0qQ5qrQ==
```

この場合のキー名は「my-tsig-key」で、Base64エンコード鍵は「JNvcpxysbJ2hsd0qQ5qrQ==」です。

QUERY対象のDNSサーバーは、クライアントからこのTSIG鍵を受け入れるためには、構成にこの鍵およびアルゴリズムが組み込まれている必要があります。

上

鍵ファイル (KEYFILE)

動的DNS更新要求を認証するために使用するSIG(0)が入っているファイルを指定します。この場合、指定された鍵はHMAC-MD5鍵ではありません。SIG(0)は公開鍵暗号方式を使用します。SIG(0)鍵を使用するには、ネーム・サーバーが提供するゾーンのKEYレコードに公開鍵が保管されている必要があります。SIG(0)については、RFC 3535およびRFC 2931を参照してください。

注: このパラメーターに*NONE以外の値を指定する場合には、KEYNAMEパラメーターに値を指定しないでください。

*NONE

キー・ファイルを指定しません。

パス名 鍵情報が入っているストリーム・ファイルのパスを指定します。例えば、「/home/myprofile/my-key-file」を指定することが考えられます。

上

更新タイムアウト (TIMEOUT)

更新要求が異常終了するまでの最大所要時間を指定します。

300 省略時のタイムアウトは300秒です。

***NOMAX**

更新要求タイムアウトは使用不可になります。

1から300

有効なタイムアウト値を秒数で指定します。

上

UDPタイムアウト (UDPRTYITV)

UDP再試行間の間隔を秒数で指定します。

3 3秒の再試行間隔が使用されます。

***CALC**

再試行間隔は、更新タイムアウト (TIMEOUT)パラメーターおよびUDP再試行 (UDPNBRRTY)パラメーターに指定された値に基づいてユーティリティーによって計算されます。

1から65535

UDP再試行間に使用する秒数を指定します。

上

UDP再試行 (UDPNBRRTY)

UDP再試行回数を指定します。

3 UDP試行3回が使用されます。

0-100 UDP再試行回数を指定します。ゼロが指定された場合には、更新要求は1回のみ行われます。

上

ネットワーク・プロトコル (PROTOCOL)

要求をサーバーに送信する際にTCPとUDPのどちらを使用するかを指定します。

***UDP** UDPを使用してQUERYを送信します。ただし、ゾーン転送 (AXFR) 要求などTCPが必要なQUERYには自動的にTCPが選択されます。

***TCP** TCPを使用してQUERYを送信します。

上

出力ファイル (TOSTMF)

すべてのコマンド出力が書き込まれるストリーム・ファイルの名前を指定します。

***STDOUT**

すべてのコマンド出力は、標準出力装置（通常はモニター）に送られます。

パス名 出力が書き込まれるストリーム・ファイルのパスを指定します。

上

例

コマンドのフォーマットおよびその意味は次のとおりです。

server {servername} [port]

すべての動的更新要求をDNSサーバーservernameに送信します。サーバー・ステートメントが与えられなければ、RUNDNSUPDは更新を正しいゾーンのマスター・サーバーに送信します。そのゾーンのSOAレコードのMNAME フィールドで、そのゾーンのマスター・サーバーが識別されます。portは、動的更新要求が送信されるservernameのポート番号です。ポート番号が指定されなければ、省略時のDNSポート番号53が使用されます。

local {address} [port]

ローカル・アドレスを使用して、すべての動的更新要求を送信します。ローカル・ステートメントが与えられなければ、RUNDNSUPDは、システムが選択したアドレスおよびポートを使用して更新を送信します。さらにportを使用して、特定のポートから要求を行うことができます。ポート番号が指定されなければ、システムがポート番号を割り当てます。

zone {zonename}

すべての更新がゾーンzonenameに対して行われることを指定します。ゾーン・ステートメントが与えられなければ、RUNDNSUPDは、残りの入力に基づいて更新する正しいゾーンを決定しようとします。

class {classname}

省略時のクラスを指定します。クラスが指定されなければ、省略時のクラスはINになります。

key {name} {secret}

すべての更新がkeynameとkeysecretの対を使用してTSIGで署名されることを指定します。-yまたは-kによって、キー・コマンドは、コマンド入力行で指定された鍵をオーバーライドします。

prereq nxdomain {domain-name}

名前domain-nameですべてのタイプのリソース・レコードが存在しないことを要求します。

prereq yxdomain {domain-name}

domain-nameが存在すること（少なくとも1つの任意のタイプのリソース・レコードが存在すること）を要求します。

prereq nxrrset {domain-name} [class] {type}

指定されたtype, classおよびdomain-nameのリソース・レコードが存在しないことを要求します。classが省略された場合には、IN（インターネット）が想定されます。

prereq yxrrset {domain-name} [class] {type}

これは、指定されたtype, classおよびdomain-nameのリソース・レコードが存在する必要があることを要求します。classが省略された場合には、IN（インターネット）が想定されます。

prereq yxrrset {domain-name} [class] {type} {data...}

共通のtype, class,およびdomain-nameを共有するこのフォームの前提条件の各組のデータを組み合わせ

せて一組のRRを形成します。この一組のRRは、指定されたtype, class,およびdomain-nameで、ゾーンに存在するRRの組みに完全に一致します。データは、リソース・レコードRDATAの標準テキスト表記で書き込まれます。

update delete {domain-name} [ttl] [class] [type [data...]]

domain-nameという名前のすべてのリソース・レコードを削除します。 typeとdataが指定された場合には、それに一致するリソース・レコードのみが除去されます。 classが指定されなければ、インターネット・クラスが想定されます。 ttlは無視され、互換性のためだけに使用可能です。

update add {domain-name} {ttl} [class] {type} {data...}

指定されたttl, class,およびdataで、新規リソース・レコードを追加します。

show 最終送信以降に指定されたすべての前提条件および更新を含んだ、現在のメッセージを表示します。

send 現在のメッセージを送信します。これは、ブランク行を入力するのと等価です。

answer

応答を表示します。

quit 対話モードを終了します。

例1:更新の例

```
RUNDNSUPD  BCHFILE(*NONE)
> update delete oldhost.example.com A
> update add newhost.example.com 86400 A 172.16.1.1
> send
> quit
```

このコマンドは、更新ユーティリティーの対話モードを開始します。「>」接頭部がある行は対話式コマンドです。

「example.com」ゾーンに対してリソース・レコードを挿入および削除します。それぞれの例の入力には、コマンドのグループが1つの動的更新要求としてexample.comのマスターDNSサーバーに送信されるように、末尾ブランク行が入っていることに注意してください。

oldhost.example.comのすべてのAレコードが削除されます。また、newhost.example.comのAレコード(IPアドレス: 172.16.1.1)が追加されます。新しく追加されたレコードのTTLは、1日(86400秒)です。

例2:前提条件の例

```
RUNDNSUPD
> prereq nxdomain nickname.example.com
> update add nickname.example.com 86400 CNAME somehost.example.com
> send
> quit
```

前提条件によって、DNSサーバーはnickname.example.comのすべてのタイプのリソース・レコードがないことをチェックします。存在した場合には、更新要求は失敗します。この名前が存在しない場合には、そのCNAMEが追加されます。これによって、CNAMEの追加時に、名前はCNAMEとして存在する場合に他のレコード・タイプで損してはならないというRFC1034の長期間の規則と競合しないことが保証されます。(RFC 2535で、CNAMEがRRSIG, DNSKEY,およびNSECレコードを持てるようにDNSSECの規則が更新されました。)

例3:バッチ・ファイルの例

```
RUNDNSUPD  BCHFILE('/home/ibmuser/my-updates')
```

このコマンドは、ファイル「/home/ibmuser/my-updates」の更新をファイル**server**コマンドで定義されたサーバーに送信します。例えば、ファイルの内容は次のようになります。

```
server myserver.i5os.ibm.com 53
zone i5os.ibm.com
class in
prereq yxdomain box1.i5os.ibm.com.
update delete box1.i5os.ibm.com. A
update add box1.i5os.ibm.com. 3600 A 10.9.9.9
prereq yxdomain box2.i5os.ibm.com.
update delete box2.i5os.ibm.com. A
update add box2.i5os.ibm.com. 3600 A 10.9.9.10
```

画面に表示される結果は、次のように表示される可能性があります。

```
; TSIG error with server: tsig indicates error
update failed: NOTAUTH(BADKEY)
```

または、画面に表示される結果は、次のように表示される可能性があります。

```
; TSIG error with server: tsig indicates error
update failed: REFUSED
```

最初の例は、ファイル内の鍵が無効である場合です。2番目の例は、サーバーがユーザーからの動的更新を許可していない場合です。出力がない場合や、ブランクの出力は、更新が成功したことを示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

DNS0013

コマンド・パラメーターの処理エラー。

DNS0065

i5/OSのオプション33が必要ですが、導入されていません。

TCP7124

ライブラリー&2中のタイプ*PGMのプログラム&1が異常終了しました。

上

LPDA-2の実行 (RUNLPDA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LPDA-2実行(RUNLPDA)コマンドによって、ローカルまたはリモート・データ回線終端装置(DCE)でリンク問題判別援助機能 2 (LPDA-2)操作コマンドを実行することができます。RUNLPDAコマンドは、次のために使用することができます。

- 交換電話ネットワーク接続を確立または切断する。
- カプラーでのリレー接続をオープンまたはクローズする。
- リレー接続がオープンされているか、それともクローズされているかを判別する。
- 内部センサーから電流が流れているかどうかを判別する。
- DCEの送信速度を全速またはバックアップに変更する。

RUNLPDAコマンドの結果はメッセージとして戻されます。

制約事項:

1. RUNLPDAコマンドが有効なのは、非交換SDLC回線に接続されたアナログLPDA-2 DCEの場合だけです
2. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷され、ユーザー・プロファイル QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASは、このコマンドを使用する私用認可をもっています。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
LINE	回線	名前	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*CALL, *DSC, *SETSPEED, *CONTSENSE, *CONTOPER	必須, 定位置 2
LCLDCEADR	ローカルDCEアドレス	01-FB, *LCL	オプション
RMTDCEADR	リモートDCEアドレス	01-FB, *NONE, *ANY	オプション
TELNBR	電話番号	単一値: *STORED その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 番号 1	文字値	
	要素 2: 番号 2	文字値	
CONTACT	リレー接続	*OPEN, *CLOSE	オプション
SPEED	送信速度	*FULL, *BACKUP	オプション
DTEPORT	DTEポート	*ALL, A, B, C, D	オプション
DCERTY	DCE再試行	*NO, *YES	オプション

上

回線 (LINE)

LPDA-2操作コマンドが実行されるアナログDCEに接続されている非交換SDLC回線の名前を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*CALLが指定されている場合には、回線はオンへ構成変更されていなければなりません、非活動状態でなければなりません。OPTIONパラメーターに*CONTOPER, *CONTSENSE, *DSC,または*SETSPEEDが指定されている場合には、回線はオンに構成変更されているか、あるいは活動状態でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

上

オプション (OPTION)

どのLPDA-2操作コマンドが実行されるかを指定します。

これは必須パラメーターです。

接続操作、接続センス、および送信速度設定の各コマンドは、ローカルDCEまたはリモートDCEで実行することができます。

ローカルDCEでこれらのコマンドの1つを実行するためには、次のようにします。

- **ローカルDCEアドレスプロンプト** (LCLDCEADRパラメーター) でローカルDCE のアドレスを指定してください。
- **リモートDCEアドレスプロンプト** (RMTDCEADRパラメーター) で*NONEを指定してください。

リモートDCEでこれらのコマンドの1つを実行するためには、次のようにします。

- LCLDCEADRパラメーターでリモートDCEが接続されているローカルDCEのアドレスを指定してください。
- RMTDCEADRパラメーターでリモートDCEのアドレスを指定してください。

注: ローカルDCEがPOINT-TO-POINT 2次またはマルチポイント従属端末として構成されている場合には、LPDA-2コマンドがリモートDCEに送られません。

考えられる値は、次の通りです。

*CALL

コールアウト・コマンドが実行されます。このコマンドは、交換電話ネットワークを介してローカルDCEとリモートDCEの間の接続を確立します。この値が有効なのは次の場合だけです。

- ローカルDCEとリモートDCEの両方に2線式カプラーがインストールされているか、あるいはローカルDCEとリモートDCEの両方に4線式カプラーがインストールされている。
- **回線プロンプト** (LINEパラメーター) に指定された回線がオンへ構成変更されているが、非活動状態である。

*CONTOPER

接続操作コマンドが実行されます。このコマンドは、**リレー接続**プロンプト (CONTACTパラメーター) に指定された値に応じてカプラーでのリレー接続をオープンまたはクローズします。この値が有効なのは、このLPDA-2コマンドが実行されるDCEに2線式カプラーがインストールされている場合だけです。

*CONTSENSE

接続センス・コマンドが実行されます。このコマンドは、カプラー中のリレー接続がオープンされているか、それともクローズされているか、および内部センサーから電流が流れているかどうかを示します。このオプションが有効なのは、このコマンドが実行されるDCEに2線式カプラーがインストールされている場合だけです。

*DSC 切断コマンドが実行されます。このコマンドは、ローカルDCEとリモートDCEの間の交換電話ネットワーク接続を切断します。この値を指定した場合には、**リモートDCEアドレスプロンプト** (RMTDCEADRパラメーター) に*NONEを指定することはできません。

*SETSPEED

送信速度設定コマンドが実行されます。このコマンドは、**送信速度プロンプト** (SPEEDパラメーター) に指定された値に応じてDCEの送信速度を全速またはバックアップに変更します。データ端末装置(DTE)ポートを各種の速度に設定できる複数ポートDCE構成の場合には、ポートを指定するために **DTEポートプロンプト** (DTEPORTパラメーター) を使用してください。

注: DCEに選択された構成オプションによっては、送信速度設定コマンドによって送信速度が変更されないことがあります。詳細については、DCEの文書を参照してください。

上

ローカルDCEアドレス (LCLDCEADR)

ローカルDCEの16進数アドレスを指定します。アドレッシングの詳細については、DCEの文書を参照してください。

考えられる値は、次の通りです。

*LCL アドレスにX'01'が使用されます。

ローカルDCEアドレス

ローカルDCEのアドレスを指定してください。有効な値の範囲はX'01'からX'FB' です。

上

リモートDCEアドレス (RMTDCEADR)

LPDA-2操作コマンドが実行されるリモートDCEの16進数アドレスを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

アドレスとしてX'00'が使用されます。これは、LPDA-2コマンドがローカルDCEで実行されることを示します。**オプションプロンプト** (OPTION パラメーター) に*DSCを指定した場合には、このパラメーターに*NONEを指定することはできません。

*ANY アドレスとしてX'FD'が使用されます。次の状態ではこの値を指定してください。

- ローカルDCEに接続されたいずれかのリモートDCEでLPDA-2コマンドが実行される。
- POINT-TO-POINT回線上でリモートDCEアドレスが不明である。
- マルチポイント回線上のすべての従属端末DCEでLPDA-2操作コマンドを実行する。この場合には、詳細な応答は受け取られません。

リモートDCEアドレス

リモートDCEのアドレスを指定してください。有効な値の範囲はX'01'からX'FB' です。

上

電話番号 (TELNBR)

リモートDCEとの接続を確立するためにローカルDCEがダイヤルする電話番号を指定します。このパラメーターが有効なのは、オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*CALLが指定された場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*STORED

DCEが構成された時にローカルDCEに記憶された電話番号が使用されます。

電話番号

ローカルDCEに2線式カプラーがインストールされている場合には、1つの電話番号を指定してください。ローカルDCEに4線式カプラーがインストールされている場合には、2つの電話番号を指定してください。LPDA-2コマンドによって数字だけが処理されますが、読みやすくするために、英字またはそれ以外の1バイト文字を入力することもできます。ダイヤル中にDCEに一時停止を指示するためには、コンマ(,)を使用することができます。

上

リレー接続 (CONTACT)

2線カプラーでのリレー接続をオープンするのか、それともクローズするのかを指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*CONTOPERが指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*OPEN

リレー接続がオープンされます。

*CLOSE

リレー接続がクローズされます。

上

送信速度 (SPEED)

DCEの所要の送信速度を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*SETSPEEDが指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

*FULL

送信速度は全速に設定されます。

*BACKUP

送信速度はバックアップに設定されます。

DTEポート (DTEPORT)

送信速度が変更されるローカルまたはリモートDCEのDTEポートを指定します。このパラメーターは、オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*SETSPEEDが指定された場合にだけ有効で、複数アドレス構成オプションを使用しない複数ポートDCEにのみ適用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** DCEの集約速度が変更されます。個々のポートの送信速度の集約速度を変更することの影響については、DCE文書を参照してください。

A Aポートの送信速度が変更されます。

B Bポートの送信速度が変更されます。

C Cポートの送信速度が変更されます。

D Dポートの送信速度が変更されます。

上

DCE再試行 (DCERTY)

リモートDCEから応答が受け取られなかった場合に、ローカルDCEがリモートDCEにLPDA-2コマンドを再送するかどうかを指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*CALLまたは*DSCが指定された場合には、再試行は行なわれません。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 再試行は試みられません。

***YES** 1回の再試行が試みられます。

上

例

例1:交換電話網接続を確立する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*CALL) LCLDCEADR(*LCL)
          RMTDCEADR(*NONE) TELNBR(*STORED)
```

このコマンドは、呼び出しコマンドを実行します。回線SDLCLINE上にあるアドレスX'01' (*LCL)のローカルDCEが、ローカルDCEに保管されている電話番号をダイヤル呼び出しします。

例2:交換電話網接続を確立する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*CALL)
          LCLDCEADR(*LCL) RMTDCEADR(*NONE)
          TELNBR('9, 1-507-555-1212' '9, 1 (507) 555-1313')
```

このコマンドは、呼び出しコマンドを実行します。ローカルDCEが、TELNBRパラメーターに指定した2つの番号をダイヤル呼び出しします。コンマ(,)はダイヤル中の一時停止を示します。その他の非数値文字は無視されますが、読み取りを容易にします。

例3:交換電話網接続を切断する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*DSC)
          LCLDCEADR(10)  RMTDCEADR(*ANY)
```

このコマンドは、切断コマンドを実行します。アドレスX'10'のローカルDCEが、交換電話網から切断されます。

例4:ローカルDCEでリレー接点をクローズする

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*CONTOPE) LCLDCEADR(02)
          RMTDCEADR(*NONE) CONTACT(*CLOSE)
```

このコマンドは、接点操作コマンドを実行します。アドレスX'02'のローカルDCEが、2線カプラーでリレー接点をクローズします。

例5:リレー接点の状況を報告する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*CONTSENSE)
          LCLDCEADR(01)  RMTDCEADR(04)
```

このコマンドは、接点読み取りコマンドを実行します。メッセージが、アドレスX'04'のリモートDCEにあるリレー接点の状況を報告します。(正しいローカルDCEアドレスを、LCLDCEADRパラメーターに指定する必要があります。)

例6:送信速度を変更する

```
RUNLPDA  LINE(SDLCLINE) OPTION(*SETSPEED) LCLDCEADR(05)
          RMTDCEADR(*NONE) SPEED(*BACKUP) DTEPORT(B)
```

このコマンドは、設定送信速度コマンドを実行します。アドレスX'05'のローカルDCEのポートBに対する送信速度が、バックアップ速度に変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1BAA

LPDA-2コマンドは交換網バックアップで実行できない。

CPF1BAB

LPDA-2コマンドはターゲットのDCEでサポートされていない。

CPF1BAC

必要な機能が導入されていない。

CPF1BAD

LPDA-2コマンドはDCE構成と互換性がない。

CPF1BA1

回線記述&1が存在していない。

CPF1BA2

回線&1が非活動状態であるか、またはオンへ構成変更されていない。

CPF1BA3

回線&1は活動状態の2次である。

- CPF1BA4**
RUNLPDAの処理中に回線&1で障害。
- CPF1BA5**
LPDA-2コマンドの応答がない。
- CPF1BA6**
回線&1でLPDA-2コマンドを実行できない。
- CPF1BA7**
RUNLPDAデータで使用可能なバッファがない。
- CPF1BA8**
LPDA-2コマンドは回線&1ですでに活動状態である。
- CPF1BBA**
最初の呼び出しで連続応答トーンを受信した。
- CPF1BBB**
2番目の呼び出しで連続応答トーンを受信した。
- CPF1BBC**
交換接続で回線信号がない。
- CPF1BBD**
初期のダイヤル音がない。
- CPF1BBE**
停止した後にダイヤル音がない。
- CPF1BBF**
使用中のトーンをリモートDCEから受信した。
- CPF1BB0**
カプラーがローカルDCEに導入されていない。
- CPF1BB1**
カプラーが操作不能である。
- CPF1BB2**
LPDA-2コマンドは構成オプションでは正しくない。
- CPF1BB3**
電話番号が正しくない。
- CPF1BB5**
交換接続がすでに活動状態である。
- CPF1BB6**
電話番号は1つしか使用可能でない。
- CPF1BB7**
電話番号は2つ必要である。
- CPF1BB8**
最初の呼び出しでリモートDCEから返答がない。
- CPF1BB9**
2番目の呼び出しでリモートDCEから返答がない。

CPF1BDA

RUNLPDAコマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF1BDB

内部処理エラー。

CPF1BDC

必要な機能が操作可能になっていない。

CPF1BDD

リング・バックの限界を超えた。

CPF1BDE

DCEは使用中。LPDA-2コマンドは実行できない。

CPF1BDF

LPDA-2呼び出しコマンドの回線が適切な状態でない。

CPF1BD3

DCEは現在前のLPDA-2コマンドを処理中である。

CPF1BD5

リモートDCEにコマンドを送信できない。

CPF1BD6

回線記述&1は非交換*SDLCでない。

CPF1BD8

要求が正常に実行されなかった。システム保守ツールは活動状態です。

CPF1BD9

RUNLPDAコマンドは交換回線をサポートしない。

CPF1B85

2線式カプラーが導入されていない。

CPF1B86

カプラーが導入されていない。

CPF1B87

送信速度は変更できない。

CPF1B88

構成で選択したDTEポートが正しくない。

CPF1B94

ローカルDCEがリモートDCEから応答を受け取っていない。

CPF1B95

回線記述&1の使用は認可されていない。

CPF1B97

受信した応答の形式が正しくない。

CPF1B98

不良フレーム検査文字列のある応答を受け取った。

OFC8DB7

内部処理の障害。

QUERY実行 (RUNQRY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY実行(RUNQRY)コマンドは既存のQUERYプログラムを実行しますが、このコマンドにファイル名だけが指定された場合には、省略時のQUERYプログラムが実行されます。QUERYプログラムはシステム・データベースから情報を得て、その情報の報告書を作成します。報告書は、詳細形式か要約形式のいずれかで作成されます。印刷装置またはデータベース・ファイルへの出力を指定した場合には、QUERYの定義を印刷することができます。出力は、表示されるか、印刷されるか、またはデータベース・ファイルに記憶されます。このコマンドは、次の3つの方法で使用されます。つまり、既存のQUERYプログラム（すでに作成されているQUERYプログラム）を実行するため、既存のQUERYプログラムの値の一部をこのコマンドに指定した値によって変更して実行するため、あるいは省略時の値およびこのコマンドに指定した値にだけ基づいて省略時のQUERYプログラムを実行するためです。

- QUERYプログラムに対する1つまたは複数のファイルを変更せずに既存のQUERYプログラムを実行するためには、(QRYFILEパラメーターではなく) QRYパラメーターを使用して、QUERYプログラムの名前を指定します。
- 既存のQUERYプログラムの変更されたバージョンを実行するためには、QRYパラメーターおよび該当するパラメーターを使用し、必要に応じて定義を変更します。このパラメーターに指定されたパラメーター値によって、既存のQUERY定義の中の対応する値が一時変更されますが、それはこのコマンドが処理されている時だけです。例えば、QUERYプログラムで使用する別のファイルまたはファイルのリストを指示するためには、QRYFILEパラメーターを使用してください。
- 前に定義されたQUERY定義がないファイルにQUERYプログラムを実行するためには、QRYFILEパラメーターを使用して、QUERYプログラムを実行するファイルを指定します。省略時のQUERYプログラムの場合には、1つのファイル名だけを指定することができます。

QRYとQRYFILEの両方のパラメーターを指定した場合には、QRYFILEパラメーターに指定されたファイルにより、QUERYプログラムに指定されたファイル名が一時変更されます。したがって、QUERY定義に複数のファイル（およびメンバー）が定義されていて、それらの1つまたは2つを変更したい場合には、ファイルの選択項目には変更なしを意味する*SAMEを指定し、一時変更するファイルの値を指定してください。

注:

1. 既存のQUERYプログラムの変更されたバージョンが実行された場合には、RUNQRY コマンドで指定された変更ではQUERY定義それ自体のいかなる値も**変更されません**。それらは、実行中の報告書の結果にだけ影響します。
2. (QRYパラメーターで識別された) 既存のQUERYプログラムが使用された場合には、未指定のパラメーターの省略時の値は*RUNOPTになります。つまり、QUERYの定義で指定された（またはみなされた）同じ値が省略時の値として使用されます。これが省略時のQUERYプログラムである場合には、省略時の値は*RUNOPTにはなりませんが、構文図にリストされた次の事前定義値となります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
QRY	QUERY	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
QRYFILE	QUERYファイル	値 (最大 32 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *SAME	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *RUNOPT, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *RUNOPT, *FIRST, *LAST, *ALL	
OUTTYPE	報告出力のタイプ	*RUNOPT, *DISPLAY, *PRINTER, *OUTFILE	オプション, 定位置 3
OUTFORM	出力書式	*RUNOPT, *DETAIL, *SUMMARY	オプション
RCDSLT	レコード選択	*NO, *YES	オプション
PRTDFN	QUERY定義の印刷	*RUNOPT, *NO, *YES	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *RUNOPT, *PRINT	オプション
FORMSIZE	用紙サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 用紙の長さ	1-255, *RUNOPT	
	要素 2: 用紙の幅	1-378, *RUNOPT	
FORMTYPE	用紙タイプ	文字値, *RUNOPT, *STD	オプション
COPIES	コピー枚数	1-255, *RUNOPT	オプション
LINESPACE	行送り	*RUNOPT, 1, 2, 3	オプション
OUTFILE	出力ファイル	要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *RUNOPT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *RUNOPT, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *RUNOPT, *FIRST, *LAST, *ALL	
要素 3: オプション	*RUNOPT, *NEWFILE, *RPLFILE, *NEWMBR, *RPLMBR, *ADDMBR		
AUT	権限	名前, *RUNOPT, *LIBCRTAUT, *USE, *CHANGE, *ALL, *EXCLUDE	オプション

上

QUERY (QRYパラメーター)

実行する既存のQUERYプログラムの名前を指定します。QRYを指定しない場合には、QRYFILEを指定しなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

既存のQUERY定義は使用されません。その代わりに省略時のQUERYプログラム（または即時QUERYプログラム）を使用して、QRYFILEパラメーターで指定されたファイルから情報が取り出されます。

QUERYプログラム名

実行するQUERYプログラムの名前を指定してください。

値を指定しない場合には、QUERYの定義時に指定された1つまたは複数のファイルにQUERYプログラムが実行されます。

QUERYプログラムの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

指定されたQUERY定義を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

QUERYが入っているライブラリーを指定してください。

上

QUERYファイル (QRYFILEパラメーター)

情報のQUERYが実行される1つまたは複数のデータベース・ファイルを指定します。QRYパラメーターを指定した場合には、ファイル名を使用するかまたは1つまたは複数のファイルに省略時の値の*SAMEを使用するか、あるいはその両方を使用することによって、このパラメーターに最大32個までのファイルを指定することができます。QRYパラメーターを指定しない場合には、このパラメーターに1つのファイル名だけを指定することができます。QRYFILEを指定しない場合には、QRYを指定しなければなりません。

値を指定しない場合には、QUERYの定義時に指定された1つまたは複数のファイルがQUERYプログラムの実行に使用されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターには次の2つの部分があります。

要素1：データベース・ファイル名

考えられる値は、次の通りです。

データベース・ファイル名

システムが情報を取り出して出力を作成するデータが入っている1つまたは複数のデータベース・ファイルの名前を指定してください。最高32個までのファイルを指定することができます。

***SAME**

ファイルのリストは、QUERY定義に定義されたのと同じまま残ります。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***SAME**

ライブラリー、ファイル、およびメンバーの値は、リスト中のこの位置のファイルについては変更されません。値は、QUERYに定義されたのと同じです。ライブラリー、ファイル、およびメンバーについて指定された値は、すべて無視されます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLが使用されます。

***RUNOPT**

ファイルの選択に指定されたライブラリーを使用します。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

要素2：データベース・ファイル・メンバー

メンバー名に指定できる値は次のとおりです。

メンバー名

照会するファイル・メンバーの名前を指定します。

***RUNOPT**

このファイルの選択に指定されたメンバーを使用します。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーを照会します。

***LAST**

ファイルの最後のメンバーを照会します。

***ALL** 入力ファイルは、区分テーブルで、ファイル中のすべてのメンバーがQUERY対象となります。

上

報告出力のタイプ (OUTTYPEパラメーター)

QUERYプログラムによって作成された報告書または出力の送り先を指定します。値がQUERY定義に指定されずに、コマンドに値が入力されていない場合、あるいはQUERY定義名を指定していない場合には、*DISPLAYとみなされます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義を使用している場合には、QUERY定義で指定されている出力のタイプが、このQUERYプログラムの実行時に作成される出力のタイプになります。

***DISPLAY**

QUERYプログラムによって作成された出力は、コマンドを実行している表示装置に送られます。バッチで実行中の場合には、出力は表示装置の代わりに印刷装置に送られます。

***PRINTER**

QUERYプログラムによって作成された出力が印刷されます。

***OUTFILE**

出力はOUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。

上

出力書式 (OUTFORMパラメーター)

QUERYプログラムによって作成される出力の形式を指定します。QUERYプログラムに値が指定されておらず、コマンドでも値が入力されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、*DETAILとみなされます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義で指定されている出力形式がこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。

***DETAIL**

QUERYプログラムによって作成される出力形式は、詳細レコードおよび要約レコード（ある場合）を含む報告書です。

***SUMMARY**

QUERYプログラムによって作成される出力形式は、要約レコードだけを含む報告書です。

上

レコード選択 (RCDSLTPARAMETER)

実行時選択テスト付きでQUERYプログラムを実行するかどうかを指定します。

注: *YESを指定するには、Query for i5/OSライセンス・プログラムが導入されていて、QUERYが対話式に実行されていなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** QUERYのレコード選択画面を表示しないでQUERYプログラムが実行されます。

***YES** この実行に対してのみのレコード選択定義を使用することができます。QUERYプログラムに定義されているレコード選択テストを変更するか、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合にレコード選択テストを指定することができる表示画面が表示されます。

注: 表示装置への出力の場合には、QUERYプログラムを反復実行することができます。

上

QUERY定義の印刷 (PRTDFNパラメーター)

QUERYプログラムの実行時に、QUERY定義を報告書と一緒に印刷するかどうかを指定します。この定義は、OUTTYPEパラメーターによって決められた通りにQUERYプログラムの出力を印刷またはデータベース・ファイルに記憶する時に、印刷することができます。QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、値は*NOとみなされます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERYプログラムの実行時にQUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定されている印刷オプションが使用されます。

***NO** QUERYプログラムの実行時にQUERY定義は印刷されません。

***YES** QUERY定義が報告書に印刷されます。OUTTYPE(*DISPLAY)が指定されているか、またはそれを使用するとみなされている場合には、*YESを指定することはできません。

上

印刷装置 (PRTDEVパラメーター)

報告書を印刷する印刷装置を指定します。値を指定しない場合には、QUERYの定義時に指定された印刷装置とみなされます。QUERYプログラムまたはこのパラメーターに印刷装置が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、値は*PRINTとみなされます。

注: 印刷装置ファイルQPQUPRFILに対して一時変更が有効となっている場合には、その一時変更で指定された値がこのパラメーターに使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義で指定されている印刷装置がこのQUERYプログラムの実行時に出力の印刷に使用されます。

***PRINT**

このQUERYプログラムの実行時に、QPQUPRFILによって定義された省略時の印刷装置が出力の印刷に使用されます。

印刷装置名

このQUERYプログラムの実行時に出力の印刷に使用される印刷装置の名前を指定します。

上

用紙サイズ (FORMSIZEパラメーター)

報告書を印刷する用紙の長さおよび幅を指定します。132より大きい用紙の幅が指定された場合には、QUERYプログラムはCPI(15)およびFONT(*CPI)のファイルをオープンします。QUERY定義またはこのパラメーターに値が指定されない場合、あるいはQUERY定義名が指定されない場合には、132が用紙の幅とみなされ、ファイルQPQUPRFILからの値が用紙の長さとしてみなされます。

注: 印刷装置ファイルQPQUPRFILに対して一時変更が有効となっている場合には、その一時変更で指定された値がこのパラメーターに使用されます。

このパラメーターには次の2つの部分があります。

要素1: 用紙の長さ

***RUNOPT**

QUERYプログラムを実行する時にQUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定された用紙サイズが使用されます。QUERY定義に指定された用紙サイズがブランクの場合には、QPQUPRFILからの値とみなされます。

用紙の長さ

このQUERYプログラムの実行時に使用される用紙の長さを指定してください。有効な値の範囲は1-255です。

要素2：用紙の幅

***RUNOPT**

QUERYプログラムを実行する時にQUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定された用紙サイズが使用されます。QUERY定義に指定された用紙サイズがブランクの場合には、QPQUPR FILからの値とみなされます。

用紙の幅

このQUERYプログラムの実行時に使用される用紙の幅を指定してください。有効な値の範囲は1から378です。

上

用紙タイプ (FORMTYPEパラメーター)

出力を印刷する用紙のタイプを指定します。用紙のタイプを指示するために使用されるIDはユーザー定義のもので、最大10文字の長さとすることができます。

注：QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、QPQUPR FILの中の値とみなされます。印刷装置ファイルQPQUPR FILに対して一時変更が有効となっている場合には、その一時変更で指定された値がこのパラメーターに使用されません。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義で指定されている用紙タイプがこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。

用紙タイプ

このQUERYプログラムの実行時に使用される用紙のタイプを指定してください。

上

コピー枚数 (COPIESパラメーター)

印刷するコピー数を指定します。

注：QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、コピー数は1とみなされます。印刷装置ファイルQPQUPR FILに対して一時変更が有効となっている場合には、その一時変更で指定された値がこのパラメーターに使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定されているコピー数がこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。QUERY定義に指定されたコピー数がブランクの場合には、QPQUPR FILからのコピー数とみなされます。

コピー数

このQUERYプログラムの実行時に印刷するコピー数を指定してください。1-255 の範囲の数を指定してください。

行送り (LINESPACEパラメーター)

報告書の行間に残す空白行の数を指定します。この数は1-3の範囲です。QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、値は1とみなされます。

考えられる値は、次の通りです。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義で指定されている行数がこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。

- 1 QUERYプログラムの出力の印刷時に1行間隔（空白行なし）が使用されることを指示します。
- 2 QUERYプログラムの出力の印刷時に2行間隔（1空白行）が使用されることを指示します。
- 3 QUERYプログラムの出力の印刷時に3行間隔（2空白行）が使用されることを指示します。

出力ファイル (OUTFILEパラメーター)

QUERYプログラムの出力を受け取るデータベース・ファイルがあれば、これを指定します。このパラメーターに値を指定しない場合には、QUERY定義に指定されているライブラリー、ファイル、メンバー、およびオプションとみなされます。QUERY定義が指定されていない場合には、ファイルQQRVOUTが省略時の出力ファイル・ライブラリーに作成されます。このライブラリーはQUERYプロファイルの中に定義されているか、または（プロファイルが存在しない場合には）現行ライブラリー(*CURLIB)となります。この新しいファイルの最初のメンバー(*FIRST)が出力に使用されます。

注: 現行ライブラリーを指定しなかった場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

OUTFILEパラメーターによって指定された名前が存在していない場合には、システムがそれを指定されたライブラリーの中に作成します。

このパラメーターには次の3つの部分があります。

要素1: データベース・ファイル名 考えられる値は次の通りです。

データベース・ファイル名

QUERYプログラムの出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

***RUNOPT**

QUERYプログラムの出力を受け取るために、QUERY定義に指定されたデータベース・ファイルが使用されます。ファイル、ライブラリー、メンバー、およびオプションは変更できません。ここでライブラリー、メンバー、およびオプションに指定された値は、すべて無視されます。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***RUNOPT**

QUERY定義に指定されている場合には、出力はQUERY定義に名前が指定されたライブラリーに向けられます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

使用されるライブラリーの名前を指定してください。

要素2：データベース・ファイル・メンバー

指定できるメンバー値は次のとおりです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーを使用してQUERYプログラムの出力を受け取ります。

***LAST**

ファイルの最後のメンバーを使用してQUERYプログラムの出力を受け取ります。

***RUNOPT**

QUERY定義で指定されているメンバーを使用してQUERYプログラムの出力を受け取ります。

***ALL** 出力ファイルは、区分テーブルで、ファイル中のすべてのメンバーがQUERY出力の受け取りに使用されます。メンバーに*ALLを指定する時には、**要素3 データ・オプション**は*RPLMBRまたは*ADDMBRにしか設定できません。QUERYの実行時には、この区分テーブルは存在していなければなりません。

メンバー名

指定するファイル・メンバーを使用してQUERYプログラムの出力を受け取ります。

要素3：データの追加または置き換え

最後のオプションは、データを新しいデータベース・ファイルに入れるか、既存のデータベース・ファイルを置き換えるか、新しいメンバーを追加するか、既存のメンバーを置き換えるか、またはデータを既存のメンバーに追加するかどうかを指定します。QUERYプログラムまたはこのパラメーターに値が指定されていない場合、あるいはQUERYプログラム名が指定されていない場合には、値は*NEWFILEとみなされます。

***RUNOPT**

QUERY定義が使用されている場合には、QUERY定義に指定されているメンバー・オプションがこのQUERYプログラムの実行時に使用されます。

***NEWFILE**

出力は新しいデータベース・ファイルに書き出されます。メンバー名を*ALLに設定した時には、このオプションは無効です。

***RPLFILE**

出力は、古いファイルを削除し、新しいファイルを作成します。メンバー名を*ALLに設定した時には、このオプションは無効です。

***NEWMBR**

出力は新しいメンバーとして追加されます。メンバー名を*ALLに設定した時には、このオプションは無効です。

***RPLMBR**

既存のメンバーが消去されてから、出力が追加されます。

***ADDMBR**

出力は既存のメンバーの最後に追加されます。

権限 (AUTパラメーター)

出力ファイルに対する特定権限がないユーザー、権限リストに含まれないユーザー、および出力ファイルに対する特定権限がないユーザー・グループのユーザーに与えられる権限を指定します。このパラメーターの詳細説明は、AS/400 CL (制御言語) 解説書(SC88-5339)の付録Aにあります。

注: 出力ファイルが作成または置き換えられる時にだけ、権限が割り当てられます。

考えられる値は、次の通りです。

*RUNOPT

QUERY定義で指定されている場合には、QUERY定義で指定されている権限が使用されます。

*LIBCRTAUT

出力ファイルに対する共通認可は、ターゲット・ライブラリー (出力ファイルが入れられるライブラリー) のCRTAUTパラメーターの値から入手されます。この共通認可は、出力ファイルの作成時に決定されます。出力ファイルの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

所有者に限定されているか、あるいはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作を除いて、出力ファイルに対するすべての操作を実行することができます。出力ファイルについて基本機能を変更し、それを実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***USE** 出力ファイルに対してプログラムの実行またはファイルの読み取りといった基本操作を実行することができます。出力ファイルを変更することはできません。*USE権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

***ALL** 所有者に限定されているか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される操作を除いて、出力ファイルに対するすべての操作を実行することができます。

*EXCLUDE

出力ファイルにアクセスすることはできません。

権限リスト名

使用される権限リストの名前を指定してください。

例

例1:合計レコードのみを印刷

```
RUNQRY  QRY(LIBX/QRY1)  OUTTYPE(*PRINTER)
        OUTFORM(*SUMMARY) COPIES(4)
```

このコマンドは、ライブラリーLIBXにあるQUERY QRY1を実行します。作成され印刷される報告書には、合計レコードだけが含まれます。報告書の4コピーが印刷されます。

例2:省略時QUERYを実行

```
RUNQRY  QRYFILE((LIBX/FILE2 *FIRST))  
        OUTTYPE(*OUTFILE)  OUTFORM(*DETAIL)  
        RCDSL(*YES)  OUTFILE(LIB2/OUT1 MBR4 *NEWMBR)
```

このコマンドは、省略時のQUERYを実行し、ライブラリーLIBXにあるファイルFILE2の最初のメンバーからデータを取得します。メンバーMBR4が、新しいメンバーとしてライブラリーLIB2のファイルOUT1に作成されます。メンバーMBR4には、省略時QUERYからの出力が入ります。レコード選択画面が表示され、ライブラリーLIBXのファイルFILE2からライブラリーLIB2のファイルOUT1の新しいメンバーMBR4に書き込むレコードを指定することができます。この出力には、明細レコードだけが含まれます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

リモート・コマンド実行 (RUNRMTCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・コマンド実行(RUNRMTCMD)コマンド (リモート・ロケーション名にSNA アドレスが指定された時には、AREXECとも言われる) によって、ユーザーは、この機能のターゲット部分を実行しているリモート・システムでコマンドを実行することができます。

この機能の可能なターゲット部分は次の通りです。

- アドレス・タイプに*IPを指定した場合は、**REXECD** (リモート実行) デーモン
- アドレス・タイプに*SNAを指定した場合は、**AREXECD** (APPCリモート実行) デーモン。

コマンドをリモート・システムに送信する時には、ローカル・システムはコマンドの完了を待って、リモート・コマンドからの出力をスプール・ファイルに入れます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMD	コマンド	文字値	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値	
	要素 2: タイプ	<u>*SNA</u> , *IP	
RMTUSER	リモート・ユーザーID	文字値, * <u>NONE</u> , *CURRENT	オプション
RMTPWD	リモート・パスワード	文字値, * <u>NONE</u>	オプション
MODE	モード	通信名, * <u>NETATR</u>	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, * <u>CALC</u>	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	2-3600, * <u>NOMAX</u> , *NOWAIT	オプション

上

コマンド (CMD)

ターゲット・システムで実行されるべきコマンドを表わすために、最大2000桁までの文字ストリングを指定します。ターゲット・システムでサポートされる最大長は2000 桁以下となることがあります。 ターゲット・システムでサポートされる最大長を超えるコマンド・ストリングを指定した場合には、コマンドは正常に実行されません。

組み込み空白または特殊文字がコマンドに入っている場合には、そのコマンドは単一引用符で囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

注: ローカル・システムの引用符付きストリングの中では対の単一引用符とする通常の規則は、このCMDパラメーター上のリモート・システムに同じストリングを投入する際には、二重にしなければなりません。ユーザーが別の引用符付きストリングの中に1つの引用符付きストリングをコーディングするためには、これが必要となります。したがって、このパラメーターをコーディングする場合には、単一の引用符がもう1つの引用符と通常通り対になっていても、ターゲット・システムで同じ結果を得るためには、内側のセットの単一引用符内にある各オカレンスは二重にしなければなりません。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ターゲット・システムおよびターゲット・システムとの接続に使用される接続のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: 名前またはアドレス

文字値 この要素の構文規則は、2番目の要素に指定する値に依存します。

- アドレス・タイプが*SNAの場合には、ターゲット・システムの名前をNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定し、ここのNNNNNNNNはネットワークID (ID)であり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。ネットワークIDを指定しない場合には、ネットワーク属性は省略時のネットワークIDを判別するために使用されます。
- アドレス・タイプが*IPの場合には、ホスト名またはIPアドレスを指定して、ターゲット・システムを識別してください。ホスト名は次の規則に従わなければなりません。
 - 最初の文字はAからZまたは0から9でなければなりません。
 - 最後の文字はAからZ, 0から9,またはピリオド(.)でなければなりません。
 - ブランク()は使用できません。
 - 特殊文字のピリオド(.), 下線(_), およびマイナス(-)は使用することができます。
 - ピリオド(.)で区切られた名前の各部分の長さは63桁を超えることができません。

注: ピリオド(.)で区切られた名前の各部分は、英語の英字または数字で開始し終了していません。

- 名前の長さは1から255桁の範囲内でなければなりません。

IPv4アドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定しますが、NNNは0-255の範囲の10進数です。IPv4インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。

IPv6アドレスは、x:x:x:x:x:x:xの形式で指定しますが、xは0-X'FFFF'の範囲の16進数です。IPv6アドレス中で"::"を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。"::"は、アドレス中の先行、内蔵、または後続のゼロを圧縮するために使用されます。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスを単一引用符で囲まなければなりません。

要素2: タイプ

***SNA** ターゲット・システムはシステム・ネットワーク体系(SNA)アドレスおよびプロトコルを使用してアクセスされます。

***IP** ターゲット・システムは、ホスト名またはTCP/IP接続上のIPアドレスを使用して検出されます。

上

リモート・ユーザーID (RMTUSER)

ターゲット・システムのユーザーID (ID)を指定します。このパラメーターにユーザーIDが指定され、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、RMTPWD(*NONE)は正しくありません。

***NONE**

ユーザーIDは送信されません。ターゲット・システムの機密保護でユーザーIDが必要と構成された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

***CURRENT**

このコマンドを使用するジョブのユーザーID (サインオン・ユーザー) が送信されます。

文字値 ターゲット・システム上に存在し、使用するユーザーIDを指定します。ユーザーIDを指定し、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、パスワードを指定しなければなりません。

上

リモート・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送信されるパスワードを指定します。

***NONE**

システムはパスワードを送信しません。RMTUSERパラメーターにユーザーID (ID)を指定して、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、コマンドは正常に実行されません。

文字値 ターゲット・システムに送られるパスワードを指定して、RMTUSERパラメーターに指定されたユーザーIDのサインオンを検査します。***IP**のアドレス・タイプを指定した場合には、送信されるパスワードは通信回線上で置き換えられません。***SNA**を指定した場合には、リモート・システムがパスワードの置き換えをサポートしているかどうかによって、パスワードの置き換えが行なわれることもあるし、行なわれないこともあります。

上

モード (MODE)

ターゲット・システムにコマンドを送信する時に使用するモードの名前を指定します。このパラメーターを使用できるのは、アドレス・タイプの値が***SNA**の場合だけです。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

通信名 使用したいモード・オブジェクトの名前を指定してください。8桁のブランク文字からなるモード名の場合には、BLANKを指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であり、指定することはできません。

上

コード化文字セットID (CCSID)

変換に使用されるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。データをリモート・システムに送信する時には、データはジョブのCCSIDを使用して、CCSID パラメーターに指定されたCCSIDに変換されます。同様に、データをリモート・システムから受信する時には、データはCCSIDパラメーターに指定されたCCSIDからジョブのCCSIDに変換されます。

制約事項:

1. ジョブのCCSIDが65535である（変換なしを示す）場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。
2. このコマンドでは、データをソースCCSIDからターゲットCCSIDに変換する時に、往復変換方式を使用します。CCSID変換方式の詳細については、各国語サポートの資料を参照してください。

*CALC

ターゲット・システムから送信されるCCSIDの値が使用可能な場合には、それが使用されます。ターゲット・システムから値が指定されていない場合には、省略時の値の00819(ISO 8859-1 8ビットASCII)が使用されます。

1から65533

使用するCCSID値を指定します。この値は、有効なCCSIDが要求されたことを確認するために、妥当性検査されます。

上

待ち時間（秒数）(WAITTIME)

リモート・ロケーションに到達不能と宣言する前に戻り（エコー）を待機する時間（秒数）を指定します。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

*NOWAIT

作動可能で使用可能な接続があると、システムは即時に戻ります。

2-3600 待機する秒数を指定してください。

上

例

例1: SNAアドレス・タイプを使用したリモート・コマンド(RUNRMTCMD)の実行

```
RUNRMTCMD  CMD('dir')  RMTLOCNAME(APPN.RMTSYS *SNA)
```

このコマンドは、SNAアドレス・タイプを使用した'RMTLOCNAME'で指定されたシステム上で'DIR'コマンドを実行します。

例2: SNAアドレス・タイプを使用したリモート・コマンド(AREXEC)の実行

```
AREXEC  CMD('DIR')  RMTLOCNAME(APPN.RMTSYS)
```


このコマンドは、例1のコマンドと同等です。

例3:ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびホスト名を使用したリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('ls')  RMTLOCNAME(MYSYS.NET1.LOCAL *IP)
```

このコマンドは、ホスト名MYSYS.NET1.LOCALで指定されたシステム上で'LS'コマンドを実行します。

例4:ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびインターネット・アドレスを使用したリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('ls')  RMTLOCNAME('9.5.1.94' *IP)
```

このIPアドレス'9.5.1.94'で指定されたシステム上で'LS'コマンドを実行します。

例5:ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびインターネット・アドレスを使用した複数コマンドから成るリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('ls; cat myfile; date')  
           RMTLOCNAME('9.5.1.94' *IP)
```

このコマンドは、IPアドレス'9.5.1.94'で指定されたシステム上で複数のコマンド（最初に'ls',次に'cat myfile',次に'date'）を実行します。

例6:待ち時間満了値を指定したリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('dir')  RMTLOCNAME(APPN.RMTSYS *SNA)  
           WAITTIME(15)
```

このコマンドは、指定されたシステム上で'DIR'コマンドを実行します。応答するためのリモート・ロケーションの最大待ち時間は、15秒です。待ち時間が許されるのは、*SNAアドレス・タイプ値を使用する場合だけです。

例7:ターゲット・システムを指定するIPアドレス・タイプおよびIPv6アドレス・タイプを使用したリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('ls')  RMTLOCNAME('2001:D88::1' *IP)
```

このコマンドは、IPv6アドレス'2001:D88::1'で指定されたシステム上で'ls'コマンドを実行します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF91CB

コマンドに問題が起こったが、コマンドは完了した。

CPF91CC

コマンドは正常に完了しなかった。

CPF91CF

リモート・システム上のコマンドが正しく実行されなかった。

CPF91C9

RMTLOCNAMEアドレス・タイプに*IPが指定された時はMODE値を使用できない。

RNDCコマンドの実行 (RUNRNDCCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RNDCコマンドの実行 (RUNRNDCCMD)コマンドまたはその別名RNDCは、リモート名デーモン制御ユーティリティを開始します。このコマンドによって、ローカル・システムで稼働しているドメイン・ネーム・システム(DNS)を制御できます。

制約事項:

- パス/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYNのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- /QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYNディレクトリー・ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、RNDC構成ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- RNDC構成ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、RNDCキー・ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- キー・ファイルに対して読み取り(*R)権限が必要です。
- ユーザーには、出力ファイルのパスのディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- 出力ファイルが存在する場合にはそのファイルに対する書き込み(*W)権限が必要です。
- 出力ファイルがまだ存在しない場合には、出力ファイルの親ディレクトリーに対する、読み取り、書き込み、および実行(*RWX)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RNDCCMD	RNDCコマンド	文字値	必須, 定位置 1
DMNNAMSVR	ドメイン・ネーム・サーバー	文字値, <u>*DFT</u>	オプション, 定位置 2
PORT	DNSポート	1-65535, <u>953</u>	オプション, 定位置 3
RNDCCFGF	RNDC構成ファイル	パス名, <u>*DFT</u>	オプション
SRCADR	ソース・アドレス	文字値, <u>*DFT</u> , *ANY4, *LOOPBACK4, *ANY6, *LOOPBACK6	オプション
KEYFILE	鍵ファイル	パス名, <u>*DFT</u>	オプション
KEYNAME	鍵名	文字値, <u>*DFT</u>	オプション
DEBUG	デバッグ情報の表示	<u>*NO</u> , *YES	オプション
TOSTMF	出力ファイル	パス名, <u>*STDOUT</u>	オプション

上

RNDCコマンド (RNDCCMD)

DNSサーバーに送信される制御装置コマンドを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 実行する制御装置コマンドを指定します。このコマンドは、次のいずれかにする必要があります。

```
reload
  構成ファイルおよびゾーンを再ロードする
reload zone [class [view]]
  単一ゾーンを再ロードする
refresh zone [class [view]]
  ゾーンの即時保守をスケジュールする
retransfer zone [class [view]]
  製造番号を検査せずに単一ゾーンを転送する
freeze zone [class [view]]
  動的ゾーンへの更新を延期する
thaw zone [class [view]]
  凍結された動的ゾーンへの更新を使用可能にして、
  再ロードする
reconfig
  構成ファイルおよび新規ゾーンのみを再ロードする
stats
  サーバー統計を統計ファイルに書き込む
querylog
  QUERYロギングを切り替える
dumpdb [-all|-cache|-zones] [view ...]
  ダンプ・ファイル(named_dump.db)へのキャッシュをダンプする
stop
  保留中の更新をマスター・ファイルに保管し、
  サーバーを停止する
stop -p
  保留中の更新をマスター・ファイルに保管して
  サーバーを停止し、プロセスIDを報告する
halt
  保留中の更新を保管せずにサーバーを停止する
halt -p
  保留中の更新を保管せずにサーバーを停止し、
  プロセスIDを報告する
trace
  デバッグ・レベルを1インクリメントする
trace level
  デバッグ・レベルを変更する
notrace
  デバッグ・レベルを0に設定する
flush
  サーバー・キャッシュをすべてフラッシュする
flush [view]
  ビューのサーバー・キャッシュをフラッシュする
flushname name [view]
  指定されたnameをサーバー・キャッシュからフラッシュする
status
  サーバーの状況を表示する
recursing
  現在繰り返されているQUERY
  (named.recursing)をダンプする
```

上

ドメイン・ネーム・サーバー (DMNNSVR)

RNDCがQUERYセッションの現行サーバーとして使用するDNSサーバーの名前またはIPアドレスを指定します。TCP/IPネットワークがアクセスするDNSサーバーを指定することができます。

注: RNDCは、情報をDNSサーバーに送信します。コマンドを送信するには、活動状態のDNSサーバーが必要です。ツールの開始時にDMNNAMSVRでDNSサーバーを指定しなかった場合には、`rndc.conf`ファイルに定義された省略時のサーバー、ポート、および鍵を使用しようと試みます。これは通常、ループバック・インターフェース127.0. 0.1およびポート953です。

***DFT** /QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.confファイルで定義された省略時のDNSサーバーを使用します。

server-domain-name

DNSサーバーの名前を指定します。これは、「`myserver.i5os.ibm.com`」のようなドメイン名です。

server-internet-address

DNSサーバーのIPアドレスを指定してください。

RNDC-server-name

`rndc.conf`ファイルのDNSサーバー名を指定します。これは「NS」のような名前にすることができます。

上

DNSポート (PORT)

使用する省略時のサーバー・ポートを指定します。

953 制御チャンネル・ポート953を使用します。

1から65535

有効なポート番号を指定します。

上

RNDC構成ファイル (RNDCCFGF)

このセッションで使用するRNDC構成ファイルを指定します。このファイルには、省略時のサーバーおよびそのサーバーのアクセス・キーを定義するアクセス・キー・ステートメントおよびオプション・ステートメントが入っています。この構成ファイルにリモート・サーバーに適用されるアクセス・キー・ステートメントおよびサーバー・ステートメントが入っている場合には、RNDCを使用して、他のシステムにあるDNSサーバーを制御することが可能です。

***DFT** 省略時の構成ファイルとして/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.confを使用します。このファイルの省略時のサーバーは、「localhost」です。

パス名 RNDC構成情報が入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。例えば、「/home/myprofile/my-rndc-conf-file」です。

上

ソース・アドレス (SRCADR)

サーバーへの接続のためのソース・アドレスを指定します。

***DFT** スタックに提供された省略時値を使用します。

***ANY4**

IPv4ワイルドカード・アドレス（「0.0.0.0」）を使用します。

***LOOPBACK4**

IPv4ループバック・アドレス（「127.0.0.1」）を使用します。

***ANY6**

IPv6ワイルドカード・アドレス（「::」）を使用します。

***LOOPBACK6**

IPv6ループバック・アドレス（「::1」）を使用します。

文字値 有効なIPv4またはIPv6インターネット・アドレスを指定してください。

上

鍵ファイル (KEYFILE)

このセッションで使用するアクセス・キー・ファイルを指定します。このファイルの鍵を使用して、サーバーに送信されるコマンドを認証します。

***DFT** 省略時のキー・ファイルとして/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.keyを使用します。

パス名 鍵情報が入っているストリーム・ファイルのパス名を指定します。例えば、
「/home/myprofile/my-rndc-key-file」です。

上

鍵名 (KEYNAME)

このセッションで使用するアクセス・キー名を指定します。このセッションで使用されているサーバーがこのキー名を知っている必要があります。キー名が指定されなかった場合には、RNDCは/QIBM/UserData/OS400/DNS/_DYN/rndc.confファイルの省略時値を使用します。

***DFT** キー名*rndc-key*を使用します。

文字値 使用するRNDCキー名を指定します。

QUERY対象のDNSサーバーは、この鍵でRNDCクライアントを許可するためには、named.conf構成ファイルにこの鍵およびアルゴリズムを含んでいる必要があります。

上

デバッグ情報の表示 (DEBUG)

デバッグ・モードをオンにするかどうかを指定します。デバッグ・モードがオンになると、サーバーに送信されるパケットおよびその結果の応答に関するさらに詳細な情報が表示されます。

***NO** デバッグ・メッセージをオフにします。

***YES** デバッグ・メッセージをオンにします。

上

出力ファイル (TOSTMF)

すべてのコマンド出力が書き込まれるストリーム・ファイルの名前を指定します。

*STDOUT

すべてのコマンド出力は、標準出力装置（通常はモニター）に送られます。

パス名 出力が書き込まれるストリーム・ファイルのパスを指定します。

上

例

例1:すべてのDNSサーバー構成および静的ゾーンの再ロード

```
RUNRNDCCMD RNDCCMD('reload')
```

このコマンドは、DNSサーバー構成および静的ゾーンに対するすべての変更の単純な再ロードを示します。

このタイプのQUERYの出力は次のようなものです。

```
server reload successful
```

同様に、rndc.confファイルのRNDC鍵が無効な場合には、このタイプのQUERYの出力は次のようなものになります。

```
rndc: connection to remote host closed
```

これは次のことを示している可能性があります。

*リモート・サーバーが古いバージョンのコマンド・プロトコルを使用している

*このホストは接続権限がない

*クロックが同期されていない

*鍵が無効である

例2:単一ゾーンの再ロード

```
RUNRNDCCMD RNDCCMD('reload i5os.ibm.com')
```

このコマンドは、「i5os.ibm.com」という名前の単一静的ゾーンの単純な再ロードを示します。

このタイプのQUERYの出力は次のようなものです。

```
zone reload up-to-date
```

ゾーンが静的ゾーンではない場合には、このタイプのQUERYの出力は次のようなものになります。

```
rndc: 'reload i5os.ibm.com' failed: dynamic zone
```

例3:キャッシュのダンプ

```
RUNRNDCCMD RNDCCMD('dumpdb -cache')
```

このコマンドは、サーバー上の活動状態のキャッシュをダンプする方法を示します。サーバー・ディレクトリーのnamed_dump.dbファイル（つまり、サーバーNSの場合はそのファイルは/QIBM/UserData/OS400/DNS/NS/named_dump.db）に出力されるため、このタイプのQUERYの出力は空です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

DNS0013

コマンド・パラメーターの処理エラー。

DNS0065

i5/OSのオプション33が必要ですが、導入されていません。

TCP7124

ライブラリー&2中のタイプ*PGMのプログラム&1が異常終了しました。

上

SQLステートメントの実行 (RUNSQLSTM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SQLステートメント実行(RUNSQLSTM)コマンドは、構造化照会言語(SQL)ステートメントのソース・ファイルを処理します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前	オプション, 定位置 2
SRCSTMF	ソース・ストリーム・ファイル	パス名	オプション
COMMIT	コミットメント制御	*CHG, *UR, *CS, *ALL, *RS, *NONE, *NC, *RR	オプション, 定位置 3
NAMING	命名	*SYS, *SQL	オプション, 定位置 4
ERRLVL	重大度レベル	0-40, 10	オプション
DATFMT	日付形式	*JOB, *USA, *ISO, *EUR, *JIS, *MDY, *DMY, *YMD, *JUL	オプション
DATSEP	日付区切り文字	*JOB, ' ', ',', '.', '-', ' ', *BLANK	オプション
TIMFMT	時刻形式	*HMS, *USA, *ISO, *EUR, *JIS	オプション
TIMSEP	時刻区切り文字	*JOB, ' ', ',', '.', '-', ' ', *BLANK	オプション
MARGINS	ソース仕様のマージン	要素リスト	オプション
	要素 1: 右マージン	1-32754, 80	
DFTRDBCOL	省略時のコレクション	名前, *NONE	オプション
SAAFLAG	IBM SQLフラグづけ	*NOFLAG, *FLAG	オプション
FLAGSTD	ANSフラグ付け	*NONE, *ANS	オプション
DECMPT	小数点	*JOB, *SYSVAL, *PERIOD, *COMMA	オプション
SRTSEQ	ソート順序	単一値: *JOB, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソート順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB	オプション
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSPRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PROCESS	ステートメント処理	*RUN, *SYN	オプション
SECLVLTX	第2レベル・テキスト	*NO, *YES	オプション
ALWCPYDTA	データのコピー可能	*OPTIMIZE, *YES, *NO	オプション
ALWBLK	ブロック化可能	*ALLREAD, *NONE, *READ	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SQLCURRULE	SQL規則	*DB2, *STD	オプション
DECRESULT	10進数結果オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 最大精度	31, 63	
	要素 2: 最大位取り	0-63, 31	
	要素 3: 割り算の最小位取り	0-9, 0	
OUTPUT	出力リスト	*NONE, *PRINT	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT	オプション
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	*NONE, *SOURCE, *STMT, *LIST	オプション
CLOSQCSR	SQLカーソルのクローズ	*ENDMOD, *ENDACTGRP	オプション
DLYPRP	PREPARE遅延	*NO, *YES	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*NAMING, *USER, *OWNER	オプション
DYNUSRPF	動的ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション

上

ソース・ファイル (SRCFILE)

実行する構造化照会言語(SQL)ステートメントが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: SQLステートメントの実行

名前 実行するSQLステートメントが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。ソース・ファイルは、データベース・ファイルまたはインライン・データ・ファイルとすることができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ソース・メンバー (SRCMBR)

実行する構造化照会言語(SQL)ステートメントが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

名前 実行するSQLステートメントが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

上

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)

SQLステートメントが入っているファイルへのパス名を指定します。パス名には、絶対パスまたは相対パスを使用できます。

上

コミットメント制御 (COMMIT)

SQLステートメントをコミットメント制御のもとで実行するかどうかを指定します。

*CHG または *UR

SQL ALTER, CALL, COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, RENAME, および REVOKE ステートメントで参照されるオブジェクトおよび更新, 削除, および挿入される行は作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができます。

***CS** SQL ALTER, CALL, COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, RENAME, および REVOKE ステートメントで参照されるオブジェクトおよび更新, 削除, および挿入される行は作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。選択されたのに更新されていない行は, 次の行が選択されるまでロックされます。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができません。

***ALL** または ***RS**

SQL ALTER, CALL, COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, RENAME, および REVOKE ステートメントで参照されるオブジェクトおよび選択, 更新, 削除, および挿入される行は作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができません。

***NONE** または ***NC**

コミットメント制御が使用されないことを指定します。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができます。SQL DROP SCHEMA ステートメントがプログラムに組み込まれている場合には, *NONE または *NC を使用しなければなりません。

***RR** SQL ALTER, CALL, COMMENT ON, CREATE, DROP, GRANT, LABEL ON, RENAME, および REVOKE ステートメントで参照されるオブジェクトおよび選択, 更新, 削除, および挿入される行は作業単位 (トランザクション) の終わりまでロックされることを指定します。他のジョブのコミットされていない変更を見ることができません。SELECT, UPDATE, DELETE, および INSERT の各ステートメントで参照されたすべてのテーブルは, 作業単位 (トランザクション) の終わりまで排他的にロックされます。

上

命名規則 (NAMING)

SQLステートメント中のオブジェクトに使用する命名規則を指定します。

***SYS** システムの命名規則 (ライブラリー名/ファイル名) が使用されます。

***SQL** SQLの命名規則 (スキーマ名, テーブル名) が使用されます。

上

重大度レベル (ERRLVL)

SQLステートメントの処理によって生成されるメッセージの重大度を基にして、その処理が成功しているかどうかを指定します。処理時に、このパラメーターに指定されている値より大きいエラーが起こると、それ以上のステートメントは実行されずに、ステートメントがコミットメント制御の下で実行されている場合には、そのステートメントはロールバックされます。ソース内の残りのステートメントで、構文検査が試行されます。

10 重大度レベルが10より大きいエラー・メッセージを受け取ると、ステートメント処理は停止します。

0から40

使用する重大度レベルを指定してください。

上

日付形式 (DATFMT)

日付結果の欄にアクセスする時に使用する形式を指定します。入力日付ストリングの場合には、指定した値は、日付が正しい形式で指定されているかどうかを判別するために使用されます。

注: 形式*USA, *ISO, *EUR,または*JISを使用する入力日付ストリングは常に有効です。

***JOB** ジョブに指定された形式が使用されます。ジョブの現行日付形式を判別するには、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用してください。

***USA** 米国日付形式MM/DD/YYYYが使用されます。

***ISO** 国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

***EUR** 欧州日付形式DD.MM.YYYYが使用されます。

***JIS** 日本工業規格(JIS)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

***MDY** 日付形式MM/DD/YYが使用されます。

***DMY** 日付形式DD/MM/YYが使用されます。

***YMD** 日付形式YY/MM/DDが使用されます。

***JUL** 年間通算日形式YY/DDDが使用されます。

上

日付区切り文字 (DATSEP)

日付の結果の欄をアクセスする時に使用する区切り記号を指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、*JOB, *MDY, *DMY, *YMD,または*JULが日付形式 (DATFMT) パラメーターに指定されている場合だけです。

***JOB** プリコンパイル時、新規対話式SQLセッションの作成時、あるいはRUNSQLSTMの実行時にジョブのために指定される日付区切り文字が使用されます。

ジョブの現行日付区切り文字を判別するには、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用してください。

’/’ スラッシュが日付区切り文字として使用されます。

- ’ ’ ピリオドが日付区切り文字として使用されます。
- ’ ’ ダッシュが日付区切り文字として使用されます。
- ’ ’ コンマが日付区切り文字として使用されます。
- ’ ’ または ***BLANK**
 ブランク()が日付区切り文字として使用されます。

上

時刻形式 (TIMFMT)

時刻結果欄にアクセスする時に使用する形式を指定します。入力時刻ストリングの場合には、指定した値は、時刻が正しい形式で指定されているかどうかを判別するために使用されます。

注: 形式*USA, *ISO, *EUR,または*JISを使用する入力時刻ストリングは常に有効です。

***HMS** HH:MM:SS形式が使用されます。

***USA** 米国時刻形式HH:MMXXが使用されます。ここで、XXはAMまたはPMです。

***ISO** 国際標準化機構(ISO)時刻形式HH.MM.SSが使用されます。

***EUR** 欧州時刻形式HH.MM.SSが使用されます。

***JIS** 日本工業規格(JIS)時刻形式HH:MM:SSが使用されます。

上

時刻区切り文字 (TIMSEP)

時刻の結果の欄をアクセスする時に使用される区切り記号を指定します。

注: このパラメーターが適用されるのは、*HMSが時刻形式 (TIMFMT)パラメーターに指定されている場合だけです。

***JOB** プリコンパイル時、新規対話式SQLセッションの作成時、あるいはRUNSQLSTMの実行時にジョブのために指定される時刻区切り文字が使用されます。

ジョブの現行時刻区切り文字を判別するには、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用してください。

- ’ ’ コロンが時刻区切り文字として使用されます。
- ’ ’ ピリオドが時刻区切り文字として使用されます。
- ’ ’ コンマが時刻区切り文字として使用されます。
- ’ ’ または ***BLANK**
 ブランク()が時刻区切り文字として使用されます。

上

ソース仕様のマージン (MARGINS)

ソース・テキストが入っているソース入力レコードの部分を指定します。左マージンは常に入力レコードの位置1です。右マージンの省略時値は80です。

ソース・ストリーム・ファイル (SRCSTMF)パラメーターが指定されている場合には、マージンは無視され
ます。

1から32754

各入力レコードで使用される終了位置を指定します。

上

省略時のコレクション (DFTRDBCOL)

テーブル、ビュー、索引、SQLパッケージ、別名、制約、外部プログラム、ノード・グループ、およびトリ
ガーの修飾されていない名前に使用されるスキーマIDの名前を指定します。このパラメーターが適用され
るのは、静的SQLステートメントに対してだけです。

*NONE

命名規則 (NAMING)パラメーターに指定された命名規則が使用されます。

名前 NAMINGパラメーターに指定された命名規則の代わりに使用するスキーマIDの名前を指定します。

上

IBM SQLフラグづけ (SAAFLAG)

IBM SQLフラグ機能を指定します。このパラメーターによって、SQLステートメントがIBM SQL構文に準
拠しているかどうかを検査するためにSQLステートメントにフラグを付けることができます。

*NOFLAG

SQLステートメントがIBM SQL構文に準拠しているかどうか確認するための検査は行われません。

*FLAG

SQLステートメントがIBM SQL構文に準拠しているかどうか確認するための検査を行います。

上

ANSフラグ付け (FLAGSTD)

非標準ステートメントにフラグを付けるかどうかを指定します。このパラメーターによって、SQLステー
トメントがCOREレベルのISO/IEC 9075-2003規格に準拠しているかどうかを検査するためにSQLステー
トメントにフラグを付けることができます。

*NONE

SQLステートメントがANSI規格に準拠しているかどうか確認するための検査は行われません。

***ANS** SQLステートメントが規格に準拠しているかどうか確認するための検査を行います。

上

小数点 (DECMPT)

SQLステートメント中の数値定数に使用する小数点値を指定します。この値は、文字と数値の間のキャス
ト時に小数点文字としても使用されます。

***JOB** 小数点の表記は、ステートメントを実行しているジョブが使用している値になります。

***SYSVAL**

QDECFMTシステム値が小数点として使用されます。

***PERIOD**

ピリオドが小数点を表します。

***COMMA**

コンマが小数点を表します。

上

ソート順序 (SRTSEQ)

SQLステートメント中のストリング比較に使用する分類順序テーブルを指定します。

単一値

***JOB** ジョブのSRTSEQ値が使用されます。

***LANGIDUNQ**

言語識別コード (**LANGID**)パラメーターに指定された言語の固有の重み付け分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

LANGIDパラメーターに指定された言語の共用重み付け分類テーブルが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: ソート順序

名前 このプログラムで使用する分類順序テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

***JOB** ジョブのLANGID値が検索されます。

言語ID

言語IDを指定してください。

上

印刷ファイル (PRTFILE)

RUNSQLSTM印刷出力の送信先の印刷装置ファイルを指定します。このファイルには、132バイトの最小長が必要です。レコード長が132バイトより小さいファイルを指定すると、情報は逸失します。

修飾子1: 印刷ファイル

QSYSPRT

RUNSQLSTM出力ファイルはIBM提供の印刷装置ファイルQSYSPRTに送られます。

名前 RUNSQLSTM出力の送信先の印刷装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 印刷装置ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ステートメント処理 (PROCESS)

ソース・ファイル・メンバー中のSQLステートメントを実行するか、あるいは構文検査のみとするかを指定します。

***RUN** ステートメントを構文検査して実行します。

***SYN** ステートメントの構文検査のみを実行します。

上

第2レベル・テキスト (SECLVLTXT)

第2レベル・メッセージ・テキスト記述を出力リストに書き込むかどうかを指定します。

***NO** 第2レベル・テキストがリストに組み込まれません。

***YES** 置換データがある第2レベル・テキストが、すべてのメッセージのリストに追加されます。

上

データのコピー可能 (ALWCOPYDTA)

データのコピーをSELECTステートメント中で使用できるかどうかを指定します。

***OPTIMIZE**

システムは、データベースから直接検索されたデータを使用するか、あるいはデータのコピーを使用するかを判別します。この判断は、どの方式で最善のパフォーマンスが得られるかに基づいて

行われます。コミットメント制御 (COMMIT)パラメーターが*NONEでない場合には、最良のパフォーマンスのために、可能な場合はブロック化可能 (ALWBLK)パラメーターを*ALLREADに設定する必要があります。

***YES** データのコピーが使用されるのは、必要な場合だけです。

***NO** データのコピーを使用しません。QUERYを実行するためにデータの一時コピーが必要な場合には、エラー・メッセージが戻されます。

上

ブロック化可能 (ALWBLK)

データベース管理機能がレコード・ブロック化およびブロック化を読み取り専用カーソルに使用できるエクステントを使用できるかどうかを指定します。

*ALLREAD

読み取り専用カーソルのために行がブロック化されます。明示的に変更できない、プログラム中のすべてのカーソルは、プログラム中にEXECUTEまたはEXECUTE IMMEDIATEステートメントがあっても読み取り専用処理用にオープンされます。

*ALLREADを指定すると、次の通りです。

- すべての読み取り専用カーソルのためにレコードのブロック化が可能になります。
- プログラム中のほとんどすべての読み取り専用カーソルのパフォーマンスを向上できますが、QUERYは次の方法で制限されます。
 - *ALLREADが指定されていると、ロールバック(ROLLBACK)コマンド、ホスト言語のROLLBACKステートメント、またはROLLBACK HOLD SQLステートメントは読み取り専用カーソルを位置変更しません。
 - 位置決めしたUPDATEまたはDELETEステートメントの動的実行（例えば、EXECUTE IMMEDIATEの使用）は、カーソルのDECLAREステートメントにFOR UPDATE文節が含まれていない限り、カーソル内の行を更新するためには使用できません。

***NONE**

行は、カーソルのデータの検索のためにブロック化されません。

*NONEを指定すると、次の通りです。

- 検索されるデータが最新であることを保証します。
- 照会のためのデータの最初の行を検索するために必要な時間が削減される場合があります。
- データベース管理機能が、QUERYがクローズされる前にQUERYの最初の数行しか検索されないと、プログラムによって使用されないデータ行のブロックの検索を停止します。
- 大量の行数を検索するQUERYのパフォーマンス全体が低下する可能性があります。

***READ**

次の場合には、レコードはカーソルのデータの読み取り専用検索のためにブロック化されません。

- コミットメント制御は使用されないことを指示する*NONEがコミットメント制御 (COMMIT)パラメーターに指定されます。
- カーソルがFOR READ ONLY文節を指定して宣言されているか、あるいはカーソルのために位置したUPDATEまたはDELETEステートメントを実行できなかった動的ステートメントがない場合。

SQL規則 (SQLCURRULE)

SQLステートメントに使用される意味体系を指定します。

***DB2** すべてのSQLステートメントの意味体系は、省略時の値により、DB2について確立された規則となります。このオプションでは、次の意味体系が制御されます。

16進定数は文字データとして取り扱われます。

***STD** すべてのSQLステートメントの意味体系は、省略時の値により、ISOおよびANSI SQL規格によって確立された規則となります。このオプションでは、次の意味体系が制御されます。

16進定数は2進データとして取り扱われます。

10進数結果オプション (DECRESULT)

結果データ・タイプとして戻される必要がある最大精度、最大位取り、および最小除算位取りを指定します。指定された限度は、演算式およびSQL列関数AVGおよびSUMで使用される数値（ゾーン）および10進（バック）データ・タイプにのみ適用されます。

要素1: 最大精度

31 結果データ・タイプとして戻される必要がある最大精度（長さ）は31桁です。

63 結果データ・タイプとして戻される必要がある最大精度（長さ）は63桁です。

要素2: 最大位取り

31 結果データ・タイプとして戻される必要がある最大位取り（小数点の右側の小数部の桁数）は31桁です。

0から63

結果データ・タイプとして戻される必要がある最大位取り（小数点の右側の小数部の桁数）を指定します。この値は0から最大精度までとすることができます。

要素3: 割り算の最小位取り

0 中間および結果の両方のデータ・タイプとして戻される必要がある最小除算位取り（小数点の右側の小数部の桁数）は0です。

0から9 中間および結果の両方のデータ・タイプとして戻される必要がある最小除算位取り（小数点の右側の小数部の桁数）を指定します。この値は最大位取りを超えることができません。最大位取りとして0が指定された場合には、最小除算位取りは使用されません。

出力リスト (OUTPUT)

プリコンパイラー・リストを生成するかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャー、関数、またはトリガーのCREATEおよびALTERステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***NONE**

プリコンパイラー・リストを生成しません。

***PRINT**

プリコンパイラー・リストを生成します。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャー、関数、またはトリガーのCREATEおよびALTERステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

ターゲット・リリースを指定する時は、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション・レベル0です。

有効な値は現在のオペレーティング・システムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

上

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

SQLによって提供されるソース・デバッグ情報のタイプを指定します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャー、関数、またはトリガーのCREATEおよびALTERステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***NONE**

デバッグ・ビュー情報は生成されません。

***SOURCE**

入力SQLソース・メンバーの中のSQLプロシージャー、関数、またはトリガーのRUNSQLSTMによって生成されるCソースのソース・ビューを生成します。Cソース・メンバーは、CRTSQLCI (SQL

ILE Cオブジェクトの作成)コマンドを呼び出すことによって、SQLプリコンパイラーに渡されます。プリコンパイラーによって作成されるCソース・メンバーのソース・ビューも、SQLプリコンパイラーによって生成されます。

***STMT**

コンパイル済みオブジェクトは、プログラム・ステートメント番号および記号IDを使用してデバッグできます。

***LIST** コンパイル済みオブジェクトをデバッグするためのリスト・ビューを生成します。

上

SQLカーソルのクローズ (CLOSQLCSR)

SQLカーソルを暗黙にクローズし、SQL準備済みステートメントを暗黙に廃棄して、LOCK TABLEロックを解放する時点を指定します。SQLカーソルが明示的にクローズされるのは、ユーザーがCLOSE、COMMIT,またはROLLBACK (HOLDを指定しない) SQL ステートメントを出した場合です。このオプションは、SQL表機能では無視されます。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャ、関数、またはトリガーのCREATEおよびALTERステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***ENDMOD**

モジュールが終了すると、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備済みステートメントは暗黙に廃棄されます。コール・スタックで最初のSQLプログラムが終了すると、LOCK TABLEロックは解放されます。

***ENDACTGRP**

活動化グループが終了すると、SQLカーソルがクローズされ、SQL準備済みのステートメントが暗黙に廃棄されて、LOCK TABLEロックが解放されます。

上

PREPARE遅延 (DLYPRP)

OPEN, EXECUTE,またはDESCRIBEステートメントが実行されるまで、PREPAREステートメントの動的ステートメント妥当性検査を遅延するかどうかを指定します。妥当性検査を遅延すると、冗長な妥当性検査を除去することによってパフォーマンスが向上します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャ、関数、またはトリガーのCREATEおよびALTERステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***NO**

動的ステートメントの妥当性検査は遅延されません。動的ステートメントの準備時に、アクセス・プランが妥当性検査されます。OPENまたはEXECUTEステートメント中で動的ステートメントを使用する時に、アクセス・プランが再妥当性検査されます。動的ステートメントによって参照される権限またはオブジェクトの存在は変更してかまわないので、動的ステートメントがまだ有効であることを確認するために、OPENまたはEXECUTEステートメントの発行後に、依然としてSQLCODEまたはSQLSTATE を検査しなければなりません。

***YES** 動的ステートメント妥当性検査は、動的ステートメントがOPEN, EXECUTE,またはDESCRIBE SQL

ステートメント中で使用されるまで遅延されます。動的ステートメントが使用されると、妥当性検査は完了して、アクセス・プランが作成されます。プリコンパイル済みプログラムのために、このパラメーターに*YESを指定すると、動的ステートメントが有効であることを確認するために、OPEN、EXECUTE、またはDESCRIBE ステートメントの実行後にSQLCODEおよびSQLSTATEを検査する必要があります。

注: *YESが指定されていると、INTO文節がPREPAREステートメントに指定されている場合、あるいはDESCRIBEステートメントが、そのステートメントのためにOPENを出す前に、動的ステートメントを使用する場合は、パフォーマンスは向上しません。

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

コンパイル済みプログラム・オブジェクトおよびSQLパッケージ・オブジェクトの実行時に使用されるユーザー・プロファイル（そのプログラム・オブジェクトおよびSQLパッケージが持っている静的SQLステートメント中の各オブジェクトの権限を含む）を指定します。所有者またはユーザーのいずれかのプロファイルは、オブジェクトへのアクセスを制御するために使用されます。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャ、関数、またはトリガーのCREATEおよびALTERステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***NAMING**

ユーザー・プロファイルは、命名規則によって判別されます。命名規則が*SQLの場合には、USRPRF(*OWNER)が使用されます。命名規則が*SYSの場合には、USRPRF(*USER)が使用されます。

***USER**

プログラムまたはSQLパッケージを実行中のプロファイルが使用されます。

***OWNER**

プログラムまたはSQLパッケージの実行時に、プログラム所有者とユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。

上

動的ユーザー・プロファイル (DYNUSRPRF)

動的SQLステートメントに使用されたユーザー・プロファイルを指定します。

注: このパラメーターは、ソース・ファイルの中のSQLプロシージャ、関数、またはトリガーのCREATEおよびALTERステートメントに対してのみ適用されます。この値は、SQLルーチンのプログラムを作成する時に使用されます。

***USER**

ローカル動的SQLステートメントは、プログラムのユーザーのプロファイルの下で実行されます。分散動的SQLステートメントは、アプリケーション・サーバー・ジョブのプロファイルの下で実行されます。

*OWNER

ローカル動的SQLステートメントは、プログラムの所有者のプロファイルの下で実行されます。分散動的SQLステートメントは、SQLパッケージの所有者のプロファイルの下で実行されます。

上

例

```
RUNSQLSTM SRCFILE(MYLIB/MYFILE) SRCMBR(MYMBR)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのファイルMYFILEにあるメンバーMYMBR中のSQLステートメントを処理します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

SQL9006

DB2 Query Manager and SQL Development Kitのインストール・レベルがオペレーティング・システムと同じでない。

SQL9010

RUNSQLSTMコマンドが正しく実行されなかった。

SQL9014

リモート接続が活動状態である。

上

アクセス・コード権限取り消し (RVKACCAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・コード権限取り消し(RVKACCAUT)コマンドにより、個々のユーザーまたはユーザー・グループについてそのアクセス・コード権限を取り消すことができます。

制約事項:

他のユーザーのアクセス・コード権限を取り消すには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
ACC	文書アクセス・コード	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 1-2047	必須, 定位置 1
USER	ユーザー・プロファイル	単一値: *CURRENT, *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2

上

文書アクセス・コード (ACC)

取り消す権限と関連したアクセス・コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** ユーザーのすべてのアクセス・コード権限が取り消されます。

1から2047

取り消す権限と関連したアクセス・コードを指定します。 最大300個のアクセス・コードをここで指定することができます。

上

ユーザー・プロファイル (USER)

取り消すアクセス・コード権限と関連したユーザー・プロファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*CURRENT

このコマンドを現在実行しているユーザーのアクセス・コード権限が取り消されることを指定しま

す。これは、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはセキュリティー管理者(*SECADM)特殊権限をもっていない場合に指定できる唯一の有効なオプションです。

注: ユーザーに権限のあるアクセス・コードから権限を除去するには、USERパラメーターに*CURRENTを指定することができます。

***ALL** すべてのユーザーからアクセス・コード権限が取り消されます。

名前 取り消すアクセス・コード権限と関連したユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

例

例1: 現行ユーザーの権限の取り消し

```
RVKACCAUT ACC(250) USER(*CURRENT)
```

このコマンドは、アクセス・コード250のアクセス・コード権限をこのコマンドを現在実行中のユーザーから取り消します。

例2: 特定ユーザーの権限の取り消し

```
RVKACCAUT ACC(300) USER(BILLY)
```

このコマンドは、アクセス・コード300のアクセス・コード権限をユーザーBILLYから取り消します。このコマンドは、*ALLOBJまたは*SECADM特殊権限をもつ誰かまたはユーザーBILLYが実行しなければなりません。自分のためにこのコマンドを実行するユーザーは、USER(*CURRENT)または自分のユーザー・プロファイル名を入力することができます。これは同じものです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9014

アクセス・コード権限が&1ユーザーから除去されたが、&2ユーザーからは取り消されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9037

ユーザー(*ALL)を指定することはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドは、コマンドに指定の1人または複数のユーザーから指定のオブジェクト（複数の場合もある）に対する特定の（またはすべての）権限を取り消すため、あるいは指定のオブジェクト（複数の場合もある）に対する権限リストの権限を除去するために使用します。このコマンドは、機密保護担当者、オブジェクトの所有者、または取り消されるオブジェクトに対するオブジェクト管理権限のあるユーザーが実行することができます。オブジェクト管理権限のあるユーザーは、ユーザーが持っている明示の権限だけを取り消すことができます。すなわち、ユーザーは、別のジョブによって割り振られた（ロックされた）オブジェクトに対する権限を認可したり取り消したりすることができない場合があります。また、現在使用中のオブジェクトに対する権限を取り消すことはできません。

注: IBM提供オブジェクトの共通権限を変更する場合には注意が必要です。例えば、QSYSOPRメッセージ待ち行列の共通権限を*CHANGEより限定的なものに変更すると、システム・プログラムに障害が起こる原因となります。システム・プログラムがQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッセージを送る十分な権限を持たないこととなります。詳細については、System i機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

制約事項:

- このコマンドが装置、制御装置、または回線記述を使用する権限を除去するために使用される前に、それと関連した装置、制御装置、または回線がオンに構成変更されていなければなりません。
- ユーザーが装置に現在サインオンしている場合は、その装置を使用する権限を取り消すことはできません。

注: ユーザーは、装置に現在サインオンしている場合は、その装置に対する自分の権限を取り消すことができます。しかし、取り消すと、予測不能な結果になることがあり、賢明ではありません。

- 表示装置の場合またはその表示装置と関連したワークステーション・メッセージ待ち行列の場合は、権限を取り消される装置からこのコマンドが実行されない場合には、このコマンドの前に、オブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンド、後にオブジェクト割り振り解除(DLCOBJ)コマンドを実行しなければなりません。
- オブジェクト・タイプ*DOCまたは*FLRを指定することはできません。
- 文書交換サポートを使用しなければなりません。
- オブジェクト・タイプ*AUTLを指定することはできません。権限リスト項目変更(CHGAUTLE)または権限リスト項目除去(RMVAUTLE)コマンドを使用しなければなりません。AUT(*AUTL)を指定できるのはUSER(*PUBLIC)の場合だけです。
- 権限リストを除去できるのは*ALL権限をもつユーザーまたは所有者だけです。
- 補助記憶域プール装置を指定する場合は、その補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。

機密保護上のリスク

オブジェクトに対して特にユーザーに付与された権限を取り消すと、ユーザーがその取り消し操作の前よりも多くの権限をもつ結果になることがあります。ユーザーがオブジェクトに対して*USE権限を持ち、その

オブジェクトを保護する権限リストに対して*CHANGE 権限を持っている場合には、*USE権限を取り消すと、ユーザーはそのオブジェクトに対して*CHANGE権限をもつことになります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL, *ALLAVL, *ALLUSRAVL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
USER	ユーザー	単一値: *ALL, *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUT	権限	単一値: *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *AUTL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *OBJALTER, *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *OBJREF, *ADD, *DLT, *READ, *UPD, *EXECUTE	オプション, 定位置 4
AUTL	権限リスト	名前	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

特定権限が取り消されるオブジェクトを指定します。 オブジェクト名に*ALLを指定した場合には、ライブラリー名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 検索で見つかったすべての指定したタイプ(OBJTYPE)のオブジェクトが、特定権限を取り消されます。 *ALLがオブジェクト名に指定されている時には、ライブラリーの名前を指定しなければなりません。

総称名 特定権限が取り消されるオブジェクトの総称名を指定します。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。例えば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 特定権限が取り消されるオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定される場合、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***ALL** **ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字Qで始まる名前をもつ次のライブラリーはIBMによって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRRDARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALLAVL

使用可能なすべてのASPのすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSRAVL

使用可能なすべてのASPのすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。ユーザー・ライブラリーの定義については、*ALLUSRを参照してください。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

特定権限が取り消されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。サポートされるオブジェクト・タイプの完全リストについては、コマンドについてプロンプトが出されている時にカーソルをこのパラメーターに置いて、F4キーを押してください。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのサポートされたオブジェクト・タイプで特定権限が取り消されます。

オブジェクト・タイプ

特定権限が取り消されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

上

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター)を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

- * 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1)、定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32)、さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

上

ユーザー (USER)

指定のオブジェクトに対する特定権限が取り消される1人以上のユーザーを指定します。

注: このパラメーターまたは**権限リスト (AUTL)**パラメーターのいずれかを指定しなければなりません。

このコマンドによって取り消される権限は、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドによって指定されたものに関連しています。GRTOBJAUTコマンドにUSER(*PUBLIC)が指定されたためにユーザーがオブジェクトに対して共通権限を与えられている場合には、このパラメーターに*PUBLICが指定された時に、その共通権限が取り消されます。GRTOBJAUTコマンドに名前が指定されたためにユーザーがオブジェクトに対して特定権限をもっている場合には、同じ権限を取り消すためにこのパラメーターにその名前を指定しなければなりません。

取り消される権限は、**権限 (AUT)**パラメーターで指定されています。

単一値

***ALL** 指定した権限は、共通権限または明示の認可のいずれであっても、所有者を除くシステムのすべての登録ユーザーから取り消されます。

*PUBLIC

オブジェクトに対して特定権限を持っていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループに権限がないユーザーから指定された権限が取り消されます。特定権限をもつユーザーは、オブジェクトに対してその権限を引き続き維持します。

その他の値 (最大50個指定可能)

名前 特定権限が取り消されるユーザーのユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このパラメーターを、特定のユーザーから共通権限を取り消すために使用することはできません。特定して取り消すことができるのは、ユーザーに特別の認可された権限だけです。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

権限(AUT)

オブジェクトに対して特定権限を持っていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループがオブジェクトに対して特定権限を持っていないユーザーから取り消される権限を指定します。

単一値

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはワークステーション・オブジェクトをアクセスすることができません。

***AUTL**

オブジェクトに対する共通権限として、AUTLパラメーターで指定された権限リストの共通権限が使用されます。

注: AUT(*AUTL)を指定できるのは、USER(*PUBLIC)も指定されている場合だけです。

その他の値 (最大10個指定可能)

***OBJALTER**

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

***OBJMGT**

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

***OBJEXIST**

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。ユーザーに特別なシステム保管権限(*SAVSYS)がある場合には、オブジェクトに対して保管/復元操作を実行するのに、オブジェクト存在権限は必要ありません。

*OBJOPR

オブジェクト操作権限は、オブジェクトの記述を見る権限、およびユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限で決められたオブジェクトを使用する権限を提供します。

*OBJREF

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

データ権限

*ADD 追加権限は、オブジェクトに項目を（例えば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

*DLT 削除権限は、オブジェクトから項目を除去する権限を提供します。

*EXECUTE

実行権限は、プログラムを実行するか、またはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

*READ

読み取り権限は、オブジェクトの項目の内容を表示し、あるいはプログラムを実行するために必要な権限を提供します。

*UPD 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

上

権限リスト (AUTL)

オブジェクト (OBJ)パラメーターに指定されたオブジェクトから取り消される権限リストを指定します。オブジェクト内の共通権限が*AUTLである場合には、それは*EXCLUDEに変更されます。

注: このパラメーターまたはユーザー (USER)パラメーターのいずれかを指定しなければなりません。このパラメーターを指定すると、AUTパラメーターは無視されます。

名前 権限リストの名前を指定してください。

上

例

例1: プログラム所有者以外のすべてのユーザーからの権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(ARLIB/PROG1) OBJTYPE(*PGM) USER(*ALL)
```

このコマンドは、ARLIBという名前のライブラリーにあるPROG1という名前のプログラム(*PGM)についての権限(AUTは指定されていないで、*CHANGEが想定される)を明示的または共通のいずれかで認可されたすべてのユーザー（所有者を除く）から除去します。

例2: プログラムを削除するオブジェクト所有者の権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(TSMITHPGM/MITHLIB) OBJTYPE(*PGM)
USER(TSMITH) AUT(*OBJEXIST)
```

このコマンドは、ライブラリー(SMITHLIB)内のプログラム(TSMITHPGM)を削除するために、オブジェクト所有者(TSMITH)権限を除去します。このオブジェクト所有者は、これを実行して、オブジェクトが間違っ
て削除されることがないようにすることができます。所有者がオブジェクトを削除する場合は、オブジェ
クト権限認可(GRTOBJAUT)を使用して、そのオブジェクトのオブジェクト存在権限を認可することができ
ます。

例3: *DLTおよび*UPD権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(FILEX) OBJTYPE(*FILE)
USER(HEANDERSON) AUT(*DLT *UPD)
```

このコマンドは、FILEXという名前のファイルに対する削除権限および更新権限をユーザーHEANDERSON
から除去します。

例4: *OBJEXIST権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(ARLIB/ARJOB) OBJTYPE(*JOB) USER(RLJOHNSON)
AUT(*OBJEXIST)
```

このコマンドは、ARJOBという名前のオブジェクト存在権限をユーザーRLJOHNSONから除去します。
ARJOBは、ARLIBという名前のライブラリー内にあるジョブ記述です。

例5: 特定権限の除去

```
RVKOBJAUT OBJ(FILEX) OBJTYPE(*FILE) AUTL(FILEUSERS)
```

このコマンドは、FILEXという名前のファイルに対する特定権限を権限リストFILEUSERS中のユーザーか
ら除去します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF22A0

*AUTLの権限は、USER(*PUBLIC)の場合にだけ使用することができる。

CPF22A1

OBJTYPE(*AUTL)は、このコマンドでは正しくない。

CPF22A2

*AUTLの権限をオブジェクト・タイプ*USRPRFに使用することはできない。

CPF22A3

AUTLパラメーターをオブジェクト・タイプ*USRPRFに使用することはできない。

CPF22A4

*PUBLICから*EXCLUDEを取り消すことはできません。

CPF22A5

&3のタイプ*&2のオブジェクト&1は権限リスト&4によって保護されていない。

CPF22DA

&2のファイル&1の操作は許可されていない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2210

オブジェクト・タイプ*&1に対する操作は許されていない。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2224

&3のタイプ*&2のオブジェクト&1に対する権限の取り消しは認可されていない。

CPF2227

コマンドの処理中に1つ以上のエラーが起こった。

CPF2236

AUTの入力値はサポートされていない。

CPF2243

ライブラリー名&1にOBJ(総称名)またはOBJ(*ALL)を使用することはできない。

CPF2253

ライブラリー&2に&1のオブジェクトが見つからなかった。

CPF2254

&1要求のライブラリーが見つからなかった。

CPF2273

ユーザー&4の&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の権限は変更されていないと考えられる。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

STATUS メッセージ*CPF2256**

すべてのオブジェクトまたはすべてのユーザーからは権限が取り消されませんでした。

上

共通権限の取り消し (RVKPUBAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

共通権限取り消し(RVKPUBAUT)は、共通権限を*EXCLUDEに変更することによって、IBM提供のコマンドおよびプログラムのセットの使用を制限します。どのコマンドおよびプログラムが制限されるかを判別するには、プログラムQSECRVKPに対してCLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドを出して、RTVCLSRCコマンドによって作成されたソース・ファイルを調べてください。

制約事項:このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

このコマンドは、次のステップによって機密保護管理者がカスタマイズすることができます。

1. プログラムQSECRVKPに対してCLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドを出します。
2. RTVCLSRCコマンドから作成したソース・コードを編集し、新しいプログラムをコンパイルします。そのプログラムに新しい名前が指定されていて、QSYS以外のライブラリー中に作成され、*PUBLIC権限が*EXCLUDEに設定されていることを確認してください。
3. 共通権限取り消しコマンドに対してコマンド変更(CHGCMD)を出して、PGMパラメーターにユーザーの新しいプログラムを指定します。この1つの例は次にリストされています。

CHGCMD CMD(QSYS/RVKPUBAUT) PGM(ライブラリー名/新規プログラム名)

注: プロダクトのアップグレードが行われたか、RVKPUBAUTコマンドが再導入されたか、あるいはRVKPUBAUTコマンドに対して保守が適用された場合には、コマンドのカスタマイズのためにCHGCMDを再び発行する必要があります。

特記事項: IBM社は、検索されたQSECRVKPソース・コードおよびいかなるプログラムについて、その信頼性、保守容易性、パフォーマンス、または機能を保証または暗示するものではありません。特殊な目的での商品性および可用性の暗黙の保証は明示的に放棄するものです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	名前, <u>QSYS</u>	オプション

上

ライブラリー (LIB)

IBM提供のコマンドを見つけるライブラリーの名前。コマンドは2次言語ライブラリー中で見つけることができるので、ライブラリー値だけが使用されます。

QSYS コマンドはライブラリーQSYSにあります。

ライブラリー名

コマンドが入っているライブラリー。

上

例

RVKPUBAUT LIB(QSYS)

このコマンドは、ライブラリーQSYS中のコマンドおよびプログラムに対する共通権限を*EXCLUDEに設定します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

上

ユーザー認可取り消し (RVKUSRPMN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー認可取り消し(RVKUSRPMN)コマンドにより、1ユーザー（またはすべてのユーザー）から、他のユーザーに代わって文書またはフォルダーにアクセスするユーザー認可を取り消すことができます。

注: このコマンドの実行中に他のユーザーに代わって処理を行う場合には、すでに開始されている機能は完了しますが、追加の機能は受け入れられません。

制約事項:

他のユーザーの文書権限を取り消すには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FROMUSER	FROMユーザー・プロファイル	名前, *ALL	必須, 定位置 1
FORUSER	ユーザー・プロファイル	単一値: *CURRENT その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2

上

FROMユーザー・プロファイル (FROMUSER)

認可が取り消されるユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ユーザー・プロファイル (FORUSER)パラメーターに指定されたユーザーの代行処理がもう許可されていない、そのユーザー・プロファイルの名前を指定します。

***ALL** 他のユーザーに代わって処理を行うことを現在認可されているすべてのユーザーは、もはやそうすることを認可されません。

上

ユーザー・プロファイル (FORUSER)

FROMユーザー・プロファイル (FROMUSER)パラメーターで指定されるユーザーの代行処理をもう実行できない、そのユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。

*CURRENT

FROMユーザー・プロファイル (**FROMUSER**)パラメーターで指定されたユーザーは、もはや代行処理を行うことができません。

名前 他のユーザーにもはや代行処理を認可しないユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

例

```
RVKUSRPMN FROMUSER(JOHNSON) FORUSER(ANDERSON)
```

このコマンドは、ユーザー権限をANDERSONに対するJOHNSONから取り消します。ユーザーJOHNSONはANDERSONの代行処理をもう実行することはできません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9008

ユーザーの代行認可が&1ユーザーに対し取り消されたが、&2ユーザーに対しては取り消されなかった。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

ワークステーション・オブジェクト権限取消 (RVKWSOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・オブジェクト権限取り消し(RVKWSOAUT)コマンドは、I5/OSグラフィックス操作プログラムで使用されるワークステーション・オブジェクトに対する権限を取り消すために使用します。このコマンドで指定した1人以上のユーザーから特定権限またはすべての権限を取り消すことができます。また、指定したオブジェクトの権限リストの権限を取り消すこともできます。

このコマンドを入力できるのは、機密保護担当者、オブジェクト所有者、または権限が取り消されるオブジェクトに対してオブジェクト管理権限を持っているユーザーです。AUTパラメーターに特定権限(*ALL以外の)が指定されていてその権限が取り消されない場合には、取り消されなかった権限を示すメッセージが出されます。

機密保護上のリスク

オブジェクトに対して特別にユーザーに与えられたすべての権限を取り消すと、ユーザーがその取り消し操作の前よりも多くの権限をもつことがあります。ユーザーがオブジェクトに対して*USE権限を持ち、そのオブジェクトを保護する権限リストに対して*CHANGE 権限を持っている場合には、*USE権限を取り消すと、ユーザーはそのオブジェクトに対して*CHANGE権限をもつこととなります。

制約事項:

- オブジェクト管理(*OBJMGT)権限を持っている場合には、認可されている明示の権限だけを取り消すことができます。
- ユーザーは、別のジョブに割り振られた（ロックされた）オブジェクトに対する権限を認可したり取り消したりすることができない場合があります。また、現在使用中のオブジェクトに対する権限を取り消すことはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
WSOTYPE	ワークステーション・オブジェクト・タイプ	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1:	*TPLWRKARA, *WRKARA, *TPLPRTOL, *PRTOL, *TPLPRTL, *PRTL, *TPLOUTQ, *TPLOUTQL, *OUTQL, *TPLJOB, *JOB, *TPLJOBQ, *TPLJOBLOG, *JOBLOG, *TPLJOBQL, *JOBQL, *TPLMSG, *MSG, *TPLMSGQ, *TPLMSGSD, *MSGSD, *TPLSGNUSL, *SGNUSL, *TPLOBJ, *OBJ, *TPLLIB, *LIB, *TPLLIB, *LAUNCH, *TPLLAUNCH, *PRSET	
USER	ユーザー	単一値: *ALL, *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾子リスト	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ユーザー	名前	
AUT	権限	単一値: *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *AUTL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *ADD, *DLT, *READ, *UPD	オプション, 定位置 3
AUTL	権限リスト	名前	オプション

上

ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)

特定権限が取り消されるワークステーション・オブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*TPLWRKARA

作業域テンプレートに対する権限が取り消されます。

*WRKARA

作業域オブジェクトに対する権限が取り消されます。

*TPLPRTOL

印刷装置出力リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

*PRTOL

印刷装置出力リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

*TPLPRTL

印刷装置リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

- *PRTL**
印刷装置リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。
- *TPLOUTQ**
出力待ち行列テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *TPLOUTQL**
出力待ち行列リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *OUTQL**
出力待ち行列リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。
- *TPLJOBL**
ジョブ・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *JOBL**
ジョブ・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。
- *TPLJOBQ**
ジョブ待ち行列テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *TPLJOBLOG**
ジョブ・ログ・テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *JOBLOG**
ジョブ・ログ・オブジェクトに対する権限が取り消されます。
- *TPLJOBQL**
ジョブ待ち行列リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *JOBQL**
ジョブ待ち行列リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。
- *TPLMSGL**
メッセージ・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *MSGL**
メッセージ・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。
- *TPLMSGQ**
メッセージ待ち行列テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *TPLMSGSEND**
メッセージ送信元テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *MSGSEND**
メッセージ送信元オブジェクトに対する権限が取り消されます。
- *TPLSGNUSL**
サインオン・ユーザー・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *SGNUSL**
サインオン・ユーザー・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。
- *TPLOBJL**
オブジェクト・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。
- *OBJL**
オブジェクト・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLLIBSL**

ライブラリー・リスト・テンプレートに対する権限が取り消されます。

***LIBSL**

ライブラリー・リスト・オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***TPLLIB**

ライブラリー・テンプレートに対する権限が取り消されます。

***TPLLAUNCH**

ジョブ送信者テンプレートに対する権限が取り消されます。

***LAUNCH**

ジョブ送信者オブジェクトに対する権限が取り消されます。

***PRSET**

個人設定オブジェクトに対する権限が取り消されます。

上

ユーザー (USER)

指定のオブジェクトに対する特定権限が取り消される1人以上のユーザーを指定します。

このコマンドによって取り消される権限は、ワークステーション・オブジェクト権限認可(GRTWSOAUT)コマンドによって認可されるものと関連があります。GRTWSOAUTコマンドでUSER(*PUBLIC)が指定されたためにユーザーがオブジェクトに対して共通権限を持った場合には、このパラメーターに*PUBLICを指定するとその共通権限が取り消されます。GRTWSOAUTコマンドで名前が指定されたためにユーザーがオブジェクトに対して特定権限を持った場合には、このパラメーターにそれらの名前を指定して同じ権限を取り消さなければなりません。

取り消される権限は、**権限 (AUT)**パラメーターに指定されているものです。

注: このパラメーターまたはAUTLパラメーターのいずれかを指定しなければなりません。

***ALL** AUTパラメーターで指定された権限は、共通権限または明示の認可のいずれであっても、所有者を除くシステムのすべての登録ユーザーから取り消されます。

***PUBLIC**

オブジェクトに対して特定権限を持っていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループに権限がないユーザーから指定された権限が取り消されます。特定権限をもつユーザーは、オブジェクトに対してその権限を引き続き維持します。

名前 特定権限が取り消されるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このパラメーターを、特定のユーザーから共通権限を取り消すために使用することはできません。特定して取り消すことができるのは、ユーザーに特別の認可された権限だけです。

上

権限(AUT)

オブジェクトに対して特定権限を持っていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループがオブジェクトに対して特定権限を持っていないユーザーから取り消される権限を指定します。

単一値

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはワークステーション・オブジェクトをアクセスすることができません。

*AUTL

オブジェクトに対する共通権限として、AUTLパラメーターで指定された権限リストの共通権限が使用されます。

注: AUT(*AUTL)を指定できるのは、USER(*PUBLIC)も指定されている場合だけです。

その他の値 (最大10個指定可能)

*OBJALTER

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

*OBJMGT

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

*OBJEXIST

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。ユーザーに特別なシステム保管権限(*SAVSYS)がある場合には、オブジェクトに対して保管/復元操作を実行するのに、オブジェクト存在権限は必要ありません。

*OBJOPR

オブジェクト操作権限は、オブジェクトの記述を見る権限、およびユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限で決められたオブジェクトを使用する権限を提供します。

*OBJREF

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

データ権限

***ADD** 追加権限は、オブジェクトに項目を（例えば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限は、オブジェクトから項目を除去する権限を提供します。

*EXECUTE

実行権限は、プログラムを実行するか、またはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

*READ

読み取り権限は、オブジェクトの項目の内容を表示し、あるいはプログラムを実行するために必要な権限を提供します。

***UPD** 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

上

権限リスト (AUTL)

WSOTYPEパラメーターで指定されたオブジェクトから取り消される権限リストを指定します。オブジェクトの共通権限が*AUTLの場合には、*EXCLUDEに変更されます。その後で権限リストの権限は除去されます。

注：このパラメーターまたはUSERパラメーターのいずれかを指定しなければなりません。このパラメーターを指定すると、AUTパラメーターは無視されます。

名前 権限リストの名前を指定してください。

上

例

```
RVKWSOAUT WSOTYPE(*SGNUSL) USER(HEANDERSON) AUT(*DLT *UPD)
```

このコマンドは、サインオン・ユーザー・リスト・オブジェクトに対する削除権限および更新権限をユーザー・プロファイル名HEANDERSONから除去します。

上

エラー・メッセージ

不明

上

オブジェクトの保管 (SAV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管(SAV)コマンドは、統合ファイル・システムで使用することができる1つまたは複数のオブジェクトのコピーを保管します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- ルート・ディレクトリーで名前パターンを用いてオブジェクトを保管するため、ライブラリー内のオブジェクトを保管するため、および文書ライブラリー・オブジェクトを保管するために、このコマンドを使用する際の制約事項の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 1
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前	パス名, <u> </u>	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE , *OMIT	
PATTERN	名前パターン	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, <u> </u>	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE , *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL , *DIR, *NONE, *OBJ, *STG	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO , *YES, *SYNC	オプション
SAVACTOPT	活動状態保管オプション	*NONE , *ALL, *ALWCKPWRT, *NWSSTG	オプション
OUTPUT	出力	パス名, *NONE , *PRINT	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *GEN	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, <u> </u>	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES , *NO	オプション
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	パス名, *NONE , *WRKSTN	オプション
SYNCID	同期 ID	名前, *NONE	オプション
INFTYPE	出力情報のタイプ	*ALL , *ERR, *SUMMARY	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SYSTEM	システム	*ALL, *LCL, *RMT	オプション
CHGPERIOD	最終変更の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付, *ALL, *LASTSAVE	
	要素 2: 開始時刻	時刻, *ALL	
	要素 3: 終了日付	日付, *ALL	
	要素 4: 終了時刻	時刻, *ALL	
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
UPDHST	ヒストリー更新	単一値: *NO, *YES その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *SYS, *PC	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
DTACPR	データ圧縮	*YES, *NO, *DEV, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *DFT, *ALLAVL, *, *SYSBAS, *CURASGRP	オプション
SCAN	オブジェクト・スキャン	要素リスト	オプション
	要素 1: 保管中のスキャン	*NO, *YES	
	要素 2: 保管に失敗したオブジェクト	*NOSAVFAILED, *SAVFAILED	
PVTAUT	私用専用権限	*NO, *YES	オプション

上

装置 (DEV)

オブジェクトの保管先の装置を指定します。

装置パス名の指定の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションの「装置名の指定」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

’保管ファイルのパス名’

オブジェクトの保管に使用される保管ファイルのパス名を指定してください。

’光ディスク装置のパス名’

オブジェクトの保管に使用される光ディスク装置のパス名を指定してください。

’テープ媒体ライブラリー装置のパス名’

オブジェクトの保管に使用されるテープ媒体ライブラリー装置のパス名を指定してください。

‘テープ装置のパス名’

オブジェクトの保管に使用されるテープ装置のパス名を指定してください。最大4つのテープ装置を指定することができます。仮想テープ装置を使用する場合には、指定された装置のみでなければなりません。

‘媒体定義パス名’

保管データを入れるのに使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトのパス名を指定します。

媒体定義の作成の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれるAPIトピック・コレクションの媒体定義作成APIを参照してください。

媒体定義の使用の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)、およびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションのサーバー・バックアップ・トピックを参照してください。

上

オブジェクト (OBJ)

保管するオブジェクトを指定します。使用するパス名のオブジェクト名パターンを指定することができます。多くのオブジェクトと一致する可能性があるパス名が指定された場合には、**名前パターン (PATTERN)** パラメーターに値を指定して、保管するオブジェクトをサブセット化することができます。

最大300個のパス名を指定することができます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの名前規則」を参照してください。

オブジェクト名パターンの詳細説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素1: 名前

‘**’ 現行ディレクトリーのオブジェクトが保管されます。

パス名 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクトのパス名またはパターンを指定してください。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって指定変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトが保管されます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトは保管されません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

上

名前パターン (PATTERN)

保管するオブジェクトをサブセット化するために使用する1つ以上のオブジェクト名パターンを指定します。 **オブジェクト (OBJ)**パラメーターは、候補オブジェクトのセットを定義します。最大300の値をこのパラメーターに指定することができます。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素1: パターン

* 操作について限定する全オブジェクトが組み込まれるか除外されます。

文字値 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクト名またはパターンを指定します。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって指定変更されない限り、保管に組み込まれるのは、OBJパラメーターによって組み込まれ、かつPATTERNパラメーターと一致するオブジェクトだけです。

***OMIT**

PATTERNパラメーターと一致するオブジェクトを除き、OBJパラメーターによって組み込まれたすべてのオブジェクトが保管に組み込まれます。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを保管操作に含めるかどうかを指定します。

***ALL** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーのサブツリー全体が含まれます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

***DIR** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーの第1レベルにあるオブジェクトが含まれます。一致した各ディレクトリーのサブディレクトリーは含まれますが、そのサブディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***NONE**

サブツリーは保管操作に含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致した場合には、そのディレクトリーのオブジェクトが含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがあった場合には、サブディレクトリーもそのサブディレクトリー内のオブジェクトも含まれません。

***OBJ** オブジェクト名パターンと完全に一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名パターンがディレクトリーを指定している場合には、ディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***STG** オブジェクト名パターンに一致するオブジェクトが関連オブジェクトの記憶域とともに処理されます。この値を使用してオブジェクトを復元できるのは、そのオブジェクトがSUBTREE(*STG)を使用して保管された場合だけです。

上

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: システムが制限状態にある場合には、このパラメーターは無視され、保管操作はSAVACT(*NO)が指定されたものとして実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***YES** オブジェクトを同時に保管および使用することができます。オブジェクトのチェックポイントは異なる時点で起こすことができます。

***SYNC**

オブジェクトを同時に保管および使用することができます。すべてのオブジェクトのチェックポイントは同時に起こります。

上

活動状態保管オプション (SAVACTOPT)

活動状態保管パラメーターで使用するオプションを指定します。

***NONE**

特殊な活動状態保管オプションは使用されません。

***ALL** 下記のすべてのオプションは、保管操作時に使用されます。オプションの処理のされ方を判断するには、個々の値の記述を参照してください。

***ALWCKPWRT**

オブジェクトに対応するシステム属性が設定されている場合には、オブジェクトの更新時にそのオブジェクトを保管することができます。

注: このオプションは、アプリケーションに対応していて追加のバックアップおよび回復の考慮事項をもつオブジェクトを保管するアプリケーションによってのみ使用されます。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションを参照してください。

*NWSSTG

ディレクトリー「/QFPNWSSTG」にあるネットワーク・サーバー記憶スペースが活動状態のときに保管されるようにします。

上

出力 (OUTPUT)

保管したオブジェクトについての情報のリストを作成するかどうかを指定します。情報は、スプール・ファイル、ストリーム・ファイル、またはユーザー・スペースを対象とすることができます。

ストリーム・ファイルまたはユーザー・スペースは、パス名として指定されます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

*NONE

出力は作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

'ストリーム・ファイルのパス名'

コマンドの出力が向けられる既存のストリーム・ファイルのパス名を指定してください。

'ユーザー・スペースのパス名'

コマンドの出力が向けられる既存のユーザー・スペースのパス名を指定してください。

上

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

最大75のボリュームIDを指定することができます。指定されるすべてのボリュームが入力された後に、装置にあるどのボリュームについても保管操作が続行されます。

単一値

***MOUNTED**

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。 媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

ラベル (LABEL)

保管操作に使用される媒体のファイルIDを指定します。

***GEN** ファイル・ラベルがシステムによって作成されます。

- ライブラリー中のオブジェクトの場合には、これはオブジェクト保管(SAVOBJ)およびライブラリー保管(SAVLIB)コマンドのLABEL(*LIB)と等価になります。
- 文書ライブラリー・オブジェクトの場合には、これは文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドのLABEL(*GEN)と等価になります。
- その他のファイル・システムのオブジェクトの場合には、ラベルはSAVYYYYMMDDとなります。

文字値 保管操作に使用されるテープ・ファイルのID (最高17桁) を指定してください。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

上

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注：

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注：このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

上

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

保管操作により、チェックポイント処理が完了したことをユーザーに通知するために使用されるメッセージ待ち行列を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

***NONE**
通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**
通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

パス名 使用するメッセージ待ち行列のパス名を指定します。

上

同期 ID (SYNCID)

この活動時保管操作が参加する同期チェックポイントの名前を指定します。同期チェックポイントは、開始保管同期 (STRSAVSYNC)コマンドによって既に開始されている必要があります。

***NONE**
この活動時保管操作のチェックポイントは、他のどの活動時保管操作とも同期されていません。

名前 同期チェックポイントの名前を指定します。名前を指定する場合には、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターに値*SYNCを指定する必要もあります。

上

出力情報のタイプ (INFTYPE)

スプール・ファイル、ストリーム・ファイル、またはユーザー・スペースを対象とする情報のタイプを指定します。

***ALL** ファイルには、コマンド、各ディレクトリーの項目、正常に保管された各オブジェクトの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目についての情報が入ります。

***ERR** ファイルには、コマンド、各ディレクトリーの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目についての情報が入ります。

***SUMMARY**

ファイルには、コマンドおよび各ディレクトリーの項目についての情報が入ります。

上

システム (SYSTEM)

ローカル・システムまたはリモート・システムに存在しているオブジェクトを処理するかどうかを指定します。

***LCL** ローカル・オブジェクトだけが処理されます。

***RMT** リモート・オブジェクトだけが処理されます。

***ALL** ローカルおよびリモートの両方のオブジェクトが処理されます。

上

最終変更の期間 (CHGPERIOD)

日付／時刻の範囲を指定します。その範囲内に最後に変更されたオブジェクトが保管されます。

要素1: 開始日付

***ALL** 開始日は指定されません。終了日前に最後に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

***LASTSAVE**

最後にUPDHST(*YES)を指定して保管した後で変更されたオブジェクトが保管されます。**注:**

1. この値を指定した場合には、このパラメーターの他のすべての要素に値*ALLを指定しなければなりません。
2. ローカル・ファイル・システムの場合には、システムの保存属性が使用されます。 リモート・ファイル・システムの場合には、PCの保存属性が使用されます。

日付 変更されたオブジェクトがそれより後に保管される日付を指定します。この日付はジョブ日付形式で入力しなければなりません。

要素2: 開始時刻

***ALL** すべての時刻が範囲内に含まれます。

時刻 変更されたオブジェクトがそれより後に保管される開始日の時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド入力行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

注: 明示時刻の指定が有効なのは、開始日が明示日付である場合だけです。

要素3: 終了日付

***ALL** 終了日は指定されません。開始日以降に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

日付 変更されたオブジェクトがそれより前に保管される日付を指定します。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

要素4: 終了時刻

***ALL** すべての時刻が範囲内に含まれます。

時刻 変更されたオブジェクトがそれより前に保管される終了日の時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド入力行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

注: 明示時刻の指定が有効なのは、終了日が明示日付である場合だけです。

上

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

選択したオブジェクトが保管できなかった場合に保管操作を終了するかどうかを指定します。

***NO** 保管操作は終了しません。保管できるオブジェクトは保管されます。

***YES** 保管操作が終了します。選択したすべてのオブジェクトを保管できる場合以外は、なにも保管されません。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

*PRV オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

履歴更新 (UPDHST)

この保管操作で保管したオブジェクトの保管履歴を更新するかどうかを指定します。この保管履歴情報は、後で保管操作にCHGPERIOD(*LASTSAVE)が指定された時に使用されます。

単一値

*NO 選択したオブジェクトの保管履歴で、この保管操作は更新されません。

*YES 保管履歴が更新されます。ローカル・ファイル・システムの場合には、システムの保管履歴が更新されます。リモート・ファイル・システムの場合には、PCの保管履歴が更新されます。

その他の値 (最大2個指定可能)

*SYS システムの保管履歴が更新されます。

*PC PCの保管履歴が更新されます。

上

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのポ

リユーム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリユームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリユームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリユームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリユーム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリユームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリユームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリユームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注：*AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリユームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注：*DEVがこのパラメーターとデータ短縮 (COMPACT)パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

上

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVがデータ圧縮 (DTACPR)パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

上

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

***DFT** 操作では、保管されるオブジェクトが入っているファイル・システムに適切なASPDEV値が使用されます。統合ファイル・システム・オブジェクトの場合、*ALLAVLが使用されます。QSYSファイル・システムのオブジェクトの場合、対応する保管コマンドのASPDEVの省略時値が使用されません。

***ALLAVL**

操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),および使用可能なすべての独立ASPが組み込まれます。

* 操作にはシステムASP,すべての基本ユーザーASP,さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

***SYSBAS**

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

***CURASGRP**

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

上

オブジェクト・スキャン (SCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、保管中にオブジェクトをスキャンするかどうか、および前にスキャンに失敗したオブジェクトを保管する必要があるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

要素1: 保管中のスキャン

***NO** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

***YES** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムで記述された規則に従ってスキャンされます。

要素2: 保管に失敗したオブジェクト

***NOSAVFAILED**

前にスキャンに失敗したかあるいはこの保管中にQIBM_QPOL_SCAN_OPEN出口プログラムによるスキャンに失敗したオブジェクトは、保管されません。

***SAVFAILED**

前にスキャンに失敗したかあるいはこの保管中にスキャンに失敗したオブジェクトは、保管されません。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

保管されたオブジェクトで、専用権限を保管するかどうかを指定します。専用権限の保管によって、オブジェクトを保管するために必要な時間が増加しますが、オブジェクトまたはオブジェクト・グループのリカバリーを単純化できます。システム全体のリカバリーを単純化するわけではありません。

***NO** どの専用権限も保管されていません。

***YES** 保管された各オブジェクトについて、専用権限が保管されています。

注: この値を指定するには、システム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

例

例1:ライブラリー内にはない、または文書ライブラリー・オブジェクトでないすべてのデータの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ((/*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT))
```

このコマンドは、ライブラリー内にはない、文書ライブラリー・オブジェクトでないすべてのオブジェクトを保管します。

例2:オブジェクトが最後に保管された時刻以降の変更の保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ((/*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT))
      CHGPERIOD(*LASTSAVE)
```

このコマンドは、ライブラリー内になく、文書ライブラリー・オブジェクトではなく、また、UPDHST(*YES)の指定によって最後に保管された時刻以降に変更されたすべてのオブジェクトを保管します。

例3: 1999年以降変更されていないデータの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ((/*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT))
      CHGPERIOD(*ALL *ALL '12/31/99')
```

このコマンドは、ライブラリー内になく、文書ライブラリー・オブジェクトではなく、また、1999年12月31日以降変更されていないすべてのオブジェクトを保管します。

例4:現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
```

このコマンドは、OBJパラメーターの省略時の値「*」を使用して、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトおよびそのサブディレクトリーを保管します。この例は、現行ディレクトリーがルート・ディレクトリーである場合、あるいは現行ディレクトリーがQDLSファイル・システムの中にある場合は無効です。

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD') OBJ('/*') SUBTREE(*NONE)
```

このコマンドは、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを保管しますが、サブディレクトリー内のオブジェクトは保管しません。

例5:保管操作時のオブジェクトの除外

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ(('*') ('**.BACKUP' *OMIT) ('**.TEMP' *OMIT))
```

このコマンドは、.BACKUPおよび.TEMPの拡張子をもつオブジェクトを除き（これらの拡張子をもつディレクトリーのサブツリー全体は除外されます）、現行ディレクトリー内のすべてのオブジェクトを保管します。

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/A') ('/A/B/C' *OMIT))
```

このコマンドは、ディレクトリー/A/B/Cにあるオブジェクトを除き、ディレクトリー/Aおよびそのサブディレクトリーのすべてのオブジェクトを保管します。

例6:ライブラリーの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')  OBJ('/QSYS.LIB/A.LIB')
```

このコマンドは、ライブラリーAをTAP01という名前のテープ装置で保管します。

例7:2つのライブラリーの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')  OBJ('/QSYS.LIB/A.LIB')
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')  OBJ('/QSYS.LIB/B.LIB')
```

これらの2つのコマンドは、2つのライブラリーを保管します。最初のコマンドはライブラリーAを保管し、2番目のコマンドはライブラリーBを保管します。

例8:ライブラリー内のすべてのファイルの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/*.FILE')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのすべてのファイルをTAP01という名前のテープ装置で保管します。

例9:ライブラリー内の2つのオブジェクトの保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYPGM.PGM')
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE')
```

これらの2つのコマンドは、同じライブラリー内の2つのオブジェクトを保管します。この最初のコマンドは、プログラムMYPGMをライブラリーMYLIBから保管します。2番目のコマンドは、ファイルMYFILEをライブラリーMYLIBから保管します。

例10 :ストリーム・ファイル、データベース・ファイル、および文書の保管

```
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')  OBJ('/MYDIR/MYFILE')
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE')
SAV  DEV('/QSYS.LIB/TAP01.DEVD')
      OBJ('/QDLS/MYFLR/MYDOC')  SUBTREE(*OBJ)  UPDHST(*YES)
```

この例では、3つのオブジェクトを保管するために3つのコマンドが使用されます。最初のコマンドは、ディレクトリーMYDIRのストリーム・ファイルMYFILEをTAP01という名前のテープ装置で保管します。2番目のコマンドは、MYLIBという名前のライブラリーのデータベース・ファイルMYFILEをTAP01という名前のテープ装置で保管します。3番目のコマンドは、MYFLRという名前のフォルダーの文書MYDOCをTAP01という名前のテープ装置で保管します。

例11 :保管ファイルへの保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYSAVF.FILE') OBJ(MYDIR)
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRをMYSAVFという名前の保管ファイルに保管します。

例12 :保管操作のためのシンボリック・リンクの使用

```
SAV DEV('DEVLINK')
    OBJ(('DIRLINK') ('FILELINK') ('DIRLINK/*'))
    SAVACT(*YES) SAVACTMSGQ('MSGQLINK')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーに次のシンボリック・リンクが含まれていることを前提とします:

- DEVLINK = /QSYS.LIB/TAP01.DEVD
- DIRLINK = /SOMEDIRECTORY
- FILELINK = /SOMEDIRECTORY/SOMEFILE
- MSGQLINK = /QSYS.LIB/LIB1.LIB/MSGQ1.MSGQ

このコマンドは、DIRLINKおよびFILELINKと関連した名前とSOMEDIRECTORY内のオブジェクトを装置TAP01に保管します。活動状態保管チェックポイントが完了した時に、メッセージが送られます。

シンボリック・リンクは、装置、活動状態保管メッセージ待ち行列、および出力ファイルを指定するために使用することができます。保管するシンボリック・リンクが指定された場合には、関連したオブジェクトの名前だけが保管され、その関連したオブジェクトの内容は保管されません。ディレクトリーに対するシンボリック・リンクは、ディレクトリー内のオブジェクトを保管するために使用することができます。シンボリック・リンクに関する追加情報は、INFORMATION CENTERの「ファイル・システムおよび管理」カテゴリの「統合ファイル・システム」トピックにあります。

例13:活動時の記憶域スペースの保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYSAVF.FILE')
    OBJ(('QFPNWSSTG/MYDISK'))
    SAVACT(*YES) SAVACTOPT(*NWSSTG)
```

このコマンドは、関連した*NWSDがオンに変更されていても、記憶域スペース「/QFPNWSSTG/MYDISK」に関連したオブジェクトを保管します。

例14: Windows, Linux,またはAIXサーバーからの共用の保管

```
SAV DEV('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYSAVF.FILE')
    OBJ(('QNTC/MYSERVER/MYSHARE'))
```

このコマンドは、共用MYSHAREおよび共用に含まれる「/QNTC/MYSERVER」という名前のサーバーからのすべてのオブジェクトを保管します。この例では、SAVコマンドの実行前にサーバーMYSERVERが正常に構成されていることを想定しています。Windows, Linux,およびAIXサーバーのファイル・レベル・バックアップの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションを参照してください。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA0DB

オブジェクトがQSYS.LIBオブジェクトではありません。オブジェクトは&1です。

CPFA0DC

オブジェクトがQDLSオブジェクトではありません。オブジェクトは&1です。

CPF3708

&2の保管ファイル&1が小さすぎる。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域が限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF377D

内部システム資源の読み取りエラーのために保管が終了した。

CPF377E

活動時保管要求に記憶域が不十分である。

CPF378A

メッセージ待ち行列が使用できない。

CPF378C

SAVACTMSGQ(*WRKSTN)はバッチ・ジョブでは正しくない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF37B9

同期ID &1が使用中である。

CPF37BC

同期ID &1は終了しました。待機時間を超えました。

CPF37BD

同期ID &1は終了しました。チェックポイント前に保管が終了しました。

CPF37BE

同期ID &1が開始されていない。

CPF380D

システム全体の保管または復元が異常終了した。

CPF3808

&3の保管ファイル&2は完了していない。

CPF381D

CHGPERIODパラメーターの値が正しくない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF382B

複数ファイル・システムでパラメーターが正しくない。

CPF382C

QSYSファイル・システムについてのOBJパラメーター値が正しくない。

CPF382E

指定されたパラメーターがQDLSファイル・システムには正しくない。

CPF382F

QDLSファイル・システムに対してOBJパラメーター値が正しくない。

CPF3823

オブジェクトが保管または復元されなかった。

CPF3826

OBJパラメーターに*INCLUDEオブジェクトが必要である。

CPF3828

&1を使用しようとした時にエラーが起こった。

CPF3829

指定されたパラメーターがQSYSファイル・システムには正しくない。

CPF383A

保管または復元が正常に終了しなかった。

CPF383B

ファイル&1の終わり。

CPF383D

&1を使用することができない。

CPF3833

DEVパラメーターに指定された値が正しくない。

CPF3834

DEVパラメーターに指定された値が多すぎる。

CPF3835

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3837

&1個のオブジェクトが保管された。&2が保管されていません。

CPF3838

&1個のオブジェクトが保管された。&2個のオブジェクトは保管されていません。

CPF384A

ボリューム識別コード&1は正しくない。

CPF384B

指定された光ディスク・ファイルが正しくない。

CPF384C

CCSIDの変換中にエラーが起こった。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF386B

&1を保管できない。

CPF386C

&1を保管できない。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A5

PATTERNパラメーターでエラー。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

上

APARデータの保管 (SAVAPARDTA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APARデータ保管(SAVAPARDTA)コマンドによって、ユーザーは正式問題分析報告書(APAR)に必要な情報を保管することができます。

制約事項:

- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用権限を受けています。
 - QPGMR
 - QSYSOPR
 - QSRV
 - QSRVBAS

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PRBID	問題識別コード	文字値, *NEW	必須, 定位置 1

上

問題識別コード (PRBID)

APARデータが保管されることになる、その問題のID (ID)を指定します。

***NEW** このAPARを記録するためにオープン問題ログ・レコードが作成されます。

文字値 APARデータが保管される、その問題のIDを指定します。

上

例

SAVAPARDTA PRBID(*NEW)

このコマンドは、APARデータが保管されるオープン問題ログを作成します。リスト画面上にある選択項目を指示することで、ユーザーは保管するデータを選択します。このデータはAPARライブラリーに保管されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF39FA

問題&1 &2 &3が見つからない。

CPF39FF

SAVAPARDTAコマンドを実行できない。

CPF39F2

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF39F4

この問題のAPARデータをこれ以上保管することはできない。

CPF39F5

問題&1の照会が正常に実行されなかった。

CPF39F6

問題レコードを作成することができなかった。

CPF39F7

APARライブラリー中にユーザー・スペースを作成することができなかった。

CPF39F8

問題&1をAPARライブラリーに関連づけることができなかった。

CPF39F9

問題&1 &2 &3は使用中。

上

構成の保管 (SAVCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成保管(SAVCFG)コマンドは、制限状態のシステムを必要としないで、すべての構成およびシステム資源管理(SRM)オブジェクトを保管します。 保管される情報には次のものがあります。

- 回線記述
- 制御装置記述
- 装置記述
- モード記述
- サービス・クラス記述
- ネットワーク・インターフェース記述
- ネットワーク・サーバー記述
- NETBIOS記述
- 接続リスト
- 構成リスト
- ハードウェア資源データ
- トークンリング・アダプター・データ

保管された情報は、構成復元(RSTCFG)コマンドで復元することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、システム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
- ハードウェア・プロダクト処理(WRKHDWPRD)ジョブが同時に実行されている場合には、システム資源管理(SRM)オブジェクトは保管されません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

上

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていないと見なされません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならないと、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

上

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

*END 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

上

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注:

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

*PERM

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性ありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

上

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。消去 (CLEAR)パラメーターで*ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

*
— システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

上

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注:

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。

3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注: *AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

上

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次の条件を満たすオブジェクトがあった場合に構成保管操作を終了するかどうかを指定します。

- そのオブジェクトに損傷があることが前に見つかった。
- オブジェクトが他のジョブによってロックされている。
- ユーザーがオブジェクト保管の権限を持っていない。

***NO** 保管操作は続行され、保管できる構成およびシステム資源管理(SRM)保管オブジェクトだけが保管されます。

***YES** 構成オブジェクトまたはシステム資源管理プログラム・オブジェクトを保管できない場合に、データが媒体に書き出される前に保管操作が終了します。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

上

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、**装置 (DEV)**パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVが**データ圧縮 (DTACPR)**パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

上

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRSAVのファイルQASAVOBJをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

例

例1:オブジェクトの保管

```
SAVCFG  DEV(TAP01)  CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、システム資源管理オブジェクト（ハードウェア資源データとトークンリング・アダプター・データ）およびすべての構成オブジェクト（すべての回線、制御装置、装置、モード、サービス・クラスと、ネットワーク記述、構成リスト、および接続リストを含む）を保管します。それらはTAP01テープ装置で保管されます。CLEAR(*ALL)によって、消去されていないテープが検出された場合はそれらのテープがすべて自動的に消去されます。

例2:特定のテープへのオブジェクトの保管

```
SAVCFG  DEV(TAP01)  VOL(ABC)
```

このコマンドは、SRMおよび構成オブジェクトを、ABCというラベルのテープ・ボリュームから順にTAP01テープ装置で保管します。保管操作で1つのテープの記憶容量を超えた場合には、別のボリュームをTAP01テープ装置に入れることを要求するメッセージが出されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2206

ユーザーには、オブジェクトに要求した機能を実行する権限が必要である。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3737

保管および復元データ域&1が見つからなかった。

CPF376D

すべての構成オブジェクトが保管ファイル&3に保管されたわけではない。

CPF376E

すべての構成オブジェクトが保管されたわけではない。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上

変更されたオブジェクトの保管 (SAVCHGOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更されたオブジェクトの保管(SAVCHGOBJ)コマンドは、各変更されたオブジェクトのコピーまたは同じライブラリーに入っているオブジェクトのグループを保管します。オブジェクト (OBJ)パラメーターに *ALLを指定すると、すべてのユーザー・ライブラリーあるいはライブラリーのリストからオブジェクトを保管することができます。保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することができません。データベース・ファイルの場合には、変更されたメンバーだけが保管されます。

次の例外がありますが、指定した日付と時刻以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

- OBJJRN(*NO)を指定した場合には、指定した日付と時刻の後にジャーナリングを開始していない限り、現在ジャーナル処理中のオブジェクトは保管されません。これは、ジャーナル処理の開始前にオブジェクトに対して行われた変更が（ジャーナル・レシーバー中にジャーナル処理されていないので）失われないようにするためです。
- 解放されたオブジェクト（プログラム、ファイル、ジャーナル・レシーバーなど）は保管されません。
- ユーザー定義のメッセージ、ジョブ待ち行列定義および出力待ち行列定義、および論理ファイル定義は保管されますが、そのオブジェクトの内容は保管されません。ACCPTH(*YES)を指定した場合には、論理ファイルのアクセス・パスが保管されます。データ待ち行列の内容は、待ち行列データ (QDTA)パラメーターに*DTAQを指定して保管することができます。

指定した変更済みのオブジェクトおよびそのオブジェクトが存在しているライブラリーは、保管操作中はロックされます。

保管済みオブジェクトはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドを使用して復元することができます。

オブジェクトが変更された日付と時刻を判別するためには、DETAIL(*FULL)を指定したオブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを実行してください。変更されたデータベース・ファイル・メンバーの場合には、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを実行してください。

このコマンドによって保管できるオブジェクトのタイプは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「共通して使用されるパラメーター:詳細説明」のOBJTYPEパラメーターの説明でリストされています。システムは、変更済みのオブジェクトを、各オブジェクトのコピーをテープ、光ディスク・ボリューム、または保管ファイルに書き込むことによって保管します。それぞれのオブジェクトの記述は、オブジェクトが最後に保管された時点の日付、時刻、および場所を用いて変更され、UPDHSTパラメーターによって制御されます。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のオブジェクト権限が必要です。
 - 保管する各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限

- 保管元の各ライブラリー・オブジェクトに対する実行(*EXECUTE)権限
- *SAVSYS特殊権限がない場合には、ユーザーが権限を持っている、変更済みのオブジェクトのみが保管されます。
- テープまたは光ディスク装置に保管する場合には、その装置記述および装置ファイルに対する使用(*USE)権限が必要です。 保管ファイルに保管する場合には、その保管ファイルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および追加(*ADD)権限と、保管ファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- テープを使用する場合には、標準ラベル付きボリューム指定を使用しなければなりません。
- 活動状態保管を使用しない限り、保管中の変更されたオブジェクトは、保管操作が行われた時に実行中の別のジョブで変更することはできません。
- SAVFDTA(*YES)を指定して、保管ファイルの内容を同一の保管ファイルに保管した場合には、保管ファイルの記述だけが保管されます。
- SAVFDTA(*YES)によって保管ファイルの内容が保管された時には、保管ファイルを復元しない限り、それに入っているオブジェクトを復元することはできません。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルに保管する場合には、そのファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターを使用する場合には、そのユーザー・スペースに対する*USE権限およびユーザー・スペース・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	単一値: *ALLUSR, *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *SAVF, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OBJJRN	ジャーナル処理されたオブジェクト	*NO, *YES	オプション
REFDATE	参照日付	日付, *SAVLIB	オプション
REFTIME	参照時刻	時刻, *NONE	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *LIB	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
UPDHST	ヒストリー更新	*YES, *NO	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *LIB, *SYNCLIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SYNCID	同期 ID	名前, *NONE	オプション
ACCPH	アクセス・パス保管	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	*YES, *NO	オプション
QDTA	待ち行列データ	*NONE, *DTAQ	オプション
PVTAUT	私用専用権限	*NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE, *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	単一値: *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	*OBJ, *LIB, *MBR, *ERR	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMDUSRSPC	コマンド・ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: コマンド・ユーザー・スペース	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

オブジェクト (OBJ)

変更があるかどうかを検査してから、変更されたオブジェクトを保管するために、1つ以上のオブジェクトの名前またはオブジェクトの各グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトが**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべての変更されたオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリーに保管する変更済みオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 保管する特定のオブジェクトの名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

上

ライブラリー (LIB)

保管する変更されたオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

注: ライブラリーは、指定されたそれぞれの値ごとにASP装置名の英字順に保管されます。独立ASP上のライブラリーは、システムおよび基本ユーザーASP上のライブラリーより前に保管されます。値が*ALLUSRの場合には、ライブラリーがASPDEVパラメーターによって指定されたASP上にあれば、ライブラリーQSYS2, QGPL, QUSRSYS,およびQSYS2XXXXX (ここで、XXXXXは独立ASP番号です) が最初に保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが保管されます。次を除いて、英字Qで開始されない名前のすべてのライブラリーが保管されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」とみなされ、保管されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPI       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPI38     QSYS2     QUSRINFSCR
QMGTC      QSYS2xxxxx QSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPMYSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーが保管されます。保管ファイルに保管する時には、ユーザー・スペースにライブラリーは1つしか指定することはできません。特殊値*SPLFはユーザー・スペースには指定できません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。保管ファイルに保管する時には、総称ライブラリー名を指定することはできません。

名前 **オブジェクト (OBJ)**パラメーターに*ALLを指定した場合には、最大300のライブラリー名を指定することができます。保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することはできません。

上

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

保管操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更を保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。保管されるオブジェクト・タイプは、ライブラリー保管(SAVLIB)、オブジェクト復元(RSTOBJ)、およびライブラリー復元(RSTLIB) コマンドによって保管および復元されるオブジェクト・タイプでもあります。データ・ディクショナリーおよび関連したファイルは、SAVLIBコマンドを使用することによってのみ保管されます。

単一値

***ALL** 指定のライブラリー中に入っている、指定した名前のすべてのオブジェクトに対する変更が保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)など、保管する各オブジェクトのタイプの値を指定してください。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ジャーナル処理されたオブジェクト (OBJJRN)

現在ジャーナル処理されている変更済みオブジェクト、および参照日付 (REFDATE)および参照時刻 (REFTIME)パラメーターに指定された日付および時刻以降にジャーナル処理された変更済みオブジェクトを保管するかどうかを指定します。

***NO** ジャーナル処理中のオブジェクトは保管されません。指定された日時の中でジャーナル処理を開始した場合には、変更されたオブジェクトまたは変更されたデータベース・ファイル・メンバーが保管されます。最終ジャーナル開始操作の日時は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示することができます。

***YES** 変更がジャーナルに入れられたオブジェクトが保管されます。

上

参照日付 (REFDATE)

参照日付を指定します。この日付以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

***SAVLIB**

ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドを最後に実行した日の日付以降に変更されたオブジェクトが保管されます。指定したライブラリーが保管されたことのないものである場合には、メッセージが出され、ライブラリーは保管されませんが、操作は続行されます。

日付 この日付以降に変更されたオブジェクトが保管される参照日付を指定します。このコマンドを実行した日の日付より後の日付を指定した場合には、メッセージが出され、操作は終了します。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

上

参照時刻 (REFTIME)

参照時刻を指定します。指定した日付のこの時刻以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

***NONE**

明示的な時刻は指定されません。参照日付 (REFDATE)パラメーターに指定された日付以降に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

時刻 指定された日付のこの時刻以降に変更されたオブジェクトが保管される参照時刻を指定します。REFDATEパラメーターに*SAVLIBを指定した場合には、参照時刻を指定することはできません。このコマンドの実行時刻より遅い時刻を指定した場合には、メッセージが出され、操作が終了します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしでは、6桁(HHMMSS)のストリングを指定します。ここで、HH=時、MM=分、およびSS=秒です。
- 時刻区切り記号ありでは、8桁のストリングを指定します。ここで、ユーザー・ジョブに指定された時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

*END 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

ラベル (LABEL)

保管操作に使用されるテープ・ボリューム上のデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このパラメーターが保管コマンドで使用された場合には、復元コマンドでも同じラベルを指定しなければなりません。

注: このパラメーターで*SAVLIBを指定することはできません。この値は復元コマンドのラベル (LABEL) パラメーターの特殊値であり、これを指定すると保管したものを復元できなくなるからです。

*LIB ファイル・ラベルは、ライブラリー (LIB)パラメーターに指定されたライブラリーの名前を使用して、システムが作成します。

文字値 保管操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは、単一ライブラリーの保管操作の場合にのみ有効です。

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注：

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注：このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

開始ライブラリー (STRLIB)

保管操作を開始するライブラリーを指定します。

保管操作中に回復不能媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して、操作を再開することができます。

保管操作再開の基本ステップは次の通りです。

1. ジョブ・ログを調べて、前の保管操作が正常に行われなかったライブラリーを判別してください。最後に保管されたライブラリーを見つけてください。これは、正常完了メッセージによって示されます。

2. 次のテープが初期設定されていることを確認して、そのテープを装てんしてください。
3. 以下をオリジナルの保管操作に追加します。

STRLIB(ライブラリー名) OMITLIB(ライブラリー名)

ここで、STRLIBおよびOMITLIBパラメーターのライブラリー名は正常に保管された最後のライブラリーです。これにより、保管操作は正常に保管された最後のライブラリーの後のライブラリーから始まります。

ライブラリーを復元するには、実行されたそれぞれの保管操作ごとに別個の復元操作を実行する必要があります。

***FIRST**

保管操作は、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定された最初のライブラリー値から始まります。最初の値が総称名または特殊値であった場合には、保管操作はこの値と一致する最初のライブラリーから始まります。

名前 保管操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

上

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。 **消去 (CLEAR)**パラメーターで *ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: **装置 (DEV)**パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

媒体定義 (MEDDFN)

保管データを入れるのに使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)、および i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションの媒体定義作成APIを参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL、SEQNBR、SAVF、およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。 ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。 スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複写できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。 使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。

- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性はありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを復元して使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

保管操作を行うシステムとは異なるリリース・レベルのシステムに配布するオブジェクトを保管するように指定するためには、プログラム・オブジェクトの場合とプログラム以外のオブジェクトの場合とでは手順が異なり、またプログラム・オブジェクトが作成されるリリース・レベルによっても手順は異なります。例えば、前のリリースで実行中のシステムに配布するオブジェクトを保管する場合には、次の選択を行うことができます。

プログラム・オブジェクトの場合:

- ターゲットとなる以前のリリースより最近のリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行わなければなりません。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、再度プログラム・オブジェクトを作成する
 2. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 3. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する
- ターゲット・システムと同じリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行うことができます。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 2. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する

プログラム以外のオブジェクトの場合:

次のことができます。

1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このオブジェクトを保管する
2. ターゲット・システムでこのオブジェクトを復元する

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

注:

1. LIB(*ALLUSR)が指定されている場合には、現在のリリースだけがターゲット・リリースになります。
2. すべてのオブジェクトで別のリリースをターゲットにすることができるわけではありません。どのオブジェクトがサポートされているかを判別するには、Recovering your system book (SD88-5008)の図を参照してください。

上

ヒストリー更新 (UPDHST)

各保管済みオブジェクトの保管ヒストリーを、この保管操作の日付、時刻、および位置で変更するかどうかを指定します。オブジェクトの保管ヒストリー情報は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示します。保管ヒストリー情報は、RCVRNG(*LASTSAVE)およびFROMENT(*LASTSAVE)またはFROMENTLRG(*LASTSAVE)がジャーナル処理項目適用(APYJRNCHG)コマンドで使用されると、処理するジャーナル項目はどれかを判別するために使用されます。

***YES** 保管された各オブジェクトで最終保管日、時刻、および位置が更新されます。

***NO** 保管された各オブジェクトの記述に入っている保管ヒストリー情報は更新されません。

注: UPDHST(*NO)は、回復を目的としない保管操作で使用する必要があります。例えば、保管データをレコードごとに別のシステムに送信して、保管ファイルを即時に削除すると、保管ヒストリー情報が更新されない場合があります。

上

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注:

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。

2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注: *AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

上

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

上

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。 保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。 ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態で保管されます。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。 保管操作中のすべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーが同時にチェックポイントに達し、それらの相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

注: この値を指定して、多数のライブラリーを保管しようとする、保管操作ですべてのオブジェクトおよびライブラリーのチェックポイントに達するために長時間を要する可能性があります。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。 ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

上

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。 オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。 一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。 0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になければなりません。 その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット

境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

***LOCKWAIT**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOCMTBDY**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることになります。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。
詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションのコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

0が指定され、1つの名前だけが**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定され、*FILEが**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定された唯一の値である場合には、システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに*SYNCLIBが指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

*NONE

通知メッセージは送信されません。

*WRKSTN

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

同期 ID (SYNCID)

この活動時保管操作が参加する同期チェックポイントの名前を指定します。同期チェックポイントは、開始保管同期 (STRSAVSYNC)コマンドによって既に開始されている必要があります。

*NONE

この活動時保管操作のチェックポイントは、他のどの活動時保管操作とも同期されていません。

名前 同期チェックポイントの名前を指定します。名前を指定する場合には、活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに値*SYNCLIBを指定する必要もあります。

注: 名前を指定する場合には、活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)パラメーターの要素2: 保留中のレコード変更で使用される値が、参加しているすべての保管操作のなかで最大の値になりま

す。ただし、参加しているいずれかの保管操作に*NOCMTBDYが指定されている場合には、参加しているすべての保管操作で*NOCMTBDYを指定する必要があります。

上

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていないと、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注：この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

上

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

上

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

*NONE

待ち行列の記述だけが保管されます。

*DTAQ

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

保管されたオブジェクトで、専用権限を保管するかどうかを指定します。専用権限の保管によって、オブジェクトを保管するために必要な時間が増加しますが、オブジェクトまたはオブジェクト・グループのリカバリーを単純化できます。システム全体のリカバリーを単純化するわけではありません。

*NO どの専用権限も保管されていません。

*YES 保管された各オブジェクトについて、専用権限が保管されています。

注: この値を指定するには、システム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスに影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターとデータ短縮 (COMPACT)パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

*DEV テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

*NO データ圧縮は実行されません。

*YES テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

*LOW 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮は TERSE アルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮は LZ1 アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

上

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV) パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEV がデータ圧縮 (DTACPR) パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPR パラメーターに *YES が指定され、このパラメーターに *DEV が指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

上

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

***USRSPC**

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC) パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と

置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

単一値

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるオブジェクトは、保管操作から除外されます。

その他の値（最大300個指定可能）

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

***** 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

上

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRSAVのファイルQASAVOBJをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

- *OBJ** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。
- *ERR** リストには、コマンド、各ライブラリーの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目に関する情報が入ります。
- *LIB** リストには、保管するように要求された各ライブラリーのライブラリー項目が入ります。
- *MBR** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびスプール・ファイルが入ります。

上

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)

このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースを指定します。このユーザー・スペースには、パラメーターごとに32767までのリスト値が許可されていますが、コマンド・パラメーターには300までしかリスト値が許可されていません。ユーザー・スペースは、オブジェクト・リスト保管(QSRSAVO) APIによって使用されるフォーマットでパラメーターを定義しなければなりません。

修飾子1:ユーザー・スペース

名前 このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ユーザー・スペースを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ユーザー・スペースが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

例

例1:変更されたファイルの保管

```
SAVCHGOBJ  OBJ(ORD*) LIB(DSTPRODLB) DEV(TAP01)
           OBJTYPE(*FILE) REFDATE(122290)
```

このコマンドは、DSTPRODLBというライブラリー内の文字ORDで始まる名前をもつファイルのうち、1990年12月22日以降に変更されたすべてのファイルを保管します。

例2:保管ファイルの記述およびデータの保管

```
SAVCHGOBJ  OBJ(FILE*) LIB(MYLIB) DEV(TAP01) OBJTYPE(*FILE)
            REFDATE(122290) SAVFDATA(*YES)
```

このコマンドは、MYLIBというライブラリー内の文字FILE*で始まる名前をもつファイルのうち、1990年12月22日以降に変更されたすべてのファイルを保管します。これは、また、この選択基準と一致したすべての保管ファイルの記述およびデータも保管します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3702

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&9が組み込まれていません。

CPF3703

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3708

&2の保管ファイル&1が小さすぎる。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域が限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3745

&1についてのSAVLIB操作の記録が存在していない。

CPF3746

システム日付および時刻が参照日付および時刻より前になっている。

CPF3747

複数のライブラリーでオブジェクト名を指定することはできない。

CPF3749

ライブラリー&2からオブジェクトが保管されませんでした。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF377D

内部システム資源の読み取りエラーのために保管が終了した。

CPF377E

活動時保管要求に記憶域が不十分である。

CPF377F

保留中のレコード変更によって、活動時保管要求が実行できなかった。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3774

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&8が組み込まれていません。

CPF3778

すべてのオブジェクトが保管されなかったライブラリーがある。

CPF378A

メッセージ待ち行列が使用できない。

CPF378C

SAVACTMSGQ(*WRKSTN)はバッチ・ジョブでは正しくない。

CPF378E

ライブラリー&1は保管されていない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3789

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF379E

ライブラリー&1の保管に使用可能な記憶域が不十分である。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3797

ライブラリー&3からオブジェクトが保管されませんでした。保管の限界を超えました。

CPF37AB

*NOCMTBDYはターゲット・リリースで使用できません。

CPF37AC

*NOCMTBDYの場合、ライブラリーは使用できません。

CPF37B4

&2のユーザー・スペース&1が正しくありません。

CPF37B5

PVTAUTはターゲット・リリースでは使用できません。

CPF37B7

専用権限の保管は認可されていない。

CPF37B9

同期ID &1が使用中である。

CPF37BC

同期ID &1は終了しました。待機時間を超えました。

CPF37BD

同期ID &1は終了しました。チェックポイント前に保管が終了しました。

CPF37BE

同期ID &1が開始されていない。

CPF37C7

同期ID &1は終了しました。SAVACTWAIT エラー。

CPF380B

この時点で保管を完了することができない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3815

&2の保管ファイル&1は保管操作には小さすぎる。

CPF3818

開始ライブラリー&1が見つからない。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF3867

FILEMBRパラメーターの内容が正しくない。

CPF3868

FILEMBRを指定しているが、OBJTYPEは*ALLまたは*FILEでなければならない。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3892

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A3

&2のファイル&1はASPDEVでは無効です。

CPF38A4

ASP装置&1は正しくありません。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

STATUS メッセージ*CPF3770**

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3774

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&8が組み込まれていません。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

上

文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト保管(SAVDLO)コマンドは、指定された文書、フォルダー、または配布オブジェクト（メール）のコピーを保管します。

注:

- フォルダーが保管される時には、フォルダー・オブジェクトは、そのフォルダーおよびサブフォルダーに含まれている文書およびサブフォルダーの文書およびその後連続してネストされたすべてのフォルダーおよび文書とともに保管されます。特定のフォルダーはDLO(*FLRLVL)を使用して個別に保管することができます。
- 配布オブジェクト（メール）は個別のユーザー用に保管または復元することはできません。メールはすべてのユーザー用にかぎり保管することができます。
- SAVDLOはシステムの専有を必要としませんが、保管が出された時に使用中である個別のオブジェクトは保管できません。すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されるようにするためには、システムで文書またはフォルダー活動が行なわれていない時に、このコマンドを実行してください。

制約事項:

- このコマンドで次のパラメーターの組合わせを使用するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはシステム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。
 - DLO(*ALL) FLR(*ANY)
 - DLO(*CHG)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) OWNER(*ALL)
 - DLO(*SEARCH) OWNER (ユーザー・プロファイル名)

ここで、指定されたユーザー・プロファイル名は、SAVDLOコマンドを出しているユーザーのユーザー・プロファイル名ではありません。

- *ALLOBJまたは*SAVSYS特殊権限がない場合には、次のことが必要です。
 - 保管する文書またはフォルダーごとに全(*ALL)権限が必要です。
 - 文書交換アーキテクチャー(DIA)ユーザーとして登録されていなければなりません。
- グループ・プロファイルが指定されたユーザー・プロファイルに関連している場合には、文書またはフォルダー所有権の判別ではグループ・プロファイルの検査は行なわれません。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルに保管する時には、出力ファイル・ライブラリーに対する実行権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	単一値: *ALL, *SEARCH, *CHG, *SYSOBJNAM, *DOCL, *MAIL, *FLRLVL その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 文字値	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	単一値: *ANY, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 文字値	オプション
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り 返し): 名前	必須, 定位置 2
SRCHTYPE	検索タイプ	<u>*DOC</u> , *ALL	オプション
CHKFORMRK	マークの検査	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CHKEXP	満了日	日付, <u>*NO</u> , *CURRENT	オプション
CRTDATE	作成日	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
要素 2: 終了日付	日付, <u>*END</u>		
DOCCLS	文書クラス	文字値, <u>*ANY</u>	オプション
OWNER	所有者プロファイル	名前, <u>*CURRENT</u> , *ALL	オプション
REFCHGDATE	最終変更日	日付, <u>*ANY</u> , *SAVDLOALL	オプション
REFCHGTIME	最終変更時刻	時刻, <u>*ANY</u>	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション
DOCL	文書リスト	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: <u>*MOUNTED</u> その他の値 (最大 75 回の繰り 返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*END</u>	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, <u>*PERM</u>	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
LABEL	ラベル	文字値, <u>*GEN</u>	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	<u>*YES</u> , *NO	オプション
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, <u>*</u>	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OMITFLR	除外するフォルダー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 文字値	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
CLEAR	消去	*NONE, *AFTER, *ALL, *REPLACE	オプション
STG	記憶域	*KEEP, *DELETE, *FREE	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *YES	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	0-99999, 120, *NOMAX	オプション
ASP	ASP番号	1-32, *ANY	オプション

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

保管する文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。フォルダーを保管するためには、DLO(*ALL)を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** FLRパラメーターによってさらに修飾されているすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。DLO(*ALL) FLR(*ANY)を指定すると、すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

*SEARCH

指定された検索値を満たすすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。検索値は、次のパラメーターを使用して指定されます。

- フォルダー (FLR)パラメーター
- マークの検査 (CHKFORMRK)パラメーター
- 満了日 (CHKEXP)パラメーター
- 作成日 (CRTDATE)パラメーター

- 文書クラス (DOCCLS)パラメーター
- 所有者プロファイル (OWNER)パラメーター
- 最終変更日 (REFCHGDATE)パラメーター
- 最終変更時刻 (REFCHGTIME)パラメーター

注: フォルダーは、SRCTYPE(*ALL)が指定された場合にだけ、保管されます。

***CHG** 最後の完全保管操作以降に作成または変更されたすべての文書、およびそれ以降に作成されたすべてのフォルダーおよびすべてのメールが保管されます。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名の文書が保管されます。

***DOCL**

文書リスト (DOCL)パラメーターに指定された文書リスト中で示された文書のリストが保管されません。

***MAIL**

メール・ログによって示された配布オブジェクトおよび文書が保管されます。

***FLRLVL**

フォルダー (FLR)パラメーターに指定されたフォルダーおよびそのフォルダーの文書が保管されません。サブフォルダーは保管されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

文書名 保管される文書のユーザー割り当て名を指定してください。同じフォルダーに指定されたすべての文書およびフォルダーは**フォルダー (FLR)**パラメーターに指定しなければなりません。

上

フォルダー (FLR)

保管するフォルダーの名前を指定します。

単一値

***ANY** 文書ライブラリー・オブジェクトは任意のフォルダーから保管することができます。FLRパラメーターの使用時には、次を考慮してください。

- 次の1つが指定された場合には、FLR(*ANY)は正しくありません。
 - DLO(*DOCL)
 - DLO(*FLRLVL)
 - DLO (文書名)
- 次の1つが指定された場合には、FLR(*ANY)が必要です。
 - DLO(*CHG)
 - DLO(*SYSOBJNAM)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*ALL)
- SAVDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された場合には、次が保管されます。
 - すべての文書

- すべてのフォルダー
- すべての配布オブジェクト（メール）

*NONE

保管される文書がフォルダー中にありません。FLR(*NONE)が有効なのは、次の1つが指定された場合だけです。

- DLO(*ALL)
- DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*DOC)

その他の値（最大300個指定可能）

総称フォルダー名

総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

フォルダー名

保管される文書を入れるフォルダーのユーザー割り当て名を指定します。フォルダー名は最大63桁の長さとすることができます。

- ここに指定されたフォルダー・オブジェクトは、DLO(*ALL)またはDLO(*FLRLVL) が指定された場合にかぎり保管されます。
- 次の1つが指定された場合には、FLR(フォルダー名)は正しくありません。
 - DLO(*SYSOBJNAM)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*ALL)
- 次の1つが指定された場合には、フォルダー名は1つしか指定することはできません。
 - DLO(*DOCL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*DOC)
 - DLO（文書名）

上

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならず、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。

上

検索タイプ (SRCTYPE)

検索するためのオブジェクトのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***DOC** 文書だけが検索および保管されます。

***ALL** 文書およびフォルダーが検索および保管されます。

上

マークの検査 (CHKFORMRK)

記憶用のマークつき文書を保管するかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されていて、**検索タイプ (SRCTYPE)**パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

***NO** この保管操作でその他の検索値と一致する文書は、記憶用のマークつきかどうかにかかわらず保管されます。

***YES** その他の検索値と一致し、さらに記憶用のマークが付いた文書だけが保管されます。文書に付くマークは：

- 保存
- 解放
- 削除

上

満了日 (CHKEXP)

指定された日付の前に満了日があるすべての文書が保管されることを指定します。満了日は、文書が作成される時にユーザーによって割り当てられ、その文書が不要になる日付を指定します。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されていて、**検索タイプ (SRCTYPE)**パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

***NO** 満了日は無視されます。

*CURRENT

今日の日付の前に満了日があるすべての文書が保管されます。

日付 文書の満了日を指定します。この日付の前に満了日があるすべての文書が保管されます。

上

作成日 (CRTDATE)

指定された期間内に作成日がある文書およびフォルダーが保管されることを指定します。この期間は、開始時刻と日付および終了時刻と日付によって指定されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。この期間は次の通り指定されます。

((開始時刻 開始日) (終了時刻 終了日))

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

開始時刻を指定するためには、次の1つを使用してください。文書はこの時刻の後に作成されていなければならない、それが選択されます。この時刻の前に作成された文書は選択されません。

*AVAIL

任意の時刻にファイルされた文書およびフォルダーは保管の対象となります。

時刻 開始時刻を指定してください。開始時刻が検索値として使用される場合には、開始日は*BEGINであってははいけません。**最終変更時刻 (REFCHGTIME)**パラメーターが指定された場合には、開始時刻はREFCHGTIMEパラメーターに指定された値と同じでなければなりません。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければならない。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

開始日を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この日付以降に作成されなければならない、それが保管されます。この日付の前に作成された文書は保管されません。

*BEGIN

文書およびフォルダーは、そのオブジェクトと関連した作成日に関係なく保管されます。

*CURRENT

今日の日付の、開始時刻（指定される場合）以降にファイルされた文書およびフォルダーだけが選択されます。

日付 文書作成日期間の開始日を指定します。この日付はジョブ日付の形式で入力しなければな

りません。開始日は、**最終変更日 (REFCHGDATE)**パラメーターが指定された場合にそのREFCHGDATEパラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

終了時刻を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この時刻以前に作成されていないと見なされず、それが保管されます。指定された時刻の後に作成された文書は保管されません。

***AVAIL**

任意の時刻にファイルされた文書およびフォルダーは保管のために選択されます。

時刻 終了時刻を指定してください。終了時刻が検索値として使用される場合には、終了時刻は***END**であってははいけません。時刻指定の方法の詳細については、**開始時刻**の説明を参照してください。

要素2: 終了日付

終了日を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この日付以前に作成されていないと見なされず、それが保管されます。この日付の後に作成された文書は保管されません。

END** 任意の日付にファイルされた文書およびフォルダーが選択されます。END**が指定された場合には、終了時刻を使用することはできません。

日付 文書作成日期間の終了日を指定します。この日付以前に作成された文書が保管されます。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

文書クラス (DOCCLS)

保管する文書のクラスを指定します。このクラスは、文書の作成時にユーザーによって割り当てられます。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに***SEARCH**が指定されていて、**検索タイプ (SRCHTYPE)**パラメーターに***DOC**が指定されている場合だけです。

注: 文書クラスがユーザー割り当てのものであっても、このパラメーターに2バイト文字セット(DBCS)データを指定することはできません。

***ANY** 保管のための文書の選択に文書クラスは使用されません。

文字値 保管のための文書の選択に使用される1-16桁の範囲の文書クラスを指定してください。

上

所有者プロフィール (OWNER)

保管する文書およびフォルダーの所有者を指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

*CURRENT

現行の要求元によって所有される文書およびフォルダーが保管されます。

***ALL** このパラメーターは、保管のための文書およびフォルダーの選択には使用されません。*ALLを指定する場合は、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはシステム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。

名前 保管する文書およびフォルダーを所有するユーザー・プロフィールの名前を指定してください。このユーザーによって所有され、指定されたその他の検索値と一致するすべての文書が保管されます。このコマンドを出したユーザーのユーザー・プロフィール以外のユーザー・プロフィールを選択する場合には、*ALLOBJまたは*SAVSYSの特殊権限が必要です。

上

最終変更日 (REFCHGDATE)

指定された日付以降に作成されたフォルダー、および変更または作成された文書が保管されます。この変更日は、文書の内容または記述が変更された時に更新されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***ANY** 参照用の変更日は指定されません。文書は、作成または変更された日付に関係なく保管されます。フォルダーは作成された日付に関係なく保管されます。

*SAVDLOALL

最後の完全保管操作以降に作成されたフォルダーおよびそれ以降に作成または変更された文書が保管されます。

日付 日付を指定して、その日付以降に作成されたフォルダー、あるいは作成または変更された文書が保管されます。

上

最終変更時刻 (REFCHGTIME)

それより後に作成されたフォルダーおよび変更または作成された文書を保管する、REFCHGDATEパラメーターに指定された日付に対して相対的な時間を指定します。この変更時刻は、文書の内容または記述が変更される時に更新されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***ANY** 時刻は指定されません。文書は、作成または変更された時刻とは関係なく保管されます。フォルダーは作成された時刻に関係なく保管されます。

時刻 その時刻以降に作成されたフォルダー、または作成または変更された文書が保管される、その時刻を指定します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*SYSOBJNAMが指定されている場合に、保管する文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

単一値

*NONE

システム・オブジェクト名は指定されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

名前 保管する文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。10桁全部を指定しなければなりません。

上

文書リスト (DOCL)

保管される文書のリストを指定します。この文書リストはフォルダー内になければなりません。フォルダーの名前は**フォルダー (FLR)**パラメーターを使用して指定しなければなりません。文書リストに文書が入っているフォルダーに対する使用(*USE)権限が必要です。

注: 文書リストは、リモート検索ではなく、ローカル検索の結果でなければなりません。

*NONE

文書リストは保管されません。

文字値 保管される文書リストを指定します。

上

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

上

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注:

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

ラベル (LABEL)

保管のために使用される磁気テープ上のデータ・ファイルを識別する名前を指定します。LABELパラメーターが使用された場合このラベルは復元コマンドに指定しなければなりません。

***GEN** ファイル・ラベルはシステムによって作成されます。

文字値 保管操作に使用されたデータ・ファイルのラベルとして使用されるデータ・ファイル識別コードを指定してください。最大17桁までを指定することができます。

上

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複製できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性はありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

*
— システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

’光ディスクのパス名/*’

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

’光ディスク・ファイル・パス名’

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。消去 (CLEAR)パラメーターで *ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するフォルダー (OMITFLR)

保管操作から除外される1つまたは複数のフォルダーの名前またはフォルダーの各グループの総称名を指定します。

単一値

*NONE

フォルダーは保管操作から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称フォルダー名

総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ス

トリング (たとえば, ABC*など) です。アスタリスク(*) は, 有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は, 名前がその総称接頭部で始まり, ユーザーが権限をもっているすべてのオブジェクトを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には, システムはそれを完全なオブジェクト名であると見なします。

フォルダー名

保管操作から除外するフォルダーの名前を指定してください。

上

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は, ジョブのスパール出力で印刷するか, あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は, 出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には, 出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定されている場合に, 文書ライブラリー・オブジェクトに関する情報を送るデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在しない場合には, このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルが作成された場合には, システムはモデルとしてQJSDLOの様式名をもつQSYSのQAQJSAVOを使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には, 指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合, QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注:

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

*NONE

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、ある

いは媒体を消去することができます。 保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。 その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。 保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注：*AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。 光ディスク・ボリュームは初期設定されません。 その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

上

記憶域 (STG)

保管操作の終了後に保管中の文書によって占められていたシステム記憶域を保管、削除、または解放するかどうかを指定します。

注：次のいくつかが指定された場合には、STG(*DELETE)およびSTG(*FREE)は正しくありません。

- DLO(*ALL) FLR(*ANY)
- DLO(*SEARCH) CHKFORMRK(*YES)
- DLO(*CHG)
- DLO(*MAIL)
- SAVACT(*YES)

***KEEP**

保管操作の後、文書によって占められていた記憶域は変更されないままとなります。

***DELETE**

保管操作後に、文書オブジェクトおよびすべての検索項目はシステムから削除されます。

***FREE**

文書記述およびすべての検索項目はシステム上にそのままとなりますが、文書によって占められていた記憶域は保管操作の後に削除されます。文書は、この文書がシステム上に復元されるまで使用することはできません。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*MEDIUM

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*HIGH

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

上

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVが**データ圧縮 (DTACPR)**パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

*NO 装置データの短縮は実行されません。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

文書クラス (DOCCLS)パラメーターに指定されたデータの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。この文字識別コードは、文書クラスの入力に使用される表示装置と関連しています。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXR_{MX}でリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中に更新できるかどうかを指定します。

***NO** 使用中の文書ライブラリー・オブジェクトは保管されません。文書ライブラリー・オブジェクトを使用中に更新することはできません。

***YES** 保管要求時に文書ライブラリー・オブジェクトを変更することができます。

注：一部の適用業務は、文書ライブラリー・オブジェクトを直接更新します。一時ファイルに更新を保管してからDLOを更新するのではなく、データが適用業務に提供されます。直接更新されるDLO（一般にはPCを基礎とした適用業務によって更新されるもの）は保管されません。このパラメーターの使用に関する詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションを参照してください。

上

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続ける前に、オブジェクトが使用中になっている時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続ける前に、個々の各オブジェクトが使用可能になるまで最大120秒待ちます。

***NOMAX**
最大待ち時間が存在していません。

0-99999
保管操作を続ける前に、個々の各オブジェクトを待つ秒数を指定してください。

上

ASP番号 (ASP)

保管される文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

***ANY** 保管されるオブジェクトはいずれかのASPに存在しています。DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された時には、システム上のすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

注：複数のASPからのDLOが保管されると、複数のテープ媒体ファイルが作成されます。これらの媒体ファイルの開始および終了の順序番号は、すべてのASPを復元するためにRSTDLOコマンドに必要です。

I-32 保管する文書ライブラリー・オブジェクトが入っている既存ASPの番号を指定してください。ASP 1はシステムASPです。

注: ファイルされていないメールおよびフォルダー内にはない文書はシステムASPに存在していません。

上

例

例1:完全保管操作の実行

```
SAVDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、フォルダー、文書、およびメールのすべてを磁気テープ装置TAP01に保管します。

例2:変更のすべての保管

```
SAVDLO DLO(*CHG) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、最後の完全保管操作以後に作成または変更された文書のすべて、最後の完全保管操作以後に作成されたフォルダー、およびメールのすべてを保管します。

例3: ASP全体の保管

```
SAVDLO DLO(*ALL) DEV(TAP01) FLR(*ANY) ASP(2)
```

このコマンドは、ユーザーASP 2内のフォルダーおよび文書のすべてを保管します。

例4:特定日付後に変更されたオブジェクトの保管

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) DEV(TAP01) OWNER(*ALL)  
REFCHGDATE('01/01/2002')
```

このコマンドは、2002年1月1日より後に変更または作成された文書のすべてを保管します。このコマンドは、文書のバックアップとバックアップの間の変更を保管する場合に役立ちます。このコマンドは、その他のオブジェクト・タイプの場合に使用される変更済みオブジェクト保管(SAVCHGOBJ)と同様です。

例5:特定日付後に変更された文書およびフォルダーの保管

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) DEV(TAP01) SRCHTYPE(*ALL) OWNER(*ALL)  
REFCHGDATE('01/01/2002')
```

このコマンドは、01/01/2002以後に作成されたフォルダーのすべておよび01/01/2002以後に作成または変更された文書のすべてを保管します。

例6:特定日付後に作成された文書の保管

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) DEV(TAP01)  
CRTDATE((*AVAIL '01/01/2002')) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、01/01/2002以後に作成または変更された文書のすべてを保管します。

例7:特定日付後に作成された文書およびフォルダーの保管

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) DEV(TAP01) SRCHTYPE(*ALL)  
CRTDATE((*AVAIL '01/01/2002')) OWNER(*ALL)
```

このコマンドは、01/01/2002以後に作成された文書およびフォルダーのすべてを保管します。

例8:保管操作時のシステム記憶域の解放

```
SAVDLO DLO(DOCX) FLR(FOLDERA) DEV(TAP01) STG(*FREE)
```

このコマンドは、フォルダーFOLDERA内のDOCXという名前の文書を磁気テープ装置TAP01に保管します。保管操作の一環として、文書のデータ部分が占有していたシステム記憶域が解放されます。

例9:フォルダーの保管

```
SAVDLO DLO(*ALL) DEV(*SAVF) FLR(BILL TOM MARY) SAVF(SAVF1)
```

このコマンドは、フォルダーBILL, TOM,およびMARYと、これらのフォルダー内の文書のすべてを保管します。

例10:フォルダー・レベルのフォルダーだけの保管

```
SAVDLO DLO(*FLRLVL) FLR(DEC01) DEV(*SAVF) SAVF(MYLIB/SAVF1)
```

このコマンドは、フォルダーSTATUS内のフォルダーDEC01およびこのフォルダー内の文書のすべてを保管して、ライブラリーMYLIB内の保管ファイルSAVF1を保管します。このフォルダー内のサブフォルダーは保管されません。

例11:メールだけの保管

```
SAVDLO DLO(*MAIL) DEV(*SAVF)
```

このコマンドは、メール・ログによって参照されたすべての配布オブジェクトおよびすべての文書を保管します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF384D

ASP &1では保管または復元操作は使用できない。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF8AC3

ASP &5が正しくない。

CPF8A47

内部システム・オブジェクトが使用中である。

CPF90B2

DLOパラメーターのフォルダー名のリストが正しくない。

CPF90C1

文書リスト&1が空である。

CPF90C2

文書リスト&1を使用することができなかった。

CPF90D7

文書は保管されなかった。

CPF90E1

TGTRLS(*PRV)を指定してフォルダー&1を使用することはできない。

CPF90E5

文書リスト&1が認可されていない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF902E

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが保管された。&10は保管されませんでした。

CPF903B

保管ファイル用のオブジェクトが多すぎる。

CPF903C

文書ライブラリー・オブジェクトが保管されなかった。

CPF9030

所有者プロファイル(&1)が見つからない。

CPF9046

フォルダー&1に検索仕様を満たす文書は見つからなかった。

CPF9053

要求した機能は認可されていない。

CPF9056

要求した機能は認可されていない。

CPF906B

文書ライブラリー・オブジェクトが保管されなかった。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD), DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

CPF941B

保管データ域&1は使用中である。

- CPF9410**
&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが保管された。&10は保管されませんでした。
- CPF9411**
ASP &1の変更が保管されなかった。
- CPF9417**
REFCHGDATEまたはREFCHGTIMEでCRTDATE値は正しくない。
- CPF9418**
SAVFパラメーターが正しくない。
- CPF9419**
LABEL(*GEN)が必要である。
- CPF9810**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF9812**
ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。
- CPF9820**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF9822**
ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。
- CPF9825**
装置&1は認可されていない。
- CPF9830**
ライブラリー&1を割り当てることができない。
- CPF9831**
装置&1を割り当てることができない。
- CPF9845**
ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。
- CPF9846**
ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。
- CPF9850**
印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。
- CPF9851**
&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。
- CPF9860**
出力ファイルの処理中にエラーが起こった。
- CPF9899**
コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

ライブラリー保管 (SAVLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドでは1つまたは複数のライブラリーのコピーを保管することができます。

保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することができません。

このコマンドでは、ライブラリー記述、オブジェクト記述、およびライブラリー中のオブジェクトの内容を含め、ライブラリー全体が保管されます。ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクトの定義だけが保管され、内容は保管されません。しかし、論理ファイルのアクセス・パスは、**アクセス・パス保管 (ACCPH)**パラメーターに*YESを指定することによって保管することができます。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、**スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)**パラメーターに*ALLを指定することによって保管することができます。保管ファイルの内容は、**保管ファイル・データ (SAVFDTA)**パラメーターに*YESを指定するか、あるいは保管ファイル・データ保管 (SAVSAVFDTA)コマンドを使用することによって保管することができます。データ待ち行列の内容は、**待ち行列データ (QDTA)**パラメーターに*DTAQを指定して保管することができます。コマンドで記憶域の解放を指定しない限り、システム中のライブラリーとそのオブジェクトには影響がありません。しかし、**ヒストリー更新 (UPDHST)**パラメーターに*NOを指定しない限り、各ライブラリーおよび各オブジェクトの記述は、それが最後に保管された日付、場所、および時刻で更新されます。LIBパラメーターに*NONSYS、*ALLUSR、または*IBMを指定してライブラリーのグループが保管される場合には、QSYS中のデータ域 (データ域QSAVLIBALL, QSAVALLUSR、またはQSAVIBM) のヒストリーで日付、時刻、および場所が更新されます。

このコマンドによって保管されるオブジェクトのタイプは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「共通して使用されるパラメーター: 詳細説明」のOBJTYPEパラメーターの説明で、追加の*DTADCTと一緒にリストされています。ユーザー・ライブラリーに含まれていないある種のオペレーティング・システム・オブジェクト (ユーザー・プロファイルなど) は、このコマンドでは保管されません。これらはシステム保管(SAVSYS)コマンドまたは機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドによって保管することができます。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のオブジェクト権限が必要です。
 - 指定された各ライブラリーに対する読み取り(*READ)権限、あるいはその所有者であること
 - ライブラリー内の各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限 (スプール・ファイル・データの場合、出力待ち行列に対する*OBJEXIST権限)
- *SAVSYS特殊権限がない場合には、ユーザーが権限を持っているライブラリーおよびオブジェクトのみが保管されます。

- テープまたは光ディスク・ボリュームに保管する場合には、その関連した装置記述に対する使用(*USE)権限が必要です。
- 保管ファイルに保管する場合には、その保管ファイルに対する追加(*ADD)および使用(*USE)権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルに保管する場合には、その出力ファイル・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- 「活動状態保管」を使用しない限り、保管中のライブラリーまたはその中のオブジェクトはどれも、保管操作の実行時に実行中のジョブによって更新することができません。
- SAVFDTA(*YES)を指定して、保管ファイルの内容を同一保管ファイルに保管する場合には、保管ファイルの記述だけが保管されます。
- 保管ファイル・データ (SAVFDTA)パラメーターに*YESを指定することによって保管ファイルの内容を保管した場合には、そこに入っているオブジェクトを復元する前に、保管ファイルを復元しなければなりません。
- コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターを使用する場合には、そのユーザー・スペースに対する*USE権限およびユーザー・スペース・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	単一値: *NONSYS, *ALLUSR, *IBM, *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVF, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 3
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *LIB	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
UPDHST	ヒストリー更新	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *LIB, *SYNCLIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SYNCID	同期 ID	名前, *NONE	オプション
ACCPH	アクセス・パス保管	*SYSVAL, *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	*YES, *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	*NONE, *ALL	オプション
QDTA	待ち行列データ	*NONE, *DTAQ	オプション
PVTAUT	私用専用権限	*NO, *YES	オプション
STG	記憶域	*KEEP, *FREE	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEV, *NO	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE, *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	単一値: *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *NONE, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
INFYTYPE	出力情報のタイプ	*OBJ, *LIB, *MBR, *ERR	オプション
CMDUSRSPC	コマンド・ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: コマンド・ユーザー・スペース	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

ライブラリー (LIB)

保管するライブラリーを指定します。

注:

1. システム・ライブラリーQDOC, QDOCXXXX, QRCYXXXXX, QRECOVERY, QRPLOBJ, QRPLXXXXX, QSPL, QSPLXXXX, QSRV, QSYS, QSYSXXXXX,およびQTEMPをこのコマンドで保管することはできません。XXXXは基本ユーザーASP番号であり, XXXXXは独立ASP番号です。
2. このパラメーターに*ALLUSRまたは*IBMを指定した場合には, このコマンドは, 指定したライブラリーが使用中でない時に実行しなければなりません。ライブラリーの保管中にライブラリー中のオブジェクトが使用中であった場合には, SAVACTを使用しなければオブジェクトは保管されません。すべてのライブラリーの保管を確実に完了するためには, このコマンドを制限状態のシステムで実行してください。例えば, サブシステムQSNADSが活動状態である時にSAVLIB LIB(*ALLUSR)が実行された場合には, ライブラリーQUSRSYS中のQAO*ファイルは保管されません。QAO*ファイルを保管するためには, SAVLIB LIB(*ALLUSR)の実行前にQSNADSサブシステムを終了してください。
3. SAVLIB LIB(*IBM)を実行してから, SAVLIB LIB(*ALLUSR)を実行すると, SAVLIB LIB(*NONSYS)の場合と同じライブラリーが保管されますが, 2つの復元コマンドが必要です。
4. ライブラリーは, 指定されたそれぞれの値ごとにASP装置名の英字順に保管されます。独立ASP上のライブラリーは, システムおよび基本ユーザーASP上のライブラリーより前に保管されます。値が*NONSYSおよび*ALLUSRの場合には, ライブラリーがASPDEVパラメーターによって指定されたASP上にあれば, ライブラリーQSYS2, QGPL, QUSRSYS,およびQSYS2XXXXX (ここで, XXXXXは独立ASP番号です) が最初に保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*NONSYS

以下のシステム・ライブラリーを除くすべてのライブラリーが保管されます。xxxxおよびxxxxxはASP番号を表します。

QDOC	QRPLOBJ	QSRV
QDOCxxxx	QRPLxxxxx	QSYS
QRCYxxxxx	QSPL	QSYSxxxxx
QRECOVERY	QSPLxxxx	QTEMP

注: このオプションを指定する場合には, サブシステム終了(ENDSBS)またはシステム終了(ENDSYS)コマンドですべてのサブシステムを終了していなければなりません。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが保管されます。次を除いて, 英字Qで開始されない名前のすべてのライブラリーが保管されます。

#CGULIB	#DSULIB	#SEULIB
#COBLIB	#RPGLIB	
#DFULIB	#SDALIB	

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが, これらには一般的に, 頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって, こうしたライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」とみなされ, これもまた保管されます。

QDSNX	QRCLxxxxx	QUSRDIRDB	QUSRVI
QGPL	QSRVAGT	QUSRIJS	QUSRVxRxMx
QGPL38	QSYS2	QUSRINFSKR	
QMGTC	QSYS2xxxxx	QUSRNOTES	
QMGTC2	QS36F	QUSROND	

QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSGS
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPOSSA
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRPYMSVR
QPFRDATA	QUSRDIRCF	QUSRDRDARS
QRCL	QUSRDIRCL	QUSRSYS

***IBM** 以下のものを除くIBM提供のすべてのライブラリーが保管されます。

QDOC	QRCYxxxxx	QTEMP	QUSRPYMSVR
QDOCxxxx	QRECOVERY	QUSER38	QUSRDRDARS
QDSNX	QRPLOBJ	QUSRADSM	QUSRSYS
QGPL	QRPLxxxxx	QUSRBRM	QUSRVI
QGPL38	QSPL	QUSRDIRCF	QUSRVRxRmMx
QMGTC	QSPLxxxx	QUSRDIRCL	
QMGTC2	QSRV	QUSRDIRDB	
QMPGDATA	QSRVAGT	QUSRIJS	
QMOMDATA	QSYS	QUSRINFSKR	
QMOMPROC	QSYSxxxxx	QUSRNOTES	
QPFRDATA	QSYS2	QUSROND	
QRCL	QSYS2xxxxx	QUSRPOSGS	
QRCLxxxxx	QS36F	QUSRPOSSA	

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

Qで始まらない名前をもつ次のライブラリーも保管されます。

#CGULIB	#DSULIB	#SEULIB
#COBLIB	#RPLIB	
#DFULIB	#SDALIB	

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーが保管されます。保管ファイルに保管する時には、ユーザー・スペースにライブラリーは1つしか指定することはできません。特殊値*SPLFはユーザー・スペースには指定できません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 保管するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管されるライブラリーの名前を指定してください。保管ファイルに保管する時には、ライブラリー名は1つしか保管できません。システム・ライブラリー名を指定することはできません。

上

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

保管操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならない、それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

上

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

LIBパラメーターに*NONSYS, *ALLUSR,または*IBMが指定された場合には、ライブラリーのセットの保管操作は、指定された順序番号で開始されます。このセットに最初に保管されたファイルはQFILEファイルです。QFILEファイルには保管されたライブラリーのリストが入っています。

上

ラベル (LABEL)

保管操作に使用されるテープ・ボリューム上のデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このパラメーターが保管コマンドで使用された場合には、復元コマンドでも同じラベルを指定しなければなりません。

注: このパラメーターで*SAVLIBを指定することはできません。この値は復元コマンドのラベル (LABEL) パラメーターの特殊値であり、これを指定すると保管したものを復元できなくなるからです。

***LIB** ファイル・ラベルは、ライブラリー (LIB)パラメーターに指定されたライブラリーの名前を使用して、システムが作成します。

文字値 保管操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは、単一ライブラリーの保管操作の場合にのみ有効です。

上

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注:

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されません。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

開始ライブラリー (STRLIB)

保管操作を開始するライブラリーを指定します。

保管操作中に回復不能媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して、操作を再開することができます。

保管操作再開の基本ステップは次の通りです。

1. ジョブ・ログを調べて、前の保管操作が正常に行われなかったライブラリーを判別してください。最後に保管されたライブラリーを見つけてください。これは、正常完了メッセージによって示されます。
2. 次のテープが初期設定されていることを確認して、そのテープを装てんしてください。
3. 以下をオリジナルの保管操作に追加します。

STRLIB(ライブラリー名) OMITLIB(ライブラリー名)

ここで、STRLIBおよびOMITLIBパラメーターのライブラリー名は正常に保管された最後のライブラリーです。これにより、保管操作は正常に保管された最後のライブラリーの後のライブラリーから始まります。

ライブラリーを復元するには、実行されたそれぞれの保管操作ごとに別個の復元操作を実行する必要があります。

***FIRST**

保管操作は、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定された最初のライブラリー値から始まります。最初の値が総称名または特殊値であった場合には、保管操作はこの値と一致する最初のライブラリーから始まります。

名前 保管操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

上

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。消去 (**CLEAR**)パラメーターで*ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: 装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

媒体定義 (MEDDFN)

保管データを入れるのに使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)、およびi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションの媒体定義作成APIを参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複製できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを復元して使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXR_{MX}でリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

保管操作を行うシステムとは異なるリリース・レベルのシステムに配布するオブジェクトを保管するように指定するためには、プログラム・オブジェクトの場合とプログラム以外のオブジェクトの場合とでは手順が異なり、またプログラム・オブジェクトが作成されるリリース・レベルによっても手順は異なります。例えば、前のリリースで実行中のシステムに配布するオブジェクトを保管する場合には、次の選択を行うことができます。

プログラム・オブジェクトの場合:

- ターゲットとなる以前のリリースより最近のリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行わなければなりません。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、再度プログラム・オブジェクトを作成する
 2. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 3. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する
- ターゲット・システムと同じリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行うことができます。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 2. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する

プログラム以外のオブジェクトの場合:

次のことができます。

1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このオブジェクトを保管する
2. ターゲット・システムでこのオブジェクトを復元する

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

- *PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

注:

1. LIB(*NONSYS), LIB(*ALLUSR),またはLIB(*IBM)が指定された場合には、ターゲット・リリースにできるのは現行リリースだけです。
2. すべてのオブジェクトで別のリリースをターゲットにすることができるわけではありません。どのオブジェクトがサポートされているかを判別するには、Recovering your system book (SD88-5008)の図を参照してください。

上

ヒストリー更新 (UPDHST)

各保管済みオブジェクトの保管ヒストリーを、この保管操作の日付、時刻、および位置で変更するかどうかを指定します。オブジェクトの保管ヒストリー情報は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示します。保管ヒストリー情報は、RCVRNG(*LASTSAVE)およびFROMENT(*LASTSAVE)またはFROMENTLRG(*LASTSAVE)がジャーナル処理項目適用(APYJRNCHG)コマンドで使用されると、処理するジャーナル項目はどれかを判別するために使用されます。

***YES** 保管された各オブジェクトで最終保管日、時刻、および位置が更新されます。

***NO** 保管された各オブジェクトの記述に入っている保管ヒストリー情報は更新されません。

注: UPDHST(*NO)は、回復を目的としない保管操作で使用する必要があります。例えば、保管データをレコードごとに別のシステムに送信して、保管ファイルを即時に削除すると、保管履歴情報が更新されない場合があります。

上

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリュウム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリュウム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注:

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュウムを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュウムが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュウムを初期設定することができます。

*NONE

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリュウム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュウムの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュウムに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュウムに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注: *AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュウムは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

上

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

上

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態で保管されます。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。保管操作中のすべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーが同時にチェックポイントに達し、それらの相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

注: この値を指定して、多数のライブラリーを保管しようとする、保管操作ですべてのオブジェクトおよびライブラリーのチェックポイントに達するために長時間を要する可能性があります。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

上

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になければなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

*LOCKWAIT

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOCMTBDY

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることとなります。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。
詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションのコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

上

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに*SYNCLIBが指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

同期 ID (SYNCID)

この活動時保管操作が参加する同期チェックポイントの名前を指定します。同期チェックポイントは、開始保管同期 (STRSAVSYNC)コマンドによって既に開始されている必要があります。

*NONE

この活動時保管操作のチェックポイントは、他のどの活動時保管操作とも同期されていません。

名前 同期チェックポイントの名前を指定します。名前を指定する場合には、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターに値*SYNCLIBを指定する必要があります。

注: 名前を指定する場合には、**活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)**パラメーターの**要素2: 保留中のレコード変更**で使用される値が、参加しているすべての保管操作のなかで最大の値になります。ただし、参加しているいずれかの保管操作に*NOCMTBDYが指定されている場合には、参加しているすべての保管操作で*NOCMTBDYを指定する必要があります。

上

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに付属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

重要: 基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならない、同時に保管しなければなりません。

***SYSVAL**

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注: この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

上

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

上

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

保管される出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。

***NONE**

スプール・ファイル・データは保管されません。

***ALL** 保管される出力待ち行列ごとに、出力待ち行列で使用可能なスプール・ファイル・データがすべて保管されます。

上

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

保管されたオブジェクトで、専用権限を保管するかどうかを指定します。専用権限の保管によって、オブジェクトを保管するために必要な時間が増加しますが、オブジェクトまたはオブジェクト・グループのリカバリーを単純化できます。システム全体のリカバリーを単純化するわけではありません。

***NO** どの専用権限も保管されていません。

***YES** 保管された各オブジェクトについて、専用権限が保管されています。

注: この値を指定するには、システム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

記憶域 (STG)

保管しようとしているライブラリー中の指定されたメンバー（保管ファイルを除く）、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占められているシステム記憶域が保管操作の一部として解放されるかどうかを指定します。これらのオブジェクトのデータ部分のみが解放され、オブジェクトの記述は解放されません。

***KEEP**

保管しようとしているオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域は解放されません。

***FREE**

保管しようとしている指定されたオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域が保管操作の一部として解放されます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが占めている記憶域は、そのライブラリー中のすべてのオブジェクトが正常に保管された後でのみ解放されます。

注: 起こる可能性があるプログラムの異常終了を防止するためには、*FREEが指定された時に、保管しようとしているプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実

行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

上

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVがデータ圧縮 (DTACPR)パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

上

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

単一値

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるオブジェクトは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

***** 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

上

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRSAVのファイルQASAVOBJをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***ERR** リストには、コマンド、各ライブラリーの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目に関する情報が入ります。

***LIB** リストには、保管するように要求された各ライブラリーのライブラリー項目が入ります。

***MBR** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびプール・ファイルが入ります。

上

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)

このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースを指定します。このユーザー・スペースには、パラメーターごとに32767までのリスト値が許可されていますが、コマンド・パラメーターには300までしかリスト値が許可されていません。ユーザー・スペースは、オブジェクト・リスト保管(QRSAVO) APIによって使用されるフォーマットでパラメーターを定義しなければなりません。

修飾子1:ユーザー・スペース

名前 このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ユーザー・スペースを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ユーザー・スペースが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

例

例1: テープ装置でのライブラリーの保管

```
SAVLIB LIB(JOE) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、JOEという名前のライブラリーをTAP01という名前のテープ装置にあるテープに保管します。STGパラメーターは省略時の値(*KEEP)とみなされているので、システム内のJOEが占めていた記憶域は解放されません。

例2: 複数のボリュームでの保管

```
SAVLIB LIB(QGPL) DEV(OPT01) VOL(ABC DEF GHI)
```

汎用ライブラリー(QGPL)がOPT01という名前の装置の光ディスク・ボリュームで保管されます。使用される光ディスク・ボリュームはABC, DEF, およびGHIというボリューム名でなければなりません。ボリュームABCが満杯になった時に保管操作が終了していない場合には、装置にボリュームDEFを入れることを操作員に要求するメッセージが出されます。

例3: データの保管時の記憶域の解放

```
SAVLIB LIB(CUSTDATA) DEV(TAP01)  
VOL(CUSTNM CUSTAD) STG(*FREE)
```

CUSTDATAという名前のライブラリーが、テープ装置TAP01に入れられたボリュームCUSTNMおよびCUSTADに保管されます。CUSTDATAライブラリー内の指定されたメンバー、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーが占めていた記憶域は、それらが保管された後に解放されます。

例4: 複数の装置での逐次保管

```
SAVLIB LIB(USRLIB) DEV(TAP01 TAP02 TAP03)  
VOL(USRA USRB USRC USRD) ENDOPT(*UNLOAD)
```

USRLIBという名前のライブラリーが3つのテープ装置の4つのテープ・ボリュームに保管されます。USRAという名前のボリュームはTAP01という名前の装置に、USRBという名前のボリュームはTAP02という名前の装置に、USRCという名前のボリュームはTAP03という名前の装置に、およびUSRDという名前のボリュームはTAP01という名前の装置に入れられます。処理が完了した場合には、TAP01という名前の装置をUSRDという名前のボリュームに使用できるように、USRAという名前のボリュームを操作員が巻き戻し、アンロードする必要があります。

例5: 複数の装置での並列保管

```
SAVLIB LIB(USRLIB) DEV(*MEDDFN) MEDDFN(LIBA/MEDDFNA)
```

USRLIBという名前のライブラリーが、ライブラリーLIBAのMEDDFNAという名前の媒体定義に指定された装置で保管されます。媒体定義の作成および使用については、INFORMATION CENTERの「バックアップ、回復、および可用性」トピックを参照してください。

例6: 媒体ファイル・ラベルを使用したライブラリーの保管

```
SAVLIB LIB(LIB1) DEV(TAP01) LABEL(MONDAYBACKUP)
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ装置を使用して、LIB1という名前のライブラリーをテープに保管します。ライブラリーは、MONDAYBACKUPの媒体ファイル・ラベルとともに保管されます。このライブラリーまたはそのいずれかのオブジェクトを復元する場合には、このラベルを指定する必要があります。

例7:保管操作を開始する場所の指定

```
SAVLIB LIB(*NONSYS) DEV(TAP01 TAP02)
        STRLIB(MIKESLIB) ASPDEV(*SYSBAS)
```

このコマンドは、システムおよび基本ユーザーASPにあるすべてのライブラリーを、MIKESLIBという名前のライブラリーから順にTAP01およびTAP02という名前のテープ装置で保管します。システム・ライブラリーおよび通常は最初に保管されるライブラリー(QSYS2, QGPL,およびQUSRSYS)は保管されません。

例8:独立ASPグループへのユーザー・ライブラリーの保管

```
SAVLIB LIB(*ALLUSR) DEV(TAP01) ASPDEV(*CURASPR)
```

このコマンドは、現行スレッド用のASPグループにある独立ASPにすべてのユーザー・ライブラリーを保管します。これは、システムASP (ASP番号1)または基本ユーザーASP(ASP番号2から32)にはライブラリーを保管しません。

例9:スプール・ファイルの保管

```
SAVLIB LIB(MYLIB) DEV(TAP01) SPLFDTA(*ALL)
```

このコマンドは、MYLIBという名前のライブラリーを保管します。これにはライブラリー中の出力待ち行列のスプール・ファイル・データが含まれます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3701

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3703

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3708

&2の保管ファイル&1が小さすぎる。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域が限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3749

ライブラリー&2からオブジェクトが保管されませんでした。

CPF3751

保管されなかったライブラリーがある。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF377D

内部システム資源の読み取りエラーのために保管が終了した。

CPF377E

活動時保管要求に記憶域が不十分である。

CPF377F

保留中のレコード変更によって、活動時保管要求が実行できなかった。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3771

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3777

&1個のライブラリーは保管され、&6個のライブラリーは部分的に保管され、&2個のライブラリーは保管されませんでした。

CPF378A

メッセージ待ち行列が使用できない。

CPF378C

SAVACTMSGQ(*WRKSTN)はバッチ・ジョブでは正しくない。

CPF378E

ライブラリー&1は保管されていない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3785

終了していないサブシステムがある。

CPF3789

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF379E

ライブラリー&1の保管に使用可能な記憶域が不十分である。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3797

ライブラリー&3からオブジェクトが保管されませんでした。保管の限界を超えました。

CPF37AB

*NOCMTBDYはターゲット・リリースで使用できません。

CPF37AC

*NOCMTBDYの場合、ライブラリーは使用できません。

CPF37B1

SPLFDTAはターゲット・リリースでは使用できません。

CPF37B4

&2のユーザー・スペース&1が正しくありません。

CPF37B5

PVTAUTはターゲット・リリースでは使用できません。

CPF37B7

専用権限の保管は認可されていない。

CPF37B9

同期ID &1が使用中である。

CPF37BC

同期ID &1は終了しました。待機時間を超えました。

CPF37BD

同期ID &1は終了しました。チェックポイント前に保管が終了しました。

CPF37BE

同期ID &1が開始されていない。

CPF37C7

同期ID &1は終了しました。SAVACTWAIT エラー。

CPF380B

この時点で保管を完了することができない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3815

&2の保管ファイル&1は保管操作には小さすぎる。

CPF3818

開始ライブラリー&1が見つからない。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3892

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A3

&2のファイル&1はASPDEVでは無効です。

CPF38A4

ASP装置&1は正しくありません。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRP PRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

OPT1332

光ディスク・ボリュームが装置&1に見つからない。

STATUS メッセージ*CPF3770**

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3771

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

上

ライセンス・プログラムの保管 (SAVLICPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドは、ライセンス・プログラムを構成するすべてのオブジェクトのコピーを保管します。このコマンドは、ライセンス・プログラム復元(RSTLICPGM)コマンドで復元できる形式で、ライセンス・プログラムを保管します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限をもっているか、あるいは機密保護担当者から受ける特定権限をもっていなければなりません。
2. テープ装置に標準ラベル・テープ・ボリュームがなければなりません。
3. 一部のライセンス・プログラムは、ユーザーがシステム配布ディレクトリーに登録されている場合にのみ保管することができます。この制約については、各ライセンス・プログラムの資料を参照してください。
4. このコマンドは、基本オペレーティング・システムのコードまたは言語オブジェクトを保管しません。
5. 指定できるのは、多くても、1台の光ディスク装置、1つの保管ファイル、1台の仮想テープ装置、または1台のテープ媒体ライブラリー装置です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAVF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
OPTION	保管される任意選択部分	*BASE, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09	オプション
RLS	リリース	文字値, *ONLY	オプション
LNG	ライセンス・プログラムの言語	文字値, *PRIMARY, *ALL	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	<u>*ALL</u> , *PGM, *LNG	オプション
CHKSIG	署名の検査	<u>*SIGNED</u> , *ALL, *NONE	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: <u>*MOUNTED</u> その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, <u>*END</u>	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, <u>*PERM</u>	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
TGTRLS	ターゲット・リリース	<u>*CURRENT</u> , *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
CLEAR	消去	<u>*NONE</u> , *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
DTACPR	データ圧縮	<u>*DEV</u> , *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
LICACPRQD	ライセンス受諾が必要である	<u>*NO</u> , *YES	オプション

上

プロダクト (LICPGM)

保管されるライセンス・プログラムの7文字のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

装置 (DEV)

ライセンス・プログラム保管操作に使用されるテープ装置または光ディスク装置の名前を指定します。各装置名は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。このシステムで使用可能な装置の名前を表示するためには、装置記述処理(WRKDEVD)コマンドを使用してください。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

*SAVF

プロダクトは、保管ファイル(SAVF)パラメーターで指定した保管ファイルに保管されます。

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用する1つ以上のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合は、それが指定される唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、それらは互換性のある媒体形式であり、それらの名前は、使用する順序に指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用することによって、あるテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理している間に、別のテープ・ボリュームを巻き戻して取り外すことができます。

上

保管される任意選択部分(OPTION)

プロダクトプロンプト(LICPGMパラメーター)に指定した保管するライセンス・プログラムの任意選択部分を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BASE

ライセンス・プログラムの基本部分だけが保管されます。

ライセンス・プログラム・オプションの番号

保管したい、リストされたライセンス・プログラムの任意選択部分の番号を指定してください。

上

リリース (RLS)

保管されるライセンス・プログラムのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ONLY

ライセンス・プログラム・オプションのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルが1つだけ導入されています。

リリース・レベル

VXRYMZの形式でリリース・レベルを指定してください。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、そしてMZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

上

ライセンス・プログラムの言語 (LNG)

保管操作に使用された各国語バージョン(NLV)を指定します。

注: OBJTYPE(*PGM)が指定された時には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

*PRIMARY

1次言語が保管されます。1次言語は、オペレーティング・システムの言語です。

注: オプション20でGO LICPGMを使用して、オペレーティング・システムの1次言語を表示します。

*ALL すべての言語が保管されます。

機能コード

ライセンス・プログラムについて保管される言語のNLV IDを指定します。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保管するライセンス・プログラム・オブジェクトのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ALL プログラムおよびLNGパラメーターに指定された言語オブジェクトが保管されます。

*PGM ライセンス・プログラムのプログラム・オブジェクトだけが保管されます。

*LNG LNGパラメーターで識別されたNLVと関連したオブジェクトが保管されます。

上

署名の検査 (CHKSIG)

ライセンス・プログラムと一緒に保管しようとしているオブジェクトのデジタル署名を検査するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SIGNED

デジタル署名のあるオブジェクトが検査されます。 デジタル署名でないオブジェクトの署名は検査されません。 署名が無効である署名済みオブジェクトはジョブ・ログのメッセージで識別され、その保管は失敗します。

*ALL デジタル署名が可能なすべてのオブジェクトが検査されます。 署名可能であるが署名のないオブジェクトはジョブ・ログのメッセージで識別されます。 無署名のオブジェクトの保管は打ち切られません。 デジタル署名が無効である署名済みオブジェクトはジョブ・ログのメッセージで識別され、その保管は失敗します。

*NONE

オブジェクトのデジタル署名は検査されません。

上

ボリューム識別コード (VOL)

ライセンス・プログラム・データが保管されるテープ・ボリュームのボリュームIDを指定します。 ボリュームは、このパラメーターに指定されたボリュームIDと同じ順序で入っていなければなりません。最大75個まで項目を指定することができます。

考えられる値は次の通りです。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによって取り付けられたカテゴリ中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

ボリュームID

装置にセットし、ライセンス・プログラムの保管に使用する順序で1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

***END** 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

上

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるテープの満了日を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

保管ファイル (SAVF)

プロダクトの保管先の既存の保管ファイルの修飾名を指定します。消去プロンプト(CLEARパラメーター)に*ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空でなければなりません。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

保管ファイル名

保管ファイルの名前を指定してください。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

プロダクトを復元して使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

CURRENT**およびPRV**値の場合の例、および**ターゲット・リリース**の値を指定する時には、**VXRXMX**の形式を使用してリリースを指定します。ここで、**VX**はバージョン、**RX**はリリース、**MX**はモディフィケーション・レベルです。例えば、**V4R1M0**は、バージョン4,リリース1,モディフィケーション・レベル0です。

注: この値は、プロダクトを作成した時に指定した最小オペレーティング・システム・リリースによって限定されます。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

プロダクトは、現在システム上で実行されているオペレーティング・システムのリリースに復元され、そこで使用されます。プロダクトは、導入されているオペレーティング・システムの後継リリースが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** プロダクトは、オペレーティング・システムの前のリリース (モディフィケーション・レベル0)に復元されます。プロダクトは、導入されているオペレーティング・システムの後継リリースが導入されたシステムに復元することもできます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。プロダクトは、指定されたリリースが導入されているシステム、または導入されているオペレーティング・システムの後継リリースが導入されたシステムに復元することができます。

有効な値は現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。有効なターゲット・リリースの値のリストを表示するには、F4を押してください。

上

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリュウム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリュウム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注：

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュウムを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュウムが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュウムを初期設定することができます。

*NONE

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリュウム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュウムの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュウムに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュウムに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注: *AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

*REPLACE

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システムで他のジョブが活動している時に保管が実行中で、ソフトウェア圧縮が使用された場合には、システム全体のパフォーマンスが影響を受ける場合があります。

考えられる値は次の通りです。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*MEDIUM

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

*HIGH

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

上

ライセンス受諾が必要である (LICACPRQD)

保管されたライセンス・プログラムの復元時にライセンス受諾を促すプロンプトをユーザーに出すかどうかを指定します。保管しようとしているライセンス・プログラムにオンライン・ソフトウェア契約が付いていない場合には、復元時にプロンプトは出されません。このパラメーターは、現在導入されているライセンス・プログラムのライセンス受諾状況には影響しません。

考えられる値は次の通りです。

***NO** 保管されたライセンス・プログラムの復元時にライセンス受諾は必要ありません。

***YES** 保管されたライセンス・プログラムの復元時にライセンス受諾が必要です。ただし、これは、保管しようとしているライセンス・プログラムにオンライン・ソフトウェア契約が付いている場合に限られます。

上

例

例1:自動的に消去されるテープ

```
SAVLICPGM LICPGM(5761WDS) DEV(TAP01) CLEAR(*ALL)
```

このコマンドは、WEBSPHERE DEVELOPMENT STUDIOライセンス・プログラム(5761WDS)の*BASEオプションを保管します。これは、TAP01テープ装置中のテープに保管されます。未消去のテープが見つかる、そのたびにそのテープが自動的に消去され、保管操作は操作員の介入なしに続行されます。

例2:ラベル付きテープ・ボリュームへの保管

```
SAVLICPGM LICPGM(5761WDS) DEV(TAP01) VOL(ABCDE)
```

WEBSPHERE DEVELOPMENT STUDIOライセンス・プログラム(5761WDS)の*BASEオプションがTAP01テープ装置に保管されますが、その保管はABCDEというラベルのテープ・ボリュームから開始されます。保管操作が1つのテープの記憶容量を超えた場合には、TAP01テープ装置に別のボリュームを入れるように要求するメッセージが操作員に表示されます。

例3:マルチボリュームへの保管

```
SAVLICPGM LICPGM(5761SS1) OPTION(2) DEV(TAP01 TAP02)
```

I5/OSライセンス・プログラム(5761SS1)のオンライン・ヘルプ・オプションは、テープ装置TAP01およびTAP02に交互に保管されます。保管操作で2つのテープの記憶容量を超えた場合には、別のボリュームをTAP01テープ装置に入れることを要求するメッセージが操作員に対して表示されます。保管操作の完了時にはテープが巻き戻されます。

例4:自動的に消去される保管ファイルへの保管

```
SAVLICPGM LICPGM(5761WDS) DEV(*SAVF)  
CLEAR(*ALL) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、WEBSPHERE DEVELOPMENT STUDIOライセンス・プログラム(5761WDS)の基本オプションを保管します。これは、ライブラリーMYLIB中の保管ファイルMYSAVFに保管されます。保管ファイルMYSAVFは自動的に消去され、保管操作は操作員の介入なしに続行されます。

例5:保管ファイルへのプログラム・オブジェクトの保管

```
SAVLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)  
DEV(*SAVF) RLS(*ONLY)  
OBJTYPE(*PGM) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

1MYPRODプロダクトは、2つのライブラリーからなり、フォルダーを含みません。1MYPRODプロダクトのプログラム・オブジェクトだけがMYLIBライブラリー中の保管ファイルMYSAVFに保管されます。

例6:1つのライブラリー中のすべてのオブジェクトを保管ファイルに保管

```
SAVLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
DEV(*SAVF) RLS(*ONLY)
LNG(2924) OBJTYPE(*ALL) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

1MYPRODプロダクトは、ただ1つのライブラリーからなり、フォルダーを含みません。1MYPRODプロダクトのNLV 2924のプログラム・オブジェクトおよび言語オブジェクトがMYLIBライブラリー中の保管ファイルMYSAVFに保管されます。

例7:2つのライブラリー中のすべてのオブジェクトを保管ファイルに保管

```
SAVLICPGM LICPGM(1MYPROD) OPTION(*BASE)
DEV(*SAVF) RLS(*ONLY)
LNG(2924) OBJTYPE(*ALL) SAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

1MYPRODプロダクトは2つのライブラリーからなり、*PGMオブジェクトをもつ1つのルート・フォルダーをもち、そのルート・フォルダーの下に*LNGオブジェクトをもつ1つのサブフォルダーがあります。1MYPRODプロダクトのNLV 2924のプログラム・オブジェクトおよび言語オブジェクトがMYLIBライブラリー中の保管ファイルMYSAVFに保管されます。

例8:前のリリースの場合の保管

```
SAVLICPGM LICPGM(1MYPROD) DEV(TAP01) TGTRLS(*PRV)
```

1MYPRODプロダクトはTAP01に保管され、オペレーティング・システムの前のリリースが導入されているシステムに復元できます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3D93

プロダクト&1オプション&2リリース&4のオブジェクトは保管されなかった。

上

オブジェクト保管 (SAVOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト保管(SAVOBJ)コマンドは、1つのオブジェクトまたは同じライブラリーにある1グループのオブジェクトのコピーを保管します。 **オブジェクト (OBJ)**パラメーターに*ALLを指定すると、ライブラリーのリストからオブジェクトを保管することができます。 保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することができません。 システムは、指定されたオブジェクトを、各オブジェクトのコピーをテープ、光ディスク媒体、または保管ファイルに書き込むことによって保管します。 コマンドで記憶域の解放を指定しない限り、システム中のオブジェクトには影響がありません。しかし、各オブジェクトの記述は、**ヒストリー更新 (UPDHST)**パラメーターに*NOが指定されていない限り、それが最後に保管された日付、時刻、および場所を変更されます。

ジョブ待ち行列、ユーザー待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクト記述だけが保管され、オブジェクトの内容は保管されません。しかし、論理ファイルのアクセス・パスは、**アクセス・パス保管 (ACCPH)**パラメーターに*YESを指定することによって保管することができます。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、**スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)**パラメーターに*ALLを指定することによって保管することができます。保管ファイルの内容は、**保管ファイル・データ (SAVFDTA)**パラメーターに*YESを指定するか、あるいは保管ファイル・データ保管(SAVSAVFDTA)コマンドを使用することによって保管することができます。データ待ち行列の内容は、**待ち行列データ (QDTA)**パラメーターに*DTAQを指定して保管することができます。

注: このコマンドは、出力ファイル以外のジョブに対して現在有効になっているすべてのファイル一時変更を無視します。

制約事項:

- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のオブジェクト権限が必要です。
 - 保管される各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限 (スプール・ファイル・データの場合、出力待ち行列に対する*OBJEXIST権限)
 - 保管元の各ライブラリー・オブジェクトに対する実行(*EXECUTE)権限
- *SAVSYS特殊権限がない場合には、ユーザーが権限を持っているオブジェクトのみが保管されます。
- テープまたは光ディスク装置に保管する場合には、その装置記述および装置ファイルに対する使用(*USE)権限が必要です。 保管ファイルに保管する場合には、その保管ファイルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および追加(*ADD)権限と、保管ファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- 媒体定義を使用する場合には、その媒体定義に対する*USE権限および媒体定義ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- このコマンドでは、ライブラリーのデータ・ディクショナリーまたは関連のデータベース・ファイルは保管されません。 これらを保管するには、ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドを使用する必要があります。
- OUTFILEパラメーターを使用して既存のデータベース・ファイルに保管する場合には、その出力ファイル・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。
- テープを使用する場合には、標準ラベル付きボリュームを装置に入れなければなりません。

- 活動状態保管を使用しない限り、保管中のオブジェクトは、保管操作が行われた時に実行中であったジョブによって変更することはできません。
- SAVFDTA(*YES)を指定して、保管ファイルの内容を同一保管ファイルに保管する場合には、保管ファイルの記述だけが保管されます。
- SAVFDTA(*YES)を指定することによって保管ファイルの内容を保管した場合には、そこに入っているオブジェクトを復元する前に、保管ファイルを復元しなければなりません。
- コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターを使用する場合には、そのユーザー・スペースに対する*USE権限およびユーザー・スペース・ライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
LIB	ライブラリー	単一値: *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
DEV	装置	単一値: *SAVF, *MEDDFN その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 4
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 75 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 5
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END	オプション
LABEL	ラベル	文字値, *LIB	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *PERM	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MEDDFN	媒体定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 媒体定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTFILE	光ディスク・ファイル	パス名, *	オプション
USEOPTBLK	最適ブロックの使用	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	*CURRENT, *PRV, V5R3M0, V5R4M0, V6R1M0	オプション
UPDHST	ヒストリー更新	*YES, *NO	オプション
CLEAR	消去	*NONE, *ALL, *AFTER, *REPLACE	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *LIB, *SYNCLIB, *SYSDFN	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, * <u>LOCKWAIT</u> , *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, * <u>LOCKWAIT</u> , *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, * <u>NONE</u> , *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
SYNCID	同期 ID	名前, * <u>NONE</u>	オプション
FILEMBR	ファイル・メンバー	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	名前, * <u>ALL</u>	
	要素 2: メンバー	単一値: * <u>ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	
ACCPH	アクセス・パス保管	* <u>SYSVAL</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	* <u>YES</u> , *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	* <u>NONE</u> , *ALL	オプション
QDTA	待ち行列データ	* <u>NONE</u> , *DTAQ	オプション
PVTAUT	私用専用権限	* <u>NO</u> , *YES	オプション
STG	記憶域	* <u>KEEP</u> , *FREE	オプション
DTACPR	データ圧縮	* <u>DEV</u> , *NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション
COMPACT	データ短縮	* <u>DEV</u> , *NO	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: * <u>NONE</u> , *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	単一値: *USRSPC その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, * <u>NONE</u> , *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, * <u>ALL</u>	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, * <u>ALL</u>	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTPUT	出力	* <u>NONE</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, * <u>FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	* <u>REPLACE</u> , *ADD	
INFTYPE	出力情報のタイプ	* <u>OBJ</u> , *LIB, *MBR, *ERR	オプション
CMDUSRSPC	コマンド・ユーザー・スペース	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: コマンド・ユーザー・スペース	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	

オブジェクト (OBJ)

保管する1つまたは複数のオブジェクトの名前または各オブジェクト・グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトが**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の保管するオブジェクト・グループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 保管する特定のオブジェクトの1つ以上の名前を指定します。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

ライブラリー (LIB)

保管するオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに*ALLを指定した場合には、最大300のライブラリー名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

単一値

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーが保管されます。保管ファイルに保管する時には、ユーザー・スペースにライブラリーは1つしか指定することはできません。特殊値*SPLFはユーザー・スペースには指定できません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 保管するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

注: 保管ファイルに保管する時には、総称ライブラリー名を指定することはできません。

名前 保管するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

注: 保管ファイルに保管する時には、ライブラリーは1つしか指定することはできません。

上

装置 (DEV)

保管操作に使用される装置の名前を指定します。この装置名は、装置記述によってシステム上ですでに認識されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

*SAVF

保管操作は、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに指定された保管ファイルを使用して実行されます。

*MEDDFN

保管操作は、**媒体定義 (MEDDFN)**パラメーターに指定された媒体定義で識別された装置および媒体を使用して実行されます。

その他の値

光ディスク装置名

保管操作に使用される光ディスク装置の名前を指定してください。

テープ媒体ライブラリー装置名

保管操作に使用されるテープ媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

テープ装置名

保管操作に使用される1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。仮想テープ装置を使用する場合には、指定する唯一の装置でなければなりません。複数のテープ装置を使用する場合には、互換性のある媒体形式になっていなければならない。それらの名前は使用される順序で指定しなければなりません。複数のテープ装置を使用すると、テープ・ボリュームを巻き戻してアンロードしながら、別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理できます。複数の装置を並列に使用するには、媒体定義が指定されていなければなりません。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

単一値

***ALL** 指定した名前で、指定したライブラリーに入っているすべてのオブジェクト・タイプが保管されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターにも*ALLが指定されている場合には、ライブラリーに入っているオブジェクトのうち、保管できるタイプのすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD),ファイル(*FILE),またはプログラム(*PGM)など、保管するオブジェクトの各タイプの値を指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ボリューム識別コード (VOL)

データを保管するボリュームのボリュームIDまたはテープ媒体ライブラリー装置内のテープのカートリッジIDを指定します。ボリュームは、このパラメーターに指定したのと同じ順序で装置に入れなければなりません。

単一値

*MOUNTED

データは、装置に入っているボリュームに保管されます。媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

注: 光ディスク媒体ライブラリー装置を使用している時には、この値を指定することはできません。

その他の値 (最大75個指定可能)

文字値 装置に入れてデータの保管に使用する順序で、1つまたは複数のボリュームのIDを指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

テープが使用された時に、保管操作の開始点として使用する順序番号を指定します。

*END 保管操作は、最初のテープ上の最後の順序番号の後で開始されます。最初のテープがいっぱいになっている場合には、エラー・メッセージが出されて操作は終了します。

1から16777215

保管操作に使用されるファイルの順序番号を指定してください。

上

ラベル (LABEL)

保管操作に使用されるテープ・ボリューム上のデータ・ファイルを識別する名前を指定します。このパラメーターが保管コマンドで使用された場合には、復元コマンドでも同じラベルを指定しなければなりません。

注: このパラメーターで*SAVLIBを指定することはできません。この値は復元コマンドのラベル (LABEL) パラメーターの特殊値であり、これを指定すると保管したものを復元できなくなるからです。

***LIB** ファイル・ラベルは、ライブラリー (LIB)パラメーターに指定されたライブラリーの名前を使用して、システムが作成します。

文字値 保管操作に使用されるデータ・ファイルのデータ・ファイルIDを指定してください。最大17文字を使用することができます。このオプションは、単一ライブラリーの保管操作の場合にのみ有効です。

上

ファイル満了日 (EXPDATE)

保管操作によって作成されるファイルの有効期限を指定します。日付が指定されている場合には、そのファイルは保護されて、指定された有効期限まで上書きできません。

注:

1. このパラメーターはテープおよび光ディスク・ファイルの場合に有効です。
2. このパラメーターを指定しても、CLEAR(*ALL)が指定されている保管操作からは保護されません。

***PERM**

ファイルは永続的に保護されます。

日付 ファイルの保護が終了する日付を指定してください。

上

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

保管操作の終了後にテープまたは光ディスク・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームを使用する場合には、このパラメーターは最後に使用されるボリュームにだけ適用されます。その他のすべてのボリュームは、ボリュームの終わりに達するとアンロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合は、サポートされる特殊値は*UNLOADだけであり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

上

保管ファイル (SAVF)

保管されたデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。 **消去 (CLEAR)**パラメーターで *ALLが指定されないかぎり、保管ファイルは空になっていなければなりません。

注: **装置 (DEV)**パラメーターに*SAVFが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

媒体定義 (MEDDFN)

保管データを入れるのに使用される装置および媒体を識別する媒体定義(*MEDDFN)オブジェクトを指定します。媒体定義の作成および使用の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)、および i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションの媒体定義作成APIを参照してください。

媒体定義を指定した場合には、VOL, SEQNBR, SAVF,およびOPTFILEパラメーターは指定することができません。ボリュームIDおよび順序番号は、媒体定義に指定します。

修飾子1: 媒体定義

名前 使用する媒体定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

光ディスク・ファイル (OPTFILE)

保管操作に使用されるボリュームのルート・ディレクトリーで始まる光ディスク・ファイルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

* システムは、光ディスク・ボリュームのルート・ディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスクのパス名/*'

システムは、光ディスク・ボリュームの指定されたディレクトリー内に光ディスク・ファイル名を生成します。

'光ディスク・ファイル・パス名'

光ディスク・ファイルのパス名を指定してください。

上

最適ブロックの使用 (USEOPTBLK)

保管操作で最適ブロック・サイズを使用するかどうかを指定します。

注: USEOPTBLK(*YES)を指定すると、同一ブロック・サイズをサポートする装置にしか複製できないテープになります。

***YES** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズが保管コマンドに使用されます。使用するブロック・サイズがすべての装置タイプによってサポートされるブロック・サイズより大きい場合には、次の通りです。

- パフォーマンスが向上する場合があります。
- 作成されるテープ・ファイルは、使用したブロック・サイズをサポートする装置しか互換性がありません。ファイルを使用したのと同じブロック・サイズをサポートする装置に複製中でない限り、テープ複製(DUPTAP)などのコマンドはファイルを複製しません。
- DTACPRパラメーターの値が無視されます。

***NO** 装置によってサポートされる最適ブロック・サイズは使用されません。保管コマンドでは、すべての装置タイプによってサポートされる省略時のブロック・サイズが使用されます。テープ・ボリュームは、テープ複製(DUPTAP)コマンドを使用して任意の媒体形式に複製することができます。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

オブジェクトを復元して使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

保管操作を行うシステムとは異なるリリース・レベルのシステムに配布するオブジェクトを保管するように指定するためには、プログラム・オブジェクトの場合とプログラム以外のオブジェクトの場合とでは手順が異なり、またプログラム・オブジェクトが作成されるリリース・レベルによっても手順は異なります。例えば、前のリリースで実行中のシステムに配布するオブジェクトを保管する場合には、次の選択を行うことができます。

プログラム・オブジェクトの場合:

- ターゲットとなる以前のリリースより最近のリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行わなければなりません。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、再度プログラム・オブジェクトを作成する
 2. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 3. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する
- ターゲット・システムと同じリリース・レベルでプログラム・オブジェクトが作成されている場合には、以下を行うことができます。
 1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このプログラム・オブジェクトを保管する
 2. ターゲット・システムでこのプログラム・オブジェクトを復元する

プログラム以外のオブジェクトの場合:

次のことができます。

1. ターゲットとなる以前のリリースを指定して、このオブジェクトを保管する
2. ターゲット・システムでこのオブジェクトを復元する

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

ヒストリー更新 (UPDHST)

各保管済みオブジェクトの保管ヒストリーを、この保管操作の日付、時刻、および位置で変更するかどうかを指定します。オブジェクトの保管ヒストリー情報は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示します。保管ヒストリー情報は、RCVRNG(*LASTSAVE)およびFROMENT(*LASTSAVE)またはFROMENTLRG(*LASTSAVE)がジャーナル処理項目適用(APYJRNCHG)コマンドで使用されると、処理するジャーナル項目はどれかを判別するために使用されます。

***YES** 保管された各オブジェクトで最終保管日、時刻、および位置が更新されます。

***NO** 保管された各オブジェクトの記述に入っている保管履歴情報は更新されません。

注: UPDHST(*NO)は、回復を目的としない保管操作で使用する必要があります。例えば、保管データをレコードごとに別のシステムに送信して、保管ファイルを即時に削除すると、保管履歴情報が更新されない場合があります。

上

消去 (CLEAR)

媒体上の活動データを自動的に消去するか置き換えるかを指定します。活動データとは、媒体上の有効期限が切れていないすべてのファイルのことです。テープへの保管の場合には、活動データを消去すると、保管操作で書き込まれた最後のファイルより後の、テープ・ボリューム上のファイルは以後アクセスできなくなります。光ディスクへの保管の場合には、保管操作で書き込まれたファイルを自動的に置き換えてそのボリューム上の他のファイルを活動状態のまま残すか、またはすべての活動ファイルを自動的に消去することができます。消去では、データは削除されず、ファイルが以後アクセスできなくなるだけです。

注:

1. テープの消去は、そのテープを初期設定しません。テープは、保管コマンドの発行前に、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用してNEWVOLパラメーターに値を指定することによって標準ラベル形式に初期設定する必要があります。
2. 光ディスク・ボリュームを消去すると、それは初期設定されます。
3. 初期設定されていないボリュームが保管操作時に検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員はそのボリュームを初期設定することができます。

***NONE**

どの媒体も自動的に消去されません。保管操作でテープ・ボリューム、または保管ファイルに活動データが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいは媒体を消去することができます。保管操作で指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

***ALL** すべての媒体が自動的に消去されます。

テープが使用され、SEQNBRパラメーターに順序番号が指定された場合には、その順序番号から最初のテープの消去が開始されます。その最初のテープに続くテープはすべて完全に消去されます。最初のテープ全体を消去するためには、SEQNBR(1)を指定する必要があります。

***AFTER**

最初のボリュームの後のすべての媒体が自動的に消去されます。保管操作の最初のテープ・ボリュームに活動データがある場合には、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作の終了または媒体の消去ができます。保管操作で最初のボリュームに指定された光ディスク・ファイルが検出されると、照会メッセージが送信されて、操作員は保管操作を終了するか、あるいはそのファイルを置き換えることができます。

注: *AFTER値は保管ファイルの場合には無効です。

***REPLACE**

媒体上の活動データは自動的に置き換えられます。光ディスク・ボリュームは初期設定されません。その他の媒体は、*ALL値の場合と同様に自動的に消去されます。

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態で保管されます。

***SYNCLIB**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。保管操作中のすべてのオブジェクトおよびすべてのライブラリーが同時にチェックポイントに達し、それらの相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

注: この値を指定して、多数のライブラリーを保管しようとする、保管操作ですべてのオブジェクトおよびライブラリーのチェックポイントに達するために長時間を要する可能性があります。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中的のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になければなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

*LOCKWAIT

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOCMTBDY

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることとなります。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。
詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションのコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

0が指定され、1つの名前だけが**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定され、***FILE**が**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定された唯一の値である場合には、システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。

上

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに***SYSDFN**または***LIB**値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに***SYNCLIB**が指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

同期 ID (SYNCID)

この活動時保管操作が参加する同期チェックポイントの名前を指定します。同期チェックポイントは、開始保管同期 (STRSAVSYNC)コマンドによって既に開始されている必要があります。

*NONE

この活動時保管操作のチェックポイントは、他のどの活動時保管操作とも同期されていません。

名前 同期チェックポイントの名前を指定します。名前を指定する場合には、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターに値*SYNCLIBを指定する必要もあります。

注: 名前を指定する場合には、**活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)**パラメーターの**要素2: 保留中のレコード変更**で使用される値が、参加しているすべての保管操作のなかで最大の値になります。ただし、参加しているいずれかの保管操作に*NOCMTBDYが指定されている場合には、参加しているすべての保管操作で*NOCMTBDYを指定する必要があります。

上

ファイル・メンバー (FILEMBR)

保管されるデータベース・ファイル・メンバーを指定します。このパラメーターは、ファイル名およびメンバー名の2つの部分からなります。

ここで指定した各データベース・ファイルは、完全な名前、総称名、または*ALLのいずれかによって**オブジェクト (OBJ)**パラメーターにも指定しなければなりません。**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーター値は、*ALLであるか*FILEを含んでいるかのいずれかでなければなりません。

注: STG(*FREE)が指定されている時には、このパラメーターを指定することはできません。

要素1: ファイル

***ALL** この値に続くメンバー名の値のリストは、OBJパラメーターに指定されたすべてのファイルに適用されます。

名前 保管するためにリストしたメンバーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。各ファイルのメンバー・リストを使用して、最大50のファイルを指定することができます。

注: 総称名は、データベース・ファイル名には無効ですが、メンバー名には使用することができます。

注: 重複ファイル名は使用することができません。

要素2: メンバー

単一値

***ALL** すべてのメンバーが、指定されたファイルから保管されます。

*NONE

メンバーは、指定されたファイルから保管されません。 ファイル記述だけが保管されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

総称名 指定したファイルから保管するメンバーの総称名を指定してください。 総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。 名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なメンバー名であるとみなします。

注: 総称メンバー名を指定した場合には、ファイルに保管するファイルの総称名と一致するメンバー名が含まれていなければなりません。 例えば、総称メンバー名としてPAY*を指定し、システムがPAYで始まるメンバーを検出することができない場合には、ファイルは保管されません。 指定した総称名をもつメンバーが検出できないために、FILEMBRパラメーターによって指定されたファイルが保管されない場合には、診断メッセージが送られ、保管操作を終了し、保管されなかったファイル数を指定したエスケープ・メッセージが送られます。 FILEMBRパラメーターに応じて処理されるファイルのうちの少なくとも1つに、指定された総称名をもつメンバーが含まれている場合には、診断メッセージは送られず、保管されなかったファイル数は最終完了メッセージに入ります。

名前 指定のファイルから保管されるメンバーの名前を指定してください。

注: 特定のメンバー名を指定した場合には、指定したメンバーが、保管または復元するファイルの任意の部分に応じてファイル中に存在していなければなりません。

上

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。 アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。 システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。 アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。 このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。 保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

重要: 基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。 しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。 これらは再作成されます。 論理ファ

イルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならず、同時に保管しなければなりません。

***SYSVAL**

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注: この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

上

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

上

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

保管される出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。

***NONE**

スプール・ファイル・データは保管されません。

***ALL** 保管される出力待ち行列ごとに、出力待ち行列で使用可能なスプール・ファイル・データがすべて保管されます。

上

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

保管されたオブジェクトで、専用権限を保管するかどうかを指定します。専用権限の保管によって、オブジェクトを保管するために必要な時間が増加しますが、オブジェクトまたはオブジェクト・グループのリカバリーを単純化できます。システム全体のリカバリーを単純化するわけではありません。

***NO** どの専用権限も保管されていません。

***YES** 保管された各オブジェクトについて、専用権限が保管されています。

注: この値を指定するには、システム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

記憶域 (STG)

保管しようとしているライブラリー中の指定されたメンバー（保管ファイルを除く）、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占められているシステム記憶域が保管操作の一部として解放されるかどうかを指定します。これらのオブジェクトのデータ部分のみが解放され、オブジェクトの記述は解放されません。

***KEEP**

保管しようとしているオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域は解放されません。

***FREE**

保管しようとしている指定されたオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域が保管操作の一部として解放されます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが占めている記憶域は、そのライブラリー中のすべてのオブジェクトが正常に保管された後でのみ解放されます。

注: 起こる可能性があるプログラムの異常終了を防止するためには、*FREEが指定された時に、保管しようとしているプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

注: *DEVがこのパラメーターと**データ短縮 (COMPACT)**パラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、データ圧縮が実行されます。

このパラメーターに*YESが指定され、COMPACTパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実

行されます。圧縮がサポートされていないか、あるいは保管データが光ディスク媒体または保管ファイルに書き出される場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮は、中間ソフトウェア圧縮を使用する光ディスクDVD以外のすべての装置に使用されます。

***LOW** 保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はSNAアルゴリズムで実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***MEDIUM**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はTERSEアルゴリズムで実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

***HIGH**

保管操作が保管ファイルまたは光ディスクに対する操作の場合には、ソフトウェア・データ圧縮はLZ1アルゴリズムで実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

注: この値はテープの場合には無効です。

上

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。

***DEV** データがテープに保管され、装置 (DEV)パラメーターに指定したすべてのテープ装置が短縮機能をサポートしている場合には、装置データ短縮が実行されます。

注: *DEVがデータ圧縮 (DTACPR)パラメーターとこのパラメーターの両方に指定されていて、装置データの短縮が装置上でサポートされている場合には、装置データの短縮だけが実行されます。そうでない場合には、装置上でサポートされていれば、データ圧縮が実行されます。

DTACPRパラメーターに*YESが指定され、このパラメーターに*DEVが指定された場合には、装置上でサポートされていれば、装置データの短縮と装置データの圧縮の両方が実行されます。

***NO** 装置データの短縮は実行されません。

上

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるライブラリーは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

単一値

*USRSPC

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)パラメーターに指定されたユーザー・スペース中で識別されるオブジェクトは、保管操作から除外されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

*
- 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

上

出力 (OUTPUT)

保管済みオブジェクトに関する情報が含まれているリストを作成するかどうかを指定します。この情報は、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに出力することができます。

*NONE

出力リストは作成されません。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新規ファイルが作成される場合、システムは、IBM提供の形式名QSRSAVのファイルQASAVOBJをモデルとして使用します。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

情報のタイプ (INFTYPE)

印刷するか、データベース・ファイルに向ける情報のタイプを指定します。

***OBJ** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目が入ります。

***ERR** リストには、コマンド、各ライブラリーの項目、および正常に保管されなかった各オブジェクトの項目に関する情報が入ります。

***LIB** リストには、保管するように要求された各ライブラリーのライブラリー項目が入ります。

***MBR** リストには、保管するように要求された各オブジェクトの項目、データベース・ファイル・メンバー、およびプール・ファイルが入ります。

上

コマンド・ユーザー・スペース (CMDUSRSPC)

このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースを指定します。このユーザー・スペースには、パラメーターごとに32767までのリスト値が許可されていますが、コマンド・パラメーターには300までしかリスト値が許可されていません。ユーザー・スペースは、オブジェクト・リスト保管(QRSAVO) APIによって使用されるフォーマットでパラメーターを定義しなければなりません。

修飾子1:ユーザー・スペース

名前 このコマンドに*USRSPCが指定されたパラメーターに対して値を入れたユーザー・スペースの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ユーザー・スペースを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ユーザー・スペースが入っているライブラリーの名前を指定します。

上

例

例1:同じ名前をもつプログラムおよびファイルの保管

```
SAVOBJ OBJ(PETE) LIB(LIBX) DEV(TAP01)
```

このコマンドは、LIBXライブラリーにあるPETEという名前のオブジェクトを保管します。例えば、LIBXにPETEという名前のプログラムとファイルの両方が含まれていた場合には、両方のオブジェクトが保管されます。STGパラメーターは省略時の値(*KEEP)とみなされているので、そのオブジェクトが占めていた記憶域は解放されません。

例2:システム記憶域の解放

```
SAVOBJ OBJ(MSTRPAY PAY*) LIB(QGPL) DEV(TAP01) STG(*FREE)
```

汎用ライブラリー(QGPL)にあるMSTRPAYという名前のオブジェクト、および名前が文字PAYで始まるすべてのオブジェクトが保管されます。保管操作の一部として、保管されたメンバー、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバー・オブジェクトのデータ部分が占めていたシステム記憶域が解放されます。

例3:光ディスクでのファイルの保管

```
SAVOBJ OBJ(FILEA) OBJTYPE(*FILE) LIB(LIBY) DEV(OPT01)  
VOL(TOM) CLEAR(*REPLACE)
```

LIBYライブラリーのFILEAという名前のファイルが、ボリュームID TOMによって識別される光ディスク・ボリューム上でライブラリー名LIBYをもつファイルに保管されます。LIBYファイルがすでに光ディスク・ボリュームに存在していた場合には、FILEAが保管された後に自動的に置き換えられます。

例4:前のリリースでサポートされるオブジェクトの保管

```
SAVOBJ OBJ(PAY*) LIB(LIB1) DEV(TAP01) TGTRLS(*PRV)
```

このコマンドは、文字PAYで始まるオブジェクトを、前のオペレーティング・システムのリリースと互換性のある形式でLIB1ライブラリーから保管します。前のリリースでサポートされていたオブジェクトだけが保管されます。

例5:ファイルの記述およびデータの保管

```
SAVOBJ OBJ(SAVEFILE) LIB(MYLIB) OBJTYPE(*FILE) DEV(TAP01)  
SAVFDTA(*YES)
```

このコマンドは、MYLIBという名前のライブラリーにあるSAVEFILEという名前のファイルを保管します。この保管ファイルについては、記述とデータの両方が保管されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3701

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3702

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&9が組み込まれていません。

CPF3703

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3708

&2の保管ファイル&1が小さすぎる。

CPF3709

テープ装置は同じ密度をサポートしていない。

CPF3727

装置名リストで重複する装置&1が指定された。

CPF3728

装置&1が他の装置と一緒に指定されている。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域が限界を超えた。

CPF3738

保管または復元に使用した装置&1に損傷がある。

CPF3747

複数のライブラリーでオブジェクト名を指定することはできない。

CPF3749

ライブラリー&2からオブジェクトが保管されませんでした。

CPF3767

装置&1が見つからない。

CPF3768

装置&1はコマンドに対して正しくない。

CPF377D

内部システム資源の読み取りエラーのために保管が終了した。

CPF377E

活動時保管要求に記憶域が不十分である。

CPF377F

保留中のレコード変更によって、活動時保管要求が実行できなかった。

CPF3770

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3771

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3774

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。&8が組み込まれていません。

CPF3778

すべてのオブジェクトが保管されなかったライブラリーがある。

CPF378A

メッセージ待ち行列が使用できない。

CPF378C

SAVACTMSGQ(*WRKSTN)はバッチ・ジョブでは正しくない。

CPF378E

ライブラリー&1は保管されていない。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3789

指定したパラメーターではライブラリーは1つしか使用できない。

CPF379E

ライブラリー&1の保管に使用可能な記憶域が不十分である。

CPF3793

マシンまたはASPの記憶域限界に達しました。

CPF3794

保管または復元操作が正常に終了しなかった。

CPF3797

ライブラリー&3からオブジェクトが保管されませんでした。保管の限界を超えました。

CPF37AB

*NOCMTBDYはターゲット・リリースで使用できません。

CPF37AC

*NOCMTBDYの場合、ライブラリーは使用できません。

CPF37B1

SPLFDTAはターゲット・リリースでは使用できません。

CPF37B4

&2のユーザー・スペース&1が正しくありません。

CPF37B5

PVTAUTはターゲット・リリースでは使用できません。

CPF37B7

専用権限の保管は認可されていない。

CPF37B9

同期ID &1が使用中である。

CPF37BC

同期ID &1は終了しました。待機時間を超えました。

CPF37BD

同期ID &1は終了しました。チェックポイント前に保管が終了しました。

CPF37BE

同期ID &1が開始されていない。

CPF37C7

同期ID &1は終了しました。SAVACTWAIT エラー。

CPF380B

この時点で保管を完了することができない。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF3815

&2の保管ファイル&1は保管操作には小さすぎる。

CPF384E

CD-ROMの事前マスター処理にはUSEOPTBLK(*YES)は無効である。

CPF3867

FILEMBRパラメーターの内容が正しくない。

CPF3868

FILEMBRを指定しているが、OBJTYPEは*ALLまたは*FILEでなければならない。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

CPF388B

光ディスク・ファイル・パス名が正しくない。

CPF3892

&3の&2 &1は保管されなかった。

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

CPF38A2

ASP装置&1は正しくありません。

CPF38A3

&2のファイル&1はASPDEVでは無効です。

CPF38A4

ASP装置&1は正しくありません。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

OPT1332

光ディスク・ボリュームが装置&1に見つからない。

STATUS メッセージ*CPF3770**

ライブラリー&1について保管または復元されたオブジェクトはない。

CPF3771

&1個のオブジェクトが&3から保管されました。&2が保管されていません。

CPF3871

保管または復元されたオブジェクトはない。&3個のオブジェクトが含まれなかった。

上

パフォーマンス収集の保管 (SAVPFCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集の保管 (SAVPFCOL)コマンドは、1つのパフォーマンス収集または同じライブラリー内にあるパフォーマンス収集のグループのコピーを保管します。

制約事項:

- このコマンドは、共通権限(*EXCLUDE)なしで出荷されます。
- システム保管(*SAVSYS)特殊権限または以下のオブジェクト権限が必要です。
 - 保管する各オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限。
 - 保管元の各ライブラリー・オブジェクトに対する実行(*EXECUTE)権限。
- *SAVSYS特殊権限がない場合には、ユーザーが権限を持っているオブジェクトのみが保管されます。
- 保管ファイルが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
COL	集合	単一値: *SELECT, *ALL その他の値 (最大 300 回の繰返し): 総称名, 名前	オプション, 定位置 1
LIB	[bボ]メー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション
COLTYPE	収集タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 10 回の繰返し): 文字値, *CSFILE	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: [bボ]メー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT, *PRV	オプション
DTACPR	データ圧縮	*NO, *YES, *LOW, *MEDIUM, *HIGH	オプション

上

集合 (COL)

保管する1つまたは複数のパフォーマンス収集の名前または各パフォーマンス収集グループの総称名を指定します。すべてのパフォーマンス収集が**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。**収集タイプ (COLTYPE)**パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべての収集タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

単一値

***SELECT**

保管するパフォーマンス収集をユーザーが選択できるように、指定されたライブラリーにあるすべての収集をリストします。

注: この値は、対話環境でのみ有効です。

***ALL 収集タイプ (COLTYPE)**パラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべてのパフォーマンス収集が保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の保管するパフォーマンス収集グループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムはその名前が完全なパフォーマンス収集名であるとみなします。

名前 保管する特定のパフォーマンス収集の1つ以上の名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

上

ライブラリー (LIB)

保管するパフォーマンス収集が入っているライブラリーを指定します。

QPFRDATA

保管されるパフォーマンス収集は、弊社提供のパフォーマンス・ライブラリーQPFRDATAに入っています。

名前 パフォーマンス収集が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

収集タイプ (COLTYPE)

保管される収集のタイプを指定します。

単一値

***ALL** 指定したライブラリーに入っている、指定された名前のすべてのタイプのパフォーマンス収集が保管されます。これには、ファイル・ベースの収集とオブジェクト・ベースの収集が含まれます。

集合 (COL)パラメーターにも*ALLが指定されている場合には、ライブラリーに入っているオブジェクトのうち、保管できるタイプのすべてのパフォーマンス収集が保管されます。

その他の値 (最大10個指定可能)

***CSFILE**

集合 (COL)パラメーターに指定された、収集サービスのファイル・ベースの収集のみが保管されます。

***CSMGTCOL**

集合 (COL)パラメーターに指定された、収集サービスのオブジェクト・ベースの収集のみが保管されます。

***DWFIL**

集合 (COL)パラメーターに指定された、ディスク監視のファイル・ベースの収集のみが保管されます。

***JWFIL**

集合 (COL)パラメーターに指定された、ジョブ監視のファイル・ベースの収集のみが保管されます。

***PEXFILE**

集合 (COL)パラメーターに指定された、Performance Explorerのファイル・ベースの収集のみが保管されます。

***PEXMGTCOL**

集合 (COL)パラメーターに指定された、Performance Explorerのオブジェクト・ベースの収集のみが保管されます。

タイプ 保管される収集のタイプを指定してください。

有効な値は、システムによってサポートされるパフォーマンス収集によって異なります。このコマンド・パラメーターのプロンプトが表示されている間にF4を押すと、有効な収集タイプ値のリストが表示されます。

上

保管ファイル (SAVF)

保管されるデータを入れるのに使用される保管ファイルを指定します。これは必須パラメーターです。

修飾子1: 保管ファイル

名前 使用する保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

ユーザーがパフォーマンス収集を復元して使用しようとしているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリース値を指定する時には、形式VxRxMxでリリースを指定します。ここで、Vxはバージョン、Rxはリリース、Mxはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

パフォーマンス収集は、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。パフォーマンス収集は、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** パフォーマンス収集は、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。パフォーマンス収集は、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXMxの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われる場合、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** ソフトウェア圧縮が実行されます。低ソフトウェア圧縮が使用されます。

***LOW** ソフトウェア・データ圧縮がSNAアルゴリズムを使用して実行されます。通常、低圧縮はより高速であり、圧縮されるデータは中間および高圧縮が使用された場合より大きくなります。

***MEDIUM**

ソフトウェア・データ圧縮がTERSEアルゴリズムを使用して実行されます。通常、中間圧縮は低圧縮より低速になりますが、高圧縮よりは高速となります。圧縮されるデータは通常、低圧縮が使用された場合よりは小さくなり、高圧縮が使用された場合よりは大きくなります。

***HIGH**

ソフトウェア・データ圧縮がLZ1アルゴリズムを使用して実行されます。通常、高圧縮はより低速であり、圧縮されるデータは低および中間圧縮が使用された場合より小さくなります。

上

例

例1:パフォーマンス収集を保管

```
SAVPFRCOL COL(TEST1 TEST2)
```

このコマンドは、弊社提供ライブラリーQPFRDATAからパフォーマンス収集TEST1およびTEST2を保管します。このコマンドは、ユーザー待機中に対話式に実行されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFC763

タイプ&3のパフォーマンス収集&2はライブラリー&1に存在しません。

CPF3730

ライブラリー&3の&2 &1は認可されていない。

CPF3731

ライブラリー&3の&2 &1を使用することができない。

CPF3733

&3の&2 &1で前に損傷が起こっている。

CPF3735

ユーザー・プロファイル&1の記憶域が限界を超えた。

CPF3781

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

保管復元 (SAVRST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IFS保管/復元(SAVRST)コマンドは、統合ファイル・システム(IFS)で使用することができる1つまたは複数のオブジェクトのコピーを保管および復元します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

SAVRSTコマンドは、ライブラリー中のオブジェクトおよび文書ライブラリー・オブジェクトの現在の保管および復元サポートを使用します。結果として、こうしたオブジェクトに対してSAVRSTコマンドを使用する時には、制約があります。

制約事項:

1. ルート・ディレクトリー中の名前パターンの場合：
 - a. OBJは次の1つでなければなりません。
 - OBJ('//*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT))
 - OBJ('//*') ('/QSYS.LIB' *OMIT) ('/QDLS' *OMIT) ('/他の値' *OMIT)
2. ライブラリー中のオブジェクトを含む名前の場合：
 - a. OBJは、/*から/QSYS.LIBを省略する時以外はただ1つの名前ではなければなりません。
 - b. OBJは次の1つでなければなりません。
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/*')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/*.タイプ')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/オブジェクト名.タイプ')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/ファイル名.FILE/*')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/ファイル名. FILE/* .MBR')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ライブラリー名.LIB/ファイル名. FILE/メンバー名.MBR')
 - OBJ('/QSYS.LIB/*.タイプ')
 - OBJ('/QSYS.LIB/オブジェクト名.タイプ')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ファイル名.FILE/*')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ファイル名.FILE/* .MBR')
 - OBJ('/QSYS.LIB/ファイル名. FILE/メンバー名.MBR')
 - c. .TYPEは、SAVOBJおよびRSTOBJによってサポートされているオブジェクト・タイプでなければなりません。
 - d. LIBNAME.LIBが名前の最後の構成要素である場合には、LIBNAMEをQSYS, QDOC, QDOCXXXX, QTEMP, QSPL, QSPLXXXX, QSRV, QRECOVERY, QRPLOBJ,またはQSRにすることはできません。
 - e. SUBTREEは*ALLでなければなりません。

f. SAVRSTの場合：

- CHGPERIOD終了日および終了時刻は*ALLでなければなりません。
- ファイル・メンバーを指定した場合には、CHGPERIODは省略時の値でなければなりません。
- オブジェクトの名前を変更することはできません。
- データベース・ファイル・メンバーの場合には、OPTION(*NEW)は新しいファイルのメンバーのみを復元します。

3. 文書ライブラリー・オブジェクトを含む名前の場合：

a. /*から/QDLSを省略する時を除いて、OBJはただ1つの名前ではなければなりません。

b. OBJおよびSUBTREEは、次の1つでなければなりません。

- OBJ('/QDLS/パス/フォルダー名') SUBTREE(*ALL)
- OBJ('/QDLS/パス/文書名') SUBTREE(*OBJ)

c. SAVRSTの場合：

- PRECHKおよびSAVACTMSGQパラメーターには省略時の値を取らなければなりません。
- OBJ('/QDLS/パス/文書名') SUBTREE(*OBJ)の場合には、CHGPERIODは省略時の値でなければなりません。
- CHGPERIOD開始日は*LASTSAVEすることはできません。
- CHGPERIOD終了日および終了時刻は*ALLでなければなりません。
- SAVACTは*SYNCとすることはできません。
- SAVACTMSGQは*NONEでなければなりません。
- ALWOBJDIFは*NONEまたは*ALLでなければなりません。
- OPTIONは*ALLでなければなりません。

4. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 1
OBJ	オブジェクト	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
PATTERN	名前パターン	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *DIR, *OBJ, *NONE	オプション
RBDMFS	マウント・ファイル・システムの再ビルド	*NONE, *UDFS	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CHGPERIOD	最終変更の期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付, <u>*ALL</u>	
	要素 2: 開始時刻	時刻, <u>*ALL</u>	
	要素 3: 終了日付	日付, <u>*ALL</u>	
	要素 4: 終了時刻	時刻, <u>*ALL</u>	
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, <u>*CURRENT</u> , *PRV	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	<u>*NO</u> , *YES, *SYNC	オプション
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	パス名, <u>*NONE</u> , *WRKSTN	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, <u>*ALLAVL</u> , *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *OWNER, *AUTL, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	
SCAN	オブジェクト・スキャン	要素リスト	オプション
	要素 1: 保管中のスキャン	<u>*NO</u> , *YES	
	要素 2: 保管に失敗したオブジェクト	<u>*NOSAVFAILED</u> , *SAVFAILED	
PVTAUT	私用専用権限	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CRTPRNDIR	親ディレクトリーの作成	<u>*NO</u> , *YES	オプション
PRNDIOWN	親ディレクトリーの所有者	単純名, <u>*PARENT</u>	オプション

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

上

オブジェクト (OBJ)

保管するオブジェクトを指定します。使用するパス名のオブジェクト名パターンを指定することができます。多くのオブジェクトと一致する可能性があるパス名が指定された場合には、**名前パターン (PATTERN)** パラメーターに値を指定して、保管するオブジェクトをサブセット化することができます。

最大300個のパス名を指定することができます。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

オブジェクト名パターンの詳細説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素1: 名前

***'** 現行ディレクトリーのオブジェクトが保管されます。

パス名 多くの名前と突き合わせるができるオブジェクトのパス名またはパターンを指定してください。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって指定変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトが保管されます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致したオブジェクトは保管されません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

注: オブジェクトは、同じ名前ですべて復元されます。

上

名前パターン (PATTERN)

保管するオブジェクトをサブセット化するために使用する1つ以上のオブジェクト名パターンを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターは、候補オブジェクトのセットを定義します。このパラメーターに指定できるのは最大50個の値です。

要素1: パターン

776 System i: プログラミング i5/OS コマンド RMVTRCFTR (トレース・フィルター除去) ~

* 操作について限定する全オブジェクトが組み込まれるか除外されます。

文字値 多くの名前と突き合わせる事ができるオブジェクト名またはパターンを指定します。

要素2: 組み込みまたは除外

パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを含めるか、または除外するかを決定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって指定変更されない限り、保管に組み込まれるのは、OBJパラメーターによって組み込まれ、かつPATTERNパラメーターと一致するオブジェクトだけです。

***OMIT**

PATTERNパラメーターと一致するオブジェクトを除き、OBJパラメーターによって組み込まれたすべてのオブジェクトが保管に組み込まれます。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリーのサブツリーを保管操作に含めるかどうかを指定します。

***ALL** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーのサブツリー全体が含まれます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

***DIR** オブジェクト名パターンと一致した各ディレクトリーの第1レベルにあるオブジェクトが含まれます。一致した各ディレクトリーのサブディレクトリーは含まれますが、そのサブディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***NONE**

サブツリーは保管操作に含まれません。ディレクトリーが指定されたオブジェクト名パターンと一致した場合には、そのディレクトリーのオブジェクトが含まれます。ディレクトリーにサブディレクトリーがあった場合には、サブディレクトリーもそのサブディレクトリー内のオブジェクトも含まれません。

***OBJ** オブジェクト名パターンと完全に一致するオブジェクトだけが処理されます。オブジェクト名パターンがディレクトリーを指定している場合には、ディレクトリー内のオブジェクトは含まれません。

***STG** オブジェクト名パターンに一致するオブジェクトが関連オブジェクトの記憶域とともに処理されます。この値を使用してオブジェクトを復元できるのは、そのオブジェクトがSUBTREE(*STG)を使用して保管された場合だけです。

上

マウント・ファイル・システムの再ビルド (RBDMFS)

復元時に再構築するマウント・ファイル・システムを指定します。

注: このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、システム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

***NONE**

復元時にマウント・ファイル・システムは再構築されません。マウント・ファイル・システムから保管されたオブジェクトは、復元先ディレクトリーがあるファイル・システムに復元されます。

***UDFS**

復元時にユーザー定義のマウント・ファイル・システムは再構築されます。ユーザー定義ファイル・システムが存在しない場合には作成され、保管時にマウントされたのと同じディレクトリーにマウントされます。

復元時にユーザー定義ファイル・システムが作成される場合には、「大文字小文字の区別」や「省略時のファイル形式」などのユーザー定義ファイル・システムの特定の属性などの保管されたユーザー定義ファイル・システムに基づいて属性が設定されます。ユーザー定義ファイル・システムが復元前に存在している場合には、属性は変更されません。

ユーザー定義ファイル・システムの作成時またはマウント時にエラーが発生した場合には、ユーザー定義のマウント・ファイル・システムから保管されたオブジェクトは復元されません。

注: 復元前に存在していなかった場合には、マウントされるディレクトリーが作成され、復元先のディレクトリーから属性および権限がコピーされます。このため、マウントを行うために権限が十分ではない場合には、ユーザー定義ファイル・システムがアンマウントされてから再マウントされたときに問題が生じる可能性があります。

上

最終変更の期間 (CHGPERIOD)

日付/時刻の範囲を指定します。その範囲内に最後に変更されたオブジェクトが保管されます。

要素1: 開始日付

***ALL** 開始日は指定されません。終了日前に最後に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

***LASTSAVE**

最後にUPDHST(*YES)を指定して保管した後で変更されたオブジェクトが保管されます。注:

1. この値を指定した場合には、このパラメーターの他のすべての要素に値*ALLを指定しなければなりません。
2. ローカル・ファイル・システムの場合には、システムの保存属性が使用されます。 リモート・ファイル・システムの場合には、PCの保存属性が使用されます。

日付 変更されたオブジェクトがそれより後に保管される日付を指定します。この日付はジョブ日付形式で入力しなければなりません。

要素2: 開始時刻

***ALL** すべての時刻が範囲内に含まれます。

時刻 変更されたオブジェクトがそれより後に保管される開始日の時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド入力行から出す場合には、ス

トリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。

- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

注: 明示時刻の指定が有効なのは、開始日が明示日付である場合だけです。

要素3: 終了日付

***ALL** 終了日は指定されません。開始日以降に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

日付 変更されたオブジェクトがそれより前に保管される日付を指定します。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

要素4: 終了時刻

***ALL** すべての時刻が範囲内に含まれます。

時刻 変更されたオブジェクトがそれより前に保管される終了日の時刻を指定します。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド入力行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ユーザー・ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用すると、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。

注: 明示時刻の指定が有効なのは、終了日が明示日付である場合だけです。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXR_XMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。 オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。 オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

選択したオブジェクトが保管できなかった場合に保管操作を終了するかどうかを指定します。

***NO** 保管操作は終了しません。 保管できるオブジェクトは保管されます。

***YES** 保管操作が終了します。 選択したすべてのオブジェクトを保管できる場合以外は、なにも保管されません。

上

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: システムが制限状態にある場合には、このパラメーターは無視され、保管操作はSAVACT(*NO)が指定されたものとして実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。 保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***YES** オブジェクトを同時に保管および使用することができます。 オブジェクトのチェックポイントは異なる時点で起こすことができます。

***SYNC**

オブジェクトを同時に保管および使用することができます。 すべてのオブジェクトのチェックポイントは同時に起こります。

上

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

保管操作により、チェックポイント処理が完了したことをユーザーに通知するために使用されるメッセージ待ち行列を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。 詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

*WRKSTN

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。

パス名 使用するメッセージ待ち行列のパス名を指定します。

上

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

***DFT** 操作では、保管されるオブジェクトが入っているファイル・システムに適切なASPDEV値が使用されます。統合ファイル・システム・オブジェクトの場合、*ALLAVLが使用されます。QSYSファイル・システムのオブジェクトの場合、対応する保管コマンドのASPDEVの省略時値が使用されません。

*ALLAVL

操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),および使用可能なすべての独立ASPが組み込まれます。

* 操作にはシステムASP,すべての基本ユーザーASP,さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

上

オプション (OPTION)

システム上にすでに存在しているオブジェクトまたはシステム上にすでに存在していないオブジェクトを復元するかどうかを指定します。

***ALL** システム上にすでに存在しているかどうかに関係なく、指定されたすべてのオブジェクトが復元されます。

***NEW** システム上にすでに存在していない場合にのみ、オブジェクトが復元されます。

***OLD** システム上にすでに存在している場合にのみ、オブジェクトが復元されます。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

- 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大3個指定可能）

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は ***EXCLUDE** に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が ***EXCLUDE** に設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

- *PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

上

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時に、現行バージョンのオペレーティング・システムでの使用に必要な形式に変換するのか、または現行マシンと互換になるように変換するのかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および *SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないければなりません。
3. 変換が必要なオブジェクトである（古いバージョンのオペレーティング・システム用に形式設定されているか、または現行マシンと非互換であるため）が、この復元操作中に変換されない場合、そのオブジェクトは最初に使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトの変換は、現行オペレーティング・システムで使用されるため、または現行マシンと互換にするために変換が必要な場合のみ行われます。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** 既に現行形式になっている互換のオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式およ

びマシン互換性に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

上

オブジェクト・スキャン (SCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、保管中にオブジェクトをスキャンするかどうか、および前にスキャンに失敗したオブジェクトを保管する必要があるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

要素1: 保管中のスキャン

***NO** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

***YES** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムで記述された規則に従ってスキャンされます。

要素2: 保管に失敗したオブジェクト

***NOSAVFAILED**

前にスキャンに失敗したかあるいはこの保管中にQIBM_QPOL_SCAN_OPEN出口プログラムによるスキャンに失敗したオブジェクトは、保管されません。

***SAVFAILED**

前にスキャンに失敗したかあるいはこの保管中にスキャンに失敗したオブジェクトは、保管されません。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

保管または復元されたオブジェクトで、専用権限を保管および復元するかどうかを指定します。

***NO** どの専用権限も、保管も復元もされませんでした。

***YES** 専用権限は、オブジェクトで保管および復元されました。

注: この値を指定するには、オブジェクトが保管されている元のシステムでシステム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限、および復元システムで*ALLOBJ特殊権限が必要です。

上

親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)

復元されるオブジェクトの親ディレクトリーが存在しない場合に、これを作成するかどうかを指定します。例えば、オブジェクト'/A/B/C/FILE1'を復元しようとする場合には、ディレクトリー'/A', '/A/B',および'/A/B/C'が存在しなければなりません。このパラメーターは、「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用され、他のすべてのファイル・システムは無視されます。

***NO** 親ディレクトリーがまだ存在しない場合には、それは作成されません。診断メッセージCPD375Bが送信され、オブジェクトは復元されません。

***YES** 親ディレクトリーが存在しない場合には、復元でこれが作成されます。復元によって作成されたディレクトリーには*EXCLUDE共通権限があり、親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルによって所有されます。その他の親ディレクトリー属性は、ディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンド・パラメーターの出荷時の省力時の値を使用して設定されます。

上

親ディレクトリーの所有者 (PRNDIROWN)

復元によって作成される親ディレクトリーを所有することになる既存のユーザー・プロファイルの名前を指定します。このパラメーターは、「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムにのみ適用され、他のすべてのファイル・システムは無視されます。

注: このパラメーターに値が指定されている場合には、親ディレクトリーの作成 (CRTPRNDIR)パラメーターに*YESを指定しなければなりません。

***PARENT**

復元によって作成される親ディレクトリーの所有者は、これが作成されるディレクトリーの所有者と同じとなります。例えば、オブジェクト'/A/B/C/FILE1'が復元され、ディレクトリー'/A'が存在するのに、'/B'および'/B/C'ディレクトリーが存在しない場合には、'/B'および'/B/C'ディレクトリーが'/A'ディレクトリーと同じ所有者で作成されます。

名前 復元によって作成される親ディレクトリーの所有者となるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

例

例1:メンバー・オブジェクトの保管および復元

```
SAVRST RMTLOCNAME(SYSTEM1)
        OBJ(('QSYS.LIB/JTEMP.LIB/ZXC.FILE/QYYCPDGT.MBR'))
```

このコマンドは、QYYCPDGTメンバーをライブラリーJTEMP内のファイルZXCから保管し、オブジェクトをISERIESシステム上のリモート・ロケーションSYSTEM1に復元します。

例2:ディレクトリーの保管および復元

```
SAVRST RMTLOCNAME(SYSTEM2) OBJ(('MYDIR')) SAVACT(*YES)
        SAVACTMSGQ('QSYS.LIB/SVRTEST.LIB/ZXC.MSGQ')
```

このコマンドは、アクティブになっている間にMYDIRディレクトリーを保管し、ライブラリーSVRTEST内のZXCメッセージ待ち行列を使用してメッセージを保管します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD80

&1個のオブジェクトが保管され、復元された。

CPFAD8D

&1操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

上

構成の保管復元 (SAVRSTCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成保管/復元(SAVRSTCFG)コマンドは、専用システムを必要とせずに構成情報を保管および復元します。保管および復元される情報には次のものがあります。

- 構成リスト(*CFGL)
- 接続リスト(*CNL)
- サービス・クラス記述(*COSD)
- インターネット・パケット交換記述(*IPXD)
- モード記述(*MODD)
- NETBIOS記述(*NTBD)

所有者のプロファイルがシステムに知られていない時には、システムの省略時の所有者(QDFTOWN)のユーザー・プロファイルがシステムに復元されるオブジェクトの省略時の所有者となります。

復元システムにオブジェクトがすでに存在している場合には、既存のオブジェクトの共通および専用権限が保持されます。ライブラリーにオブジェクトが存在していない場合には、すべての共通権限は復元されますが、専用権限は再度認可しなければなりません。

制約事項:

1. オブジェクトがすでにシステムに存在している場合には、このコマンドを使用するために、ユーザーは指定された各オブジェクトの*SAVSYS権限またはオブジェクト存在権限を必要とします（あるいは所有者でなければなりません）。
2. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
3. ユーザーは、*ALLOBJ権限またはコマンドに対する権限を必要とします。
4. SAVRSTCFGコマンドの実行中に行なわれた構成変更は、その変更が送信操作との関連で行なわれた時点によっては、復元システムで反映されない場合があります。操作で構成オブジェクトに対するロックを獲得できない場合には、診断メッセージが出され、オブジェクトは保管も復元もされません。オブジェクトに対する変更または削除操作が省略時の待機タイマーが切れるまでに完了しない時には、操作で構成オブジェクトに対するロックを獲得することはできません。
5. システム資源管理プログラム・オブジェクトが使用中の場合には、メッセージが出され、オブジェクトは保管も復元もされません。このことが起こる原因となるコマンドには、ハードウェア・プロダクト処理(WRKHDWPRD)コマンドおよびハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドがあります。表示コマンドの場合には、システム資源管理プログラム・データベースはロックされません。他に知られている機能はすべて読み取り専用操作を行ないます。
6. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL, *SRM その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *CFGL, *CNFL, *COSD, *MODD, *NTBD	オプション
SRM	システム資源管理	*NONE, *TRA	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *OWNER, *PGP	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

復元するオブジェクトを指定します。復元する各オブジェクトの名前、またはオブジェクトの各グループの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。アスタリスク(*)が名前と一緒に指定されていない場合には、システムは、その名前がオブジェクト名全体であるとみなします。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターが*ALLの値を持っている場合には、OBJTYPEパラメーターの記述にリストされたオブジェクト・タイプが、指定された名前を持っていればすべて復元されます。

システム資源管理(SRM)オブジェクトは、個別に、または総称名を指定して復元することはできません。SRMオブジェクトだけを復元するには、このパラメーターに*SRMを指定し、システム資源管理 (SRM)パラメーターに値を指定してください。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、すべての装置構成オブジェクトが復元されます。

***SRM** 装置構成オブジェクトは復元されませんが、システム資源管理(SRM)オブジェクトはSRMパラメーターの値に基づいて復元されます。

注意復元しようとしているシステムのハードウェア構成が、オリジナルの構成が保管されたシステムと正確に同じでない場合には、SRM情報が復元されないように、RSTCFGにSRM(*NONE)を指定する必要があります。SRM情報が復元された場合には、構成オブジェクトは使用できなくなる可能性があります。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の復元するオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 復元する特定のオブジェクトの1つまたは複数の名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。最大300のオブジェクト名を指定することができます。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されません。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保管および復元されるI5/OSシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

***ALL** 名前によって指定されたすべての構成オブジェクト・タイプが保管および復元されます。OBJ(*ALL)を指定した場合には、すべての構成オブジェクトが保管および復元されます。次のタイプを指定することができます。

*CFGL

すべての構成リスト・オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

*CNL

すべての接続リスト・オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

*COSD

すべてのサービス・クラス記述オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

***IPXD** すべてのインターネットワーク・パケット交換オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

*MODD

すべてのモード記述オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

*NTBD

すべてのNETBIOS記述オブジェクト・タイプが保管および復元されます。

上

システム資源管理 (SRM)

保管および復元されるシステム資源管理(SRM)情報のタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、OBJパラメーターに*ALLまたは*SRMを指定した場合だけです。

*NONE

SRM情報は復元されません。

*TRA すべてのトークンリング・アダプター情報が復元されます。

上

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次の条件を満たすオブジェクトがあった場合に構成保管操作を終了するかどうかを指定します。

- そのオブジェクトに損傷があることが前に見つかった。
- オブジェクトが他のジョブによってロックされている。
- ユーザーがオブジェクト保管の権限を持っていない。

***NO** 保管操作は続行され、保管できる構成およびシステム資源管理(SRM)保管オブジェクトだけが保管されます。

***YES** 構成オブジェクトまたはシステム資源管理プログラム・オブジェクトを保管できない場合に、データが媒体に書き出される前に保管操作が終了します。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

***NONE**

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値（最大3個指定可能）

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は ***EXCLUDE** に設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が ***EXCLUDE** に設定されます。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

上

例

例1:総称オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTCFG  OBJ(ABCD*)  RMTLOCNAME(SYSTEM1)  OBJTYPE(*CFGL)
            ALWOBJDIF(*NONE)
```

このコマンドは、名前がABCDで始まっていて、オブジェクト・タイプが構成リスト(*CFGL)である全オブジェクトを保管および復元します。復元されるのは、SYSTEM1上で違いがないオブジェクトだけです。

例2:全オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTCFG  OBJ(*ALL)  RMTLOCNAME(SYSTEM1)
```

このコマンドは、タイプがOBJTYPEパラメーターにリストされた5個のオブジェクト・タイプと一致する全構成オブジェクトを保管および復元します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD80

&1個のオブジェクトが保管され、復元された。

CPFAD8D

&1操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー、機能コード&1、戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー、機能コード&1、戻りコード&2。

上

変更オブジェクトの保管復元 (SAVRSTCHG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更オブジェクト保管/復元(SAVRSTCHG)コマンドは、変更された各オブジェクトまたは同じライブラリーにある1グループのオブジェクトのコピーを別のシステムに保管し、また同時に復元します。データベース・ファイルの場合には、変更されたメンバーだけが保管および復元されます。指定した日付と時刻以降に変更されたオブジェクトまたはメンバーが保管および復元されます。

指定した日付と時刻以降に変更されたオブジェクトが保管および復元されますが、次の例外があります。

- OBJJRN(*NO)が指定された場合には、現在ジャーナル処理されているオブジェクトは、そのジャーナル処理が指定された日時の後で開始されていないかぎり、保管も復元も行われません。これは、ジャーナル処理の開始前にオブジェクトに対して行なわれた変更が（ジャーナル・レシーバー中にジャーナル処理されていないので）失われないようにするためです。
- 解放されたオブジェクト（プログラム、ファイル、ジャーナル・レシーバーなど）は保管されません。
- ユーザー定義のメッセージ、ジョブ待ち行列定義、出力待ち行列定義、論理ファイル定義、およびデータ待ち行列記述は保管および復元されますが、こうしたオブジェクトの内容は保管も復元もされません。ACCPH(*YES)を指定した場合には、論理ファイル・アクセス・パスが保管および復元されます。

指定された変更オブジェクトおよびそれが入っているライブラリーは、保管および復元操作の間ロックされています。

オブジェクトが変更された日付と時刻を判別するためには、DETAIL(*FULL)を指定したオブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを実行してください。変更されたデータベース・ファイル・メンバーの場合には、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを実行してください。

このコマンドで保管および復元できるオブジェクトのタイプは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「一般に使用されるパラメーター：拡張説明」中のOBJTYPEパラメーターの説明の中にリストされています。システムは、変更されたオブジェクトを保管し、同時に復元します。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、ユーザーは、SPCAUTパラメーターによってユーザー・プロファイルに指定された特殊権限*SAVSYSを必要とします。そうでない場合には、ユーザーは、指定した各オブジェクトのオブジェクト存在権限および指定したライブラリーに対する実行権限を必要とします。ユーザーが指定したオブジェクトに対する必要な権限をもっていない場合には、そのオブジェクトを除くすべての変更されたオブジェクトが保管および復元されます。
2. 活動時保管を使用しないかぎり、保管および復元中の変更されたオブジェクトは、保管および復元操作が行なわれた時に実行中のジョブによって変更することができません。
3. SAVFDTA(*YES)によって保管ファイルの内容が保管された時には、保管ファイルを復元しない限り、それに入っているオブジェクトを復元することはできません。

4. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
LIB	保管されたライブラリー	単一値: *ALLUSR その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 3
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 72 回の繰り返し): *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRTIMG, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *TIMZON, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
OBJJRN	ジャーナル処理されたオブジェクト	<u>*NO</u> , *YES	オプション
REFDATE	参照日付	日付, <u>*SAVLIB</u>	オプション
REFTIME	参照時刻	時刻, <u>*NONE</u>	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, <u>*FIRST</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: * NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, * ALL , * NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, * ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, * ALL , *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TIMZON, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, * CURRENT , *PRV	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	* NO , *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	* NO , *LIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, 120 , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, * LOCKWAIT , *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, * LOCKWAIT , *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, * NONE , *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * LIBL , *CURLIB	
ACCPH	アクセス・パス保管	* SYSVAL , *NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SAVFDTA	保管ファイル・データ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
QDTA	待ち行列データ	<u>*NONE</u> , *DTAQ	オプション
PVTAUT	私用専用権限	*NO, <u>*YES</u>	オプション
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, <u>*LIB</u>	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, <u>*SAVASPDEV</u>	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, <u>*SAVASP</u>	オプション
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NEW, *OLD	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	<u>*MATCH</u> , *ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	

上

オブジェクト (OBJ)

変更があるかどうかを検査してから、変更されたオブジェクトを保管するために、1つ以上のオブジェクトの名前またはオブジェクトの各グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトが**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべての変更されたオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリーに保管する変更済みオブジェクトのグループの1つまたは複数の総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 保管する特定のオブジェクトの名前を指定してください。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

上

保管されたライブラリー (LIB)

保管および復元する変更オブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

単一値

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが保管および復元されます。文字Qで始まらない名前をもつすべてのライブラリーが保管および復元されますが、次のものは除きます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、保管および復元されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx  QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT   QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2     QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F     QUSROND
QMPGDATA   QUSER38   QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM  QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM   QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF QUSRRDARS
QRCL       QUSRDIRCL QUSRSYS
```

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば、ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。最大300の総称ライブラリー名を指定することができます。

名前 保管および復元されるライブラリーの名前を指定してください。最大300のライブラリー名を指定することができます。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されません。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

変更を保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。保管されるオブジェクト・タイプは、ライブラリー保管(SAVLIB)、オブジェクト復元(RSTOBJ)、およびライブラリー復元(RSTLIB) コマンドによって保管および復元されるオブジェクト・タイプでもあります。データ・ディクショナリーおよび関連したファイルは、SAVLIBコマンドを使用することによってのみ保管されます。

単一値

***ALL** 指定のライブラリー中に入っている、指定した名前すべてのオブジェクトに対する変更が保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)など、保管する各オブジェクトのタイプの値を指定してください。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ジャーナル処理されたオブジェクト (OBJJRN)

現在ジャーナル処理されている変更済みオブジェクト、および参照日付 (REFDATE)および参照時刻 (REFTIME)パラメーターに指定された日付および時刻以降にジャーナル処理された変更済みオブジェクトを保管するかどうかを指定します。

***NO** ジャーナル処理中のオブジェクトは保管されません。指定された日時の後でジャーナル処理を開始した場合には、変更されたオブジェクトまたは変更されたデータベース・ファイル・メンバーが保管されます。最終ジャーナル開始操作の日は、オブジェクト記述表示(DSPOBJD)コマンドを使用して表示することができます。

***YES** 変更がジャーナルに入れられたオブジェクトが保管されます。

上

参照日付 (REFDATE)

参照日付を指定します。この日付以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

***SAVLIB**

ライブラリー保管(SAVLIB)コマンドを最後に実行した日の日付以降に変更されたオブジェクトが保管されます。指定したライブラリーが保管されたことのないものである場合には、メッセージが出され、ライブラリーは保管されませんが、操作は続行されます。

日付 この日付以降に変更されたオブジェクトが保管される参照日付を指定します。このコマンドを実行した日の日付より後の日付を指定した場合には、メッセージが出され、操作は終了します。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

上

参照時刻 (REFTIME)

参照時刻を指定します。指定した日付のこの時刻以降に変更されたオブジェクトが保管されます。

***NONE**

明示的な時刻は指定されません。参照日付 (REFDATE)パラメーターに指定された日付以降に変更されたすべてのオブジェクトが保管されます。

時刻 指定された日付のこの時刻以降に変更されたオブジェクトが保管される参照時刻を指定します。REFDATEパラメーターに*SAVLIBを指定した場合には、参照時刻を指定することはできません。このコマンドの実行時刻より遅い時刻を指定した場合には、メッセージが出され、操作が終了します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号なしでは、6桁(HHMMSS)のstringを指定します。ここで、HH=時、MM=分、およびSS=秒です。
- 時刻区切り記号ありでは、8桁のstringを指定します。ここで、ユーザー・ジョブに指定された時刻区切り記号が時、分、および秒を区切るために使用されます。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、stringをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

開始ライブラリー (STRLIB)

*ALLUSR保管を開始するためのライブラリーを指定してください。終了されたか、または正常に実行されなかった*ALLUSR保管操作を回復するためには、このパラメーターを使用してください。

***FIRST**

保管操作は、アルファベット順の最初のライブラリーから始まります。

名前 保管を開始するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

*NONE

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

***** 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXR₁MXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

上

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

上

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になればなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、

*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

*LOCKWAIT

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOCMTBDY

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることになります。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションのコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

0が指定され、1つの名前だけが**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定され、***FILE**が**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定された唯一の値である場合には、システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。

上

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに***SYSDFN**または***LIB**値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに***SYNCLIB**が指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られません。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならない、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注：この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

上

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

上

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

保管または復元されたオブジェクトで、専用権限を保管および復元するかどうかを指定します。

***NO** どの専用権限も、保管も復元もされませんでした。

***YES** 専用権限は、オブジェクトで保管および復元されました。

注: この値を指定するには、オブジェクトが保管されている元のシステムでシステム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限、および復元システムで*ALLOBJ特殊権限が必要です。

上

復元先ライブラリー (RSTLIB)

オブジェクトが復元されるライブラリーの名前を指定します。

***LIB** 復元ライブラリーは、LIBパラメーターに指定された値と同じ名前です。

名前 オブジェクトが復元されるライブラリーの名前を指定してください。

上

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

***SAVASPDEV**

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

上

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP),システムASP (ASP番号1),または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要: システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー) は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

***SAVASP**

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

上

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。

***NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されません。

***OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ラ

ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。

***FREE**

保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

上

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

*MATCHが使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

***MATCH**

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。**オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)**パラメーターで*ALLが指定されている場合には、MBROPT(*MATCH)は無効です。

*ALL 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

*NEW 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

*OLD システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注: 保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- **ファイル・レベルID** : システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- **メンバー・レベルID** : システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- **所有権** : システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- **1次グループ** : システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- ***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があって、**データベース・メンバー・オプション (MBROPT)**パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があった場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大4個指定可能)

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が*EXCLUDEに設定されます。

***FILELVL**

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP** 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

上

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時に、現行バージョンのオペレーティング・システムでの使用に必要な形式に変換するのか、または現行マシンと互換になるように変換するのかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および *SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないなければなりません。
3. 変換が必要なオブジェクトである（古いバージョンのオペレーティング・システム用に形式設定されているか、または現行マシンと非互換であるため）が、この復元操作中に変換されない場合、そのオブジェクトは最初に使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

***SYSVAL**

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を

指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。

2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトの変換は、現行オペレーティング・システムで使用されるため、または現行マシンと互換にするために変換が必要な場合のみ行われます。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** 既に現行形式になっている互換のオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式およびマシン互換性に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

上

例

例1:複数の変更済みオブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTCHG OBJ(*ALL) RMTLOCNAME(SYSTEM1) LIB(*ALLUSR)
           OBJTYPE(*PGM) STRLIB(MORE) ALWOBJDIF(*NONE)
```

このコマンドは、タイプが*PGMであり、MOREという名前のライブラリーで始まっているユーザー・ライブラリー内にある変更済みオブジェクトをすべて保管します。これらのオブジェクトは、SYSTEM1という名前のリモート・システム名に復元されます。

例2:特定の変更済みオブジェクトの保管および保管

```
SAVRSTCHG OBJ(PETE) RMTLOCNAME(SYSTEM1) LIB(ROD)
           ALWBJDIF(*ALL) OPTION(*NEW)
```

このコマンドは、RODという名前のライブラリー内にある、サポートされるタイプのすべてのPETEという名前の変更済みオブジェクトを保管し、そのオブジェクトがSYSTEM1という名前のリモート・システム上にまだ存在していない場合は、そのオブジェクトをそのリモート・システムに復元します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPCAD80

&1個のオブジェクトが保管され、復元された。

CPFAD8D

&1操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

上

DOC/LIBオブジェクト保管復元 (SAVRSTDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト保管/復元(SAVRSTDLO)コマンドは、次のオブジェクトを別のシステムに保管および復元します。システムは、オブジェクトが復元されるシステムとのサポートされる通信リンクをもっていなければなりません。

- 文書
- フォルダー
- 配布オブジェクト (メール)

注:

1. フォルダーが保管および復元される時には、フォルダー・オブジェクトがそのフォルダーに入っている文書、サブフォルダー、サブフォルダー中の文書、および後続のネストされたフォルダーと文書とともに転送されます。DLO(*FLRLVL)パラメーターを使用して特定のフォルダーを個別に保管および復元することができます。
2. 配布オブジェクト (メール) は個別ユーザーに送信することができません。メールは、すべてのユーザーに対してのみ保管および復元することができます。
3. SAVRSTDLOは専用システムを必要としませんが、保管および復元コマンドが出された時に使用中であった個別のオブジェクトは保管および復元することができません。すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管および復元されるようにするためには、システムでオフィス活動が行なわれていない時にこのコマンドを実行してください。

制約事項:

1. このコマンドで次のパラメーターの組み合わせを使用するためには、*ALLOBJまたは*SAVSYS特殊権限が必要です。
 - DLO(*ALL) FLR(*ANY)
 - DLO(*CHG)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) OWNER(*ALL)
 - DLO(*SEARCH) OWNER (ユーザー・プロファイル名)

ここで、指定されたユーザー・プロファイル名は、SAVRSTDLOコマンドを出しているユーザーのユーザー・プロファイル名ではありません。

2. *ALLOBJまたは*SAVSYS特殊権限のないユーザーには次が必要です。
 - 送信される各文書またはフォルダーに対する*ALL権限。
 - 文書交換アーキテクチャー(DIA)ユーザーとしての登録。
3. 別のジョブがRCLDLO, SAVDLO,およびRSTDLOなどのコマンド実行中の間は、これらのコマンドでは内部オブジェクトの排他的使用が獲得されないことがあるので、このコマンドを使用することができません。

4. グループ・プロファイルが指定されたユーザー・プロファイルに関連している場合には、文書またはフォルダー所有権の判別ではグループ・プロファイルの検査は行われません。
5. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	単一値: *ALL, *SEARCH, *CHG, *DOCL, *MAIL, *FLRLVL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 2
FLR	フォルダー	単一値: *ANY, *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMITFLR	除外するフォルダー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
SRCHTYPE	検索タイプ	*DOC, *ALL	オプション
CHKEXP	満了日	日付, *NO, *CURRENT	オプション
CRTDATE	作成日	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *BEGIN, *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 終了日付	日付, *END	
DOCCLS	文書クラス	文字値, *ANY	オプション
OWNER	所有者プロファイル	名前, *CURRENT, *ALL	オプション
REFCHGDATE	最終変更日	日付, *ANY, *SAVDLOALL	オプション
REFCHGTIME	最終変更時刻	時刻, *ANY	オプション
DOCL	文書リスト	文字値, *NONE	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
STG	記憶域	*KEEP, *DELETE, *FREE	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
SAVACT	活動状態保管	*NO, *YES	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	0-99999, 120, *NOMAX	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-32, *ANY	オプション
NEWOBJ	オブジェクト名生成	*SAME, *NEW	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	*NONE, *ALL	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, *SAVASP	オプション

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

保管する文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。フォルダーを保管するためには、DLO(*ALL)を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** FLRパラメーターによってさらに修飾されているすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。DLO(*ALL) FLR(*ANY)を指定すると、すべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

*SEARCH

指定された検索値を満たすすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。検索値は、次のパラメーターを使用して指定されます。

- フォルダー (FLR)パラメーター
- マークの検査 (CHKFORMRK)パラメーター
- 満了日 (CHKEXP)パラメーター
- 作成日 (CRTDATE)パラメーター
- 文書クラス (DOCCLS)パラメーター
- 所有者プロファイル (OWNER)パラメーター
- 最終変更日 (REFCHGDATE)パラメーター
- 最終変更時刻 (REFCHGTIME)パラメーター

注: フォルダーは、SRCHTYPE(*ALL)が指定された場合にだけ、保管されます。

***CHG** 最後の完全保管操作以降に作成または変更されたすべての文書、およびそれ以降に作成されたすべてのフォルダーおよびすべてのメールが保管されます。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名の文書が保管されます。

*DOCL

文書リスト (DOCL)パラメーターに指定された文書リスト中で示された文書のリストが保管されません。

*MAIL

メール・ログによって示された配布オブジェクトおよび文書が保管されます。

*FLRLVL

フォルダー (FLR)パラメーターに指定されたフォルダーおよびそのフォルダーの文書が保管されません。サブフォルダーは保管されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

文書名 保管される文書のユーザー割り当て名を指定してください。同じフォルダーに指定されたすべての文書およびフォルダーは**フォルダー (FLR)**パラメーターに指定しなければなりません。

注: システム・オブジェクト名はサポートされていません。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

フォルダー (FLR)

保管するフォルダーの名前を指定します。

単一値

***ANY** 文書ライブラリー・オブジェクトは任意のフォルダーから保管することができます。FLRパラメーターの使用時には、次を考慮してください。

- 次の1つが指定された場合には、FLR(*ANY)は正しくありません。
 - DLO(*DOCL)
 - DLO(*FLRLVL)
 - DLO (文書名)
- 次の1つが指定された場合には、FLR(*ANY)が必要です。
 - DLO(*CHG)
 - DLO(*SYSOBJNAM)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*ALL)
- SAVDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された場合には、次が保管されます。
 - すべての文書
 - すべてのフォルダー
 - すべての配布オブジェクト (メール)

*NONE

保管される文書がフォルダー中にありません。FLR(*NONE)が有効なのは、次の1つが指定された場合だけです。

- DLO(*ALL)
- DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*DOC)

その他の値（最大300個指定可能）

総称フォルダー名

総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

フォルダー名

保管される文書を入れるフォルダーのユーザー割り当て名を指定します。フォルダー名は最大63桁の長さとすることができます。

- ここに指定されたフォルダー・オブジェクトは、DLO(*ALL)またはDLO(*FLRLVL) が指定された場合にかぎり保管されます。
- 次の1つが指定された場合には、FLR(フォルダー名)は正しくありません。
 - DLO(*SYSOBJNAM)
 - DLO(*MAIL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*ALL)
- 次の1つが指定された場合には、フォルダー名は1つしか指定することはできません。
 - DLO(*DOCL)
 - DLO(*SEARCH) SRCTYPE(*DOC)
 - DLO（文書名）

注：システム・オブジェクト名はサポートされていません。

上

除外するフォルダー (OMITFLR)

保管操作から除外される1つまたは複数のフォルダーの名前またはフォルダーの各グループの総称名を指定します。

単一値

*NONE

フォルダーは保管操作から除外されません。

その他の値（最大300個指定可能）

総称フォルダー名

総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、名前がその総称接頭部で始まり、ユーザーが権限をもっているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なオブジェクト名であると見なします。

フォルダー名

保管操作から除外するフォルダーの名前を指定してください。

注：システム・オブジェクト名はサポートされていません。

検索タイプ (SRCTYPE)

検索するためのオブジェクトのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***DOC** 文書だけが検索および保管されます。

***ALL** 文書およびフォルダーが検索および保管されます。

満了日 (CHKEXP)

指定された日付の前に満了日があるすべての文書が保管されることを指定します。満了日は、文書が作成される時にユーザーによって割り当てられ、その文書が不要になる日付を指定します。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されていて、**検索タイプ (SRCTYPE)**パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

***NO** 満了日は無視されます。

***CURRENT**

今日の日付の前に満了日があるすべての文書が保管されます。

日付 文書の満了日を指定します。この日付の前に満了日があるすべての文書が保管されます。

作成日 (CRTDATE)

指定された期間内に作成日がある文書およびフォルダーが保管されることを指定します。この期間は、開始時刻と日付および終了時刻と日付によって指定されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。この期間は次の通り指定されます。

((開始時刻 開始日) (終了時刻 終了日))

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

開始時刻を指定するためには、次の1つを使用してください。文書はこの時刻の後に作成されていなければならず、それが選択されます。この時刻の前に作成された文書は選択されません。

***AVAIL**

任意の時刻にファイルされた文書およびフォルダーは保管の対象となります。

時刻

開始時刻を指定してください。開始時刻が検索値として使用される場合には、開始日は*BEGINであってははいけません。**最終変更時刻 (REFCHGTIME)**パラメーターが指定された場合には、開始時刻はREFCHGTIMEパラメーターに指定された値と同じでなければなりません。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

開始日を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この日付以降に作成されなければならない、それが保管されます。この日付の前に作成された文書は保管されません。

*BEGIN

文書およびフォルダーは、そのオブジェクトと関連した作成日に関係なく保管されます。

*CURRENT

今日の日付の、開始時刻（指定される場合）以降にファイルされた文書およびフォルダーだけが選択されます。

日付 文書作成日区間の開始日を指定します。この日付はジョブ日付の形式で入力しなければなりません。開始日は、**最終変更日 (REFCHGDATE)**パラメーターが指定された場合にそのREFCHGDATEパラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

終了時刻を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この時刻以前に作成されていないなければならない、それが保管されます。指定された時刻の後に作成された文書は保管されません。

*AVAIL

任意の時刻にファイルされた文書およびフォルダーは保管のために選択されます。

時刻 終了時刻を指定してください。終了時刻が検索値として使用される場合には、終了時刻は*ENDであってははいけません。時刻指定の方法の詳細については、**開始時刻**の説明を参照してください。

要素2: 終了日付

終了日を指定するためには、次の1つを使用してください。文書は、この日付以前に作成されていないなければならない、それが保管されます。この日付の後に作成された文書は保管されません。

*END 任意の日付にファイルされた文書およびフォルダーが選択されます。*ENDが指定された場合には、終了時刻を使用することはできません。

日付 文書作成日間の終了日を指定します。この日付以前に作成された文書が保管されます。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

上

文書クラス (DOCCLS)

保管する文書のクラスを指定します。このクラスは、文書の作成時にユーザーによって割り当てられます。このパラメーターが有効なのは**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されていて、**検索タイプ (SRCHTYPE)**パラメーターに*DOCが指定されている場合だけです。

注: 文書クラスがユーザー割り当てのものであっても、このパラメーターに2バイト文字セット(DBCS)データを指定することはできません。

***ANY** 保管のための文書の選択に文書クラスは使用されません。

文字値 保管のための文書の選択に使用される1-16桁の範囲の文書クラスを指定してください。

上

所有者プロファイル (OWNER)

保管する文書およびフォルダーの所有者を指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***CURRENT**

現行の要求元によって所有される文書およびフォルダーが保管されます。

***ALL** このパラメーターは、保管のための文書およびフォルダーの選択には使用されません。*ALLを指定する場合は、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはシステム保管(*SAVSYS)特殊権限が必要です。

名前 保管する文書およびフォルダーを所有するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。このユーザーによって所有され、指定されたその他の検索値と一致するすべての文書が保管されます。このコマンドを出したユーザーのユーザー・プロファイル以外のユーザー・プロファイルを選択する場合には、*ALLOBJまたは*SAVSYSの特殊権限が必要です。

上

最終変更日 (REFCHGDATE)

指定された日付以降に作成されたフォルダー、および変更または作成された文書が保管されます。この変更日は、文書の内容または記述が変更された時に更新されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***ANY** 参照用の変更日は指定されません。文書は、作成または変更された日付に関係なく保管されます。フォルダーは作成された日付に関係なく保管されます。

***SAVDLOALL**

最後の完全保管操作以降に作成されたフォルダーおよびそれ以降に作成または変更された文書が保管されます。

日付 日付を指定して、その日付以降に作成されたフォルダー、あるいは作成または変更された文書が保管されます。

上

最終変更時刻 (REFCHGTIME)

それより後に作成されたフォルダーおよび変更または作成された文書を保管する、REFCHGDATEパラメーターに指定された日付に対して相対的な時間を指定します。この変更時刻は、文書の内容または記述が変更される時に更新されます。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SEARCHが指定されている場合だけです。

***ANY** 時刻は指定されません。文書は、作成または変更された時刻とは関係なく保管されます。フォルダーは作成された時刻に関係なく保管されます。

時刻 その時刻以降に作成されたフォルダー、または作成または変更された文書が保管される、その時刻を指定します。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

文書リスト (DOCL)

保管される文書のリストを指定します。この文書リストはフォルダー内になければなりません。フォルダーの名前は**フォルダー (FLR)**パラメーターを使用して指定しなければなりません。文書リストに文書が入っているフォルダーに対する使用(*USE)権限が必要です。

注: 文書リストは、リモート検索ではなく、ローカル検索の結果でなければなりません。

***NONE**

文書リストは保管されません。

文字値 保管される文書リストを指定します。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

記憶域 (STG)

保管操作の終了後に保管中の文書によって占められていたシステム記憶域を保管、削除、または解放するかどうかを指定します。

注：次のいくつかが指定された場合には、STG(*DELETE)およびSTG(*FREE)は正しくありません。

- DLO(*ALL) FLR(*ANY)
- DLO(*SEARCH) CHKFORMRK(*YES)
- DLO(*CHG)
- DLO(*MAIL)
- SAVACT(*YES)

***KEEP**

保管操作の後、文書によって占められていた記憶域は変更されないままとなります。

***DELETE**

保管操作後に、文書オブジェクトおよびすべての検索項目はシステムから削除されます。

***FREE**

文書記述およびすべての検索項目はシステム上にそのままとなりますが、文書によって占められていた記憶域は保管操作の後に削除されます。文書は、この文書がシステム上に復元されるまで使用することはできません。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

文書クラス (DOCCLS)パラメーターに指定されたデータの文字識別コード (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。この文字識別コードは、文書クラスの入力に使用される表示装置と関連しています。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中に更新できるかどうかを指定します。

*NO 使用中の文書ライブラリー・オブジェクトは保管されません。文書ライブラリー・オブジェクトを使用中に更新することはできません。

*YES 保管要求時に文書ライブラリー・オブジェクトを変更することができます。

注: 一部の適用業務は、文書ライブラリー・オブジェクトを直接更新します。一時ファイルに更新を保管してからDLOを更新するのではなく、データが適用業務に提供されます。直接更新されるDLO (一般にはPCを基礎とした適用業務によって更新されるもの) は保管されません。このパラメーターの使用に関する詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i5infocenter/>)の「バックアップおよび回復」トピック・コレクションを参照してください。

上

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続ける前に、オブジェクトが使用中になっている時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続ける前に、個々の各オブジェクトが使用可能になるまで最大120秒待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0-99999

保管操作を続ける前に、個々の各オブジェクトを待つ秒数を指定してください。

上

ASP番号 (ASP)

保管される文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

***ANY** 保管されるオブジェクトはいずれかのASPに存在しています。DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された時には、システム上のすべての文書ライブラリー・オブジェクトが保管されます。

注：複数のASPからのDLOが保管されると、複数のテープ媒体ファイルが作成されます。これらの媒体ファイルの開始および終了の順序番号は、すべてのASPを復元するためにRSTDLOコマンドに必要です。

1-32 保管する文書ライブラリー・オブジェクトが入っている既存ASPの番号を指定してください。ASP 1はシステムASPです。

注：ファイルされていないメールおよびフォルダー内にない文書はシステムASPに存在していません。

上

オブジェクト名生成 (NEWOBJ)

新規ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名を復元するフォルダーおよび文書に対して生成するかどうかを指定します。

***SAME**

ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名は変わりません。

***NEW** 新規ライブラリー割り当て名およびシステム・オブジェクト名が、復元するフォルダーおよび文書ごとに生成されます。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

復元操作中に見つかった次の相違点が許されるかどうかを指定します。

- 所有権—システム上のオブジェクトの所有者が保管操作からのオブジェクトの所有者と異なる。
- システム・オブジェクト名—システム上のシステム・オブジェクト名が媒体上のシステム・オブジェクト名と一致しない。
- 権限リストのリンカーオブジェクトが、オブジェクトを保管したものとは異なるシステム上に復元されます。

システム上の所有者またはオブジェクト名が復元操作で使用される媒体の場合と異なるオブジェクトを復元できるようにするためには、ALWOBJDIFパラメーターを使用することができます。*ALL特殊値を指定す

ることによって、別の名前をもつオブジェクトが媒体上の名前に復元され、一方、別の所有者をもつオブジェクトは、その所有者名は媒体からではなくシステムから保持します。

注: このパラメーターを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)権限が必要です。

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。権限リストの場合には、オブジェクトは復元されますが、そのオブジェクトは当該の権限リストにはリンクされず、共通権限が*EXCLUDEに設定されます。他のケースについては、オブジェクトの診断メッセージが送信されて、オブジェクトは復元されません。

***ALL** 上で説明したすべての相違点が復元操作で許されます。通知メッセージが送られて、そのオブジェクトが復元されます。

注:

- オブジェクトの所有者が一致しない場合には、そのオブジェクトは復元されますが、復元操作前のシステム上のオブジェクト所有権および権限のままとなります。
- このパラメーターに*ALLが指定された場合には、**オブジェクト名生成 (NEWOBJ)**パラメーターに*NEWを指定することはできません。
- オブジェクトが保管されたシステムで、そのオブジェクトが権限リストによって保護されているシステムとは異なるシステムからオブジェクトを復元中の場合には、*ALLを指定すると、そのオブジェクトを権限リストに自動的にリンクします。新しいシステムに権限リストが存在していない場合には、欠落しているリストの名前が入っているメッセージが出されます。

上

復元先ASP番号 (RSTASP)

復元された文書およびフォルダーが入れられる媒体上の補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

*SAVASP

文書およびフォルダーは、保管される前と同じASPに入れられます。

I-32 復元された文書およびフォルダーが入るASPの番号を指定してください。

上

例

例1:全文書ライブラリー・オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTDLO DLO(*ALL) RMTLOCNAME(SYSTEM1) FLR(*ANY)
           SAVACT(*YES) NEWOBJ(*NEW)
```

このコマンドは、任意のフォルダーにある文書ライブラリー・オブジェクトをすべて保管し、それらのオブジェクトをSYSTEM1という名前のリモート・システムに復元します。それらのオブジェクトは保管および復元操作時に変更でき、オブジェクトの復元先のライブラリーに新規名が付けられます。

例2:特定の文書ライブラリー・オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTDLO DLO(*SEARCH) RMTLOCNAME(SYSTEM2) FLR(FLR2)
           OWNER(USER8) SRCHTYPE(*DOC)
```

このコマンドは、FLR2という名前のフォルダーを検索し、文書がユーザーUSER8によって所有されているかどうかを確認のために検査します。フォルダーおよびそのフォルダー内の文書は、SYSTEM2という名前のリモート・システムで保管および復元されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD82

&1個の文書ライブラリー・オブジェクトが保管され復元された。

CPFAD8C

SAVRSTDLO操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

上

ライブラリーの保管復元 (SAVRSTLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー保管/復元(SAVRSTLIB)コマンドによって、ユーザーは1つまたは複数のライブラリーのコピーを別のシステムに保管および復元することができます。システムは、復元システムとのサポートされている通信リンクをもっていなければなりません。

QDOCライブラリーに入っている文書およびフォルダーは、文書ライブラリー・オブジェクト保管/復元(SAVRSTDLO)コマンドを使用して保管および復元することができます。

SAVRSTLIBコマンドは、ライブラリー全体を保管および復元します。これにはライブラリー記述、オブジェクト記述、およびライブラリーのオブジェクトの内容が含まれます。ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクトの定義だけが保管および復元され、内容は保管も復元もされません。論理ファイルのアクセス・パスは、ACCPH(*YES)を指定して保管および復元することができます。保管ファイルの内容は、SAVFDTA(*YES)を指定して保管および復元することができます。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、SPLFDTA(*ALL)を指定して保管および復元することができます。データ待ち行列の内容は、QDTA(*DTAQ)を指定して保管および復元することができます。

コマンドで記憶域が解放されるように指定されていないかぎり、システム上のライブラリーおよびそのオブジェクトは影響を受けません。

このコマンドで保管および復元されるオブジェクトのタイプは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「一般に使用されるパラメーター：拡張説明」中のOBJTYPEパラメーターの説明の中に、*DTADCTが追加されてリストされています。ユーザー・ライブラリーに入っていない一部のI5/OS システム・オブジェクト（ユーザー・プロファイルなど）は、このコマンドでは保管も復元もされません。これら、システム保管(SAVSYS)コマンドまたは機密保護データ保管(SAVSECDTA)コマンドで保管し、ユーザー・プロファイル復元(RSTUSRPRF)コマンドを使用して復元することができます。

制約事項：

1. このコマンドを使用するためには、ユーザーは、SPCAUTパラメーターによってユーザー・プロファイルに指定された特殊権限*SAVSYSを必要とするか、あるいは次が必要です。
 - 指定された各ライブラリーの読み取り権限または所有者。
 - ライブラリー中の各オブジェクトのオブジェクト存在権限。

ユーザーが指定されたすべてのライブラリーおよびオブジェクトの正しい権限をもっていない場合には、ユーザーが権限をもっているものだけが保管および復元されます。

2. 活動時保管(SAVACT)を使用しないかぎり、保管および復元中のライブラリーも、保管および復元中のライブラリーのオブジェクトも、保管および復元操作が行なわれた時点で実行中のジョブによって更新することができません。
3. SAVFDTA(*YES)を指定して保管ファイルの内容が保管および復元される時には、保管ファイルを復元しないかぎり、その中のオブジェクトを復元することはできません。

4. 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LIB	ライブラリー	単一値: *NONSYS, *ALLUSR, *IBM その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 2
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰 り返し): 総称名, 名前	オプション
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRECHK	オブジェクト事前検査	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	<u>*NO</u> , *LIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, <u>120</u> , *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, * <u>LOCKWAIT</u> , *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, * <u>LOCKWAIT</u> , *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, * <u>NONE</u> , *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
ACCPH	アクセス・パス保管	<u>*SYSVAL</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	<u>*NONE</u> , *ALL	オプション
QDTA	待ち行列データ	<u>*NONE</u> , *DTAQ	オプション
PVTAUT	私用専用権限	<u>*NO</u> , *YES	オプション
STG	記憶域	<u>*KEEP</u> , *FREE	オプション
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NEW, *OLD, *FREE	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	<u>*MATCH</u> , *ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: * <u>NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, * <u>LIB</u>	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, * <u>SAVASPDEV</u>	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, * <u>SAVASP</u>	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: * <u>SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	

上

ライブラリー (LIB)

保管および復元するライブラリーを指定します。

注:

- *NONSYSまたは*IBMキーワードを使用する場合には、一部のライブラリーは、この操作で使用されているので、保管も復元もされません。
- ユーザーがこのパラメーターに*ALLUSRを指定した場合には、このコマンドは、指定のライブラリーが使用中でない時に使用しなければなりません。ライブラリーの保管および復元中にライブラリーのオブジェクトが使用中である場合には、そのオブジェクトは保管も復元もされません。すべてのライブラリーの保管および復元を完了するためには、制約された状態のシステムでSAVLIBコマンドを実行してく

ださい。例えば、サブシステムQSNADSが活動状態の時にSAVRSTLIB LIB(*ALLUSR)を実行した場合には、ライブラリーQUSRSYS中のQAO*ファイルは保管も復元もされません。*QAOファイルを保管および復元するためには、SAVRSTLIB LIB(*ALLUSR)を実行する前に、QSNADSサブシステムを終了してください。SAVRSTLIBコマンドを使用する時には、一部のサブシステムは終了することはできません。SAVRSTLIBコマンドを使用する時には、こうしたサブシステムに関連したライブラリーは保管も復元もされません。

QSOC SAVRSTLIBコマンドで光ディスク・バス転送を使用している場合。

QCMN

SAVRSTLIBコマンドで通信転送を使用している場合。

***NONSYS**

すべてのユーザー作成ライブラリー、QGPLライブラリー、QUSRSYSライブラリー、およびQRPGやQIDUなどのライセンス・プログラム・ライブラリーが保管されます。このオプションを指定する場合には、サブシステム終了(ENDSBS)またはシステム終了(ENDSYS)コマンドですべてのサブシステムを終了していなければなりません。*NONSYSを指定した時には、ライブラリーはアルファベット順に媒体に保管されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが保管および復元されます。文字Qで始まらない名前をもつすべてのライブラリーが保管および復元されますが、次のものは除きます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、保管および復元されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGGL       QSRVAGT     QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGGL38     QSYS2       QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F       QUSROND
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF   QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL   QUSRSYS
```

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***IBM** 次のQライブラリーを除くすべてのシステム(IBM)ライブラリーを保管します。

```
QDOC       QRCYxxxxx   QTEMP      QUSRPYMSVR
QDOCxxxxx QRECOVERY   QUSER38    QUSRDRARS
QDSNX      QRPLOBJ     QUSRADSM   QUSRSYS
QGGL       QRPLxxxxx   QUSRBRM    QUSRVI
QGGL38     QSPL        QUSRDIRCF  QUSRVxRxMx
QMGTC      QSPLxxxxx   QUSRDIRCL
QMGTC2     QSRV        QUSRDIRDB
QMPGDATA   QSRVAGT     QUSRIJS
QMQMDATA   QSYS        QUSRINFSKR
QMQMPROC   QSYSxxxxx   QUSRNOTES
QPFRDATA   QSYS2       QUSROND
QRCL       QSYS2xxxxx QUSRPOSGS
QRCLxxxxx QS36F       QUSRPOSSA
```


注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。 QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

Qで始まらない名前をもつ次のライブラリーも保管されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

総称名 ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。最大300までの総称ライブラリーの値を指定することができます。

名前 保管および復元されるライブラリーの名前を指定してください。最大300のライブラリー名を指定することができます。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されます。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

上

開始ライブラリー (STRLIB)

*NONSYS, *IBM,または*ALLUSR保管操作を開始するライブラリーを指定します。

注: このパラメーターは、ライブラリー (LIB)パラメーターに*NONSYS, *IBM,または*ALLUSRを指定した場合だけ有効です。

*FIRST

保管操作は、アルファベット順の最初のライブラリーから始まります。

名前 保管操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

*NONE

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

*NONE

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

***** 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

上

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXR₁MXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

上

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

上

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

上

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になればなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、

*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

*LOCKWAIT

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOCMTBDY

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることになります。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれるAPIトピック・コレクションのコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

***LOCKWAIT**

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

上

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに*SYNCLIBが指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

***NONE**

通知メッセージは送信されません。

***WRKSTN**

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。このパラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならず、同時に保管しなければなりません。

*SYSVAL

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注：この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

上

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

上

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

保管される出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。

*NONE

スプール・ファイル・データは保管されません。

***ALL** 保管される出力待ち行列ごとに、出力待ち行列で使用可能なスプール・ファイル・データがすべて保管されます。

上

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

*NONE

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

保管または復元されたオブジェクトで、専用権限を保管および復元するかどうかを指定します。

***NO** どの専用権限も、保管も復元もされませんでした。

***YES** 専用権限は、オブジェクトで保管および復元されました。

注: この値を指定するには、オブジェクトが保管されている元のシステムでシステム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限、および復元システムで*ALLOBJ特殊権限が必要です。

上

記憶域 (STG)

保管しようとしているライブラリー中の指定されたメンバー（保管ファイルを除く）、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占められているシステム記憶域が保管操作の一部として解放されるかどうかを指定します。これらのオブジェクトのデータ部分のみが解放され、オブジェクトの記述は解放されません。

***KEEP**

保管しようとしているオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域は解放されません。

***FREE**

保管しようとしている指定されたオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域が保管操作の一部として解放されます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが占めている記憶域は、そのライブラリー中のすべてのオブジェクトが正常に保管された後でのみ解放されます。

注: 起こる可能性があるプログラムの異常終了を防止するためには、*FREEが指定された時に、保管しようとしているプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

上

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。

***NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されません。

***OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。

***FREE**

保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

上

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

*MATCHが使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごとに一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

*MATCH

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごとに一致している場合に復元されます。オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)パラメーターで*ALLが指定されている場合には、MBROPT(*MATCH)は無効です。

*ALL 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

*NEW 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

*OLD システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに*NONE以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。
2. 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- ファイル・レベルID：システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- メンバー・レベルID：システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

***ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があつて、データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があつた場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大4個指定可能)

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が*EXCLUDEに設定されます。

***FILELVL**

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***OWNER**

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

***PGP**

1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

復元先ライブラリー (RSTLIB)

ライブラリーの内容が保管されたのと同じライブラリーに復元されるか、あるいは別のライブラリーに復元されるかを指定します。別のライブラリーを指定する場合には、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに *NONSYS, *ALLUSR,または*IBMを指定することができません。

***LIB** ライブラリーの内容は、保管されたのと同じ1つまたは複数のライブラリーに復元されます。

名前 保管されたライブラリーの内容が復元されるライブラリーの名前を指定してください。LIBパラメーターに *NONSYS, *ALLUSR,または*IBMを指定した場合には、このパラメーターにライブラリー名を指定することはできません。

注: SQLデータベースが保管されたのと別のライブラリーに復元される場合には、ジャーナルは復元されません。

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

***SAVASPDEV**

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP),システムASP (ASP番号1),または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要: システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー) は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

***SAVASP**

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

上

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時に、現行バージョンのオペレーティング・システムでの使用に必要な形式に変換するのか、または現行マシンと互換になるように変換するのかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE, *PGM, *SRVPGM, および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないければなりません。
3. 変換が必要なオブジェクトである（古いバージョンのオペレーティング・システム用に形式設定されているか、または現行マシンと非互換であるため）が、この復元操作中に変換されない場合、そのオブジェクトは最初に使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注: FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトの変換は、現行オペレーティング・システムで使用されるため、または現行マシンと互換にするために変換が必要な場合のみ行われます。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** 既に現行形式になっている互換のオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式およ

びマシン互換性に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

上

例

例1:すべてのユーザー・ライブラリーの保管および復元

```
SAVRSTLIB LIB(*ALLUSR) RMTLOCNAME(SYSTEM1)
          STRLIB(GFM1) OPTION(*OLD)
```

このコマンドは、GFM1ライブラリーで始まっているユーザー・ライブラリーをすべて保管し、SYSTEM1という名前のリモート・システムに復元します。復元されるのは、保管バージョンが入っているライブラリー内のオブジェクトだけです。

例2:特定のライブラリーの保管および復元

```
SAVRSTLIB LIB(GRUNBOK TIMON VASEK) RMTLOCNAME(SYSTEM1)
```

このコマンドは、ライブラリーGRUNBOK, TIMON,およびVASEKを保管し、SYSTEM1という名前のリモート・システムに復元します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD81

&1個のライブラリーが保管され復元された。

CPFAD8B

SAVRSTLIB操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

上

オブジェクトの保管復元 (SAVRSTOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト保管/復元(SAVRSTOBJ)コマンドは、単一のオブジェクトまたは同じライブラリーにある1グループのオブジェクトを別のシステムに保管および復元します。オブジェクトは、同じライブラリーまたは別のライブラリーに復元することができます。保管および復元できるオブジェクトのタイプは、オブジェクト保管(SAVOBJ)コマンドに使用可能なものと同じオブジェクトのセットです。オブジェクトが保管されるシステムのオブジェクトは、SAVRSTOBJコマンドの影響を受けません。

ジョブ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクト記述だけが保管および復元され、内容は保管も復元もされません。論理ファイルのアクセス・パスは、ACCPH(*YES)を指定して保管および復元することができます。保管ファイルの内容は、SAVFDTA(*YES)を指定して保管および復元することができます。出力待ち行列上のスプール・ファイルの内容は、SPLFDTA(*ALL)を指定して保管および復元することができます。データ待ち行列の内容は、QDTA(*DTAQ)を指定して保管および復元することができます。

注: このコマンドは、ジョブで現在有効となっているすべてのファイルの一時変更を無視します。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、SPCAUTパラメーターによってユーザー・プロファイルに指定された特殊権限*SAVSYSが必要であるか、あるいは指定された各オブジェクトのオブジェクト存在権限と指定されたライブラリーの読み取り権限が必要です。指定されたオブジェクトに対する必要な権限をもっていない場合には、それを除くすべてのオブジェクトが保管および復元されます。
- 保管および復元操作に関与させようとする両方のシステムは同じAPPNネットワークに接続しなければなりません。あるいはOPTICONNECT FOR I5/OSオプションを使用しようとする場合には、両方のシステムがOPTICONNECT FOR I5/OSハードウェアおよびソフトウェアによって結合されていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 1
LIB	保管されたライブラリー	単一値: *ALLUSR その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	名前	必須, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 69 回の繰り返し): *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRTIMG, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *TIMZON, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
STRLIB	開始ライブラリー	名前, *FIRST	オプション
OMITLIB	除外するライブラリー	単一値: *NONE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OMITOBJ	除外するオブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	文字値, *ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *ORTBL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *S36, *TBL, *USRIDX, *TIMZON, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
PRECHK	オブジェクト事前検査	*NO, *YES	オプション
SAVACT	活動状態保管	*NO, *LIB, *SYSDFN	オプション
SAVACTWAIT	活動状態保管待ち時間	要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト・ロック	0-99999, 120, *NOMAX	
	要素 2: 保留中のレコード変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOCMTBDY, *NOMAX	
	要素 3: 他の保留中の変更	0-99999, *LOCKWAIT, *NOMAX	
SAVACTMSGQ	活動状態保管メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 活動状態保管メッセージ待ち行列	名前, *NONE, *WRKSTN	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILEMBR	ファイル・メンバー	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル	名前, <u>*ALL</u>	
	要素 2: メンバー	単一値: <u>*ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 総称名, 名前	
ACCPH	アクセス・パス保管	<u>*SYSVAL</u> , *NO, *YES	オプション
SAVFDTA	保管ファイル・データ	<u>*YES</u> , *NO	オプション
SPLFDTA	スプール・ファイル・データ	<u>*NONE</u> , *ALL	オプション
QDTA	待ち行列データ	<u>*NONE</u> , *DTAQ	オプション
PVTAUT	私用専用権限	<u>*NO</u> , *YES	オプション
STG	記憶域	<u>*KEEP</u> , *FREE	オプション
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *NEW, *OLD, *FREE	オプション
MBROPT	データベース・メンバー・オプション	<u>*MATCH</u> , *ALL, *NEW, *OLD	オプション
ALWOBJDIF	オブジェクト差異可能	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *AUTL, *FILELVL, *OWNER, *PGP	オプション
RSTLIB	復元先ライブラリー	名前, <u>*LIB</u>	オプション
RSTASPDEV	復元先ASP装置	名前, <u>*SAVASPDEV</u>	オプション
RSTASP	復元先ASP番号	1-32, <u>*SAVASP</u>	オプション
FRCOBJCVN	強制オブジェクト変換	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 復元中変換	<u>*YES</u>	
	要素 2: 変換するオブジェクト	<u>*RQD</u> , *ALL	

上

オブジェクト (OBJ)

保管する1つまたは複数のオブジェクトの名前または各オブジェクト・グループの総称名を指定します。すべてのオブジェクトがライブラリー (LIB)パラメーターに指定したライブラリーの中になければなりません。オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターに*ALLを指定するか、あるいは省略時の値とした場合には、そのパラメーターの記述にリストされているすべてのオブジェクト・タイプが指定されたライブラリーにあり、しかも指定された名前を持っていれば、それらがすべて保管されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** OBJTYPEパラメーターに指定された値に基づいて、指定されたライブラリーにあるすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 指定したライブラリー中の保管するオブジェクト・グループの1つまたは複数の総称名を指定して

ください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なオブジェクト名であるとみなします。

名前 保管する特定のオブジェクトの1つ以上の名前を指定します。総称名と特定名の両方を同じコマンドに指定することができます。

上

保管されたライブラリー (LIB)

保管および復元されるオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

単一値

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが保管および復元されます。文字Qで始まらない名前をもつすべてのライブラリーが保管および復元されますが、次のものは除きます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーはIBMによって提供されますが、これらには一般的に、頻繁に変更されるユーザー・データが入れられます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、保管および復元されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMQRDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMQRPROC   QUSRB RM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRRDARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 ライブラリーの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。最大300の総称ライブラリー名を指定することができます。

名前 保管および復元されるライブラリーの名前を指定してください。最大300のライブラリー名を指定することができます。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。CCCCCCCCまたはNNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用してリモート・ロケーション名を指定してください。NNNNNNNNはネットワークID (ID)で、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。

リモート・ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したリモート・ロケーション名を指定してください。ローカル・ネットワークID (LCLNETID)ネットワーク属性がネットワークIDの値として使用されません。

ネットワークID.ロケーション名

オブジェクトを復元したいシステムと関連したネットワークIDおよびリモート・ロケーション名を指定してください。

上

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

保管するシステム・オブジェクトのタイプを指定します。

単一値

***ALL** 指定した名前で、指定したライブラリーに入っているすべてのオブジェクト・タイプが保管されます。 **オブジェクト (OBJ)**パラメーターにも*ALLが指定されている場合には、ライブラリーに入っているオブジェクトのうち、保管できるタイプのすべてのオブジェクトが保管されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

オブジェクト・タイプ

コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)など、保管するオブジェクトの各タイプの値を指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト)を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

開始ライブラリー (STRLIB)

保管操作を開始するライブラリーを指定します。

保管操作中に回復不能媒体エラーが起こった場合には、このパラメーターを使用して、操作を再開することができます。

保管操作再開の基本ステップは次の通りです。

1. ジョブ・ログを調べて、前の保管操作が正常に行われなかったライブラリーを判別してください。最後に保管されたライブラリーを見つけてください。これは、正常完了メッセージによって示されます。
2. 次のテープが初期設定されていることを確認して、そのテープを装てんしてください。

3. 以下をオリジナルの保管操作に追加します。

STRLIB(ライブラリー名) OMITLIB(ライブラリー名)

ここで、STRLIBおよびOMITLIBパラメーターのライブラリー名は正常に保管された最後のライブラリーです。これにより、保管操作は正常に保管された最後のライブラリーの後のライブラリーから始まります。

ライブラリーを復元するには、実行されたそれぞれの保管操作ごとに別個の復元操作を実行する必要があります。

***FIRST**

保管操作は、**ライブラリー (LIB)**パラメーターに指定された最初のライブラリー値から始まります。最初の値が総称名または特殊値であった場合には、保管操作はこの値と一致する最初のライブラリーから始まります。

名前 保管操作を開始するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するライブラリー (OMITLIB)

保管操作から除外する、1つまたは複数のライブラリーの名前またはライブラリーの各グループの総称名を指定します。

単一値

***NONE**

どのライブラリーも保管操作から除外されません。

その他の値 (最大300個指定可能)

総称名 除外するライブラリーの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名の指定は、名前がその総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのライブラリーです。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なライブラリー名とみなします。

名前 保管操作から除外するライブラリーの名前を指定してください。

上

除外するオブジェクト (OMITOBJ)

操作から除外するオブジェクトを指定します。最大300までのオブジェクトまたは総称オブジェクトの値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***NONE**

操作から除外されるオブジェクトはありません。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが操作から除外されます。

総称名 除外するオブジェクトの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***ALL** 指定されたオブジェクトは、操作の一部であるすべてのライブラリーから除外されます。

総称名 除外するオブジェクトが入っているライブラリーの総称名を指定します。

注: 総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部をもつ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 操作から除外するオブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定します。

要素2: オブジェクト・タイプ

***ALL** オブジェクト名に指定された値に基づいて、すべてのオブジェクト・タイプが操作から除外されます。

文字値 操作から除外するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

保管操作に組み込まれる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このパラメーターは、OBJパラメーターに基づいてSAVに適格のオブジェクトのリストをサブセット化するのに使用されます。

* 操作には、システムASP (ASP番号1),すべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが組み込まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが保管操作に組み込まれます。

*CURASPGRP

現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが保管操作に組み込まれます。

名前 保管操作に組み込むASP装置の名前を指定します。

ターゲット・リリース (TGTRLS)

保管しようとするオブジェクトを使用する予定のオペレーティング・システムのリリース・レベルを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。例えば、V5R3M0は、バージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースに復元され、使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースに復元されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムに復元することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムに復元することができます。

オブジェクト事前検査 (PRECHK)

次のいずれかが真の場合に、ライブラリーの保管操作を終了するかどうかを指定します。

1. オブジェクトが存在していない。
2. ライブラリーまたはオブジェクトに損傷があることが前に判明している。
3. ライブラリーまたはオブジェクトが他のジョブによってロックされている。
4. 保管操作の要求元に、そのライブラリーの権限がないか、あるいはオブジェクトの保管権限がない。

***NO** ライブラリーに対する保管操作は続行し、保管できるオブジェクトのみを保管します。

***YES** 指定されたすべてのオブジェクトが検査された後で1つまたは複数のオブジェクトが保管できない場合には、ライブラリーに対する保管操作はデータが書き出される前に終了します。複数のライブラリーが指定された場合には、保管操作は次のライブラリーから続行します。ただし、PRECHK(*YES)およびSAVACT(*SYNCLIB)が指定され、保管するライブラリーの中に予備検査条件を満たしていないオブジェクトがある場合には、保管操作は終了し、オブジェクトはいずれも保管されません。

活動状態保管 (SAVACT)

オブジェクトを保管中にこれを更新できるかどうかを指定します。

注: ユーザーのシステムが制限状態であり、SAVACTパラメーターが指定された場合には、SAVACT(*NO)が指定されたかのように保管操作は実行されます。

***NO** 使用中のオブジェクトは保管されません。保管中のオブジェクトを更新することはできません。

***LIB** ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが同時にチェックポイントに達し、オブジェクト相互の関係に一貫性のある状態で保管されます。

***SYSDFN**

ライブラリー中のオブジェクトは、別のジョブで使用中でも、保管することができます。ライブラリー中のオブジェクトはそれぞれ異なる時点でチェックポイントに達することがあり、オブジェクト相互の関係が一貫性のある状態にならないことがあります。

上

活動状態保管待ち時間 (SAVACTWAIT)

保管操作を続行する前に、使用中のオブジェクトまたは変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。

要素1: オブジェクト・ロック

使用中の各オブジェクトについては、そのオブジェクトが使用可能になるのを待つ時間の長さを指定します。オブジェクトが指定された時間内使用中のままになっている場合には、そのオブジェクトは保管されません。

120 システムは、保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを120秒まで待ちます。

***NOMAX**

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

保管操作を続行する前に、それぞれの個別オブジェクト・ロックを待つ秒数を指定します。

要素2: 保留中のレコード変更

一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトの各グループごとに、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。一緒にチェックポイント処理されるオブジェクトは、**活動状態保管 (SAVACT)**パラメーターで決定されます。0が指定された場合には、保管中のすべてのオブジェクトがコミット境界になければなりません。その他の値が指定された場合には、保管中のオブジェクトと同じジャーナルにジャーナル処理されたすべてのオブジェクトがコミット境界に達していなければなりません。指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、

*NOCMTBDYが指定されていない限り、保管操作は終了します。

***LOCKWAIT**

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOCMTBDY

システムは、レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。したがって、オブジェクトは部分トランザクションとともに保管されることがあります。

部分トランザクションとともに保管されたオブジェクトを復元した場合には、ジャーナル変更を適用または除去(APYJRNCHGまたはRMVJRNCHGコマンド)して、コミット境界に達するまで、そのオブジェクトは使用できません。変更を適用または除去するには、部分トランザクションに関する情報を含むすべてのジャーナル・レシーバーが必要になります。変更を適用または除去するまでは、*NOCMTBDYを指定しない場合であっても、そのオブジェクトの今後の保管には部分トランザクションが組み込まれることになります。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

レコードの変更が保留中になっているトランザクションがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

要素3: 他の保留中の変更

各ライブラリーごとに、トランザクションがその他の変更が保留中になっているコミット境界に達するのを待つ時間の長さを指定します。その他の保留中の変更には以下のものがあります。

- そのライブラリーに対するデータ定義言語(DDL)オブジェクト・レベルの変更。
- 通常の保管処理を可能にするオプションを指定しないで追加されたすべてのAPIコミットメント資源。
詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションのコミットメント資源追加(QTNADDCR) APIを参照してください。

ライブラリーについて指定された時間以内にコミット境界に達しない場合には、ライブラリーは保管されません。

*LOCKWAIT

システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを、「要素1」に指定された値まで待ちます。

*NOMAX

最大待ち時間が存在していません。

0から99999

上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達するのを待つ秒数を指定します。

0が指定され、1つの名前だけが**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定され、*FILEが**オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)**パラメーターに指定された唯一の値である場合には、システムは、上記のトランザクションのタイプがコミット境界に達することを必要とせずに、オブジェクトを保管します。

上

活動状態保管メッセージ待ち行列 (SAVACTMSGQ)

ライブラリーのチェックポイント処理が完了していることをユーザーに通知するために保管操作で使用されるメッセージ待ち行列を指定します。活動状態保管 (SAVACT)パラメーターに*SYSDFNまたは*LIB値が指定されている時に、保管されるライブラリーごとに別々のメッセージが送られます。SAVACTパラメーターに*SYNCLIBが指定された場合には、保管操作ですべてのライブラリーに1つのメッセージが送られます。

このパラメーターは、既知の一貫性のある境界でオブジェクトを保管して、復元操作の後の追加回復手順を避けるために使用することができます。アプリケーションは、チェックポイント処理完了メッセージを受信するまで停止することができます。

単一値

*NONE

通知メッセージは送信されません。

*WRKSTN

通知メッセージがワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。この値はバッチ・モードでは無効です。

修飾子1: 活動状態保管メッセージ待ち行列

名前 使用するメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ファイル・メンバー (FILEMBR)

保管されるデータベース・ファイル・メンバーを指定します。このパラメーターは、ファイル名およびメンバー名の2つの部分からなります。

ここで指定した各データベース・ファイルは、完全な名前、総称名、または*ALLのいずれかによってオブジェクト (OBJ)パラメーターにも指定しなければなりません。オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーター値は、*ALLであるか*FILEを含んでいるかのいずれかでなければなりません。

注: STG(*FREE)が指定されている時には、このパラメーターを指定することはできません。

要素1: ファイル

*ALL この値に続くメンバー名の値のリストは、OBJパラメーターに指定されたすべてのファイルに適用されます。

名前 保管するためにリストしたメンバーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。各ファイルのメンバー・リストを使用して、最大50のファイルを指定することができます。

注: 総称名は、データベース・ファイル名には無効ですが、メンバー名には使用することができます。

注: 重複ファイル名は使用することができません。

要素2: メンバー

単一値

***ALL** すべてのメンバーが、指定されたファイルから保管されます。

***NONE**

メンバーは、指定されたファイルから保管されません。ファイル記述だけが保管されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

総称名 指定したファイルから保管するメンバーの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。名前に*が指定されていない場合には、システムはその名前が完全なメンバー名であるとみなします。

注: 総称メンバー名を指定した場合には、ファイルに保管するファイルの総称名と一致するメンバー名が含まれていなければなりません。例えば、総称メンバー名としてPAY*を指定し、システムがPAYで始まるメンバーを検出することができない場合には、ファイルは保管されません。指定した総称名をもつメンバーが検出できないために、FILEMBRパラメーターによって指定されたファイルが保管されない場合には、診断メッセージが送られ、保管操作を終了し、保管されなかったファイル数を指定したエスケープ・メッセージが送られます。FILEMBRパラメーターに応じて処理されるファイルのうち少なくとも1つに、指定された総称名をもつメンバーが含まれている場合には、診断メッセージは送られず、保管されなかったファイル数は最終完了メッセージに入ります。

名前 指定のファイルから保管されるメンバーの名前を指定してください。

注: 特定のメンバー名を指定した場合には、指定したメンバーが、保管または復元するファイルの任意の部分に応じてファイル中に存在していなければなりません。

上

アクセス・パス保管 (ACCPH)

保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスも一緒に保管されるかどうかを指定します。アクセス・パスが保管されるのは、次の場合だけです。

- アクセス・パスが作成されているすべてのメンバーがこの保管操作に組み込まれた場合。
- 保管時点でアクセス・パスが無効でないか、または損傷を受けていない場合。

システムでは、アクセス・パスの保全性を確認するための検査が行われます。システムによって相違が見つかった場合には、アクセス・パスが再作成される結果となります。

各物理ファイルと一緒に保管される論理ファイル・アクセス・パスの数を示す通知メッセージが送られます。アクセス・パスが作成される物理ファイルはすべて同じライブラリー内になければなりません。この

パラメーターは、論理ファイル・オブジェクトを保管するものではなく、アクセス・パスの保管を制御するだけです。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

重要：基礎になっている物理ファイルと論理ファイルが異なるライブラリーに入っている場合には、アクセス・パスが保管されます。しかし、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが異なるライブラリーに入っていて、論理ファイルまたは物理ファイルが復元時に存在していない（災害時回復や、ファイルが削除されていたなど）場合には、アクセス・パスは復元されません。これらは再作成されます。論理ファイルに対してできるだけ速い復元操作を実行するためには、論理ファイルおよび基礎になっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていなければならず、同時に保管しなければなりません。

***SYSVAL**

QSAVACCPHシステム値は、保管しようとしている物理ファイルに従属する論理ファイル・アクセス・パスを保管するかどうかを決定します。

***NO** このコマンドで指定されたオブジェクトのみが保管されます。論理ファイルのアクセス・パスは保管されません。

***YES** 指定された物理ファイルとその上にあるすべての適切な論理ファイル・アクセス・パスが保管されます。

注：この値を指定しても、論理ファイルは保管されません。

上

保管ファイル・データ (SAVFDTA)

保管ファイル・オブジェクトの場合に、保管ファイルの記述を保管するか、あるいは保管ファイルの記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***YES** 保管ファイルの記述と内容を保管します。

***NO** 保管ファイルの記述だけを保管します。

上

スプール・ファイル・データ (SPLFDTA)

保管される出力待ち行列のスプール・ファイル・データおよび属性を保管するかどうかを指定します。

***NONE**

スプール・ファイル・データは保管されません。

***ALL** 保管される出力待ち行列ごとに、出力待ち行列で使用可能なスプール・ファイル・データがすべて保管されます。

上

待ち行列データ (QDTA)

待ち行列オブジェクトの場合に、待ち行列の記述を保管するか、あるいは待ち行列の記述と内容の両方とも保管するかを指定します。

***NONE**

待ち行列の記述だけが保管されます。

***DTAQ**

標準データ待ち行列の記述と内容を保管します。分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列の記述だけが保管されます。

上

私用専用権限 (PVTAUT)

保管または復元されたオブジェクトで、専用権限を保管および復元するかどうかを指定します。

***NO** どの専用権限も、保管も復元もされませんでした。

***YES** 専用権限は、オブジェクトで保管および復元されました。

注: この値を指定するには、オブジェクトが保管されている元のシステムでシステム保管(*SAVSYS)またはすべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限、および復元システムで*ALLOBJ特殊権限が必要です。

上

記憶域 (STG)

保管しようとしているライブラリー中の指定されたメンバー（保管ファイルを除く）、モジュール、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびジャーナル・レシーバーのデータ部分によって占められているシステム記憶域が保管操作の一部として解放されるかどうかを指定します。これらのオブジェクトのデータ部分のみが解放され、オブジェクトの記述は解放されません。

***KEEP**

保管しようとしているオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域は解放されません。

***FREE**

保管しようとしている指定されたオブジェクトのデータ部分によって占められている記憶域が保管操作の一部として解放されます。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが占めている記憶域は、そのライブラリー中のすべてのオブジェクトが正常に保管された後でのみ解放されます。

注: 起こる可能性があるプログラムの異常終了を防止するためには、*FREEが指定された時に、保管しようとしているプログラムがシステムで実行中であってはなりません。

上

オプション (OPTION)

各オブジェクトの復元の処理方法を指定します。

***ALL** 保管済みライブラリー内のすべてのオブジェクトはそのライブラリーに復元されます。保管済みライブラリー内のオブジェクトは、システム・ライブラリー内の現行バージョンを置き換えます。現行バージョンがないオブジェクトはシステム・ライブラリーに追加されます。現在ライブラリー内にあるが、媒体上にないオブジェクトはライブラリー内に残ります。

***NEW** 保管済みライブラリー内の、システム・ライブラリーの現行バージョンに存在していないオブジェクトだけがライブラリーに追加されます。システム・ライブラリーに認識されていないオブジェクトだけが復元されて、認識されているオブジェクトは復元されません。このオプションは、保管後に削除されたオブジェクトまたはこのライブラリーに対して新規のオブジェクトを復元します。システム・ライブラリーにすでに入っているバージョンが保管済みオブジェクトにある場合には、それらは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されません。

***OLD** 保管済みバージョンがあるライブラリー内のオブジェクトだけが復元されます。すなわち、現在ライブラリーに入っている各オブジェクトのバージョンが保管済みバージョンで置き換えられます。ライブラリーに対して認識されているオブジェクトだけが復元されます。すべての保管済みオブジェクトがもはやライブラリーのオンライン・バージョンの一部でない場合には、それぞれに関する通知メッセージが送信されますが、復元操作は続行されます。

***FREE**

保管済みオブジェクトが復元されるのは、システム・ライブラリー内に存在していて、その空きスペースが解放されている場合だけです。各オブジェクトの保管済みバージョンはシステム上で以前に解放されたスペースに復元されます。このオプションは、保管時にスペースが解放されたオブジェクトを復元します。保管済みオブジェクトがすでにライブラリーの現行バージョンの一部でない場合、あるいはオブジェクト用のスペースが解放されていない場合には、そのオブジェクトは復元されず、それぞれに関する通知メッセージが送信されます。復元操作は続行されて、すべての解放済みオブジェクトが復元されます。

上

データベース・メンバー・オプション (MBROPT)

システム上に存在しているデータベース・ファイルに対しては、復元するメンバーを指定します。

***MATCH**が使用されている場合には、保管されたファイルのメンバー・リストがシステム上の現行バージョンとメンバーごと的一致していなければなりません。ファイルを復元する場合には、存在していないファイルのすべてのメンバーが復元されます。

***MATCH**

保管されたメンバーは、それらの存在しているメンバーのリストが現行システム・バージョンのリストとメンバーごと的一致している場合に復元されます。**オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)**パラメーターで***ALL**が指定されている場合には、**MBROPT(*MATCH)**は無効です。

***ALL** 保管されたファイルにあるすべてのメンバーが復元されます。

***NEW** 新しいメンバー（システムに認識されていないメンバー）のみが復元されます。

***OLD** システムにとって既知のメンバーのみが復元されます。

上

オブジェクト差異可能 (ALWOBJDIF)

保管したオブジェクトと復元されたオブジェクトとの間の相違が許されるかどうかを指定します。

注:

1. このパラメーターに***NONE**以外の値を指定するには、全オブジェクト(***ALLOBJ**)特殊権限が必要です。

- 相違が検出された場合には、復元操作に関する最終メッセージは正常完了メッセージではなくエスケープ・メッセージになります。

相違のタイプには以下のものがあります。

- 権限リスト：保管されたオブジェクトには権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたないか、あるいはオブジェクトが存在せず保管システムと異なるシステムに復元されているかのどちらかです。

注：保管されるオブジェクトに権限リストがなかった場合には、このパラメーターは影響しません。オブジェクトが存在している場合には、既存のオブジェクトの権限リストとともにこれが復元されます。存在しない場合には、これは権限リストなしで復元されます。

- ファイル・レベルID：システム上のデータベース・ファイルの作成日時が、保管されたファイルの作成日時と一致しません。
- メンバー・レベルID：システム上のデータベース・ファイル・メンバーの作成日時が、保管されたメンバーの作成日時と一致しません。
- 所有権：システム上のオブジェクトの所有者が、保管操作からのオブジェクトの所有者と異なっている。
- 1次グループ：システム上のオブジェクトの1次グループが保管操作の時のオブジェクトの1次グループと異なっている。

単一値

*NONE

前述の相違のどれも復元操作では許可されていません。個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

- *ALL** 前述の相違のすべてが復元操作で許可されています。ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は、*FILELVL値と異なる取り扱いになります。ファイル・レベルの相違があつて、データベース・メンバー・オプション (MBROPT)パラメーターに*ALLが指定された場合には、ファイルの既存のバージョンは名前変更され、ファイルの保管バージョンが復元されます。メンバー・レベルの相違があつた場合には、メンバーの既存のバージョンは名前変更され、メンバーの保管バージョンが復元されます。この値では、保管されたデータは復元されますが、結果は正しくない可能性があります。復元されたデータと名前変更されたデータのどちらが正しいかを選択する必要があります。また、データベースに対して必要な訂正を行うことが必要になります。その他の相違の場合には、個々の値のそれぞれの説明を参照して、相違の取り扱い方法を決定してください。

その他の値 (最大4個指定可能)

***AUTL**

権限リストの相違は許可されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは既存のオブジェクトの権限リストとともに復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元され、権限リストにリンクされます。権限リストが存在していない場合には、共通権限は*EXCLUDEに設定されます。

この値が指定されない場合には、権限リストの相違は許可されません。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトがシステム上にあるが同じ権限リストをもたない場合には、オブジェクトは復元されます。保管されたオブジェクトに権限リストがあり、オブジェクトが存在せず、これが保管システムと異なるシステムに復元されている場合には、このオブジェクトは復元されますが、権限リストにはリンクされず共通権限が*EXCLUDEに設定されます。

*FILELVL

ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されます。保管媒体上の物理ファイルがシステム上の物理ファイルとは異なるファイル・レベルIDまたはメンバー・レベルIDを持っていても、既存の物理ファイルの復元は試行されます。保管媒体上の形式レベルIDがシステム上の対応する物理ファイルの形式レベルIDと一致する物理ファイルの物理ファイル・データだけが復元されます。

この値が指定されない場合には、ファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なるファイル・レベルIDおよびメンバー・レベルIDをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

*OWNER

所有権の相違は許可されます。オブジェクトが保管したオブジェクトと異なる所有者でシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの所有者で復元されます。

この値が指定されない場合には、所有権の相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる所有者をもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

*PGP 1次グループの相違は許可されます。保管したオブジェクトと異なる1次グループがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトはそのシステム上のオブジェクトの1次グループとともに復元されます。

この値が指定されない場合には、1次グループの相違は許可されません。保管したオブジェクトと異なる1次グループをもつオブジェクトがシステム上にすでに存在している場合には、オブジェクトは復元されません。

上

復元先ライブラリー (RSTLIB)

オブジェクトが復元されるライブラリーを指定します。

*LIB LIBパラメーターに指定されたライブラリーの名前が使用されます。

名前 オブジェクトを復元先のライブラリーの名前を指定してください。

上

復元先ASP装置 (RSTASPDEV)

データが復元される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: RSTASPDEVパラメーターかRSTASPパラメーターのいずれか一方を指定するか、両方とも指定しないことができます。

*SAVASPDEV

データは、保管された時と同じASPに復元されます。

名前 使用するASP装置の名前を指定します。

上

復元先ASP番号 (RSTASP)

オブジェクトが、その保管元の補助記憶域プール(ASP)、システムASP (ASP番号1)、または基本ユーザーASP (ASP番号2から32)に復元されるかどうかを指定します。

一部のオブジェクトはユーザーASPには復元できません。ユーザーASPに復元できるオブジェクト・タイプの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。ライブラリーがシステムASPに存在しているか、あるいはシステムASPに復元しようとしている場合には、ジャーナル、ジャーナル・レシーバー、および保管ファイルを基本ユーザーASPに復元することができます。その他のすべてのオブジェクト・タイプがライブラリーのASPに復元されます。

重要：システム・ライブラリーまたはプロダクト・ライブラリー(Qまたは#で始まるライブラリー)は、ユーザーASP内に作成されたり、ユーザーASPに復元されてはいけません。そうすると、予測できない結果の原因になる可能性があります。

*SAVASP

オブジェクトは保管前と同じASPに復元されます。

1から32

ASP番号を指定します。指定したASPが1の場合には、指定したオブジェクトはシステムASPに復元され、指定したASPが2から32の場合には、オブジェクトは指定された基本ユーザーASPに復元されます。

上

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

ユーザー・オブジェクトを、そのオブジェクトの復元時に、現行バージョンのオペレーティング・システムでの使用に必要な形式に変換するのか、または現行マシンと互換になるように変換するのかを指定します。

注：

1. このパラメーターが適用されるのは、*MODULE、*PGM、*SRVPGM、および*SQLPKG オブジェクト・タイプのユーザー・オブジェクトの場合だけです。
2. オブジェクトには変換する作成データ（識別可能または不能）が入っていないなければなりません。
3. 変換が必要なオブジェクトである（古いバージョンのオペレーティング・システム用に形式設定されているか、または現行マシンと非互換であるため）が、この復元操作中に変換されない場合、そのオブジェクトは最初に使用されるときに自動的に変換されます。

単一値

*SYSVAL

オブジェクトはQFRCCVNRSTシステム値の値に基づいて変換されます。

***NO** オブジェクトは復元操作中に変換されません。

注：FRCOBJCVN(*NO)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値の値は"0"または"1"のいずれかでなければなりません。

要素1: 復元中変換

***YES** オブジェクトは復元操作中に変換されます。

注：

1. FRCOBJCVN(*YES *RQD)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTシステム値は値"0", "1", または"2"でなければなりません。FRCOBJCVN(*YES *RQD)はQFRCCVNRST値"0"または"1"を指定変更します。FRCOBJCVN(*YES *ALL)が指定されている場合には、QFRCCVNRSTは任意の有効な値をもつことができ、FRCOBJCVN(*YES *ALL)はQFRCCVNRSTシステム値を指定変更します。
2. この値を指定すると、復元操作の時間は増加しますが、最初に使用するとき変換する必要性がなくなります。

要素2: 変換するオブジェクト

***RQD** オブジェクトの変換は、現行オペレーティング・システムで使用されるため、または現行マシンと互換にするために変換が必要な場合のみ行われます。オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

***ALL** 既に現行形式になっている互換のオブジェクトも含めて、すべてのオブジェクトが現行の形式およびマシン互換性に関係なく変換されます。ただし、オブジェクトにすべての作成データ（識別可能または不能）が入っていない場合には、そのオブジェクトは変換することができず、復元されません。

上

例

例1: 総称オブジェクトの保管および復元

```
SAVRSTOBJ OBJ(ABCD*) LIB(ACE) RMTLOCNAME(SYSTEM1)
           OBJTYPE(*PGM) ALWOBJDIF(*NONE)
```

このコマンドは、ACEという名前のライブラリー内にある文字ABCDで始まっているオブジェクトを保管し、SYSTEM1という名前のリモート・システムに復元します。

例2: 特定のオブジェクトの保管および保管

```
SAVRSTOBJ OBJ(FLETCH) LIB(CHASE) RMTLOCNAME(SYSTEM1)
           ALWOBJDIF(*ALL) OPTION(*NEW)
```

このコマンドは、CHASEという名前のライブラリー内にある、FLETCHという名前のオブジェクトを保管し、そのオブジェクトがSYSTEM1という名前のリモート・システム上にまだ存在していない場合は、そのオブジェクトをそのリモート・システムに復元します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPCAD80

&1個のオブジェクトが保管され、復元された。

CPFAD8D

&1操作時にエラーが起こった。

CPFAD80

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD81

リモート・ロケーション&2にユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPFAD82

リモート・ロケーション&1が見つからない

CPFAD83

リモート・ロケーション&1をソースのロケーションとすることはできない。

CPFAD84

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

CPFAD86

ロケーション名&1が&2をクローズすることはできない。

CPFAD88

&1から&2への接続を確立できない。

CPFAD93

APPCの障害が起こった。障害コードは&3です。

CPF389C

OBJECTCONNECT内部エラー，機能コード&1，戻りコード&2。

上

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan